e-Labe Designer

-STD 形式-

操作マニュアル

2025 年 1 月
第 22 版（Ver.1.18 用）

ご注意

1.本ソフトウェアの著作権は、株式会社サトーにあります。
2.本ソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
3.本ソフトウェアおよびマニュアルは、本製品のソフトウェア使用許諾のもとでのみ使用することができます。
4.本ソフトウェアおよびマニュアルを使用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
5.本ソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

サトー、SATO ロゴ、FLEQV、e-Labe およびそのロゴは、サトーホールディングス株式会社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

その他、記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。
例やサンプルで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する商品名、団体名、個人名とは一切関係がありません。

Copyright© 2018-2025 株式会社サトー

目 次

1.はじめに.....7

1.e-Labe について 8

2.STD 形式と PRO 形式について.....9

2.セットアップ.....12

1.動作環境.....13

2.e-Labe Designer セットアップ手順.....14

1.インストール手順.....14

2.アンインストール手順.....18

3.e-Labe Print セットアップ手順 19

1.インストール手順.....19

3.基本事項.....23

1.用語 24

2.基本操作.....26

1.各種ボタンの表示について 26

2.マウスカーソルについて 27

3.画面構成について.....28

4.ツールバー 31

5.デザインウィンドウ.....32

6.入力画面設定 34

7.オブジェクトバー.....36

8.プロジェクトウィンドウ.....37

9.座標単位.....41

10.プリンタフォント単位.....41

4.基本設定.....42

1.管理者パスワードの確認.....43

2.プロジェクト選択 44

3.プロジェクト種類 45

4.用紙設定.....46

1.詳細設定.....48

2.用紙設定用語解説.....50

5.税率・値引率設定（レイアウトデフォルト設定）.....51
6.共通税率設定（プロジェクト設定）.....52
5.データウィンドウ解説.....53
1.ファイルプロパティ.....54
1.プロジェクト.....54
2.フォルダー.....56
3.発行レイアウト.....57
4.基本レイアウト.....60
5.プリセットデータ.....63
6.テーブル.....64
7.呼出しグラフィック.....65
8.外字.....66
9.内部フォルダ.....67
2.オブジェクトプロパティ.....69
1.文字列オブジェクト.....69
2.価格オブジェクト.....78
3.バーコードオブジェクト.....84
4.日時オブジェクト.....94
5.連番オブジェクト.....101
6.固定グラフィックオブジェクト.....107
7.切替グラフィックオブジェクト.....110
8.罫線オブジェクト.....115
9.枠線オブジェクト.....117
10.表オブジェクト.....119
■参照・結合について.....121
6.特別な操作.....122
1.テーブル機能.....123
■テーブル登録手順.....128
■テーブルインポート手順.....131
■漢字/グラフィック/店名テーブル追加・削除手順.....133
■店名テーブルの登録番号桁数定義.....136
■テーブルデータの検索/置換手順.....137
2.外字登録.....140

■外字登録手順 140
3.プレビュー・テスト発行 141
■テスト発行時の注意点 142
4.ダンプ出力 143
■プロジェクトファイル内の全ての発行レイアウトを出力する場合 143
■発行レイアウトをグループ単位で出力する場合 145
■任意の発行レイアウトを複数出力する場合 146
■ダンプ出力時の注意点 148
5.プリセットデータ登録 149
■プリセットデータ登録手順（定義に従ってデータをインポートする手順） 152
■プリセットデータの検索/置換手順 155
6.データセット表示順定義 160
7.外部データ取り込み定義 161
8.外部データ取り込み 164
9.データ出力 166
10.発行履歴データ設定 178
11.オブジェクト種変換 181
12.バーコードウィザード 182
13.グリッド設定 188
14.ツール設定 189
■税率設定タブ 189
■プリンタタブ 190
■オプションタブ 191
■FTP サーバータブ 194
■SATO App Storage タブ 195
■プロファイル設定タブ 198
15.オブジェクトのグルーピング機能 213
■グルーピング手順 213
16.フォント一括変更 216
■フォント一括変更手順 216
17.データ出力オプション 217
■データ出力オプション機能設定手順 217
■発行プログラムバージョンが未選択のプロジェクトを起動した場合 219
18.機能オプション 220

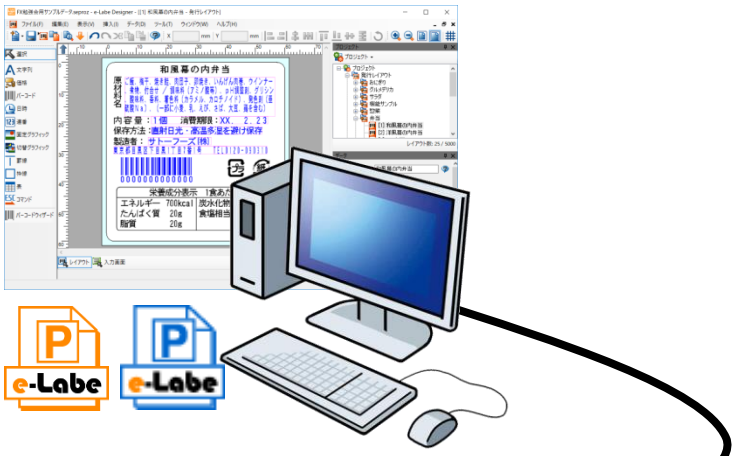
■日時加算日１日を当日に含めるオプション設定手順 220
■グループ階層設定手順 222
■複数キーワードで検索機能設定手順 224
19.リアルタイム発行一括変更 227
20.価格計算の設定方法 228
■本体価格から税込価格を求める 228
■本体価格から税込価格(小数点以下２桁表示)を求める 231
■税込価格から本体価格(税抜価格)を求める 235
■端数処理の計算方法 238
21.税率の設定／変更方法 240
■[新規でプロジェクトやレイアウトを作成時の税率設定] 241
■[既存レイアウトの税率変更] 250
22.用紙回転機能 256
■用紙回転手順 256
■用紙回転時の表示 257
23.グループの設定方法 258
■グループ設定手順 258
■グループ情報の表示 260
■グループ名の編集 261
■グループの削除 262
■グループの表示順変更 263
■グループ別発行レイアウトの表示 264
24.日時加算値の上限／下限チェック機能の設定方法 266
■日時オブジェクトに固定の上限値／下限値を設定する手順 266
25.基準日付の上限／下限チェック機能の設定方法 268
■固定の上限値／下限値を設定する手順 268
■プリセットデータで上限値／下限値を設定する手順 272
26.条件テーブルを使った条件印字の設定方法 276
■条件テーブル　画面項目説明 276
■条件テーブルを設定する手順 279
27.発行画面にメディア（画像、動画など）を表示する設定方法 283
■プロジェクトに登録したメディアファイル（画像）を発行画面に表示する手順 284
■FX3 の所定フォルダにメディアファイル（画像）をセットし発行画面に表示する手順 288
28.サンプルデータ取込 291

29.プリンタ機種を変更する 293
30.最大値／最小値を参照する方法 296
■数値を比較し最大値／最小値を参照する手順 297
■日時を比較し最大値／最小値を参照する手順 300
■日時比較で指定可能な日時書式 303
31.複数枚貼りレイアウトを作成する方法 304
■複数枚貼りレイアウトについて 304
■複数枚貼りレイアウトの作成手順 304
32.ヘッダラベル、テールラベルを印字する方法 310
■ヘッダラベル、テールラベルについて 310
■ヘッダ／テールラベルの設定手順 310
33.発行枚数をプリセットする方法 316
■発行枚数のセットについて 316
■プリセット登録画面で商品ごとに発行枚数をセットする手順 316
■文字列の値を参照し、発行枚数にセットする手順 320
34.発行枚数の上限／下限チェック機能の設定方法 322
■上限値／下限値を設定する手順 322
7.付録 324
1.練習マニュアル 325
1.基本的なレイアウトの作成 325
2.フォーマットファイルを USB ケーブル経由で FX3-LX にコピー 344
3.複雑なレイアウトの作成 346
4.基本レイアウトとプリセットデータ 359
5.日付入りのレイアウト作成手順 369
6.バーコード検索機能の設定手順 373
2.エラーメッセージ 377

1.はじめに

1.e-Labe について

e-Labe は、コンピュータでプリセットデータを作成するラベルデザイン作成ツール e-Labe Designer と、FX3-LX に登録されたプリセットデータを呼び出すプリセット発行アプリケーション e-Labe Print の 2 つで構成されています。



プロジェクトファイル（「P」マーク）

レイアウトデータを管理するためのファイルです。

e-Labe Designer

e-Labe Print

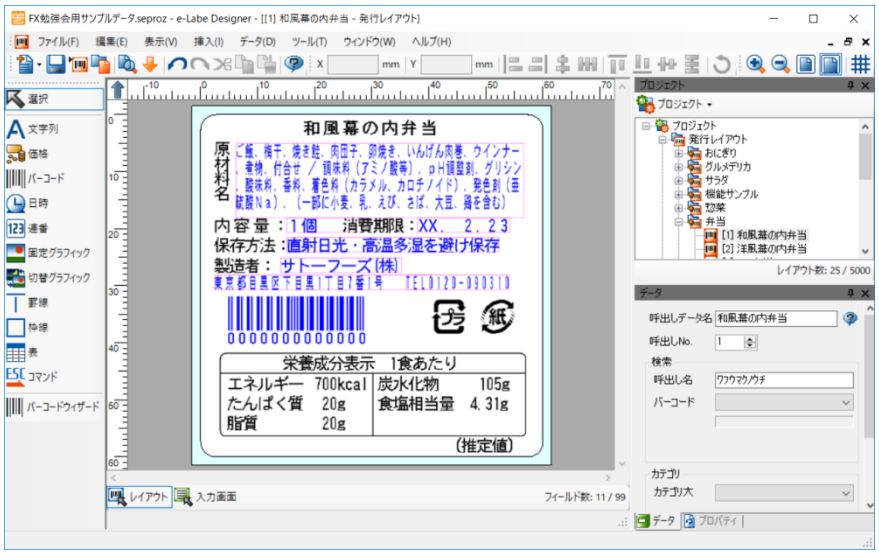
フォーマットファイル（「F」マーク）

レイアウト情報をアーカイブしたファイルです。

FX3-LX の「内部共有ストレージ」＞「SATO」＞「FormatFiles」フォルダにコピーして読み込みます。



e-Labe Designer



Windows コンピュータにインストールして使用します。コンピュータで印字イメージを確認できるので、ラベルデザインを簡単に作成、編集することができます。作成したラベルデータを SATO App Storage などのサーバ経由や USB 経由で e-Labe Print に登録（プリセット）します。

2.STD 形式と PRO 形式について

e-Labe Designer(Ver.1.3.0.0 以上)では、2 つの形式から選択して作成可能です。

データの管理方法や利用可能な機能が異なります。

<主な機能の違い>

項目	**PRO(プロ)形式**	**STD(スタンダード)形式**
アイコン色	青	オレンジ
プリセットデータ最大件数	9,999 件	5,000 件
発行端末でのマスタ編集	○	×
上位システムとのマスタ連携	○	×
「食品大目付そうけんくん」連携	○	×
発行時のレイアウト切り替え	○	×
Windows フォントの使用※	△ (固定文字のみ)	○

※どちらの形式も発行時入力項目には使用できません

・**PRO 形式：呼出しテーブルプロジェクト**

「呼出しテーブル」に商品マスタやレイアウトの組み合わせを登録します。

データサイズは比較的小さくなります。

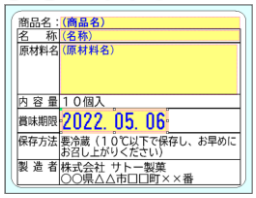
呼出しテーブル

No.	呼出し名	レイアウトNo.	名称	原材料	内容量	賞味期限
0001	バタークッキー	[1]焼菓子レイアウ	焼菓子	小麦粉、砂糖、ショートニン	4枚	14
0002	アーモンドクッキ	[1]焼菓子レイアウ	焼菓子	小麦粉、砂糖、ローストアー	4枚	14
0003	チョコクッキー	[1]焼菓子レイアウ	焼菓子	小麦粉、砂糖、ショートニン	4枚	14
1001	生チョコレート	[2]生洋菓子レイア	洋生菓子	生クリーム、砂糖、全粉乳、		50
1002	生チョコ抹茶	[2]生洋菓子レイア	洋生菓子	ココアバター、砂糖、生クリ		50
1003	生チョコ苺	[2]生洋菓子レイア	洋生菓子	ココアバター、砂糖、生クリ		50

[1]焼菓子レイアウト



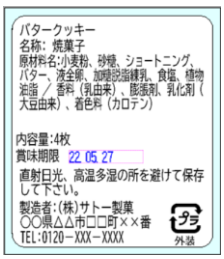
[2]生洋菓子レイアウト



・**STD 形式：基本レイアウト／発行レイアウト用プロジェクト**

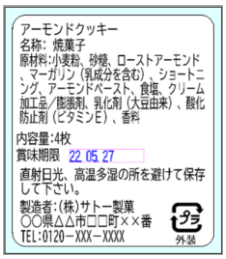
アイテム数分の「発行レイアウト」を作成します。「基本レイアウト」を使用すれば、発行レイアウトを一括生成できます。PRO 形式と比べるとデータサイズは大きくなります

発行レイアウト



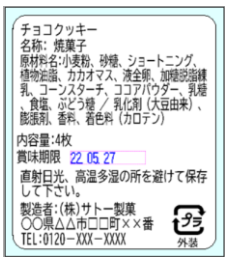
呼出し No.1

バタークッキー



呼出し No.2

アーモンドクッキー

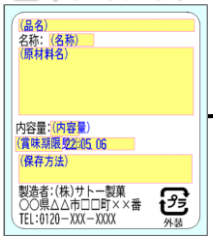


呼出し No.3

チョコクッキー

一括生成

基本レイアウト

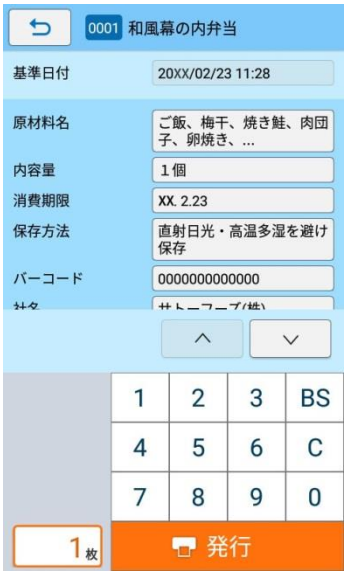


プリセットデータ

No.	呼出し名	名称	原材料	内容量	賞味期限
0001	バタークッキー	焼菓子	小麦粉、砂糖、ショートニン	4枚	14
0002	アーモンドクッキ	焼菓子	小麦粉、砂糖、ローストアー	4枚	14
0003	チョコクッキー	焼菓子	小麦粉、砂糖、ショートニン	4枚	14

※呼出しテーブルプロジェクトの詳しい説明については、「e-Labe 操作マニュアル-PRO 形式-」をご覧ください

e-Labe Print



FX3-LX にインストールして使用します。e-Labe Designer で登録されたデータを e-Labe Print で呼び出し、必要に応じて編集して発行します。呼び出し方法は 5 種類の中からお選びください。

2.セットアップ

1.動作環境

本製品は、以下の機器やソフトウェア環境で動作可能としております。当条件でご利用ください。

項目	動作環境	備考
OS	Windows 11 (64 ビット版) Windows 10（32 ビット版／64 ビット版）	64 ビット版の OS では、WOW64 （ Windows On Windows 64）の環境で動作します。
CPU	2GHz 以上（デュアルコア以上推奨）	
メモリ	1024MB 以上の RAM	
ハードディスク	1GB 以上の空きスペース	.NET Framework インストール済みの場合は 20MB
画面解像度	XGA(1024×768)以上 SXGA（1280×1024）以上推奨	
外部ストレージ	SATO App Storage	TLS1.2 対応
その他	Adobe Reader 10.1.4 以上	ヘルプファイル表示

2.e-Labe Designer セットアップ手順

1.インストール手順

インストール時は、Administrator 権限でログインしてください。

e-Labe Designer の入手については、弊社ホームページのダウンロードサイトからダウンロードいただくか、販売店、またはディーラーにお問い合わせください。

[弊社ホームページダウンロードサイト]

https://www.sato.co.jp/support/printer/fx3-lx/#anc_04

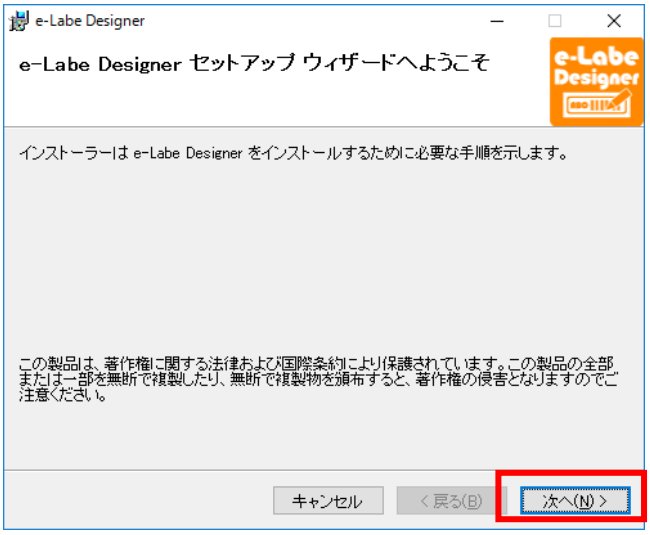
古いバージョンがインストールされている場合も、新しいバージョンを上書きインストールが可能です。

1.e-Labe Designer の setup.exe をダブルクリックして、インストーラを起動します。



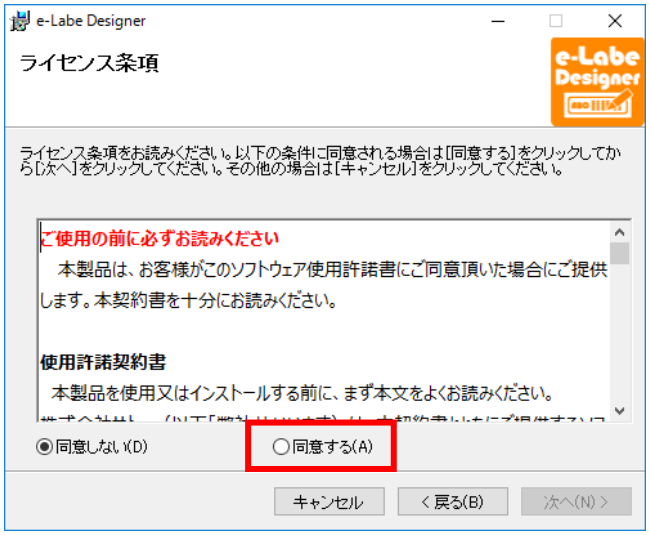
Microsoft .NET Framework 4.5 がインストールされていない場合、自動で Microsoft のインストーラが起動します。画面指示にしたがってインストールを行ってください

2.「次へ」をクリックします。



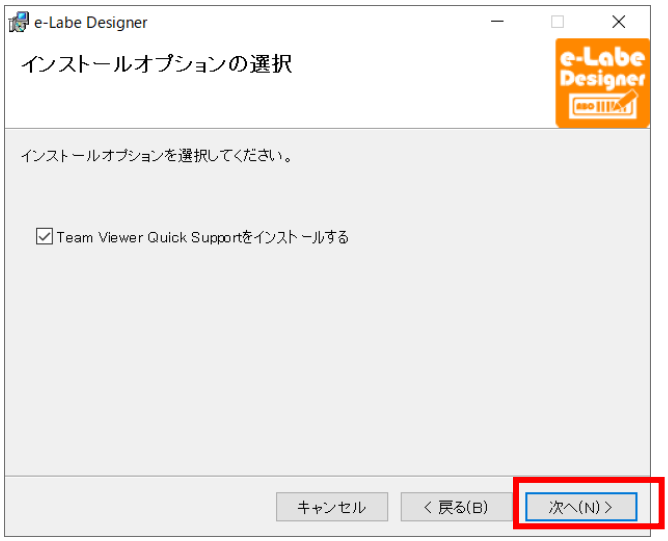
3.「使用許諾契約書」の内容を確認し、「同意する」を選び、「次へ」をクリックします。

使用許諾契約書はソフトウェアの利用について重要な情報を記載しております。必ずご確認ください。



4.インストールオプションの内容を確認し、「次へ」をクリックします。

リモート操作によるサポートが不要の場合は「Team Viewer Quick Support をインストールする」のチェックを外してください。

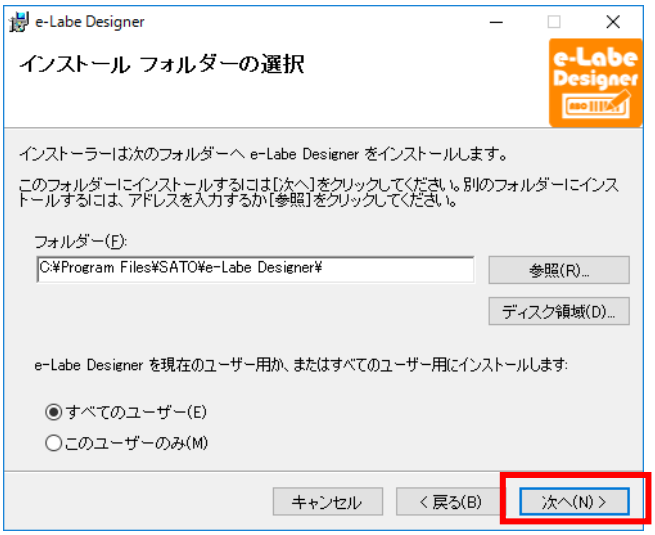


5.インストール先のフォルダを確認し、「次へ」をクリックします。

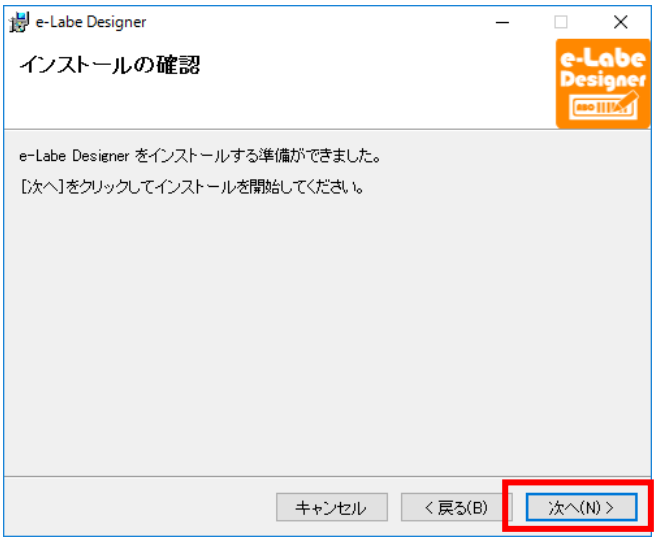
インストールフォルダを変更する場合は［参照］をクリックして、インストール先のフォルダを設定します。

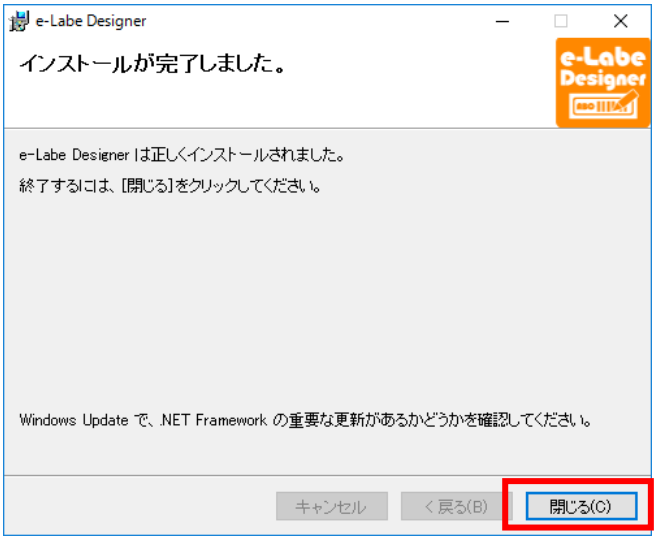
適用するユーザを限定する場合は、［このユーザーのみ］を選択します。

「ユーザーアカウント制御」が表示されたら、「許可」または「はい」を選択してください。



6.ウィザードにしたがって操作を進めます。インストール完了の画面が表示されたら、「閉じる」をクリックして、インストールを終了してください。



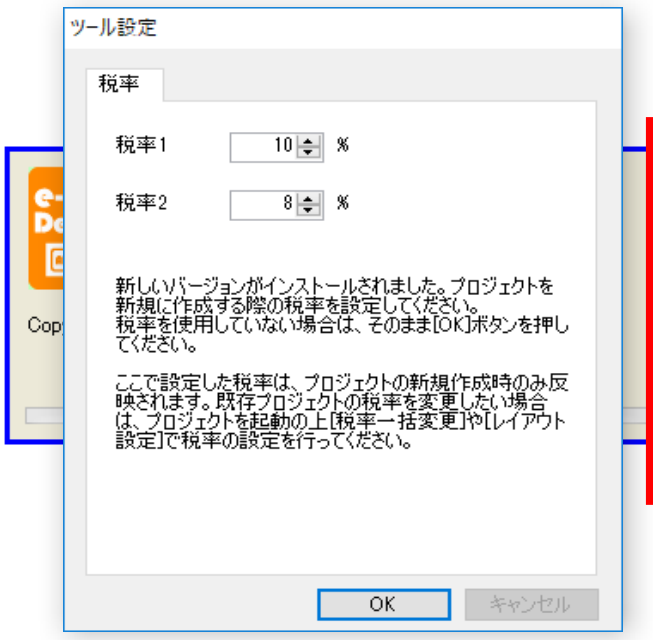


以上で e-Labe Designer のインストールは完了です。デスクトップにプログラムアイコンが表示されます。



インストール後初回起動時の税率設定

インストール後初めて e-Labe Designer または e-Labe Designer で作成したプロジェクトファイルを起動する際は、ツールの税率設定画面が表示されますので、税率を確認し、変更がある場合は値を入力し OK してください。



【注意】

この画面で設定する税率は、**新規にプロジェクトを作成する際に適用される税率**です。

既存のプロジェクト内の税率を変更する為には、別途「税率一括変更」等を行ってください。

詳細は、本マニュアルの「21.税率の設定／変更方法」をご確認ください。

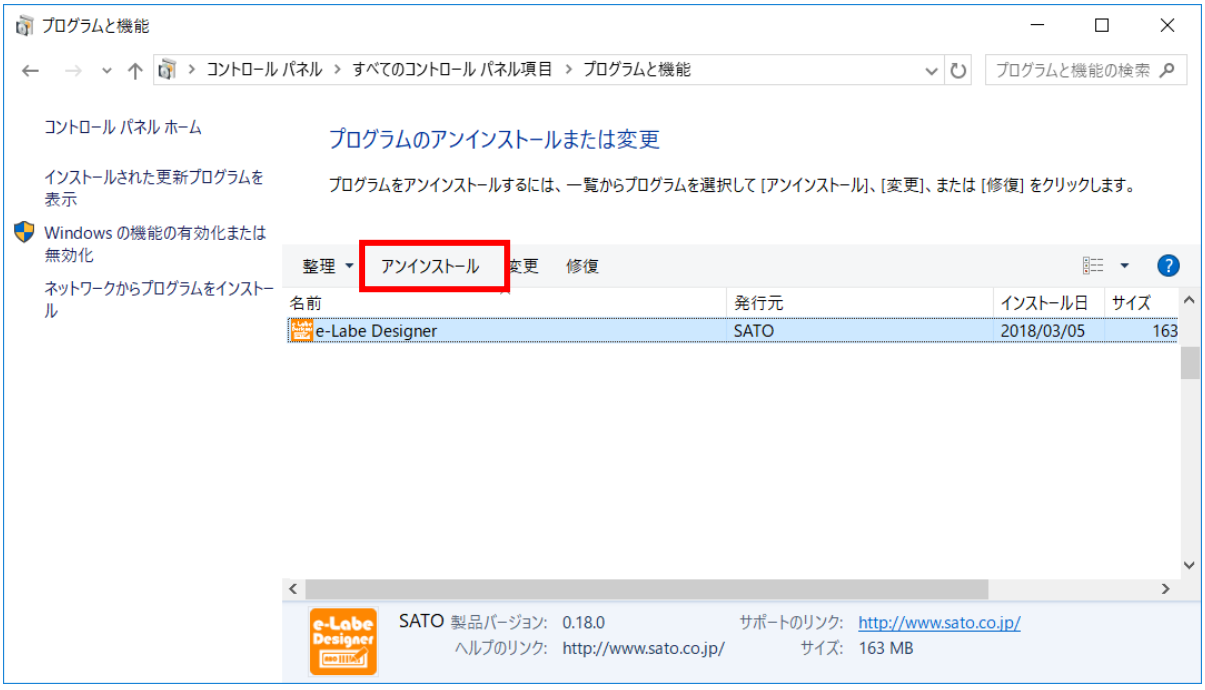
2.アンインストール手順

1.「コントロールパネル」を開きます。

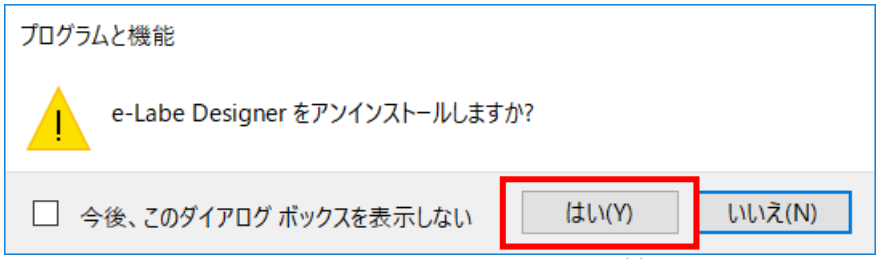
2.「プログラムと機能」をクリックします。



3.インストールされているプログラム一覧から、e-Labe Designer を選択し、「アンインストール」をクリックします。



4.確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



3.e-Labe Print セットアップ手順

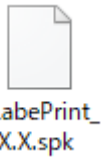
1.インストール手順

e-Labe Print インストールファイル（eLabePrint_X.X.X.spk）の入手については、弊社ホームページのダウンロードサイトからダウンロードいただくか、販売店、またはディーラーにお問い合わせください。

[弊社ホームページダウンロードサイト]

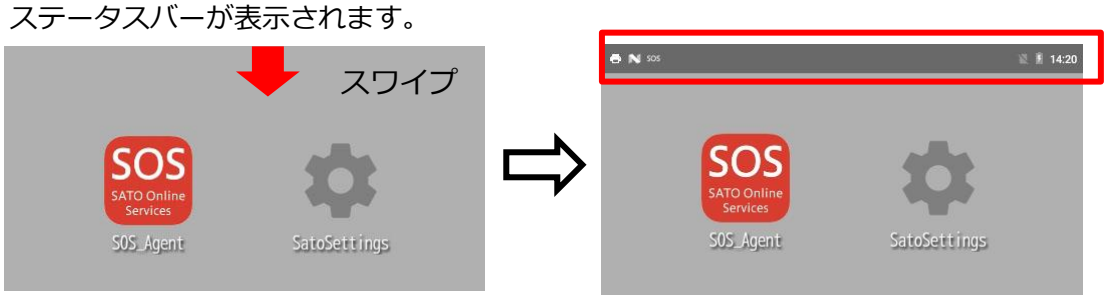
https://www.sato.co.jp/support/printer/fx3-lx/#anc_04

1. e-Labe Print の eLabePrint_X.X.X.spk をパソコンにダウンロードします。



2. コンピュータと FX3-LX を USB インタフェースで接続します。
3. FX3-LX のホーム画面上部を下にスワイプします。

ステータスバーが表示されます。



4. ホーム画面上部をもう一度スワイプします。

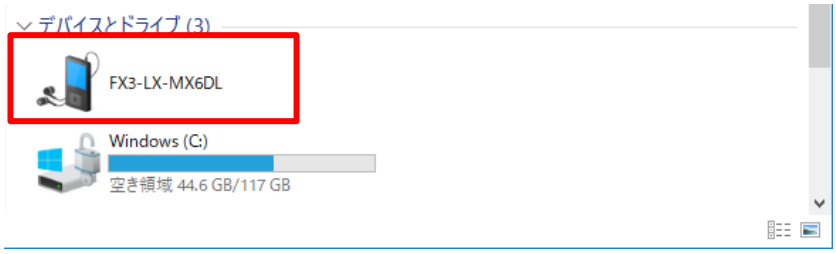
クイック設定パネルが表示されます。



5. 「USB をファイル転送に使用」が表示されていることを確認します。

6. コンピュータのエクスプローラから「PC」を開き、「デバイスとドライブ」＞「FX3-LX-MX6DL」をダブルクリックします。

   Windows 10 を例にしています。OS によってはメニュー名が異なる場合があります。



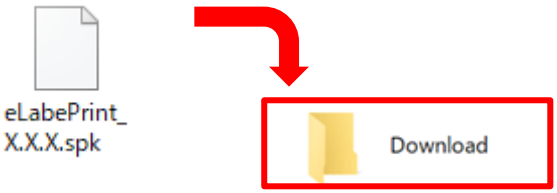
注意

- 初めて FX3-LX をコンピュータと接続すると、自動的にドライバのインストールがおこなわれます。このため、アイコンが表示されるまで時間がかかる場合があります。
- 「FX3-LX-MX6DL」をダブルクリックしても中身が表示されない場合は、手順 2 からやり直してください。

7. 「内部共有ストレージ」＞「Download」フォルダを選びます。



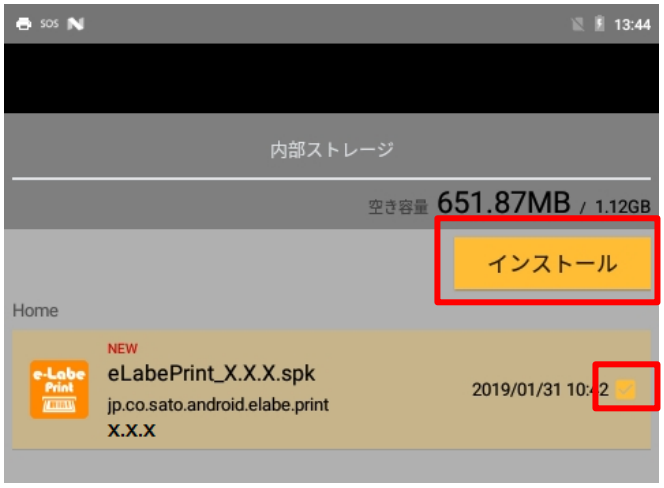
8. インストールファイルを「Download」フォルダにコピーします。



9. FX3-LX のホーム画面の「アップデータ」アイコンをタップします。



10. 「eLabePrint_X.X.X.spk」にチェックを付け、「インストール」をタップします。



11. インストール画面が表示されたら、「インストール」をタップします。



12. 完了画面が出たら、「完了」をタップし、FX3-LX の「  」ボタンを押してホーム画面に戻ります。



以上で、e-Labe Print のインストールは完了です。

ホーム画面にプログラムアイコンが表示されます。



3.基本事項

1.用語

操作マニュアル内で使用される用語について説明します。

・プロジェクト

e-Labe Designer で作成したデータの管理単位を意味します。

作成したデータは、通常プロジェクトファイル（拡張子".seproz"）として保存されます。また、オプションでファイルをアーカイブ（圧縮）せずに保存する方法があります。その場合は、プロジェクトファイル（拡張子".seproj"）と同名のフォルダ（フォルダ拡張子".files"）で構成されます。

この方法で保存した場合、ファイルの移動や、バックアップの際にはこの 2 つをセットで操作してください。アーカイブしていないプロジェクトファイル、フォルダの名称を変更すると、作成したデータが参照できなくなります。

・フォーマットファイル

e-Labe Designer から出力した e-Labe Print 用のファイル（拡張子".sefmtz"）です。

・オブジェクト

ラベル上に貼り付けられる、文字、バーコード等の項目を意味します。

一つのレイアウト上に最大 200 個のオブジェクトを貼り付けることが可能です。

参照結合など複雑な操作を行った場合などには、200 個のオブジェクトを貼り付けられないこともあります。

・呼出しデータ

e-Labe Print でラベルを印刷するためのデータです。

一つのプロジェクトあたり最大 5000 件の呼出しデータの登録が可能です。

・呼出し No

e-Labe Print でラベルデータを呼出すための番号です。1 から 9999 までの番号を設定できます。

・発行レイアウト

e-Labe Print から呼出し番号を指定して発行するためのデータです。

・基本レイアウト

発行レイアウト（呼出しデータ）をプリセットデータと組み合わせて作成するための、基となるレイアウトです。基本レイアウトを直接呼出しデータとして使用することはできません。

・プリセットデータ

基本レイアウトと組み合わせて、発行レイアウト（呼出しデータ）を作成するためのデータです。

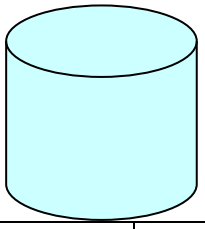
登録可能件数は、各プリセットデータの合計で 5000 件以内です。

※発行レイアウト、基本レイアウト、プリセットデータの関係については、以下の図を参考にしてください。

基本レイアウト



プリセットデータ



呼出しNo.	呼出し名	商品ｺｰﾄﾞ	保存方法	税込価格
0001	生チョコビター	55555	1	540
0002	トリュフ	61111	1	1080
0003	トリュフベリー	61322	1	1080

発行レイアウト



基本レイアウトの特定項目にプリセットデータを差し込んで展開した状態で発行レイアウトが作成されます。

2.基本操作

1.各種ボタンの表示について

Designer の画面内の各ボタンをクリックすることで、様々な動作を実行します。

各種ボタンの選択状態は以下のようになります。

※背景色及び選択色は、お使いのパソコンの OS や設定によって異なる場合があります。

オブジェクトバーの選択状態／非選択状態



選択状態



非選択状態



ツールバーの選択状態／非選択状態



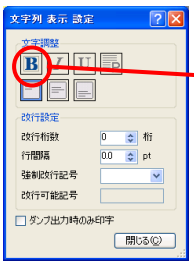
選択状態のボタン



非選択状態のボタン



データウィンドウの選択状態／非選択状態



選択状態のボタン



非選択状態のボタン



2.マウスカーソルについて

Designer 内で表示されるマウスカーソルは、その時行える動作によって形状が異なります。
※マウスカーソルの形状は、パソコンの設定によって異なる場合があります。

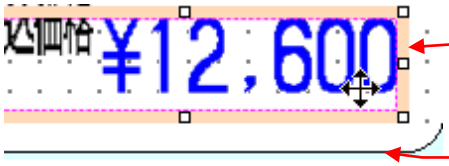
通常時のカーソル・・・通常状態のカーソルです。

オブジェクト貼り付け時カーソル・・・オブジェクトを貼付け準備ができた状態です。

オブジェクト選択時カーソル・・・貼り付けたオブジェクトの位置を移動します。

オブジェクトサイズ変更時カーソル・・・オブジェクトのサイズを変更します。

選択状態のオブジェクトとオブジェクト選択時カーソル

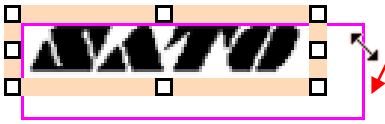


オブジェクト選択時には左図の様な**薄ピンク色の枠線**が表示されます。

オブジェクト選択時のカーソルは、ドラッグでオブジェクトの位置が移動できます。

Ctrl キーを押しながらキーボードのカーソルキーを操作することでも、オブジェクトの移動ができます。
また、オブジェクトが重なっている際に Ctrl キーを押しながらクリックすることで順番に選択することが可能です。

選択状態のオブジェクトとサイズ変更時カーソル

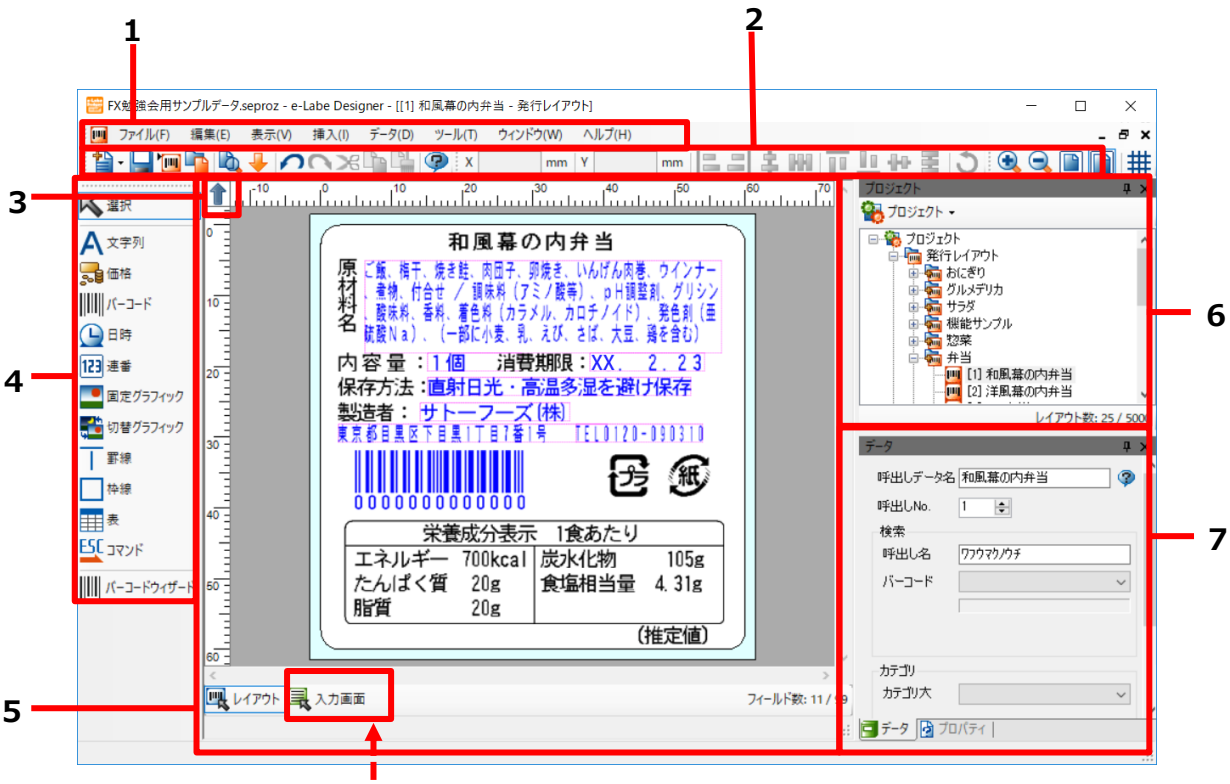


オブジェクトの端にカーソルを移動すると、**サイズ変更時のカーソル**に変わり、ドラッグで、改行設定した文字列、バーコード、グラフィックなどの一部のオブジェクトのサイズ変更が可能です。

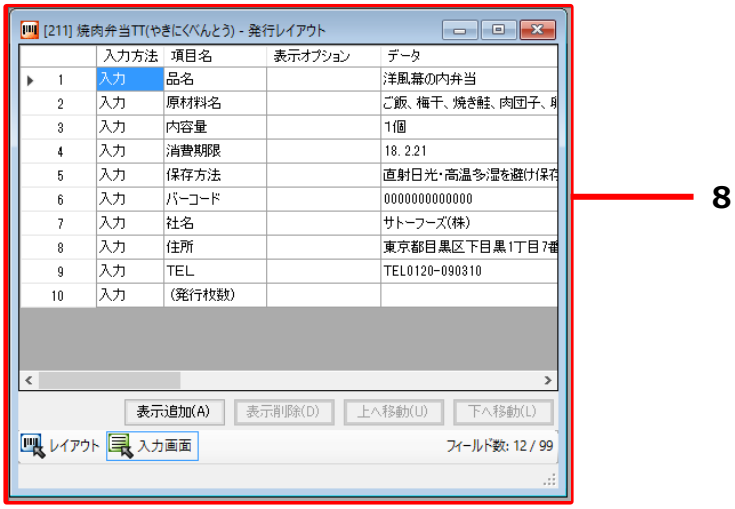
3.画面構成について

e-Labe Designer は、以下の画面構成になっています。

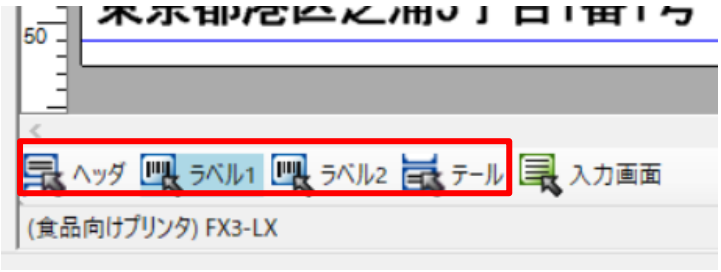
画面構成内容は、表示の ON/OFF、ウィンドウの移動で変更できます。



［入力画面］をクリックすると表示が切り替わります。

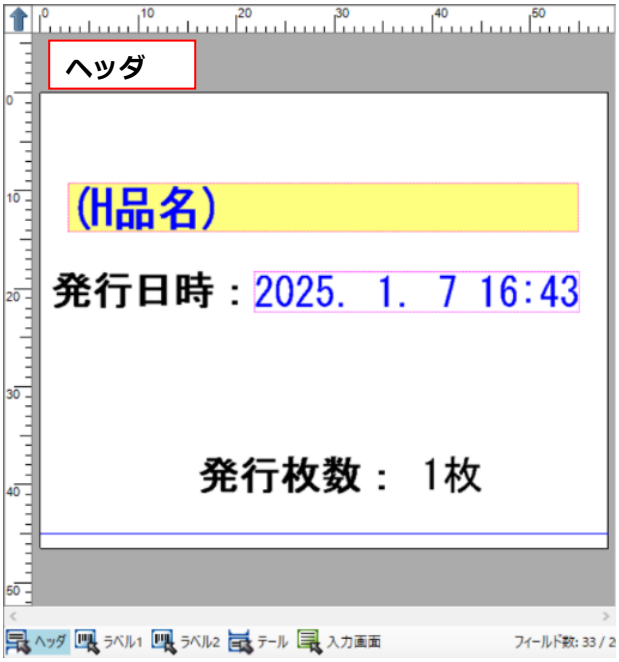


【複数枚貼り、ヘッダラベル、テールラベル有効時の画面構成】
シートを選択することでデザイン画面が切り替わります。











1．メニューバー

作業中のウィンドウで実行可能なメニューが表示されます。

2．ツールバー

よく使う機能をアイコン表示します。

3．用紙回転ボタン

用紙を回転させます。

回転量は 0 度、90 度、180 度、270 度から選べます。

4．オブジェクトバー

デザインウィンドウに貼りつけるオブジェクトを選択し、レイアウトを作成します。

5．デザインウィンドウ

ラベルのレイアウトデザインをおこなうウィンドウです。一度に 30 までウィンドウを重ねて表示できます。

注意

同時に多数のウィンドウを開くと、コンピュータの動作が遅くなることがあります。

6．プロジェクトウィンドウ

プロジェクト内のファイルを表示します。右クリックで各データの操作ができます。

7．データウィンドウ

選択中のオブジェクトの詳細を設定します。

8．入力画面設計ウィンドウ

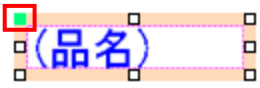
e-Labe Print の入力画面の設定を行います。［レイアウト］をクリックするとデザインウィンドウに戻ります。

オブジェクト基点位置について

選択状態のオブジェクトは、緑の■で基点位置を表示します。基点位置は、単一オブジェクトかグループ化したオブジェクトかによって以下のようになります。

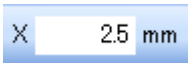
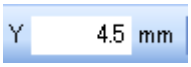
単一オブジェクトの基点位置：オブジェクトを配置した時点での左上

グループ化したオブジェクトの基点位置：オブジェクト全体の縦位置、横位置ともに最小値となる位置



4.ツールバー

ツールバーのボタンはクリックすることで、以下の操作が可能です。

ボタン	機能名	機能
	新規作成	ファイルを新規に作成します
	上書保存	ファイルを上書き保存します
	サンプル取り込み	サンプルフォルダにアクセスし、ファイルを取り込みます
	ファイル追加	ツールの関連ファイルを取り込みます
	ﾌﾟﾚﾋﾞｭｰ･ﾗﾍﾞﾙ印刷	印字プレビューの確認と、ラベルの印刷指示画面です
	SD カード出力	作成したデータを SD カードに書込みます
	元に戻す	操作を元に戻します（最大 10 回）
	やり直し	操作をやり直します（「元に戻す」を使用した場合、最大 10 回）
	切り取り	選択対象を切り取ります
	コピー	選択対象をコピーします
	貼り付け	選択対象を貼り付けます
	ヘルプ	ヘルプを表示します
	横位置	選択中のオブジェクトの横位置を指定します 数値を入力後、Enter キーで確定します
	縦位置	選択中のオブジェクトの縦位置を指定します 数値を入力後、Enter キーで確定します
	左揃え	選択された複数のオブジェクトを左に揃えます
	右揃え	選択された複数のオブジェクトを右に揃えます
	左右中央	選択された複数のオブジェクトを左右中央に揃えます
	左右均等揃え	選択された複数のオブジェクトの左右の位置を均等に揃えます
	上揃え	選択された複数のオブジェクトの上を揃えます
	下揃え	選択された複数のオブジェクトの下を揃えます
	上下中央揃え	選択された複数のオブジェクトを上下中央に揃えます
	上下均等揃え	選択された複数のオブジェクトの上下の位置を均等に揃えます
	回転	選択されたオブジェクトを回転します
	拡大	画面の表示を拡大します
	縮小	画面の表示を縮小します
	標準	表示サイズを標準に切り替えます
	画面にあわせる	表示サイズを画面にあわせます

5.デザインウィンドウ

デザインウィンドウでは、オブジェクトの貼り付け、サイズ変更等の操作が可能です。
各項目がどのような状態にあるのかを色や表示方法で確認することが可能です。

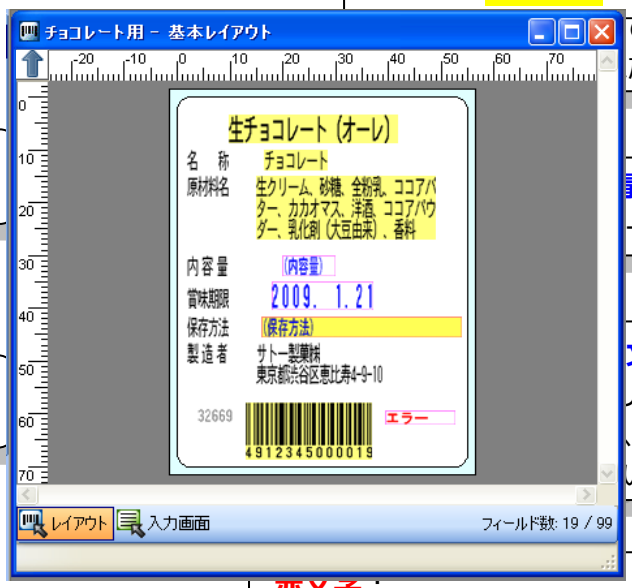
黒文字＋黄色背景：
できる項目で、固定の初期デ
た項目です。

黒文字：
固定データ項目です。

青文字：
-Labe Print での入力項目です。

グレー：
印字しない項目です。

青文字＋黄色背景：
Jセットデータがセットできる項目
、固定の初期値がセットされてい
い項目です。



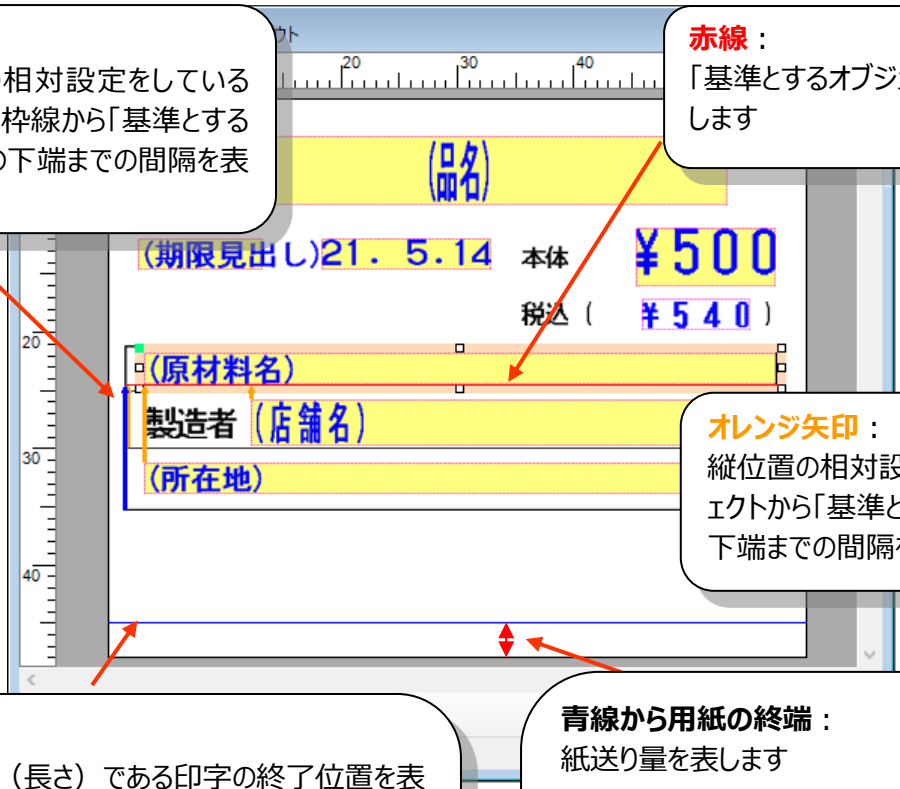
赤文字：
エラー状態の項目です。
選択状態でカーソルを重ねると、エラーの詳細が表示されます。

データ：
固定データ、及び初期データがセットされた項目です。

（項目名）：データセット、及び発行時入力で初期データがセットされていない項目です。また、枠のサイズは「桁」で設定した文字数分の領域です。



【可変長用紙を選択時のデザインウィンドウ】



青矢印：
長さ／高さの相対設定をしている縦罫線または枠線から「基準とするオブジェクト」の下端までの間隔を表します

赤線：
「基準とするオブジェクト」の下端を表します

オレンジ矢印：
縦位置の相対設定をしているオブジェクトから「基準とするオブジェクト」の下端までの間隔を表します

青線：
用紙の縦サイズ（長さ）である印字の終了位置を表します
用紙の最下部にあるオブジェクトの下端が印字の終了位置になります

但し、最下部のオブジェクトが 45mm より小さい位置の場合は、45mm が印字の終了位置となります

青線から用紙の終端：
紙送り量を表します

用紙の縦サイズに紙送り量を足したサイズが、実際の用紙サイズ※となります

※「可変長（ノンセパラベル）」で発行時、印字の先頭に 1.5mm の余白ができる場合があります（尻出し印字の場合は印字の末尾になります）。
本動作はプリンタのノンセパカッタモードの仕様です。

6.入力画面設定

e-Labe Print の入力順番の変更、編集結果項目の表示設定ができます。



・表示追加
e-Labe Print で表示する項目を追加します。
レイアウトで使用されている項目を項目名の列でリストから選択できます。

・表示削除
表示追加で追加した行を削除します。

・上へ移動
選択中の行をリストの一つ上の行に移動させます。

・下へ移動
選択中の行をリストの一つ下の行に移動させます。

詳細
・入力方法
項目の属性を表示します。
　入力…e-Labe Print で編集可能な項目です。削除することはできません。
　参照…「表示追加」の操作で追加した項目です。e-Labe Print で値を表示します。

・項目名
レイアウト画面で設定した項目名が表示されます。参照項目の場合は、クリックすることでリストから項目を選択することが可能です。

・表示オプション
[テーブル入力オプション]
e-Labe Print で漢字テーブル、店舗テーブル、グラフィックテーブルを入力する際の表示形式を選択します。未指定の場合は、e-Labe Print の設定に従います。

（Print 設定値に従う）	＊初期値 e-Labe Print 設定で設定したテーブル表示形式が有効となります
番号入力	テーブル番号を入力する表示形式です
リスト	テーブルリストから選択する表示形式です

[日付入力画面オプション]
e-Labe Print で日時オブジェクト（年加算、月加算、日加算）の編集をする際の入力方法を選択します。

テンキー	テンキー入力画面を表示します
ドラム選択	＊初期値 ドラム選択画面を表示します
カレンダー	カレンダー選択画面を表示します ※加算単位が「日」のみ選択可能です

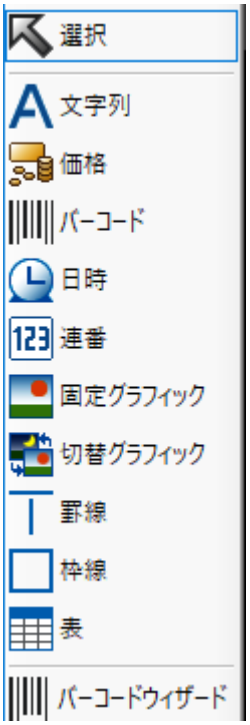
[メディア表示オプション]
文字列オブジェクトに入力された値をパス情報として e-Labe Print の発行画面に画像や動画を表示する場合の形式を選択します。

※未選択※	＊初期値 文字列の値はそのまま文字列として表示します
メディア（画像）	文字列にセットした値をパス情報として e-Labe Print 発行画面に画像を表示します 【パス記述例】画像/apple.png
メディア（動画）	文字列にセットした値をパス情報として e-Labe Print 発行画面に動画を表示します 【パス記述例】Media/FX3 清掃方法.mp4
メディア（Web）	文字列にセットした値をパス情報として e-Labe Print 発行画面に Web 画面を表示します 【パス記述例】http://www.sato.co.jp/products/printer/fx3/

・データ
項目にセットされている値をサンプルとして表示します。

7.オブジェクトバー

デザインウィンドウに下記のオブジェクトを貼り付け、レイアウトを作成していきます。



選択：デザイン画面上のオブジェクトを選択します。

文字列：文字オブジェクトを貼り付けます。

価格：価格オブジェクトを貼り付けます。税計算や割引計算設定などが可能です。

バーコード：バーコードオブジェクトを貼り付けます

日時：日時オブジェクトを貼り付けます

連番：連番オブジェクトを貼り付けます

固定グラフィック：固定グラフィックオブジェクトを貼り付けます

切替グラフィック：切替グラフィックオブジェクトを貼り付けます。

罫線：罫線オブジェクトを貼り付けます

枠線：枠線オブジェクトを貼り付けます

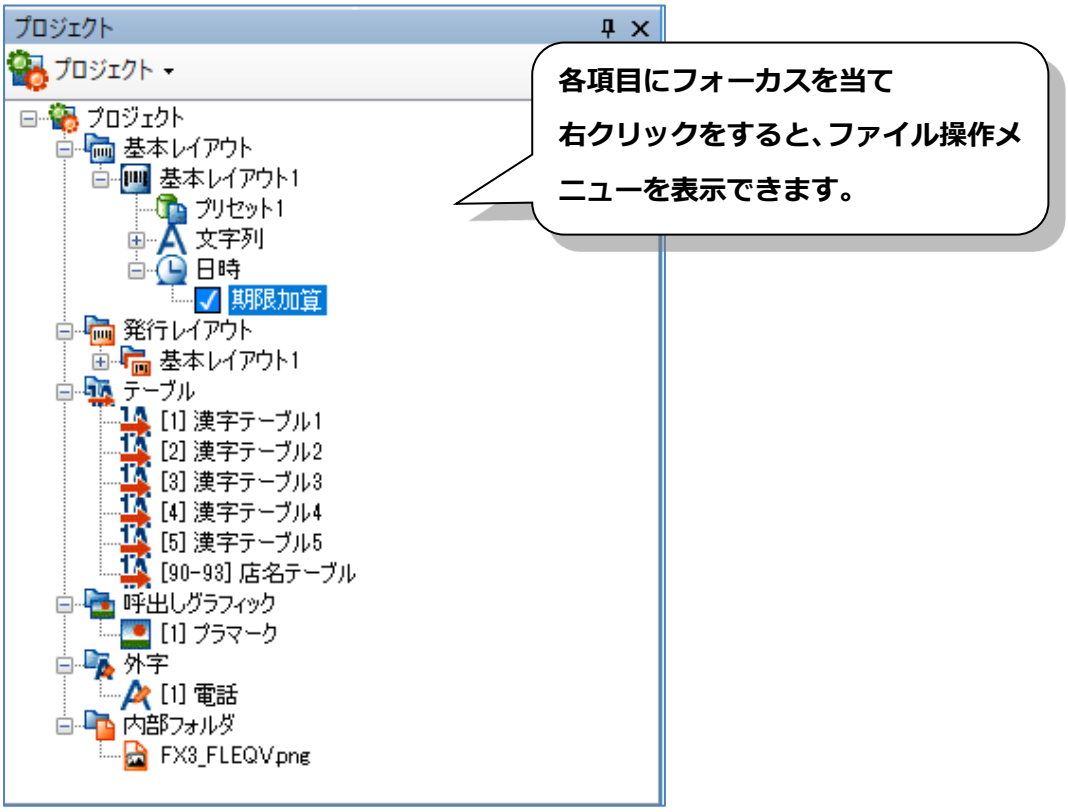
表：表オブジェクトを貼り付けます

バーコードウィザード：バーコード作成ウィザード画面を表示します。
　ウィザードの手順に沿って、簡単な操作で複雑な構成のバーコードを作成することができます。
　対象バーコード・・・JAN13、JAN13 価格 CD、JAN8

8.プロジェクトウィンドウ

プロジェクト内に存在するファイル一覧を表示、操作する部分です。

レイアウトをデザイン画面に表示すると、プロジェクトウィンドウ内のレイアウトアイコンに+マークが表示され、レイアウト上の各オブジェクトをツリー形式で確認できます。デザイン画面だけでなく、ツリー形式で表示されたオブジェクトも選択（✓が付いた状態）、グループ化などの操作が可能です。Shift キーを押しながらクリックすることで、複数オブジェクトの選択も可能です。



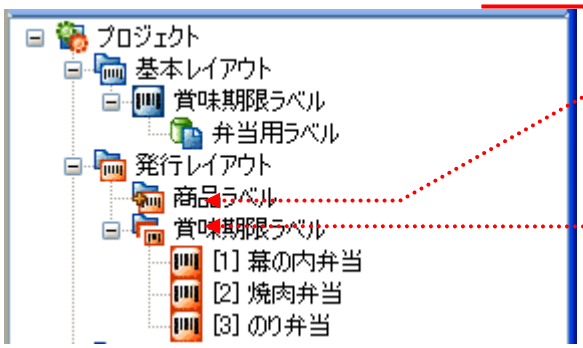
以下の種類のファイルの表示と操作が可能です。

種類	メニュー	詳細
プロジェクト	グループ新規作成	発行レイアウトグループの新規作成
	基本レイアウト新規作成	基本レイアウトの新規作成
	プリセットデータ新規作成	プリセットデータの新規作成
	発行レイアウト新規作成	発行レイアウトの新規作成
	グラフィック新規作成	グラフィックの新規作成
	外字新規作成	外字の新規作成
	設定	プロジェクトの動作
基本レイアウト群	新規作成	基本レイアウトの新規作成
	貼り付け※2	切り取り、コピーした基本レイアウトの貼り付け
基本レイアウト	開く	基本レイアウト編集画面を開く
	外部データ取り込み定義	外部データ取り込み定義画面を開く
	外部データ取り込み	外部データの取り込みとレイアウト生成画面を開く
	プリセットデータ新規作成	プリセットデータを新規に作成する
	データセット表示順定義	プリセットデータ表示順変更定義画面を開く

種類	メニュー	詳細
基本レイアウト	切り取り	基本レイアウトの切り取り
	コピー	基本レイアウトのコピー
	削除	基本レイアウトの削除
	設定	基本レイアウトのレイアウト設定画面を開く
プリセット	開く	プリセットデータ登録画面を開く
	削除	プリセットデータの削除
発行レイアウト群	フォルダー新規作成	発行レイアウトフォルダーの新規作成
	貼り付け※2	発行レイアウトフォルダーの貼り付け
発行レイアウトフォルダー※1	発行レイアウト新規作成	発行レイアウトの新規作成
	切り取り	発行レイアウトフォルダーの切り取り
	コピー	発行レイアウトフォルダーのコピー
	貼り付け※2	切り取り、コピーした発行レイアウトの貼り付け
	削除	発行レイアウトフォルダーの削除
発行レイアウト	開く	発行レイアウト編集画面を開く
	切り取り	発行レイアウトの切り取り
	コピー	発行レイアウトのコピー
	削除	発行レイアウトの削除
	設定	発行レイアウト設定画面を開く
オブジェクト	切り取り	オブジェクトの切り取り
	コピー	オブジェクトのコピー
	貼り付け	オブジェクトの貼り付け
	削除	オブジェクトの削除
	セルを結合	表のセルを結合　※表オブジェクトのみ
	セルを分割	表の結合したセルを分割　※表オブジェクトのみ
	行の高さを均等にする	表の行の高さを均等にする　※表オブジェクトのみ
	列の幅を均等にする	表の列の幅を均等にする　※表オブジェクトのみ
	グループ化	オブジェクト同士をグループ化
	最前面に移動	オブジェクトを最前面に移動
	最背面に移動	オブジェクトを最背面に移動
	前面に移動	オブジェクトを 1 つ前面に移動
	背面に移動	オブジェクトを 1 つ背面に移動
	オブジェクト種変更	オブジェクト種を別の種類に変更 ※文字列、価格、日時のみ
テーブル群	テーブル新規作成	テーブルの新規作成
	貼り付け※2	切り取り、コピーしたテーブルの貼り付け※3
テーブル（漢字テーブル・店名テーブル）	開く	テーブル編集画面を開く
	コピー	テーブルのコピー
グラフィックテーブル	開く	グラフィックテーブルを開く
	切り取り	グラフィックテーブルの切り取り
	コピー	グラフィックテーブルの他のプロジェクトファイルへのコピー
	削除	グラフィックテーブルの削除
呼出しグラフィック群	新規作成	グラフィックの新規作成

種類	メニュー	詳細
呼出しグラフィック群	貼り付け※2	切り取り、コピーしたグラフィックの貼り付け
グラフィック	開く	グラフィックの編集画面を開く
	切り取り	グラフィックの切り取り
	コピー	グラフィックのコピー
	削除	グラフィックの削除
外字群	外字の新規作成	外字ファイルの新規作成
	貼り付け※2	切り取り、コピーした外字ファイルの貼り付け
外字	開く	外字編集画面を開く
	切り取り	外字ファイルを切り取り
	コピー	外字ファイルをコピー
	削除	外字ファイルを削除
内部フォルダ群 ※4	フォルダー新規作成	フォルダーの新規作成
	ファイル追加	インポートしてファイルを追加
	貼り付け	内部フォルダ内のフォルダーまたはファイルを貼り付け
	削除	内部フォルダ群をすべて削除
内部フォルダ ※4	開く	該当のファイルを開く
	フォルダー新規作成	該当のフォルダー内にフォルダを新規作成
	ファイル追加	インポートしてファイルを追加
	パスコピー	フォルダー構成を含んだパス情報をコピー
	切り取り	フォルダーまたはファイルを切り取り
	コピー	フォルダーまたはファイルをコピー
	貼り付け	該当のフォルダー内にフォルダーまたはファイルを貼り付け
	削除	該当のフォルダーまたはファイルを削除

注意 1：発行レイアウトフォルダーは「基本レイアウトから生成されたフォルダー」（アイコン：  ）　、



「発行レイアウト個別のフォルダー」（アイコン：  ）　の 2 種類があります。上記※１の全ての操作ができるのは、「発行レイアウト個別のフォルダー」です。

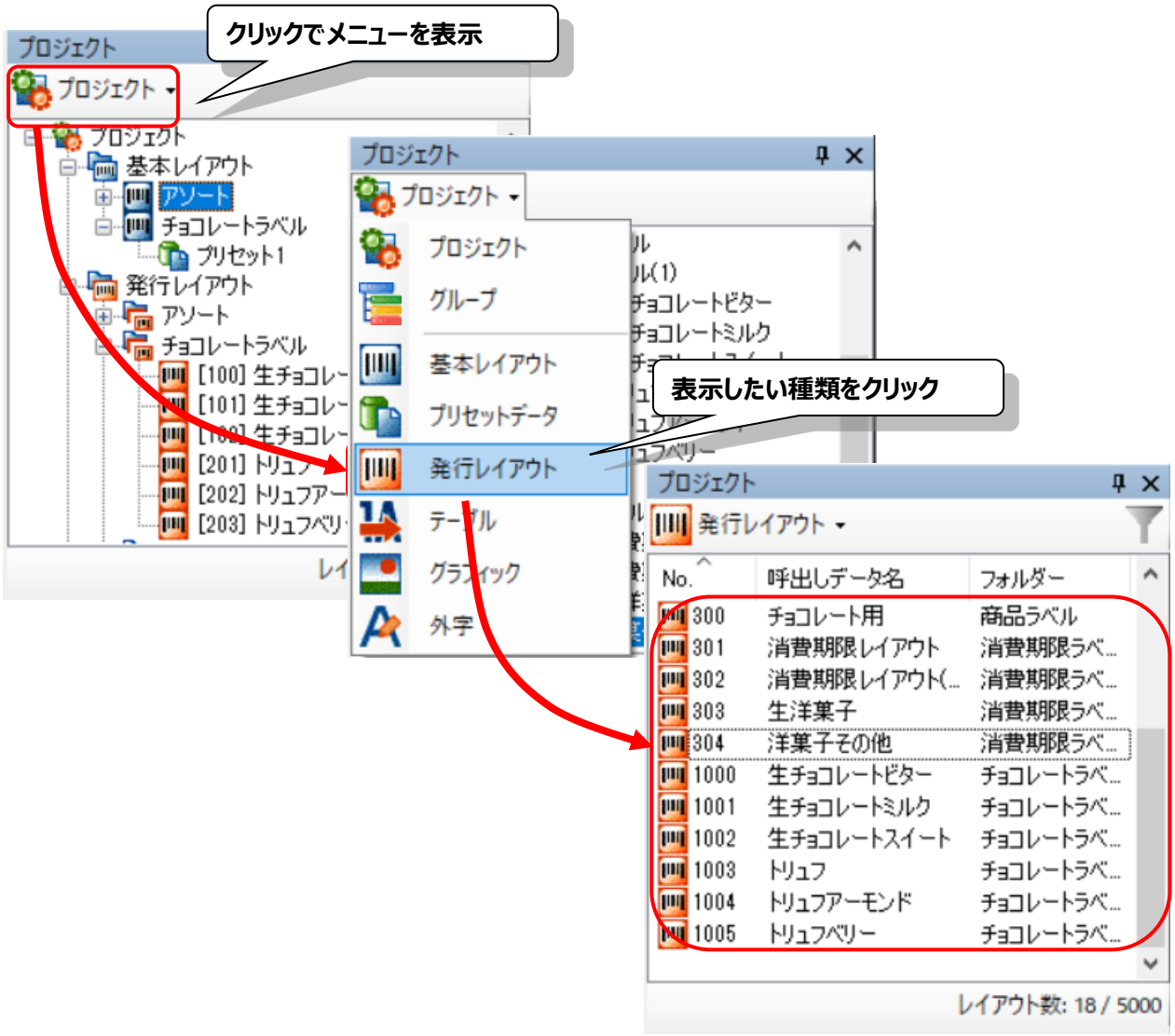
注意 2：貼り付け操作を行う場合は、一段上の階層、例えば、発行レイアウトファイルをコピー、貼り付けする場合は、発行レイアウトフォルダーを選択した状態で貼り付けができます。

注意 3：コピー対象のテーブルと同じテーブル No.が付与されているテーブルが、貼り付け先のプロジェクトファイルに存在する場合は、貼り付けが出来ません。

注意４：ツール設定「メディア表示機能を使用」が有効時、追加や表示がされます。

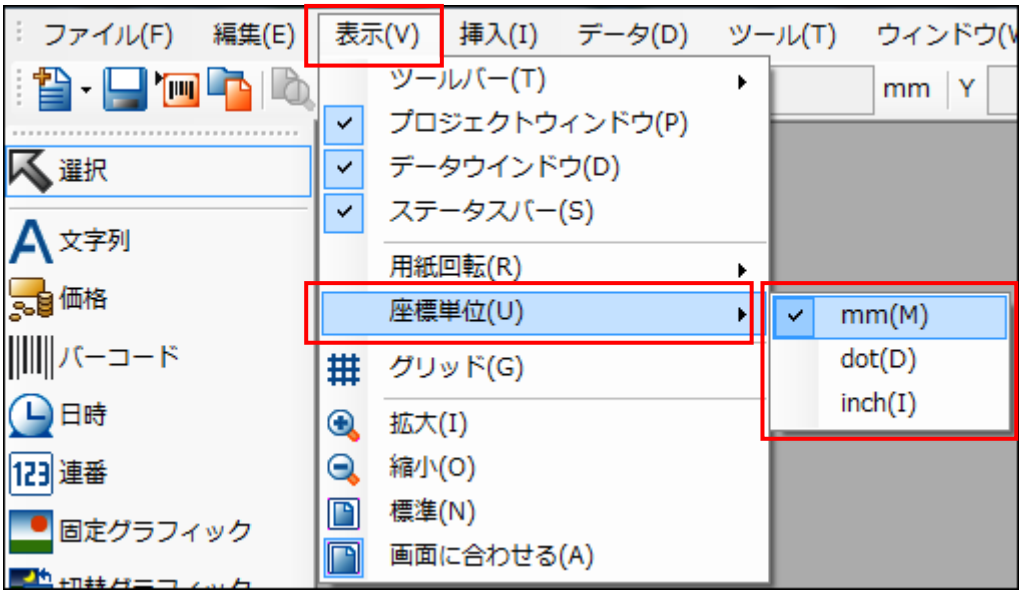
表示の切り替え

プロジェクトウィンドウではプロジェクトのツリー表示以外にも、レイアウトやテーブルなどの種類ごとに表示することが可能です。



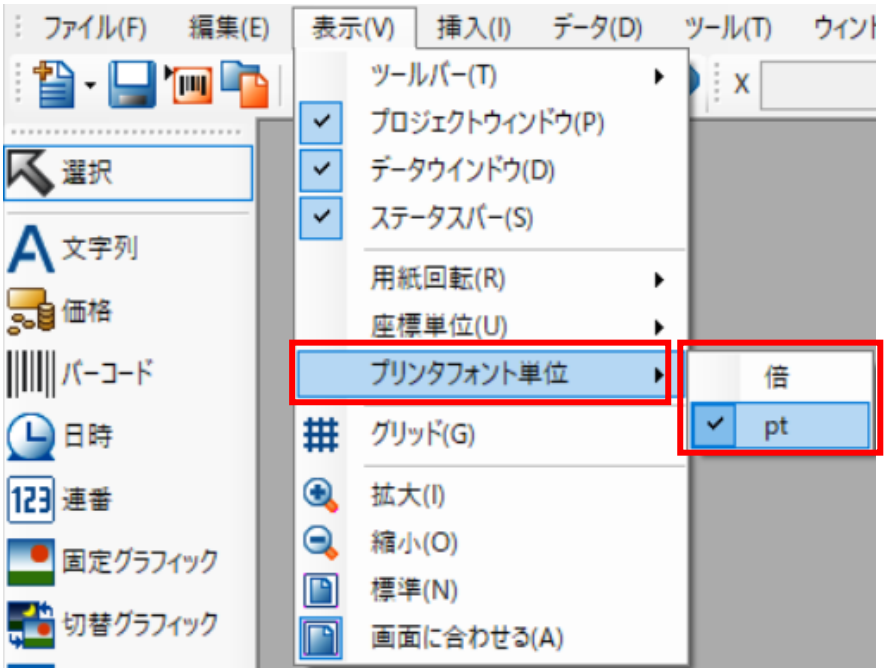
9.座標単位

レイアウトの座標や長さの単位を「mm」、「dot」、「inch」から選択します。
選択した単位はツールとして保持するため、すべてのプロジェクトファイルに適応されます。



10.プリンタフォント単位

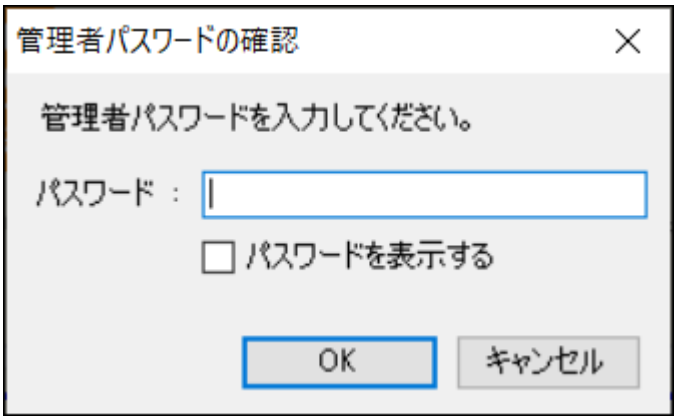
プリンタフォントのサイズの単位を「倍」、「mm」から選択します。
選択した単位はツールとして保持するため、すべてのプロジェクトファイルに適応されます。



4.基本設定

1.管理者パスワードの確認

e-Labe Designer 起動時に表示される管理者パスワードの確認画面です。
ツール設定で起動時にパスワードを入力する設定が有効な場合に表示します。



・パスワード

パスワードを入力します。

・パスワードを表示する

チェックを付けると、入力されたパスワードが表示されます。

2.プロジェクト選択

e-Labe Designer 起動時の画面です。
新規で作成するか、既存のプロジェクトファイルを指定するかを選択します。



・新規作成

ファイルを新規に作成します。

・参照

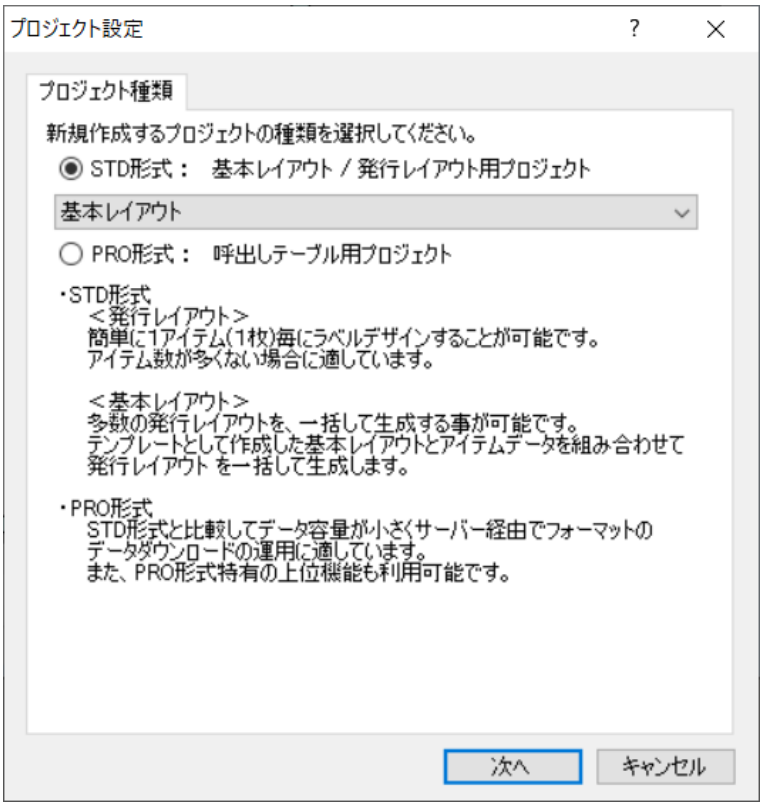
既存のファイルを参照します。

・キャンセル

選択画面を終了します

3.プロジェクト種類

作成するプロジェクトの種類を選択します。



・プロジェクトの種類選択

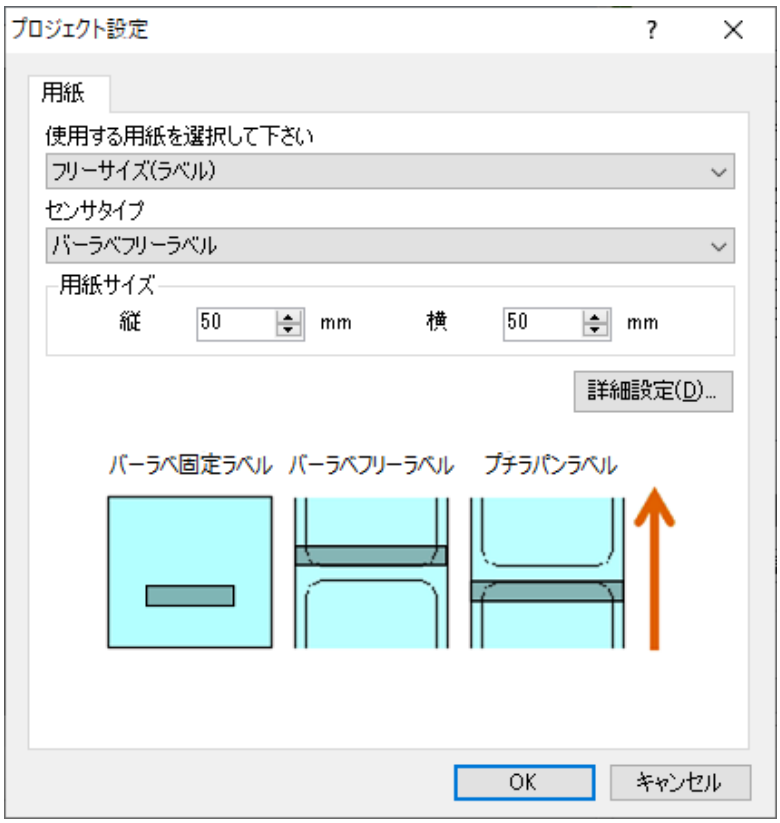
「STD 形式」か「PRO 形式」のどちらかを選択します。

「STD 形式」を選択した場合は、更に「基本レイアウト」か「発行レイアウト」を指定します。

※ このマニュアルは、STD 形式選択時に基づいたマニュアルです。
呼出しテーブル用プロジェクトのマニュアルは**「e-Labe Designer 操作マニュアル（PRO 形式編）」**をご参照ください

4.用紙設定

使用する用紙の種類、センサタイプ、用紙サイズを設定します。
プロジェクト設定画面での設定は、以降の新規レイアウト作成時の初期値となります。



・用紙の選択　※1
・センサタイプ　※2
使用する用紙の種類とセンサタイプを選択します。
選択可能な組み合わせはページ下部の表を参照してください。

・用紙サイズ
使用する用紙サイズを入力します。
ラベルの種類で「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」を選択時、縦サイズは自動計算となり、入力はできません。
※「可変長（ノンセパラベル）」で発行時、印字の先頭に 1.5mm の余白ができる場合があります（尻出し印字の場合は印字の末尾になります）。
本動作はプリンタのノンセパカッタモードの仕様です。

※1:用紙選択のリストには、設定されたプリンタで使用される一般的な用紙が予め登録されています。
フリー以外の用紙を選択すると、用紙サイズが自動的に反映されます。
これらの用紙を選択後に、センサ種、用紙サイズを変更することは可能です。

用紙の種類	説明
フリーサイズ（ラベル）	台紙付きのラベルを利用時に選択します。
フリーサイズ（ノンセパラベル）	台紙が無いサトー製ノンセパラベルを利用時に選択します。
フリーサイズ（ジャーナル紙）	レシート用紙のように 1 枚の区切りが無い用紙を利用時に選択します。
可変長（ノンセパラベル）	**[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]** ノンセパラベルを使って、印字の終了位置によって用紙の縦サイズを可変させたい場合に選択します。
可変長（ジャーナル紙）	**[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]** ジャーナル紙を使って、印字の終了位置によって用紙の縦サイズを可変させたい場合に選択します。

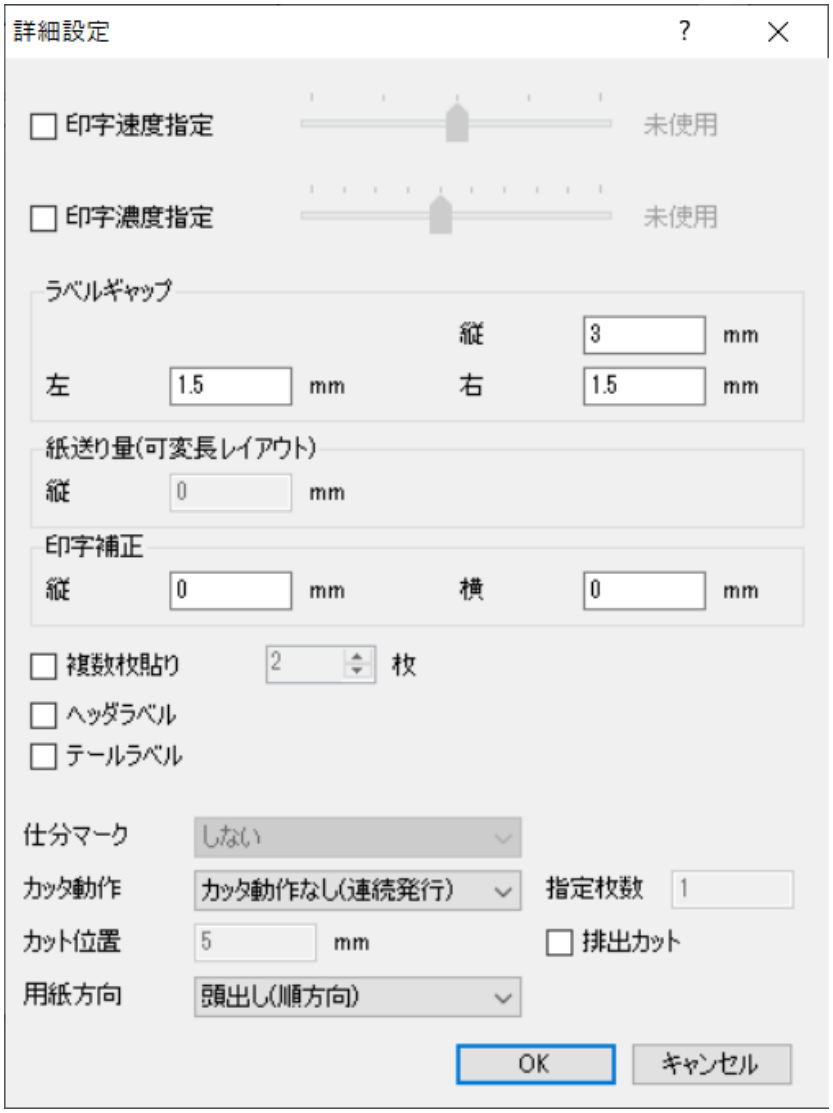
※2　センサタイプは用紙の選択で選択したラベルの種類に応じたセンサが表示されます。

用紙の種類 センサタイプ	フリーサイズ（ラベル）	フリーサイズ（ノンセパラベル）	フリーサイズ（ジャーナル紙）	可変長（ノンセパラベル）	可変長（ジャーナル紙）	標準ラベルサイズ
バーラベ固定ラベル	○					○
バーラベフリーラベル	○	○				○
プチラパンラベル	○	○				○
ギャップラベル	○					
センサ無効（用紙サイズ優先）		○	○	○	○	○
センサ無効（印字位置優先）		○	○			○
プリンタ設定値を使用する	○	○	○			○

1.詳細設定

プリンタ動作の詳細を設定します。

プロジェクト設定画面での設定は、以降の新規レイアウト作成時の初期値となります。



・印字速度指定

スライドバーをマウスドラッグで動かして、プリンタの印字速度を指定します。

チェックボックスにチェックが入っていない場合は、プリンタ本体の設定が有効になります。

・印字濃度指定

スライドバーをマウスドラッグで動かして、プリンタの印字濃度を指定します。

チェックボックスにチェックが入っていない場合は、プリンタ本体の設定が有効になります。

・ラベルギャップ
（ラベル選択時のみ設定可）

ラベルの縦、横のギャップサイズを指定します。ノンセパを選択した場合は、無効となります。

・紙送り量（可変長レイアウト）[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

印字の終了位置からの紙送り量を指定します。

可変長（ノンセパラベル）、可変長（ジャーナル紙）を選択時、設定が有効となります。

・印字補正

レイアウトの全体的な印字補正値を設定します。

・複数枚貼り[e-Labe Print バージョン 1.18.0 以上で有効]

一回の発行で異なるデザインのラベルをまとめて印刷します（最大 4 枚まで）。

・ヘッダラベル[e-Labe Print バージョン 1.18.0 以上で有効]

ヘッダラベルの使用有無を設定します。

・テールラベル[e-Labe Print バージョン 1.18.0 以上で有効]

テールラベルの使用有無を設定します。

・仕分マーク（設定不可）

・カッタ動作

カット方法を指定します。

プリンタ本体をハクリ設定にした場合は、カッタ動作なし（連続発行）に設定を変更してください。

●複数枚貼り OFF

カッタ動作	カットコマンド
カッタ動作なし（連続発行）	出力する（０枚でカット）
１枚ごとにカット	出力する（１枚でカット）
指定枚数カット	出力する（Ｎ枚でカット）
未使用※	出力しない

●複数枚貼り ON

カッタ動作	カットコマンド
カッタ動作なし（連続発行）	出力する（０枚でカット）
１枚ごとにカット	出力する（１枚でカット）
１セットごとにカット	出力する（Ｎ枚でカット）
指定セット数ごとにカット	出力する（Ｎ枚でカット）
未使用※	出力しない

※通常は使用しません

・指定枚数

指定枚数カット、指定セット数ごとにカットを選択時に、何枚（セット）ごとにカットするかを設定します。

・カット位置（設定不可）

・排出カット

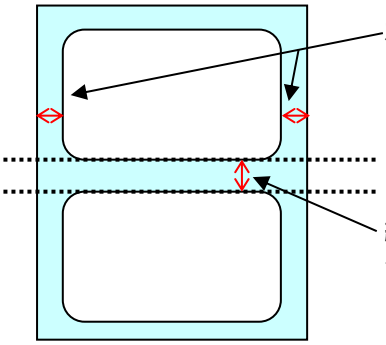
印字終了後に排出カットを行うかどうかを設定します。

・用紙方向

用紙の排出方向を指定します。

2.用紙設定用語解説

・ラベルギャップとは



左・右（横）
ラベルの台紙の端からラベルまでの距離です。

縦
前のラベルの終わりから次のラベル始めまでの距離です。
※左・右：1.5mm、縦：3mm がサトーの標準的な値です。

・紙送り量とは

3.基本事項＞2.基本操作＞5.デザインウィンドウの【可変長用紙を選択時のデザインウィンドウ】の説明をご参照ください。

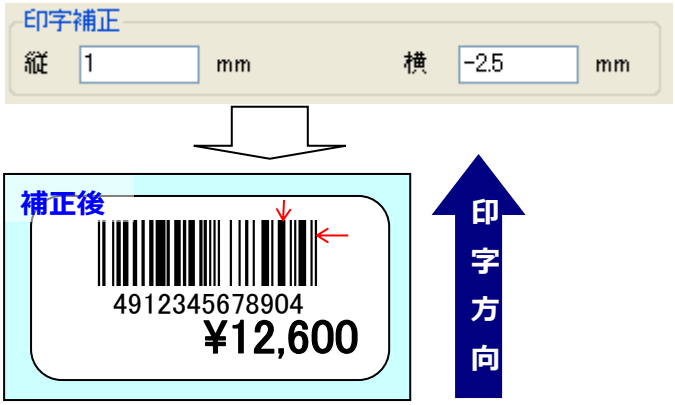
・印字補正とは

全体の印字位置を補正します。





用紙セットが正しく行われているにも関わらず、想定される位置よりずれて印字されてしまった場合、補正値を入力することで、印字位置を調整することができます。
左の様な場合、縦は＋（プラス）値で下へ、－（マイナス）値で上へ、横は＋（プラス）値で右へ、－（マイナス）値で左へ移動します。



・排出カットとは

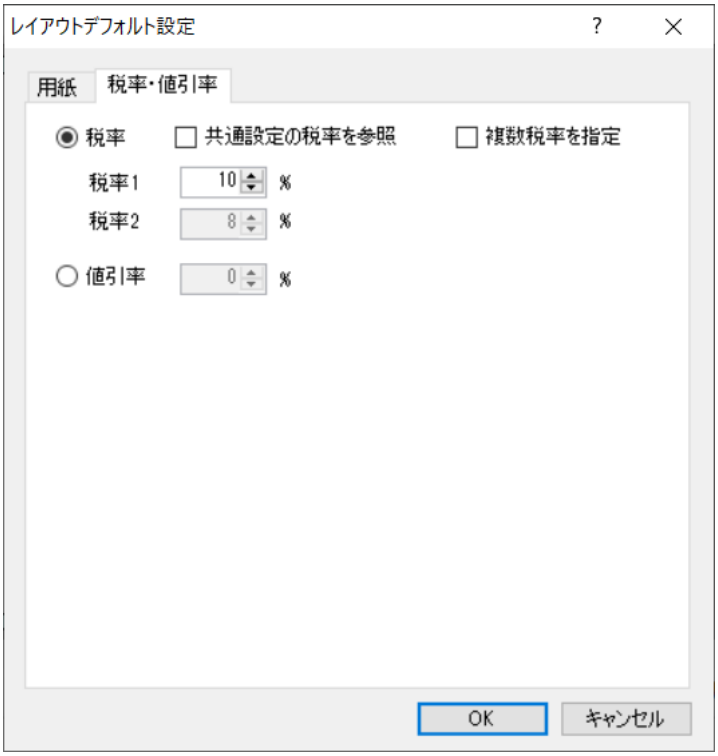
印字終了時にプリンタ内部にある「印字された用紙」を紙送りし、カットする機能です。

5.税率・値引率設定（レイアウトデフォルト設定）

レイアウトの価格項目の計算方法を税計算にするか、割引計算にするかを選択し、それぞれの税率、値引き率の値を設定します。

１つのレイアウトで、税計算か割引計算かどちらかの計算設定を行うことができます。

本画面で設定した値は、新規レイアウト作成時の初期値に反映されます。既存レイアウトの値を変更する場合は各レイアウトの「レイアウト設定」で値を変更してください。



税率

レイアウト内の価格項目で、税率計算設定が可能になります。

この設定により、

①入力した値を本体価格として、

税込み価格、税価格値の算出

②入力した値を本体価格として小数点以下２桁まで税込み計算を行い、

税込み価格の整数部、税込み価格の小数部の算出

③入力した値を税込み価格として、

本体価格、税価格値の算出　が行えます。

・共通設定の税率を参照（チェックボックス）

プロジェクト設定の共通設定で設定されている税率を使用する場合にオンにします。

・複数税率を指定

税率１、税率２を使用する場合にオンにします。

・税率１、税率２

「共通設定の税率を参照」がオフの場合にここで入力した税率で計算します。

「複数税率を指定」がオンの場合に税率２も有効になります。

・割引率

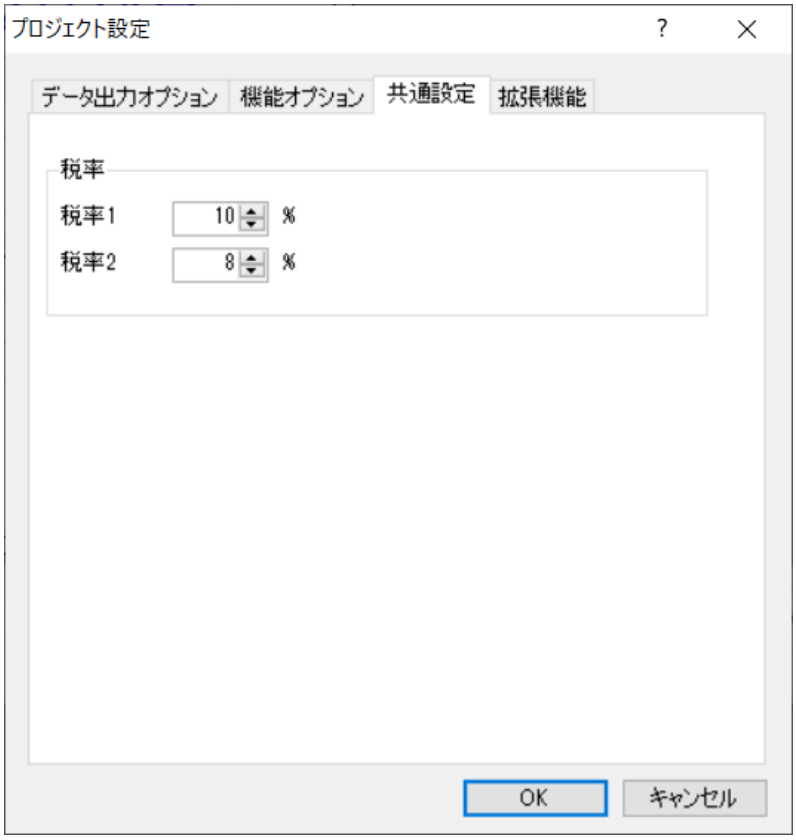
レイアウト内の価格項目で、割引率計算設定が可能になります。

この設定により、入力した値を値引き前価格として、値引き後価格、値引き額の算出が行えます。

6.共通税率設定（プロジェクト設定）

プロジェクト設定の共通設定タブでプロジェクト内の税率を設定します。

この税率を参照する場合は、レイアウト設定の税率・値引率設定で「共通設定の税率を参照」チェックボックスをオンにします。

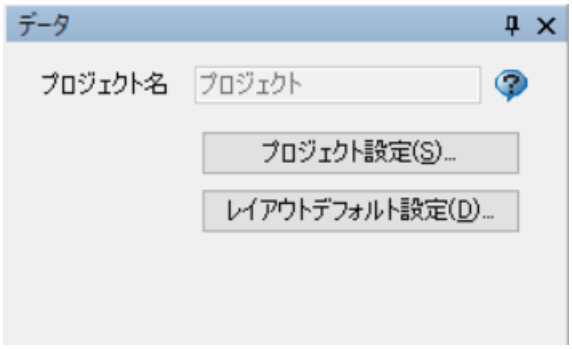


5.データウィンドウ解説

1.ファイルプロパティ

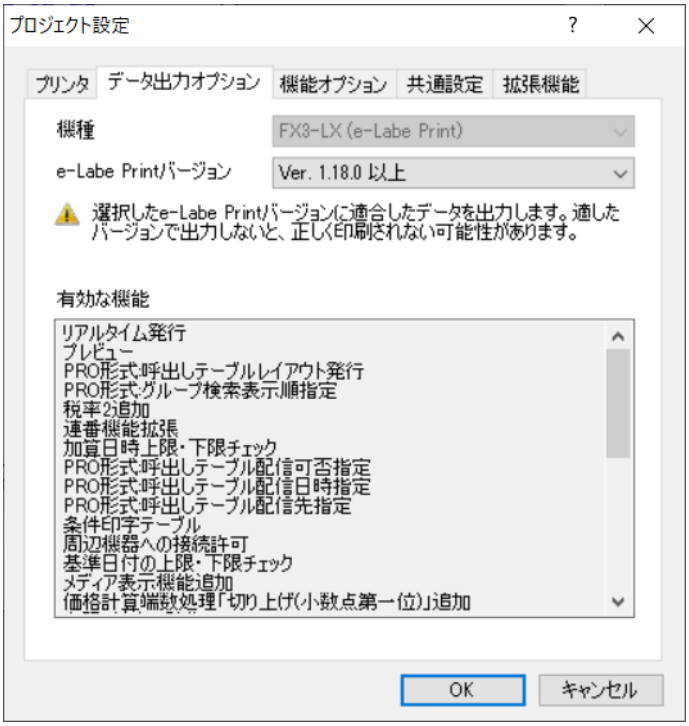
1.プロジェクト

プロジェクト情報の設定を行う画面です。
プロジェクト全体の設定や、新規レイアウト作成時の初期値を設定できます。



・プロジェクト名
保存したファイル名をプロジェクト名として表示します。

・プロジェクト設定（ボタン）
プロジェクト設定画面を開きます。
プロジェクト全体の設定を変更する画面です。



・データ出力オプションタブ　※この機能は管理者用です

データ出力時のオプションを設定する画面を開きます。

e-Labe Print の過去のバージョンに適合したデータを出力するための機能です。

詳細説明は**こちら**をご参照ください。

・機能オプションタブ
プロジェクト全体のオプションを設定する画面を開きます。
詳細説明は**こちら**をご参照ください。

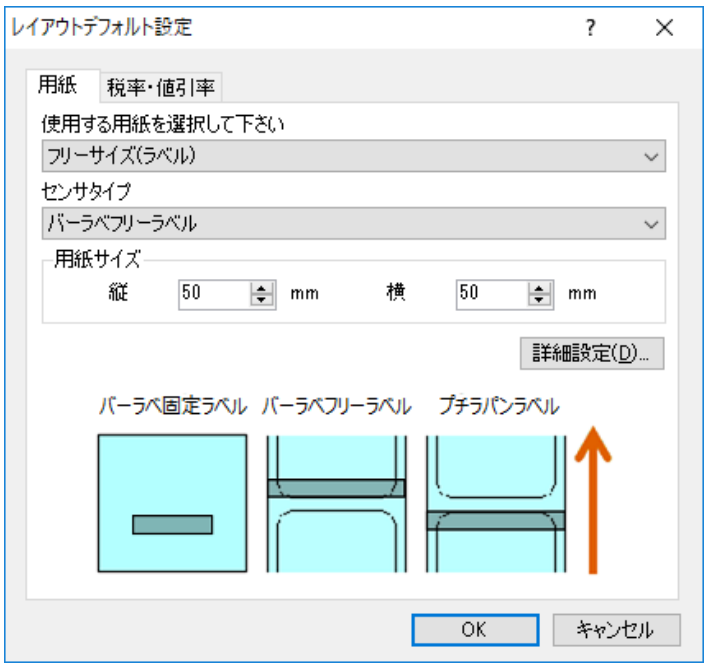
・共通設定タブ
プロジェクト全体の共通設定画面を開きます。詳細説明は**こちら**をご参照ください。

・拡張機能タブ [e-Labe Print バージョン 1.5.0 以上で有効]
周辺機器連携画面を開きます。

「周辺機器への接続を許可」
チェックを ON にしてデータ出力したフォーマットファイルは、e-Labe Print で周辺機器接続有効のフォーマットファイルとして認識されます。

「拡張パラメータを使用」 [e-Labe Print バージョン 1.16.0 以上で有効]
チェックを ON にすると、「編集」ボタンから拡張パラメータファイル（ExpandedParameter.xml）の編集が可能です。拡張パラメータ設定が ON の状態で出力されたフォーマットファイルを読み込むことで e-Labe Print で音声発話やダイアログ表示などの拡張機能を利用できます。
（本機能のご利用については、販売店、またはディーラーにご相談ください。）

・レイアウトデフォルト設定（ボタン）
レイアウトデフォルト設定画面を開きます。
この画面での設定内容は、新規にレイアウト作成を行う場合の初期値となります。
注意：「レイアウトデフォルト設定」の変更内容は既存のレイアウトには反映されません。
既存のレイアウト設定を変更したい場合は、各レイアウト単位で設定変更を行ってください。



・用紙タブ
用紙設定画面を開きます。

・税率・値引率タブ
税率・値引率の設定画面を開きます。

2.フォルダー

呼出しデータ（発行レイアウト）フォルダーの情報の設定を行う画面です。



・フォルダー名

フォルダー名称を設定します。

注意

フォルダー名は Designer 上の管理で使用します。e-Labe Print には反映されません。

3.発行レイアウト

発行レイアウト情報の設定を行う画面です。
ここで設定した値は、編集中のレイアウトに反映されます。
発行レイアウトは、**一つのプロジェクトで 5000 件**まで登録が可能です。



・呼出しデータ名
呼出しデータ（発行レイアウト）の名称を 32 桁（全角 16 桁）で設定します。

・呼出し No
呼出しデータ（呼出レイアウト）の番号を数字 4 桁で設定します。
e-Labe Print でデータを呼び出す際の番号になります。

・発行枚数指定
[e-Labe Print バージョン 1.18.0 以上で有効]
発行枚数を事前にセットしたり、発行枚数の入力範囲をセットします。

入力：設定した発行枚数を初期値として表示します。発行時に発行枚数を変更可能です。「詳細設定」で入力範囲（上限値・下限値）設定が可能です。

固定:設定した発行枚数で発行します(発行時変更不可)。

参照：文字列オブジェクトの値を発行枚数として参照します。

詳細は「6.特別な操作」の「33.発行枚数をプリセットする方法」ならびに「34.発行枚数の上限／下限チェック機能の設定方法」をご参照ください。

検索
・呼出し名 ※未使用です。

・バーコード
バーコード検索の際にキーとなるオブジェクトをレイアウトに登録されている「文字列オブジェクト」または「バーコードオブジェクト」の中から選択します。
検索キーとして設定可能な条件は以下の通りです。

オブジェクト種：文字列　またはバーコード
最大桁数：26 桁
入力値：半角英数カナ　※全角文字がセットされている場合は、データ出力時エラーになります
入力方法：**固定**（ただし、初期値がセットされていること）　もしくは
　　参照・結合（ただし、参照先が固定の文字列・バーコード・価格の場合のみ）

また、検索キーは呼出し No.ごとにユニークでなければいけないため、他のレイアウトで設定した文字列/バーコードの値と同じ値の文字列/バーコードは設定できません。

グループ

・グループ大、グループ中、グループ小

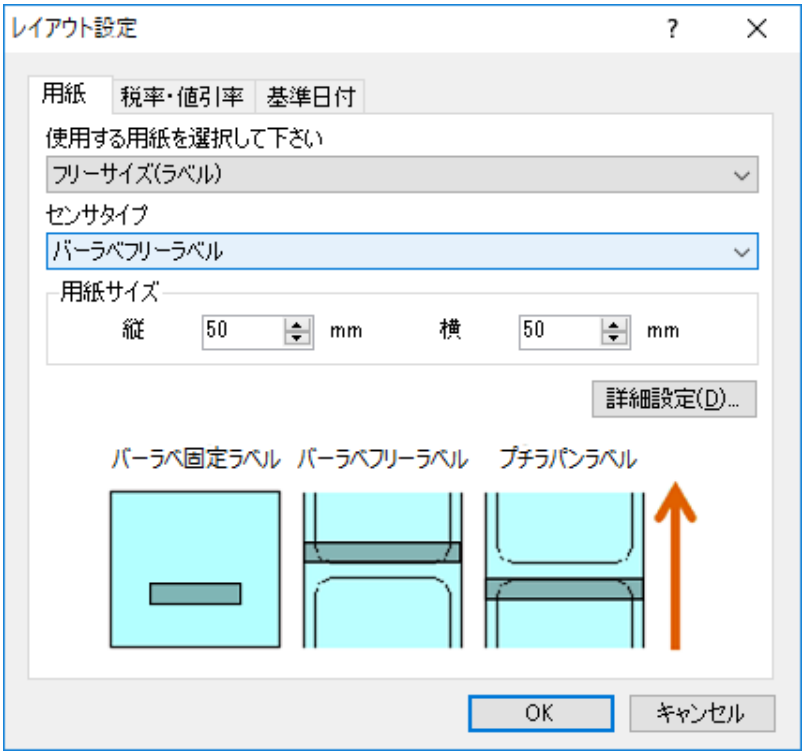
プロジェクト設定で、グループ階層が「1 階層」以上の場合に選択した階層に応じて表示されます。

・読み取り専用（トグルボタン）

ボタンを ON にすることで、変更内容の上書きを禁止します。

・レイアウト設定（ボタン）

レイアウト設定画面（用紙情報、税率・値引率、基準日付設定）を開きます。



・用紙タブ

用紙設定画面を開きます。

・税率・値引率タブ

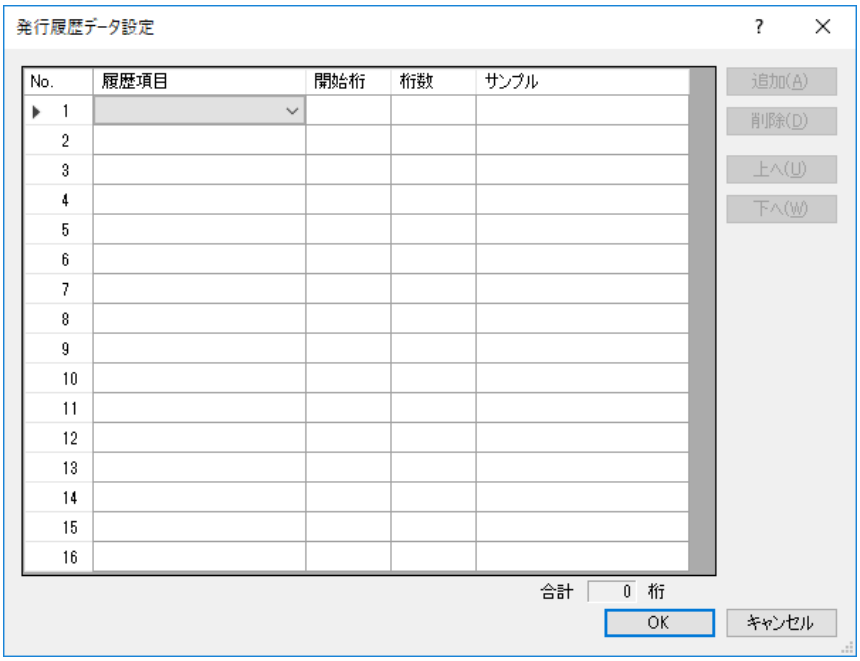
税率・値引率の設定画面を開きます。

・基準日付タブ [e-Labe Print バージョン 1.5.0 以上で有効]

基準日付の一時変更範囲指定画面を開きます。

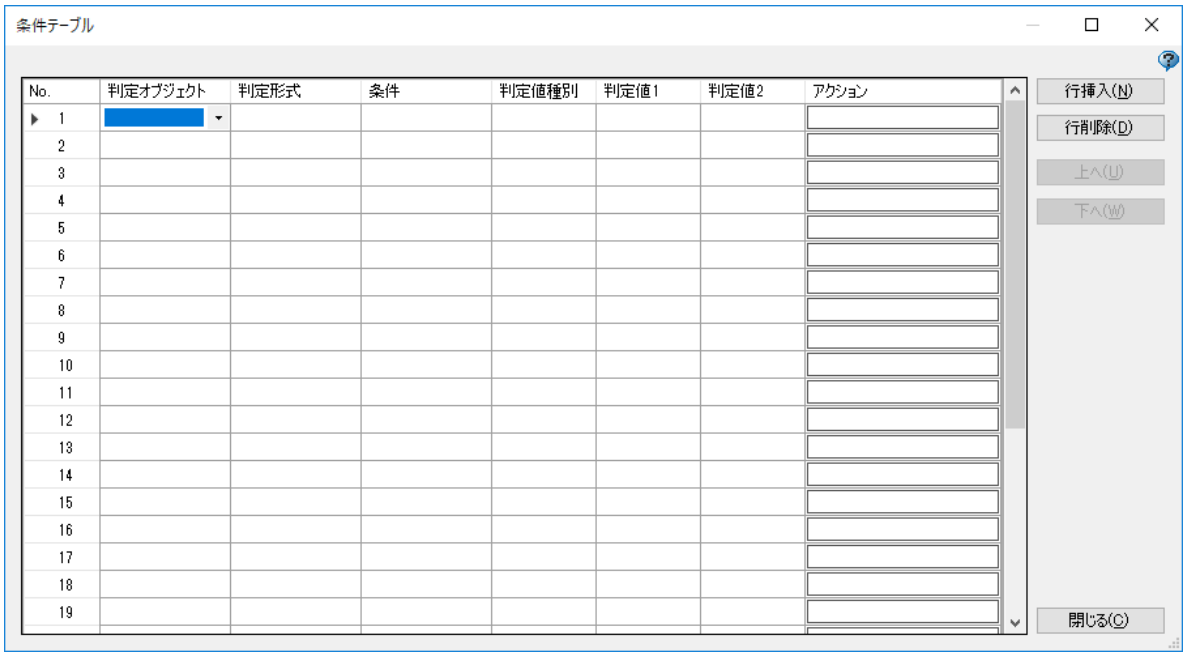
・発行履歴データ設定（ボタン）

発行履歴データ設定画面を開きます。



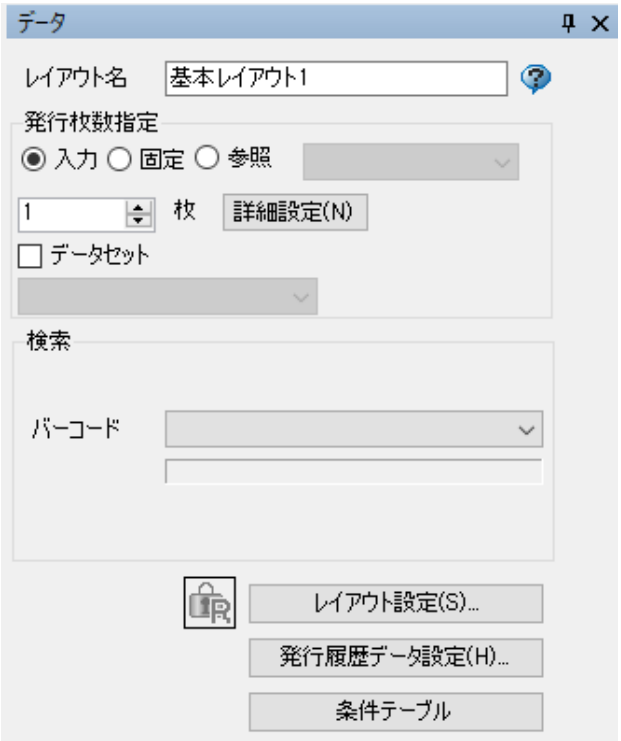
・条件テーブル（ボタン） [e-Labe Print バージョン 1.5.0 以上で有効]

条件テーブル登録画面を開きます。



4.基本レイアウト

基本レイアウト情報の設定を行う画面です。
ここで設定した値は、編集中のレイアウトに反映されます。



・レイアウト名
基本レイアウトの名称を設定します。

・発行枚数指定
[e-Labe Print バージョン 1.18.0 以上で有効]
発行枚数を事前にセットしたり、発行枚数の入力範囲をセットします。

入力：設定した発行枚数を初期値として表示します。発行時に発行枚数を変更可能です。「詳細設定」で入力範囲（上限値・下限値）設定が可能です。

固定：設定した発行枚数で発行します（発行時変更不可）。

参照：文字列オブジェクトの値を発行枚数として参照します。

詳細は「6.特別な操作」の「33.発行枚数をプリセットする方法」ならびに「34.発行枚数の上限／下限チェック機能の設定方法」をご参照ください。

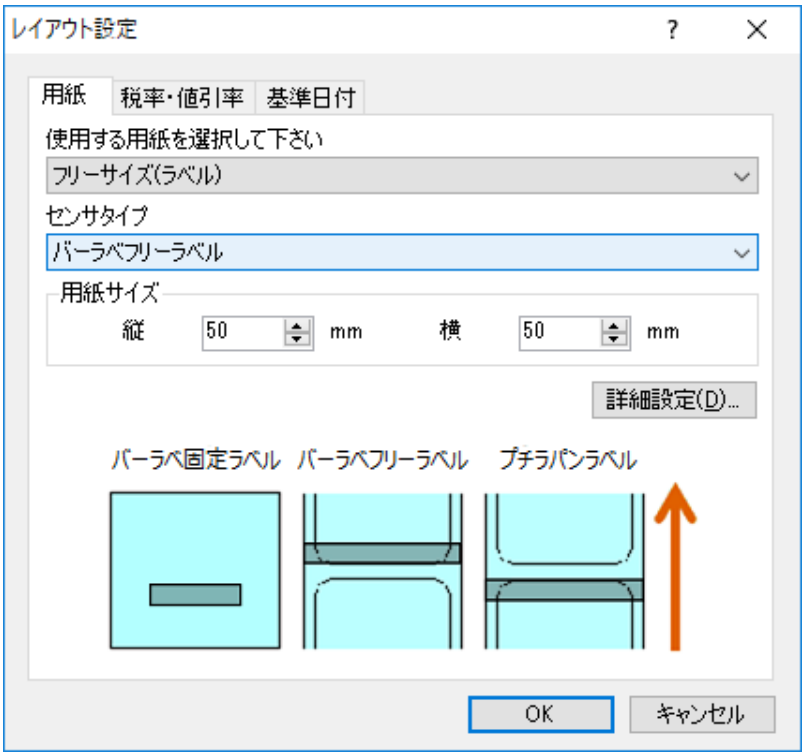
検索
・バーコード
バーコード検索の際にキーとなるオブジェクトをレイアウトに登録されている「文字列オブジェクト」または「バーコードオブジェクト」の中から選択します。
検索キーとして設定可能な条件は以下の通りです。

オブジェクト種：文字列　またはバーコード
最大桁数：26 桁
入力値：半角英数カナ　※全角文字がセットされている場合は、データ出力時エラーになります
入力方法：**固定**（ただし、初期値がセットされていること）　もしくは
　　参照・結合（ただし、参照先が固定の文字列・バーコード・価格の場合のみ）

また、検索キーは呼出し No.ごとにユニークでなければいけないため、他のレイアウトで設定した文字列/バーコードの値と同じ値の文字列/バーコードは設定できません。

・読み取り専用（トグルボタン）
ボタンを ON にすることで、変更内容の上書きを禁止します。

・レイアウト設定（ボタン）
レイアウト設定画面（用紙情報、税率・値引率、基準日付設定）を開きます。

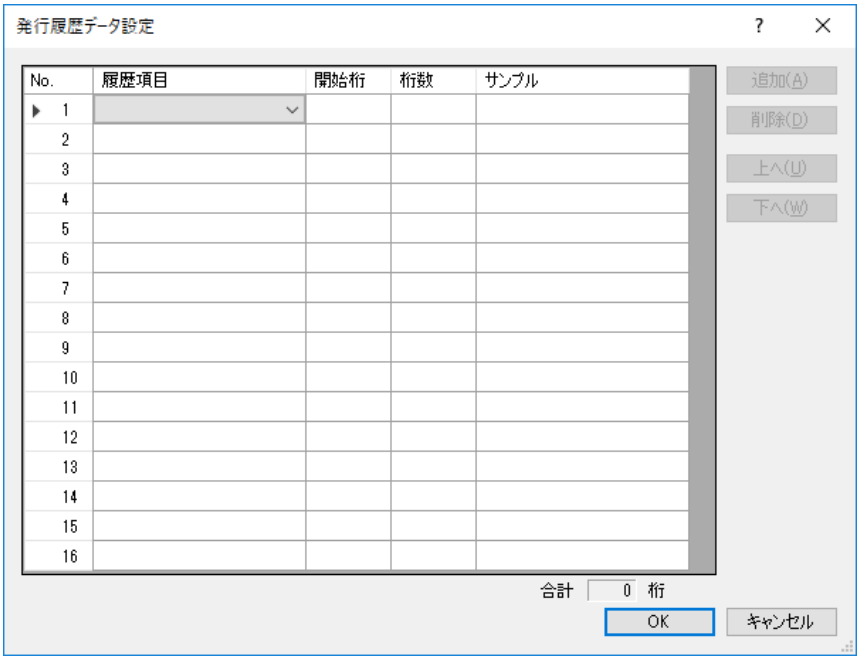


・用紙タブ
用紙設定画面を開きます。

・税率・値引率タブ
税率・値引率の設定画面を開きます。

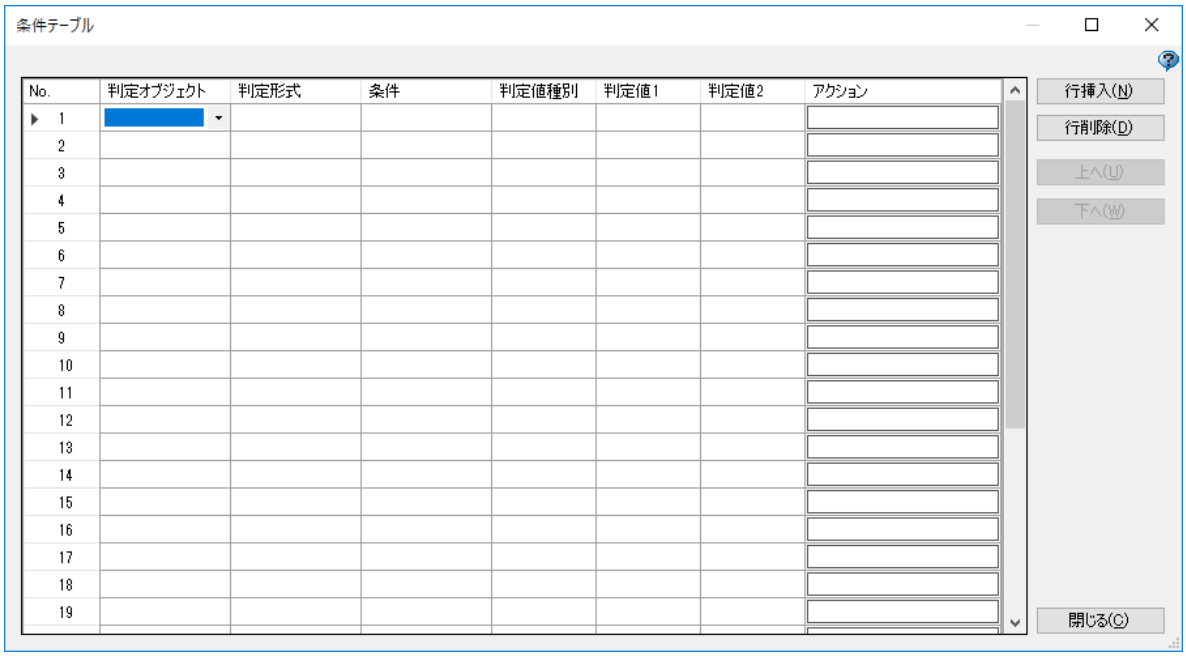
・基準日付タブ [e-Labe Print バージョン 1.5.0 以上で有効]
基準日付の一時変更範囲指定画面を開きます。

・発行履歴データ設定（ボタン）
発行履歴データ設定画面を開きます。



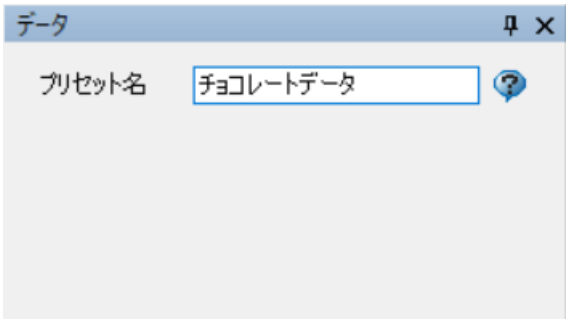
・条件テーブル（ボタン） [e-Labe Print バージョン 1.5.0 以上で有効]

条件テーブル登録画面を開きます。



5.プリセットデータ

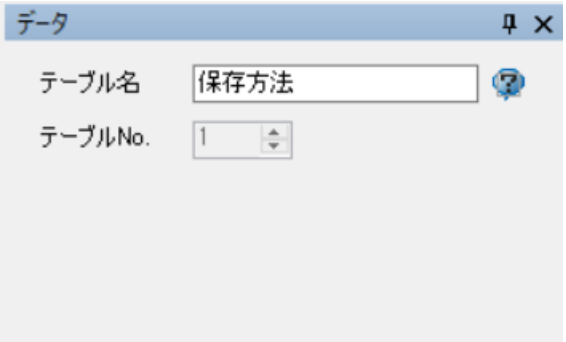
プリセットデータ情報の設定を行う画面です。
一つの基本レイアウトに複数のプリセットデータを登録でき、**各プリセットデータの合計で 5000 件**のデータの登録が可能です。



・プリセットデータ名
プリセットデータ名称を設定します。

6.テーブル

テーブル情報の設定を行う画面です。
テーブルは、**一つのプロジェクトで漢字テーブル 99 件、グラフィックテーブル 1 件、店舗テーブル 1 件**の登録が可能です。

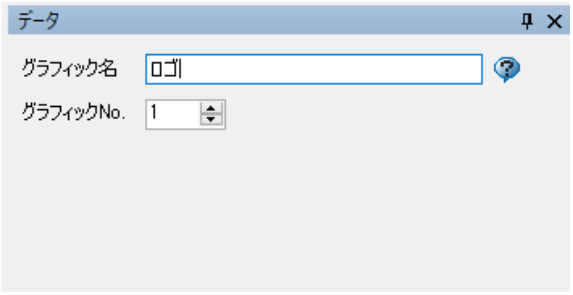


・テーブル名
テーブルの名称を設定します。

・テーブルNo.
テーブル番号を表示します。
漢字テーブルのテーブル番号は 1～10、111～199 です。

7.呼出しグラフィック

呼出しグラフィック情報の設定を行う画面です。
呼出しグラフィックは、**一つのプロジェクトで 99 個**まで登録が可能です。



・グラフィック名
呼出しグラフィックの名称を設定します。

・グラフィックNo.
呼出しグラフィックのNo.を設定します。
データセットや、レイアウト作成時に登録グラフィックを使用する際には、この番号で指定します。

8.外字

外字情報の設定を行う画面です。
外字は、**一つのプロジェクトで 94 個**まで登録が可能です。



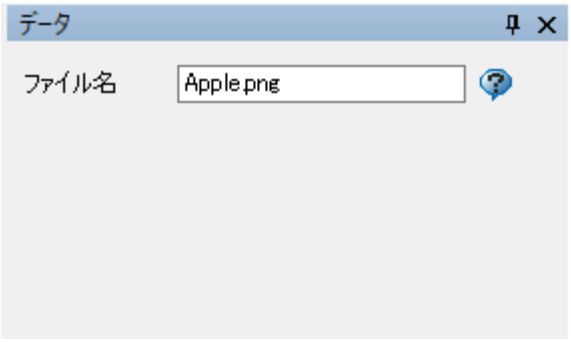
・外字名
外字の名称を設定します。

・外字No.
外字No.を設定します。
レイアウト作成時に登録外字を使用する際には、この番号で指定します。

9.内部フォルダ

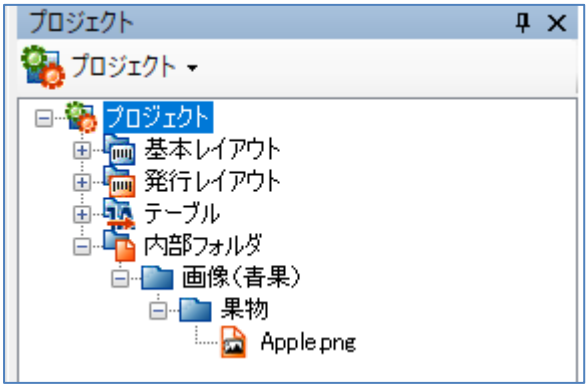
画像や動画などのファイルを取り込んでプロジェクト内に登録する画面です。
ツール設定「メディア表示機能を使用」のチェックを ON にするとプロジェクトに新規追加が可能となります。サブフォルダを作成することもできます。

内部フォルダを使うとフォーマットファイルにメディアデータを含めて配信することができます。ただし、ファイルサイズが大きくなります。

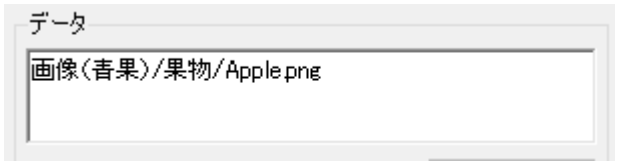


・ファイル名
取り込んだファイルの名称が表示されます。
変更も可能です。

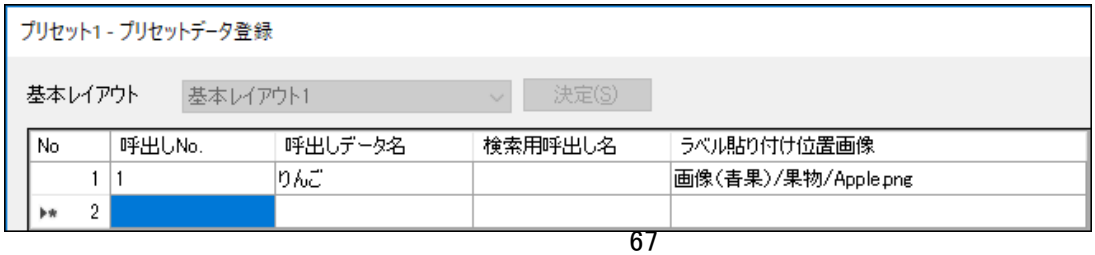
[最大桁数について]
フォルダ名およびファイル名を合わせたパス情報は最大半角 100 桁です。
例）以下の内部フォルダの Apple.png のパス情報
　　画像（青果）/果物/Apple.png
　＜－－－－－最大 100 桁－－－－－＞



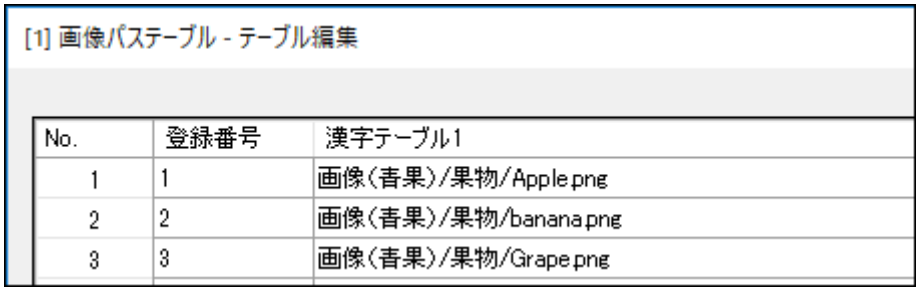
パス情報は、文字列に直接セット、プリセットデータでセット、テーブルに登録したパスを呼び出すなどが可能です。
・文字列オブジェクトの「データ」にパスをセット



・プリセットデータにセット



・漢字テーブルにパス情報を登録し呼び出してセット





2.オブジェクトプロパティ

1.文字列オブジェクト

文字列オブジェクトの各種設定を行う画面です。



・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目を設定します。
入力方法が「発行時（データ）」の時は、e-Labe Print の入力画面に入力項目名として表示されます。
また、「データ」に値がセットされていない時は青色の文字で、“（項目名）”とデザイン画面上に表示されます。
項目名は 32 桁まで設定可能です。

入力方法（ラジオボタン）

・固定

「データ」にセットされた値が反映、印字されます。

・発行時(データ)

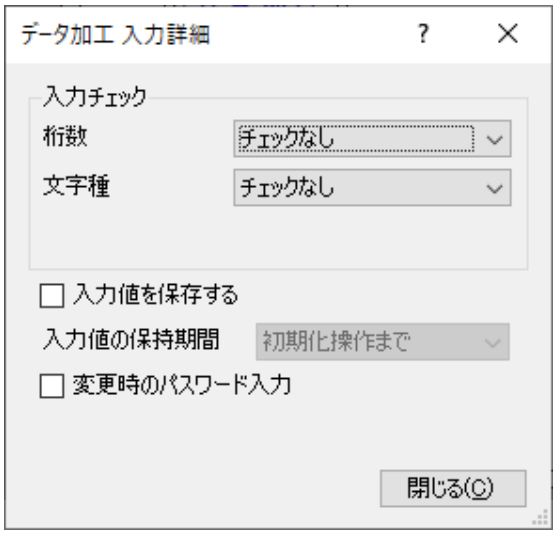
e-Labe Print で発行時に入力（変更）可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に表示されます。

・参照・結合

デザイン画面の既存項目の内容を参照し、複数のデータ項目の結合をする機能です。
「参照（ユーザ定義）」機能を使うことで、参照先の値をそのままコピーするだけでなく、桁数取得等も可能です。

・詳細設定（ボタン）・・・発行時（データ）　選択時

入力時の入力データのチェック方法を設定します。



・桁数

チェックなし、桁数必須入力、入力必須（未入力禁止）、0 入力禁止のいずれかを設定できます。

・文字種

チェックなし、数字のみ、英字・記号のみ、カナのみ、英数字・記号のみ、カナ・数字のみ、カナ・英字・記号のみのいずれかを設定できます。

「数字のみ」を選択時、e-Labe Print の入力画面はテンキーのみ表示します。

・入力値を保存する（チェックボックス）※入力方法が「発行時（データ）」の場合
[e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

・入力値の保持期間

「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します
「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します
「日付変更まで」：日付（システム日付）が変わるまで保持します（但し、発行中や文字列の入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します）

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください
・フォーマットファイルが更新された場合

・変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

文字列の変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

・詳細設定（ボタン）・・・参照・結合　選択時

データの参照・結合設定の内容を設定します。



・No

項目の順番です。

・種類

結合するデータの種類を選択します。

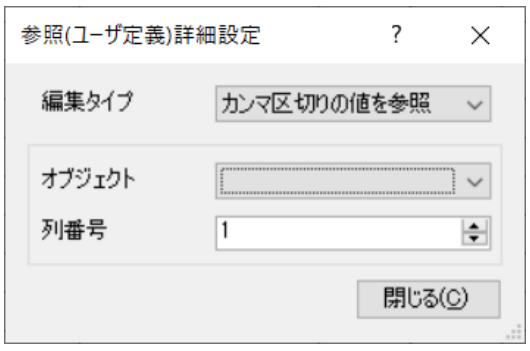
種類	編集タイプ	説明
固定	―	データに固定の値をセットします
外字	―	あらかじめ登録した外字を参照します
参照	―	レイアウト内の他オブジェクトの値を参照します
参照（ユーザ定義）	カンマ区切りの値を参照	カンマ区切りのデータから列番号を指定して値を参照します
	桁数を参照	レイアウト内の他オブジェクトの桁数を参照します
	数字の空白、前 0 削除	半角数字の前後のスペース、前 0 を削除した値を参照します
	最大値を参照	比較対象のオブジェクトの最大値を参照します
	最小値を参照	比較対象のオブジェクトの最小値を参照します

・データ

セットするデータを選択及び入力します。

種類が「参照（ユーザ定義）」の場合、参照（ユーザ定義）詳細設定ダイアログが開きます。

参照（ユーザ定義）詳細設定（カンマ区切りの値を参照／桁数を参照／数字の空白、前０削除）



編集タイプ

「カンマ区切りの値を参照」「桁数を参照」「数字の空白、前 0 削除」から選択します。

オブジェクト

レイアウト中のオブジェクトを一覧から選択します。

列番号・・・カンマ区切りの値を参照　選択時

カンマ区切りのデータの項目番号を指定します。

参照（ユーザ定義）詳細設定（最大値を参照／最小値を参照）

利用手順は「6.特別な操作＞30.最大値／最小値を参照する方法」をご参照ください。



編集タイプ

「最大値を参照」「最小値を参照」から選択します。

比較データ

「数値」または「日時」を選択します。

日時書式

比較データで「日時」を選択時、比較する日時書式を入力します。

オブジェクト（最大 30 項目）

レイアウト中の「文字列」、「価格」、「バーコード」、「日時」、システム項目（呼出し No.／呼出しデータ名／端末 No.／発行枚数）を一覧から選択します。

・開始桁

データ参照の際に、参照元データの何桁目から参照するかを指定します。

・桁数

データ参照の際に、データの開始桁から何桁目までを参照するかを指定します。

注意：参照の対象となるデータは、常に左詰めスペース補填状態からの参照になります。

※呼出し No.は、桁数 4 桁・右詰め 0 補填固定になります。

・補填種別

参照したデータが桁数に満たなかった場合の補填方法を指定します。

補填種別	補填方法	例
補填しない	補填しません	入力桁数：5 桁、入力：120　⇒ 120
左詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの後ろに桁数分の”半角スペース”を補填します。	入力桁数：5 桁、入力：120　⇒ 120△△（△は半角スペース）
右詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の”半角スペース”を補填します。	入力桁数 5 桁、入力：120　⇒ △△120（△は半角スペース）
右詰め 0 補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の”0”を補填します。	入力桁数 5 桁、入力 120　⇒ 00120

機能

・テーブル変換（チェックボックス）

該当項目をテーブル変換します。

「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に反映されます。

プロジェクト内に登録されているテーブルをリストボックスから選択します。

・データ桁数

「固定」、「参照」以外のデータの最大桁数を指定します。設定可能なデータ桁数は、「発行時（データ）」：1000 桁、「発行時（テーブル）」：1000 桁までです。

データ

・データ

項目にデータをセットします。入力方法が「固定」の場合は、セットされたデータがそのまま印字されます。「発行時（データ）」の場合は、e-Labe Print で初期値として使用されます。

・データセット（チェックボックス）　※基本レイアウトのみ有効

該当項目をプリセットデータと紐づける場合にチェックします。基本レイアウト専用機能です。
チェック有効時、「プリセットデータ」登録画面に入力項目が表示されます。

表示

・フォント名

フォントの種類を選択します。
名称が「プリンタ_ｘｘｘｘ」となっているものは、サトーのプリンタフォントとなります。
使用できる文字がフォント種によって異なりますのでご注意ください。

・縦サイズ

フォントの縦サイズを倍率またはポイントで指定します。

・横サイズ

フォントの横サイズを倍率またはポイントで指定します。

・文字間隔

文字間隔をポイントで指定します。

・文字の横幅を縮小して全体を表示（チェックボックス）

※PRO 形式選択時に利用可能となります。

・左寄せ（トグルボタン）

指定された桁数に満たない場合に、文字を左寄せします。

・センタリング（トグルボタン）

指定された桁数に満たない場合に、文字を中央寄せします。

・右寄せ（トグルボタン）

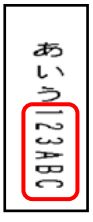
指定された桁数に満たない場合に、文字を右寄せします。

・均等（トグルボタン）

印字指定領域内に文字の横幅を合わせます。

・0 補填（トグルボタン）

指定された桁数に満たない場合に、文字に 0 補填します。0 補填を有効時、データは右寄せとなりデータの前に 0 が付加されます。



・横書き/縦書き（トグルボタン）

横書きと縦書きを切り替えます。フォントによって縦書き指定はできません。

※縦書き時、Designer 上の半角の数字、英字、記号は実際の印字とは異なり横に倒した表示となります。

・改行（トグルボタン）
指定された領域内で、改行するかどうかを設定します。

・高さ自動調整（トグルボタン）[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]
オブジェクトの高さがデータに応じて可変するかどうかを設定します。
用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

表示
・白黒反転ボタン（トグルボタン）
白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）
項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・文字列表示設定



文字調整
注意：一文字ごとではなく文字列全体での指定になります。
また、文字種によって変更できる内容が異なります。

・ボールド（トグルボタン）
文字を太文字にします。

・イタリック（トグルボタン）
文字を斜体にします。

・下線（トグルボタン）
文字の下に下線を引きます。

・プロポーショナル（トグルボタン）
文字間隔を文字ごとの横サイズで詰めます。

・上寄せ（トグルボタン）
印字指定領域の上方に寄せます。

・上下中央寄せ（トグルボタン）
印字指定領域の上下中央に寄せます。

・下寄せ（トグルボタン）
印字指定領域の下方に寄せます。

改行設定　※入力方法「固定」の場合のみ有効

※「改行設定」で設定できる改行は、桁数改行を選択時の強制改行記号を除いて Designer 上で編集します。そのため、「発行時(データ)」項目など、印字データが e-Labe Print で編集される項目には使用できません。

・改行方法

「領域改行」か「桁数改行」を選択します。改行方法により使用できる機能に差があります。

機能	領域改行	桁数改行
センタリング	○	×
文字均等	○	×
自動改行時の右寄せ	○	×
強制改行記号 （発行時データ項目　※左寄せ時のみ）	×	○

※Ver.1.12 以前のレイアウトと互換が必要な場合は「領域改行」を選択してください

・改行桁数

改行桁数を指定します。

・行間隔

改行した際の前行との文字間隔を指定します。

・強制改行記号

項目内のデータにここで指定した記号があった場合は、桁数、領域関係無しに強制的に改行されます。
強制改行記号は 2 文字以上の組み合わせの指定も可能です。
また、指定した文字は印字データには反映されません。

・改行可能記号

ここでセットされた値を改行タイミングの目安とします。
桁数、領域の範囲でも、値と値に挟まれた単語が次の行にまたがる場合は、前の単語の終了時に事前に改行を行います。

改行設定詳細

改行設定の方法によって、以下の様に動作します。

ご飯、にんじん、さといも、こんにゃく、たまねぎ、れんこん、キャベツ、トマト、シャケ、牛肉、醤油、からし

改行桁数で“32 文字（全角 16 文字）”を指定すると・・・・

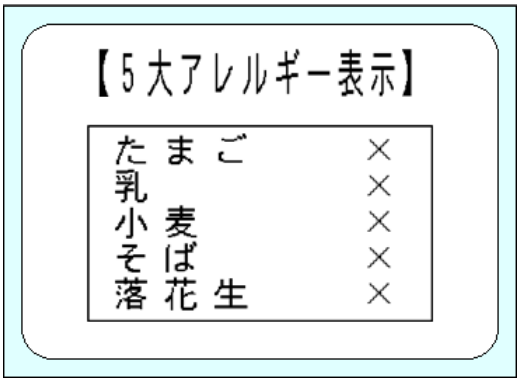
原材料	ご飯、にんじん、さといも、こんにゃく、たまねぎ、れんこん、キャベツ、トマト、たまご、しゃけ、牛肉、醤油、からし

改行可能文字で“、”を指定すると・・・・

原材料	ご飯、にんじん、さといも、 こんにゃく、たまねぎ、れんこん、 キャベツ、トマト、たまご、 しゃけ、牛肉、醤油、からし

たまご　×¥n 乳　　×¥n 小麦　　×¥n そば　　×¥n 落花生　×¥n

強制改行記号を”¥n”に指定すると・・・



文字領域補正

センタリングや右寄せ時、オブジェクトの横幅に文字が収まらない場合の領域補正に使用します。

・文字領域を補正する（チェックボックス）

オブジェクトの横幅の領域を補正するときにチェックします。

・補正値

オブジェクトの横幅を拡張します。

高さ調節　[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

・最小行数

高さ自動調整時の最小値を文字列の行数単位で設定します。
印字データが短い場合でも、最小行数分のオブジェクトの高さを確保します。
「0」：高さを確保しません（印字データに合わせてオブジェクトの高さが変わります）
「1」　以上の値：指定された行数分の高さを確保します

縦位置の相対設定　[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。
＜基準とするオブジェクトに選択可能な条件＞
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

Key-Bo 互換文字編集（チェックボックス）

右寄せ時の印字を Key-Bo と同じ印字結果にしたい場合にチェックします。（通常は使用しません。右寄せをスペース補填で処理します。）

ダンプ出力時のみ印字 ※入力方法「固定」および「参照・結合」の場合のみ有効

ダンプ出力時のみ印字したい場合にチェックします。チェックを入れ呼出し No.などを参照することにより、印字結果が識別し易くなります。

※「印字しない」設定と「ダンプ出力時のみ印字」を同時に有効にすることはできません（「印字しない」が優先されます）。

2.価格オブジェクト

価格オブジェクトの各種設定を行う画面です。



・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法（ラジオボタン）

・固定

「データ」にセットされた値が反映、印字されます。

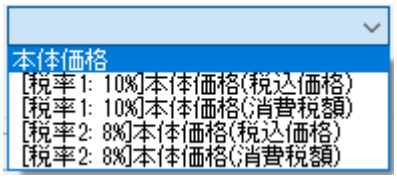
・発行時（データ）

e-Labe Print で発行時に入力（変更）可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に表示されます。

・参照

別の価格オブジェクトの計算結果を参照します。
参照可能な項目は、価格計算機能が ON になっている項目です。
参照元の価格計算の設定により、参照できる値が切り替わります。
〇税計算
[税込み]：「税込価格」、「消費税額」
[税込み（小数）]：「税込み価格整数部」、「税込み価格小数部」
[税抜き]：「税抜価格」、「消費税額」
〇値引き計算：「値引き後価格」、「値引き額」

また、複数税率を使用しているレイアウトの場合、税率毎に参照できる値が表示されます。

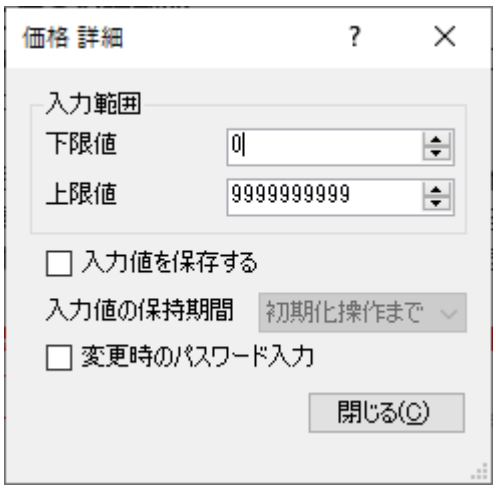


・データ桁数

「発行時（データ）」のデータの最大桁数を指定します。設定可能なデータ桁数は、最大 10 桁です。
ここで設定する値は、入力する桁数です。（¥,補填する場合の桁数を考慮する必要はありません）

詳細設定（ボタン）・・・発行時（データ）　選択時

入力範囲を設定します。



・下限値

入力の最小値を設定します。

・上限値

入力の最大値を設定します。

・入力値を保存する（チェックボックス）※入力方法が「発行時（データ）」の場合
[e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

・入力値の保持期間

「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します
「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します
「日付変更まで」：日付（システム日付）が変わるまで保持します（但し、発行中や価格の入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します）

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください
・フォーマットファイルが更新された場合

・変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

価格の変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

データ

・データ

項目に対する、データをセットします。入力方法で「固定」を選択した場合は、ここでセットされたデータがそのまま印字されます。「発行時（データ）」の場合は、e-Labe Print で入力項目の初期値として表示されます。

・データセット（チェックボックス）　※基本レイアウトのみ

基本レイアウトで、プリセットデータをセットする場合にチェックします。
チェックされた項目は、「プリセットデータ」登録画面で、登録項目として表示されます。

表示

・フォント名

フォントの種類を選択します。
名称が「プリンタ_ｘｘｘｘ」となっているものは、サトーのプリンタフォントとなります。

使用できる文字がフォント種によって異なりますのでご注意ください。

・縦サイズ
フォントの縦サイズを倍率またはポイントで指定します。

・横サイズ
フォントの横サイズを倍率またはポイントで指定します。

・文字間隔
文字間隔をポイントで指定します。

・通貨書式
価格の通貨書式を設定します。

・左寄せ（トグルボタン）
指定された桁数に満たない場合に、文字を左寄せします。

・センタリング（トグルボタン）
指定された桁数に満たない場合に、文字を中央寄せします。

・右寄せ（トグルボタン）
指定された桁数に満たない場合に、文字を右寄せします。

・均等（トグルボタン）
印字指定領域内に文字の横幅を合わせます。

・0 補填（トグルボタン）・・・設定不可

・白黒反転ボタン（トグルボタン）
白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）
項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・価格表示詳細

価格項目の詳細設定を行います。



文字調整

注意：一文字ごとではなく項目単位での指定になります。
また、文字種によって操作できる内容が異なります。

・ボールド（トグルボタン）

文字を太文字にします。

・イタリック（トグルボタン）

文字を斜体にします。

・下線（トグルボタン）

文字の下に下線を引きます。

・プロポーショナル（トグルボタン）

文字間隔を文字ごとの横サイズで詰めます。

・上寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・上下中央寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・下寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

通貨書式（ユーザ定義）

ここで通貨書式を変更した場合は、通貨書式リストの選択内容が（ユーザ定義）に変更されます。

・通貨記号補填

通貨記号を補填する位置を設定します。

・桁区切り

カンマの補填あり、なしを設定します。

・小数点位置・・・設定不可

文字領域補正

センタリングや右寄せ時、オブジェクトの横幅に文字が収まらない場合の領域補正に使用します。

・文字領域を補正する（チェックボックス）

オブジェクトの横幅の領域を補正するときにチェックします。

・補正値

オブジェクトの横幅を拡張します。

縦位置の相対設定　[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト
相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。
＜基準とするオブジェクトに選択可能な条件＞
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

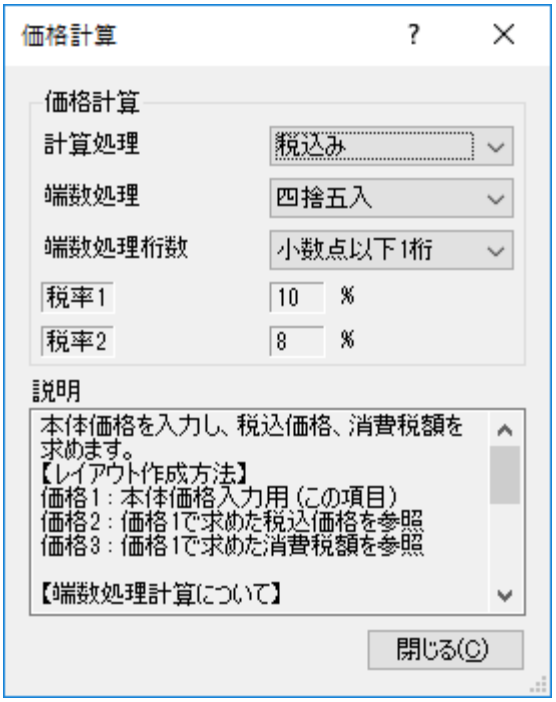
・オブジェクトからの間隔
「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

Key-Bo 互換文字編集（チェックボックス）

右寄せ時の印字を Key-Bo と同じ印字結果にしたい場合にチェックします。（通常は使用しません。右寄せをスペース補填で処理します。）

その他
・価格計算機能を使用（チェックボックス）
項目で価格計算機能を使用する場合にチェックします。

・詳細設定（ボタン）・・・価格計算機能選択時
価格計算機能を設定します。



・計算処理
計算処理方法を設定します。
「レイアウト設定」で“税率”を設定している場合は、「なし」、「税込み」、「税込み（小数）」、「税抜き」のいずれかを選択でき、“割引率”を設定している場合は、「なし」、「パーセント引き」のどちらかを選択できます。
それぞれの計算結果が反映された項目は、「参照」で設定できます。

・端数処理
税率・割引率計算時の端数処理方法を設定します。
「切り捨て」「切り上げ」「切り上げ（小数点第一位）※」「四捨五入」のいずれかを選択できます。
※**[e-Labe Print バージョン 1.6.2 以上で有効]**

・端数処理桁数
端数処理丸めを行う時の桁数を設定します。

・税率／割引率

レイアウトで設定中の税率、割引率を表示します。

レイアウト設定で「複数税率を指定」チェックがオンの場合は税率 1 以外に税率 2 も表示されます。

端数処理 / 計算処理	切り捨て	切り上げ	切り上げ（小数点第一位）	四捨五入
税込み	○	○	○	○
税込み（小数）	○	○		○
税抜き	○	○	○	○

価格の計算処理、端数処理についての詳細は「6.特別な操作>20.価格計算の設定方法」をご参照ください

3.バーコードオブジェクト

バーコードオブジェクトの設定を行う画面です。



・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法（ラジオボタン）

・固定

「データ」にセットされた値が反映、印字されます。

・発行時（データ）

e-Labe Print で発行時に入力（変更）可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に表示されます。

・参照・結合

デザイン画面の既存項目の内容を参照し、複数のデータ項目の結合をする機能です。

「参照（ユーザ定義）」機能を使うことで、参照先の値をそのままコピーするだけでなく、桁数取得等も可能です。

機能

・テーブル変換（チェックボックス）

該当項目をテーブル変換します。

「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に反映されます。

プロジェクト内に登録されているテーブルをリストボックスから選択します。

・データ桁数

「固定」、「参照」以外のデータの最大桁数を指定します。

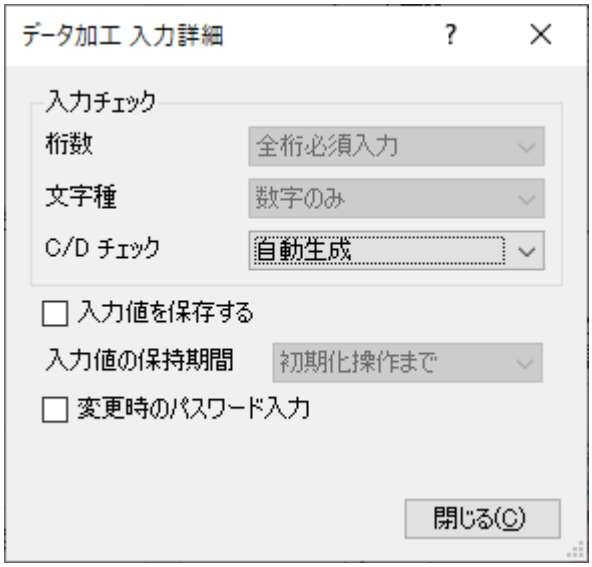
設定可能なデータ桁数は、発行時（データ）：1000 桁、発行時（テーブル）：1000 桁までです。

ここで設定する値は、入力する桁数です。

（START/STOP コード、C/D 自動付加の桁数は含みません）

・詳細設定（ボタン）・・・発行時（データ）　選択時

入力時のチェック設定を行います。



・桁数

桁数必須入力、入力必須（未入力禁止）のいずれかを設定できます。

・文字種

チェックなし、数字のみ、英字・記号のみ、英数字・記号のみのいずれかを設定できます。

・C/D チェック

なし、自動生成、入力データと照合のいずれかを設定できます。※C/D 設定ができないバーコード種もあります。

・入力値を保存する（チェックボックス）※入力方法が「発行時（データ）」の場合
[e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

・入力値の保持期間

「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します
「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します
「日付変更まで」：日付（システム日付）が変わるまで保持します（但し、発行中やバーコードの入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します）

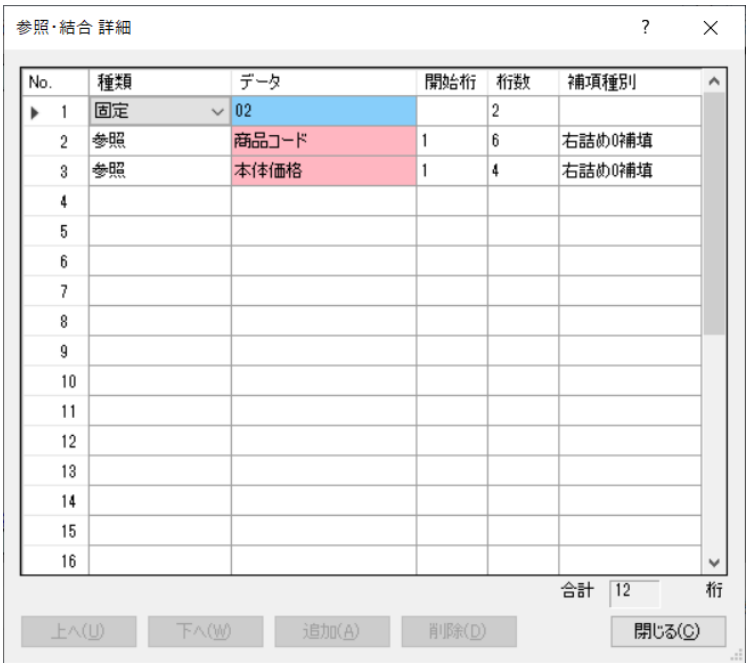
※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください
・フォーマットファイルが更新された場合

・変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

バーコードの変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

・詳細設定（ボタン）・・・参照・結合　選択時

データの参照・結合設定を行います。



・No

項目の順番です。

・種類

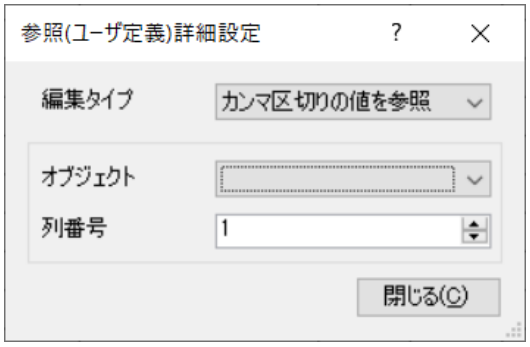
結合するデータの種類を選択します。

種類	編集タイプ	説明
固定	―	データに固定の値をセットします
バイナリ	―	データに制御コードをセットします　※QR コードのみ
参照	―	レイアウト内の他オブジェクトの値を参照します
参照（ユーザ定義）	カンマ区切りの値を参照	カンマ区切りのデータから列番号を指定して値を参照します
	桁数を参照	レイアウト内の他オブジェクトの桁数を参照します
	数字の空白、前 0 削除	半角数字の前後のスペース、前 0 を削除した値を参照します
	最大値を参照	比較対象のオブジェクトの最大値を参照します
	最小値を参照	比較対象のオブジェクトの最小値を参照します

・データ

セットするデータを選択及び入力します。
種類が「参照（ユーザ定義）」の場合、参照（ユーザ定義）詳細設定ダイアログが開きます。

参照（ユーザ定義）詳細設定（カンマ区切りの値を参照／桁数を参照／数字の空白、前０削除）



編集タイプ

「カンマ区切りの値を参照」「桁数を参照」「数字の空白、前 0 削除」から選択します。

オブジェクト

レイアウト中のオブジェクトを一覧から選択します。

列番号・・・カンマ区切りの値を参照　選択時

カンマ区切りのデータの項目番号を指定します。

参照（ユーザ定義）詳細設定（最大値を参照／最小値を参照）

利用手順は「6.特別な操作＞30.最大値／最小値を参照する方法」をご参照ください。



編集タイプ

「最大値を参照」「最小値を参照」から選択します。

比較データ

「数値」または「日時」を選択します。

日時書式

比較データで「日時」を選択時、比較する日時書式を入力します。

オブジェクト（最大 30 項目）

レイアウト中の「文字列」、「価格」、「バーコード」、「日時」、システム項目（呼出し No.／呼出しデータ名／端末 No.／発行枚数）を一覧から選択します。

・開始桁

データ参照の際に、参照元データの何桁目から参照するかを指定します。

・桁数

データ参照の際に、データの開始桁から何桁目までを参照するかを指定します。

・補填種別

補填方法を指定します。

補填種別	補填方法	例
補填しない	補填しません	入力桁数：5 桁、入力：120　⇒ 120
左詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの後ろに桁数分の”半角スペース”を補填します	入力桁数：5 桁、入力：120　⇒ 120△△（△は半角スペース）
右詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の”半角スペース”を補填します	入力桁数 5 桁、入力：120　⇒ △△120（△は半角スペース）
右詰め 0 補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の”0”を補填します	入力桁数 5 桁、入力 120　⇒ 00120

データ

・データ

項目に、データをセットします。入力方法で「固定」を選択した場合は、ここでセットされたデータがそのまま印字されます。「発行時（データ）」の場合は、e-Labe Print で入力項目の初期値として表示されます。

・データセット（チェックボックス）　※基本レイアウトのみ有効

基本レイアウトで、プリセットデータをセットする場合にチェックします。
チェックされた項目は、「プリセットデータ」登録画面で、登録項目として表示されます。

表示

・バーコード種

バーコードの種類を選択します。
※選択可能なバーコード種、注意点については「バーコード、2 次元コードの種類について」をご確認ください。

・高さ

バーコードの高さを指定します。

・細バー幅

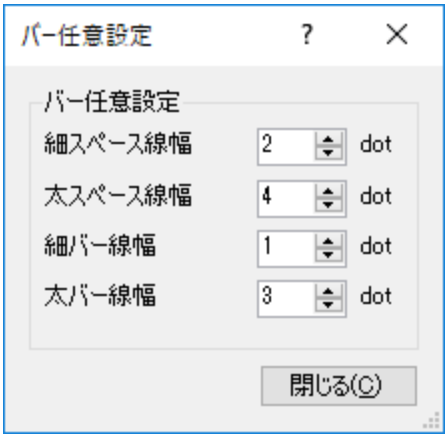
ナローバーの幅を指定します。ナローバー幅は 3 倍以上が推奨です。

・バー比率

バーコードの比率を設定します。
比率を設定できるバーコードは、CODE39、CODABAR、ITF の 3 種類です。

・任意比率（ボタン）・・・バー任意設定

バー比率が設定可能なバーコードで任意比率を選択した場合に、任意比率の構成を設定できます。



・細スペース線幅

バーコードを構成するナロースペースの幅を指定します。

・太スペース線幅

バーコードを構成するワイドスペースの幅を指定します。

・細バー線幅

バーコードを構成するナローバーの線幅を指定します。

・太バー線幅

バーコードを構成するワイドバーの線幅を指定します。

・解説文字付加（チェックボックス）

バーコードに解説文字を付加します。
バーコード種で解説文字付のバーコードを選択した場合は、チェックができません。

・C/D 自動付加（チェックボックス）

チェックデジットの自動付加を有効にします。

・スタートコード/ストップコード
START コード、STOP コードの設定を行います。
・印字しない（チェックボックス）
項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・バーコード表示詳細



・フォント名
解説文字で使用する文字フォントの種類を選択します。

・縦サイズ
解説文字の縦サイズを倍率またはポイントで設定します。

・横サイズ
解説文字の横サイズを倍率またはポイントで設定します。

・文字間隔
解説文字の文字間隔を設定します。

・行間隔
バーコードから解説文字までの距離を設定します。

縦位置の相対設定　[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]
用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト
相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。
＜基準とするオブジェクトに選択可能な条件＞
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔
「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

■バーコード、2 次元コードの種類について

当アプリケーションで設定できる、バーコード、2 次元コードの種類は以下の通りになります。
チェックデジット付加時の算出方法、付加できる START/STOP コードは以下の通りになります。
CODABAR（NW-7）、CODE39 の START/STOP コード付加は必須です。
CODABAR（NW-7）にチェックデジットを指定した場合は、入力可能な文字は数字のみとなります。
QR コードで入力が桁数に満たなかった場合は、左詰スペース補填されます。

名称	チェックデジット算出方法	START/STOP コード
CODABAR（NW-7）	7 チェック（7DR）	A,B,C,D,E,N,T a,b,c,d,e,n,t
CODE39	モジュラス 43	*
ITF	モジュラス 10/ウェイト 3	–
JAN13/EAN13	モジュラス 10/ウェイト 3	–
JAN13/EAN13 価格 C/D 付き	モジュラス 10/ウェイト 3	–
JAN8/EAN8	モジュラス 10/ウェイト 3	–
UPC-A	モジュラス 10/ウェイト 3	–
UPC-E	専用モジュラス 10	–
UPC アドオン	–	–
ＣＯＤＥ128 A コード	– （モジュラス 103） **※1**	–
ＣＯＤＥ128 B コード	– （モジュラス 103） **※1**	–
ＣＯＤＥ128 C コード	– （モジュラス 103） **※1**	–
GS1-128（UCC/EAN128）	– （モジュラス 103） **※1**	–
GS1 DataBar Omni-Directional	モジュラス 10/ウェイト 3 **※2**	–
GS1 DataBar Stacked Omni-Directional	モジュラス 10/ウェイト 3 **※2**	–
QR コード（モデル 2）	–	–

※1：チェックデジットはプリンタが自動付加するため、アプリケーションで付加する必要はありません
また、解説文字にチェックデジットは表示されません

※2：GS1 DataBar Omni-Directional、GS1 DataBar Stacked Omni-Directional のツール画面で設定できるチェックデジットは GTIN（商品識別コード）のチェックデジットになります。シンボル構成の確認のためのチェックデジットはプリンタが自動付加します。

■セットされるデータである GTIN（商品識別コード）のチェックデジット（モジュラス 10/ウェイト 3）
■バーコードシンボルの構成が正しいかを確認するためのチェックデジット（モジュラス 79）
ツールで作成できる UPC-A、UPC-E、標準カートン ID 専用 GS1-128 については、以下の仕様になります。

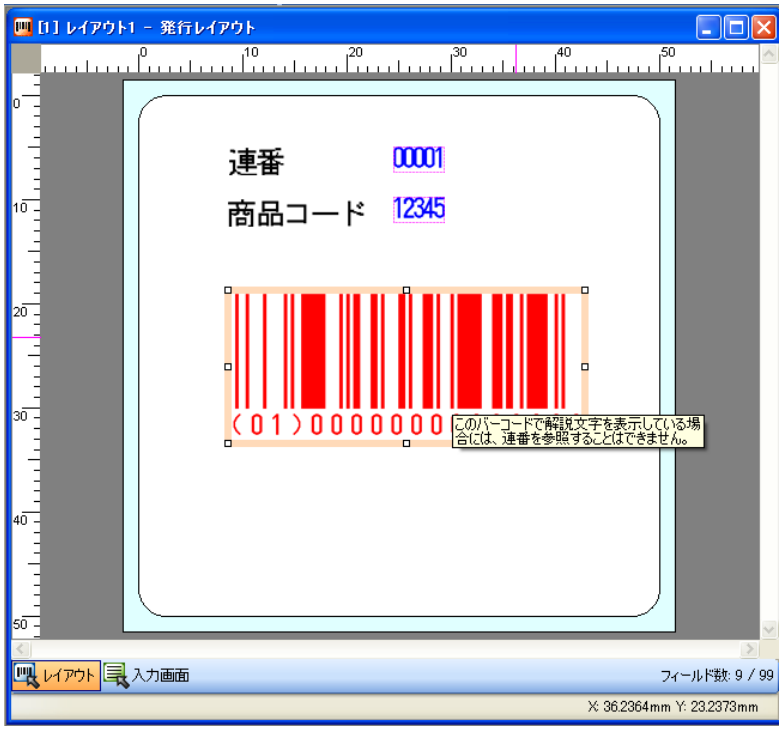
該当するバーコードを利用する際には、ご留意ください。

バーコード種	入力桁数	C/D 自動付加	データ加工・ 入力詳細設定	バーコードデータと解説文字
UPC-A	11 桁	常に ON	設定不可	バーコード：0 補填+入力 11 桁+C/D 解説文字：入力 11 桁+C/D
UPC-E	6 桁	常に ON	設定不可	バーコード：入力 6 桁+C/D 解説文字：0 補填+入力 6 桁+C/D
GS1-128	17 桁	常に ON	設定不可	バーコード 00 補填+入力 17 桁+C/D 解説文字（00）+入力 17 桁+C/D

■GS1 DataBar での連番オブジェクト参照の制限について

連番オブジェクトは基本的に、バーコードオブジェクトで参照することが可能ですが、GS1 DataBar Omni-Directional 及び GS1 DataBar Stacked Omni-Directional の 2 種では、「解説文字付加」オプション使用時は連番オブジェクトを参照することができない仕様です。

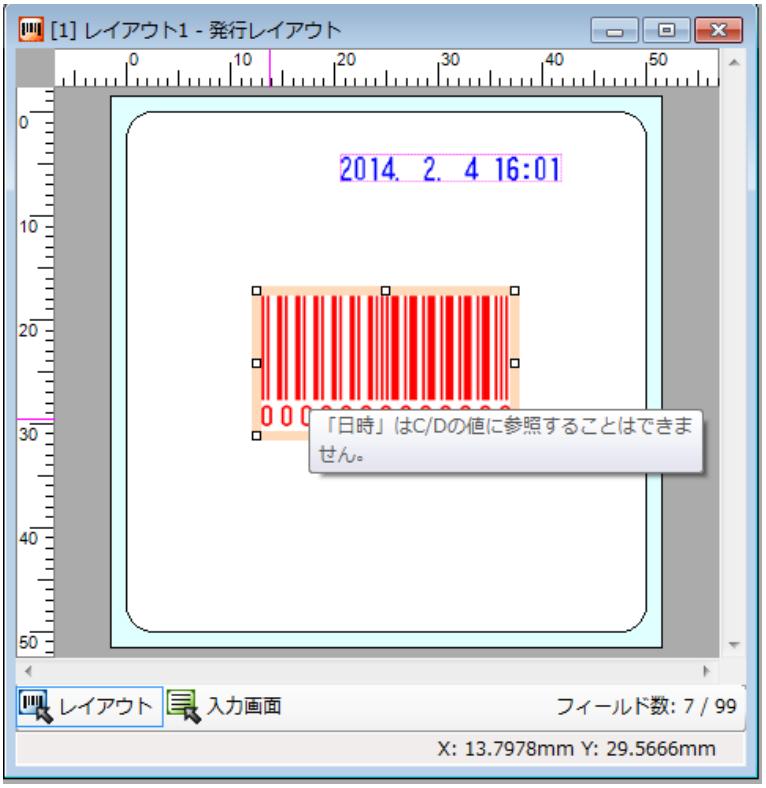
«エラー表示画面»



■JAN13、JAN8 のチェックデジット部への参照制限について

連番オブジェクト、及び日時オブジェクトを JAN13、JAN８のチェックデジット部に参照させることはできない仕様です。

《エラー表示画面》



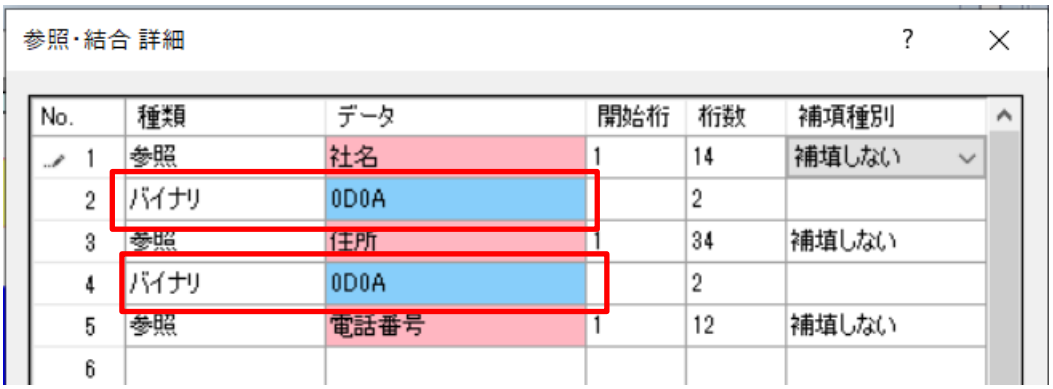
- **ＱＲコードの制御コードセット方法について**

  選択したバーコード種が QR コードの場合のみ、データに制御コードをセットすることが可能です。
  例えば、1 行ごとに改行したデータをセットしたいなどの場合、データとデータの間に改行コードをセットできます。

  【こんな値をセットしたい場合は・・・】

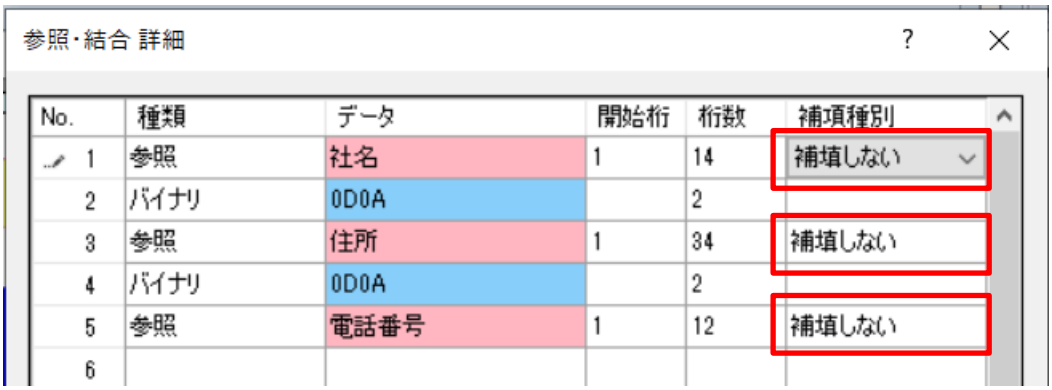


株式会社サトー[改行]
東京都○○区○○番[改行]
0120-XXXXXX



- **可変長バーコードについて**

  桁数に指定が無いバーコードの場合、参照・結合画面の「補填種別：補填しない」を選択することで、セットする値によって長さが変わる可変長のバーコードを発行することが可能です。



4.日時オブジェクト

日時オブジェクトの各種設定を行う画面です。



・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法（ラジオボタン）

・加算なし

発行時にe-Labe Printの基準日付をそのまま印字します。

・加算あり

発行時に e-Labe Print の基準日付に設定した値を加算して発行します。
消費期限、賞味期限の印字などに利用します。

・加算値

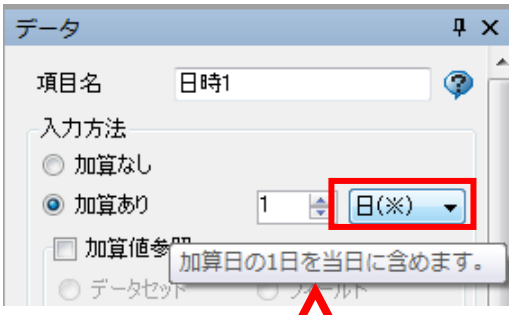
日時オブジェクトの日付に加算する値を指定します。
設定可能最大値は年単位の場合が9､月単位の場合は99､日および時単位では 999 となります。

・加算単位

年・月・日・時を選択します。

※「加算日 1 日を当日に含める」設定について

通常加算単位「日」を選択し、加算値「1」とセットすると翌日の日時が表示されますが、加算値「1」とセットした場合、当日の日時を表示することもオプション設定で可能です。
その場合、加算単位の「日」は以下の表示になります。

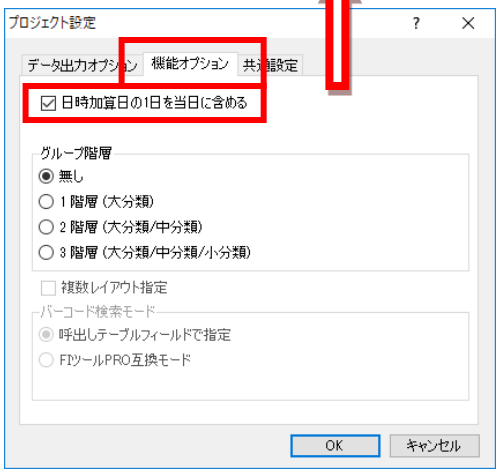


・加算値参照（チェックボックス）

プリセットデータに設定した値や、他フィールドに入力された情報を参照した値を加算して発行します。

・データセット（ラジオボタン）　※基本レイアウトのみ

基本レイアウトで、プリセットデータをセットする場合にチェックします。チェックされた項目は、「プリセットデータ」登録画面で、登録項目として表示されます。



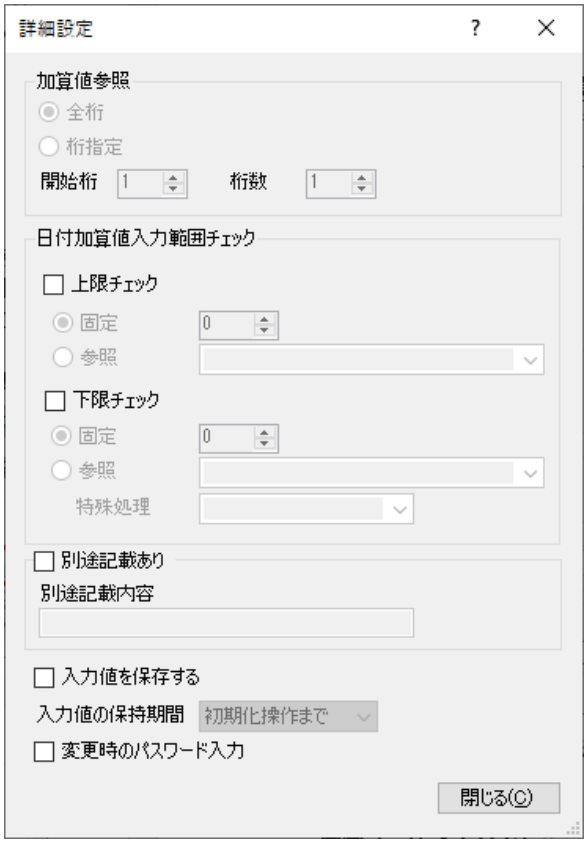
・フィールド（ラジオボタン）

他のフィールドに入力された値を加算値として参照する場合にチェックします。参照対象とするフィールド項目名は、直下のリストから選択します。

・発行時変更あり（チェックボックス）
発行時に加算値の変更が必要な場合に設定します。

・データ桁数
変更はできません。
表示の日付書式、日付・時間区切り文字、時間書式で設定した文字列の桁数から自動で算出されます。
また、詳細設定で設定できる別途記載の記載内容の桁数が上記の書式の桁数よりも多い場合は、そちらの桁数が反映されます。

詳細設定（ボタン）・・・加算値参照チェック　フィールド選択時
加算値参照対象フィールドの参照桁数、加算値入力範囲チェック、別途記載の設定の有無、及び別途記載内容を設定します。



・全桁（ラジオボタン）
加算値参照対象フィールドの値全桁を指定できます。

・桁指定（ラジオボタン）
加算値参照対象フィールドの任意の桁を指定できます。

・上限チェック
加算値の上限チェックが可能です。e-Labe Print で加算値を入力時範囲外の値を入力するとチェックが掛かります。

・固定（ラジオボタン）
入力欄に入力した固定値で加算値のチェックを行います。

・参照（ラジオボタン）
選択したオブジェクトの値で加算値チェックを行います。

・下限チェック
加算値の下限チェックが可能です。e-Labe Print で加算値を入力時範囲外の値を入力するとチェックが掛かります。

・固定（ラジオボタン）
入力欄に入力した固定値で加算値のチェックを行います。

・参照（ラジオボタン）
選択したオブジェクトの値で加算値チェックを行います。

・特殊処理
参照する下限チェックオブジェクトの値に対し、特殊な計算処理が行えます。加算値が「日」加算の場合のみ有効です
なし：計算処理を行いません
３分の１ルール：以下のルールで計算します。

日時加算日の１日を当日に含める ON　：参照したオブジェクトの値÷３
日時加算日の１日を当日に含める OFF：（参照したオブジェクトの値＋１）÷３－１
※割り切れない場合は切り上げ

例）参照したオブジェクトの値が 28 日の場合
日時加算日の１日を当日に含める ON　：28÷３(切り上げ)=10
日時加算日の１日を当日に含める OFF：((28＋1)÷3（切り上げ))-1=9

・別途記載あり
発行時に「別途記載」表示を選択できます。

・別途記載内容
別途記載を行う場合の記載内容を設定します。（半角 16 文字、全角 8 文字まで設定が可）

・入力値を保存する（チェックボックス）※入力方法が「発行時変更あり」が有効な場合
[e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]
発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

・入力値の保持期間
「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します
「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します
「日付変更まで」：日付（システム日付）が変わるまで保持します（但し、発行中や日時の入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します）

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください
・フォーマットファイルが更新された場合

・変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]
日時の変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

表示
・フォント名
フォントの種類を選択します。
名称が「プリンタ_ｘｘｘｘ」となっているものは、サトーのプリンタフォントとなります。
使用できる文字がフォント種によって異なりますのでご注意ください。

・縦サイズ
フォントの縦サイズを倍率またはポイントで指定します。

・横サイズ
フォントの横サイズを倍率またはポイントで指定します。

・文字間隔
文字間隔をポイントで指定します。

・日付書式
日付の書式を選択します。
リストからユーザ定義を選択した場合は、「ユーザ定義」ボタンが有効になります。

・日付・時間区切り文字
日付表示、時間表示をくぎるための文字を設定します。
半角スペースが初期値に設定されています。

・時間表示
時間の書式を選択します。
リストからユーザ定義を選択した場合は、「ユーザ定義」ボタンが有効になります。
・左寄せ（トグルボタン）
指定された桁数に満たない場合に文字を左寄せします。

・センタリング（トグルボタン）
指定された桁数に満たない場合に文字を中央寄せします。

・右寄せ（トグルボタン）
指定された桁数に満たない場合に文字を右寄せします。

・均等（トグルボタン）
印字指定領域内に文字の横幅をあわせます。

・白黒反転ボタン（トグルボタン）
白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）
項目を印字しない場合にチェックします。
詳細設定（ボタン）・・・書体・書式設定



文字調整
注意：一文字ごとではなく項目単位での指定になります。
また、文字種によって操作できる内容が異なります。
・ボールド（トグルボタン）
文字を太文字にします。

・イタリック（トグルボタン）・・・設定不可

・下線（トグルボタン）・・・設定不可

・プロポーショナル（トグルボタン）・・・設定不可

・上寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・上下中央寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・下寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

文字領域補正

センタリングや右寄せ時、オブジェクトの横幅に文字が収まらない場合の領域補正に使用します。

・文字領域を補正する（チェックボックス）

オブジェクトの横幅の領域を補正するときにチェックします。

・補正値

オブジェクトの横幅を拡張します。

縦位置の相対設定　[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

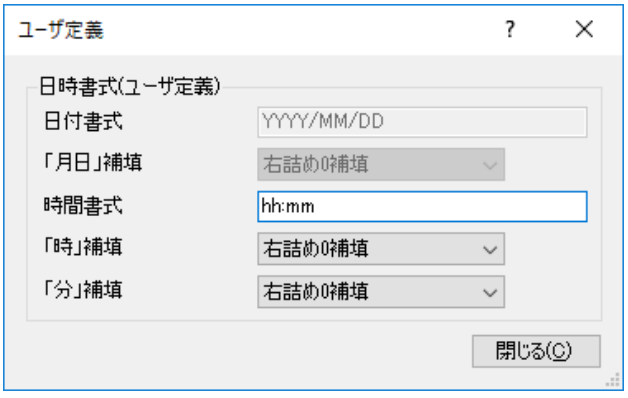
「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

Key-Bo 互換文字編集（チェックボックス）

右寄せ時の印字を Key-Bo と同じ印字結果にしたい場合にチェックします。（通常は使用しません。右寄せをスペース補填で処理します。）

ユーザ定義（ボタン）

日付書式、時間書式のユーザ定義を行います。
日付書式、時間書式で「ユーザ定義」を選択した場合のみ設定が可能になります。
設定可能な桁数は、日付、時、分、区切り文字あわせて 32 文字（全角 16 文字）以下です。



・日付書式

日付の書式を設定します。
日付書式は、以下の半角アルファベットと“/”や“年”などの単位と組み合わせて指定することが可能です。
※ただし、カンマは設定できません。

YY: 年(2 桁)
WW: 和暦(西暦+暦変換値の下 2 桁)
gggg: 元号(4 桁、ユーザ設定から取得)
MM: 月
MMM: 月(英字表記)
DD: 日

・「月日」補填
1 桁時の月、日の補填方法を選択します。
年は YY の場合は 0 補填、WW の場合は補填なしのスペースで表示されます。
任意の指定はできません。

・時間書式
時間書式は、以下の半角アルファベットと":"や"時"などの単位と組み合わせて指定することが可能です。
※ただし、カンマは設定できません。

hh: 時(24 時間制)
HH: 時(12 時間制)
mm: 分
TT: AM/PM
tt: am/pm
TTTT: 午前/午後

・「時」補填
1 桁時の時の補填方法を選択します。

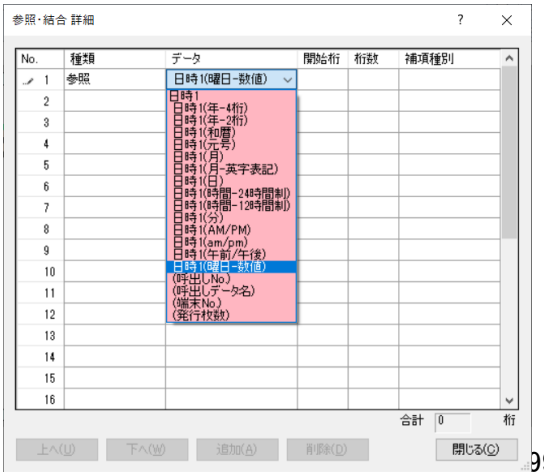
・「分」補填
1 桁時の分の補填方法を選択します。

設定
・リアルタイム発行（チェックボックス）
1 枚発行ごとに e-Labe Print の基準日付を参照し印字を行います。
ハクリ発行時などに使用します。

・発行時表示する（チェックボックス）
e-Labe Print の発行画面に項目を表示します。
「発行時変更あり」、「別途記載あり」の場合は自動的にチェックが入ります。

・参照を許可する（チェックボックス）
別の項目からの参照を許可します。
参照・結合で参照を選択した場合に、書式を選択しながら参照が可能になります。
バーコードなどに日時を表示させる場合は、この機能を利用します。

※参照を許可した場合のみ、元の日時オブジェクトの**「曜日」情報**を数字で取得可能です。
0：日曜、 1 ：月曜、 2 ：火曜、 3 ：水曜、 4 ：木曜、 5 ：金曜、 6 ：土曜



■加算値を他オブジェクトから参照する

加算値が「加算あり」、「別途記載なし」、「参照を許可する」の場合、他オブジェクトから加算値を参照することが可能です。

【参照できる他オブジェクト】

- 文字列オブジェクト
- バーコードオブジェクト
- 日時オブジェクト（自分自身は不可）
- 切替グラフィック　※加算値をグラフィック登録番号として参照可能

■リアルタイム発行が有効な日時オブジェクトの個数について

リアルタイム発行を有効にした日時オブジェクトは、1 レイアウトに**8 個**まで使える仕様です。日時オブジェクト自体だけでなく、値を参照した文字列なども 1 個としてカウントします。

《カウント条件》

・リアルタイム発行が有効な日時オブジェクト

・上記日時オブジェクトを参照した文字列やバーコード

・上記日時オブジェクトを参照したバーコードの解説文字

（解説文字付きバーコードはバーコード部分と、解説文字部分で 2 個としてカウントされます）

・「印字しない」設定の場合、上記に該当してもカウントされません

《９個以上のエラー画面》



5.連番オブジェクト

連番オブジェクトの各種設定を行う画面です。
連番は一つのレイアウトに 8 項目まで設定が可能です。



・項目名
レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法（ラジオボタン）

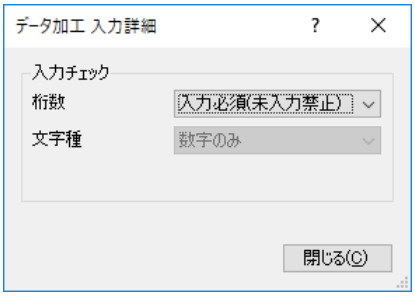
・固定
「データ」にセットされた値が反映、連番の初期値となります。

・発行時（データ）
e-Labe Print で発行時に入力（変更）可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は連番開始値として、e-Labe Print に表示されます。

・参照・結合
別項目の値を連番の開始値として参照します。
「参照（ユーザ定義）」機能を使うことで、参照先の値をそのままコピーするだけでなく、桁数取得等も可能です。

・詳細設定（ボタン）・・・発行時（データ）　選択時

入力時の入力データのチェック方法を設定します。

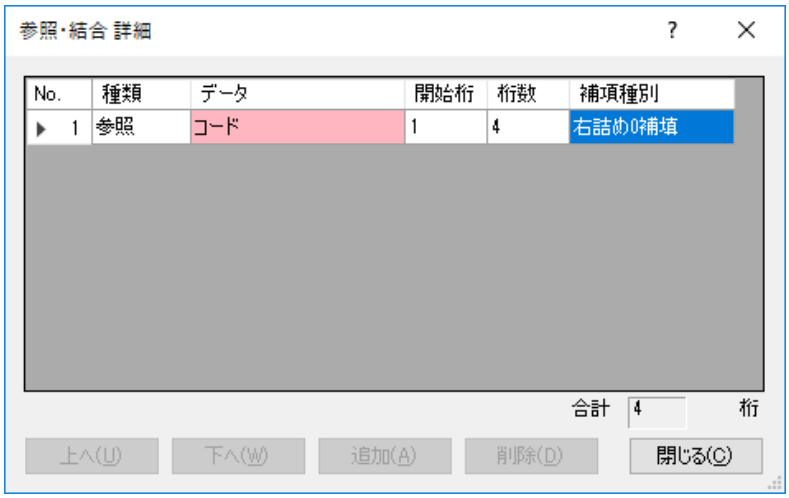


・桁数
全桁必須入力、入力必須（未入力禁止）、0 入力禁止のいずれかを設定できます。

・文字種
「数字のみ」※固定

・詳細設定（ボタン）・・・参照・結合　選択時

データの参照・結合設定の内容を設定します。



・No

項目の順番です。

・種類

結合するデータの種類を選択します。

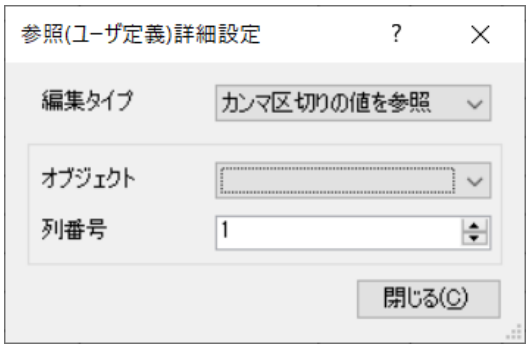
種類	編集タイプ	説明
固定	—	データに固定の値をセットします
外字	—	あらかじめ登録した外字を参照します
参照	—	レイアウト内の他オブジェクトの値を参照します
参照（ユーザ定義）	カンマ区切りの値を参照	カンマ区切りのデータから列番号を指定して値を参照します
	桁数を参照	レイアウト内の他オブジェクトの桁数を参照します
	数字の空白、前 0 削除	半角数字の前後のスペース、前 0 を削除した値を参照します
	最大値を参照	比較対象のオブジェクトの最大値を参照します
	最小値を参照	比較対象のオブジェクトの最小値を参照します

・データ

セットするデータを選択します。

固定または入力詳細画面で「数字のみ」と設定されている発行時（データ）の文字列オブジェクトのみ参照可能です。

参照（ユーザ定義）詳細設定（カンマ区切りの値を参照／桁数を参照／数字の空白、前 0 削除）



編集タイプ

「カンマ区切りの値を参照」「桁数を参照」「数字の空白、前 0 削除」から選択します。

オブジェクト

レイアウト中のオブジェクトを一覧から選択します。

列番号・・・カンマ区切りの値を参照　選択時

カンマ区切りのデータの項目番号を指定します。

参照（ユーザ定義）詳細設定（最大値を参照／最小値を参照）

利用手順は「6.特別な操作＞30.最大値／最小値を参照する方法」をご参照ください。



編集タイプ

「最大値を参照」「最小値を参照」から選択します。

比較データ

「数値」または「日時」を選択します。

日時書式

比較データで「日時」を選択時、比較する日時書式を入力します。

オブジェクト（最大 30 項目）

レイアウト中の「文字列」を一覧から選択します。

・開始桁

データ参照の際に、参照元データの何桁目から参照するかを指定します。

・桁数

データ参照の際に、データの開始桁から何桁目までを参照するかを指定します。

注意：参照の対象となるデータは、常に左詰めスペース補填状態からの参照になります。

・補填種別

参照したデータが桁数に満たなかった場合の、桁の補填方法を指定します。

「右詰め 0 補填」※固定

機能

・加減値

-9999～-1、1～9999 から値を設定します。

・連番値を保存する（チェックボックス）※入力方法が「固定」「発行時（データ）」の場合

連番値を保存する場合にオンにします。

・連番値の保持期間

「連番値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した連番をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：連番オブジェクトの入力画面で初期化操作を行うまで保持します

「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します

「日付変更まで」：日付（システム日付）が変わるまで保持します（但し、発行中や連番値の入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します）

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は連番値がクリアされますのでご注意ください

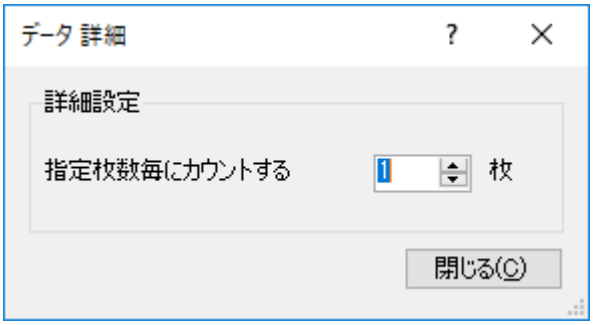
・フォーマットファイルが更新された場合

・変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

連番の変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

・詳細設定（ボタン）

・指定枚数毎にカウントする
何枚毎にカウントするかを指定します。1～999 枚の間で設定可能です。初期値は 1 です。



・データ桁数
「固定」、「発行時（データ）」のデータの最大桁数を指定します。設定可能なデータ桁数は、最大 8 桁です。

・連番範囲
指定したデータ桁数内の 0 以上の値を指定可能です。

データ
・データ
項目に対するデータをセットします。
入力方法で「固定」を選択した場合は、ここでセットされたデータが連番開始値となります。「発行時（データ）」の場合は、画面上に連番の開始値として画面に表示されます。

・データセット（チェックボックス）　※基本レイアウトのみ
基本レイアウトで、プリセットデータをセットする場合にチェックします。
チェックされた項目は、「プリセットデータ」登録画面で、登録項目として表示されます。

表示
・フォント名
フォントの種類を選択します。
名称が「プリンタ_ｘｘｘｘ」となっているものは、サトーのプリンタフォントとなります。
使用できる文字がフォント種によって異なりますのでご注意ください。

・縦サイズ
フォントの縦サイズを倍率またはポイントで指定します。

・横サイズ
フォントの横サイズを倍率またはポイントで指定します。

・文字間隔
文字間隔をポイントで指定します。

・左寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・センタリング（トグルボタン）・・・設定不可

・右寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・均等（トグルボタン）・・・設定不可
※連番オブジェクトは、常に右寄せ 0 補填設定になります。

・白黒反転ボタン（トグルボタン）・・・無効
白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）
項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・書体・書式設定



文字調整
注意：一文字ごとではなく項目単位での指定になります。
また、文字種によって操作できる内容が異なります。
・ボールド（トグルボタン）・・・設定不可

・イタリック（トグルボタン）・・・設定不可

・下線（トグルボタン）・・・設定不可

・プロポーショナル（トグルボタン）･･･設定不可

・上寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・上下中央寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・下寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

縦位置の相対設定　[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]
用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト
相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

■他オブジェクトからの連番オブジェクト参照について

連番オブジェクトの値は、文字列オブジェクトおよびバーコードオブジェクトで参照可能です。

ただし、以下の参照はできません。

・連番を複数参照する

・連番を参照している項目を参照する（2 次参照）

・連番を含む結合項目数が 4 個以上になる

■連番オブジェクトの個数について

連番オブジェクトは、1 レイアウトに**8 個**まで使える仕様です。連番オブジェクト自体だけでなく、値を参照した文字列なども 1 個としてカウントします。

《カウント条件》

・連番オブジェクト

・上記連番オブジェクトを参照した文字列やバーコード

・上記連番オブジェクトを参照したバーコードの解説文字

（解説文字付きバーコードはバーコード部分と、解説文字部分で 2 個としてカウントされます）

・「印字しない」設定の場合、上記に該当してもカウントされません

《9 個以上のエラー画面》



6.固定グラフィックオブジェクト

固定グラフィックオブジェクトの各種設定を行う画面です。



・項目名
レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

グラフィック指定方法（ラジオボタン）



・埋め込みグラフィック
「選択」ボタンからレイアウトに埋め込むファイルを指定して、デザイン画面に貼り付けます。

選択したグラフィックがカラーの場合はディザリング方法を指定の上取りこみます。

埋め込まれたグラフィックはツールに取り込まれますので、元のファイルを削除しても、グラフィックは消えません。

・呼出しグラフィック（固定）
プロジェクトに取り込んだグラフィックデータをリストから選んで貼り付けます。

・呼出しグラフィック（データセット）
プロジェクトに取り込んだグラフィックデータの中から、プリセットデータで指定された番号のグラフィックデータを貼り付けます。
リストで選択されたグラフィックは、初期データとなります。
グラフィックは発行時(データ)に設定することは出来ません。

サイズ（ラジオボタン）

・領域指定
グラフィックデータの領域を、高さ、幅で設定された値（mm）で指定します。

・倍率指定
グラフィックデータのサイズの高さ、幅を%で指定します。元サイズを 100%とします。
グラフィックのサイズ変更は、デザイン画面上でオブジェクトのドラッグでも可能です。

・縦横比を固定する（チェックボックス）
グラフィックデータの縦横比を変えずに拡大／縮小します。

表示

・左寄せ（トグルボタン）
指定された領域に画像のサイズが満たない場合に左寄せします。

・センタリング（トグルボタン）　※横幅に対するセンタリング
指定された領域に画像のサイズが満たない場合に中央寄せします。

・右寄せ（トグルボタン）
指定された領域に画像のサイズが満たない場合に右寄せします。

・上寄せ（トグルボタン）
指定された領域に画像のサイズが満たない場合に上寄せします。

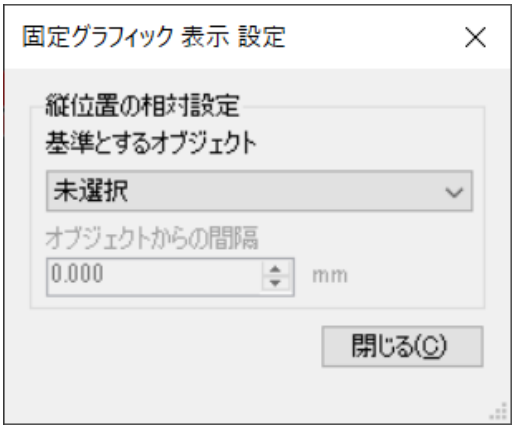
・センタリング（トグルボタン）　※高さに対するセンタリング
指定された領域に画像のサイズが満たない場合に中央寄せします。

・下寄せ（トグルボタン）
指定された領域に画像のサイズが満たない場合に下寄せします。

・白黒反転ボタン（トグルボタン）
白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）
項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・固定グラフィック表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト
相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔
「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

領域指定で縦横比固定設定の場合の画像データの表示の仕方

埋め込んだグラフィックデータの元サイズの縦横比を維持しながら、指定された領域内で表示できる最大サイズに拡大／縮小して表示します。

【例】

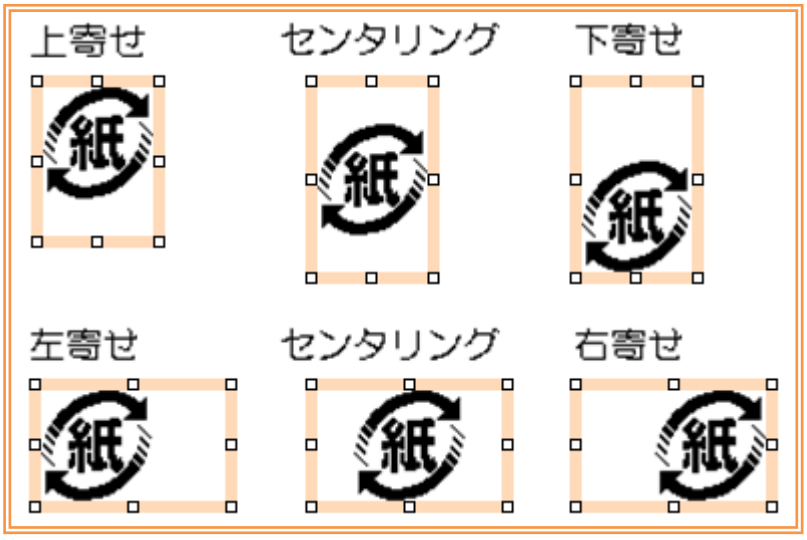
元グラフィック
（縦 6mm 横 6mm）



縦のみ 10mm に拡大 （縦 10mm 横 6mm）	横のみ 10mm に拡大 （縦 6mm 横 10mm）	縦横 10mm に拡大 （縦 10mm 横 10mm）
		

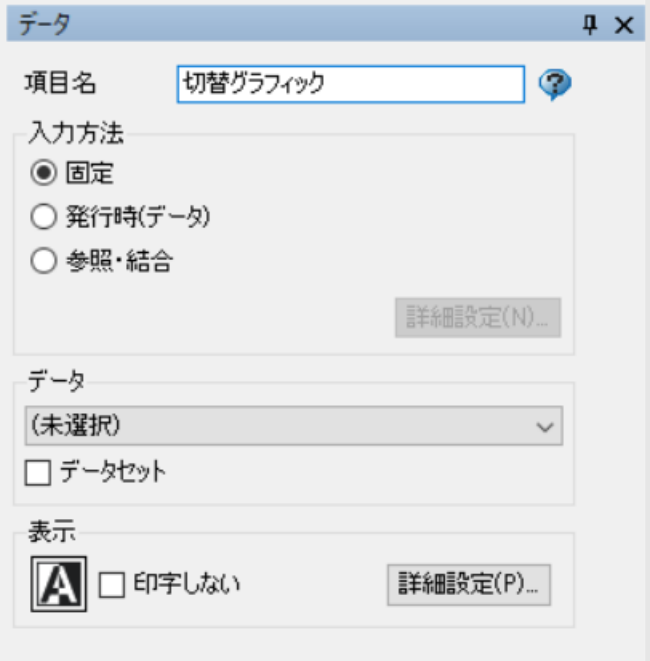
グラフィック領域の縦横比率と取り込んだ画像データの縦横比率が異なる場合、垂直方向または水平方向に余白が発生します。本余白は「表示」中のトグルボタンによって調整可能です。

《余白が発生した際の表示の調整例》



7.切替グラフィックオブジェクト

切替グラフィックオブジェクトの各種設定を行う画面です。



・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法（ラジオボタン）

・固定

「データ」にセットされた値が反映、印字されます。

・発行時（データ）

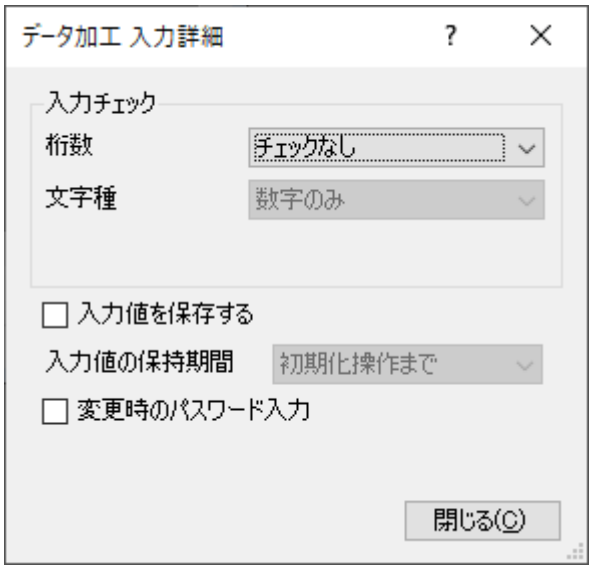
グラフィックテーブルに登録したグラフィックについて、e-Labe Print で発行時に入力（変更）可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は初期値として e-Labe Print 画面上に表示されます。

・参照・結合

デザイン画面の既存項目の内容を参照し、複数のデータ項目の結合をする機能です。
「参照（ユーザ定義）」機能を使うことで、参照先の値をそのままコピーするだけでなく、桁数取得等も可能です。

詳細設定（ボタン）・・・発行時（データ）　選択時

入力時の入力データのチェック方法を設定します。



・桁数

チェックなし、入力必須(未入力禁止)のいずれかを設定できます。

・文字種

「数字のみ」固定です。

・入力値を保存する（チェックボックス）※入力方法が「発行時変更あり」が有効な場合
[e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]
発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

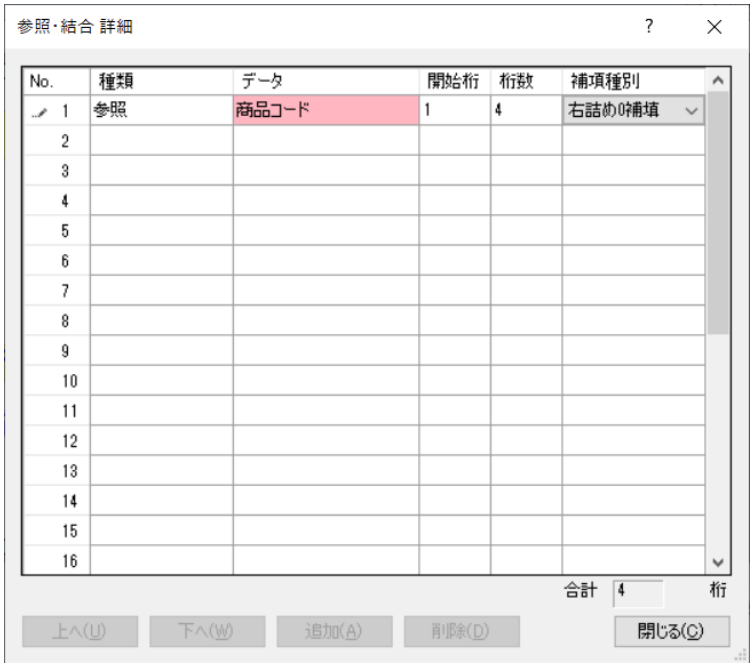
・入力値の保持期間
「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します
「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します
「日付変更まで」：日付（システム日付）が変わるまで保持します（但し、発行中やグラフィックの入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します）

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください
・フォーマットファイルが更新された場合

・変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]
グラフィックの変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

詳細設定（ボタン）･･･参照・結合　選択時
データの参照・結合設定の内容を設定します。



・No
項目の順番です。

・種類
結合するデータの種類を選択します。

種類	編集タイプ	説明
固定	—	データに固定の値をセットします
参照	—	レイアウト内の他オブジェクトの値を参照します

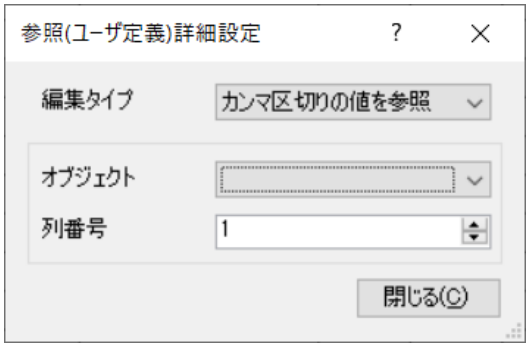
参照 （ユーザ定義）	カンマ区切りの値を参照	カンマ区切りのデータから列番号を指定して値を参照します
	桁数を参照	レイアウト内の他オブジェクトの桁数を参照します
	数字の空白、前 0 削除	半角数字の前後のスペース、前 0 を削除した値を参照します
	最大値を参照	比較対象のオブジェクトの最大値を参照します
	最小値を参照	比較対象のオブジェクトの最小値を参照します

・データ

セットするデータを選択及び入力します。

種類が「参照（ユーザ定義）」の場合、参照（ユーザ定義）詳細設定ダイアログが開きます。

参照（ユーザ定義）詳細設定（カンマ区切りの値を参照／桁数を参照／数字の空白、前 0 削除）



編集タイプ

「カンマ区切りの値を参照」「桁数を参照」「数字の空白、前 0 削除」から選択します。

オブジェクト

レイアウト中のオブジェクトを一覧から選択します。

列番号・・・カンマ区切りの値を参照　選択時

カンマ区切りのデータの項目番号を指定します。

参照（ユーザ定義）詳細設定（最大値を参照／最小値を参照）

利用手順は「6.特別な操作> 30.最大値／最小値を参照する方法」をご参照ください。



編集タイプ

「最大値を参照」「最小値を参照」から選択します。

比較データ

「数値」または「日時」を選択します。

日時書式

比較データで「日時」を選択時、比較する日時書式を入力します。

オブジェクト（最大 30 項目）

レイアウト中の「文字列」、「価格」、「バーコード」、「日時」、システム項目（呼出し No.／呼出しデータ名／端末 No.／発行枚数）を一覧から選択します。

・開始桁

データ参照の際に、参照元データの何桁目から参照するかを指定します。

・桁数

データ参照の際に、データの開始桁から何桁目までを参照するかを指定します。

注意：参照の対象となるデータは、常に左詰めスペース補填状態からの参照になります。

・補填種別

補填方法を指定します。

補填種別	補填方法	例
左詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの後ろに桁数分の”半角スペース”を補填します。	入力桁数：5 桁、入力：120　⇒ 120△△（△は半角スペース）
右詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の”半角スペース”を補填します。	入力桁数 5 桁、入力：120　⇒ △△120（△は半角スペース）
右詰め 0 補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の”0”を補填します。	入力桁数 5 桁、入力 120　⇒ 00120

データ

・データ選択リストボックス

グラフィックテーブルのデータを選択します。「（未選択）」の場合は、レイアウト上の切替グラフィックが SATO マークになります（印字はされません）。

・データセット（チェックボックス）　※基本レイアウトのみ有効

基本レイアウトで、グラフィックテーブルの値をプリセットデータにセットする場合にチェックします。
チェックを入れると、「プリセットデータ」登録画面に登録項目として表示されます。

表示

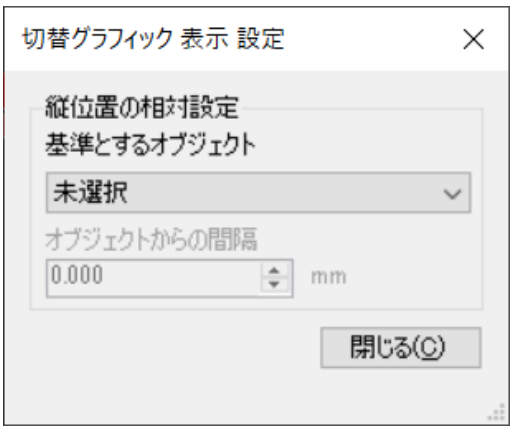
・白黒反転ボタン（トグルボタン）

白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・切替グラフィック表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

8.罫線オブジェクト

罫線オブジェクトの設定を行う画面です。



・項目名
レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

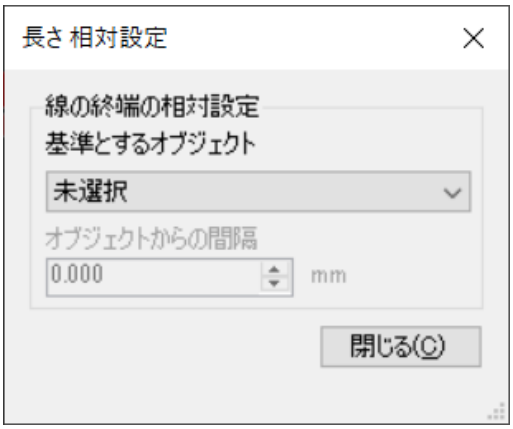
罫線
・線の長さ
罫線の長さを mm で指定します。

・線の太さ
罫線の太さを mm で指定します。

・方向
罫線の縦・横方向を指定します。

長さの相対設定（ボタン）・・・縦方向指定時
[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。



・基準とするオブジェクト
相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

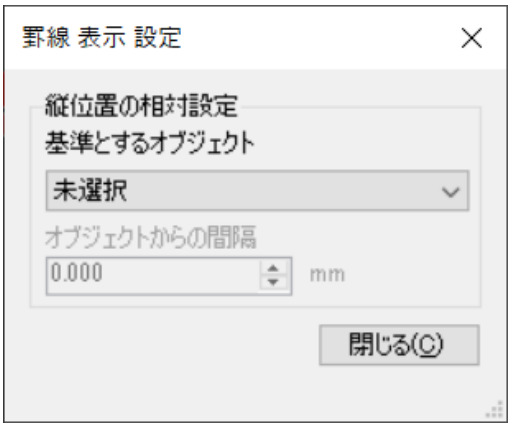
<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔
「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

表示
白黒反転ボタン（トグルボタン）
白黒反転印字をします。

印字しない（チェックボックス）
項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・罫線表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

＜基準とするオブジェクトに選択可能な条件＞
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

9.枠線オブジェクト

罫線オブジェクトの設定を行う画面です。



・項目名
レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

サイズ

・高さ
枠の高さを mm で指定します。

・幅
枠の幅を mm で指定します。

枠線

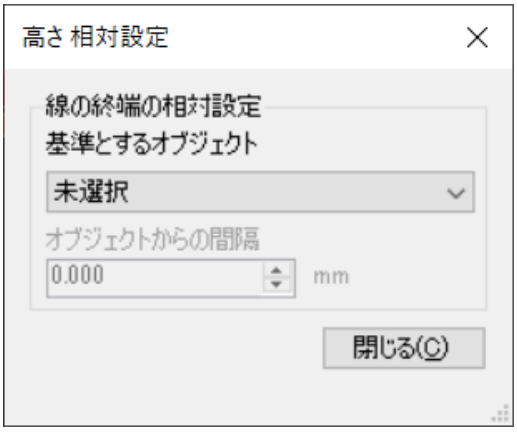
・枠線の太さ
枠線の太さを mm で指定します。

・カド丸半径
枠線のカドの丸みの半径を指定します。

高さの相対設定（ボタン）

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。



・基準とするオブジェクト
相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

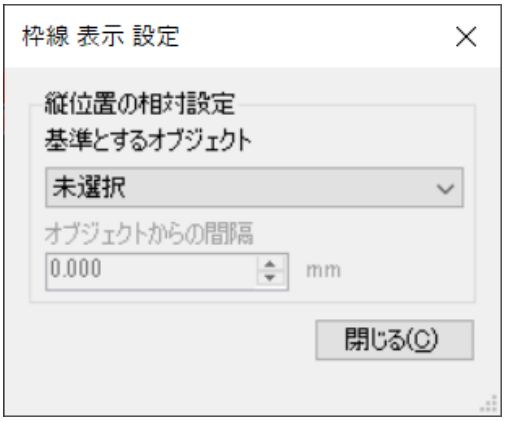
・オブジェクトからの間隔
「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

表示

・白黒反転ボタン（トグルボタン）
白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）
項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・枠線表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト
相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔
「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

10.表オブジェクト

表オブジェクトの設定を行う画面です。



・項目名
レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

サイズ

・高さ
表の高さを mm で指定します。

・幅
表の幅を mm で指定します。

表

・行数
表内の行数を指定します。

・列数
表内の列数を指定します。

・横線
上辺からの位置を指定する横線を指定します。

・縦線
左辺からの位置を指定する縦線を指定します。

・縦位置
横線で指定した線の上辺からの位置を指定します。

・横位置
縦線で指定した線の左辺からの位置を指定します。

・横線の太さ
表の横線の太さを指定します。

・縦線の太さ
表の縦線の太さを指定します。

・枠線の太さ
表の枠線の太さを指定します。

・カド丸半径
表枠のカドの丸みの半径を指定します。

表示

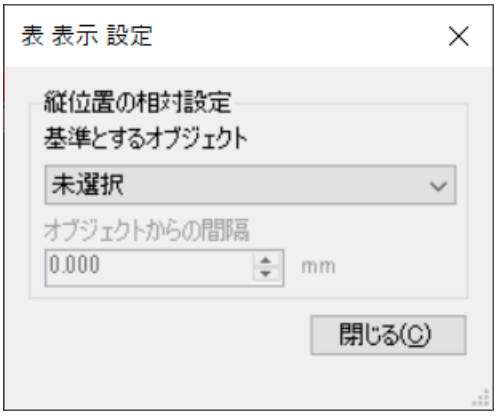
白黒反転ボタン（トグルボタン）

白黒反転印字をします。

印字しない（チェックボックス）

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・表　表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>
・横書きの文字列
・高さ自動調整が有効
・回転していない（0 度）
・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

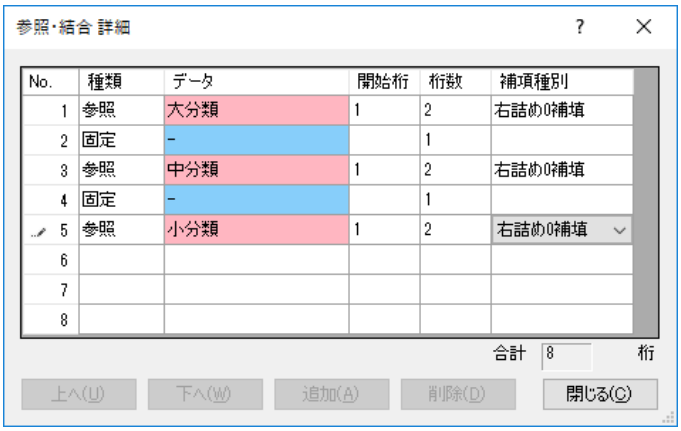
「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。
「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

■参照・結合について

参照結合では、以下の様な設定が可能です。

複数オブジェクトの結合

既存の複数のオブジェクトを組み合わせて一つのオブジェクトとして表示することができます。



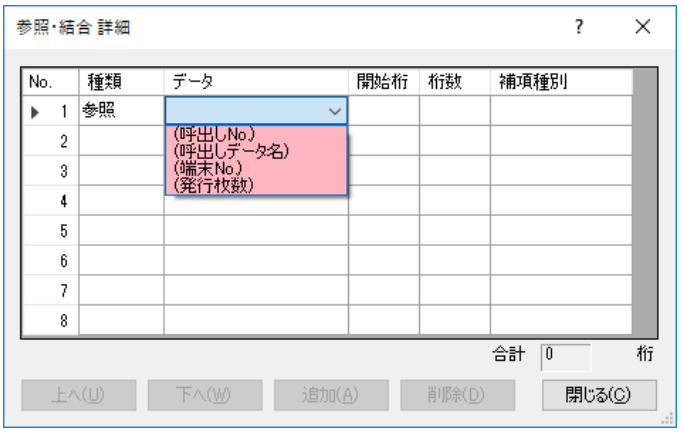
参照と固定の組み合わせで
01-512-001　などの表示ができます。
また、種類を“外字”に設定することで、外字も組み合わせることができます。

テーブルの入力値を参照することができます。



変換後の値のみではなく、入力値を参照することができます。
これにより、1 回の入力を複数のテーブル変換項目に反映させることができます。

レイアウトが予め持っている変数を利用することができます。



各レイアウトが予め持っている変数を参照することができます。
これにより、呼出しデータ名をそのままレイアウト上に反映させることなどができます。
また、日時オブジェクトの「参照を許可する」にチェックが入っている場合は、書式を選択しながら日時オブジェクトの値が参照できます。
※端末 No.を参照するにはメニューバーの「ツール」－「設定」のオプションタブで「端末 No.の参照を許可」を有効にする必要があります。

6.特別な操作

1.テーブル機能

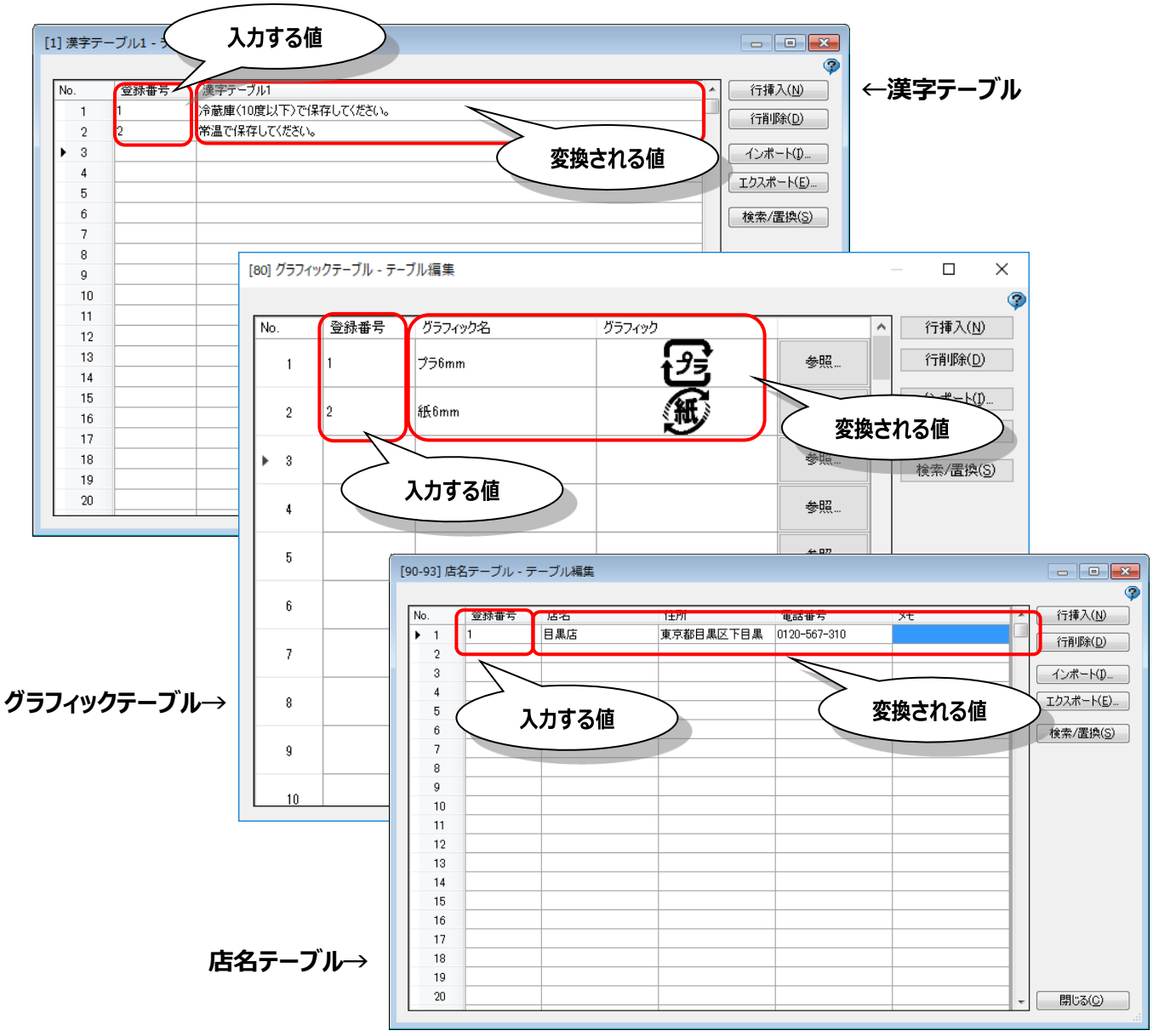
e-Labe には、入力された数値を登録された文字データに変換するテーブル機能があります。

このテーブル機能を利用すると、数値を入力することで、定型の文章に変換して印字したり、バーコードの数値に変換させたりすることができます。

複数のレイアウトでテーブルデータを共通で使用することが可能です。

テーブルは、**一つのプロジェクトで漢字テーブルを　99 テーブル×1000 データ、グラフィックテーブルを 1 テーブル×99 データ、店名テーブルを 1 テーブル×5000 データ**まで登録が可能です。

ただし、初期に表示されているのは、「漢字テーブル 1～5」と「店名テーブル」のみです。グラフィックテーブルについては、レイアウト上に切替グラフィックフィールドを作成した場合および新規作成機能で追加することが可能です。



テーブル仕様

テーブル種	登録番号	登録内容
漢字テーブル	最大 4 桁の数字	最大 1000 桁
グラフィックテーブル	最大 4 桁の数字	（グラフィック名）32 桁 （グラフィック）モノクロビットマップ
店名テーブル	最大 6 桁の数字 ※最大桁数は 4～6 桁で指定可能	（店名）最大 60 桁 （住所）最大 100 桁 （電話）最大 80 桁 （メモ）最大 80 桁

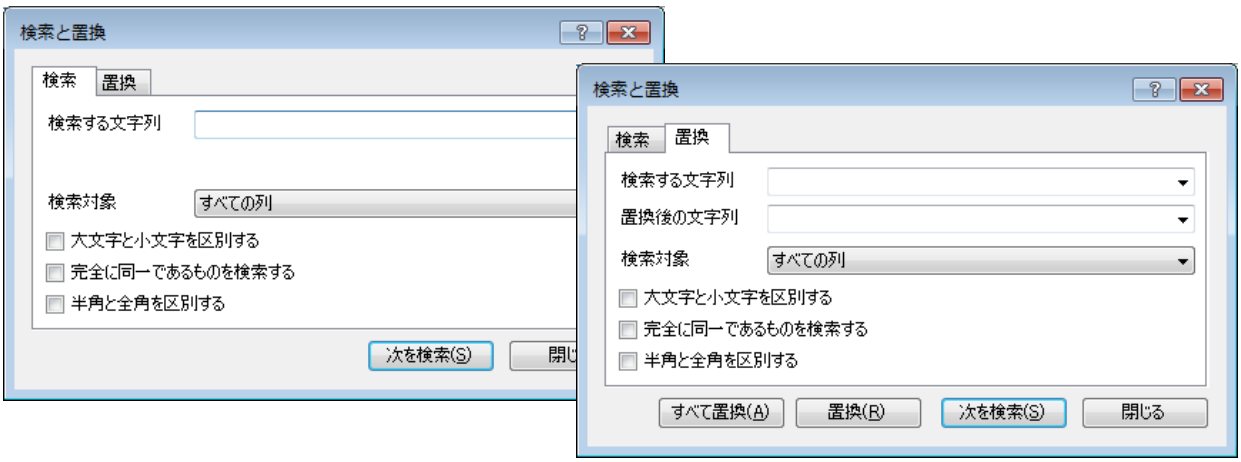
・行挿入
新規登録する行を、選択した行の上に挿入できます。

・行削除
選択した行を削除できます。

・インポート
外部ファイルをテーブルデータとして取り込むことができます。
ファイル形式は、CSV ファイル、TAB 区切りのテキストファイル、テーブルファイル（プロジェクト用ファイル）です。
インポート時に、既存データの処理について削除して取り込むか、残して追加・更新するかを選択することが可能です。

・エクスポート
テーブルデータを外部ファイルとして保存することができます。
ファイル形式は、CSV ファイル、TAB 区切りのテキストファイル、テーブルファイル（プロジェクト用ファイル）です。

・検索/置換
テーブルデータを検索や置換することができます。



・検索対象
すべての列または特定の列を指定可能です。

・大文字小文字を区別する
アルファベットの大文字小文字を区別します。

・**完全に同一であるものを検索する**
検索する文字列と完全に一致する値を検索します。

・**半角と全角を区別する**
アルファベット、数字、カナ、記号の半角と全角を区別します。
・**すべて置換**
指定した条件に合致する文字列を一括で「置換後の文字列」の値に置き換えます。

・**置換**
選択している単一のセルに置換対象の文字列があれば「置換後の文字列」の値に置き換え、次を検索します。

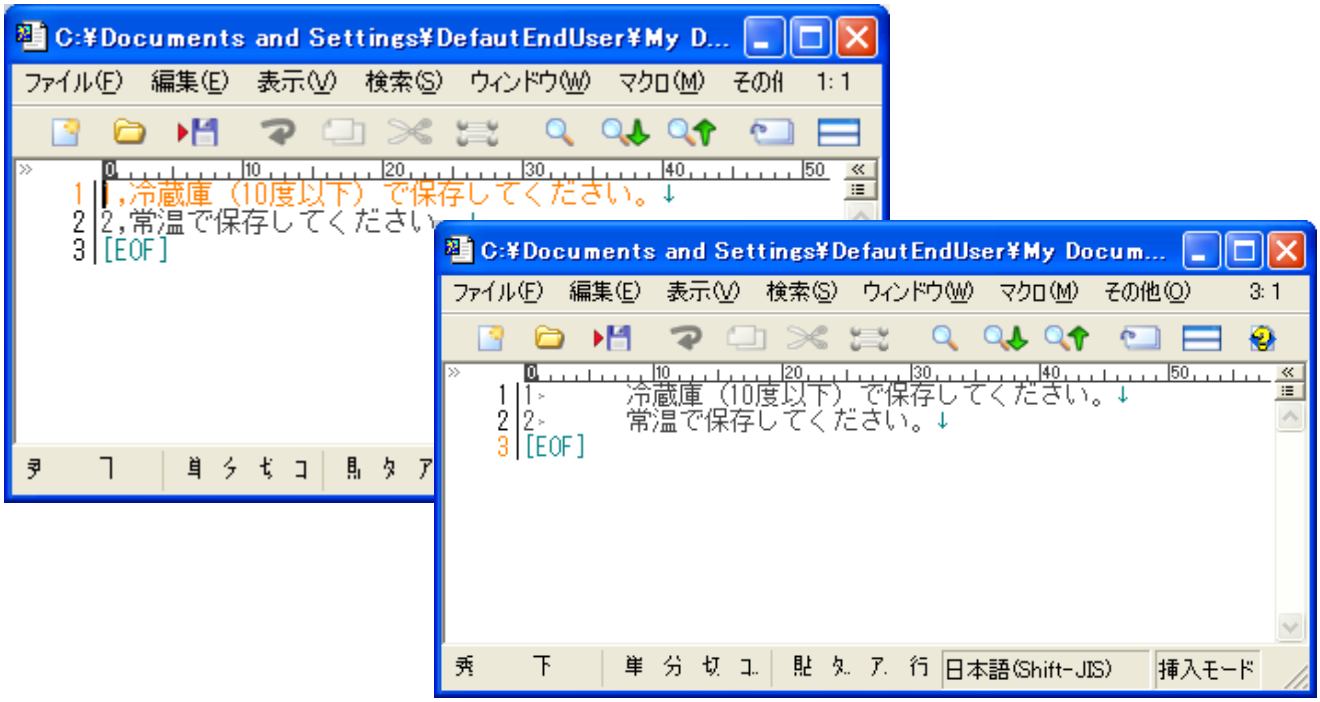
・**次を検索**
指定した条件に合致する文字列を検索します。

★インポート、エクスポートできる CSV および TAB データは以下の形式のデータになります。

■漢字テーブル
【ファイル仕様】

登録番号	(カンマまたは TAB)	登録内容	CR+LF
0～9999	区切り	桁数で指定した桁（最大 1000）	改行コード

«カンマ区切りデータ例»



■グラフィックテーブル

グラフィックテーブルでは 2 種類の形式をサポートしています。グラフィック形式は「インポート」および「エクスポート」ボタンをクリックして表示されるダイアログのファイル形式選択リストで変更が可能です。

1) XML 形式

「[ファイル名].segtbl」の形式で生成され、このファイル 1 つで登録番号・グラフィック名・グラフィックデータをサポートします。

2) CSV または TAB 区切りテキスト＋ビットマップファイル形式

登録番号・グラフィック名を格納した CSV または TAB 区切りテキストファイルと、ビットマップファイルを格納したフォルダの 2 つでインポートおよびエクスポートをサポートします。

① CSV または TAB 区切りテキストファイル

【ファイル仕様】

登録番号	(カンマまたは TAB)	グラフィック名	CR+LF
0001～9999	区切り	桁数で指定した桁（最大 32）	改行コード

②ビットマップファイル格納フォルダ

#XXXX_「グラフィック名」.bmp の形式で、「[ファイル名].files」フォルダにグラフィックデータが格納されます。[ファイル名]は CSV 形式でのエクスポート時に指定したファイル名が自動的に付与されます。

※XXXX：グラフィックの登録番号

注意：CSV＋ビットマップファイル形式でインポートする場合には、以下の条件が必要です。

・CSV ファイルとビットマップファイルが、同じパスに存在している。

・CSV ファイルとビットマップファイルの格納フォルダ名が同一であること。

■店名テーブル

登録番号の範囲は、定義画面で選択した「登録番号桁数」の設定に応じて変わります。

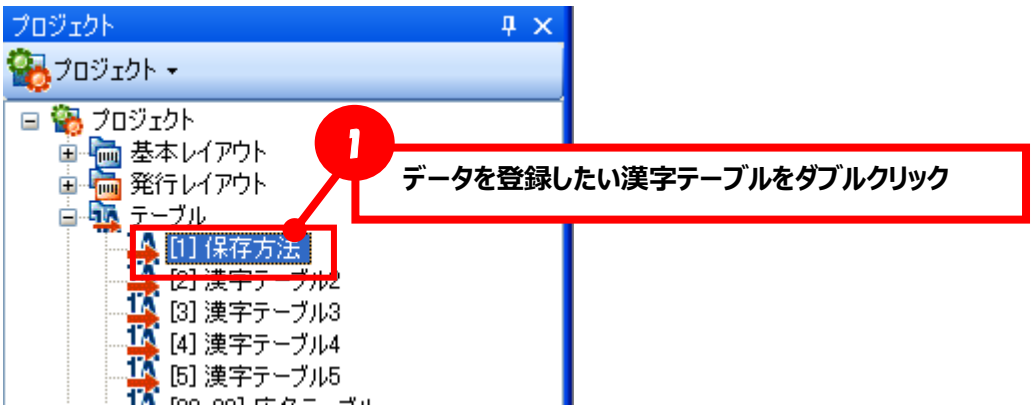
登録番号桁数	登録番号の範囲
4 桁	0001～9999
5 桁	00001～99999
6 桁	000001～999999

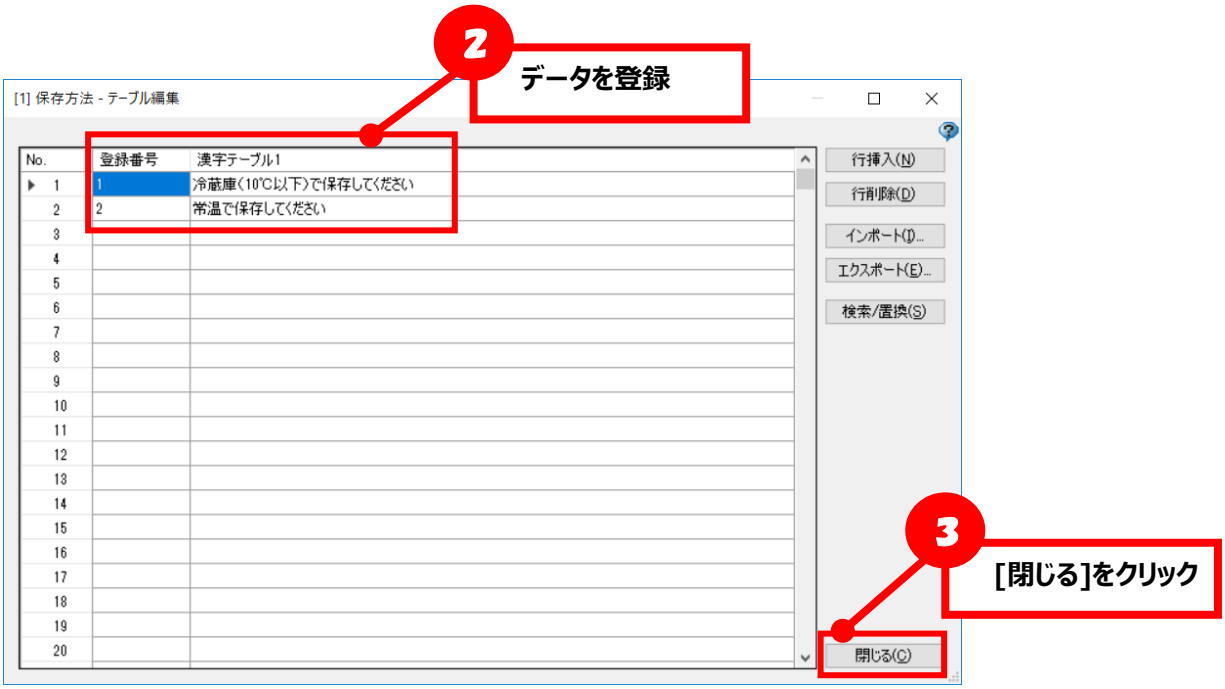
【ファイル仕様】

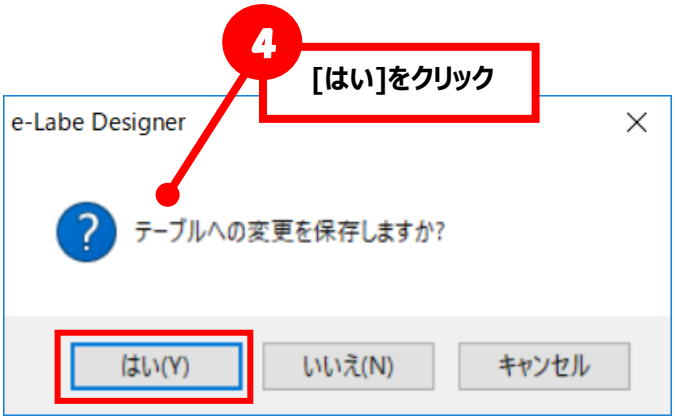
登録番号	(カンマまたは TAB)	店名	(カンマまたは TAB)
0001～9999	区切り	桁数で指定した桁（最大 60）	区切り
		住所	(カンマまたは TAB)
		桁数で指定した桁（最大 100）	区切り
		電話	(カンマまたは TAB)
		桁数で指定した桁（最大 80）	区切り
		メモ	CR+LF
		桁数で指定した桁（最大 80）	改行コード

■テーブル登録手順

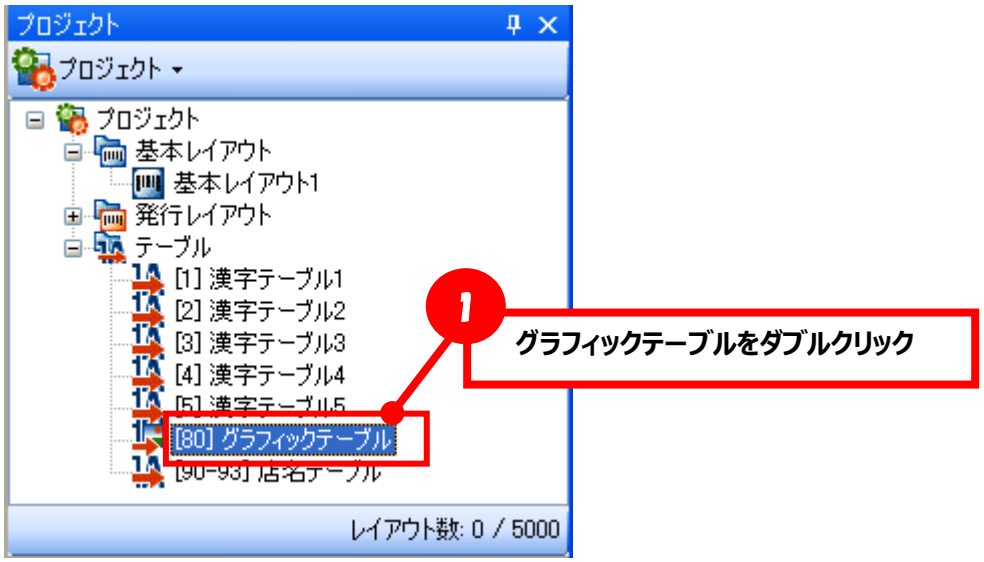
■漢字テーブルの場合



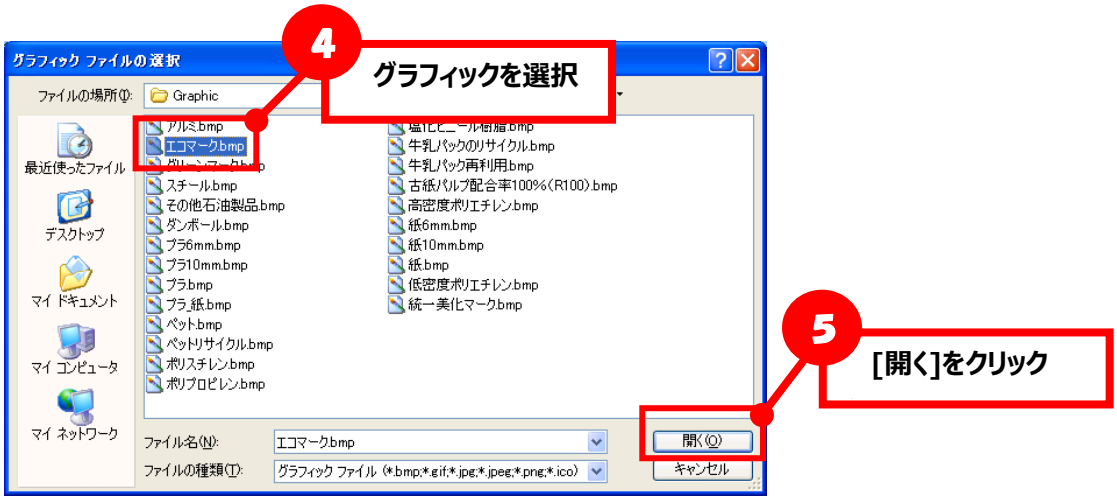


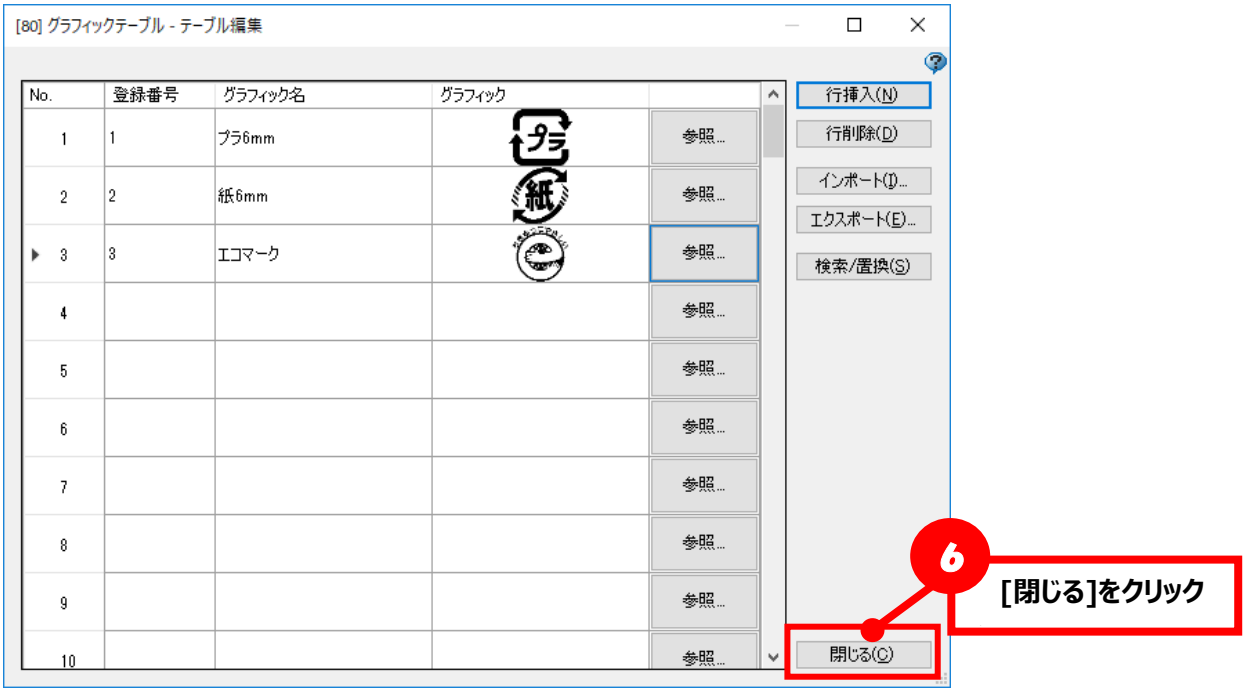


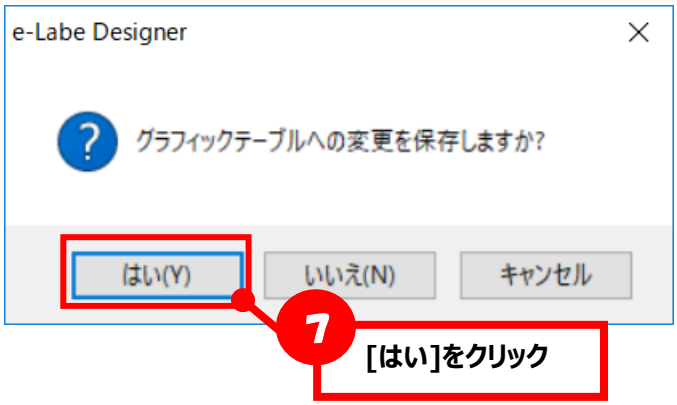
■グラフィックテーブルの場合





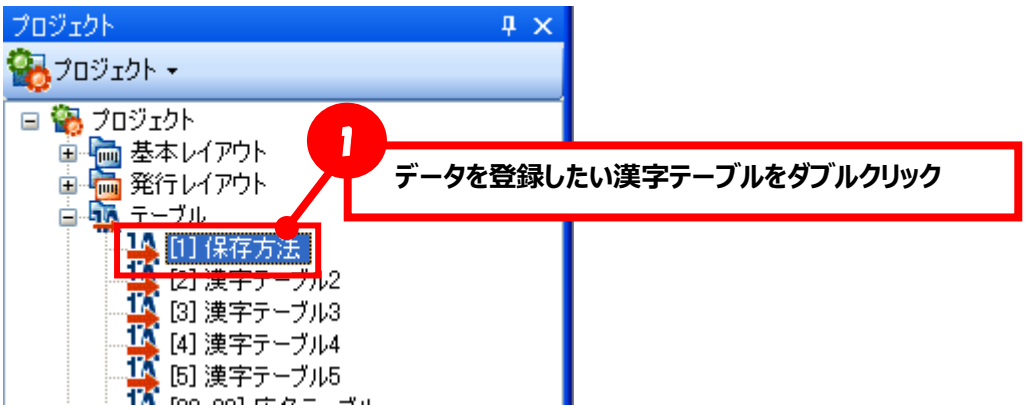


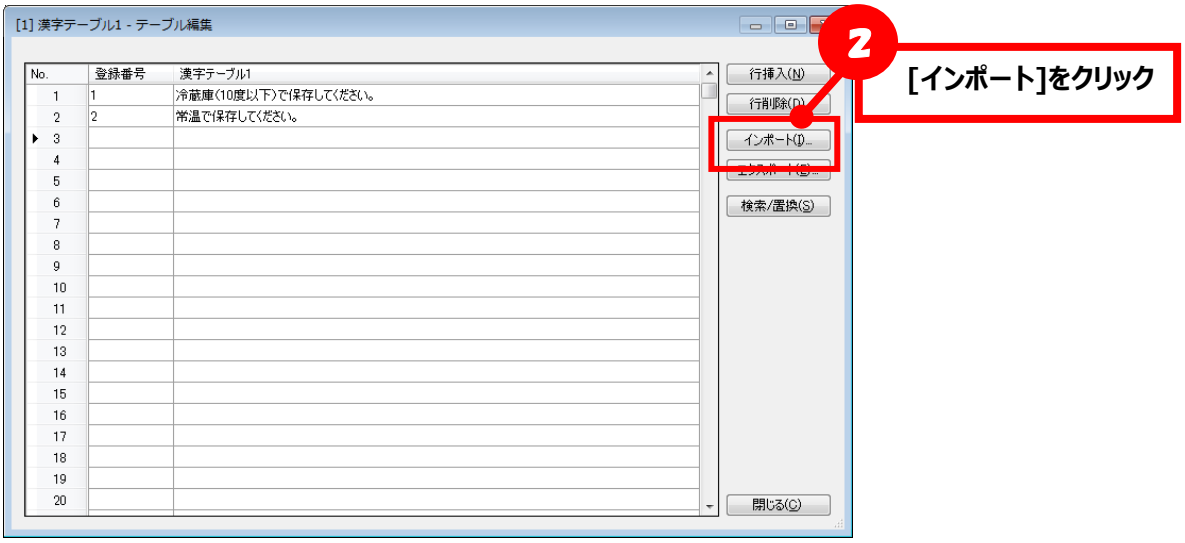

[80] グラフィックテーブル - テーブル編集
No.
登録番号
グラフィック名
グラフィック
1
1
プラ6mm
2
2
紙6mm
3
3
エコマーク
参照...
行挿入(N)
行削除(D)
インポート(I)...
エクスポート(E)...
検索/置換(S)
閉じる(C)
6
[閉じる]をクリック

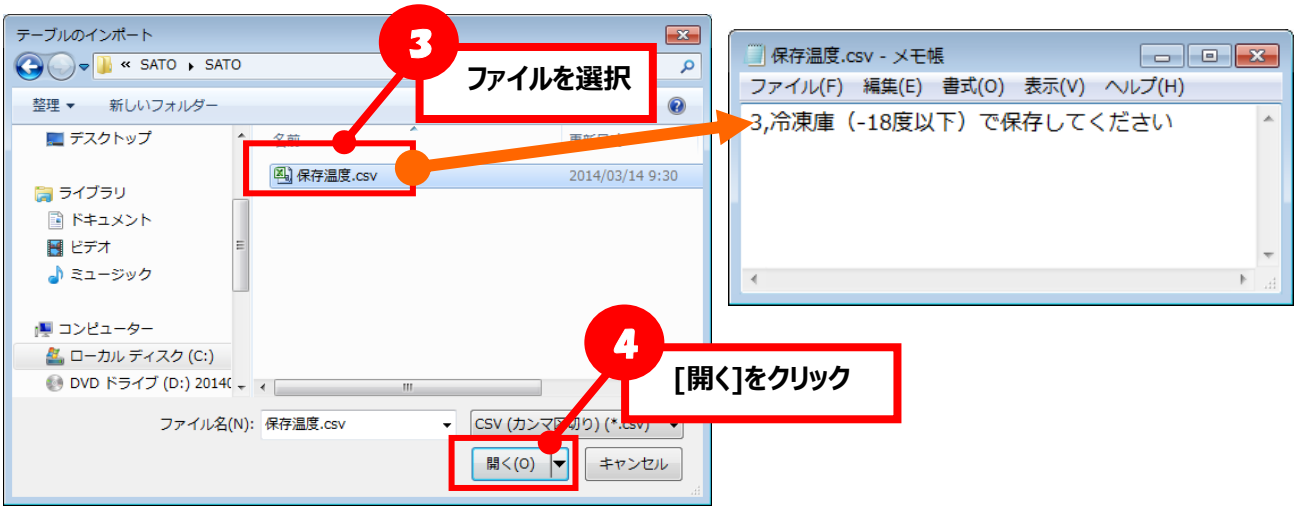

e-Labe Designer
グラフィックテーブルへの変更を保存しますか?
はい(Y)
いいえ(N)
キャンセル
7
[はい]をクリック

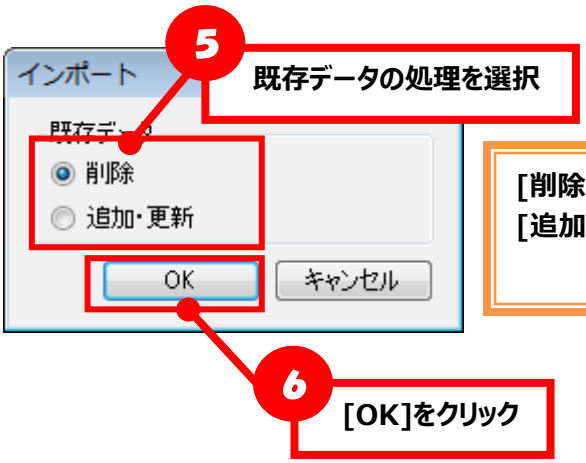
■テーブルインポート手順

※説明は[漢字テーブル]ですが、店名テーブル、グラフィックテーブルも同様の操作となります



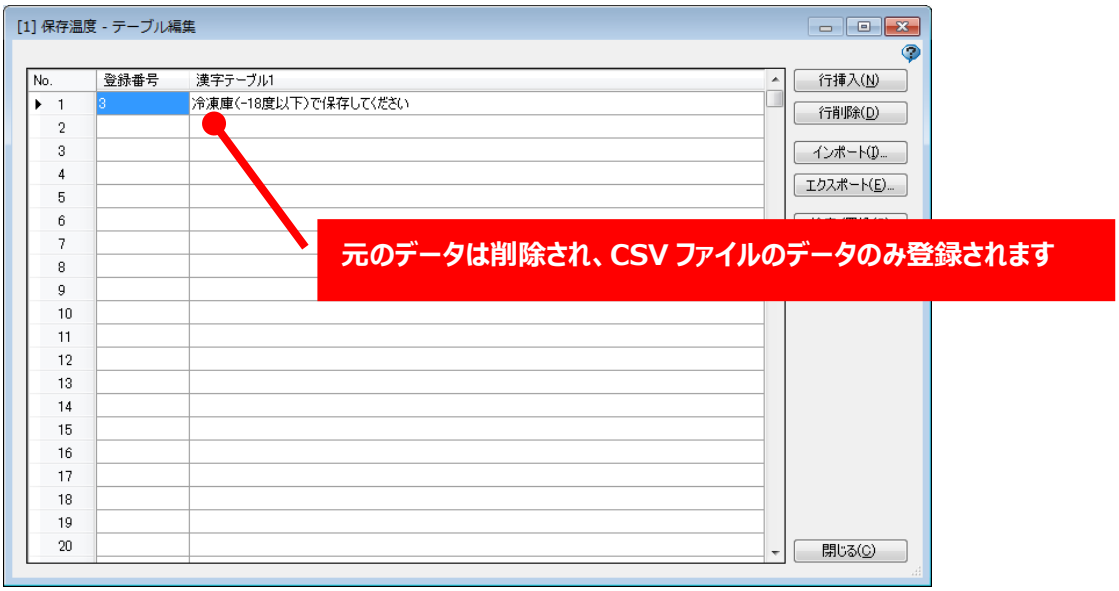




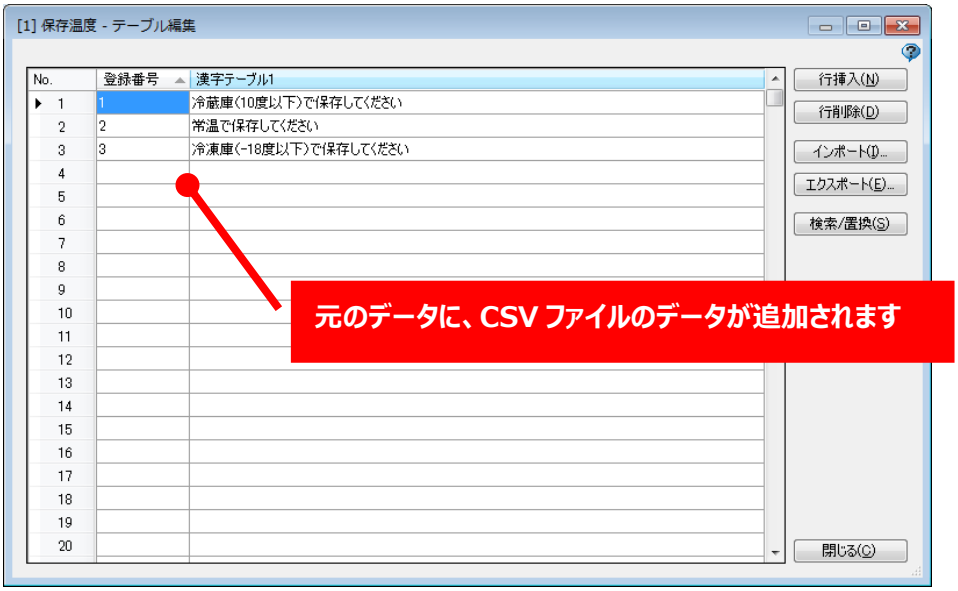


[削除]　既存データを全て削除し、取り込みます
[追加・更新] 既存データは残し、No.が同一のデータがあれば更新、無ければ追加します

【削除を選択した場合】



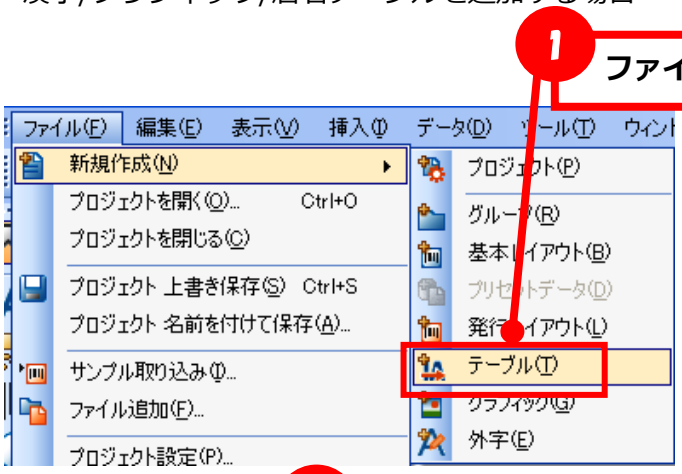
【追加･更新を選択した場合】



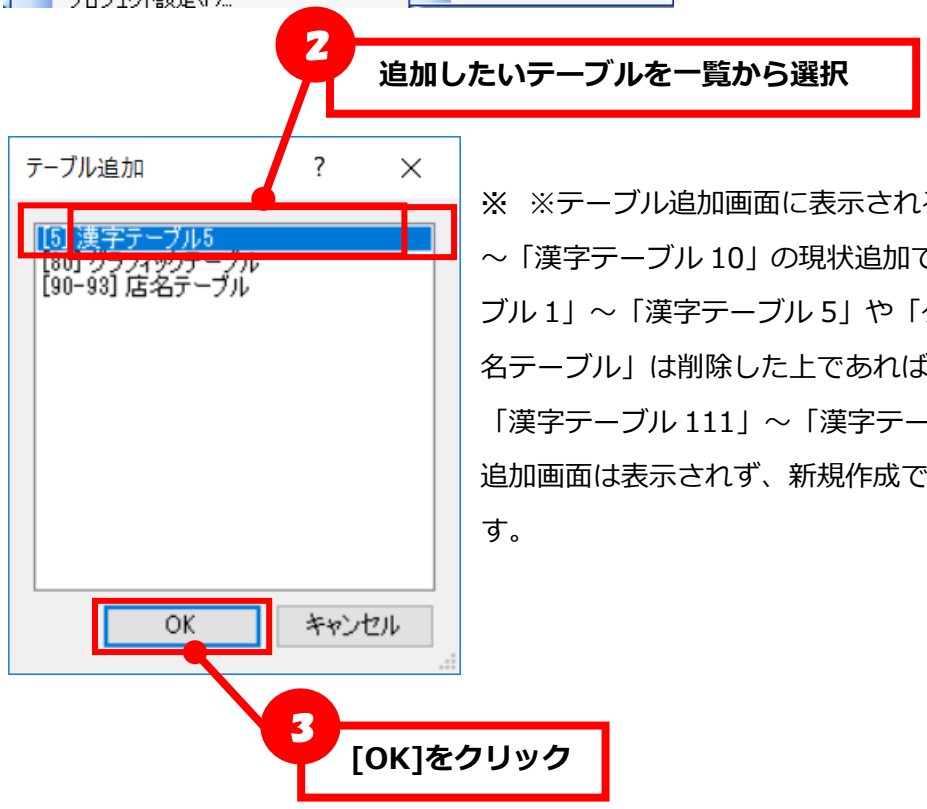
■漢字/グラフィック/店名テーブル追加・削除手順

テーブルは初期状態では「漢字テーブル 1」～「漢字テーブル 5」および「店名テーブル」のみ表示されていますが、「漢字テーブル 6」～「漢字テーブル 10」や「グラフィックテーブル」を追加したり、表示されているテーブルを削除したりすることが可能です。

«漢字/グラフィック/店名テーブルを追加する場合»

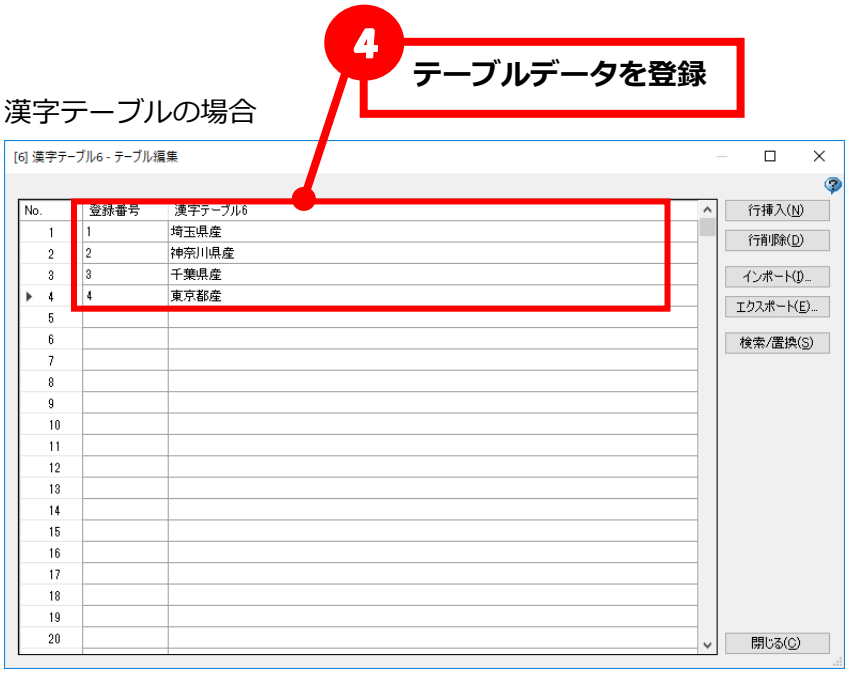


プロジェクトウィンドウの「プロジェクトフォルダ」＞「新規作成」＞「テーブル」
テーブルフォルダの＞「新規作成」からも、テーブル追加が可能です。
また、ツールバーの「新規作成」ボタンからも、テーブルの追加が可能です。



※ ※テーブル追加画面に表示されるテーブルは、「漢字テーブル 1」～「漢字テーブル 10」の現状追加できるテーブルです。「漢字テーブル 1」～「漢字テーブル 5」や「グラフィックテーブル」、「店名テーブル」は削除した上であれば、表示されるようになります。
「漢字テーブル 111」～「漢字テーブル 199」に関してはテーブル追加画面は表示されず、新規作成で直接 1 テーブルずつ追加されます。

漢字テーブルの場合



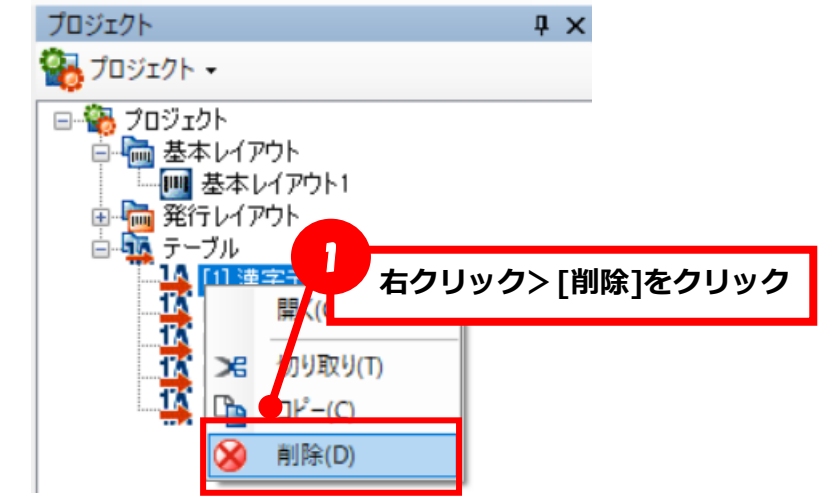
※データを登録せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、そのテーブル自体追加されません。

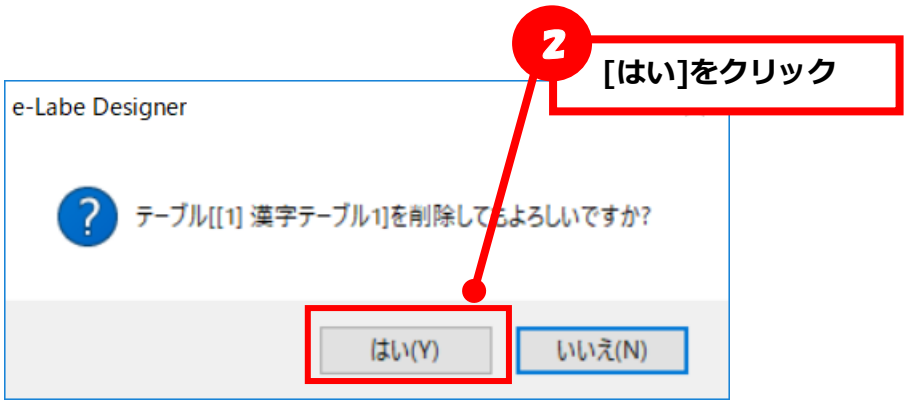
グラフィックテーブルの場合

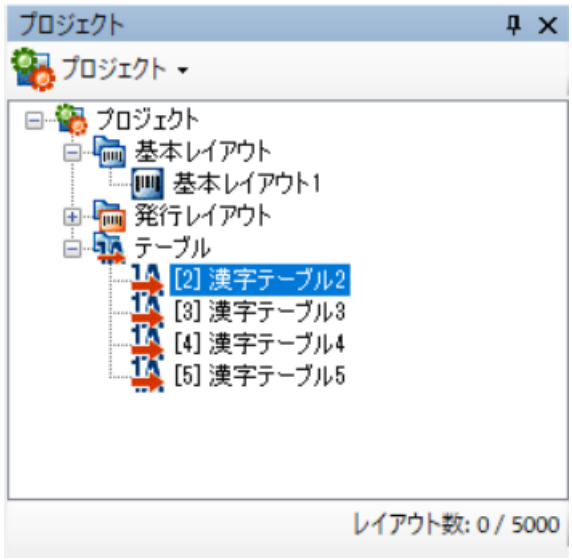


※初期状態では一般的に利用頻度の高いプラ/紙 6mm サイズがそれぞれ登録されています（削除可能）。
データを登録せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、そのテーブル自体追加されません。

«漢字/グラフィック/店名テーブルを削除する場合»







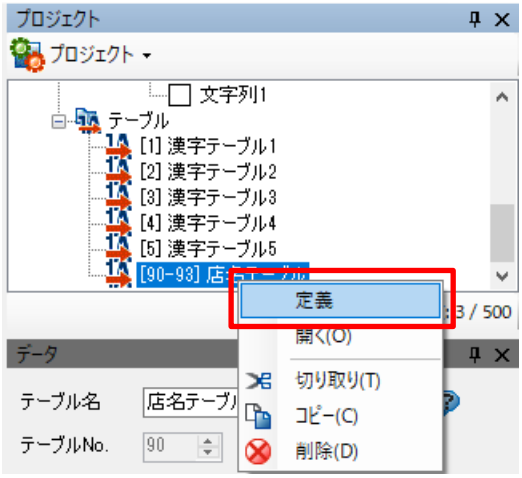
プロジェクト一覧から削除されていることを確認してください。

■店名テーブルの登録番号桁数定義

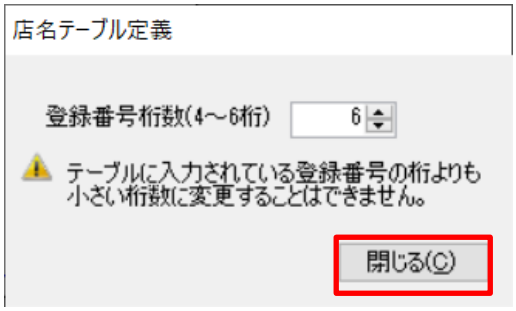
店名テーブルの登録番号桁数を 4～6 桁の範囲で設定できます。

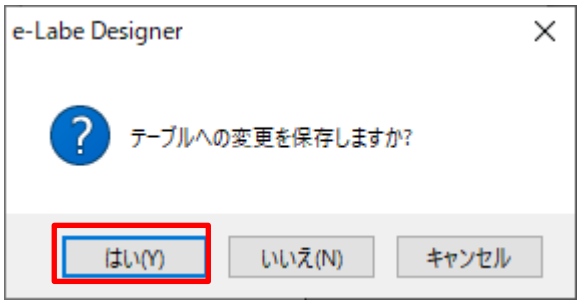
ここでは、4 桁から 6 桁に変更する手順を説明します。

1. プロジェクトツリー画面の店名テーブルの上で右クリック＞定義を選択します。



2. 登録番号桁数に桁数を入力し、閉じます。テーブルへの変更保存ダイアログが表示されるので「はい」を選択します。
   ※既に登録されている登録番号の桁より小さい桁数に変更はできません。



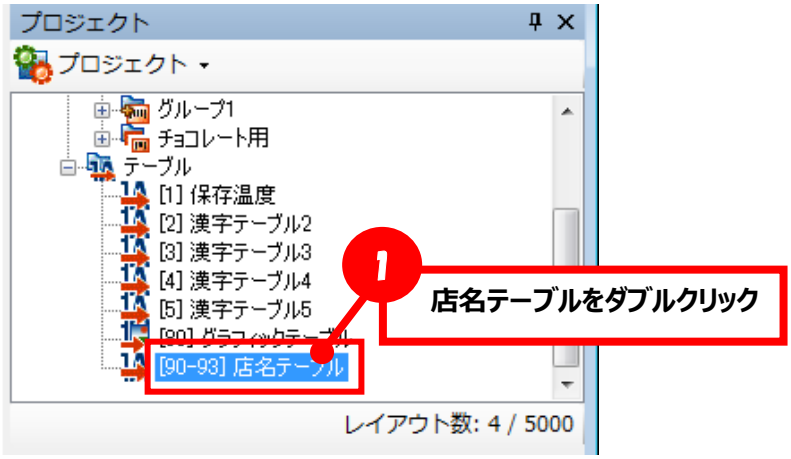


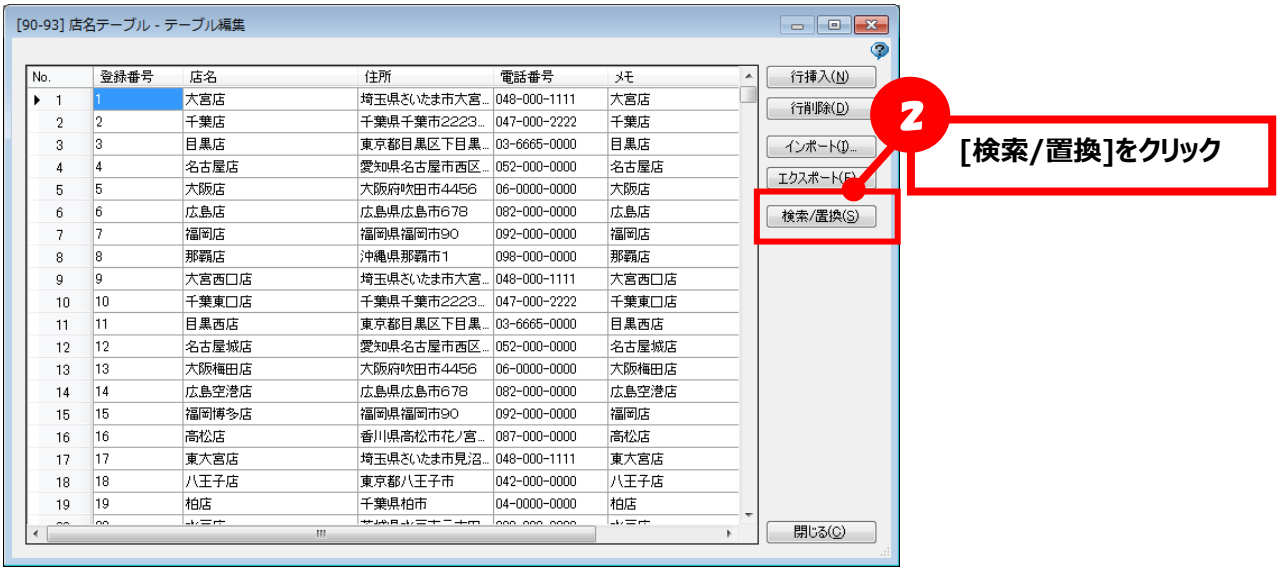
[店名テーブル編集画面]



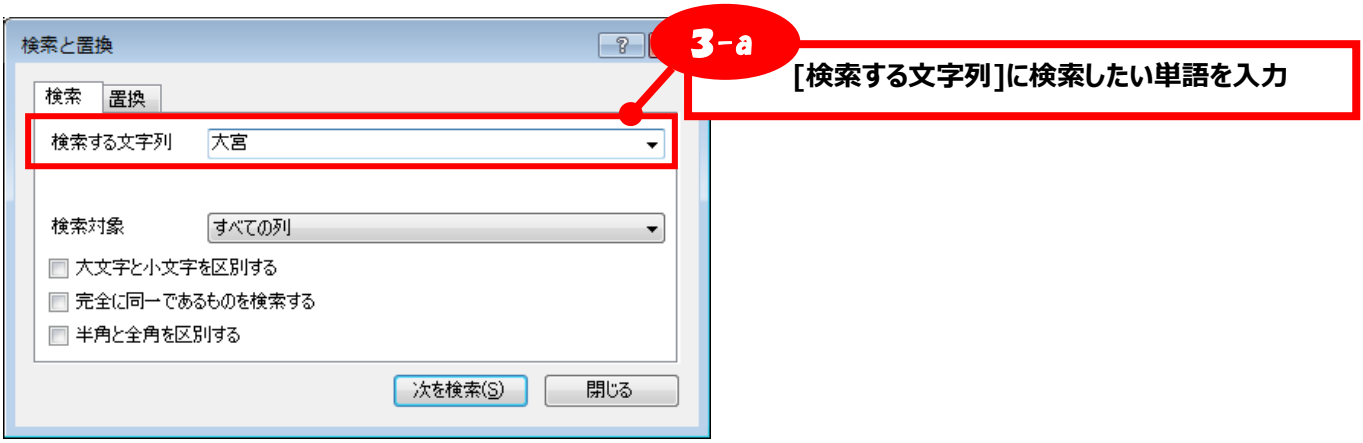
■テーブルデータの検索/置換手順

※説明は[店名テーブル]ですが、漢字テーブル、グラフィックテーブルも同様の操作となります

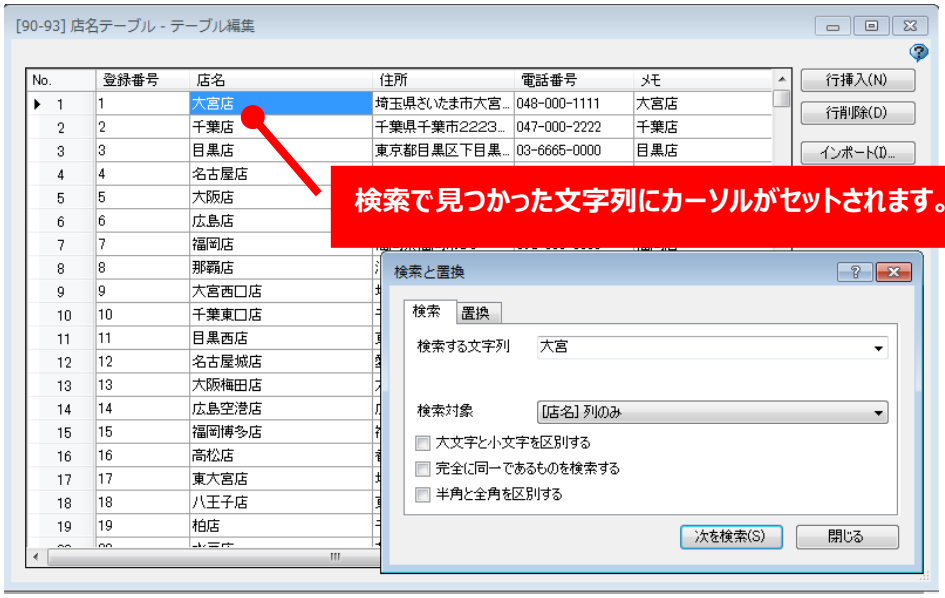


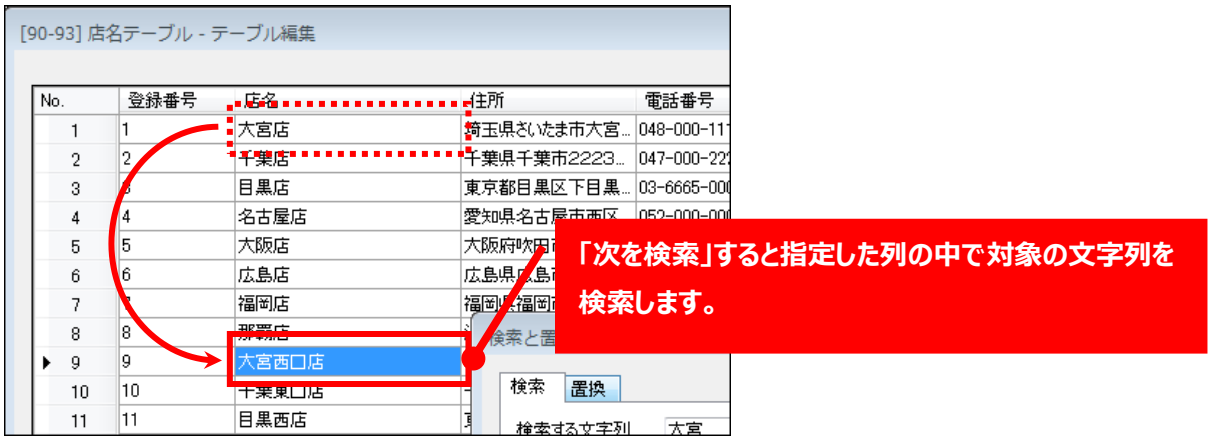


<検索>

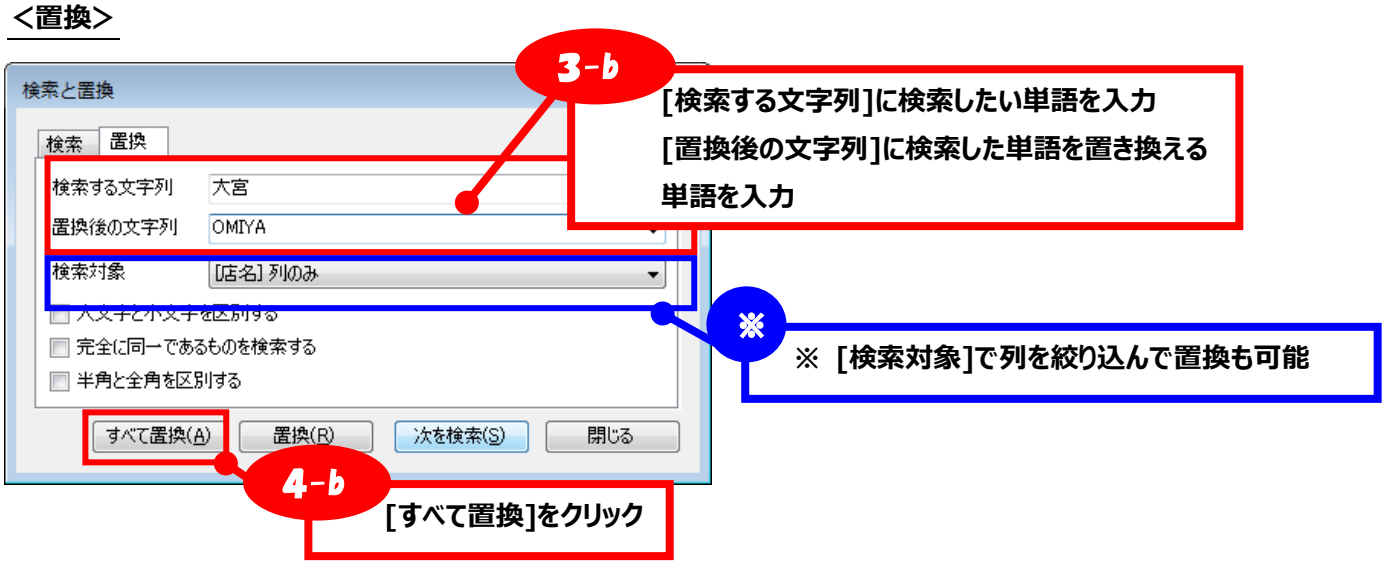


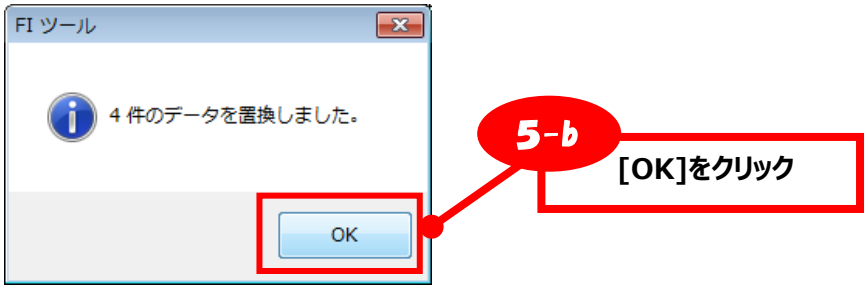

検索と置換
検索
置換
検索する文字列
大宮
検索対象
[登録番号] 列のみ
大文字と小文字を区別する
完全に同一であるものを検索する
半角と全角を区別する
次を検索(S)
閉じる
※
※ [検索対象]で列を絞り込んで検索も可能
4-a
[次を検索]をクリック


[90-93] 店名テーブル - テーブル編集
No.
登録番号
店名
住所
電話番号
メモ
行挿入(N)
行削除(D)
インポート(I)...
検索で見つかった文字列にカーソルがセットされます。
検索と置換
検索
置換
検索する文字列
大宮
検索対象
[店名] 列のみ
大文字と小文字を区別する
完全に同一であるものを検索する
半角と全角を区別する
次を検索(S)
閉じる


[90-93] 店名テーブル - テーブル編集
No.
登録番号
店名
住所
電話番号
大宮店
千葉店
目黒店
名古屋店
大阪店
広島店
福岡店
大宮西口店
目黒西店
「次を検索」すると指定した列の中で対象の文字列を検索します。

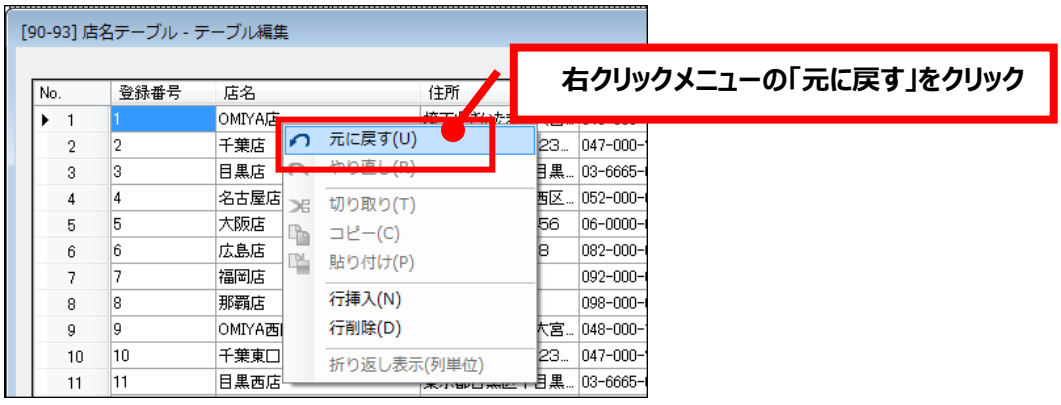
<置換>







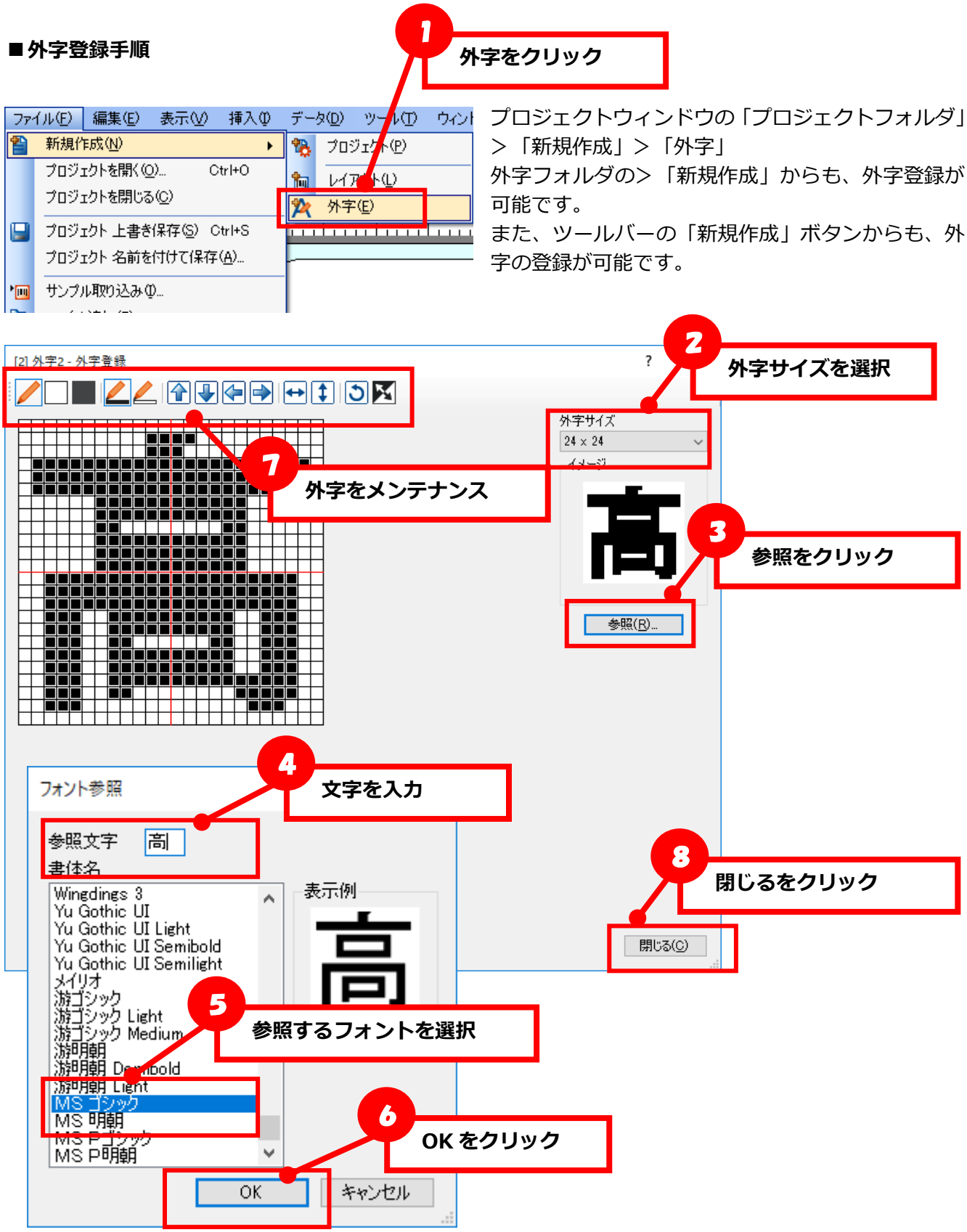
※置換を元に戻す場合



2.外字登録

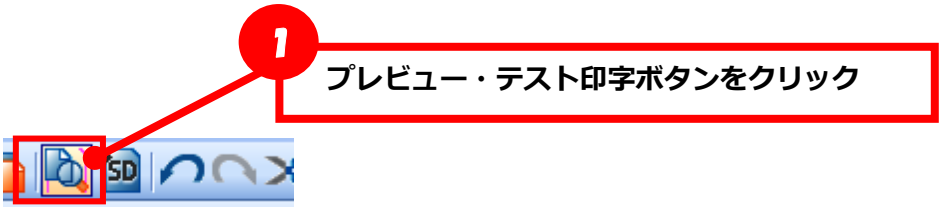
プリンタフォントの外字を登録する機能です。
外字を使用することで、JIS 第一、第二水準に含まれていない文字を印字することができます。
1 つの外字には 16 ドット×16 ドット、24 ドット×24 ドット、32 ドット×32 ドットの 3 種類のサイズが登録できます。登録した外字は、各フォント種を選択した際に利用可能です。

■外字登録手順

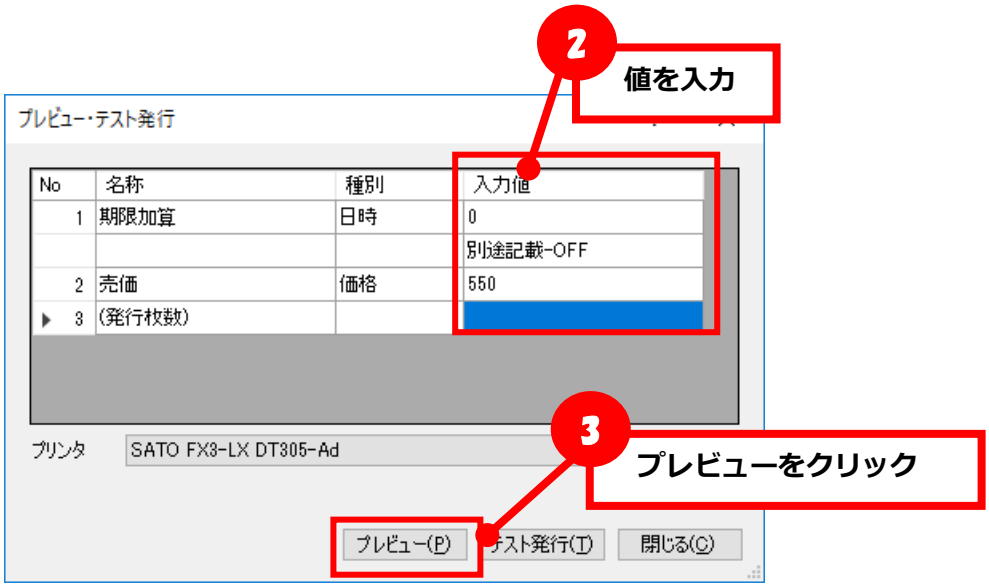


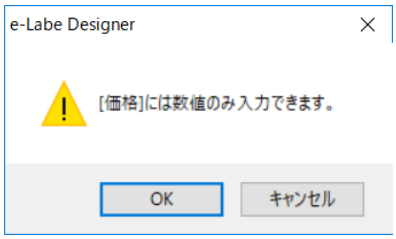
3.プレビュー・テスト発行

作成したレイアウトを使用し、データを入力した結果の印刷プレビュー、プリンタでの印刷確認を行う機能です。当機能を利用できるのは、レイアウト種が発行レイアウトの時だけです。

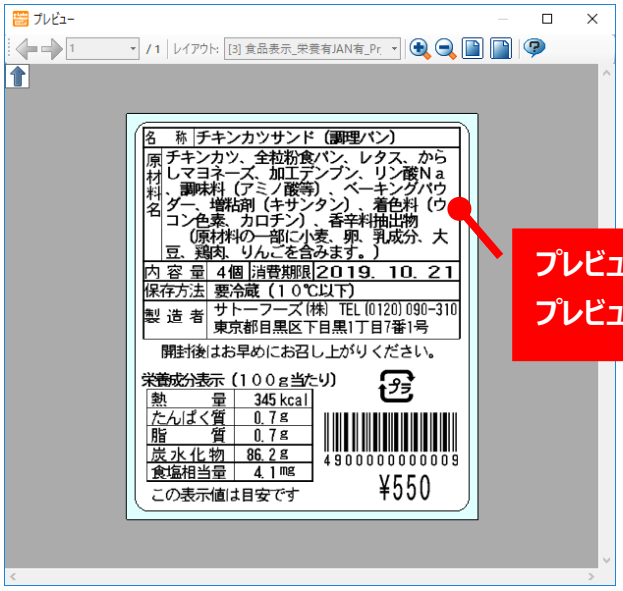


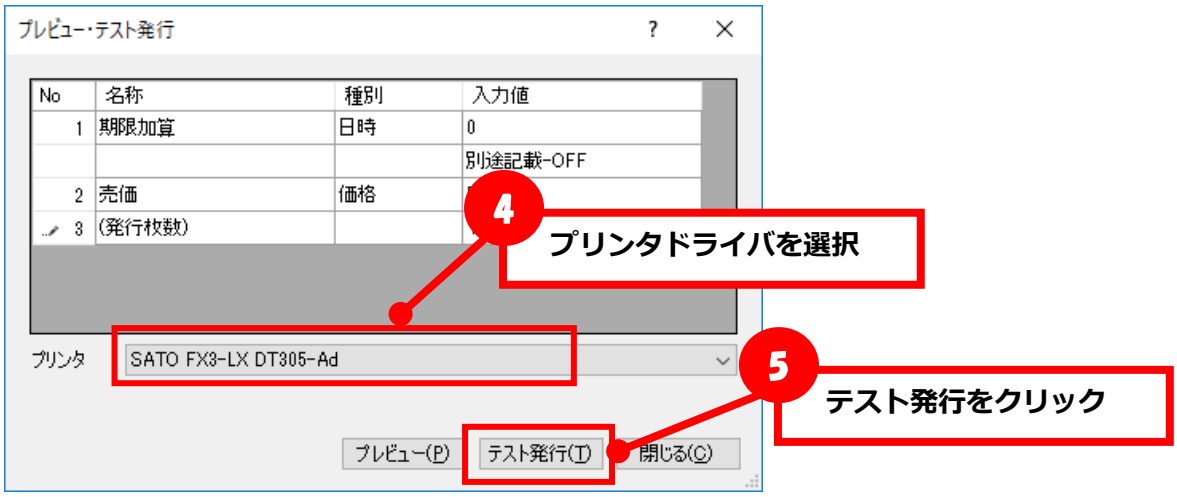
メニューバーの「ファイル」＞「プレビュー・テスト印字」でも操作可能です。





！不正な値が入力された場合は、エラーメッセージが表示されます。

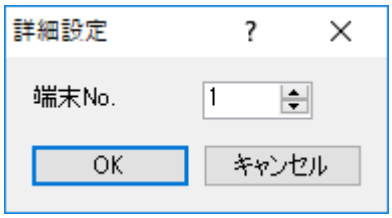




※あらかじめ FX3-LX のプリンタドライバをインストールしておく必要があります。

FX3-LX 以外のプリンタを選択した場合、正しく印字されない可能性があります。

■詳細設定画面で端末 No.を設定することが可能です。



※ここで設定された値はプレビュー・テストおよびダンプ出力時のみ適用されます。

■テスト発行時の注意点

テスト発行機能で発行したラベルには、以下の様な制限がありますのでご注意ください。

・日時の印字はプリンタ本体のカレンダーの日時ではなく、「テスト発行」ボタンを押したときのパソコンの日時で印字されます。

・発行中にプリンタの電源を落としてしまった場合などに、プリンタドライバにデータが残ったままになることがあります。

このデータでそのまま印字を行うと、エラーが起こる前の日時がそのまま印字されてしまいます。

・プリンタ本体に登録された、店舗テーブル 0 が利用できません。

4.ダンプ出力

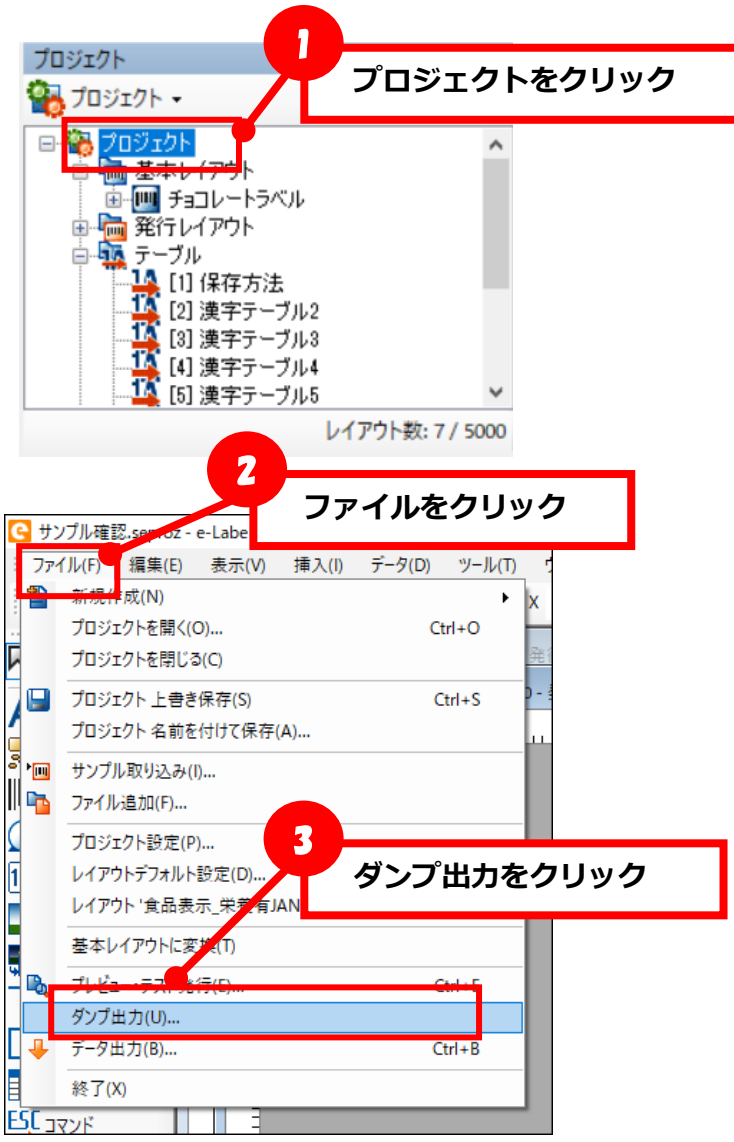
作成したレイアウトを使用し、データを入力した結果の印刷プレビュー、プリンタでの印刷確認を行う機能です。当機能を利用できるのは、レイアウト種が発行レイアウトの時だけです。

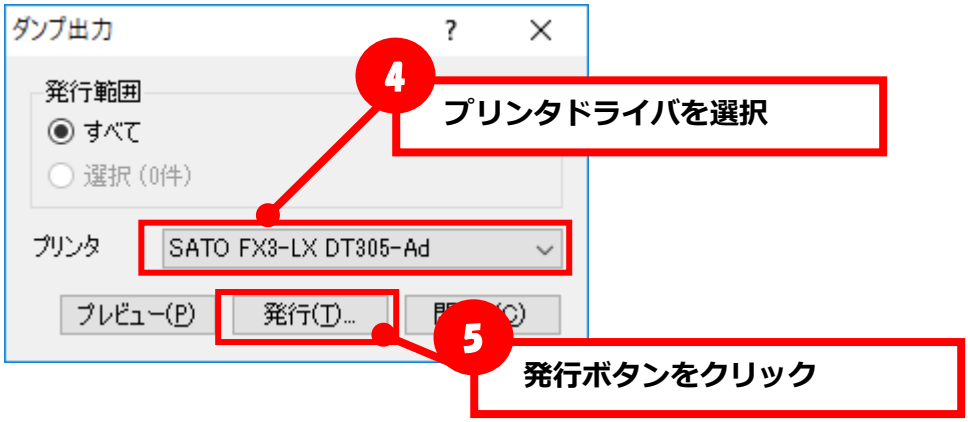
複数の発行レイアウトを指定してプレビュー・テスト印字を一括で実行することができます。

一括でプレビュー・テスト印字を行う場合、発行時入力データと発行枚数の入力は省略され、初期値が設定されます。

入力方法が発行時（データ）で、データ欄が未入力の場合は、オブジェクト種や入力文字チェック、フォントに応じて「?」や「9」のいずれかを設定します。ただし、連番については「0」が初期値となります。

■プロジェクトファイル内の全ての発行レイアウトを出力する場合

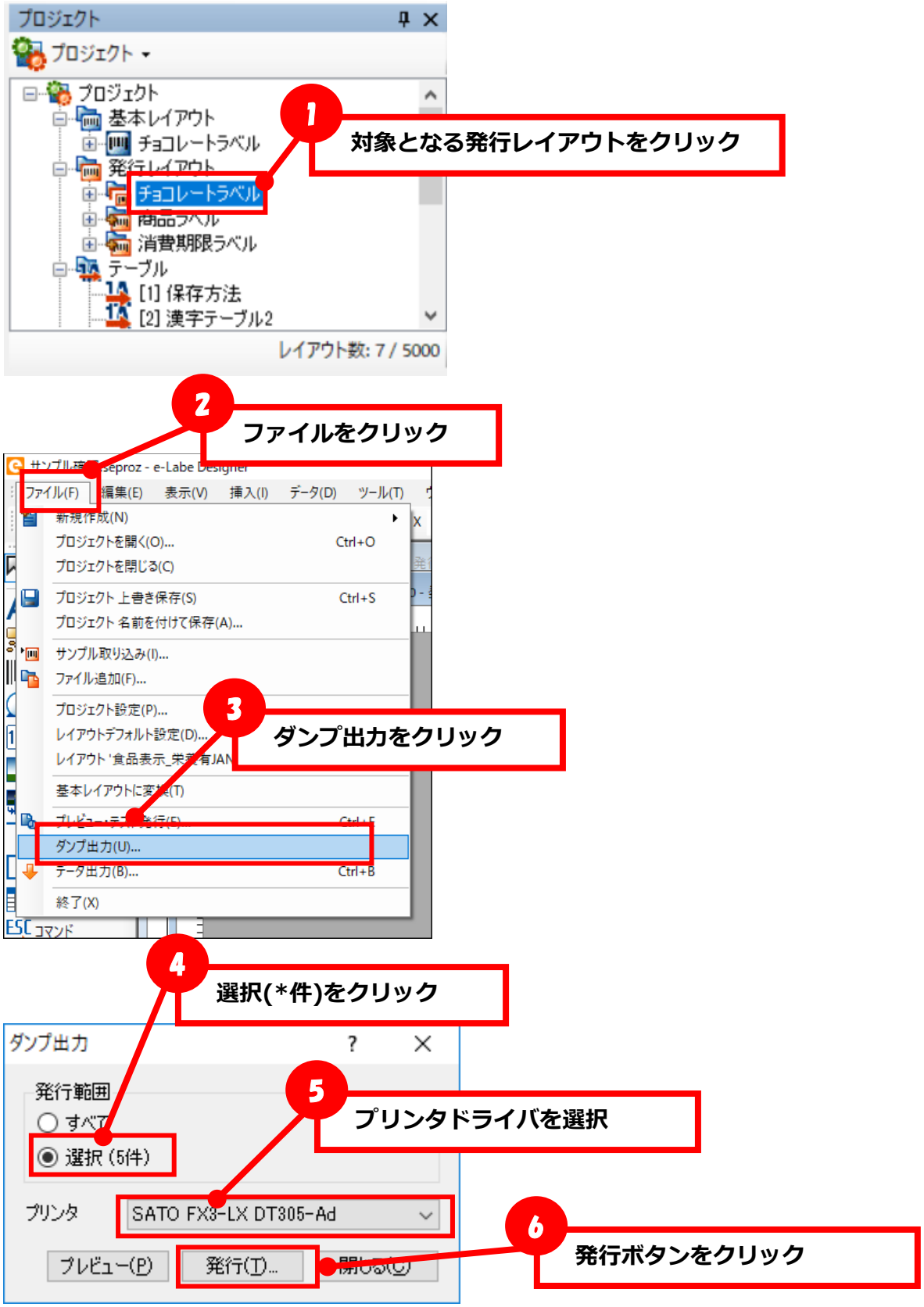




※あらかじめ FX3-LX のプリンタドライバをインストールしておく必要があります。

FX3-LX 以外のプリンタを選択した場合、正しく印字されない可能性があります。

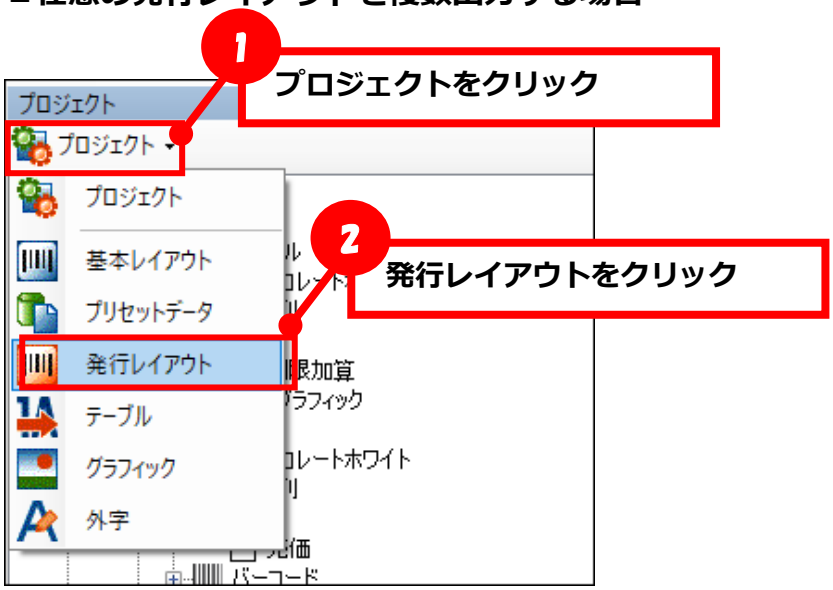
■発行レイアウトをグループ単位で出力する場合

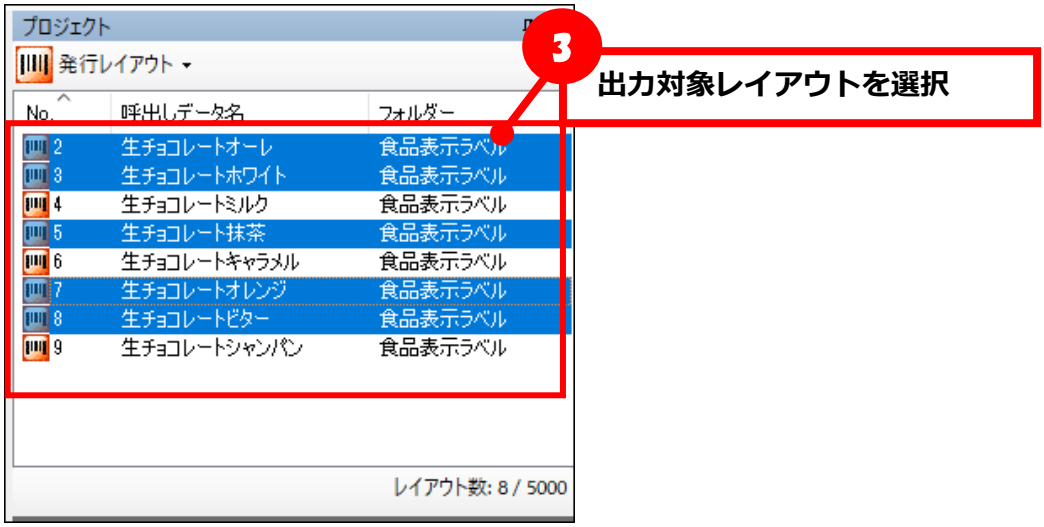


※あらかじめ FX3-LX のプリンタドライバをインストールしておく必要があります。

FX3-LX 以外のプリンタを選択した場合、正しく印字されない可能性があります。

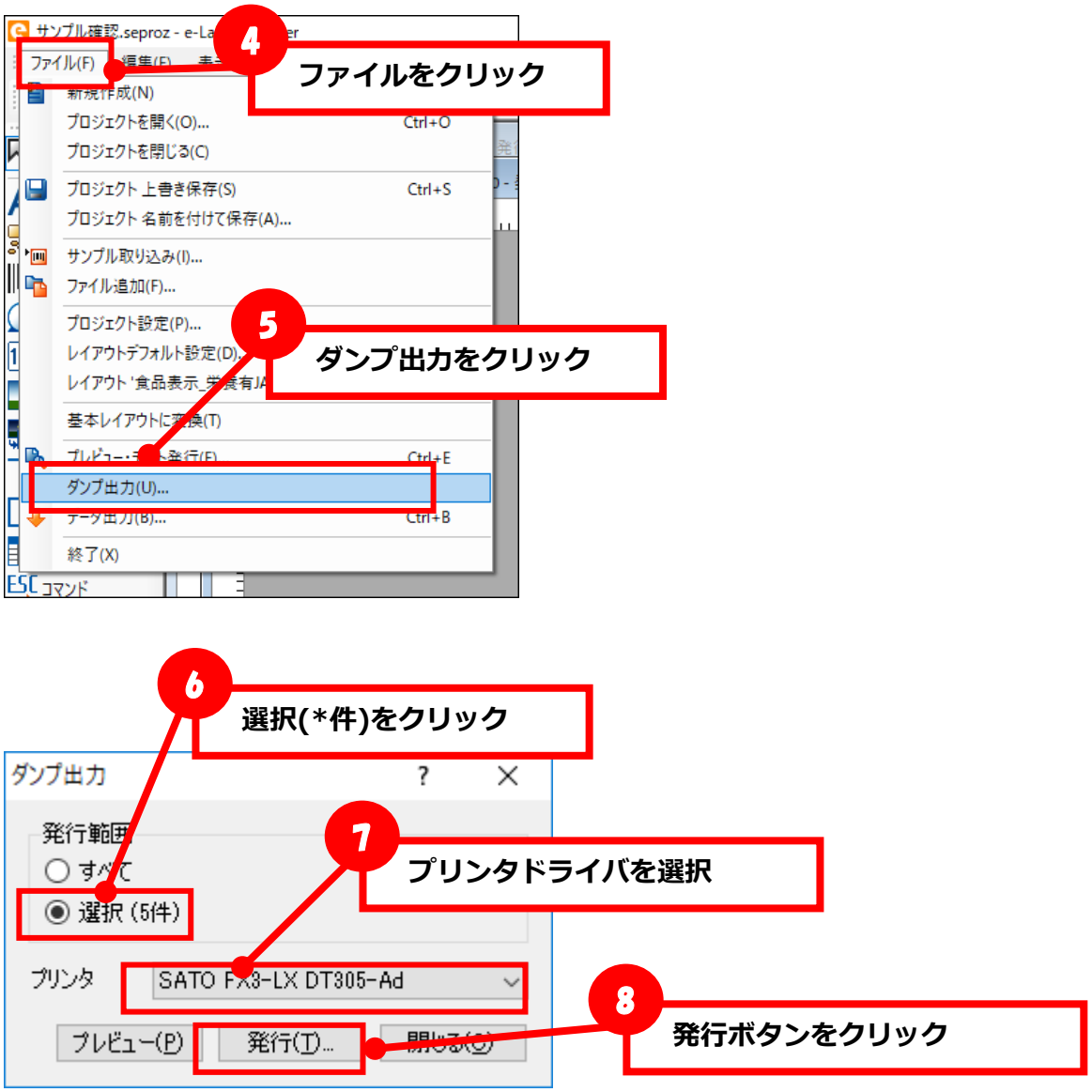
■任意の発行レイアウトを複数出力する場合





※キーボードの Ctrl キーを押下しながら発行レイアウトをクリックすると隣接しない複数の発行レイアウトを同時に選択できます。

※ウィンドウ内の項目名をクリックすることで、呼出し No.を昇順／降順に変更して出力したり、グループごとにソートして出力することが可能です。


4
ファイルをクリック
ファイル(F)
新規作成(N)
プロジェクトを開く(O)... Ctrl+O
プロジェクトを閉じる(C)
プロジェクト 上書き保存(S) Ctrl+S
プロジェクト 名前を付けて保存(A)...
サンプル取り込み(I)...
ファイル追加(F)...
プロジェクト設定(P)...
レイアウトデフォルト設定(D)...
基本レイアウトに変換(T)
ダンプ出力(U)...
終了(X)
5
ダンプ出力をクリック
6
選択(*件)をクリック
ダンプ出力
発行範囲
すべて
選択 (5件)
7
プリンタドライバを選択
プリンタ
SATO FX3-LX DT305-Ad
プレビュー(P)
発行(T)...
8
発行ボタンをクリック

■ダンプ出力時の注意点

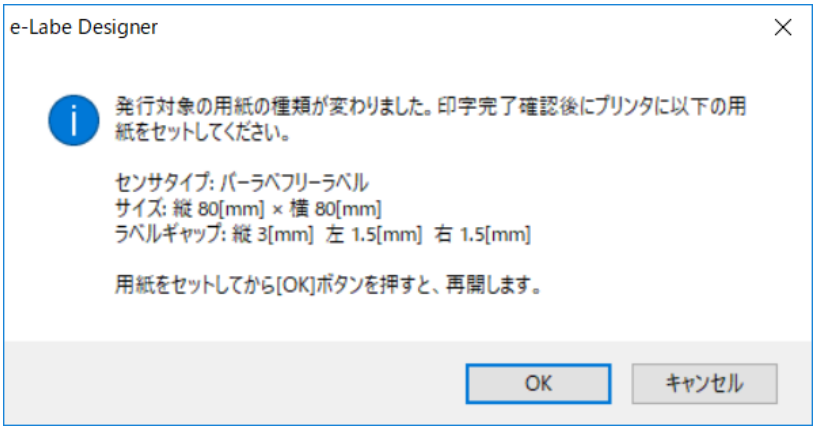
ダンプ出力機能で発行したラベルには、以下の様な制限がありますのでご注意ください。

・日時の印字はプリンタ本体のカレンダーの日時ではなく、ダンプ出力の「発行」ボタンを押したときのパソコンの日時で印字されます。

・発行中にプリンタの電源を落としてしまった場合などに、プリンタドライバにデータが残ったままになることがあります。

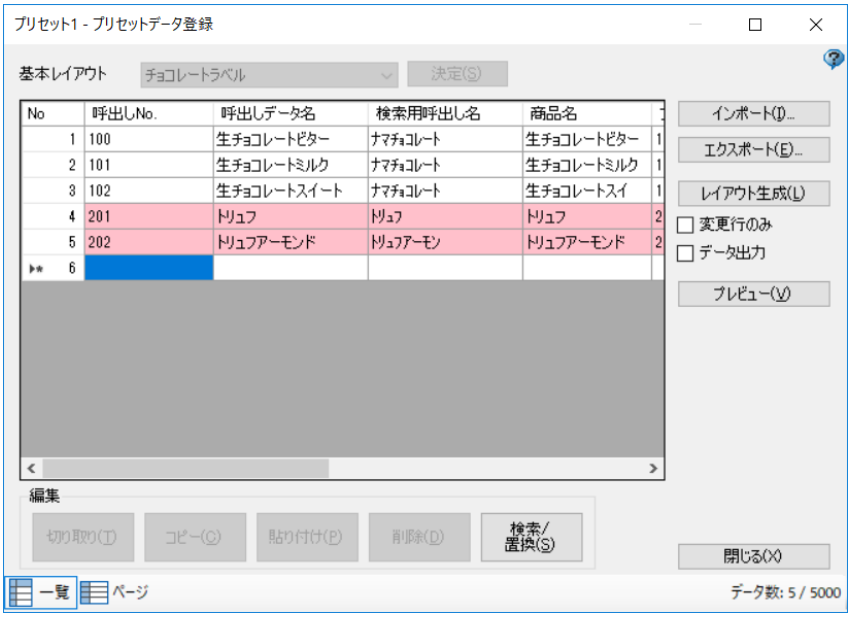
このデータでそのまま印字を行うと、エラーが起こる前の日時がそのまま印字されてしまいます。

・ダンプ出力中にレイアウト種が変わる場合、レイアウト設定の用紙タブで設定したセンサタイプ、サイズ、ラベルギャップの設定値差異をチェックして下記のダイアログを表示しますが、これ以外のカット位置や印字補正等の設定値についてはチェック対象外となります。



5.プリセットデータ登録

「データセット」にチェックされた項目は、プリセットデータ登録画面でデータの登録を行うことができます。
一つの基本レイアウトに複数のプリセットデータを登録でき、**各プリセットデータの合計で 5000 件**まで登録が可能です。



・ヘッダー行

データセットにチェックした項目の、項目名が表示されます。

・インポート

外部ファイルから、プリセットデータの取り込みを行います。
データは CSV またはタブ区切りテキスト形式です。インポート時、1 レコード目に項目名がセットされていない場合や、1 つでも一致しない項目名がある場合は、項目名の確認を行わず、左側から順にデータをセットして取り込むか、取込定義を指定してインポートが可能です。また、インポート時に、既存データの処理について削除して取り込むか、残して追加・更新するかを選択することが可能です。

・エクスポート

外部ファイルへ、プリセットデータを出力します。
データは CSV ファイル、TAB 区切りのテキストファイル、プリセットファイル(プロジェクト用ファイル)の 3 形式で出力可能です。

・レイアウト生成

プリセットデータをセットし、レイアウト（呼出しデータ）を作成します。

・変更行のみ（チェックボックス）

一度レイアウト生成したプリセットデータに変更があった場合、前回レイアウト生成したときから変更があった行のみをレイアウト生成、及び、データ出力の対象とします。
データ件数が多い場合などは、変更行のみにチェックを入れることで処理時間が短縮されます。
新規に作成されたプリセットデータや、基本レイアウトに変更があった場合はチェックができません。

・データ出力（チェックボックス）

レイアウト（呼出しデータ）生成時に、同時にフォーマットファイル（*.sefmtz ファイル）を出力します。レイアウト生成とデータ出力を同時に行う場合のみ、チェックを入れてください。チェック状態は保持されません。

・プレビュー

選択された行のプレビューを表示します。

編集

・切り取り

選択された行のデータを切り取ります。

・コピー

選択された行のデータをコピーします。

・貼り付け

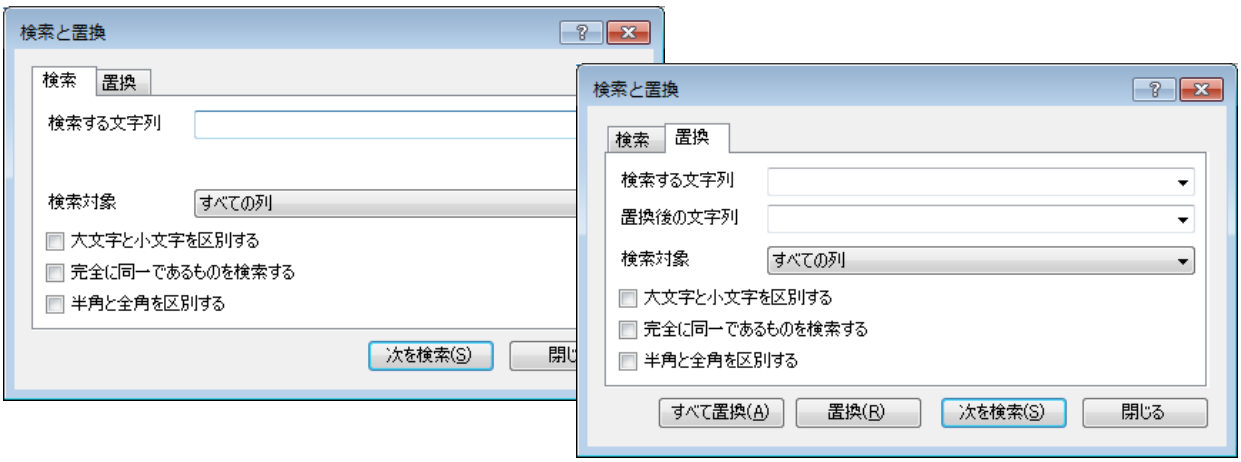
選択された行にデータを貼り付けます。

・削除

選択された行のデータを削除します。

・検索／置換

一覧表形式のプリセットデータを検索、置換できます。



・検索対象

すべての列または特定の列を指定可能です。

・大文字小文字を区別する

アルファベットの大文字小文字を区別します。

・完全に同一であるものを検索する

検索する文字列と完全に一致する値を検索します。

・半角と全角を区別する

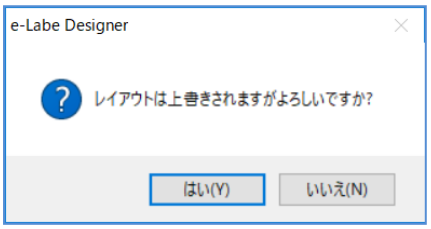
アルファベット、数字、カナ、記号の半角と全角を区別します。

・**すべて置換**
　指定した条件に合致する文字列を一括で「置換後の文字列」の値に置き換えます。

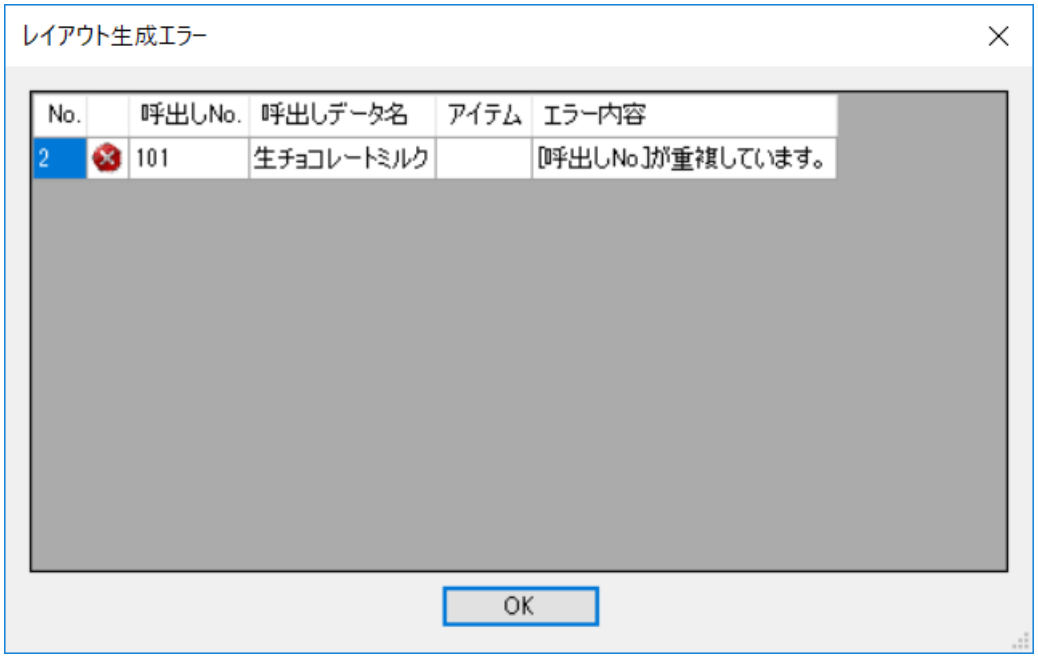
・**置換**
　選択している単一のセルに置換対象の文字列があれば「置換後の文字列」の値に置き換え、次を検索します。

・**次を検索**
　指定した条件に合致する文字列を検索します。

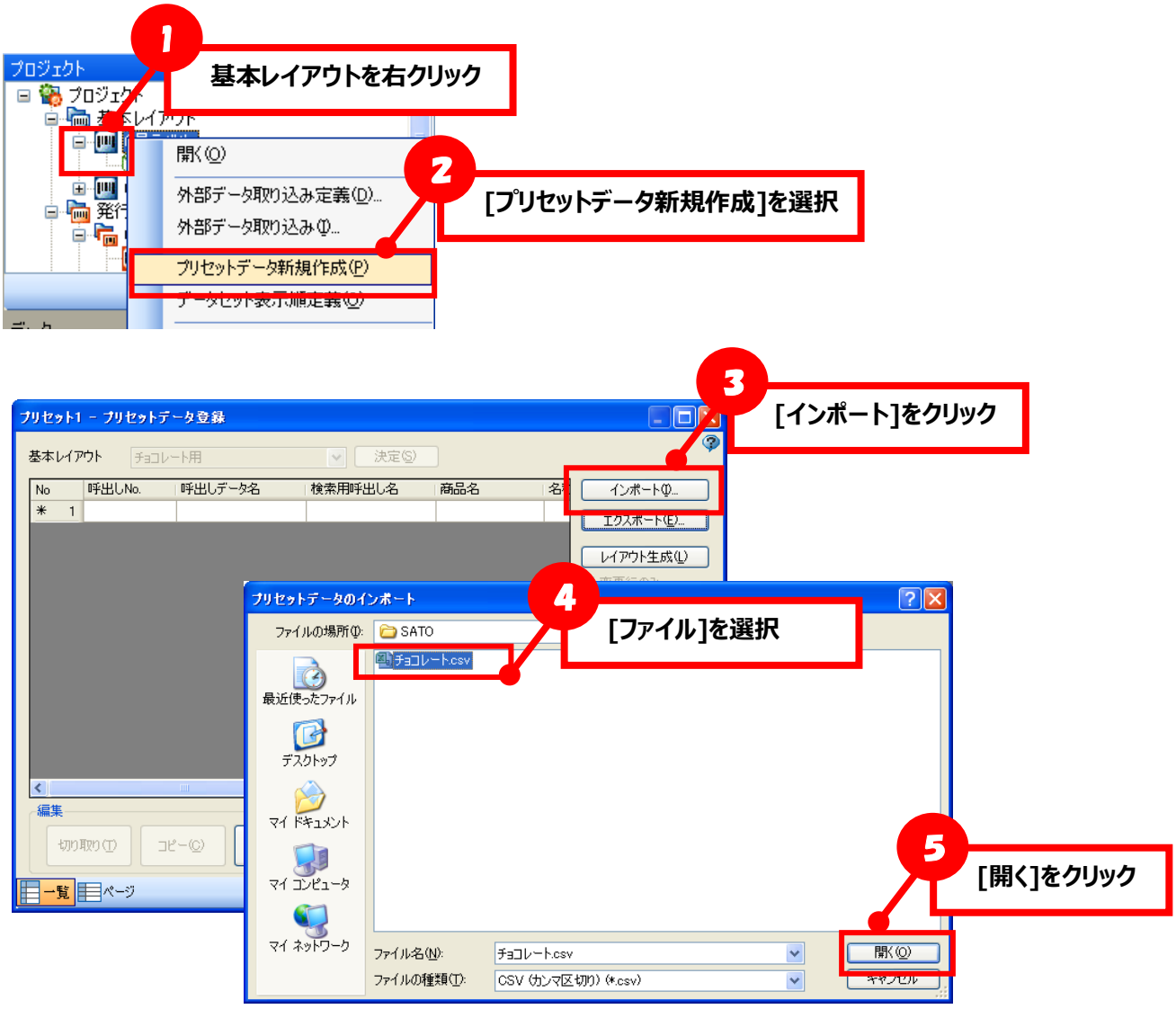
注意：同一の基本レイアウトから生成された発行レイアウトに同じ呼出し No が存在する場合には、上書き確認のメッセージが表示されます。上書きしても問題ない場合は、「はい」をクリックしてください。



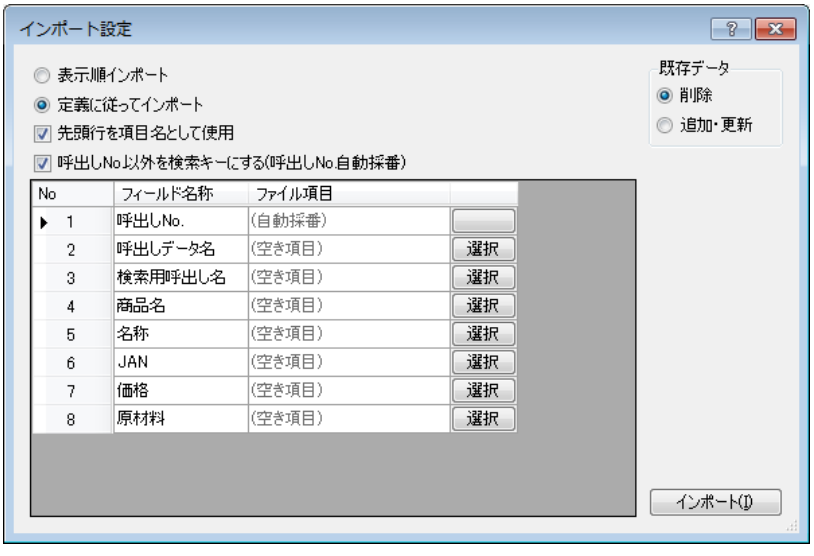
また、別の基本レイアウトから生成された発行レイアウト、もしくは新規に作成された発行レイアウトに同じ呼出し番号が存在する場合には、レイアウト生成エラーが表示となり、該当する呼出し No の発行レイアウトは生成されません。
プリセットデータの呼出し No を変更するか、既存の発行レイウアトの呼出し No を変更してください。



■プリセットデータ登録手順（定義に従ってデータをインポートする手順）



[プリセットデータのフィールドと、ファイルの項目が完全に一致した場合]⇒インポートが実行
[完全に一致しなかった場合]⇒インポートする方法を定義する「インポート設定」画面が起動



表示順インポート
指定したファイルの項目を左から順番にインポートします

定義に従ってインポート
指定したファイルの項目と、プリセットデータのフィールドの紐付け定義を行い、定義に沿ってインポートします。

先頭行を項目名として使用（チェックボックス）

「定義に従ってインポート」選択時にチェック機能が有効となります。

チェックを有効にすると、インポートするファイルの１行目は項目名として認識し、データには反映しません。

呼出し No 以外を検索キーにする（呼出し No 自動採番）（チェックボックス）

「定義に従ってインポート」選択時で且つ、レイアウト内にバーコード検索項目が設定されている場合にチェック機能が有効となります。

チェックを有効にすると、インポート時、呼出し No が自動で採番されます。

既存データ（ラジオボタン）

既存データの処理を選択します。

[削除]　既存データを全て削除し、取り込みます

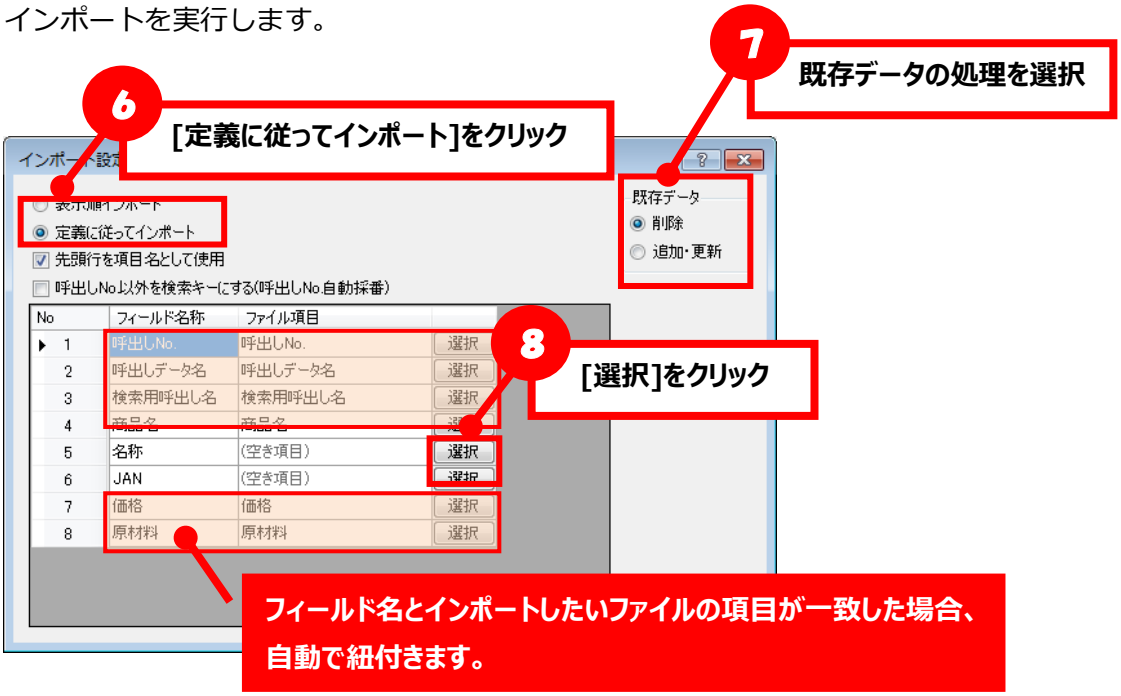
[追加・更新] 既存データは残し、No.が同一のデータがあれば更新、無ければ追加します

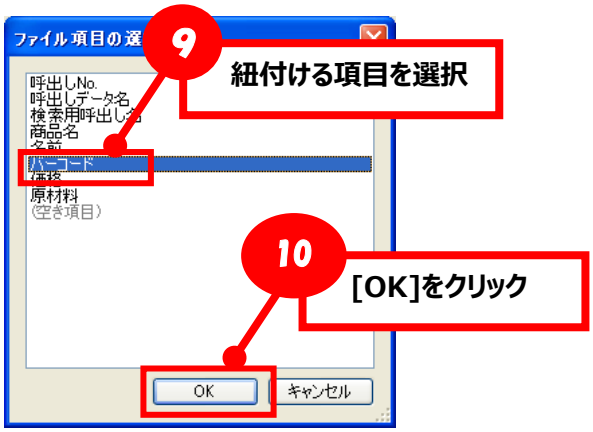
選択ボタン

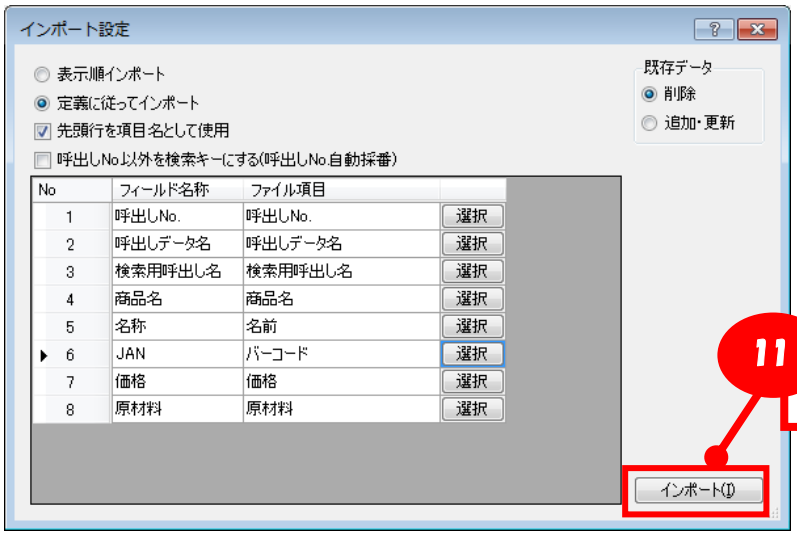
プリセットデータのフィールドとインポートするファイル項目の紐付け画面を開きます。

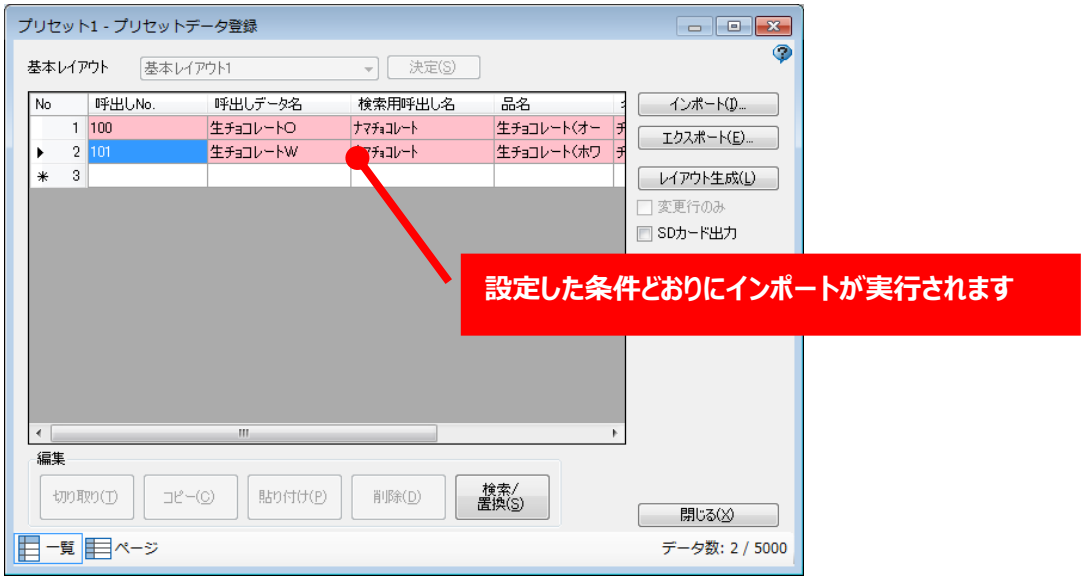
インポートボタン

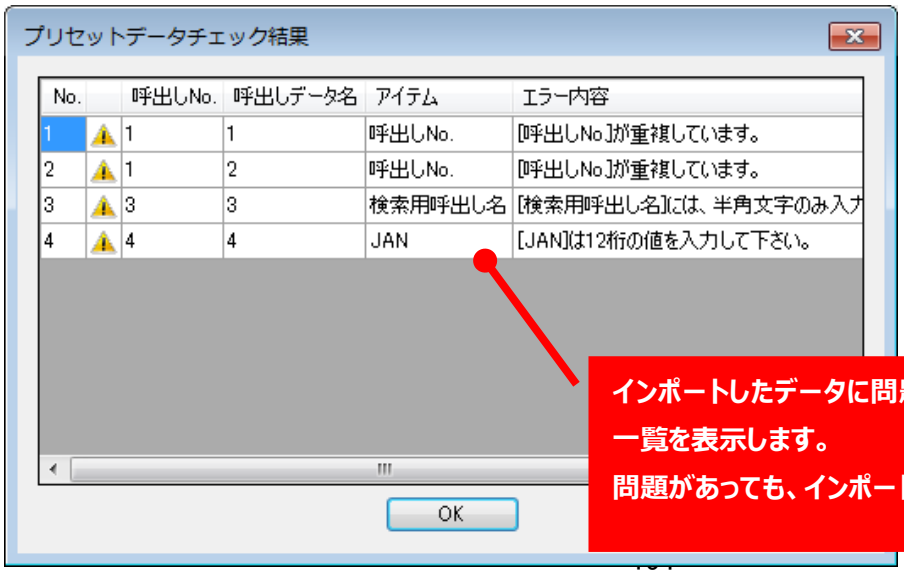
インポートを実行します。



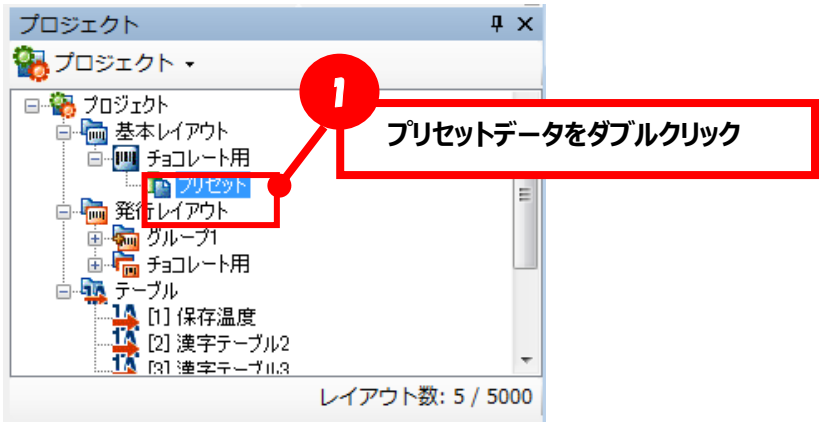


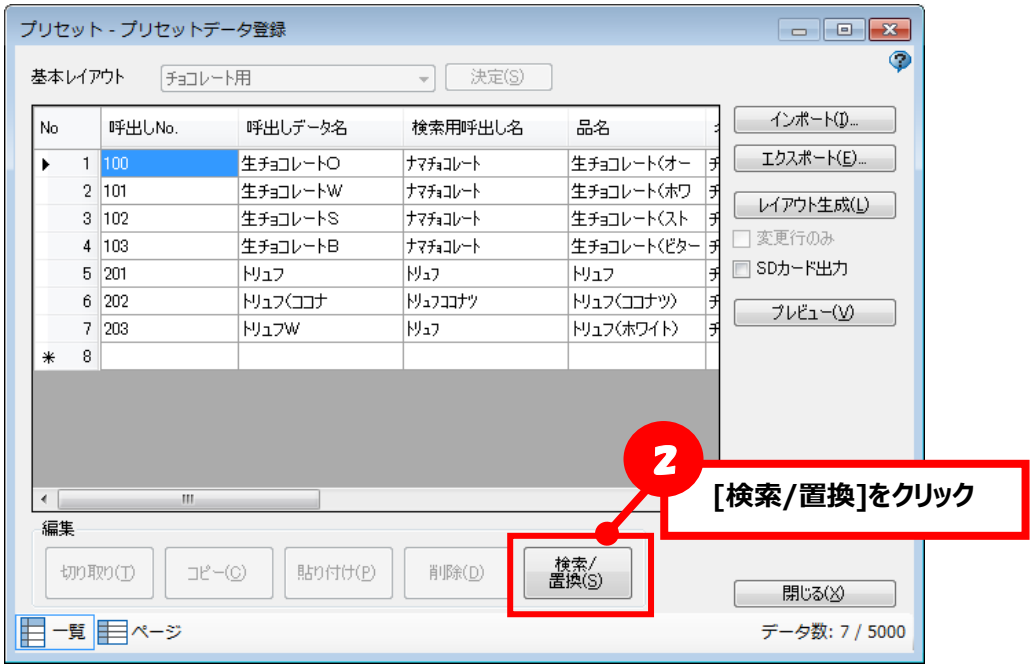

インポート設定
表示順インポート
定義に従ってインポート
先頭行を項目名として使用
呼出しNo以外を検索キーにする(呼出しNo自動採番)
既存データ
削除
追加・更新
No
フィールド名称
ファイル項目
1 呼出しNo. 呼出しNo. 選択
2 呼出しデータ名 呼出しデータ名 選択
3 検索用呼出し名 検索用呼出し名 選択
4 商品名 商品名 選択
5 名称 名前 選択
6 JAN バーコード 選択
7 価格 価格 選択
8 原材料 原材料 選択
インポート(I)
11
[インポート]をクリック


プリセット1 - プリセットデータ登録
基本レイアウト
基本レイアウト1
決定(S)
No
呼出しNo.
呼出しデータ名
検索用呼出し名
品名
1 100 生チョコレートO 生チョコレート(オー
2 101 生チョコレートW 生チョコレート(ホワ
3
インポート(I)...
エクスポート(E)...
レイアウト生成(L)
変更行のみ
SDカード出力
設定した条件どおりにインポートが実行されます
編集
切り取り(T)
コピー(C)
貼り付け(P)
削除(D)
検索/置換(S)
閉じる(X)
一覧
ページ
データ数: 2 / 5000

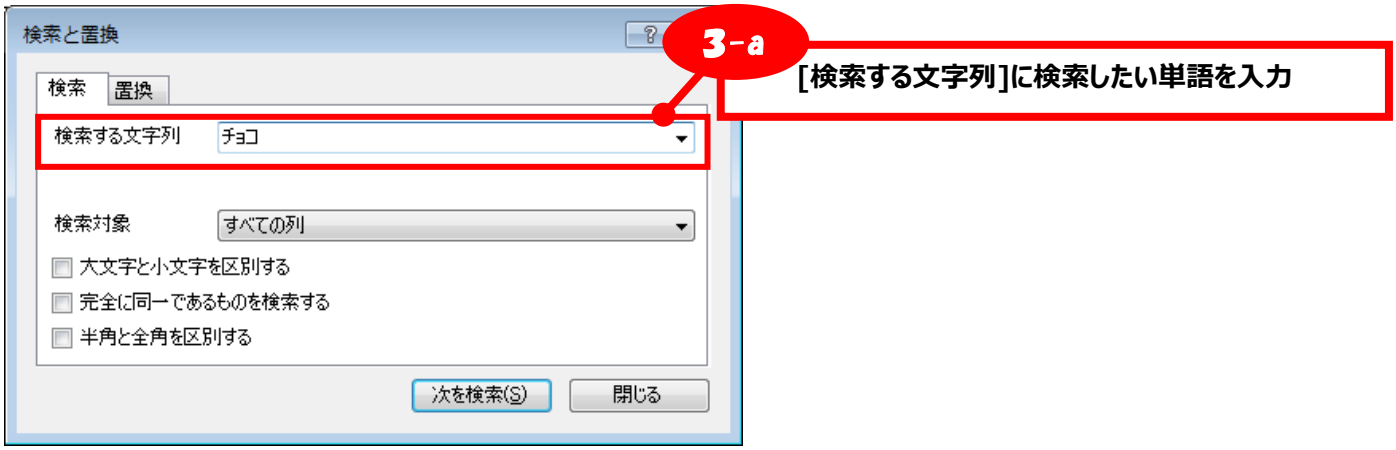

プリセットデータチェック結果
No.
呼出しNo.
呼出しデータ名
アイテム
エラー内容
1 1 1 呼出しNo. [呼出しNo]が重複しています。
2 1 2 呼出しNo. [呼出しNo]が重複しています。
3 3 3 検索用呼出し名 [検索用呼出し名]には、半角文字のみ入力
4 4 4 JAN [JAN]は12桁の値を入力して下さい。
OK
インポートしたデータに問題がある場合はチェック一覧を表示します。
問題があっても、インポートは実行されます。

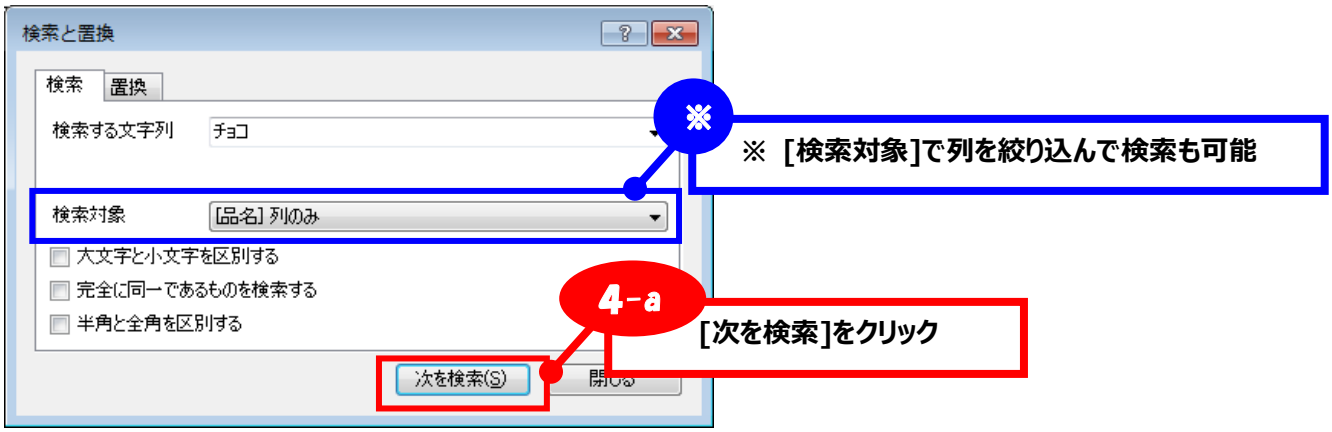
■プリセットデータの検索/置換手順

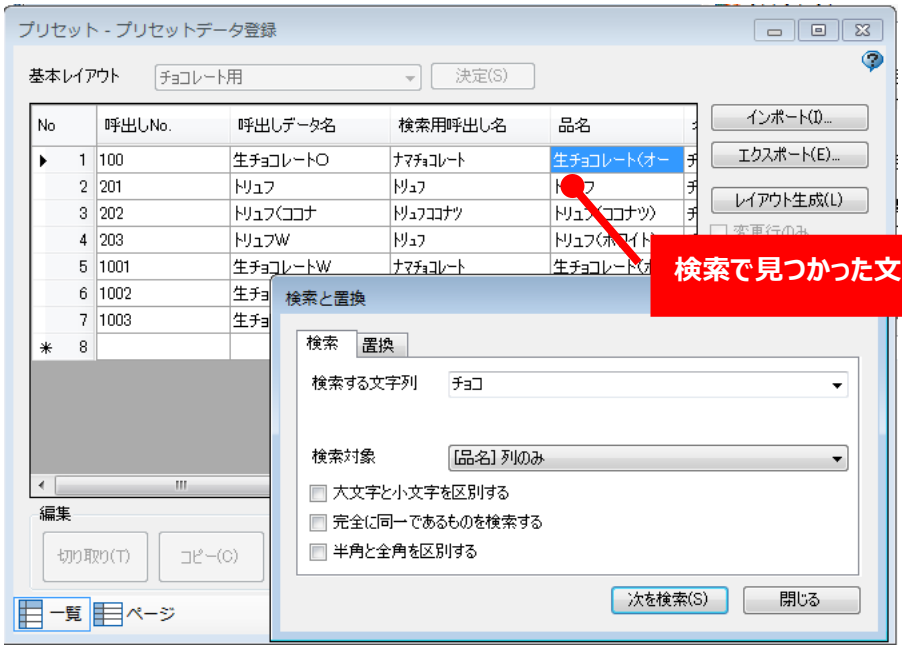


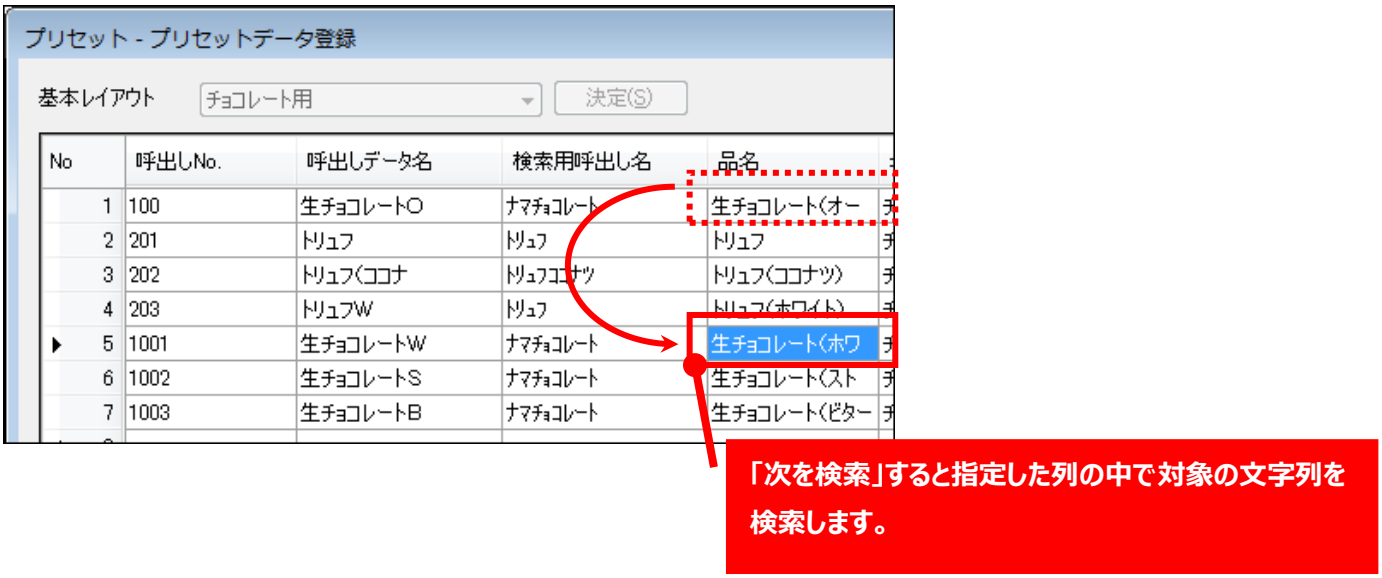


<検索>

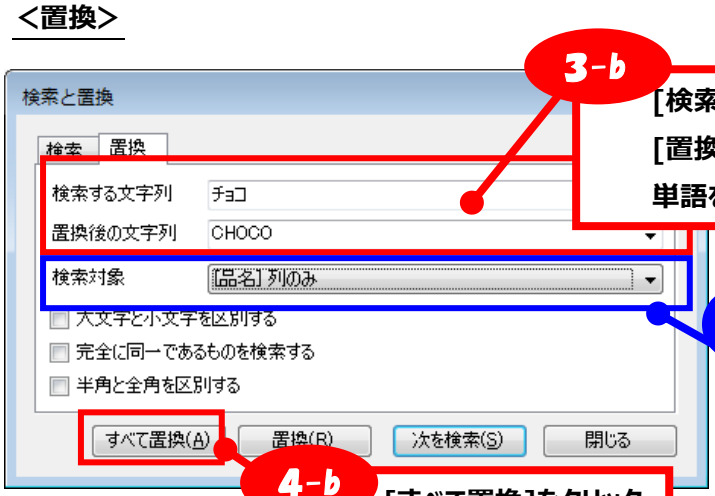



検索と置換
検索
置換
検索する文字列
チョコ
検索対象
[品名] 列のみ
大文字と小文字を区別する
完全に同一であるものを検索する
半角と全角を区別する
次を検索(S)
閉じる
※
※ [検索対象]で列を絞り込んで検索も可能
4-a
[次を検索]をクリック


プリセット - プリセットデータ登録
基本レイアウト
チョコレート用
決定(S)
No
呼出しNo.
呼出しデータ名
検索用呼出し名
品名
インポート(I)...
エクスポート(E)...
レイアウト生成(L)
検索と置換
検索
置換
検索する文字列
チョコ
検索対象
[品名] 列のみ
大文字と小文字を区別する
完全に同一であるものを検索する
半角と全角を区別する
次を検索(S)
閉じる
編集
切り取り(T)
コピー(C)
一覧
ページ
検索で見つかった文字列にカーソルがセットされます。


プリセット - プリセットデータ登録
基本レイアウト
チョコレート用
決定(S)
No
呼出しNo.
呼出しデータ名
検索用呼出し名
品名
1 100 生チョコレートO ナマチョコレート 生チョコレート(オー
2 201 トリュフ トリュフ トリュフ
3 202 トリュフ(ココナ トリュフココナツ トリュフ(ココナツ)
4 203 トリュフW トリュフ
5 1001 生チョコレートW ナマチョコレート 生チョコレート(ホワ
6 1002 生チョコレートS ナマチョコレート 生チョコレート(スト
7 1003 生チョコレートB ナマチョコレート 生チョコレート(ビター
「次を検索」すると指定した列の中で対象の文字列を検索します。

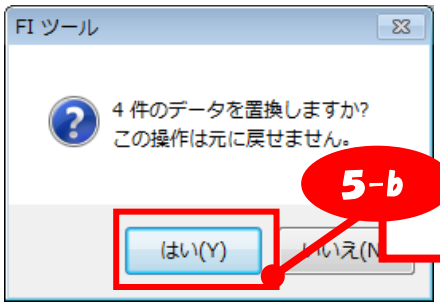
<置換>



3-b [検索する文字列]に検索したい単語を入力
[置換後の文字列]に検索した単語を置き換える単語を入力

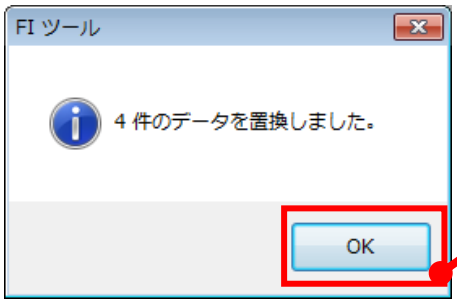
※ ※ [検索対象]で列を絞り込んで置換も可能

4-b [すべて置換]をクリック

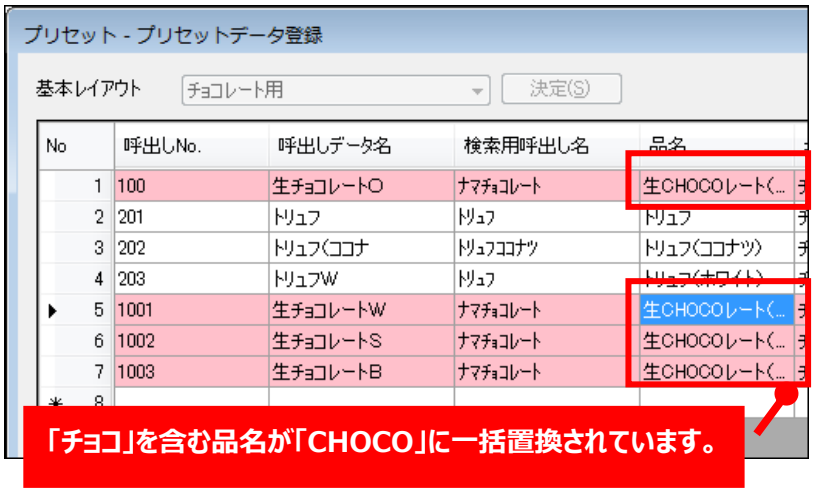


プリセットデータの置換は元に戻せません。
置換後に取り消したい場合は、プリセットデータ登録画面を保存せずに閉じて、再度やり直してください。

5-b [はい]をクリック



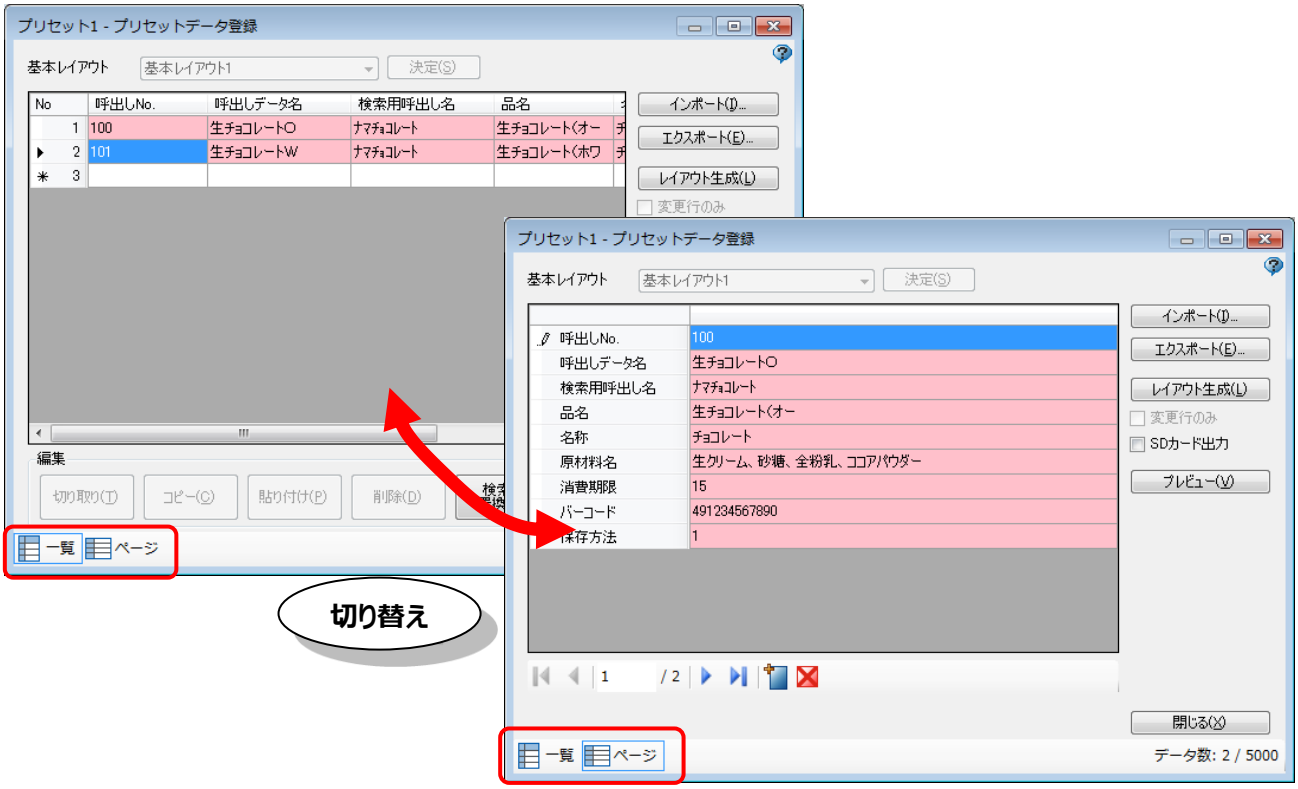
6-b [OK]をクリック



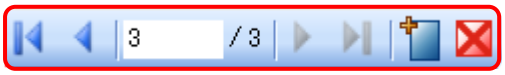
「チョコ」を含む品名が「CHOCO」に一括置換されています。

プリセット登録画面の表示形式の切替機能

一行に多数の項目の入力を行う場合、全項目の入力データを確認するために画面をスクロールしなければなりません。
しかし、画面下部のページ表示タブに切り替えることで、呼出しNo.の入力内容を一ページで表示させることができ、各項目のデータを確認しながら、プリセットデータの入力を行う事ができます。



ページ切り替え操作



・最初に移動
1 ページ目に戻ります。

・前に戻る
前のページに戻ります。

・現在の場所
表示中のページ番号を表示します。数値を入力すると、その番号のページを画面に表示します。

・総数
プリセットに登録されている、ページの総数を表示します。

・次に移動
次のページに進みます。

・最後に移動
最後のページに進みます。

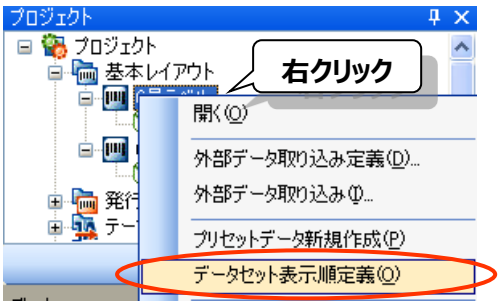
・新規追加
ページを新規に追加します。

・削除
表示中のページを削除します。
※「検索／置換」機能は、ページ形式での表示時は無効です。

6.データセット表示順定義

プリセットデータの登録画面では、該当するオブジェクトを画面に貼り付けた順に項目が表示されます。
プリセット登録画面での、項目の表示順番を変更したい場合は、「データセット表示順定義」操作より行うことができます。

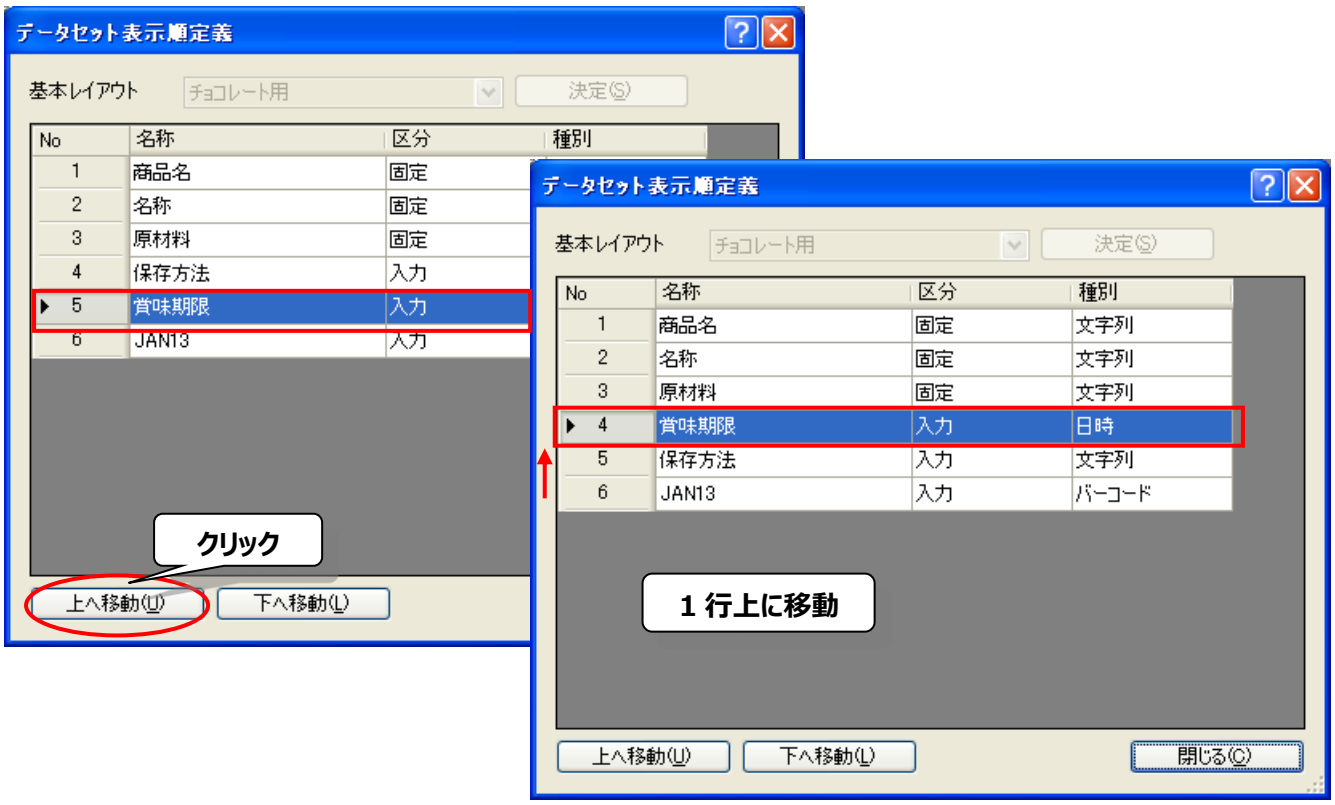
1.プロジェクトウィンドウで対象となる基本レイアウトを右クリックします。
メニューから「データセット表示順定義」を選択します。



メニューバーの「データ」＞「プリセット表示順定義」でも、操作可能です。

2.順番を変更する行を選択します。

3.「上へ移動」、「下へ移動」のボタンをクリックし、表示順番を変更します。



4.「閉じる」ボタンで画面を閉じます。

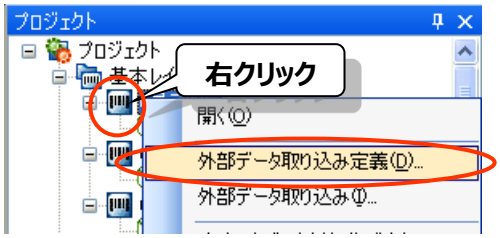
※既にプリセットデータを登録した基本レイアウトの表示順番を変更した場合、登録されたデータの項目の順番も変更されます。

7.外部データ取り込み定義

レイアウト生成用のデータを外部のファイルから取り込む時、プリセット項目と外部ファイルの項目を紐付けて取り込むことができます。

※外部データ取り込み定義メニューが表示されない場合は、「メニューバー」＞「ツール」＞「設定」＞「オプション」画面の「外部データ取り込みメニューを表示」チェック BOX を有効にしてください）

1.プロジェクトウィンドウで対象となる基本レイアウトを右クリックします。
メニューから「外部データ取り込み定義」を選択します。

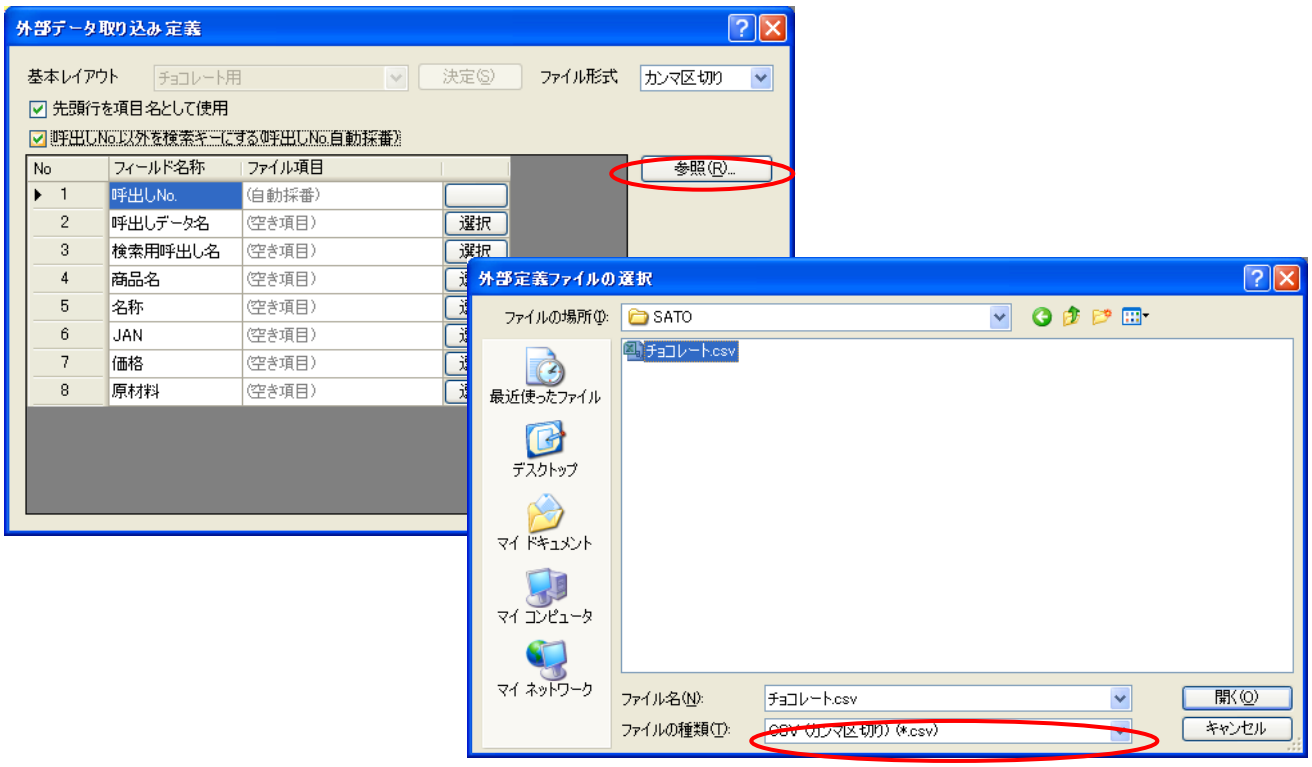


「メニューバー」＞「データ」＞「外部データ取り込み定義」でも操作可能です。

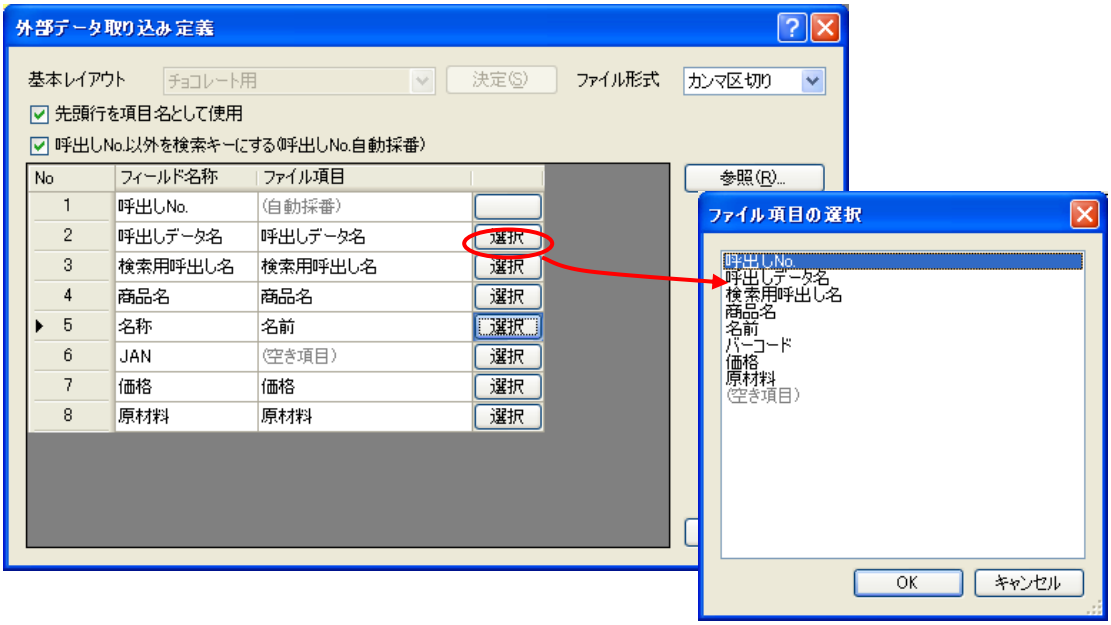
2.対象となる基本レイアウトをリストから選択し、「決定」ボタンをクリックしてください。（メニューバーから操作した場合）

3.ファイル形式をリストから選択してください。
選択できるファイル形式は、**固定長**、**タブ区切り**、**カンマ区切り**のデータです。

【タブ区切り、カンマ区切りのデータを選択した場合】
4.「参照」をクリックし、取り込み対象となるファイルを選択します。
★インポートするファイルの先頭行を、項目名として認識させる場合は「先頭行を項目名として使用」のチェックを有効にしてください。

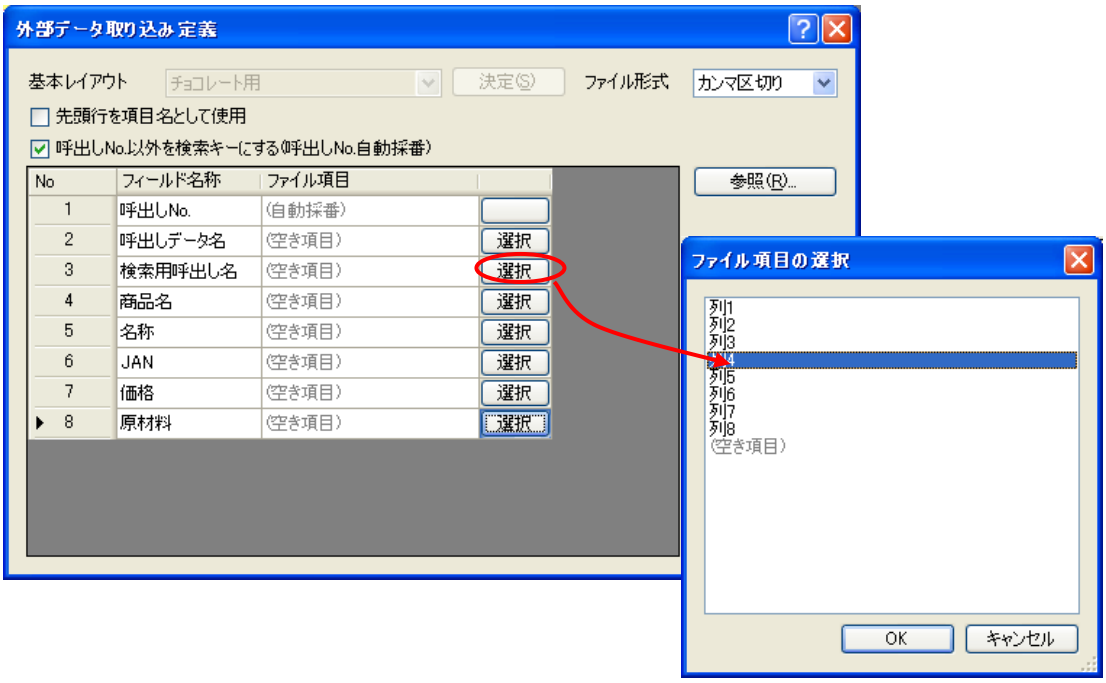


5.参照したファイルの項目と、プリセットデータのフィールドの紐付設定を行います。



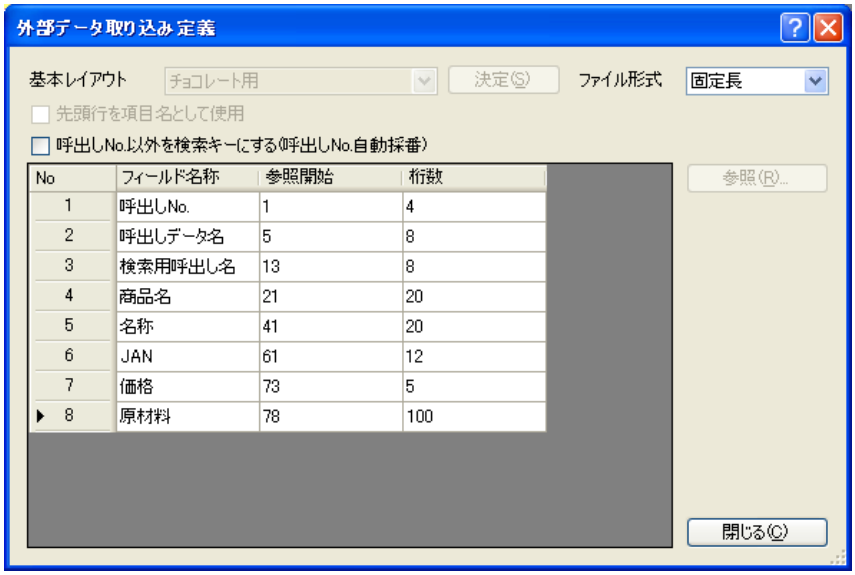
「先頭行を項目名として使用」を有効にした場合、参照したファイルの項目名とプリセットデータのフィールド名称が一致したものは、自動で紐付設定が行われます。
ファイル項目の選択画面では、インポートされたデータの項目が表示されますので、別のフィールドと紐付ける場合は、選択ボタンをクリックして、紐付ける項目を選択してください。
紐付けが完了したら、「閉じる」ボタンをクリックし保存して画面を閉じてください。

「先頭行を項目名として使用」を無効にしている場合、参照したファイルは１行目からすべてデータとして扱います。
　プリセットデータのフィールドと、ファイルの項目との紐付は、項目名が無いため、「列 1」「列 2」という列名から選択してください。



【固定長を選択した場合】

4.取り込むファイル項目の参照開始桁と取り込む桁数を設定します。



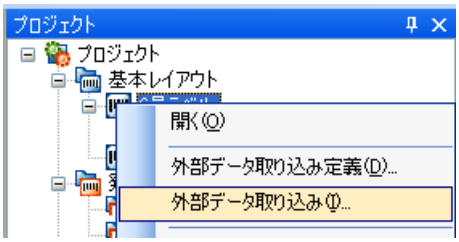
No	フィールド名称	参照開始	桁数
1	呼出しNo.	1	4
2	呼出しデータ名	5	8
3	検索用呼出し名	13	8
4	商品名	21	20
5	名称	41	20
6	JAN	61	12
7	価格	73	5
8	原材料	78	100

全ての項目の設定が終わったら、「閉じる」ボタンをクリックし、保存して画面を閉じてください。

8.外部データ取り込み

外部データ取込定義画面で設定した形式のデータを実際に取り込んで、発行レイアウトを生成します。

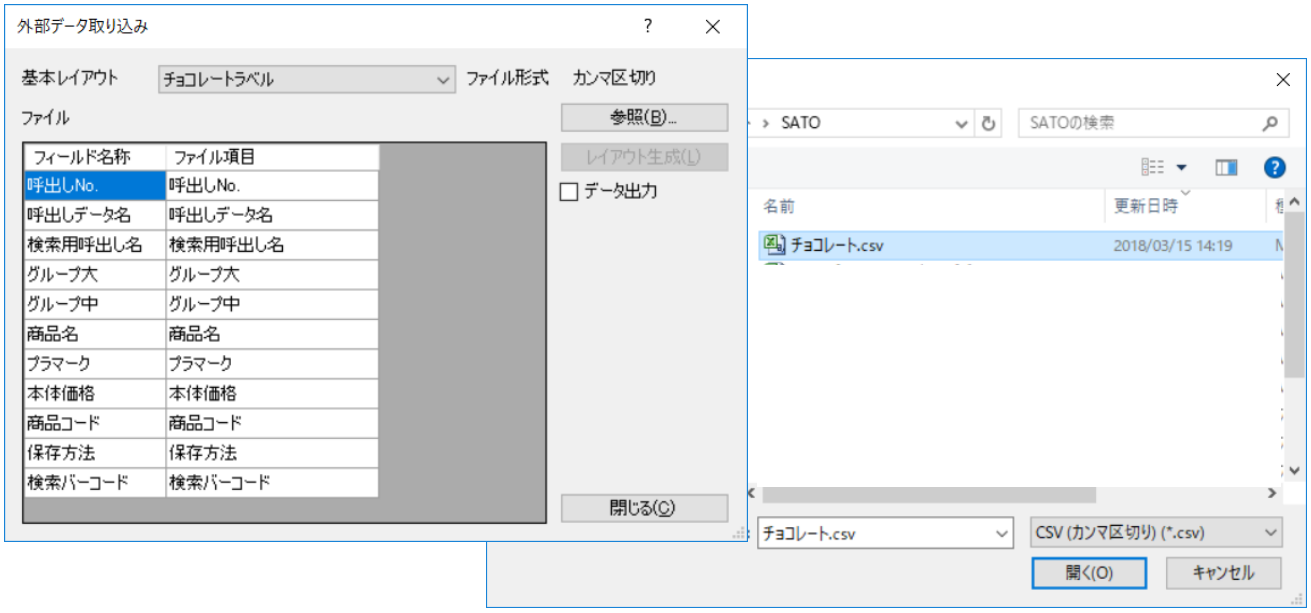
1.プロジェクトウィンドウで対象となる基本レイアウトを右クリックします。
メニューから「外部データ取り込み」を選択します。



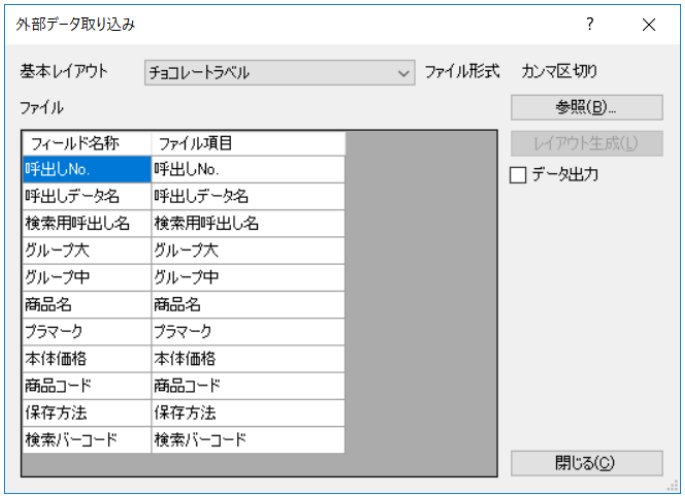
「メニューバー」＞「データ」＞「外部データ取り込み」でも操作可能です。

2.対象となる基本レイアウトをリストから選択し、「決定」ボタンをクリックしてください。（メニューバーから操作した場合）

3.参照ボタンを押し、取込対象となるファイルを選択します。

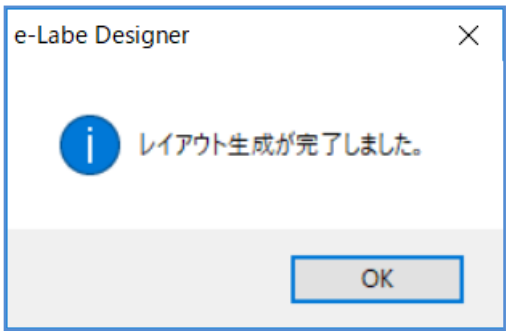


4.ファイルを選択後、レイアウト生成ボタンをクリックします。
データ出力も同時に行う場合は、データ出力のチェックボックスにチェックを入れます。



チェック状態は保持されません。
データ出力にチェックを入れた場合、データ出力先ウィンドウが表示されます。

5.メッセージが表示されますので、「OK」ボタンを押して作業を終了します。



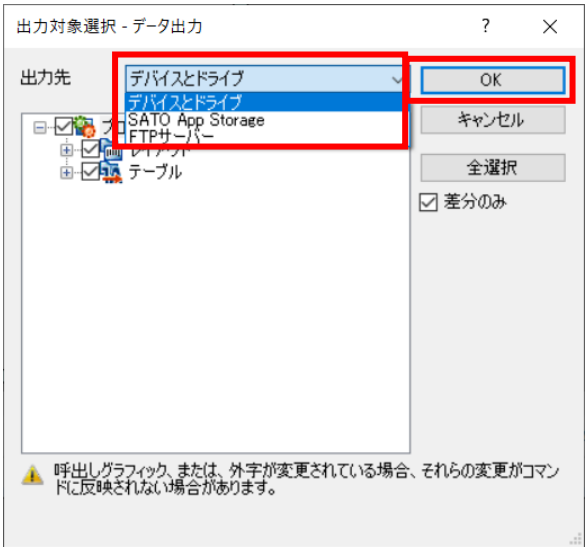
9.データ出力

Designer で作成した、発行レイアウトデータ、テーブルデータを e-Labe Print 用フォーマットファイル（*.sefmtz ファイル）に出力する機能です。

1. データ出力ボタンをクリックします。



2. 出力先を選択し、OK をクリックします。



■出力先：**「デバイスとドライブ」、「機種名（MTP デバイス）」、「SATO App Storage」、「FTP サーバー」**から選択します。

- **「デバイスとドライブ」**
  パソコン内の指定したフォルダにファイルを保存します。
- **「機種名（MTP デバイス）」**
  USB ケーブルでパソコンと MTP デバイス（FX3-LX や Android タブレット）が接続されている場合にリストに表示されます。MTP デバイスの SATO> FormatFiles フォルダにファイルを書き込みます。
  ※MTP デバイスを「ファイル転送」モードで接続してください。
  ※複数接続されている場合はエラーとなります。複数の端末に出力したい場合も一台ずつ接続してください。
- **「SATO App Storage」「FTP サーバー」**
  各種サーバーに直接ファイルをアップロードします。

【出力先プロファイルの表示について】
ツール設定のプロファイル設定であらかじめ出力先情報を登録している場合は、リストに表示されます。



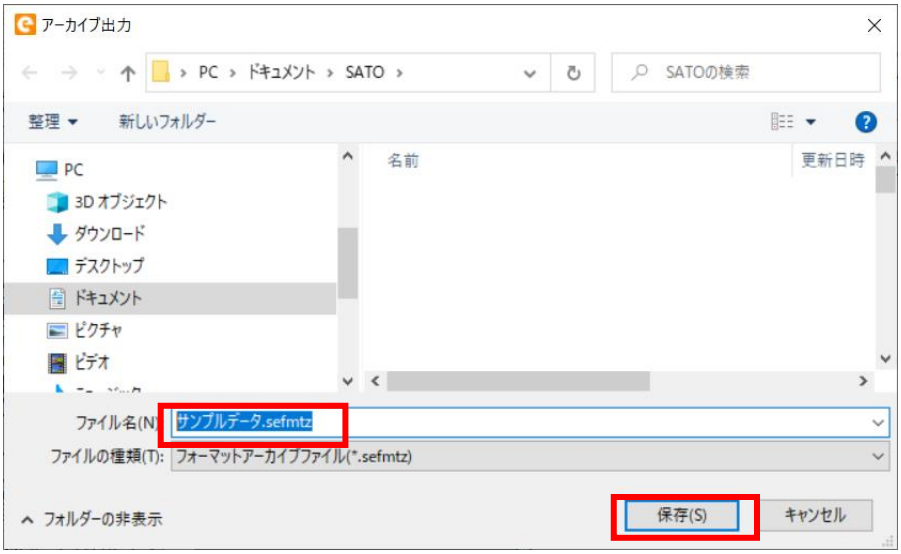
■差分のみ：前回データ出力時から変更があったデータのみ出力データを再作成します。チェックを外すと全データを再作成するため差分のみと比較して時間がかかります。

注意：外字データはデータ出力選択の対象となりません。外字データは、レイアウトの一オブジェクトとして、出力データに含まれます。データ出力すると、出力先のデータは書き換えられます。

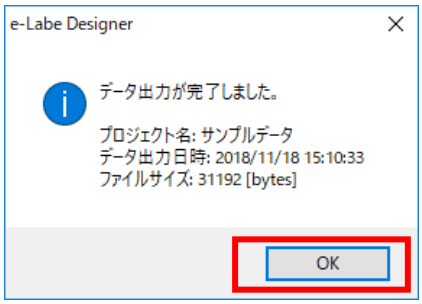
●デバイスとドライブの場合

出力先選択画面が開きます。

1. 出力先ドライブを選択します。
2. ファイル名を入力し、保存します。



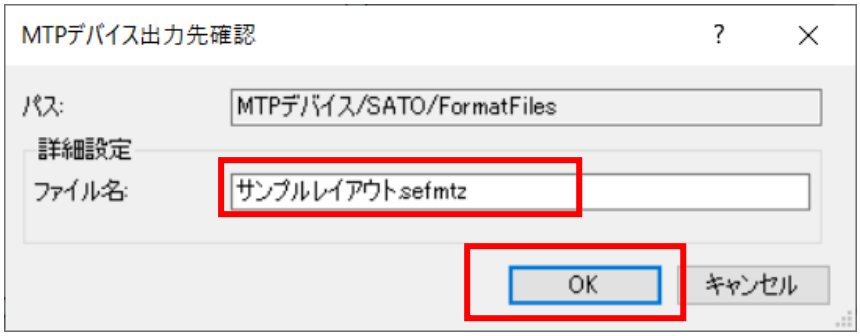
3. 出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。



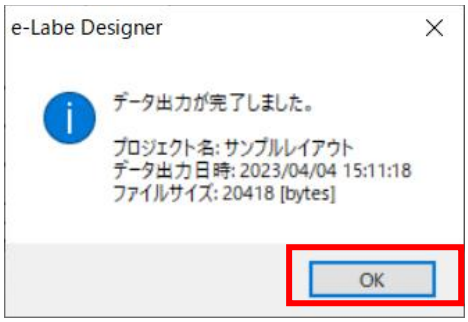
●MTP デバイスの場合

MTP デバイス出力先確認が開きます。

1. ファイル名を入力し、OK をクリックします。



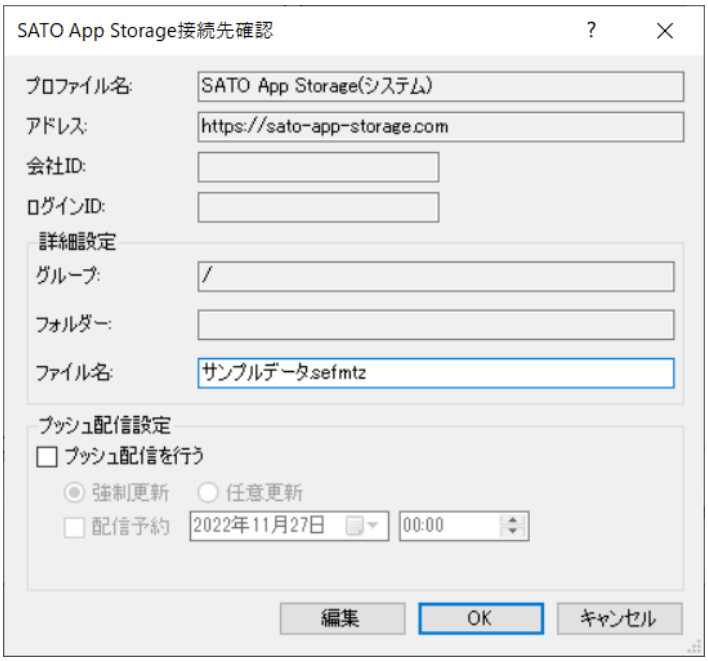
2. 出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。



●SATO App Storage の場合

SATO App Storage 接続先確認が開きます

1. 編集ボタンをクリックします。



2. 各種項目を入力します。



【グループについて】
SATO App Storage で設定したグループ情報を取得し、ログイン ID 配下のグループを指定してデータ出力が可能です。
初期値「/」の場合、ログイン ID と同じ階層にデータが出力されます。

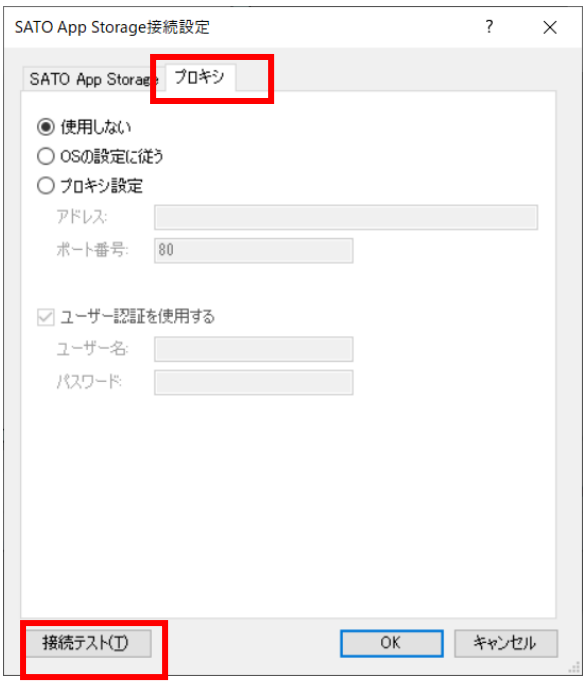
【フォルダーについて】
ログイン ID、グループで指定した階層にフォルダーを作成し出力します。
「フォルダー」の設定は任意です。

3.　プッシュ配信の各種設定（初期値）を入力します

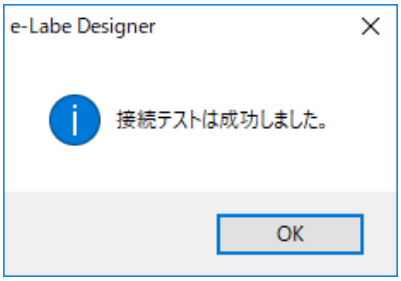
※SAS 接続設定画面で設定した値は、次回以降も反映されます。
毎回プッシュ配信を行わない場合は、この画面の設定は省略可能です。

各項目の詳細は、「7. 特別な操作-9. ツール設定-■SATO App Storage タブ」をご参照ください

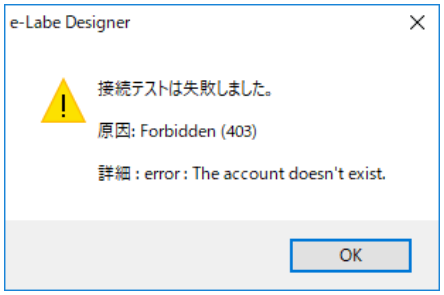
4.　プロキシタブをクリックします。必要に応じてプロキシ情報を入力し「接続テスト」をおこないます。



【接続テスト成功時】



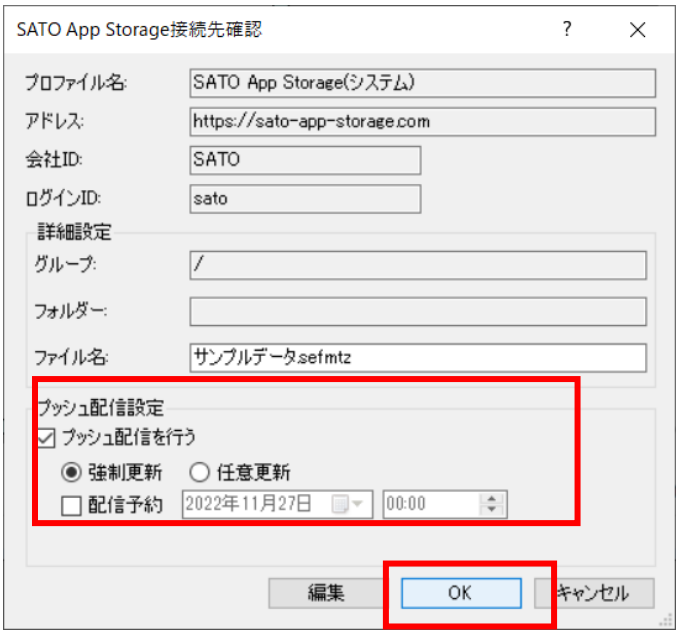
【接続テスト失敗時の一例】



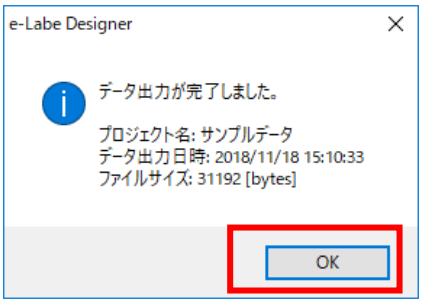
5. 「OK」をクリックします。



6. プッシュ配信設定に変更が必要な場合は入力し「OK」をクリックします。



7. 出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。



※以下のダイアログが表示された場合、配信予約日時を 60 分以上先に指定して再度データ出力を行ってください。



SATO App Storage の接続設定は、「データ出力」画面からだけでなく、メニューバーの「ツール」＞「設定」の「ツール設定」画面の「SATO App Storage」タブでも可能です。



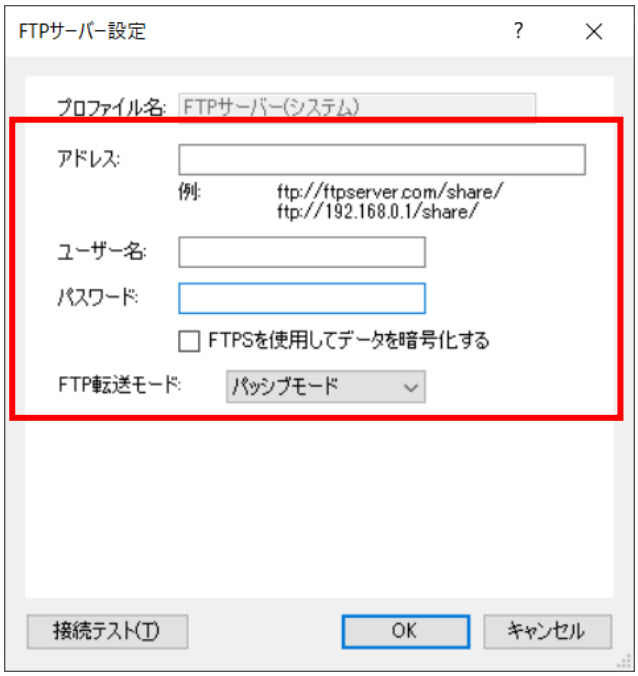
●FTP サーバーの場合

FTP サーバーの接続先確認が開きます

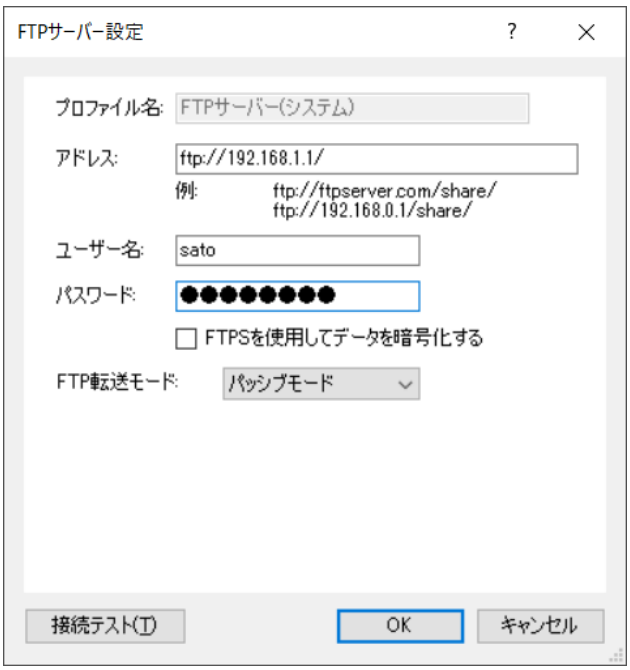
1. 編集ボタンをクリックします。



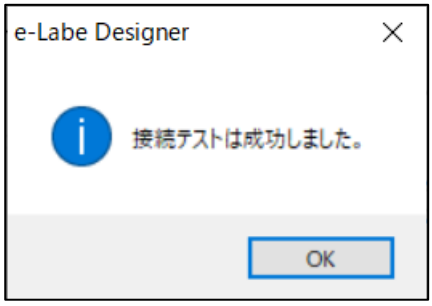
2. 各種項目を入力します。



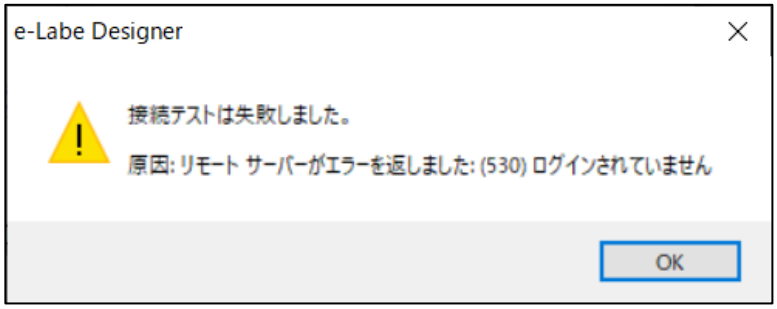
3. 必要に応じて「接続テスト」をおこないます。



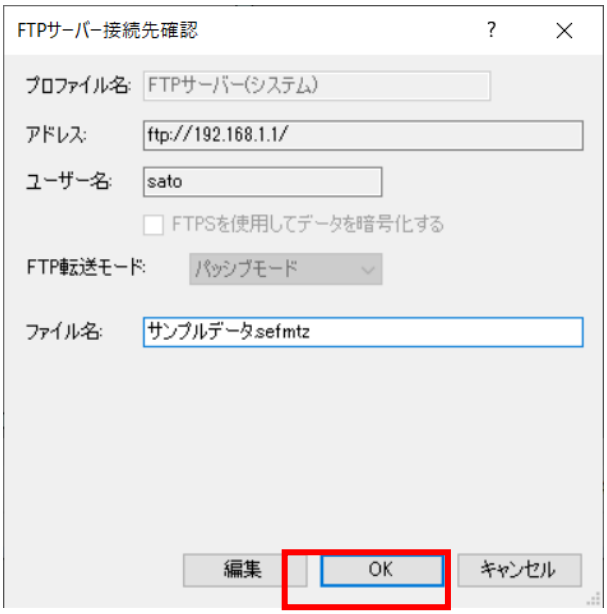
【接続テスト成功時】



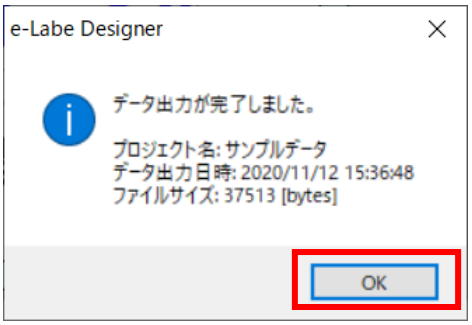
【接続テスト失敗時の一例】



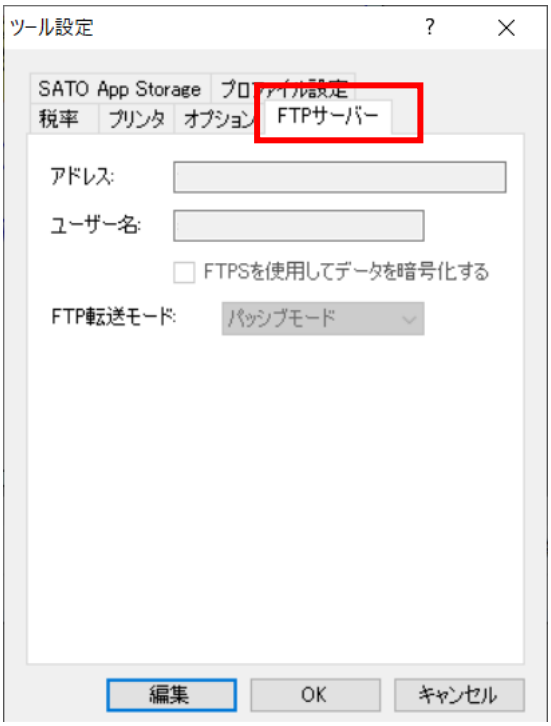
4. 「OK」をクリックします。
5. FTP 接続先確認画面で「OK」をクリックします。



6. 出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。



FTP の接続設定は、「データ出力」画面からだけでなく、メニューバーの「ツール」＞「設定」の「ツール設定」画面の「FTP サーバー」タブでも可能です。



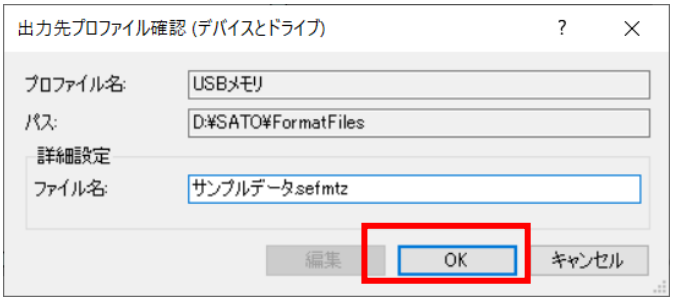
●プロファイル設定の場合

各種プロファイルの出力先に応じた画面が開きます。

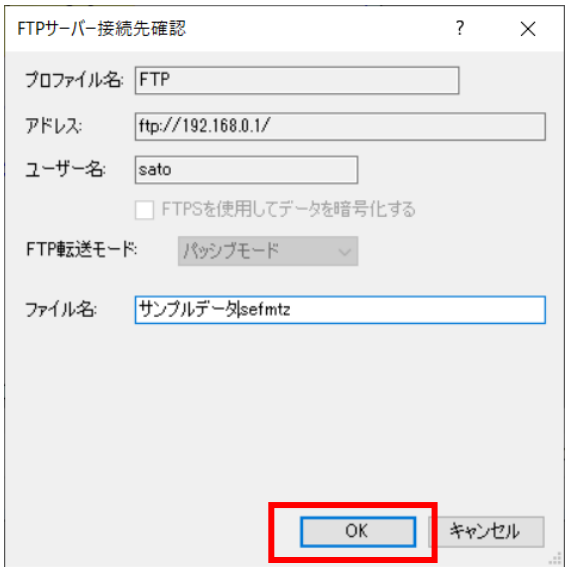
1.　出力先情報を確認し「OK」をクリックします。

※プロファイルの場合、データ出力時に編集はできません。ツール設定の「プロファイル設定」から編集をしてください。

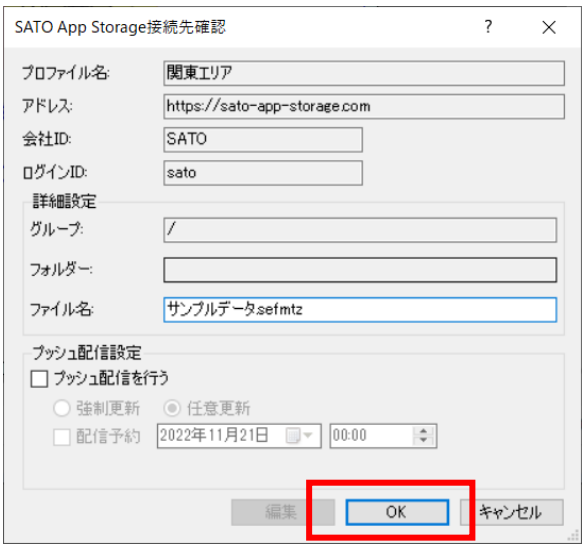
[デバイスとドライブのプロファイル選択時]



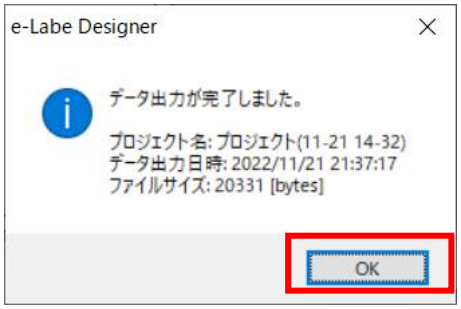
[FTP サーバーのプロファイル選択時]



[SATO App Storage のプロファイル選択時]



2.　出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。

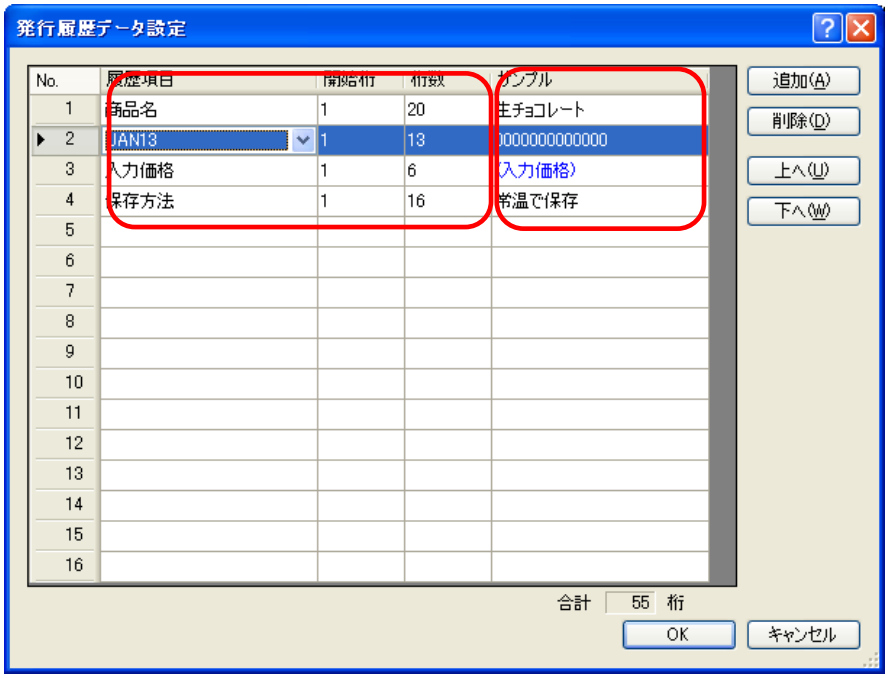


10.発行履歴データ設定

プリンタ発行時に出力する発行履歴の出力項目を任意に設定することができます。設定はレイアウトごとに可能です。
実際に出力される履歴データにはこの画面で設定した項目の先頭に、発行日時等の固定の履歴項目が付加されます。先頭に付加される項目は「固定出力項目について」を参照してください。

※発行履歴を出力するためには、e-Labe Print 設定で「発行履歴」を「ON」にする必要があります

設定できるデータは**最大 99 項目、 1 項目の最大桁数 1,000 桁、各項目を合計した桁数が 5,000 桁以内**となります。



・追加
登録したデータとデータの間に新しく行を追加します。

・削除
指定した行を削除します。

・上へ
指定した行を上へ移動できます。

・下へ
指定した行を下へ移動できます。

・合計桁数
設定した項目の合計桁数を表示します。最大合計桁数は 256 桁です。

サンプルの表示内容は、レイアウト上のオブジェクトの状態や、初期値（入力値）の入力有無によって変わります。
以下に、サンプル表示内容の詳細条件を記載します。

■サンプルの表示条件

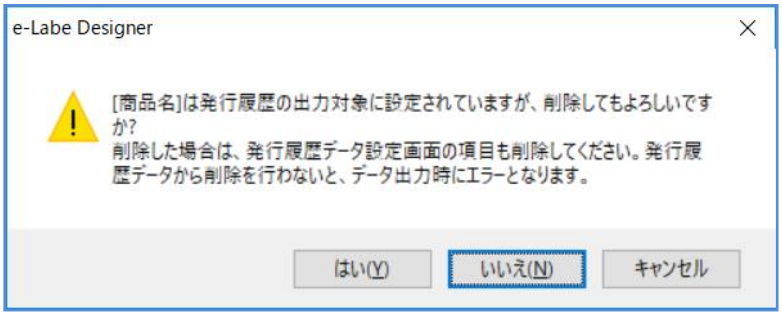
表示条件		サンプルの表示
レイアウトのオブジェクトが正常	初期値（入力値）あり	黒字：初期値（入力値）が表示
	初期値（入力値）なし	青字：オブジェクト名が（）付で表示
レイアウトのオブジェクトがエラー	範囲外エラー	正常の場合と同じ条件で表示
	それ以外のデータ出力が不可能なエラー	赤字：エラー表示
レイアウトのオブジェクトが削除		赤字：エラー表示



※履歴出力に設定されているオブジェクトの削除について

履歴出力項目に設定されているオブジェクトを削除するときは、以下のような警告メッセージが表示されます。

レイアウト上のオブジェクトを削除しても、発行履歴データの設定は削除されず、エラーの状態のまま残りますので、メッセージのとおり発行履歴データからも削除が必要です。



■固定出力項目について

ラベル発行時に固定で出力される履歴項目は以下です。

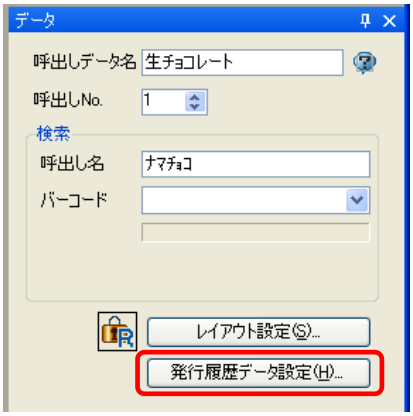
発行指示日	発行指示時間	発行完了日※	発行完了時間※	呼出し No.	発行指示枚数	発行完了枚数※
YYYY-MM-DD	hh:mm:ss	YYYY-MM-DD	hh:mm:ss	0001	000001	000001

※の付いた項目は、以下のいずれかの条件に合致する場合に値がセットされます
（条件に合致しない場合は値が空の状態で出力されます）

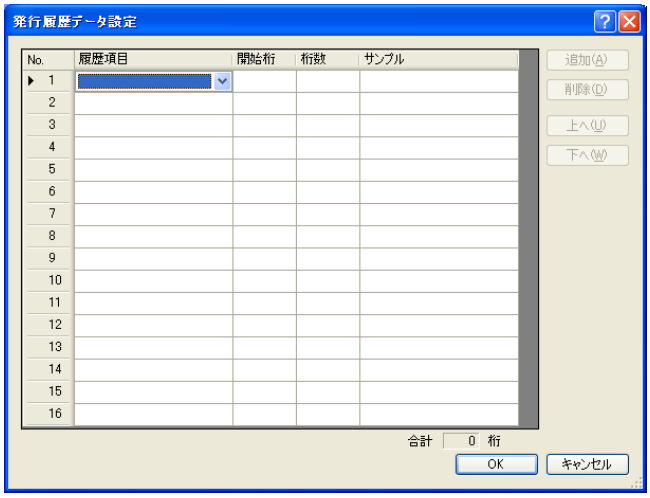
・リアルタイム発行が有効な日時を含むレイアウトを発行した場合
・e-Labe Print の設定で「枚数カウント表示」が有効な場合

発行履歴データ保存指定手順

1.レイアウトのプロパティ画面（データウィンドウ）を表示し「発行履歴データ設定」ボタンをクリックしてください。



2.発行履歴データ設定画面が開きます。



3.履歴項目に出力したいオブジェクトを一覧から選択し、開始桁、桁数を入力します。
サンプル欄に選択したオブジェクトのプレビュー表示がされます。
赤字で「エラー」と表示された場合は、元のオブジェクトがエラーとなっているか、既に削除されている可能性があります。
※サンプルの表示条件は、本章の「■サンプルの表示条件」を参照ください。



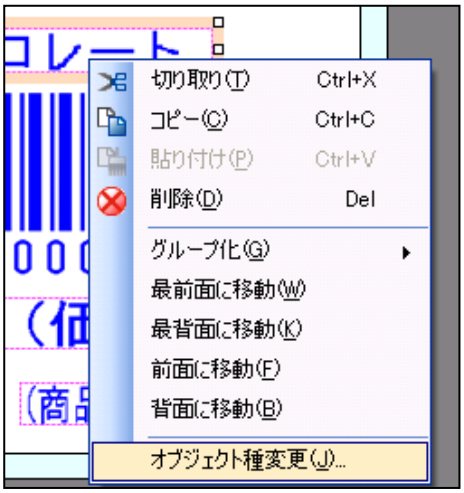
各項目の最大桁数：64 桁
合計最大桁数：256 桁

11.オブジェクト種変換

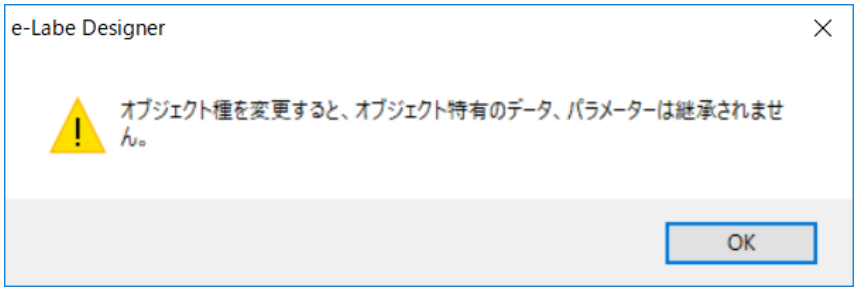
デザイン上に貼り付けられたオブジェクトの種類を変更することが可能です。
変更可能なオブジェクトの種類は、“文字列”⇔“価格” および“文字列”⇔“日時”の 4 種類になります。

1.変更したいオブジェクトを選択して、右クリックでメニューを表示します。

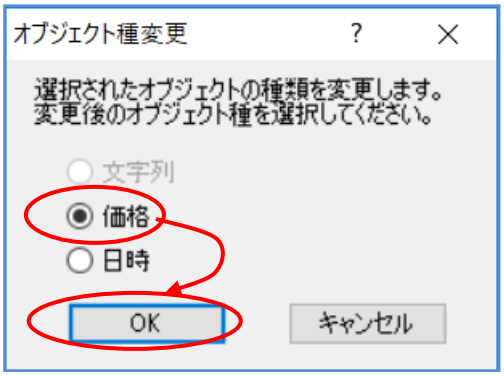
2.メニューから、「オブジェクト種変更」を選択してください。



3.オブジェクト種変更時の注意メッセージが表示されます。
OK ボタンを押してください。
オブジェクトを変更した場合には、価格オブジェクトの持つ“¥”、“, （カンマ）”の補填機能や自動計算などの一部機能は無効になります。



4.変換後のオブジェクトの種類を確認して、「OK」ボタンを押してください。



12.バーコードウィザード

複雑な組み合わせのバーコードをウィザード形式で作成するための機能です。
作成可能なバーコードの種類は、JAN13（JAN13 価格 CD）、JAN8 の 2 種類になります。
基本的な操作方法は以下の通りです。

1.オブジェクトバーの「バーコードウィザード」ボタンをクリックしてください。

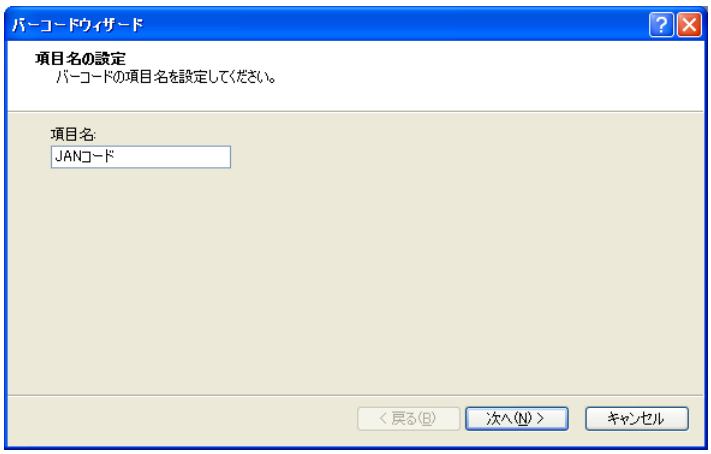


2.カーソルが「オブジェクト貼り付け時カーソル」に変わりますので、デザインウィンドウ上の任意の場所をクリックしてください。

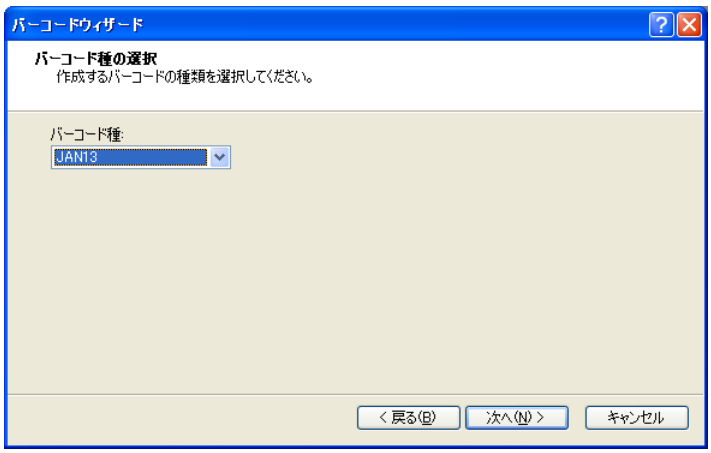
3.バーコードウィザード画面が表示されますので、項目名にオブジェクトの名称を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

.

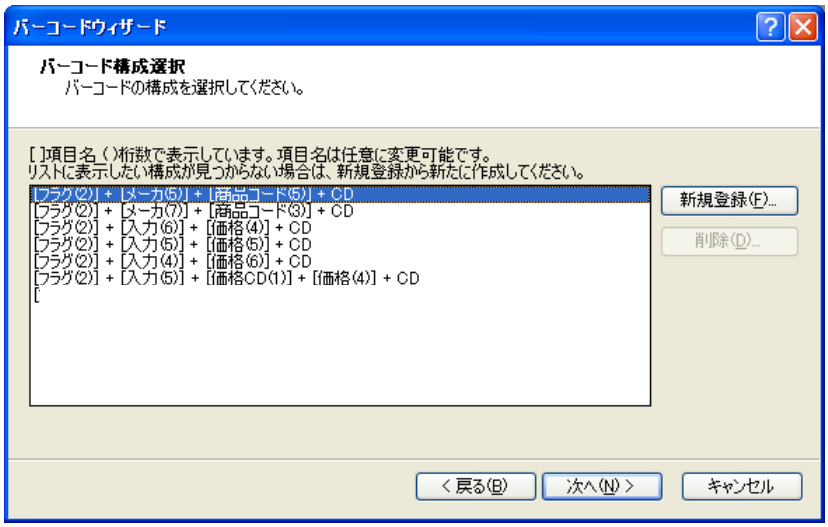
名称として入力できる文字は 32 桁（全角 16 文字）までです。



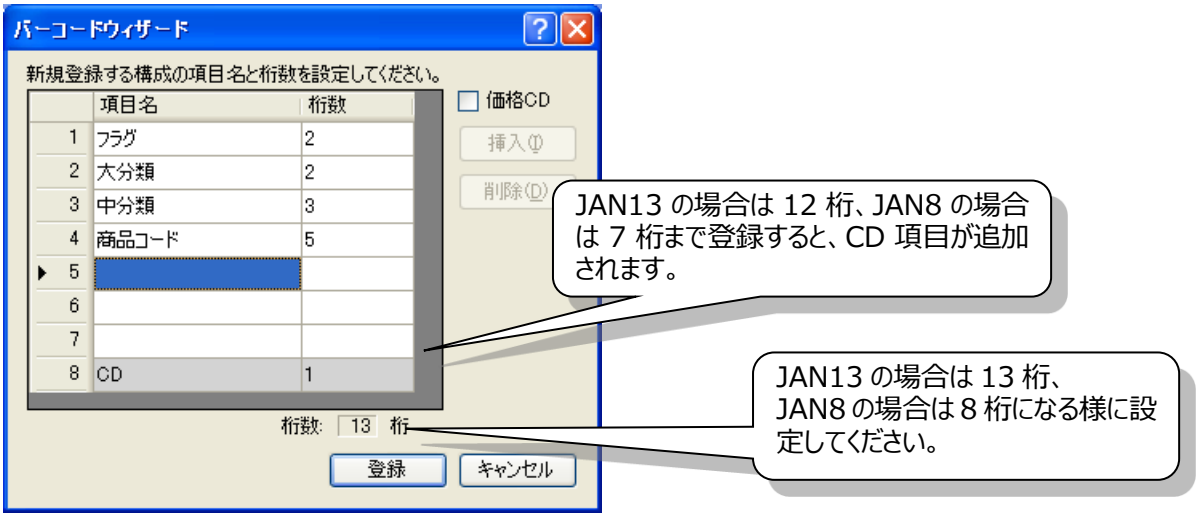
4.リストボックスからバーコード種を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。



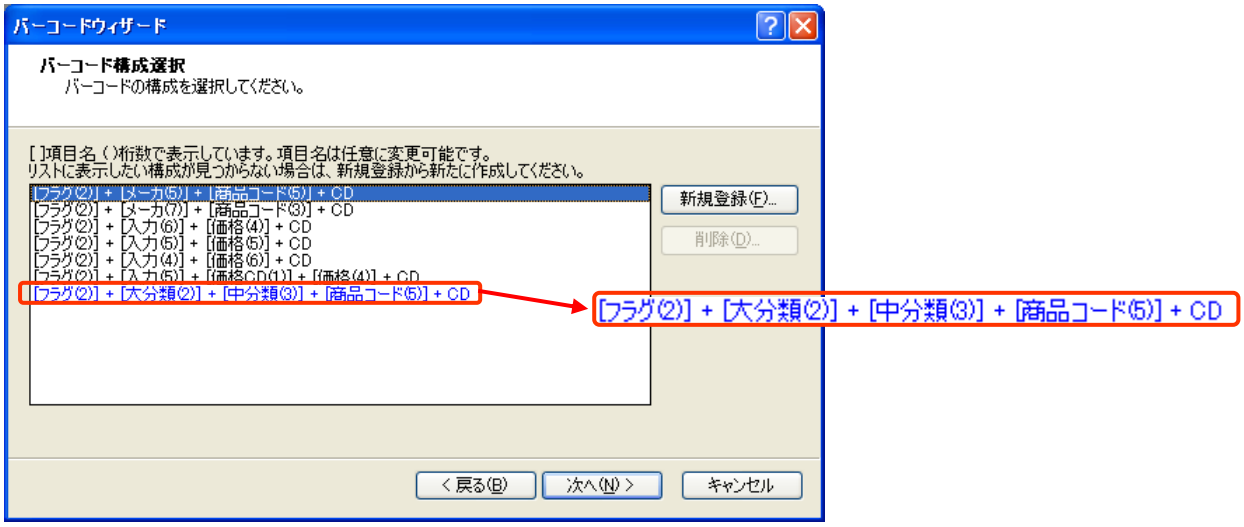
5.作成するバーコードの構成を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
作成したいバーコード構成が登録されていない場合は、新規登録ボタンをクリックしてください。



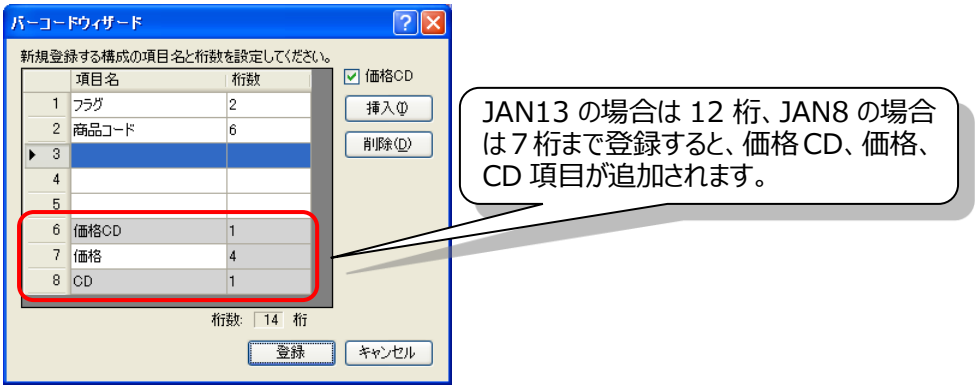
※新規登録
新規に登録する構成の項目名と桁数を入力し、「登録」ボタンをクリックしてください。
ここで登録した内容は、「項目名（桁数）」で構成選択画面に表示されます。
各項目の桁数の合計が、4.で選択したバーコード種ごとの必要桁数までに達したときに、最終行に自動で CD 項目が追加されます。
桁数の欄には、各項目の桁数の合計値が表示されます。



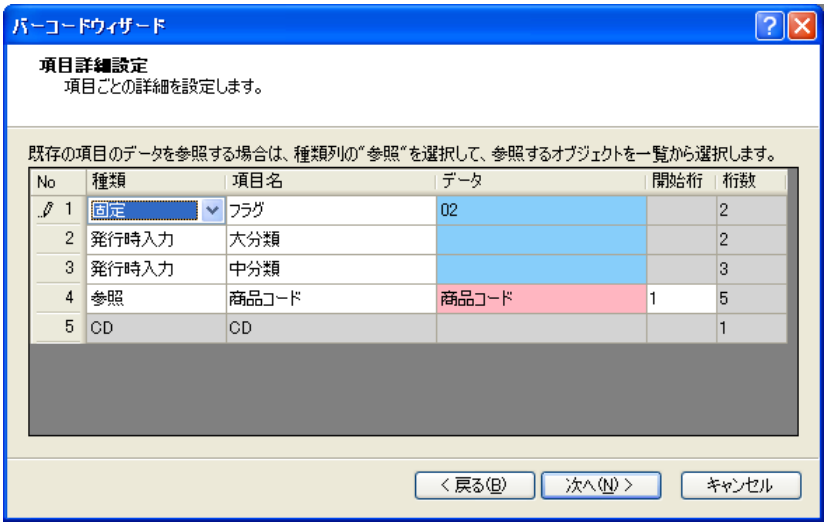
新規に登録した構成は、構成一覧に青文字で表示されます。



バーコード種で JAN13 を選択した場合には、価格 CD にチェックが可能になります。
価格 CD にチェックすると、各項目の桁数の合計が必要桁数までに達したときに、価格 CD、価格、CD が自動で追加されます。



6.構成内の項目の詳細を設定し、「次へ」ボタンをクリックしてください。



設定内容は次の様になります。

・種類

データの種類になります。

発行時入力：発行時に入力する項目になります。

テキスト：固定項目になります

参照：別の項目の値を参照する項目になります。

・項目名

項目の名称です。32 桁（全角 16 文字）以内で設定します。

・データ

発行時入力の初期値、固定印字の"値"を設定します。

・開始桁

参照先の何桁目からを参照するかを設定します。※種類で参照を設定している場合のみ

・桁数

項目の桁数です。

7.バーコードの詳細を設定し「完了」ボタンをクリックしてください。



設定内容は次の様になります。

・高さ

バーコードの高さになります。

・細バー幅

バーコードのナローバーの幅になります。

・解説文字

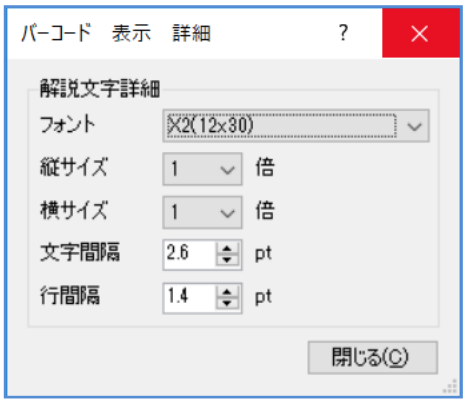
解説文字の有無、ガードバーを設定します。

・プレビュー

縦横比を維持した状態で、バーコードのイメージを表示します。貼り付け時のサイズとは異なります。

・詳細設定

詳細を設定します。



設定内容は次の様になります。

・フォント名

解説文字のフォント種を選択します。

・縦サイズ

解説文字の縦サイズを設定します。

・横サイズ

解説文字の横サイズを設定します。

・文字間隔

解説文字の文字間ピッチを設定します。

・行間隔

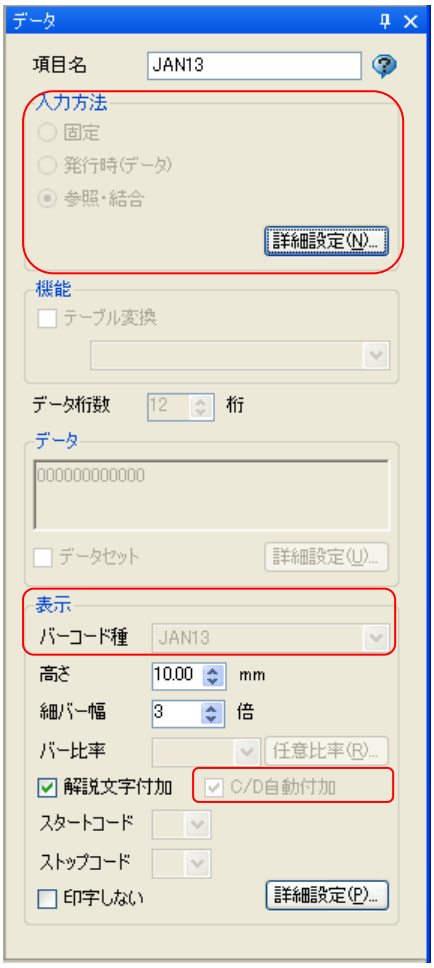
バーコードから解説文字までの間隔を設定します。

ウィザードで作成したバーコードは、下記の様に表示されます。



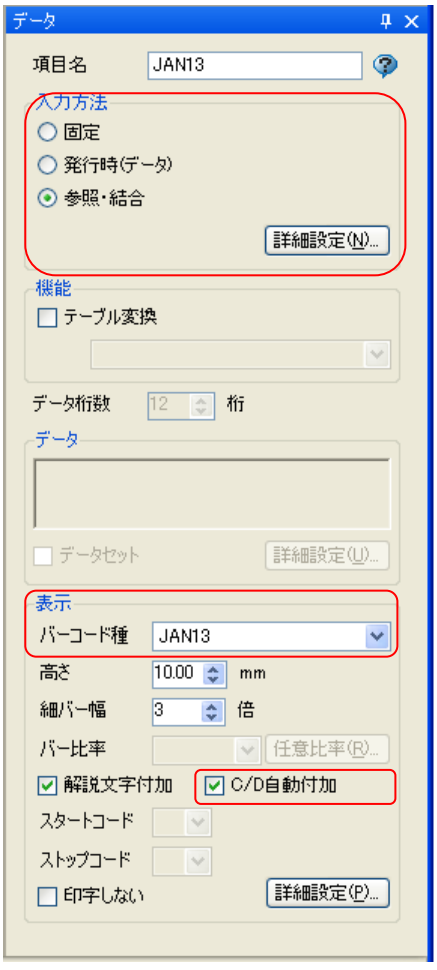
また、ウィザードで作成されたバーコードは、データウィンドウで設定できる内容に制限があります。
ウィザードで作成したバーコードは、入力方法の変更、構成の桁数変更、バーコード種の変更ができません。

■ウィザードで作成したバーコードのデータウィンドウ



一部の項目以外の設定変更はできません。

■通常のバーコードのデータウィンドウ



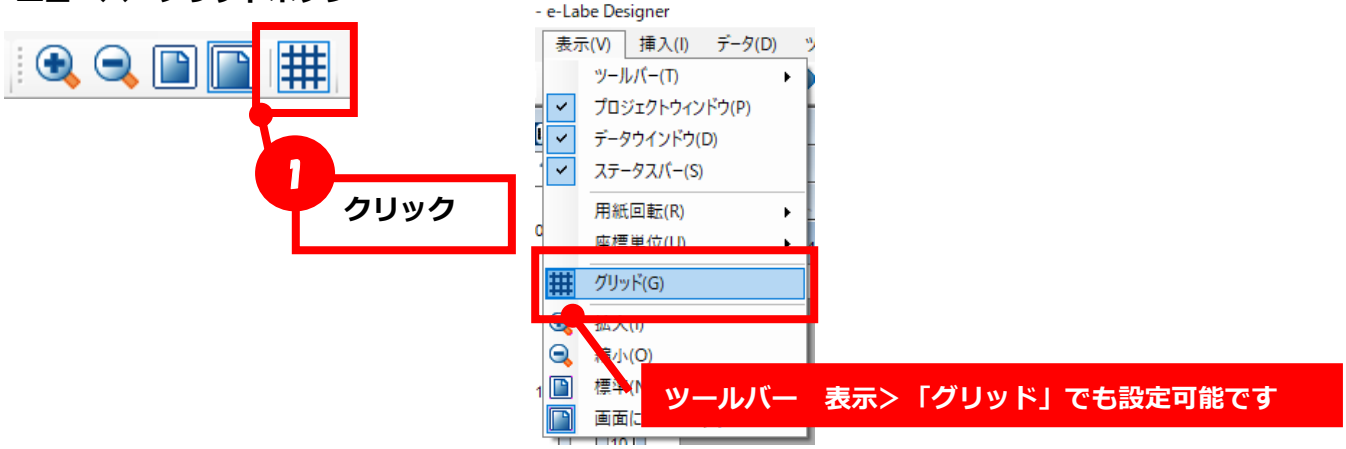
13.グリッド設定

グリッド表示状態

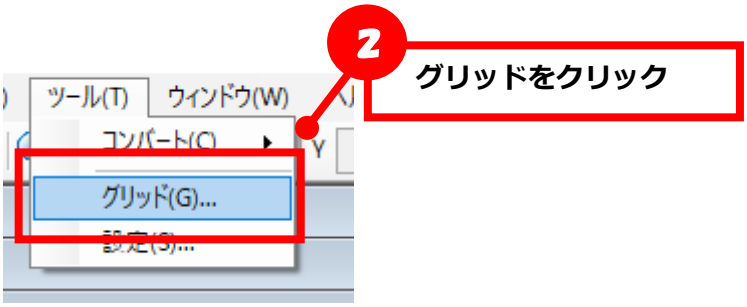


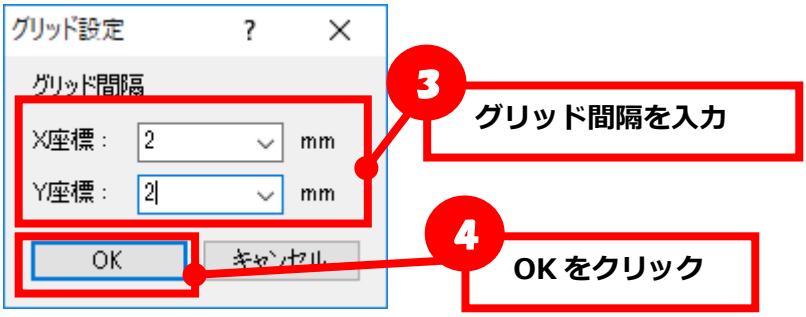
デザイン画面上に、オブジェクト配置の目安となるグリッドを表示することができます。

メニューバーグリッドボタン



グリッドサイズの変更方法

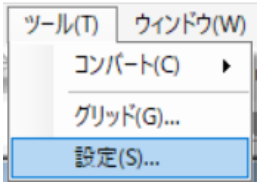




14.ツール設定

ツールの設定を行う画面です。

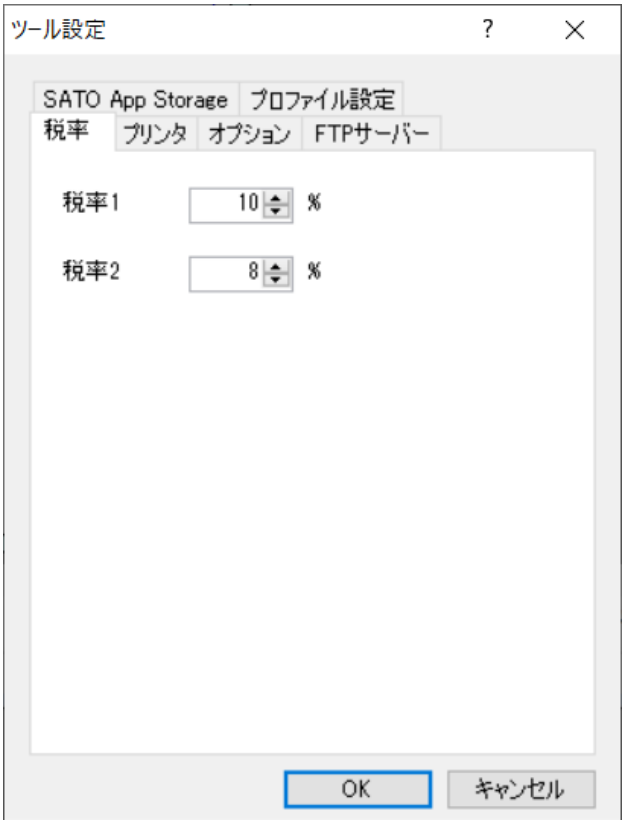
1.メニューバーの「ツール」から、「設定」を選択してください。



■税率設定タブ

新規にレイアウトを作成した際の、税率の初期値を設定します。

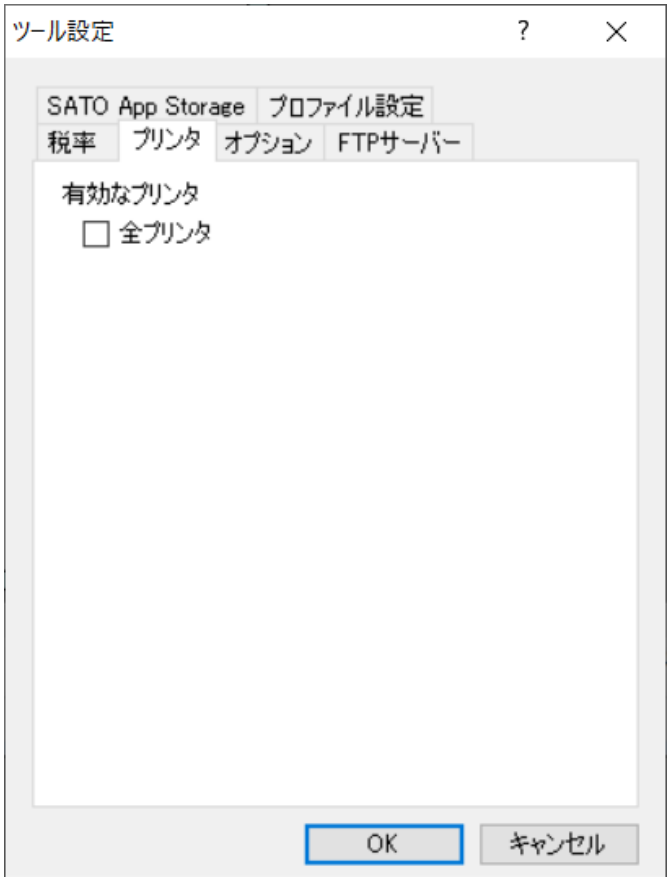
整数の値で税率を入力し、「OK」ボタンを押します。
ここで設定した税率は、新規に作成したレイアウトに適用されます。



既存のレイアウトの税率設定の変更は、「レイアウト設定」から行ってください。

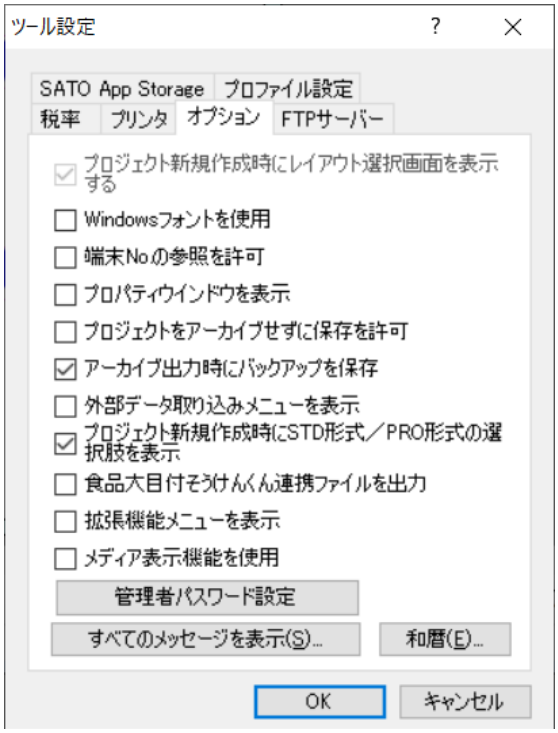
■プリンタタブ

通常変更する必要はありません。
FLEQV FX3-LX 以外のプリンタ機種用のデータを作成する際にチェックをいれてください。
新規作成時またはプロジェクト設定画面にプリンタ選択画面が表示されるようになります。



■オプションタブ

Designer の動作についての設定を行います。



プロジェクト新規作成時にレイアウト選択画面を表示する：

プロジェクトを新規作成するときに、基本レイアウトか発行レイアウトかの選択画面を表示するか、しないかの設定を行います。

Windows フォントを使用：

チェックを入れると、Windows フォントが選択可能になります。

端末 No.の参照を許可：

チェックを入れると、e-Labe Print で設定する端末 No.の参照が可能になります。

プロパティウィンドウを表示する：

チェックを入れると、プロパティウィンドウでのオブジェクト設定が可能になります。

プロジェクトをアーカイブせずに保存を許可：

通常は OFF です。プロジェクトを一ファイル化せずに保存できるようになります。seproj ファイルと、seproj ファイルと同名の.files フォルダの構成になりますが、ファイル名やフォルダ名を変更すると、プロジェクトが開けなくなります。

アーカイブ出力時にバックアップを保存：

通常は ON です。データ出力をする際に、e-Labe Designer の Project ファイルのバックアップをフォーマットファイル（.sefmtz）内に保存します。

外部データ取り込みメニューを表示：

チェックを入れると、外部データ取り込み定義および外部データ取り込みの 2 つの機能が有効になります。

プロジェクト新規作成時に STD 形式／PRO 形式の選択肢を表示：

チェックを入れると、プロジェクト新規作成時に、STD 形式か PRO 形式を選択する画面を表示します。

食品大目付そうけんくん連携ファイルを出力：

PRO 形式選択時に有効となります。

拡張機能メニューを表示：

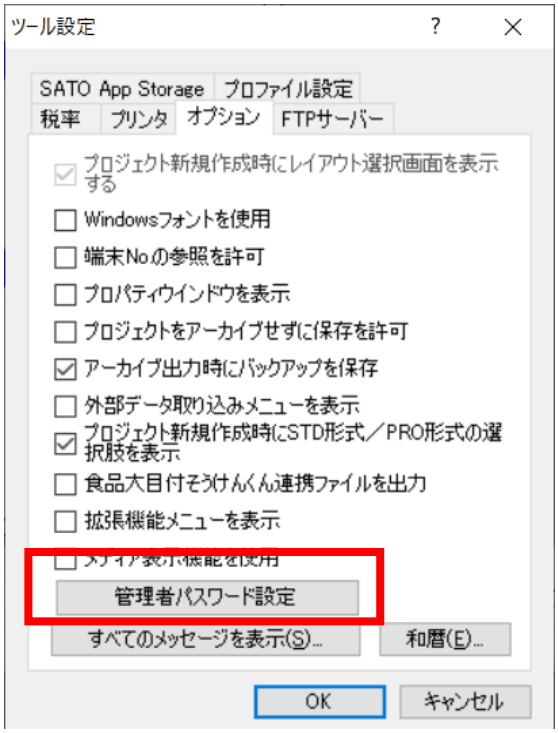
チェックを入れると、プロジェクト設定に「拡張機能」タブを表示します。

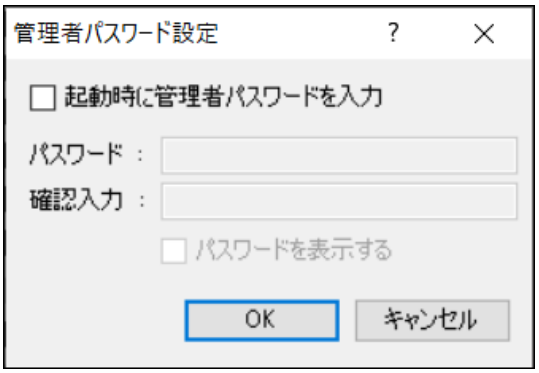
メディア表示機能を使用：

チェックを入れると、入力画面のメディア表示オプションや内部データの編集機能が有効になります。

管理者パスワード設定：

Designer 起動時にパスワード入力画面を表示するかを設定します。





・起動時に管理者パスワードを入力

チェックを入れると、Designer 起動時にパスワード入力画面を表示します。

・パスワード

パスワードを入力します。設定可能な条件は以下となります。
パスワード未設定の場合も、パスワード入力画面は表示されます。
[最大桁数]128 桁
[使用可能な文字]半角数字
半角英字（大文字、小文字）
半角記号　!"#$%&'()*+,-./:;<=>?@[¥]^_`{|}~

・確認入力

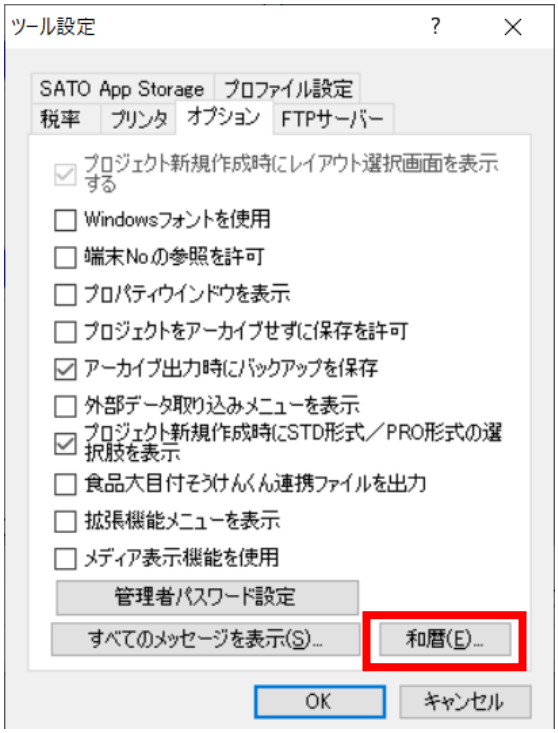
確認用に再度パスワードを入力します。

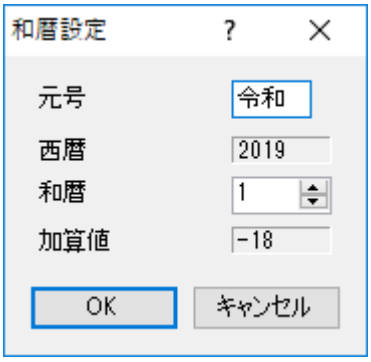
・パスワードを表示する

チェックを入れると、パスワードを表示します。

・和暦設定

e-Labe Print で印字する和暦を設定します。





元号と和暦を設定して、「OK」ボタンを押してください。

・元号

元号を漢字 2 文字以下で設定します。（未入力も可）

・西暦

パソコンのシステム日付から現在の西暦を表示します。

・和暦

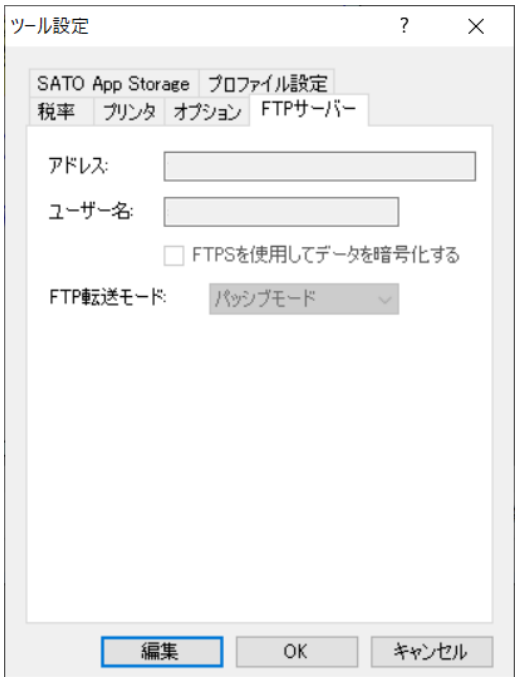
現在の和暦を 1～99 までの 2 桁の数字で入力します。

・加算値

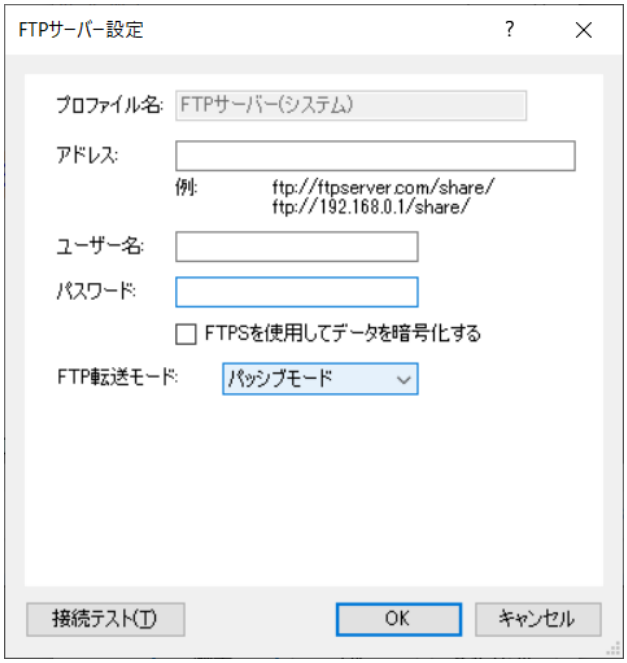
西暦の下 2 桁に対して、設定された和暦がいくつ加算されているかを計算して表示します。

■FTP サーバータブ

「データ出力」で FTP サーバーへアップロードするための接続情報を設定します。接続テストも可能です。



【編集画面】

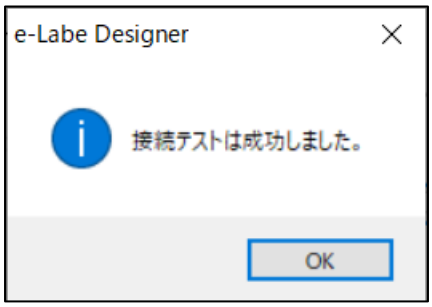


以下の項目を設定します。

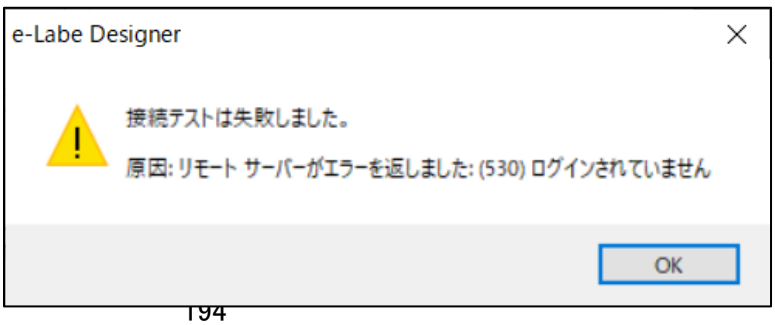
・アドレス
・ユーザー名
・パスワード
・FTPS を使用してデータを暗号化する
・FTP 転送モード
（アクティブモード／パッシブモード）

上記設定での接続テストが可能です。

【接続テスト成功時】



【接続テスト失敗時の一例】

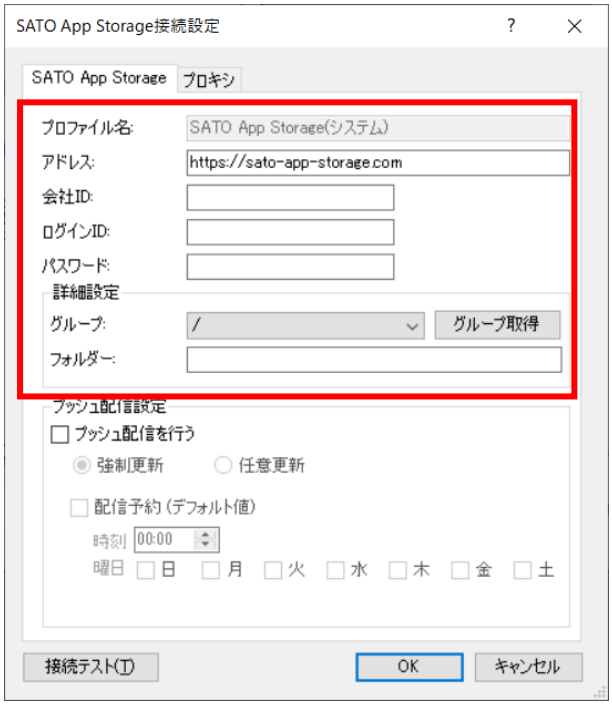


■SATO App Storage タブ

「データ出力」で SATO App Storage へアップロードするための接続情報を設定します。接続テストも可能です。



【編集画面】

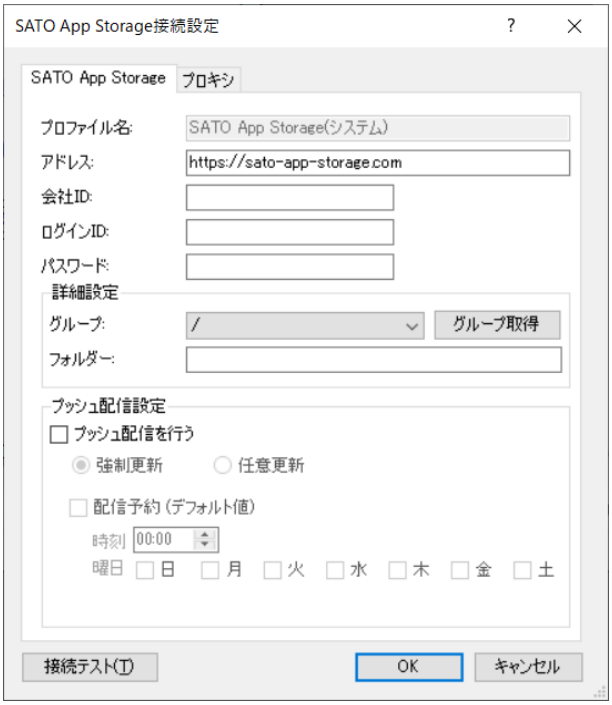


以下の項目を設定します。

- アドレス
- 会社 ID
- ログイン ID
- パスワード
- グループ　※1
- フォルダー　※2

※1:SATO App Storage で設定したグループ情報を取得し、ログイン ID 配下のグループを指定してデータ出力が可能です。
初期値「/」の場合、ログイン ID と同じ階層にデータが出力されます。

※2:フォルダーは任意項目です
　フォルダーを利用した運用は次項の「フォルダーについて」を参照ください



プッシュ配信を行う：

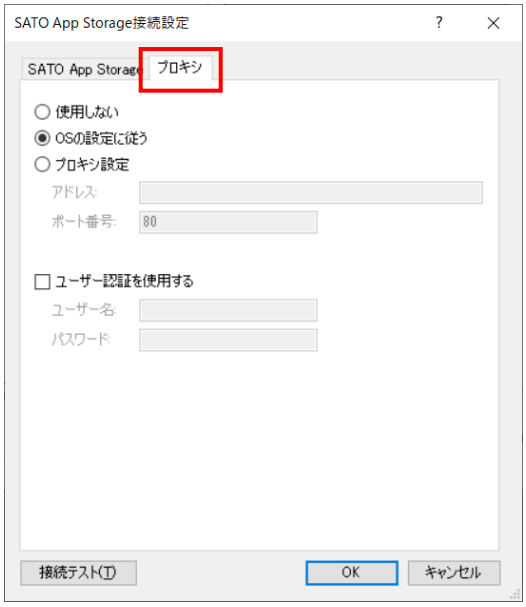
チェックを入れると、プッシュ配信通知機能が有効になります

強制更新／任意更新：

強制更新を選択すると、Sato App Storage を介して e-Labe Print がプッシュ通知を受信した際、強制的にデータ更新を行います。
任意更新を選択すると、e-Labe Print の画面に、更新確認ダイアログが表示されます。

配信予約（デフォルト値）：

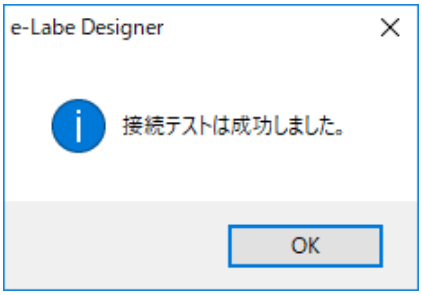
チェックを入れると、Sato App Storage が e-Labe Print にプッシュ配信を送る日時を指定することが可能です。
時刻や曜日を設定すると、データ出力を行う際に条件に一番近い日時が配信日時として表示されます。



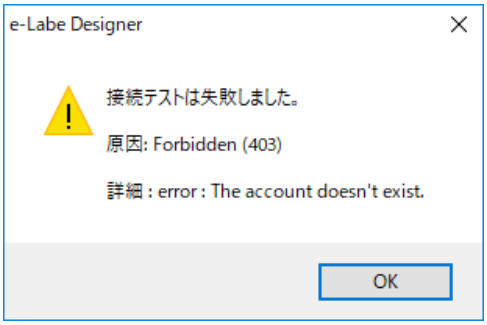
プロキシタブで必要に応じてプロキシを設定します。

上記設定での接続テストが可能です。

【接続テスト成功時】

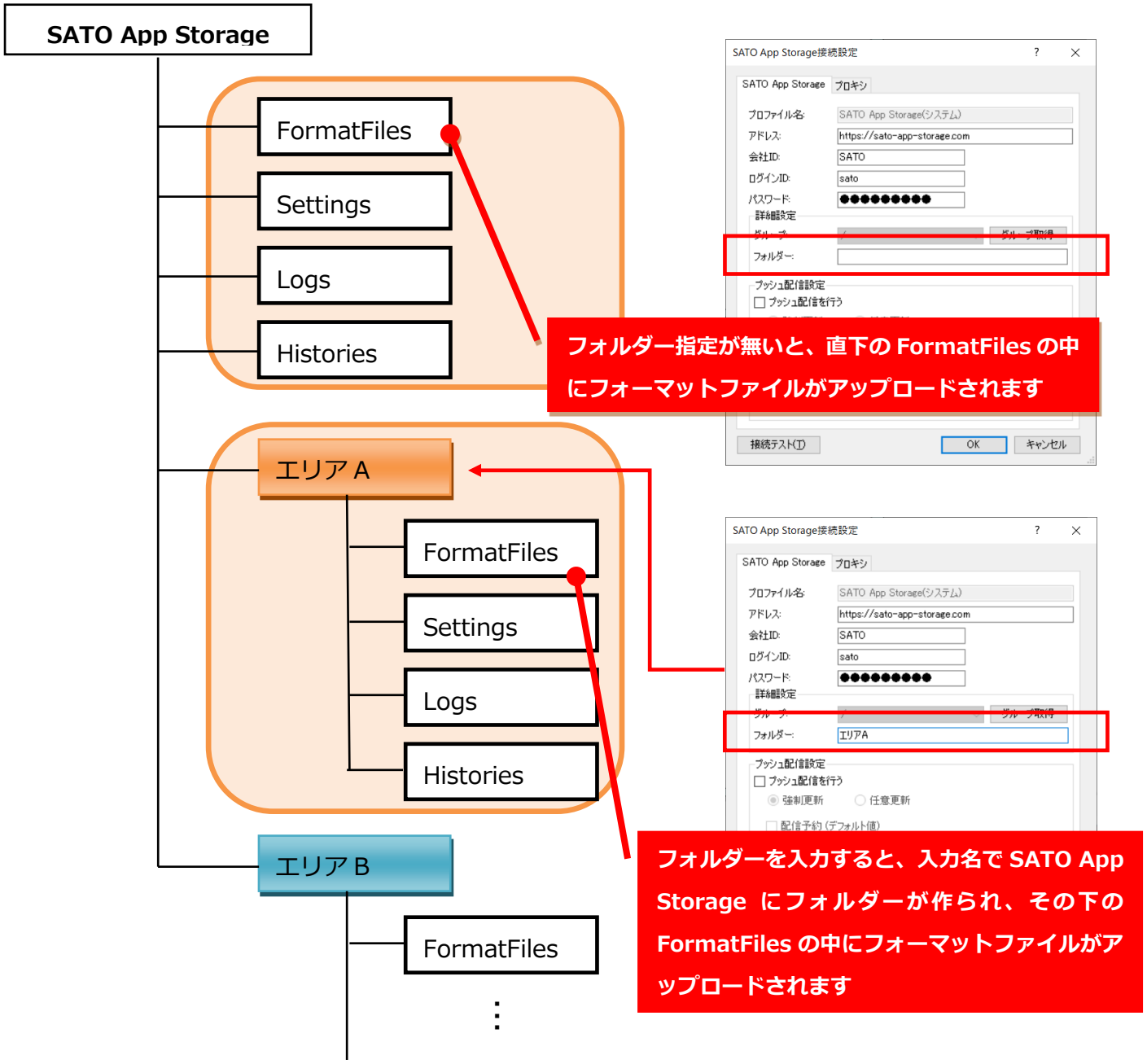


【接続テスト失敗時の一例】



・フォルダについて

フォルダは任意項目です。SATO App Storage にアップロードするファイルを、フォルダー別に分けたい場合に利用します。e-Labe Print で受信時も、そのフォルダーを指定することでフォルダー以下のファイルをダウンロード可能です。



■プロファイル設定タブ

「データ出力」でフォーマットファイルを出力する出力先情報の新規追加、編集、削除がおこなえます。設定情報をインポート／エクスポートも可能です。最大 10 件まで登録することができます。



□プロファイルを新規追加する

プロファイル設定画面で右クリック、表示されたメニューの中から「新規追加」をクリックし出力先を選択します。



●SATO App Storage の場合

出力先プロファイル設定（SATO App Storage）が開きます。

1. プロファイル名およびその他の項目を入力し「OK」をクリックします。

※各項目の細かな説明は「■SATO App Storage タブ」の説明をご参照ください。



2. プロファイル設定画面に登録したプロファイル名が表示されます。

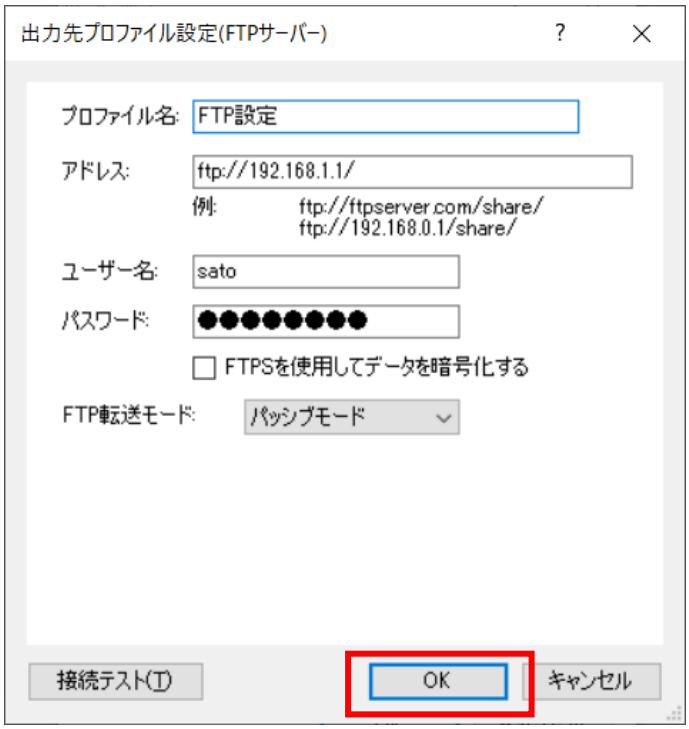


●FTP サーバーの場合

出力先プロファイル設定（FTP サーバー）が開きます。

1. プロファイル名およびその他の項目を入力し「OK」をクリックします。

   ※各項目の細かな説明は「■FTP サーバータブ」の説明をご参照ください。



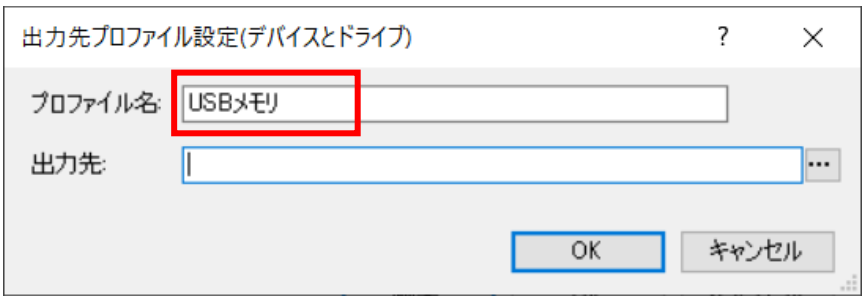
2. プロファイル設定画面に登録したプロファイル名が表示されます。



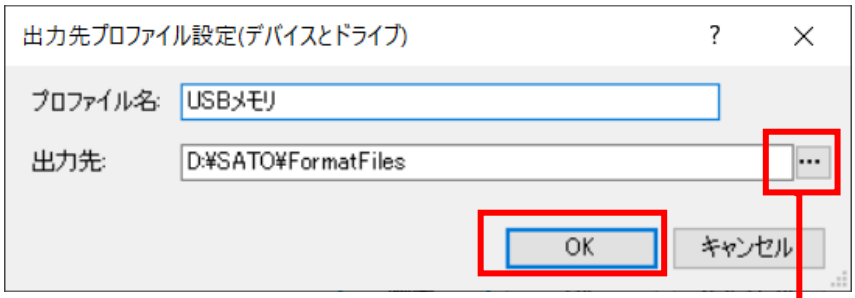
●デバイスとドライブの場合

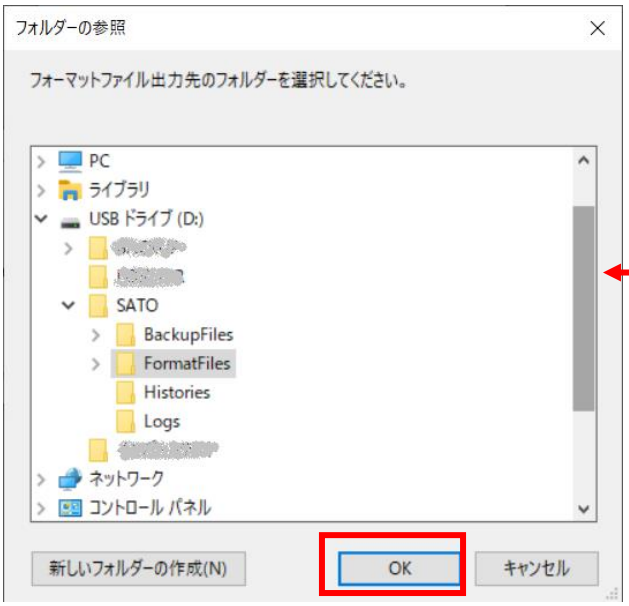
出力先プロファイル設定（デバイスとドライブ）が開きます。

1. プロファイル名を入力します。



2. 出力先のパスを入入力または参照ボタンをクリックし出力先を選択し「OK」をクリックします。





3. プロファイル設定画面に登録したプロファイル名が表示されます。



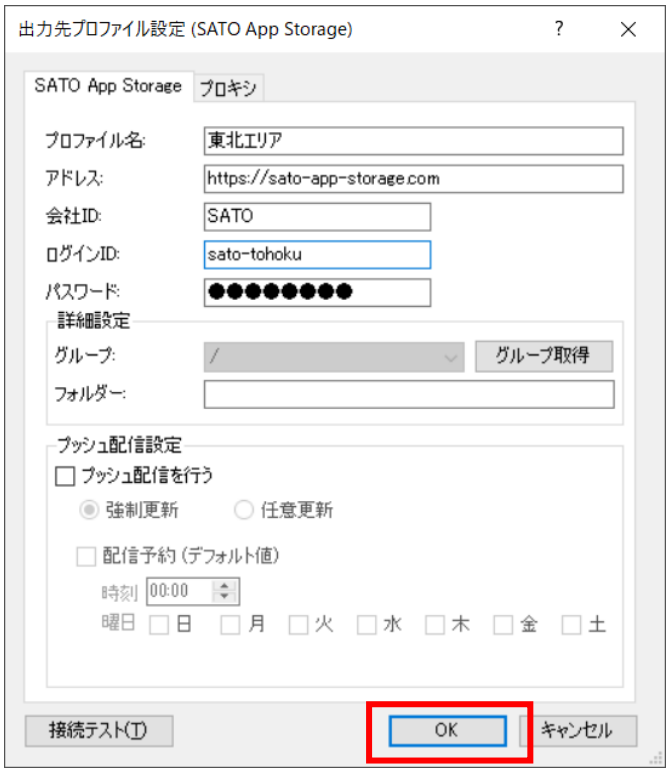
□プロファイルをコピーして追加する

登録済みのプロファイルをコピーして追加することが可能です。

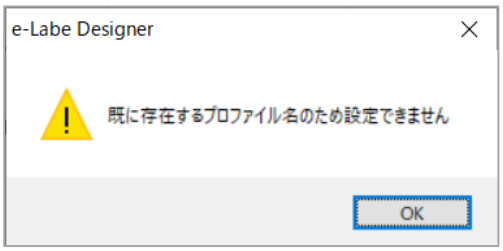
1. コピー元にするプロファイル名の上で右クリックし、「コピーして追加」をクリックします。



2. 出力先プロファイル設定画面が開くので、必要に応じて項目を編集し「OK」をクリックします。



※プロファイル名は重複できません



3. プロファイル設定画面に登録したプロファイル名が表示されます。

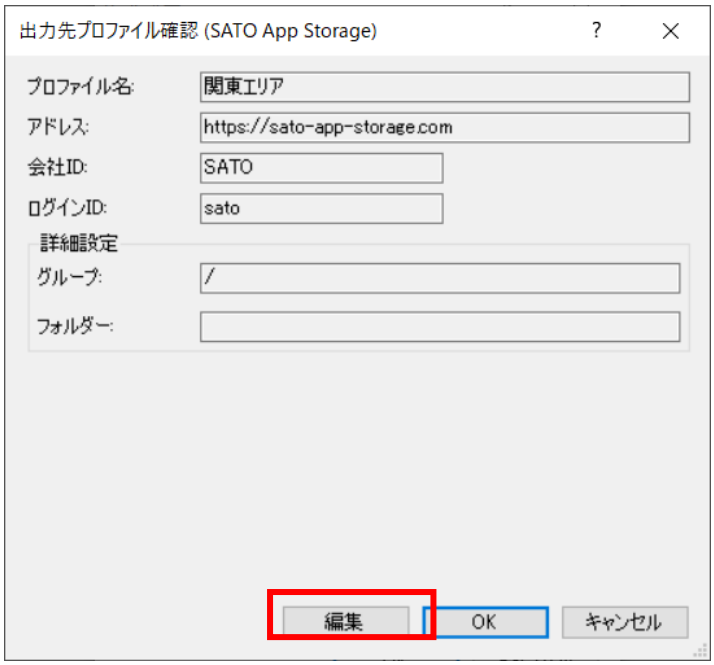


□プロファイルを編集する／設定内容を確認する

1. 編集または参照したいプロファイル名をダブルクリックするか、プロファイル名の上で右クリックし、「開く」をクリックします。



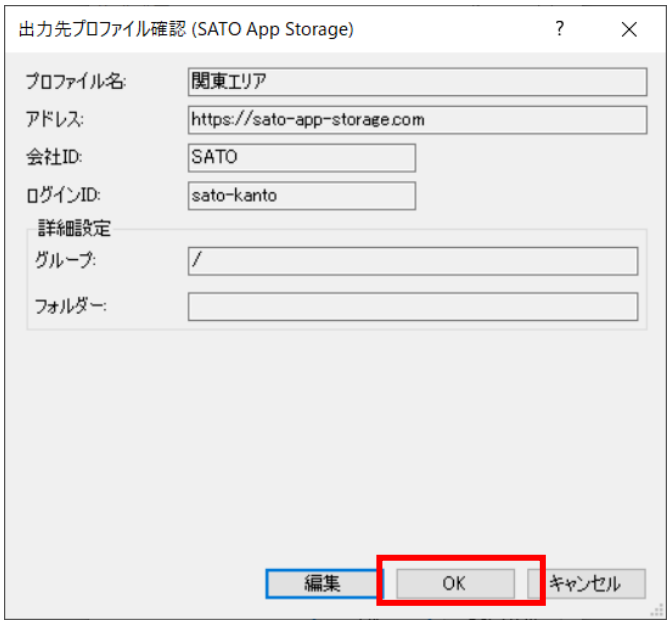
2. 出力先プロファイル確認画面が開きます。
   編集したい場合は「編集」をクリックします。



3. 出力先プロファイル設定画面が開くので、必要に応じて編集し「OK」をクリックします。



4. 出力先プロファイル確認画面で編集内容を確認し「OK」をクリックします。



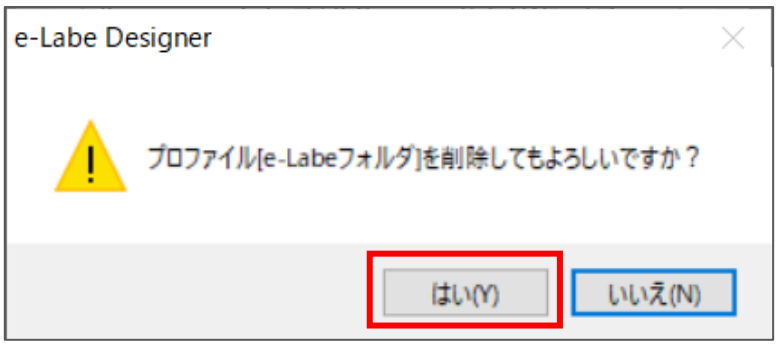
5. プロファイル設定画面に戻ります。

□プロファイルを削除する

1. 削除したいプロファイル名の上で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 確認ダイアログが表示されるので「はい」をクリックします。



3. プロファイル設定画面からプロファイル名が削除されます。



□プロファイルの表示順を変更する

データ出力で表示される出力先のプロファイルリストの順番を設定します。

1.　表示順を変更したいプロファイル名を選択し「上へ移動」（または「下へ移動」）をクリックします。



2.　プロファイル設定画面の表示順が変わりました。



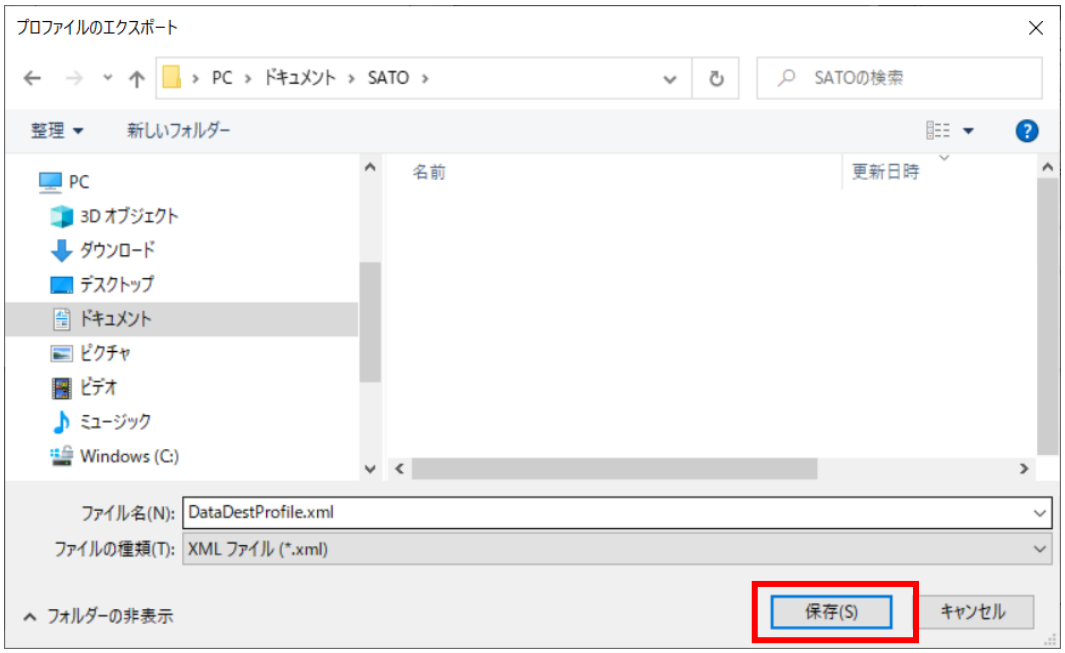
□プロファイルをインポート／エクスポートする

プロファイル情報のインポート／エクスポート機能を使うことで、他の PC に設定したプロファイル情報をコピーすることが可能です。

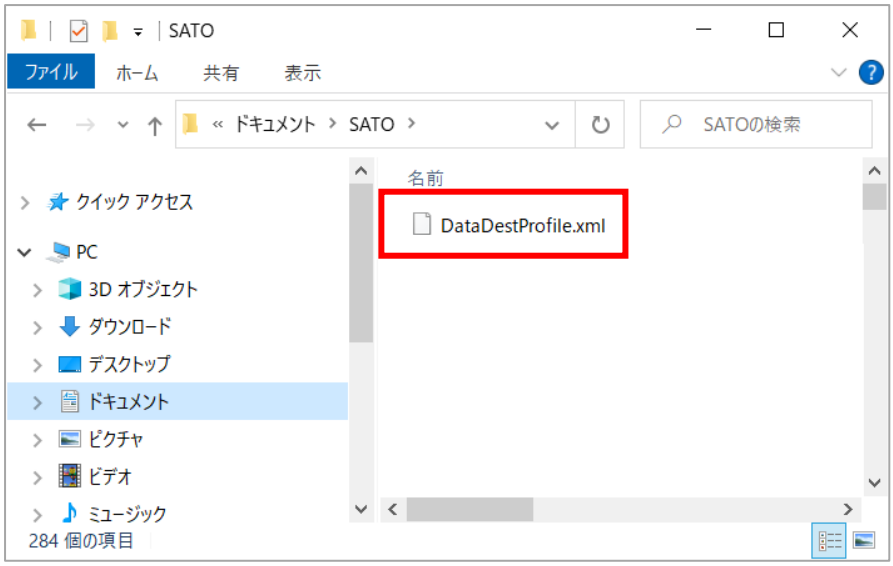
1. プロファイル設定画面のスペースで右クリックをし「エクスポート」をクリックします。



2. エクスポート先を選択し「保存」をクリックします。



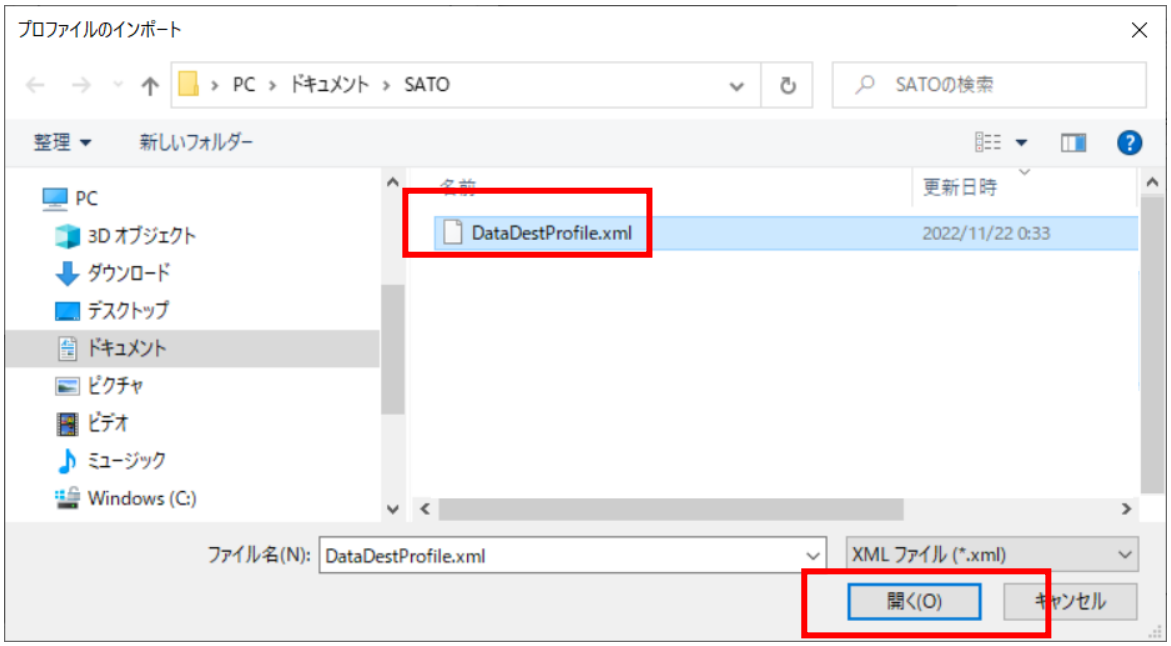
3. 「DataDestProfile.xml」ファイルが保存されます。



4. 「DataDestProfile.xml」ファイルを別の PC にコピーし、プロファイル設定画面のスペースで右クリックし「インポート」を選択します。



5. 「DataDestProfile.xml」ファイルを選択し「開く」をクリックします。



6. プロファイル設定がコピーされます。インポート完了ダイアログの「OK」をクリックします。



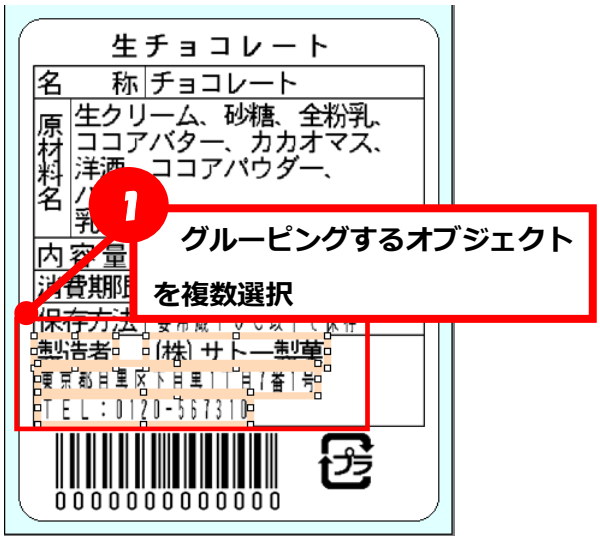
インポート先に既存プロファイルがある場合、既存データを「削除」するか「追加・更新」するかの確認ダイアログが表示されます。

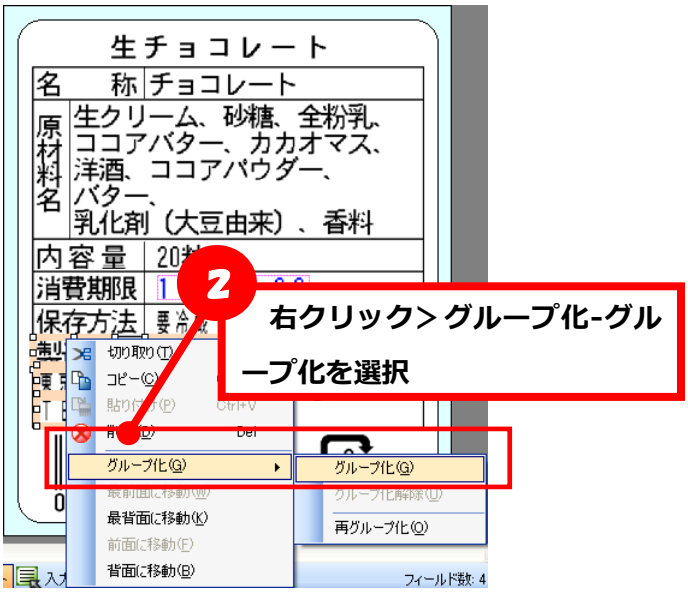


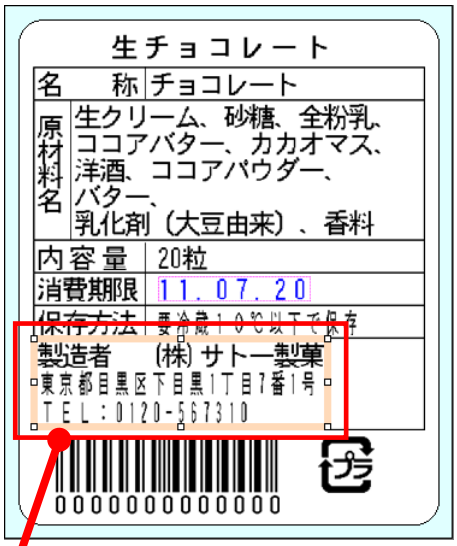
15.オブジェクトのグルーピング機能

レイアウト上の複数のオブジェクトを選択し、一つのグループにまとめる事が可能です。グループ化したオブジェクトは、移動させたり、回転させたりする場合などに便利です。

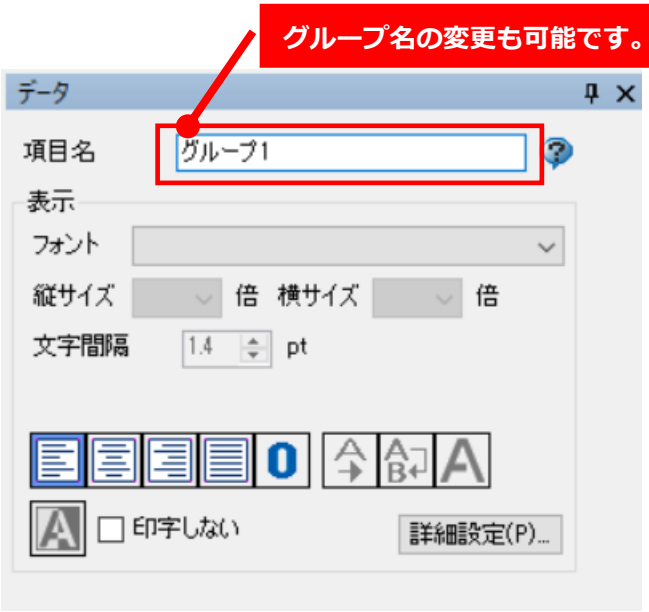
■グルーピング手順







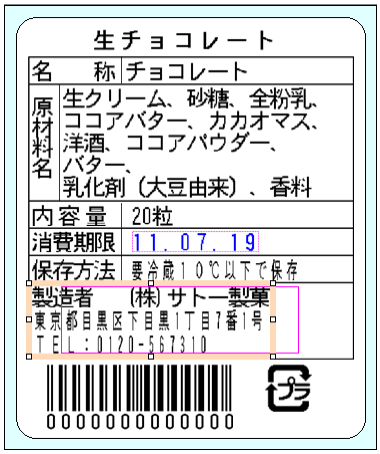
選択したオブジェクトがグループ化されます。



グループに属するオブジェクトに一括でフォント種等の設定が可能です。

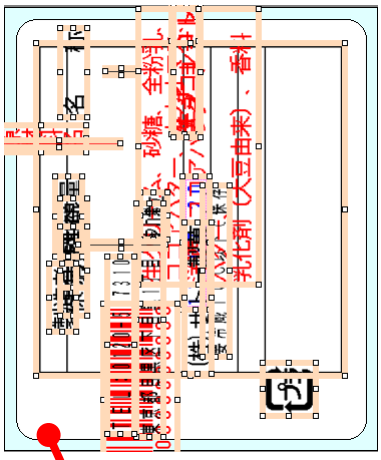
オブジェクトをグループ化すると・・

便利さ１：レイアウト編集時、一括で移動できます（選択漏れが無い）

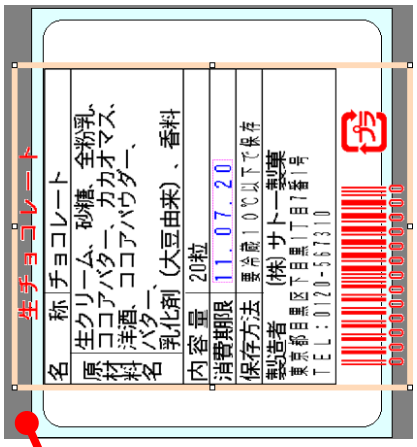


便利さ２：位置関係を崩さず回転できます

【全オブジェクト選択し、９０度回転させると・・】【グルーピングの上９０度回転させると・・】

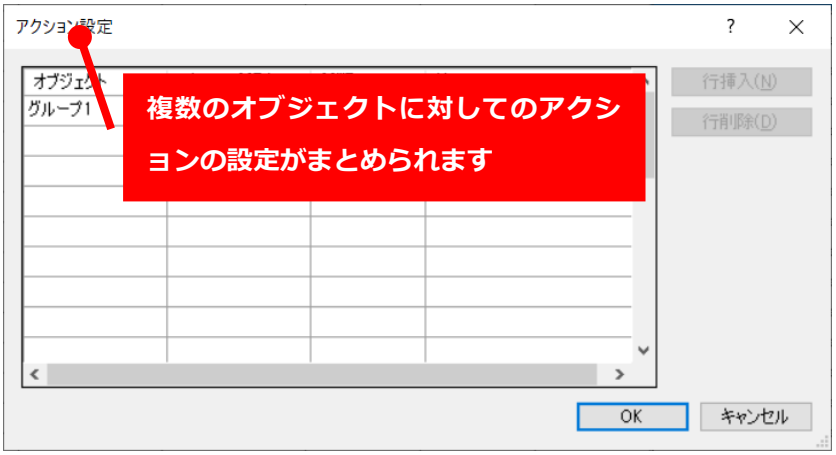


各オブジェクトが回転してしまう・・・



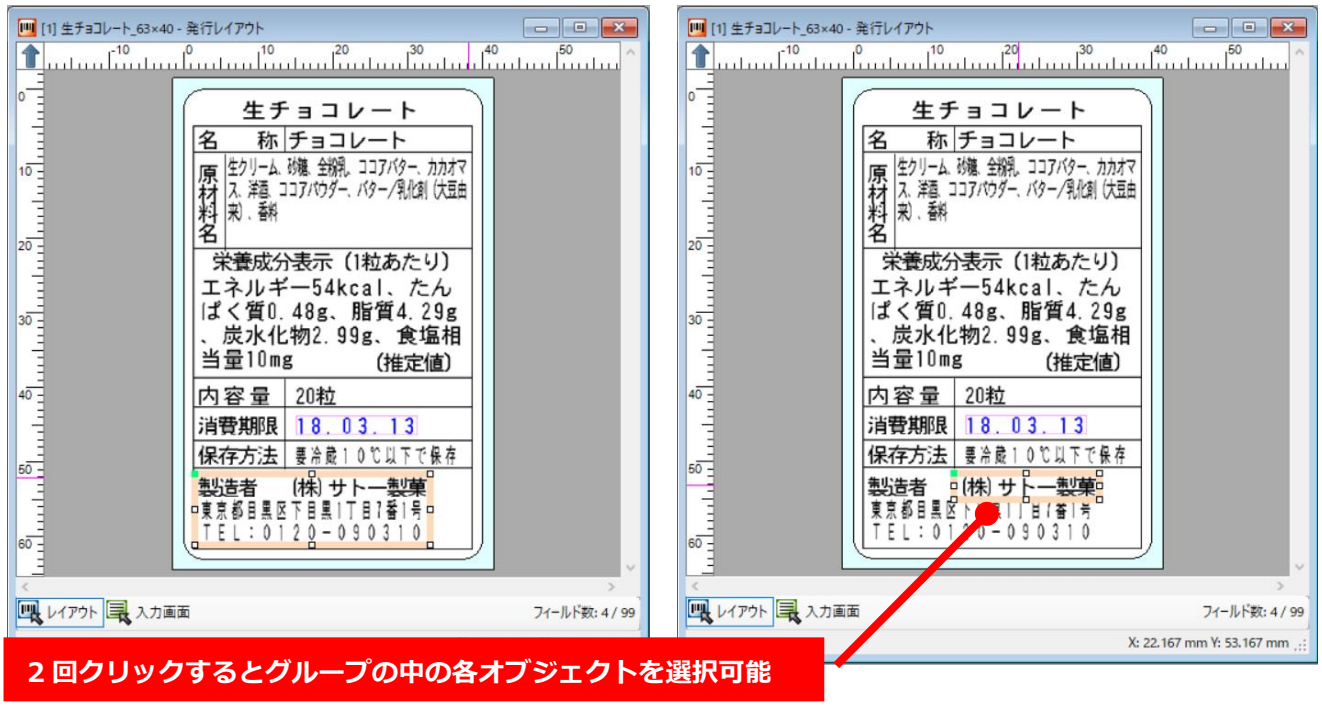
位置情報をキープしたまま回転

便利さ３：条件テーブルのアクションの設定にグループ単位で設定が可能です。



複数のオブジェクトに対してのアクションの設定がまとめられます

★グルーピングされている状態でも、各オブジェクトの設定を変更できます



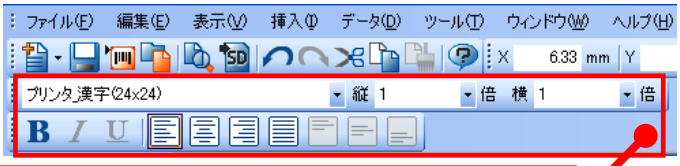
16.フォント一括変更

レイアウト上のオブジェクトのフォント種、縦/横サイズ、書体、配置などの情報を、一括で設定することが可能です。

■フォント一括変更手順



1 「フォント」「書体と配置」にチェック



フォント設定と、書体配置設定が表示されます

2 レイアウトでフォントを変更したいオブジェクトを複数選択





選択した複数のオブジェクトが複数のフォント種が指定されている場合は、フォントウィンドウは空白になります

3 フォント種、縦／横倍率、書体などを指定





フォント種をプリンタ_漢字 24×24 から 32×32 に一括変更！



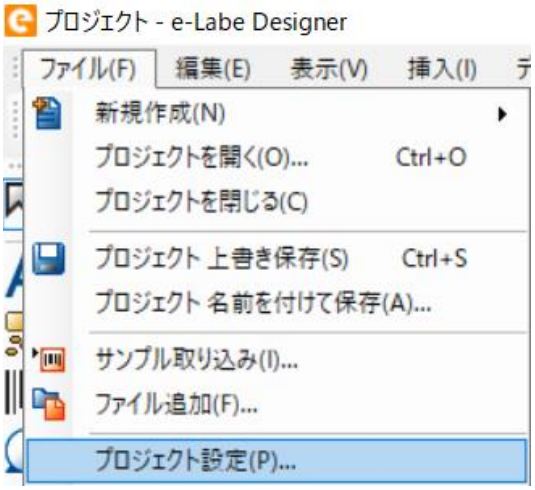
フォントウィンドウに表示されるフォント一覧は、選択しているオブジェクトの条件によって変わります。例えば、Windows フォントが使えないオブジェクトが含まれている場合は、Windows フォントは選択できません。

17.データ出力オプション

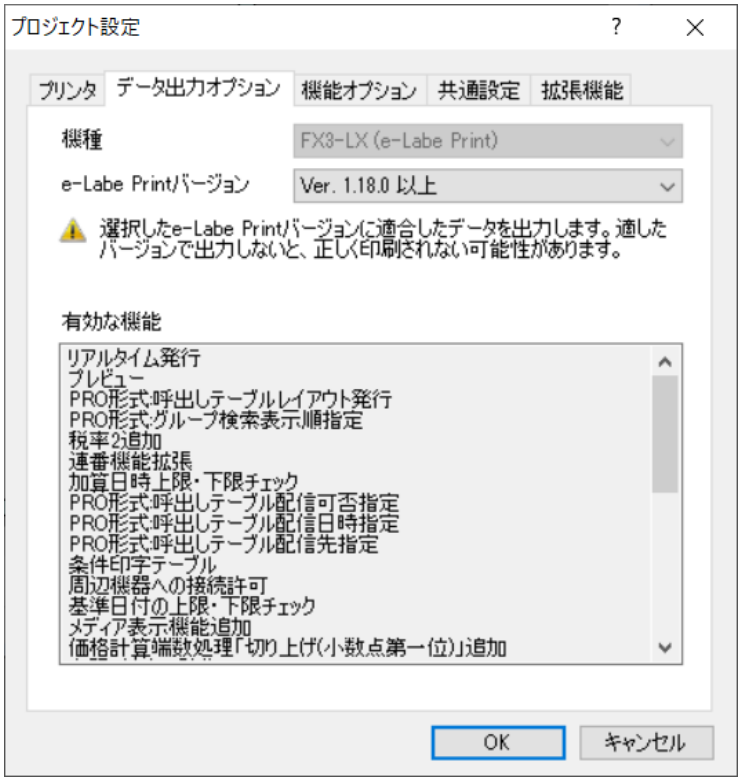
発行アプリケーションである「e-Labe Print」の各バージョンに適合するデータを出力できます。e-Labe Print のバージョンを確認の上該当のバージョンを選択すると、そのバージョンの e-Labe Print で使用できる範囲内でデータ出力が可能です。

■データ出力オプション機能設定手順

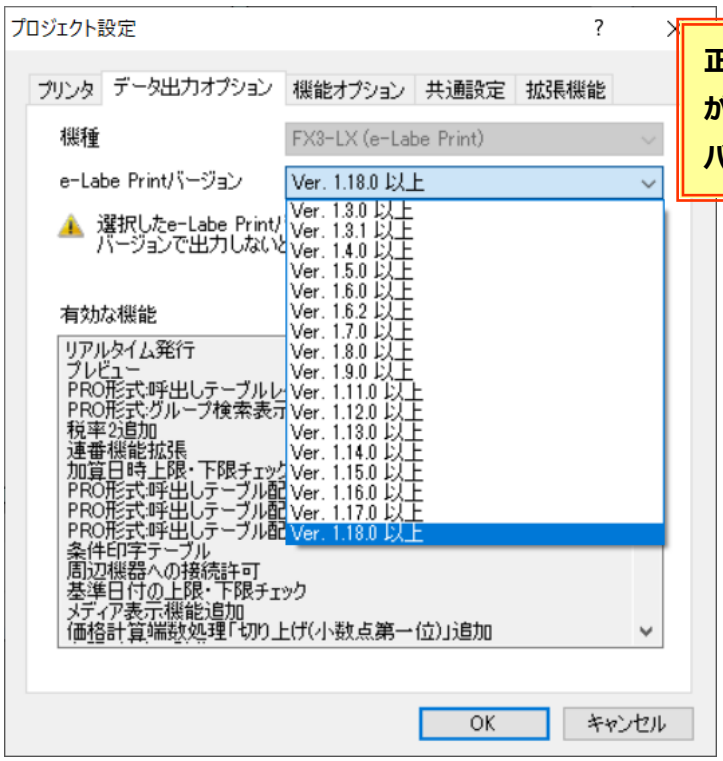
1.ファイル＞プロジェクト設定を起動します



2.「データ出力オプション」タブを選択します。



3.お使いの e-Labe Print のバージョンを確認し、該当するバージョンを選択します。
バージョンが低いほど、有効な機能の範囲も狭くなります。



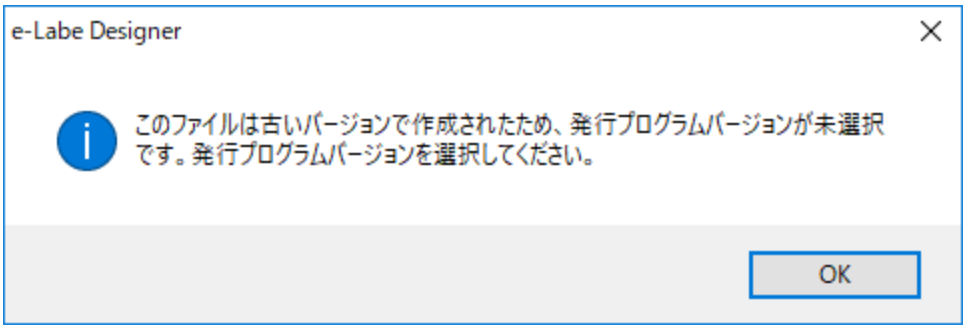
正しいバージョンを選択しないと、発行時にエラーが発生するなど問題が起こる事があります。正しいバージョンを選択してください。

★「e-Labe Print バージョン」を切り替えると、Designer は選択したバージョンで利用可能な機能のみ有効になります。

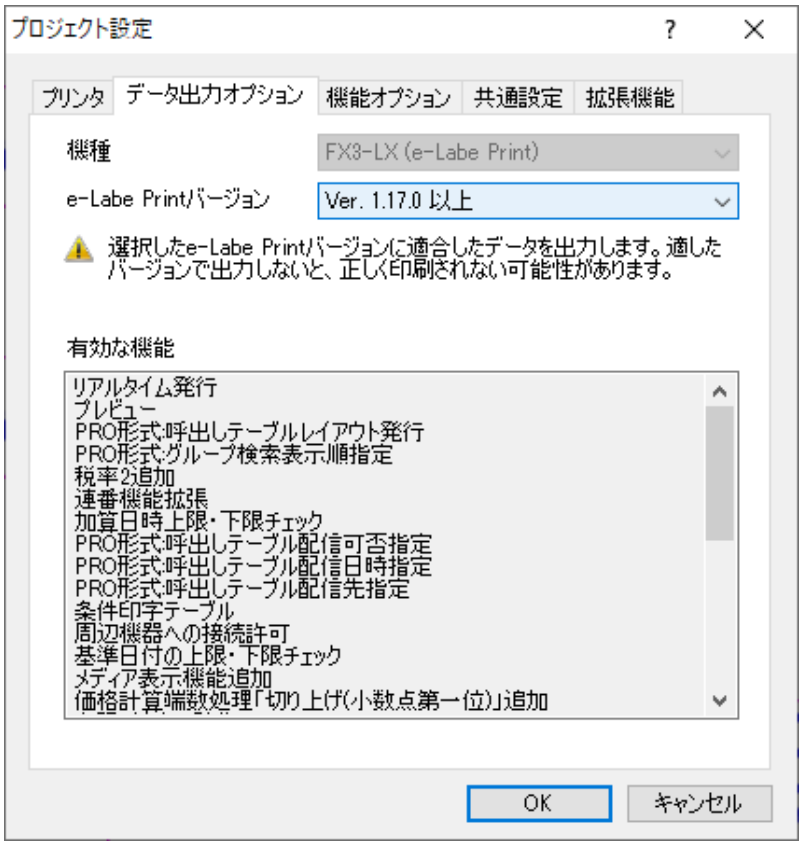
■発行プログラムバージョンが未選択のプロジェクトを起動した場合

データ出力オプション機能に未対応のバージョン（Ver.1.0.0 以前）で作成されたプロジェクトは、発行プログラムバージョン情報が選択されていません。このようなプロジェクトを起動すると、以下のようなメッセージが表示されますので、適合するバージョンを選択してください。

※発行プログラムバージョンが選択されていない場合、データ出力オプション画面を開くと一時的に最新の発行プログラムバージョンが表示されます







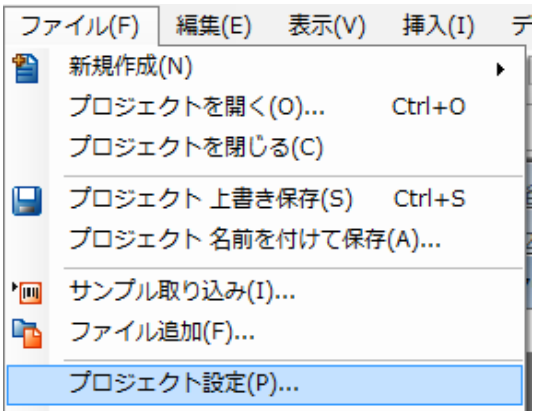
18.機能オプション

プロジェクト全体での機能オプションを設定可能です。

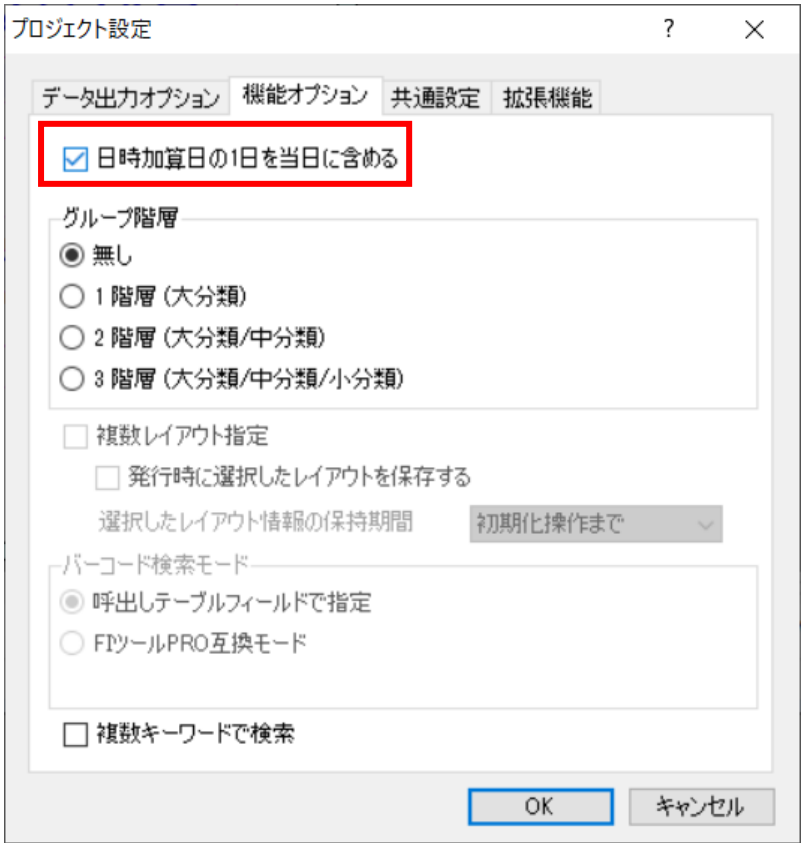
■日時加算日１日を当日に含めるオプション設定手順

[日時加算日１日を当日に含めるオプションとは]
日時オブジェクトの加算日を「１日」とした場合に表示される日付が「翌日」なのか「当日」なのかをオプションで設定することが可能です。

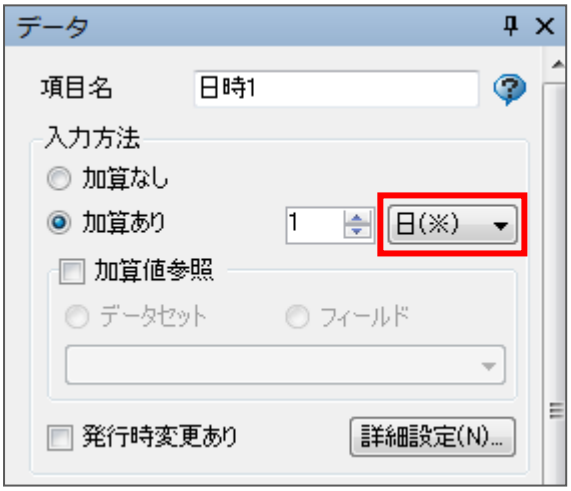
1.ファイル＞プロジェクト設定を起動します



2.機能オプションタブを開き、「日時加算日の１日を当日に含める」を有効にします

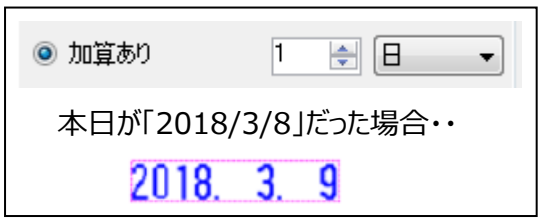


3.日時オブジェクトをレイアウト上に追加し、加算単位を「日（※）」に指定します。

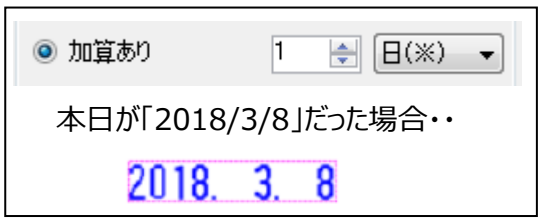


加算単位は通常は「日」と表示されますが、「プロジェクト設定」で「日時加算日の１日を当日に含める」を有効にすると「日（※）」に変わります。

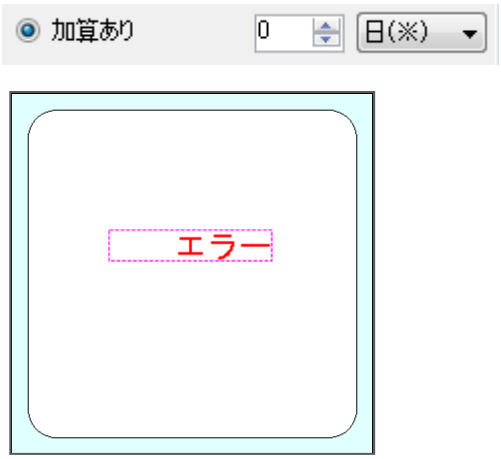
＜オプションが無効の場合＞



＜オプションが有効の場合＞



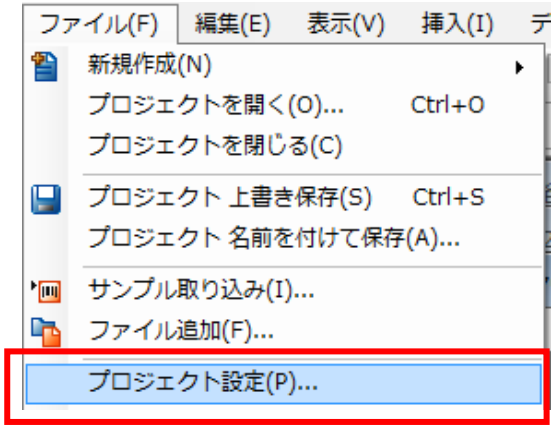
★日時加算日の１日を当日に含めるオプションが有効の場合で、加算単位を「日（※）」を選択している場合、加算値として設定できる最小値は「1」になります。
加算値に「0」をセットした後で、上記オプションを有効にした場合は「エラー」となります。



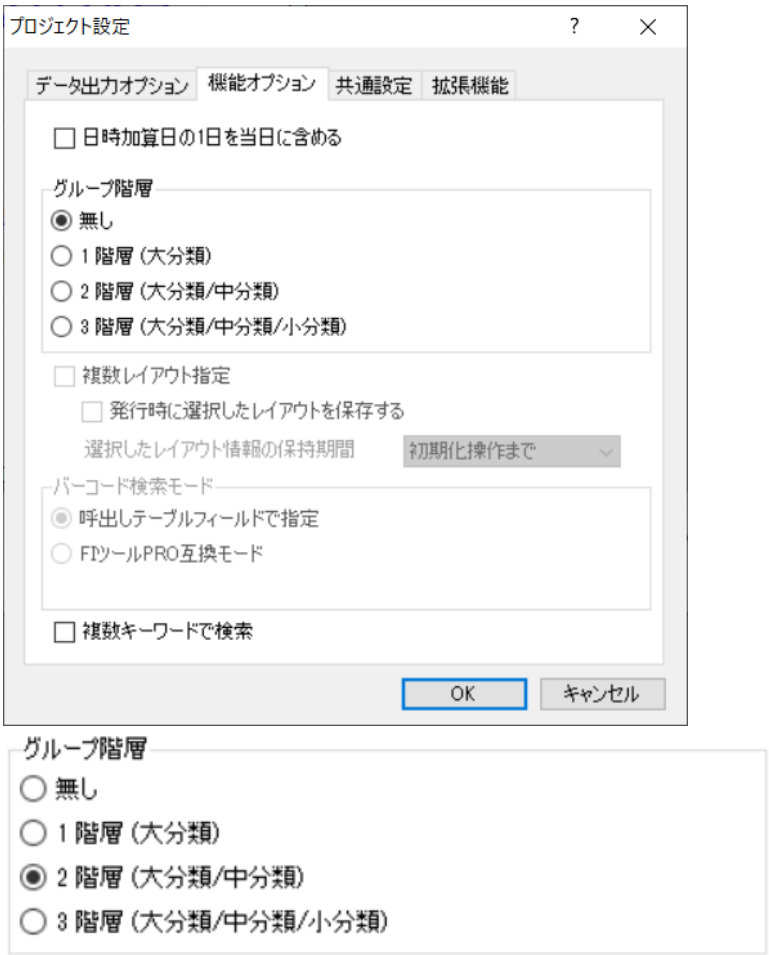
■グループ階層設定手順

e-Labe Print のグループ発行を行うためのグループ階層を選択することが可能です。

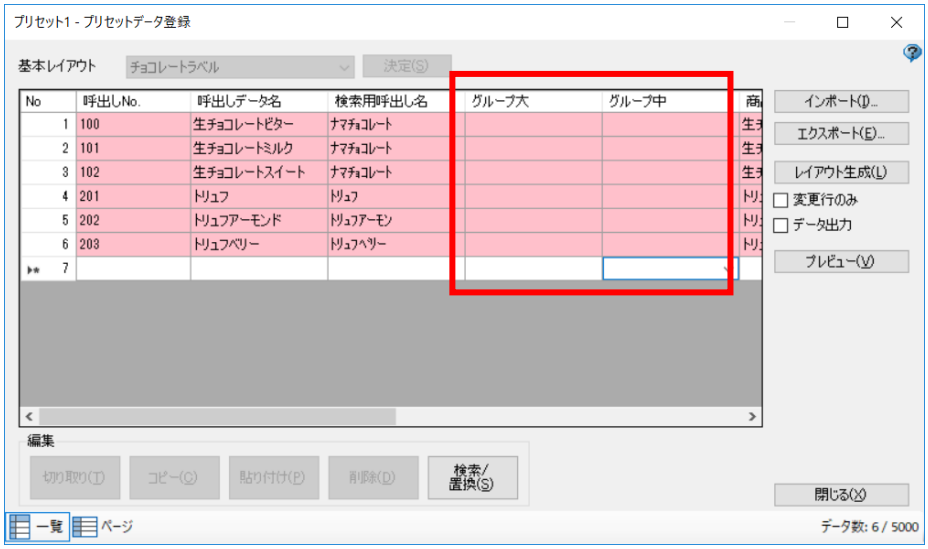
1. ファイル>プロジェクト設定を起動します

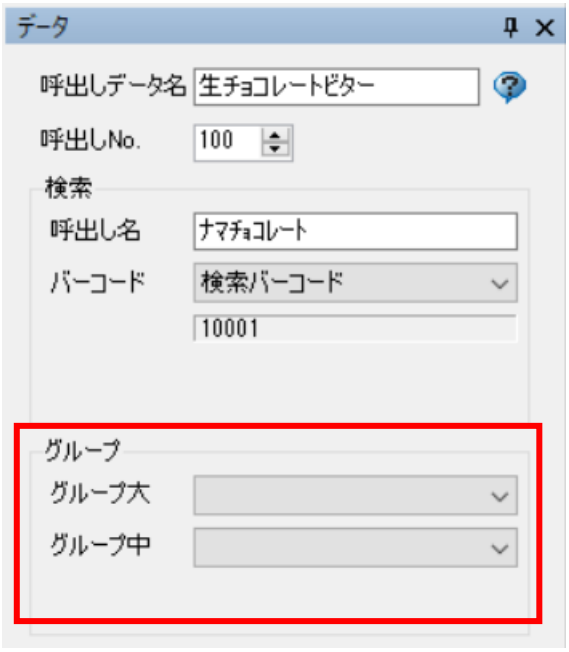


2. 「グループ階層」を、1 階層～3 階層の中から選択します。初期値は「無し」です。



3. プロジェクト設定で設定した階層に応じて、プリセット登録画面や発行レイアウトのレイアウト設定画面にグループ設定項目が表示されます。

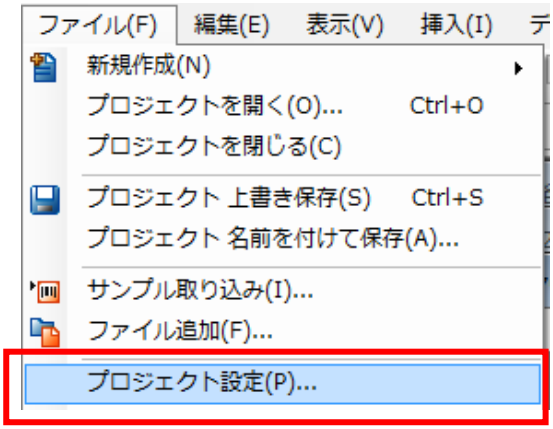




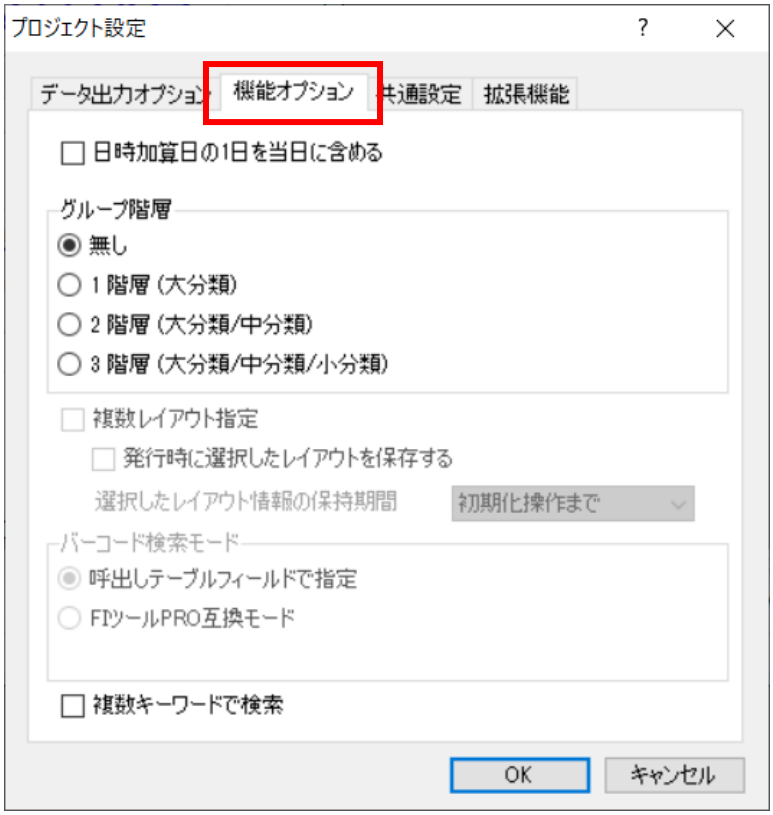
■複数キーワードで検索機能設定手順

キーワード発行で検索する項目を「呼出しデータ名」に加え「検索用呼出し名」も対象とできます。
設定を有効にすると、プリセットに「検索用呼出し名」項目が表示されるようになります。
検索時は入力したキーワードが「呼出しデータ名」または「検索用呼出し名」どちらかに含まれるアイテムを抽出します。

1. ファイル＞プロジェクト設定を起動します



2. 「機能オプション」タブを選択します

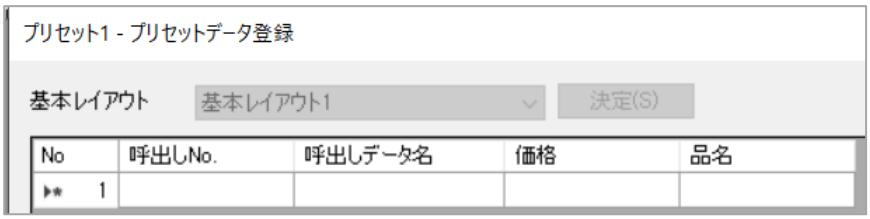


3.　「複数キーワードで検索」をオンにします



4.　プリセットに「検索用呼出し名」項目が表示されます

＜複数キーワードで検索オフ＞



＜複数キーワードで検索オン＞



5.　検索用呼出し名項目に検索キーワードを登録します（最大 100 桁）

No	呼出しNo.	呼出しデータ名	検索用呼出し名
1	1	おにぎり鮭	さけ|しゃけ
2	2	おにぎり梅	うめ
3	3	おにぎり明太子	めんたいこ
4	4	おにぎり高菜	たかな

注意

・本機能は e-Labe Designer Ver.1.15.0.0 以上でご利用いただけます

・初期設定では「検索用呼出し名」は非表示です

・「複数キーワードで検索」の設定に関わらず、インポート／エクスポート時の「検索用呼出し名」項目の処理は同一です

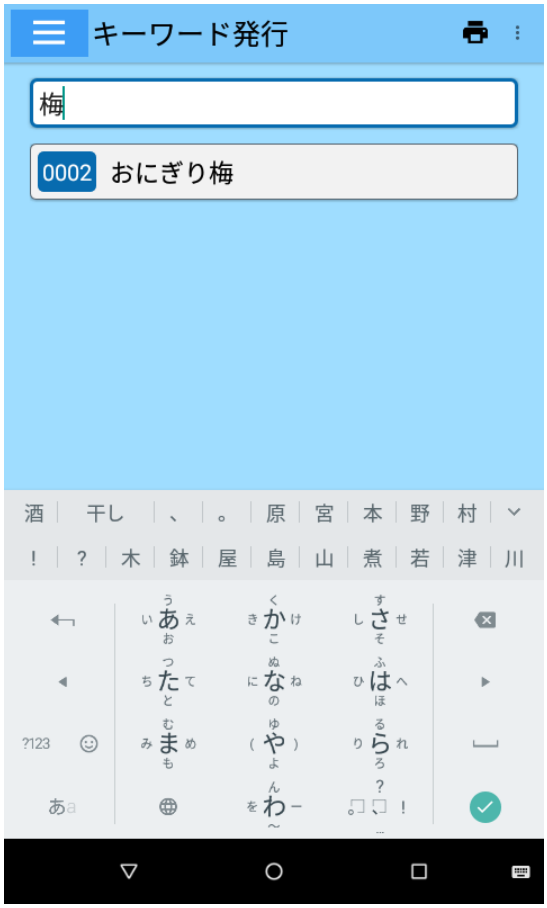
☑エクスポート時「検索用呼出し名」項目が必ず出力されます

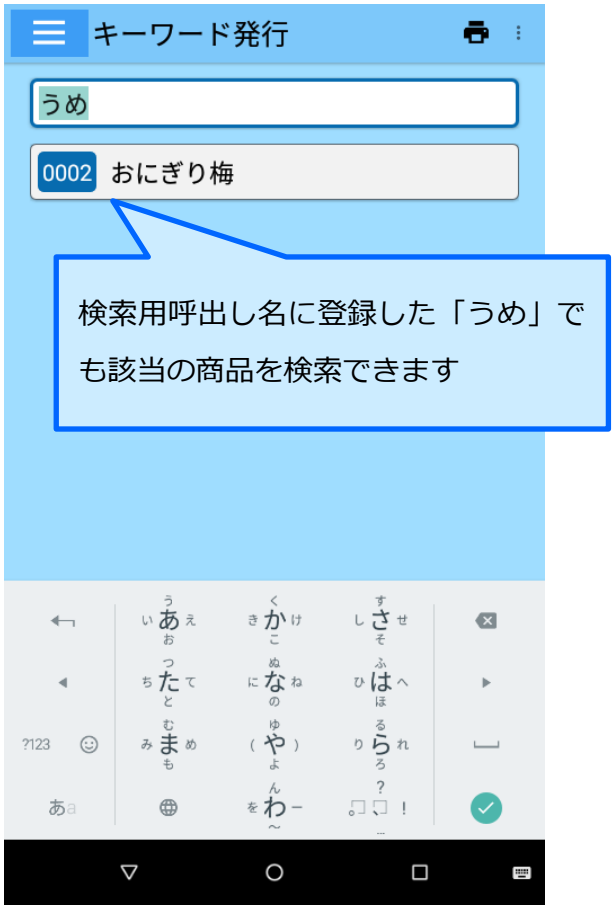
☑インポート用ファイルに「検索用呼出し名」項目が無い場合、データが空の状態でインポートが実行されます

☑インポート用ファイルの「検索用呼出し名」に不正な値が入っている場合は、エラーチェックの対象となります

・キーワードは「|」（※縦線）で区切って複数登録することが可能です（「|」を検索キーワードに使用することはできません）

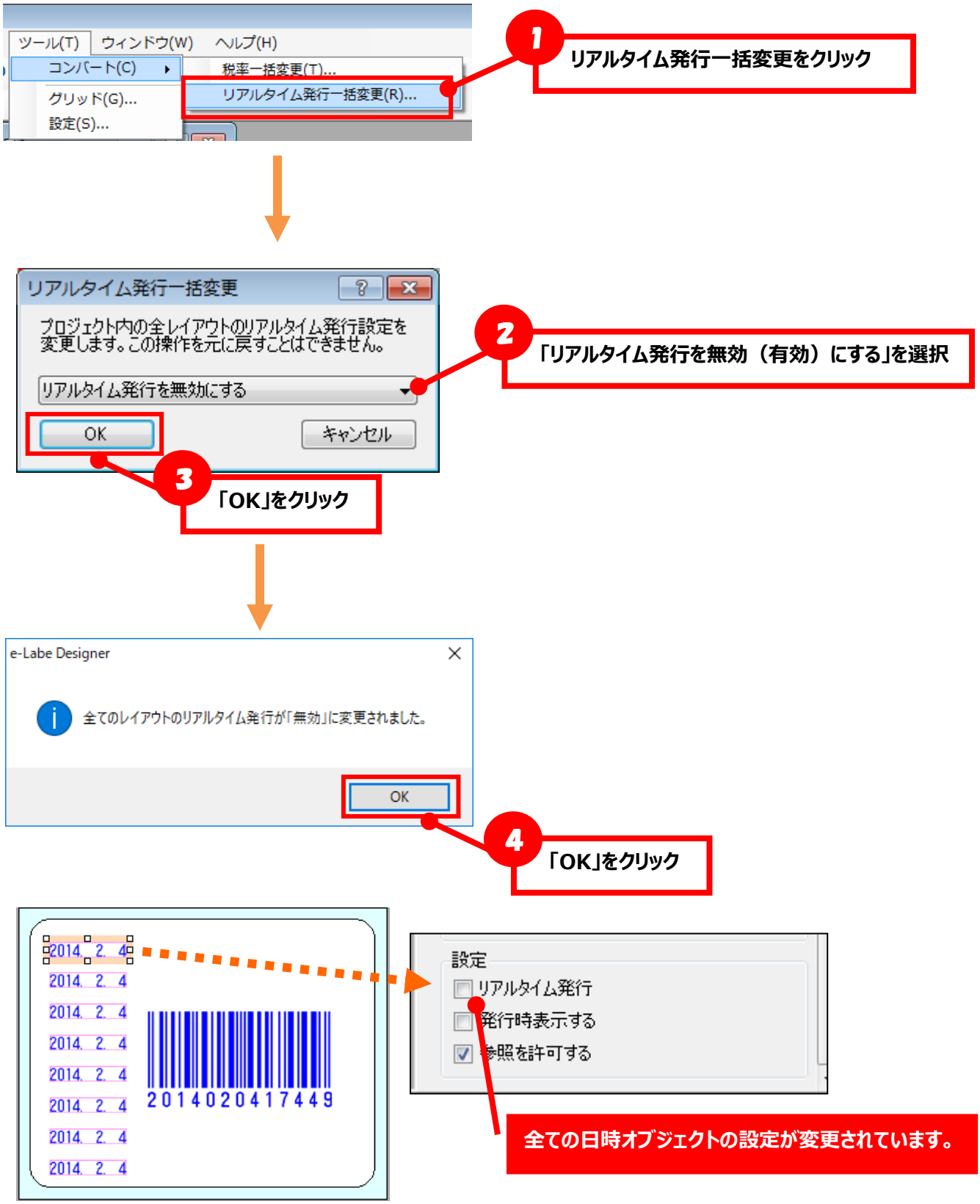
[e-Labe Print 画面]





19.リアルタイム発行一括変更

プロジェクト内の日時オブジェクトのリアルタイム発行設定を一括で変更する機能です。
全ての既存レイアウトの設定が一括で変更されます。
変更を元に戻すことはできませんので、ご注意ください。



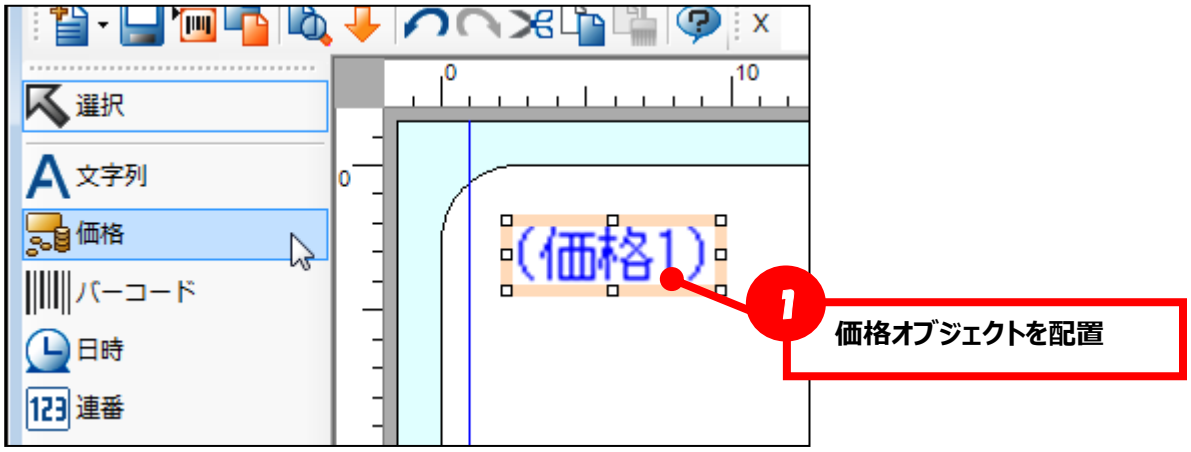
20.価格計算の設定方法

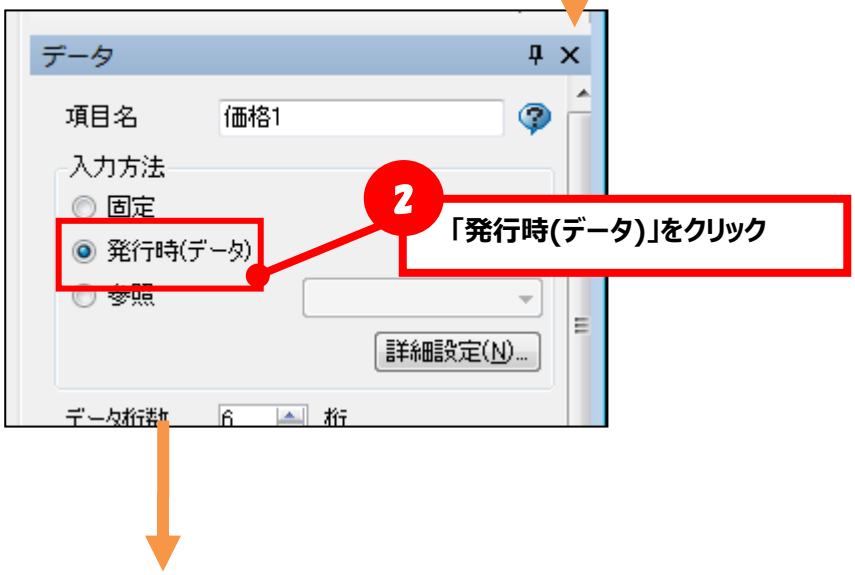
税込価格、税込価格（小数）、本体価格の作成方法や端数処理の考え方について説明します。

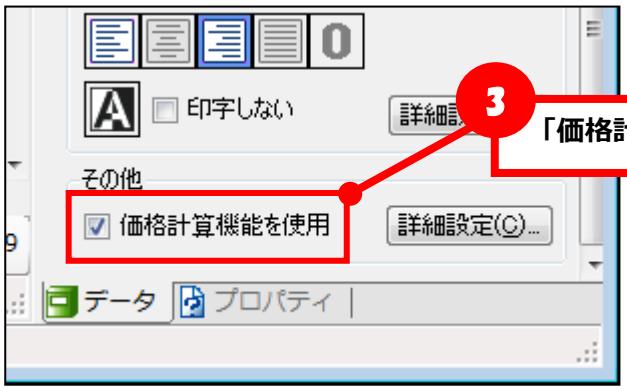
■本体価格から税込価格を求める



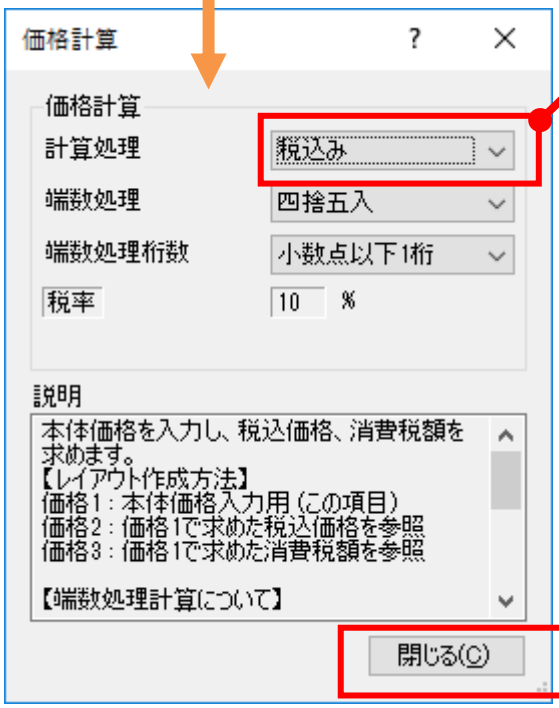
このような価格を作成するには・・・





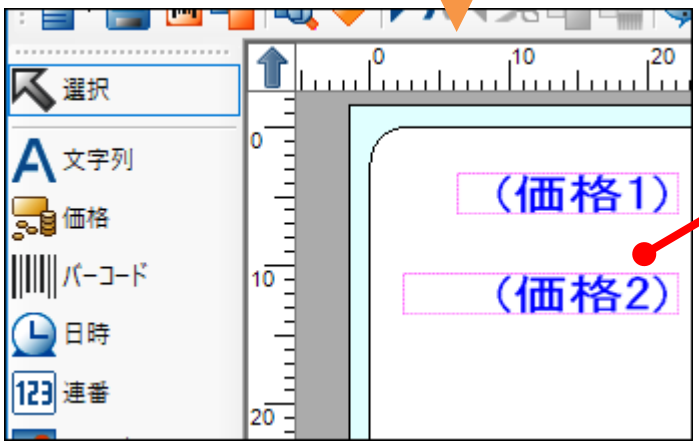


3 「価格計算機能を使用」をチェック

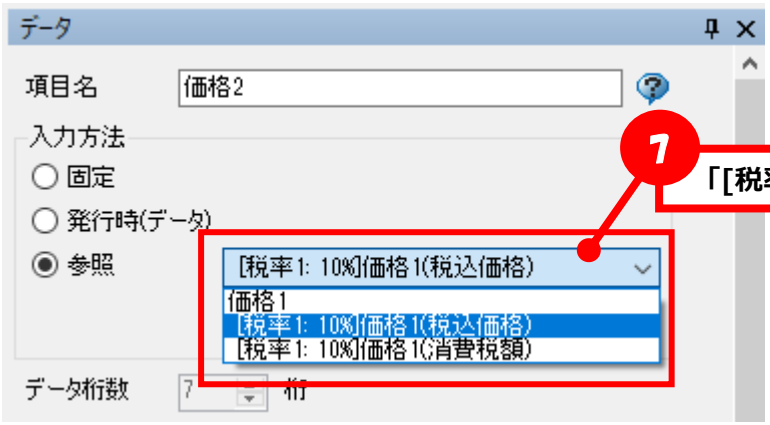


4 「税込み」を選択

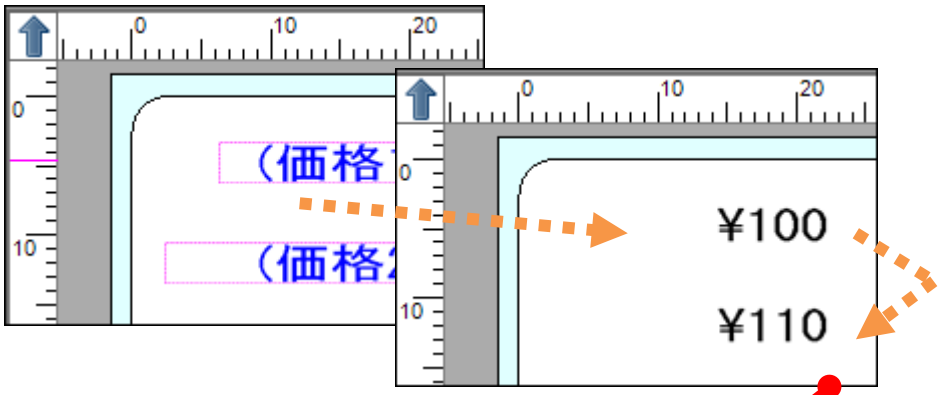
5 「閉じる」をクリック



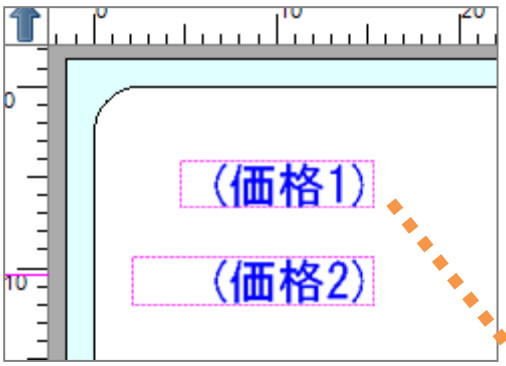
6 価格オブジェクトを配置

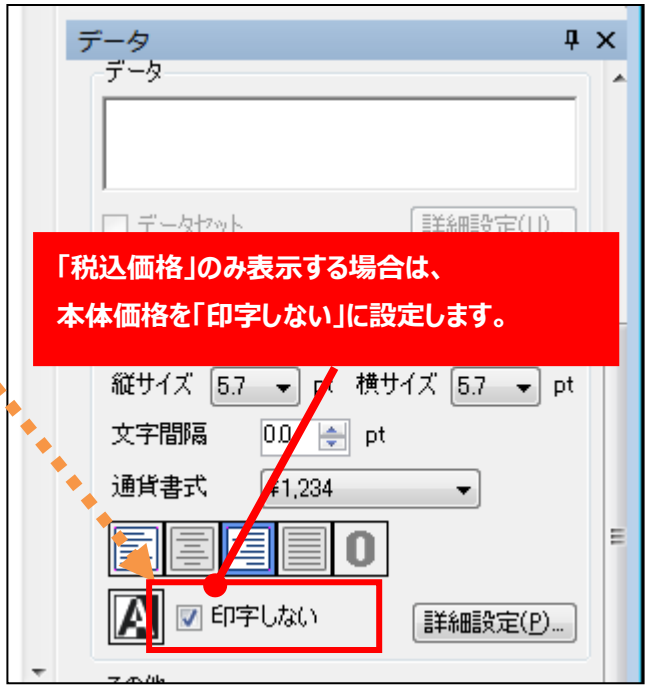


1 「[税率１：10%]価格 1(税込価格)」を選択



価格１に入力した値が「税込価格」で印字されます。



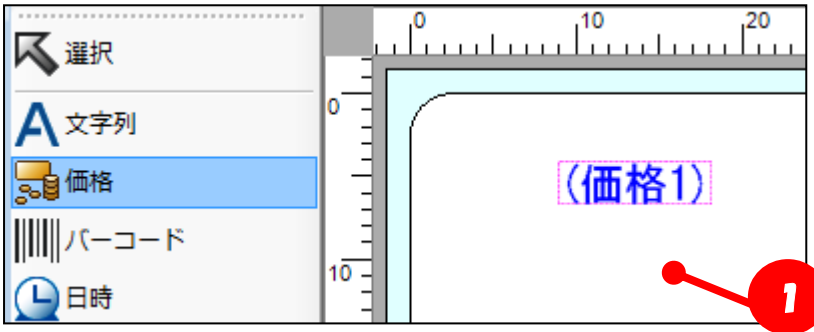


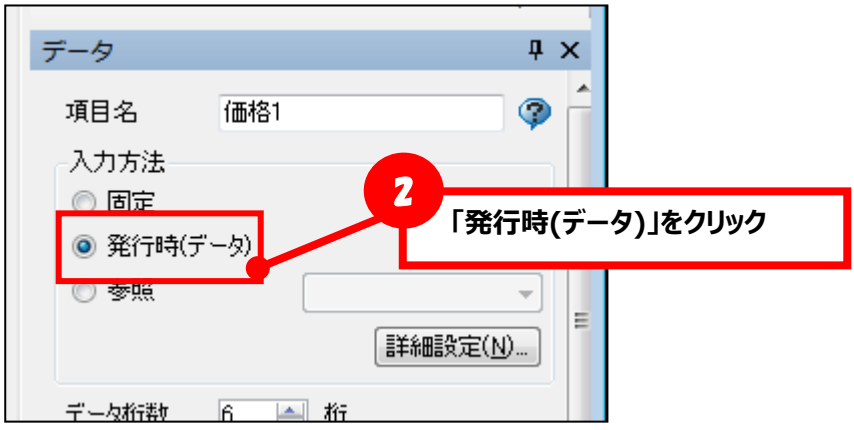
「税込価格」のみ表示する場合は、
本体価格を「印字しない」に設定します。

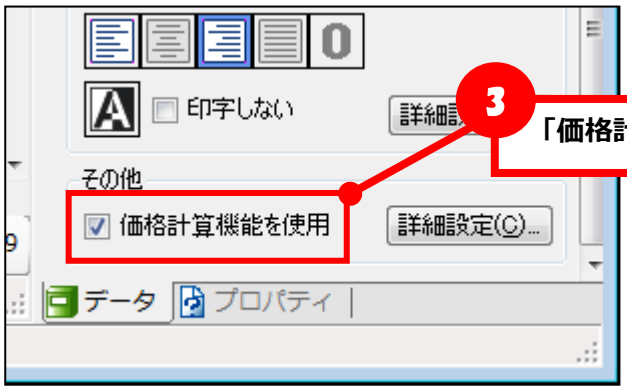
■本体価格から税込価格(小数点以下 2 桁表示)を求める



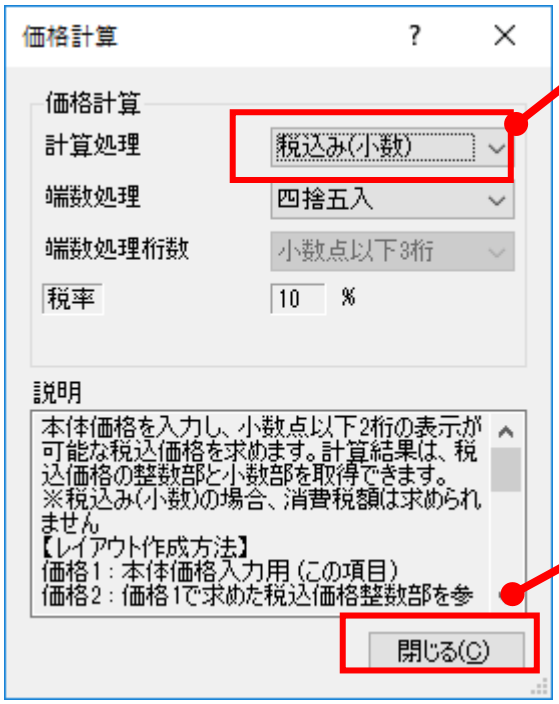
このような価格を作成するには・・・





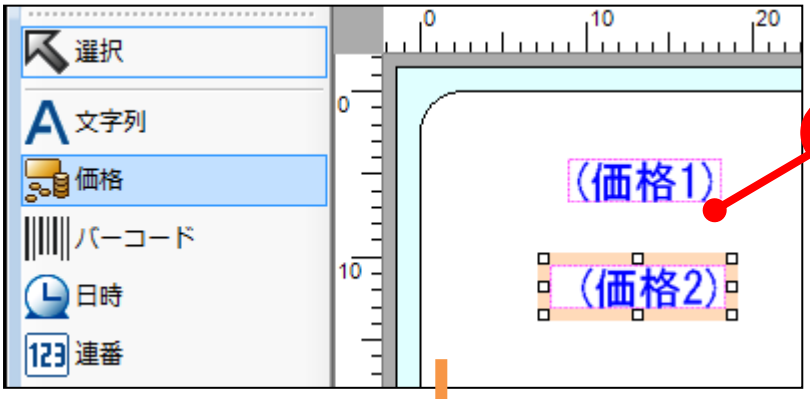


3 「価格計算機能を使用」をチェック

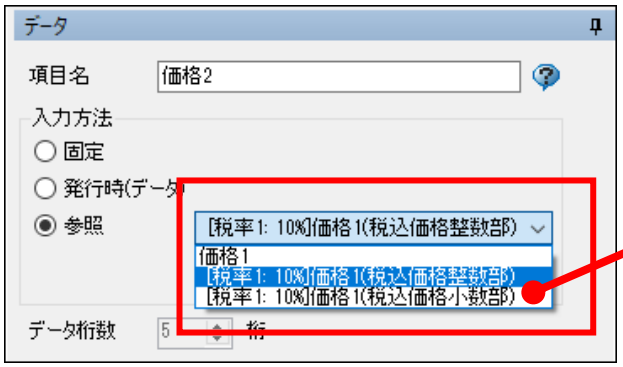


4 「税込み(小数)」を選択

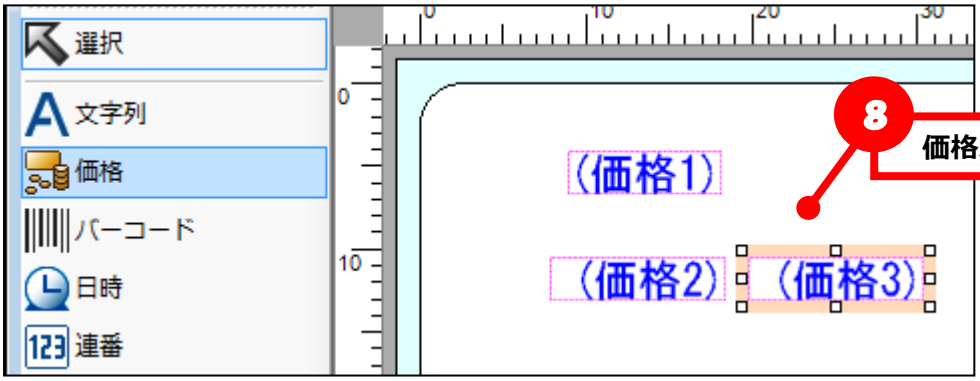
5 「閉じる」をクリック



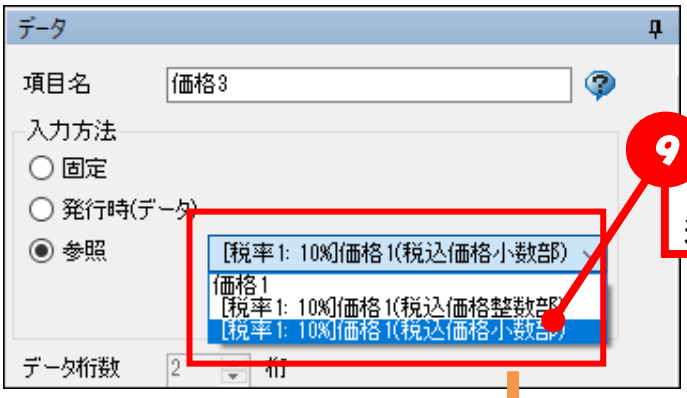
6 価格オブジェクトを配置



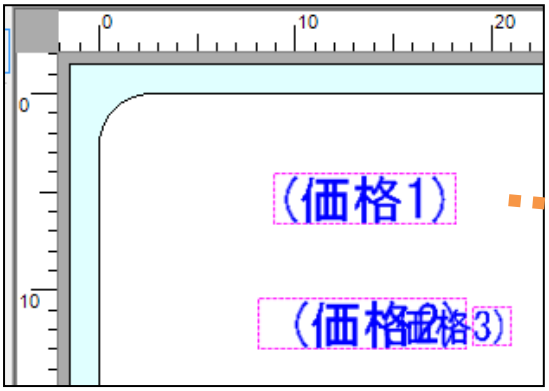
7 「[税率１:10%]価格　1(税込価格整数部)」を選択

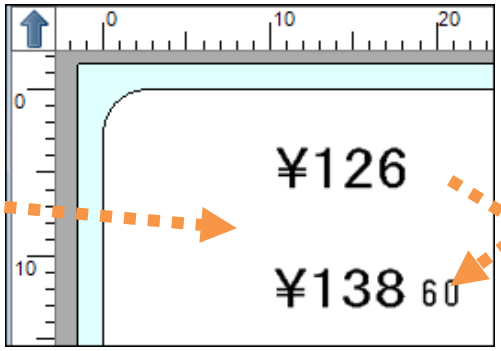


8 価格オブジェクトを配置

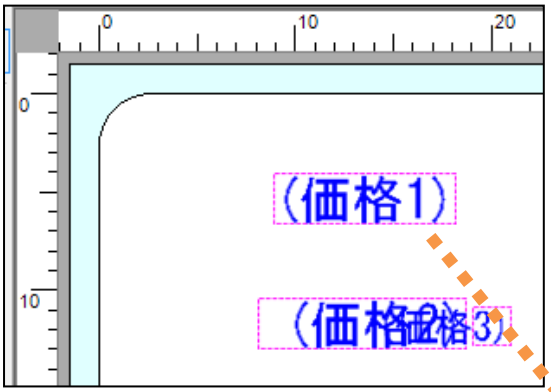


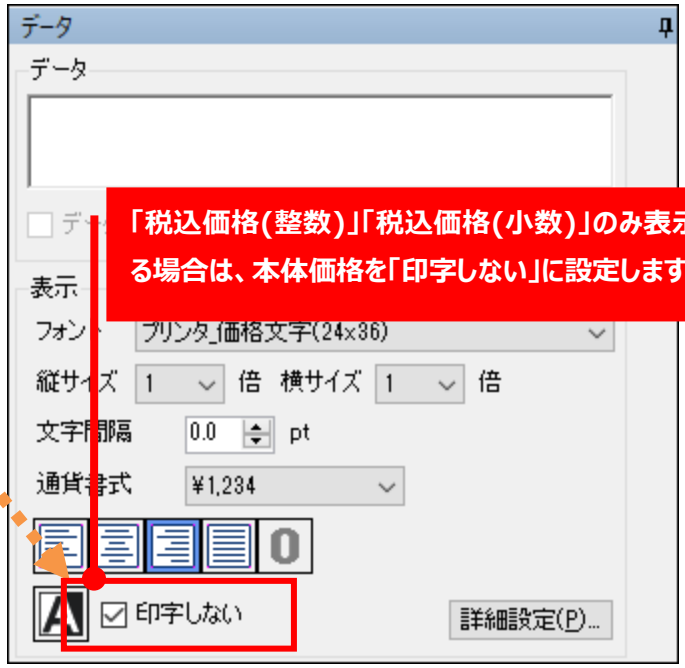
9 「[税率１:10%]価格１(税込価格小数部)」を選択





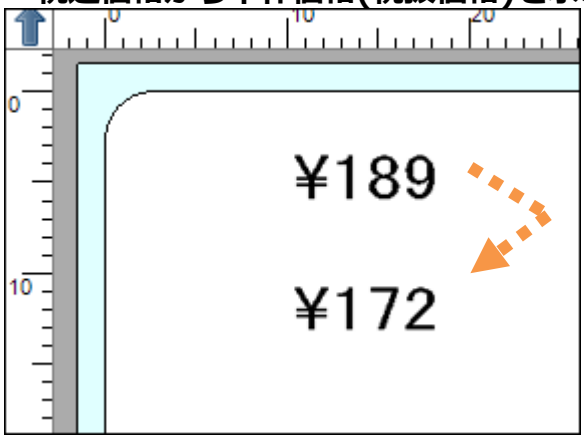
価格１に入力した値が「税込価格(整数)」と「税込価格(小数)」で印字されます。





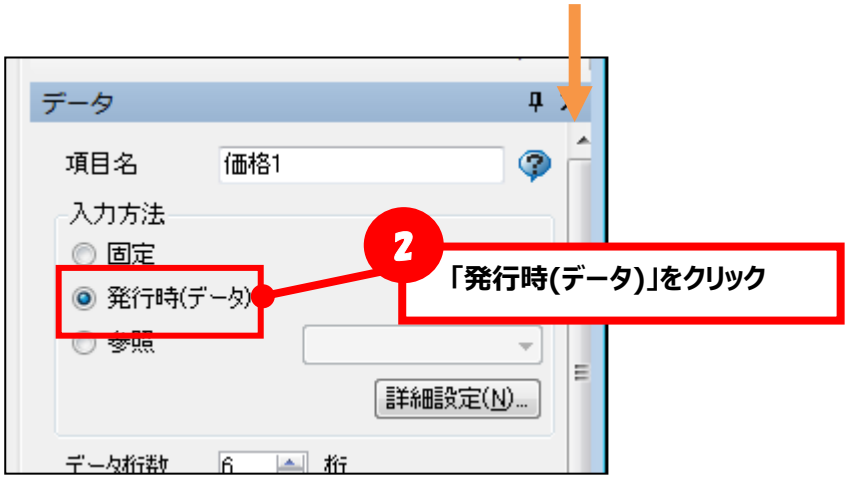
「税込価格(整数)」「税込価格(小数)」のみ表示する場合は、本体価格を「印字しない」に設定します。

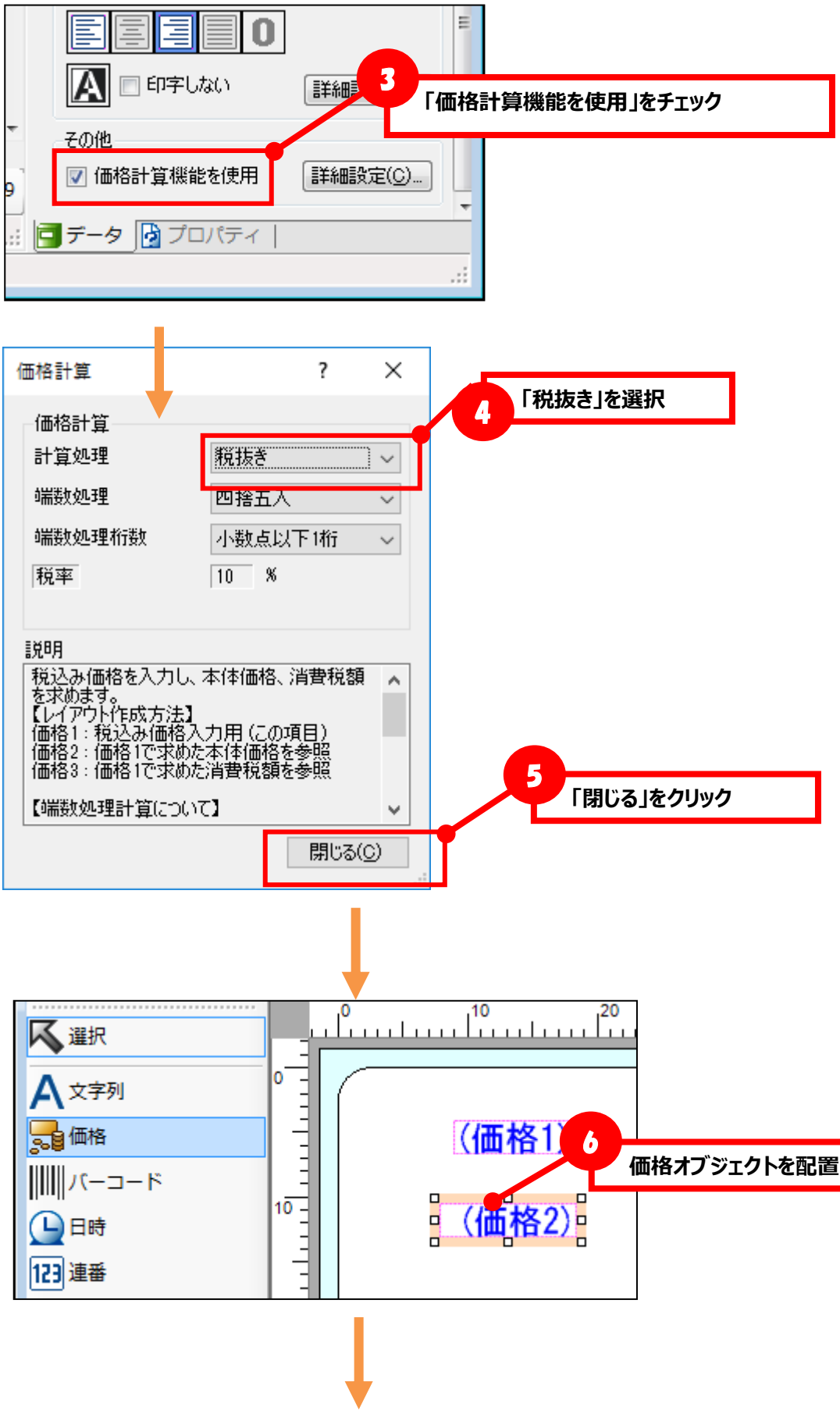
■税込価格から本体価格(税抜価格)を求める

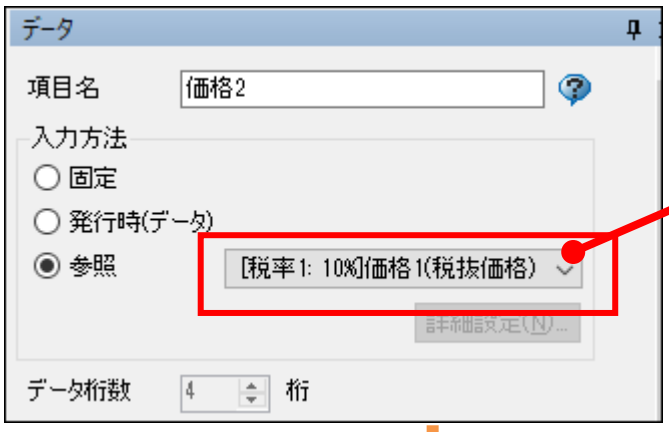


このような価格を作成するには・・・

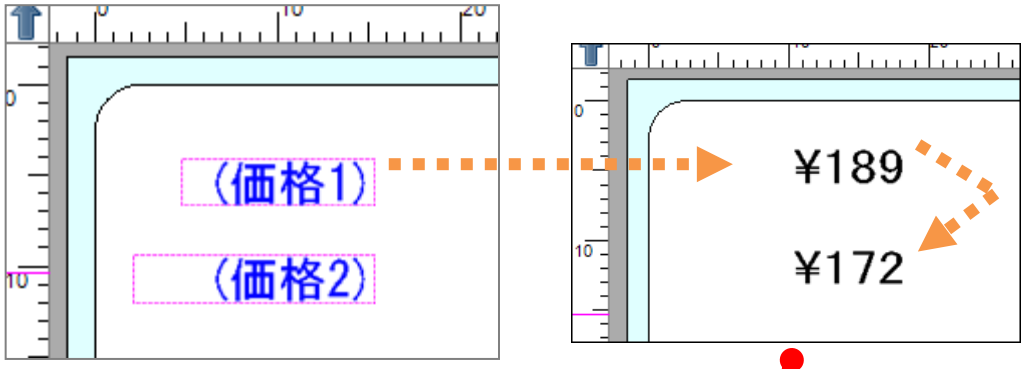





印字しない
詳細設定(C)...
その他
価格計算機能を使用
詳細設定(C)...
データ
プロパティ
3
「価格計算機能を使用」をチェック
価格計算
価格計算
計算処理
税抜き
端数処理
四捨五入
端数処理桁数
小数点以下1桁
税率
10
%
説明
税込み価格を入力し、本体価格、消費税額を求めます。
【レイアウト作成方法】
価格1：税込み価格入力用（この項目）
価格2：価格1で求めた本体価格を参照
価格3：価格1で求めた消費税額を参照
【端数処理計算について】
閉じる(C)
4
「税抜き」を選択
5
「閉じる」をクリック
選択
文字列
価格
バーコード
日時
連番
0
10
20
(価格1)
(価格2)
6
価格オブジェクトを配置



7 「[税率 1: 10%]価格 1(税抜価格)」を選択



価格１に入力した値が「税抜価格」で印字されます。

■端数処理の計算方法

価格計算で発生する端数の処理方法を設定できます。端数処理は計算で求めた**消費税額に対して**行ないます。計算途中の値や計算結果に対しての端数処理ではないためご注意ください。

端数処理で切り捨て、切り上げ、四捨五入は指定桁以下のすべての値を対象に端数処理をおこないます。

切り上げ（小数点第一位）は第一位の値のみを対象に端数処理をおこないます。

■本体価格 576 円で 8%の税込み計算の場合

端数処理	消費税額 （計算結果）	消費税額 (端数処理後)	税込価格 (端数処理後)
切り捨て	**46.08**	**46 円**	**622 円**
切り上げ	**46.08**	**47 円**	**623 円**
切り上げ（小数点第一位）	**46.08**	**46 円**	**622 円**
四捨五入	**46.08**	**46 円**	**622 円**

・税込み



計算処理「**税込み**」で求められる価格は「**税込価格**」と「**消費税額**」です。

入力価格が「128」、税率が「10」(%)の場合…

128 × 0.10 = **12.8** (消費税額)

端数処理が「**四捨五入**」、端数処理桁数が「**小数点以下 1 桁**」の場合…

12.8 ⇒ **13** (消費税額)

価格計算の結果… 税込価格「**141**」、消費税額「**13**」となります。

・**税抜き**



計算処理「**税抜き**」で求められる価格は「**税抜価格**」と「**消費税額**」です。

入力価格が「195」、税率が「10」(%)の場合…

195 ÷ 1.10 = 177.272727

195 − 177.272727 = **17.727273** (消費税額)

端数処理が「**切り上げ**」、端数処理桁数が「**小数点以下 1 桁**」の場合…

17.727273 ⇒ **18** (消費税額)

価格計算の結果… 税抜価格「**177**」、消費税額「**18**」となります。

[注意]税抜価格の誤差について

税込価格から税抜価格、消費税額を求めた場合、端数処理の関係で、税抜価格から税込価格を求めた場合に対して誤差が発生する場合があります。十分ご注意ください。

例）消費税率を 8%設定時に、税込みで 9,800 円を入力した場合（指定：端数処理は切捨て）

①税込価格として **9,800 円**を入力し、消費税と税抜価格を求めます。

9,800 ÷ 1.08 = 9074.074074…

9,800 − 9074.074074… =725.925925… 消費税は ⇒ 725 円

9,800 − 725 =9,075 税抜価格は ⇒ 9,075

②　①の計算で求められた税抜価格 9,075 円から税込価格を再計算してみます。

9,075 × 0.08 = 726 消費税は ⇒ 726 円

9,075 + 726 =9,801 税込価格は ⇒ **9,801 円**

以上のように ①で入力した税込価格と ② で算出した税込価格に誤差が生じます。

21.税率の設定／変更方法

税率の設定や税込み価格、本体価格の作成方法を説明します。

税率は大きく分けて２通りの設定方法があります。

① レイアウト毎に税率を保持する

② プロジェクトで保持する税率をレイアウトで参照する

従来の①以外に、②の設定方法を追加しました。編集が必要なレイアウト数が多い場合、②がより税率変更時の作業量が少なく済みます。

上記①と②の税率保持方法以外に、税率を設定するタイミングによって設定項目が異なります。

以下のリストで作業内容を確認の上、該当する設定方法を確認ください

[新規でプロジェクトやレイアウトを作成時の税率設定]

作業内容	設定項目
プロジェクト作成前に、税率を設定する	ツール>設定>税率
プロジェクト作成後に、新規作成するレイアウトの税率を設定する	レイアウトデフォルト設定>税率・割引率 プロジェクト設定> 共通設定

[既存レイアウトの税率変更]

① レイアウト毎に税率を保持する場合

作業内容	設定項目
レイアウトの税率を一括で変更する	ツール>コンバート>税率一括変更
レイアウトの税率を個別に変更する	レイアウト設定>税率・割引率

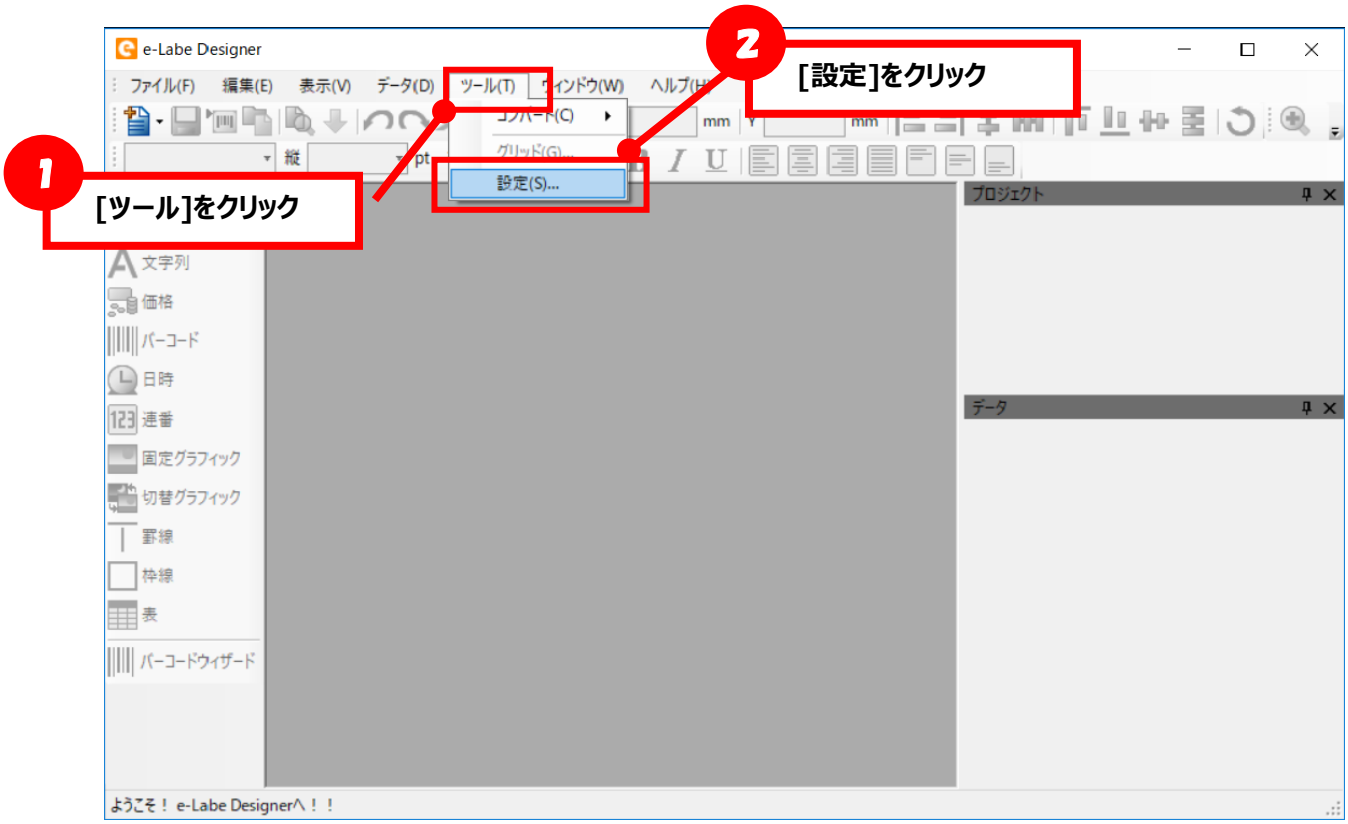
② プロジェクトで保持する税率をレイアウトで参照する場合

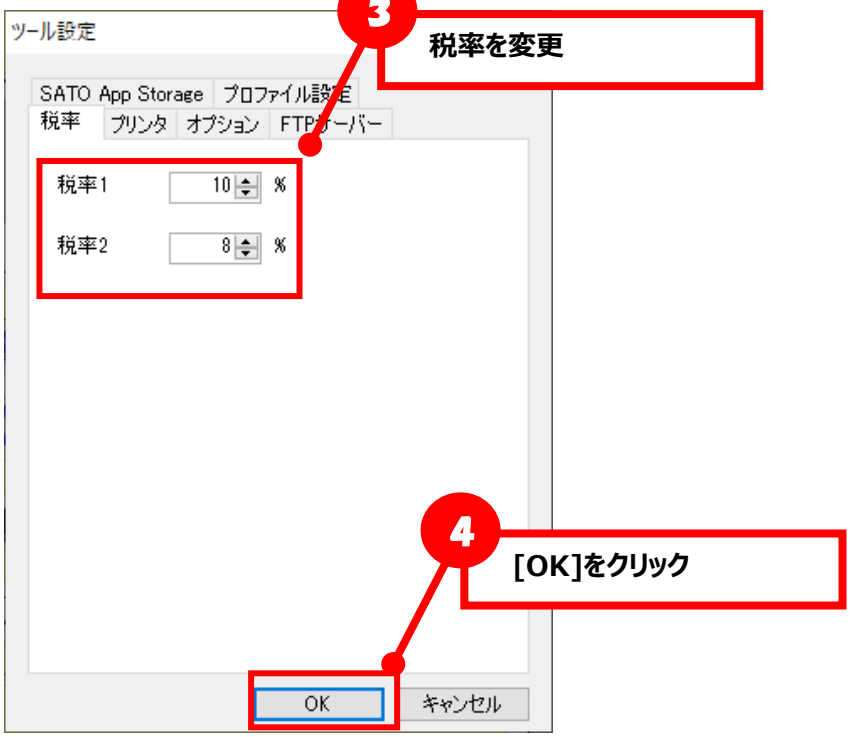
作業内容	設定項目
レイアウトの税率を変更する	プロジェクト設定>共通設定

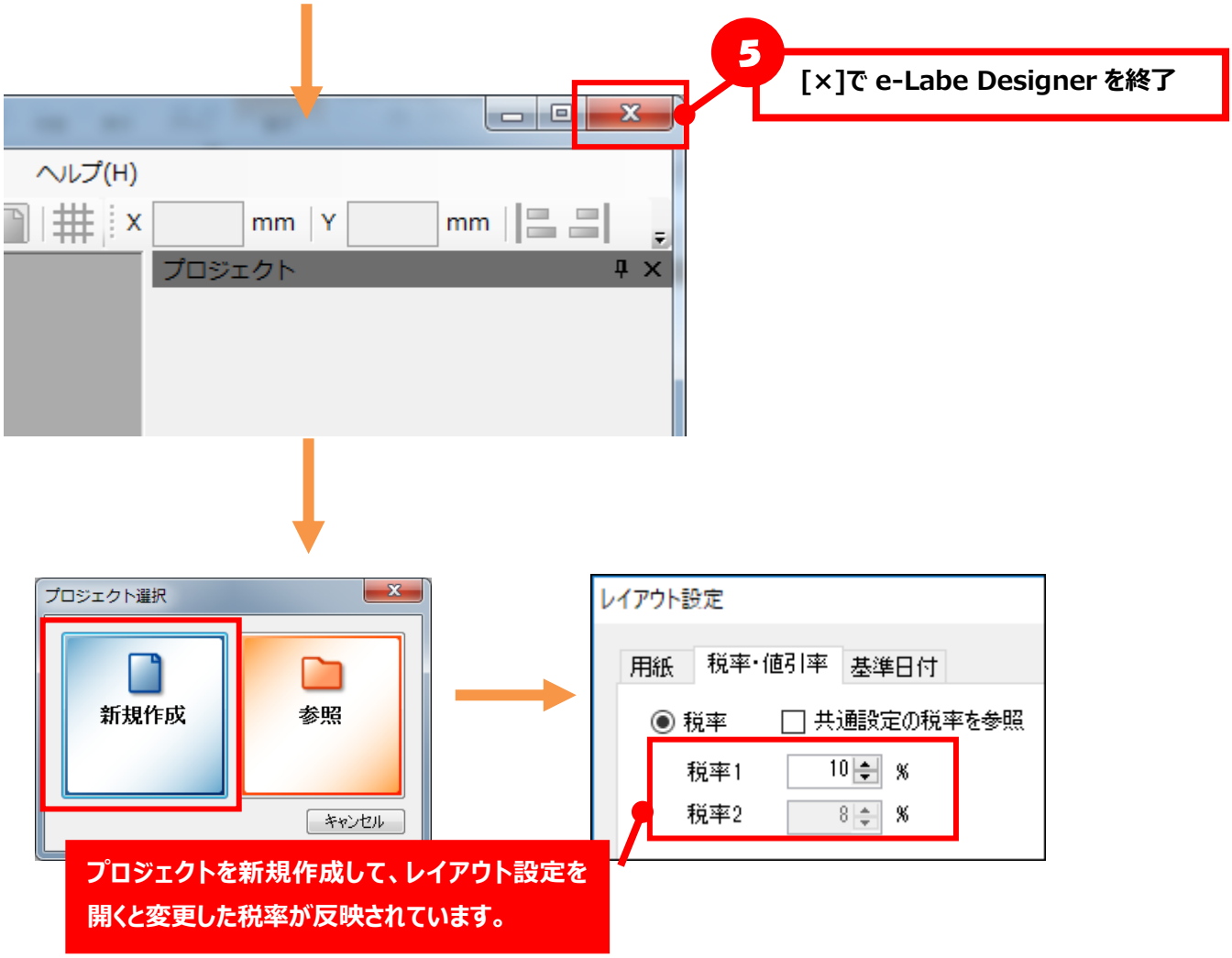
■[新規でプロジェクトやレイアウトを作成時の税率設定]

・プロジェクト作成前に、税率を設定する

※本設定で設定した税率は、「次回プロジェクトを新規作成時」に反映されます。
既存のプロジェクトの税率変更は、「既存レイアウトの税率変更」をご確認ください。

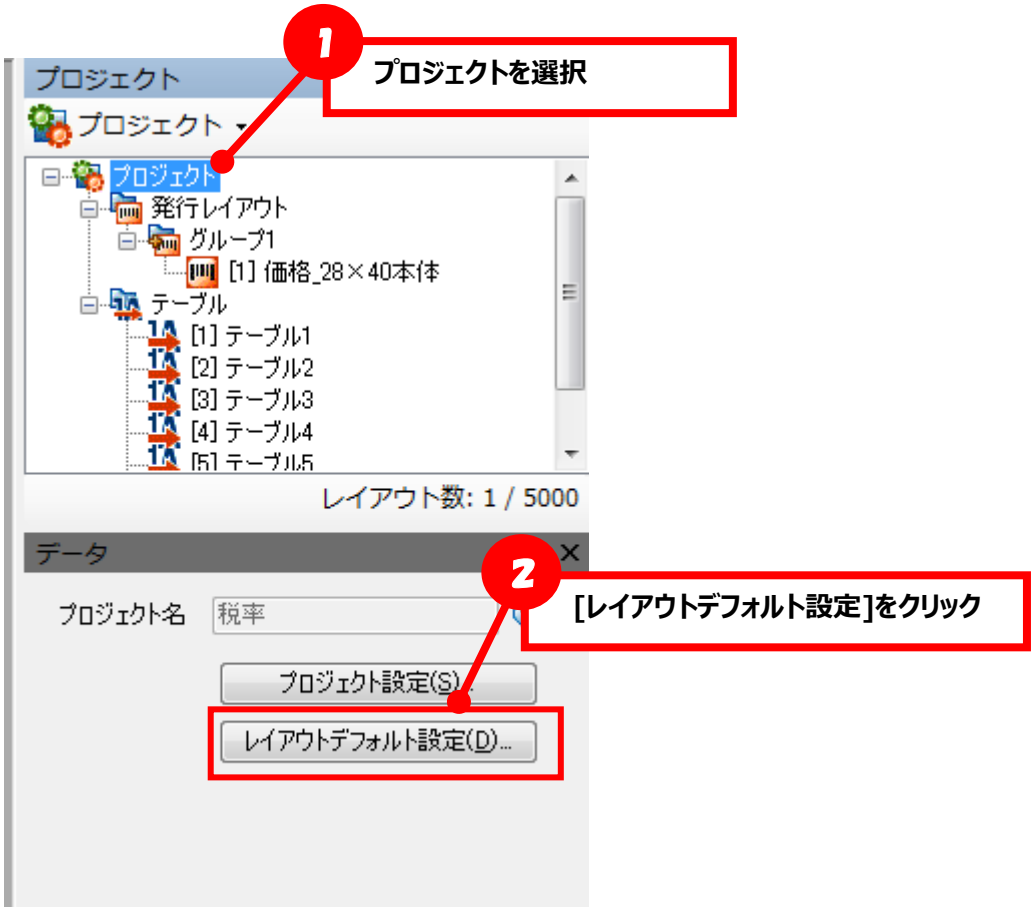


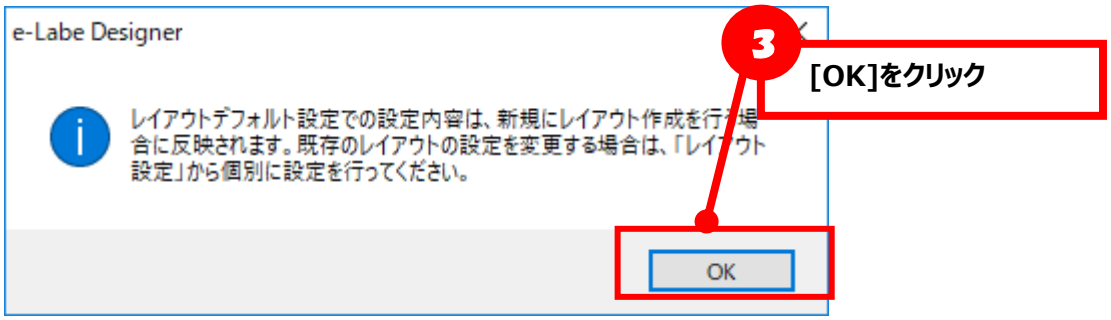


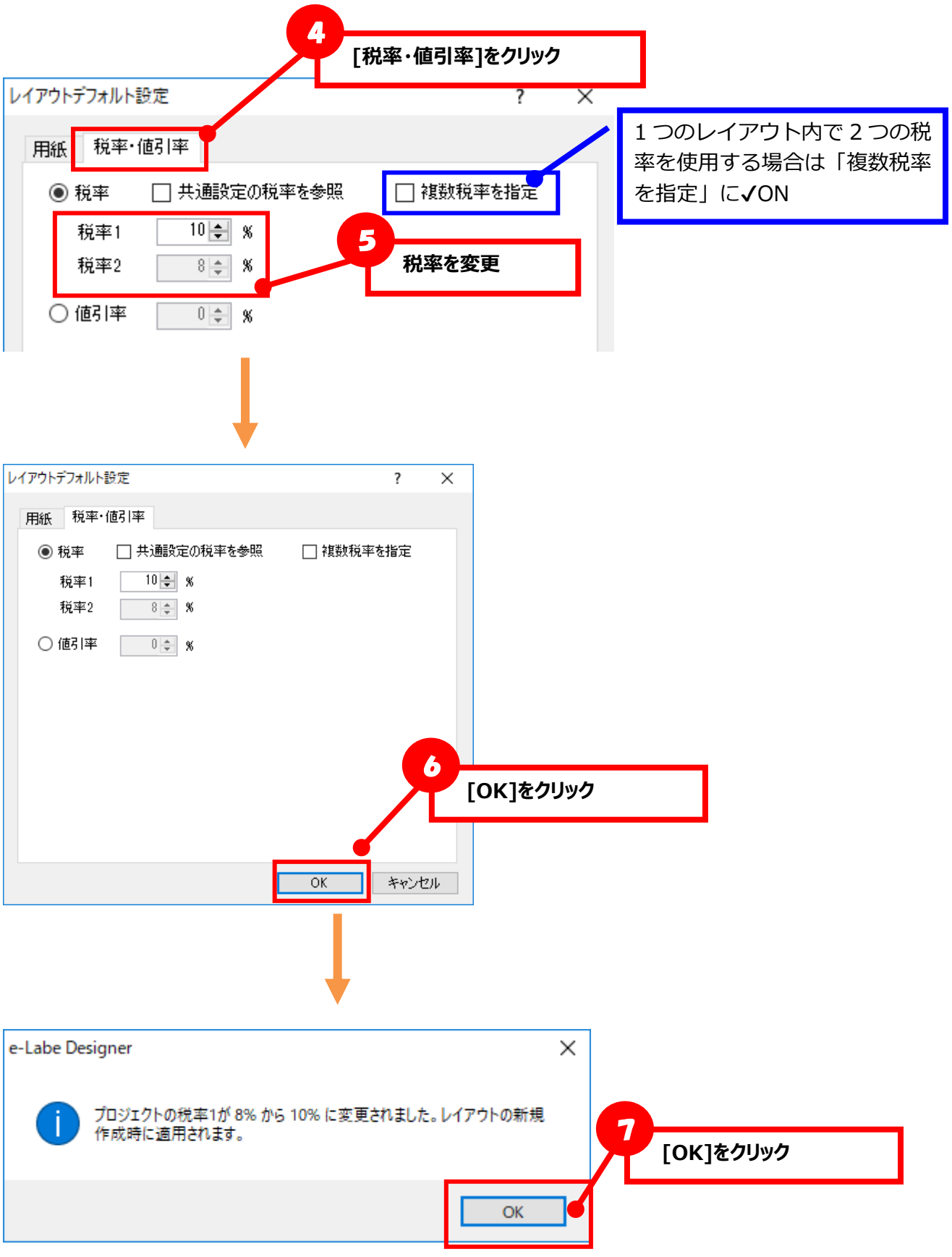

5
[×]で e-Labe Designer を終了
ヘルプ(H)
X
mm
Y
mm
プロジェクト
プロジェクト選択
新規作成
参照
キャンセル
レイアウト設定
用紙
税率・値引率
基準日付
税率
共通設定の税率を参照
税率1
10
%
税率2
8
%
プロジェクトを新規作成して、レイアウト設定を
開くと変更した税率が反映されています。

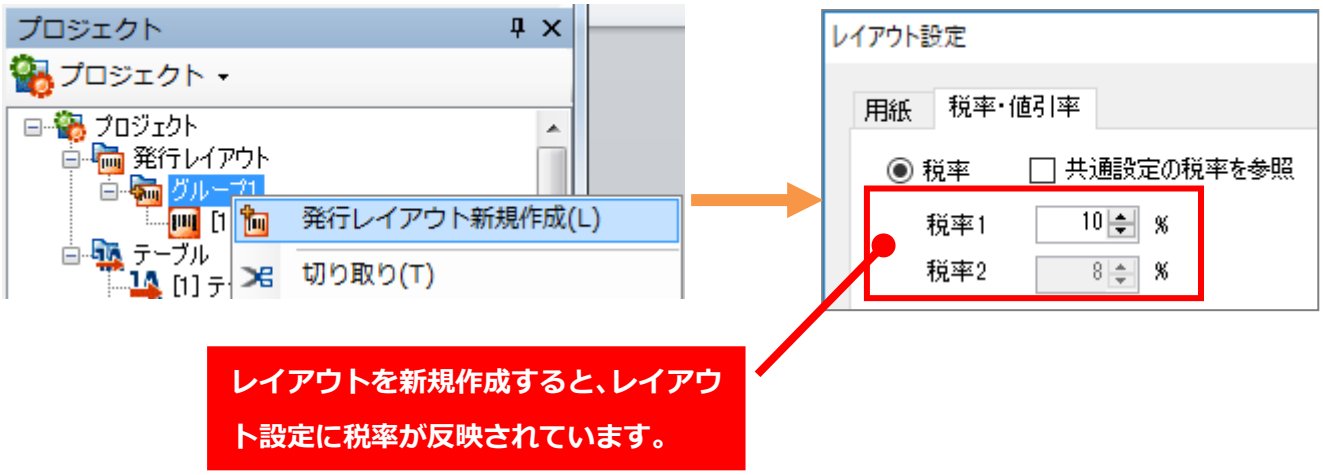
・プロジェクト作成後に、新規作成するレイアウトの税率を設定する

① レイアウト毎に税率を保持する場合



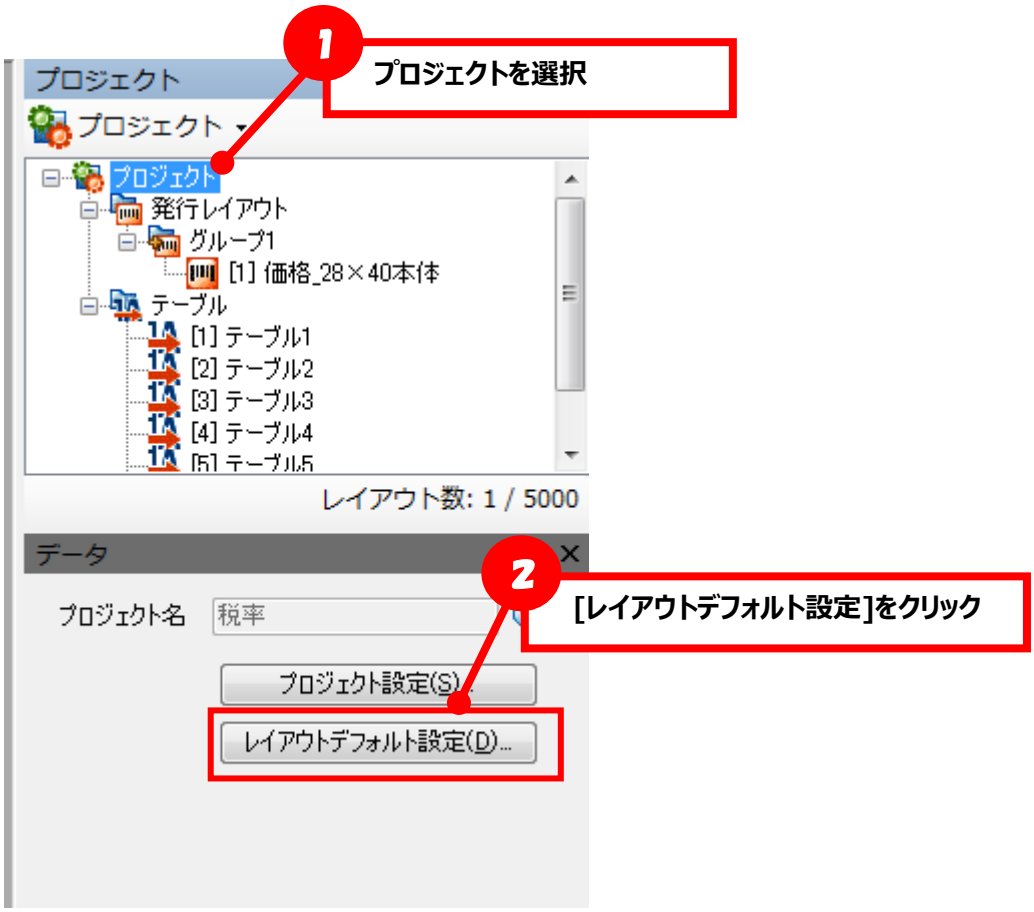



4
[税率・値引率]をクリック
レイアウトデフォルト設定
用紙
税率・値引率
税率
共通設定の税率を参照
複数税率を指定
税率1
10
%
税率2
8
%
値引率
0
%
5
税率を変更
1 つのレイアウト内で 2 つの税率を使用する場合は「複数税率を指定」に✓ON
6
[OK]をクリック
OK
キャンセル
e-Labe Designer
プロジェクトの税率1が 8% から 10% に変更されました。レイアウトの新規作成時に適用されます。
7
[OK]をクリック
OK

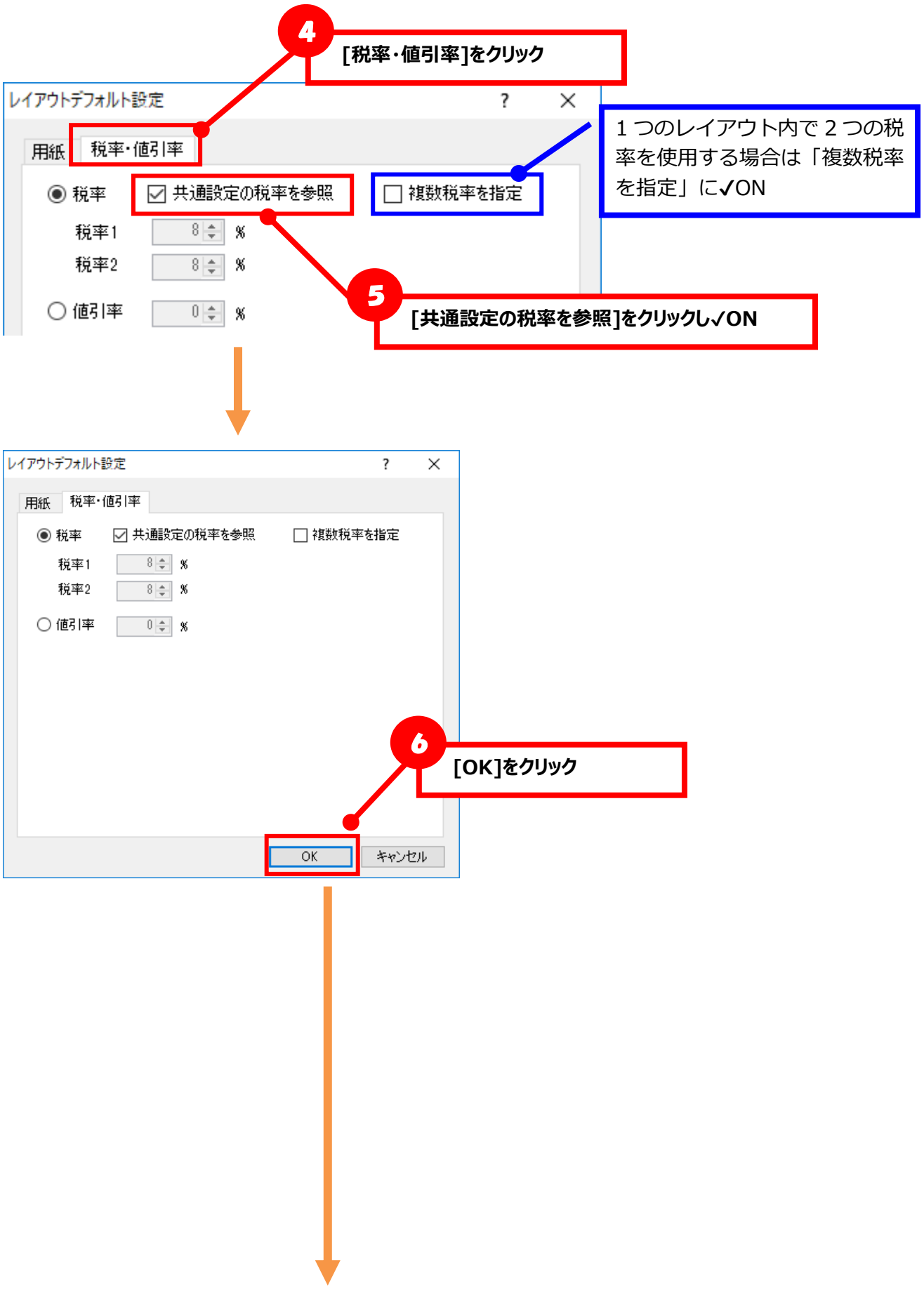


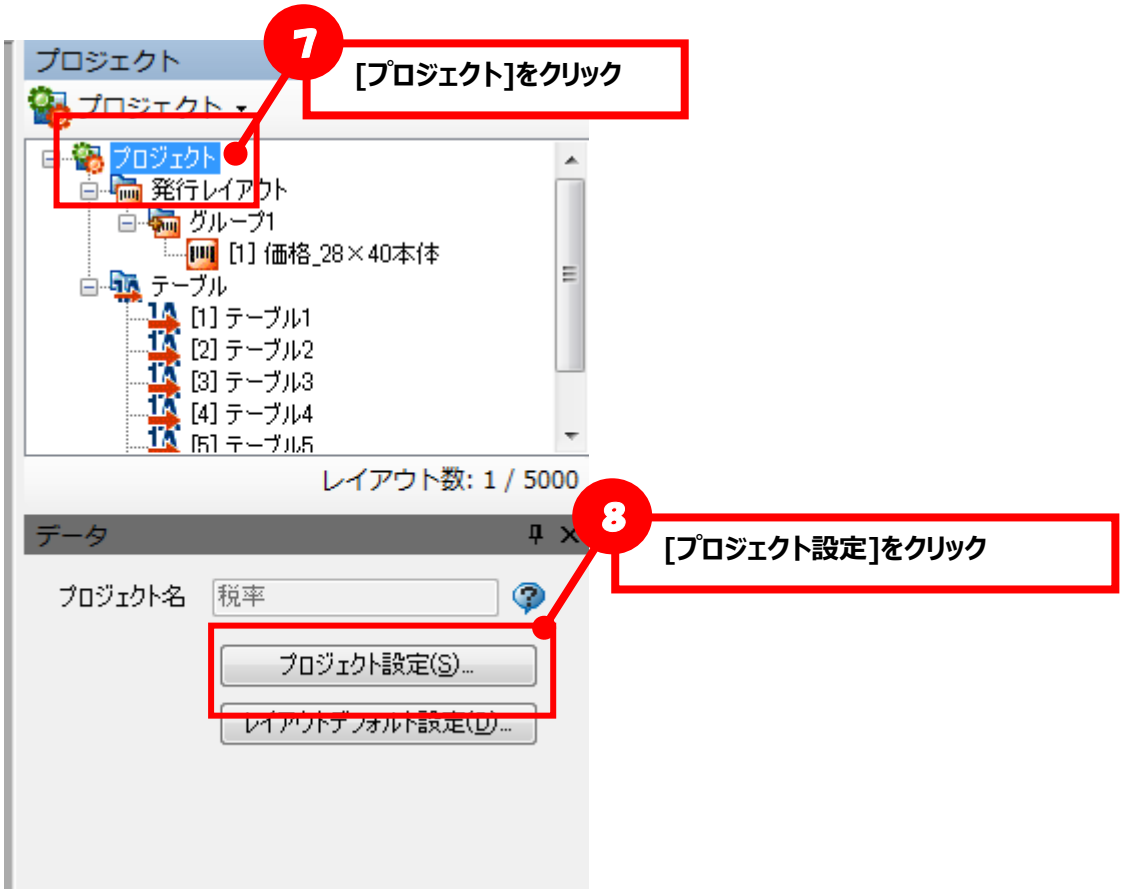
レイアウトを新規作成すると、レイアウト設定に税率が反映されています。

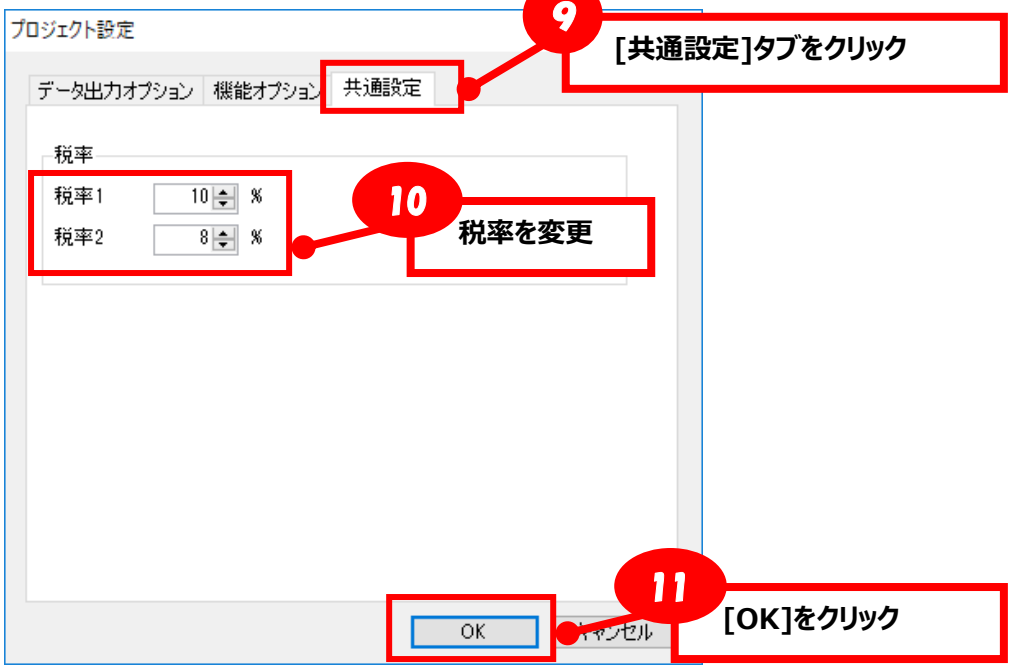
② プロジェクトで保持する税率をレイアウトで参照する場合

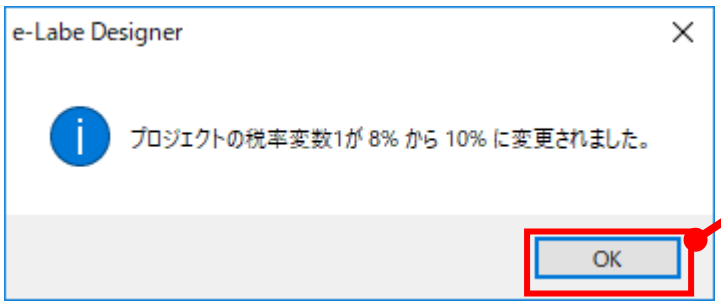




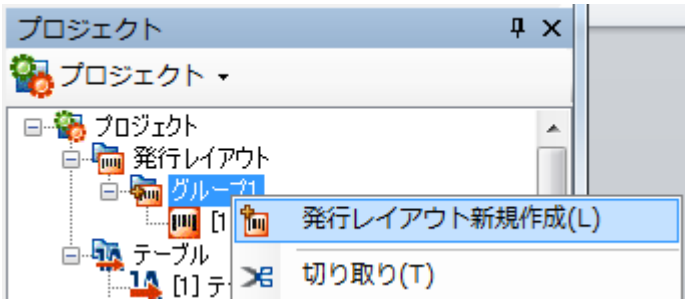

4
[税率・値引率]をクリック
レイアウトデフォルト設定
用紙
税率・値引率
税率
共通設定の税率を参照
複数税率を指定
税率1
8
%
税率2
8
%
値引率
0
%
1 つのレイアウト内で 2 つの税率を使用する場合は「複数税率を指定」に✓ON
5
[共通設定の税率を参照]をクリックし✓ON
レイアウトデフォルト設定
用紙
税率・値引率
税率
共通設定の税率を参照
複数税率を指定
税率1
8
%
税率2
8
%
値引率
0
%
6
[OK]をクリック
OK
キャンセル

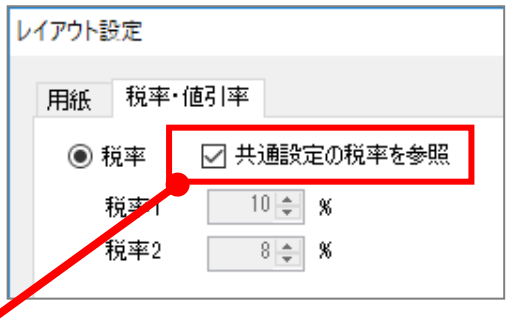

7
[プロジェクト]をクリック
プロジェクト
プロジェクト
プロジェクト
発行レイアウト
グループ1
[1] 価格_28×40本体
テーブル
[1] テーブル1
[2] テーブル2
[3] テーブル3
[4] テーブル4
[5] テーブル5
レイアウト数: 1 / 5000
データ
8
[プロジェクト設定]をクリック
プロジェクト名
税率
プロジェクト設定(S)...
レイアウトデフォルト設定(D)...


プロジェクト設定
9
[共通設定]タブをクリック
データ出力オプション
機能オプション
共通設定
税率
税率1
10
%
税率2
8
%
税率を変更
OK
キャンセル
11
[OK]をクリック



12 [OK]をクリック

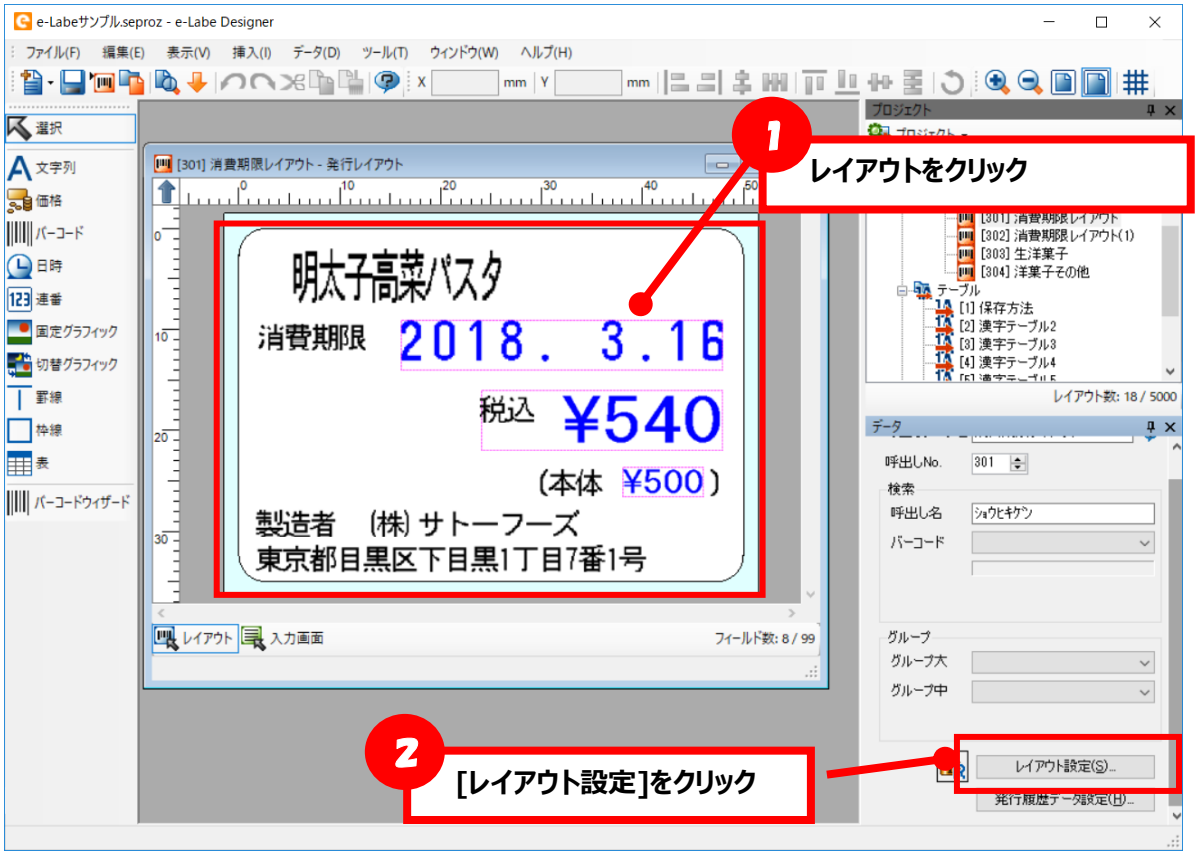


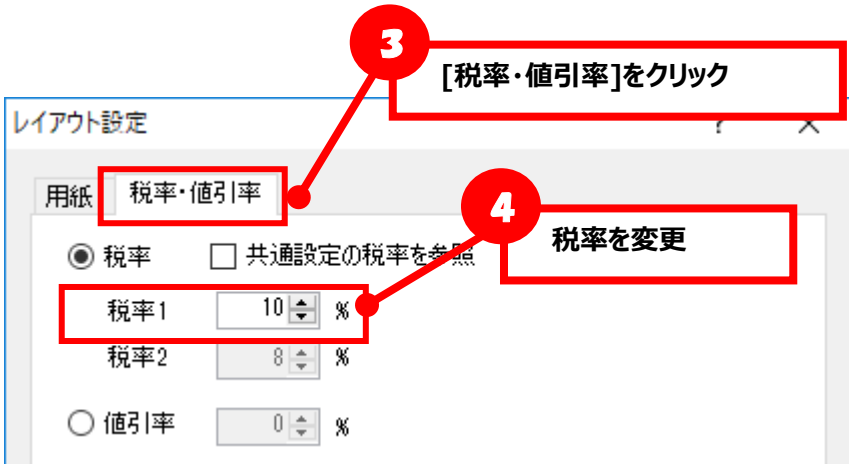


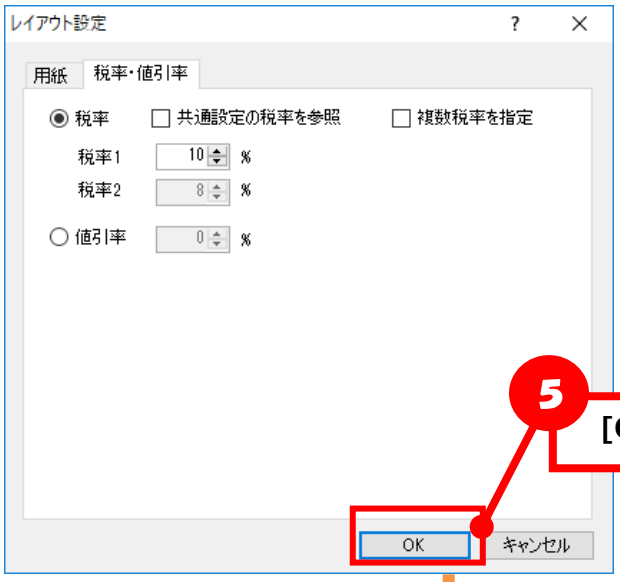
レイアウトを新規作成すると、レイアウト設定に「共通設定の税率を参照」の✓ON が反映されています。

■[既存レイアウトの税率変更]

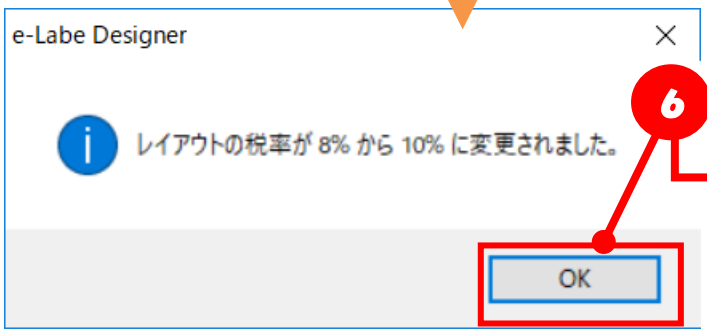
・税率を個別に変更する（①レイアウト毎に税率を保持する場合）



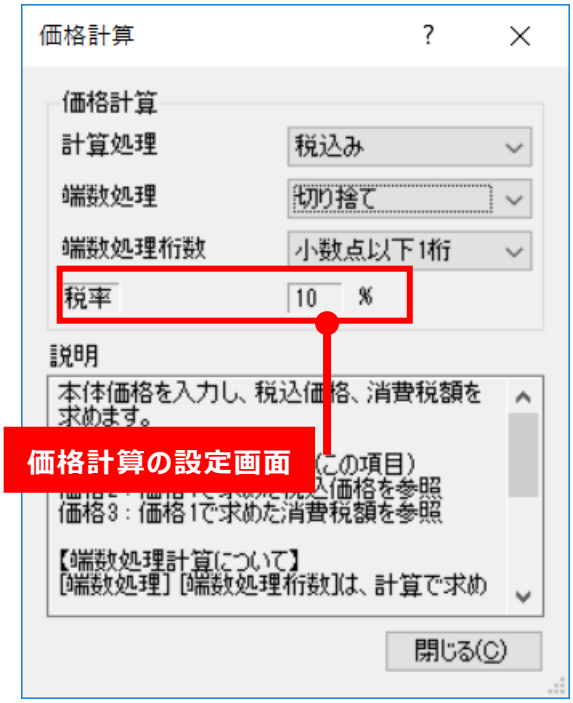




5 [OK]をクリック



6 [OK]をクリック

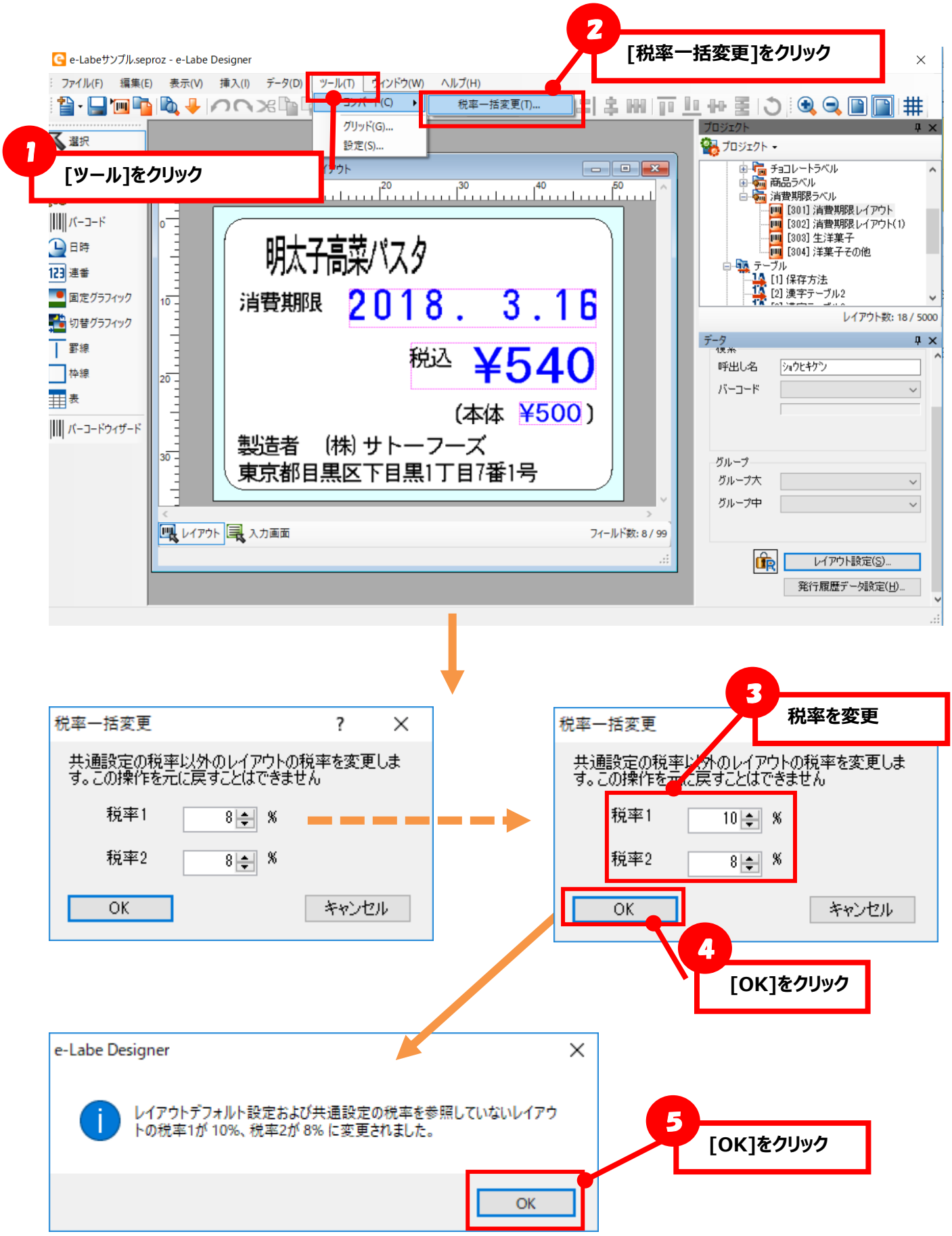


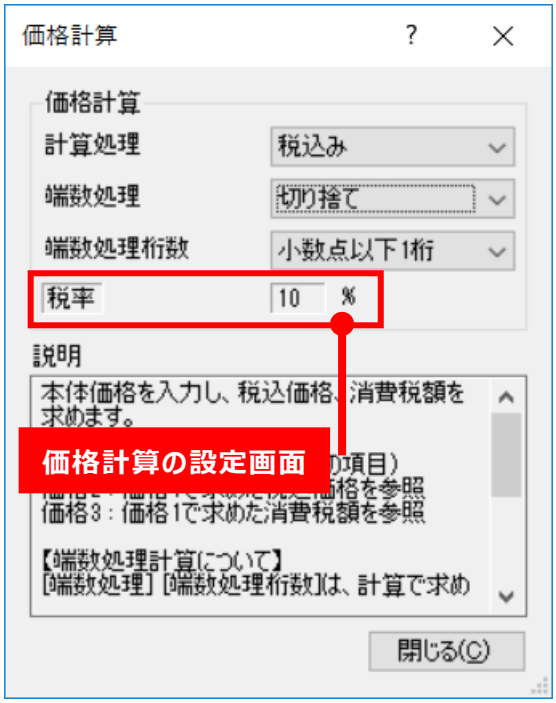
価格計算の設定画面



★変更後はデータ出力を行い、実際に印字をして税率変更後の値を確認してください

・税率をまとめて変更する（①レイアウト毎に税率を保持する場合）

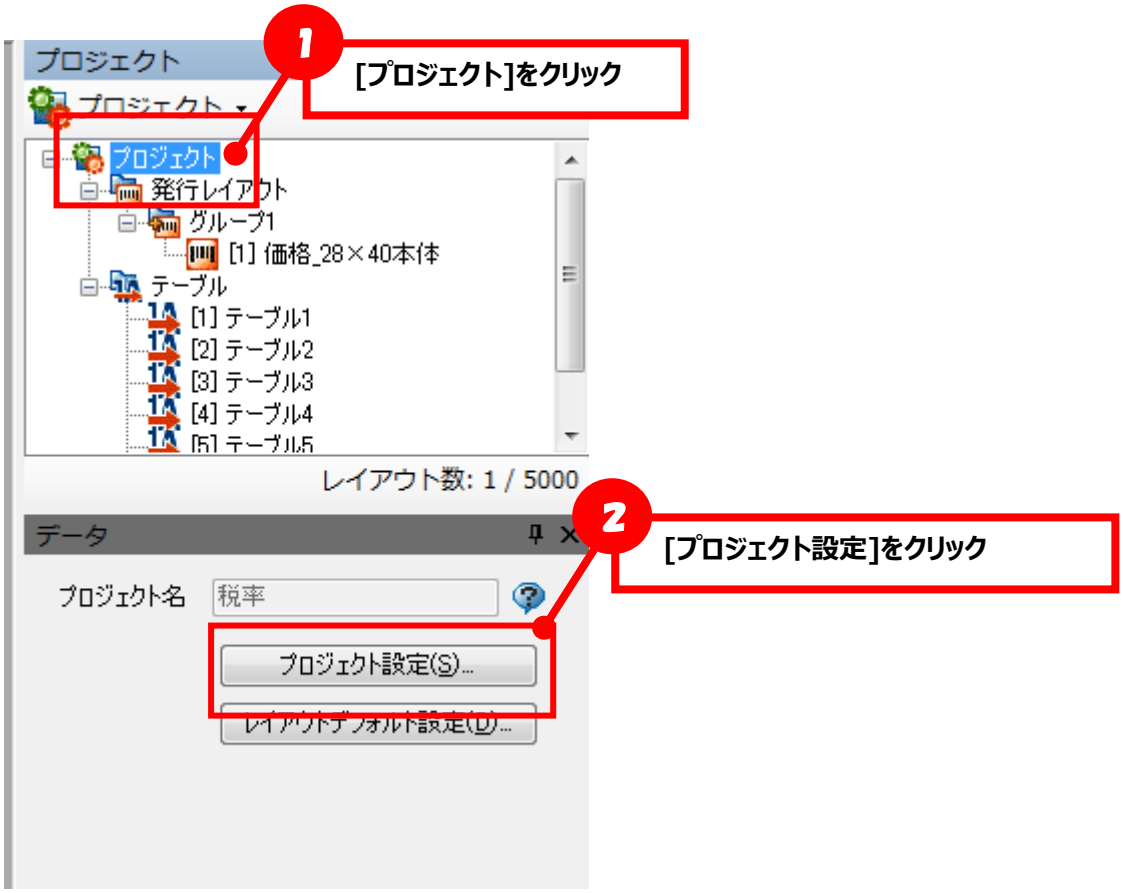


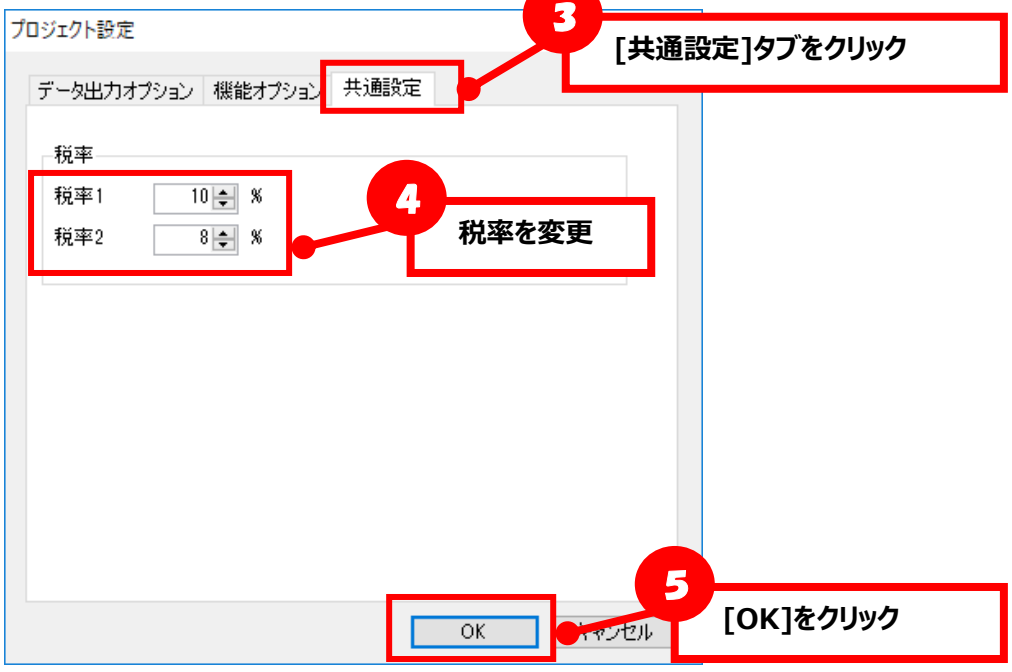


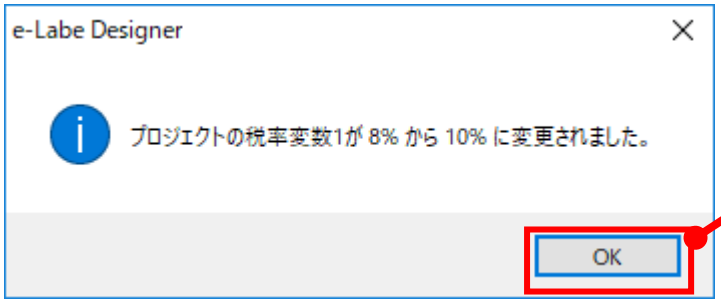


★変更後はデータ出力を行い、実際に印字をして税率変更後の値を確認してください

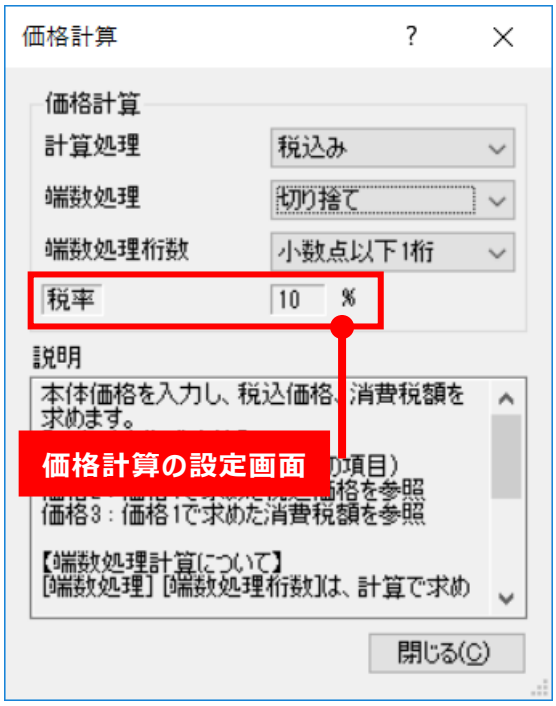
・税率を変更する（②プロジェクトで保持する税率をレイアウトで参照する場合）







6 [OK]をクリック



価格計算の設定画面

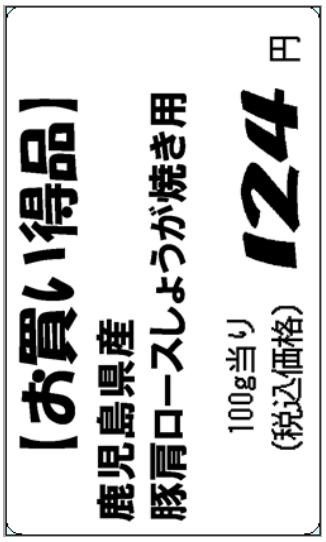


★変更後はデータ出力を行い、実際に印字をして税率変更後の値を確認してください

22.用紙回転機能

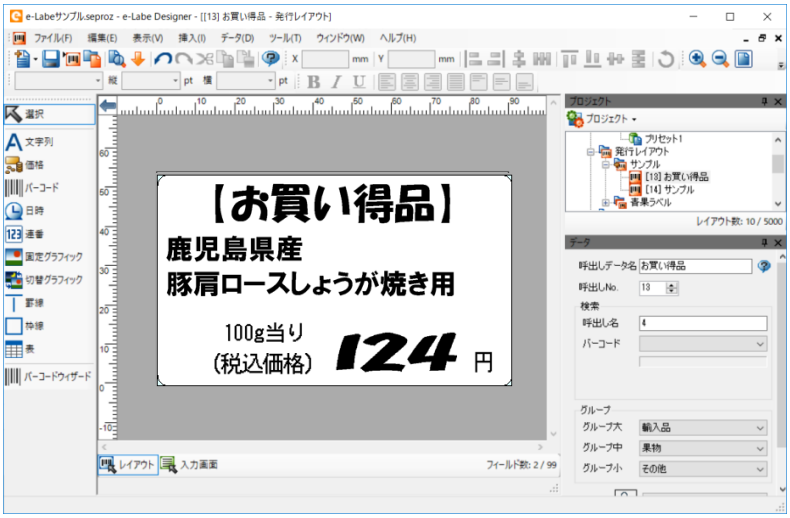
デザイン画面の用紙を 0 度、90 度、180 度、270 度に切り替えて表示できます。
縦長のラベルを横書きで印字したい場合など、用紙を回転させてデザインが可能です。

【印字ラベル】

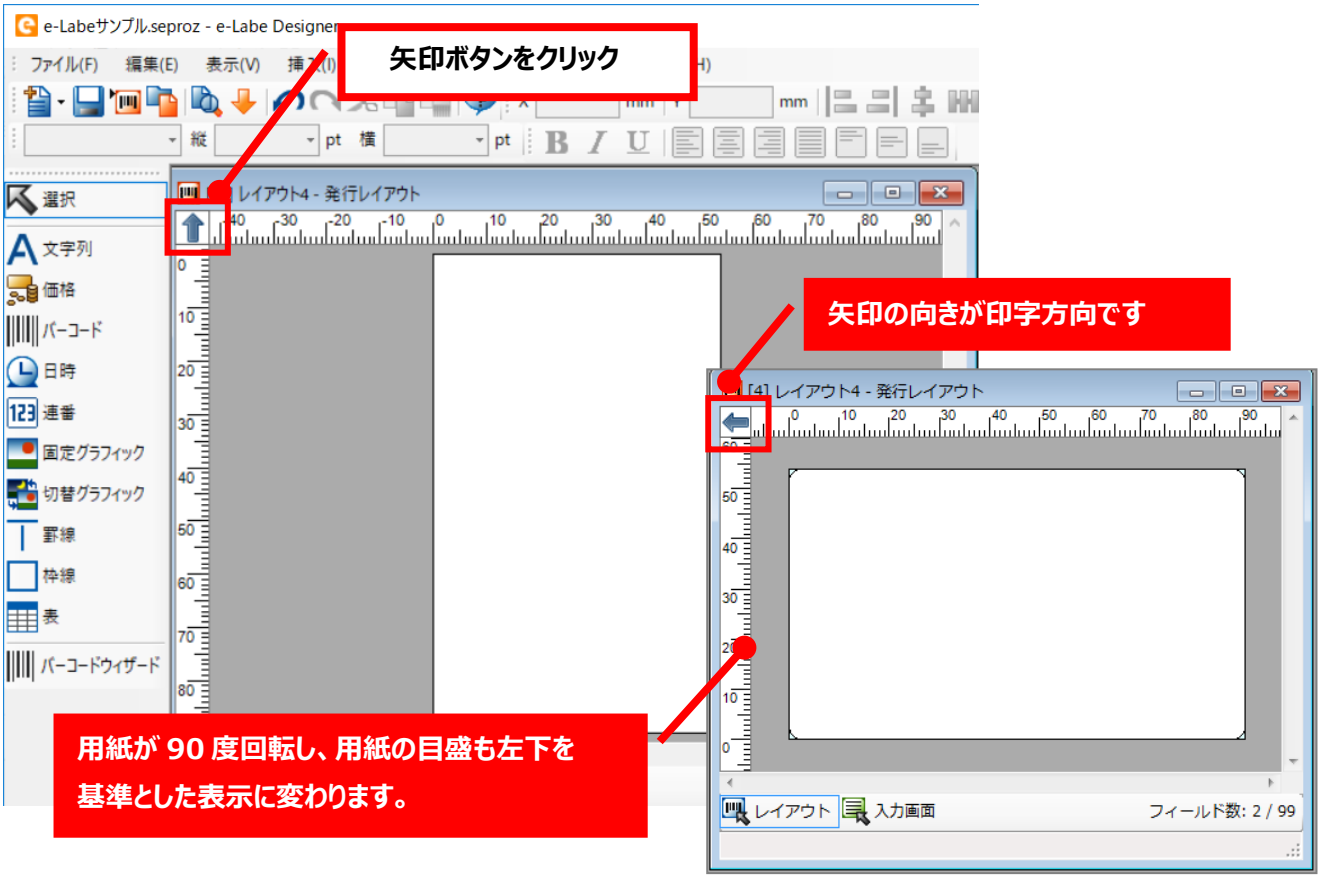


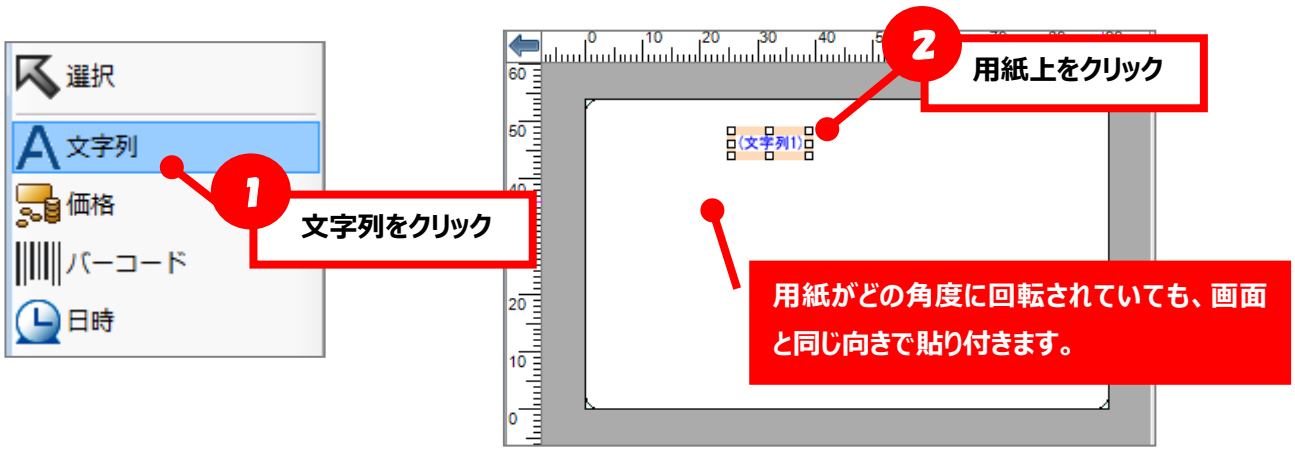
印字方向

【デザイン画面】

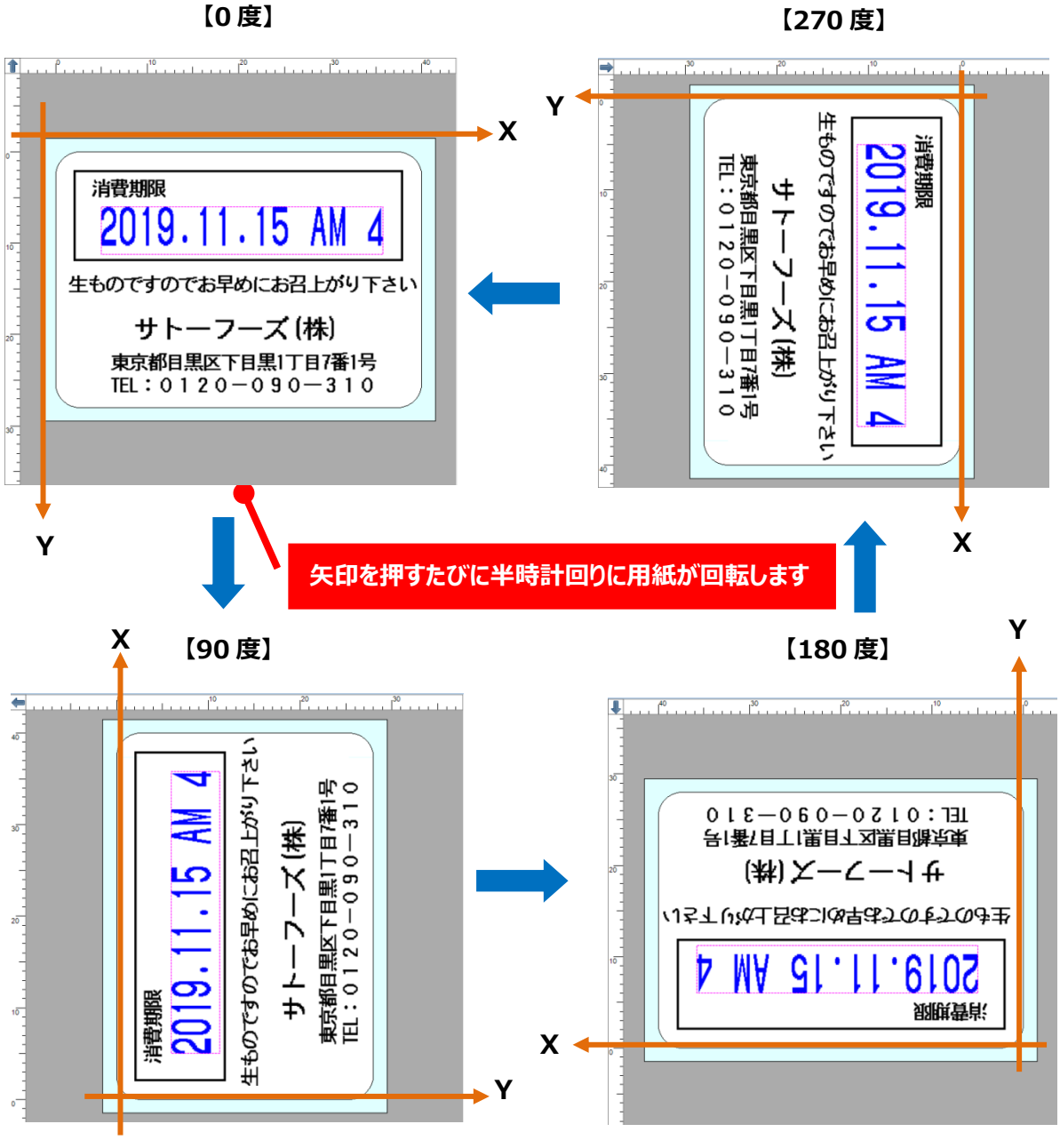


■用紙回転手順




選択
文字列
価格
バーコード
日時
1
文字列をクリック
2
用紙上をクリック
(文字列1)
用紙がどの角度に回転されていても、画面と同じ向きで貼り付きます。

■用紙回転時の表示


【0 度】
【270 度】
【90 度】
【180 度】
X
Y
消費期限
2019.11.15 AM 4
生ものですのでお早めにお召上がり下さい
サトーフーズ(株)
東京都目黒区下目黒1丁目7番1号
TEL：0120−090−310
矢印を押すたびに半時計回りに用紙が回転します

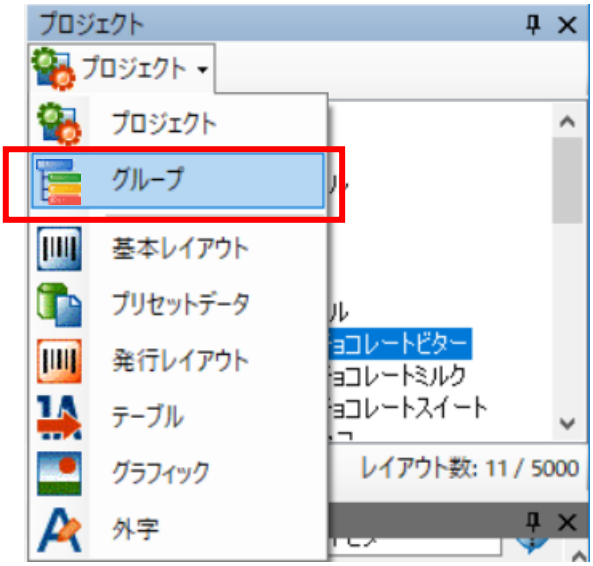
23.グループの設定方法

e-Labe Print の「グループ発行」でアイテムを絞り込んで発行するためのグループ設定が行えます。各階層のグループ情報やグループ毎のアイテム一覧の確認も可能です。グループの最大登録件数は、各階層で 100 件ずつです。（大分類が A、B とある場合、それぞれの大分類に対して 100 件ずつ中分類が登録可能です）

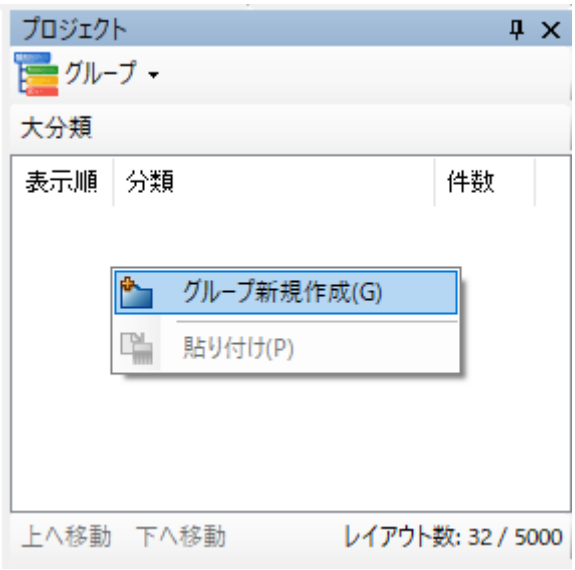
■グループ設定手順

1. プロジェクト設定画面で、グループの階層を指定します
※詳細は「18. 機能オプション－グループ階層設定手順」を参照してください。

2. プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。

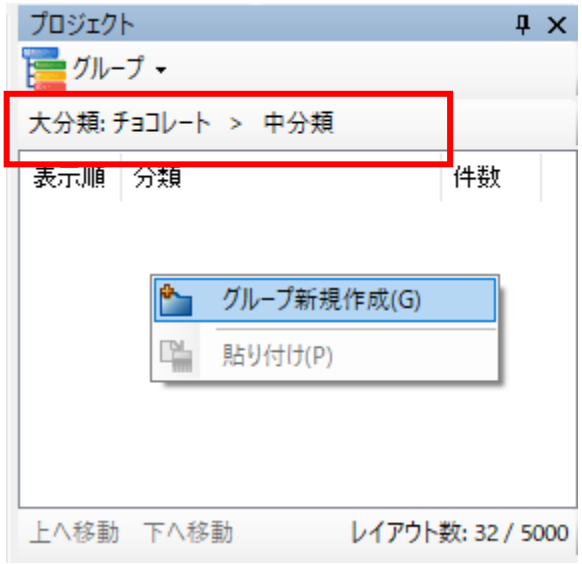


3. 右クリック＞グループ新規作成で大分類のグループを作成します。

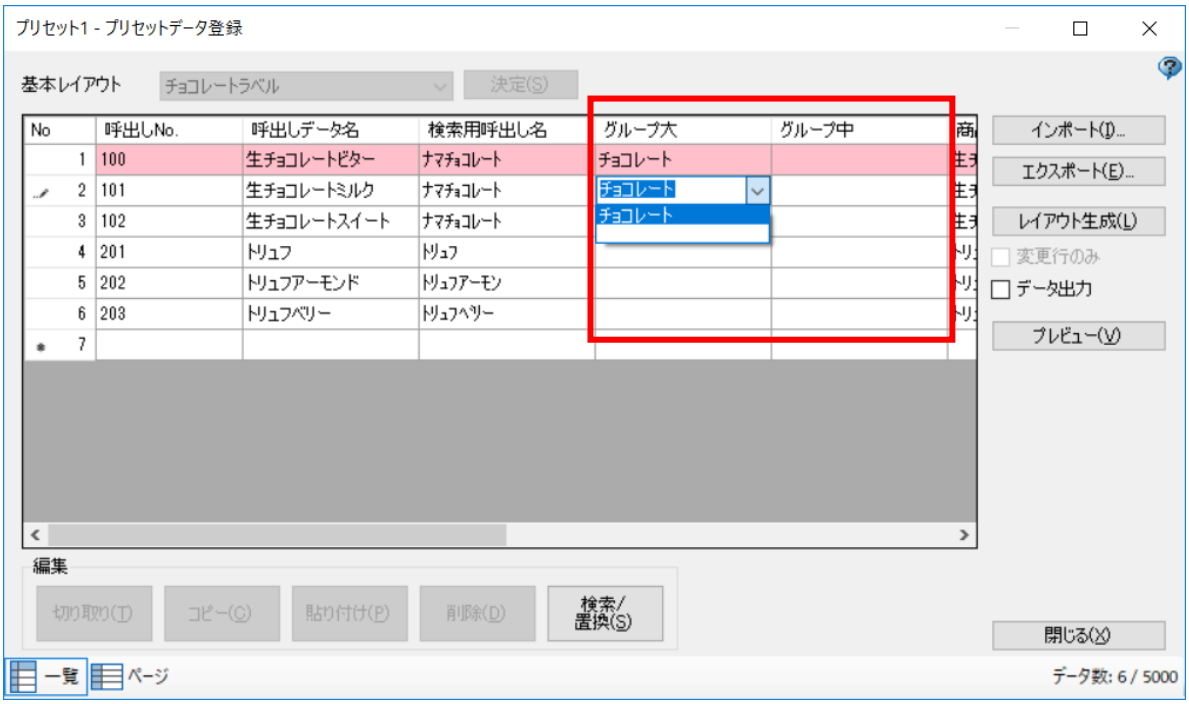


4. 作成した大分類のグループをダブルクリックし、中分類を表示し右クリック＞グループ新規作成で中分類のグループを作成します

※3 階層の設定をしている場合は、同様に小分類も作成します。

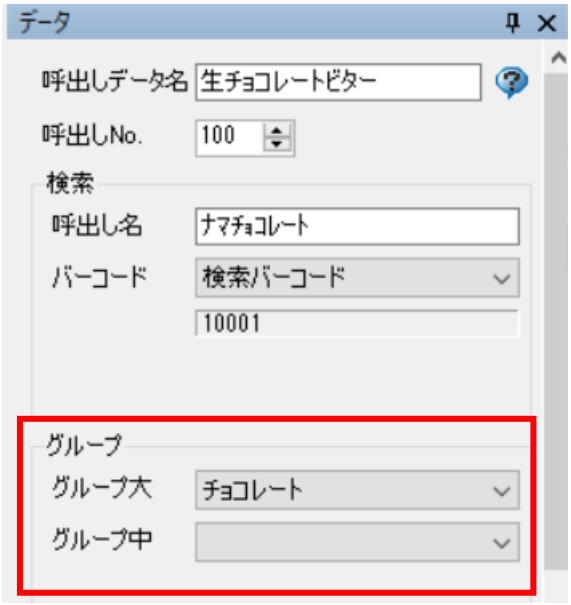


5. プリセット登録画面でグループの設定を行います。
基本レイアウトを使用せず、発行レイアウトを直接作成している場合は、発行レイアウトのレイアウト設定画面でグループの設定を行います。



※３、４番目の手順で登録したグループをリストから選択する以外に、直接入力も可能です。
レイアウト生成をすると直接入力したグループ名がグループリスト一覧に追加されます。

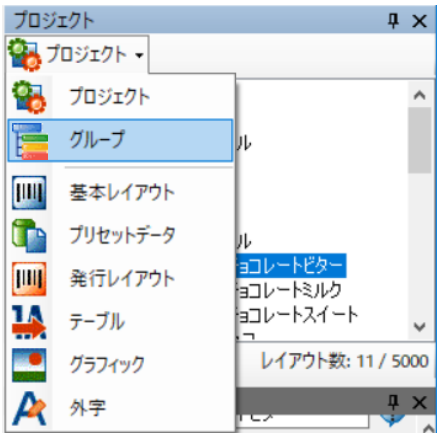
※プリセット画面で登録する場合、グループ情報は必須項目です。
グループが入っていないデータはレイアウト生成時にエラーとなり発行レイアウトが生成できません。



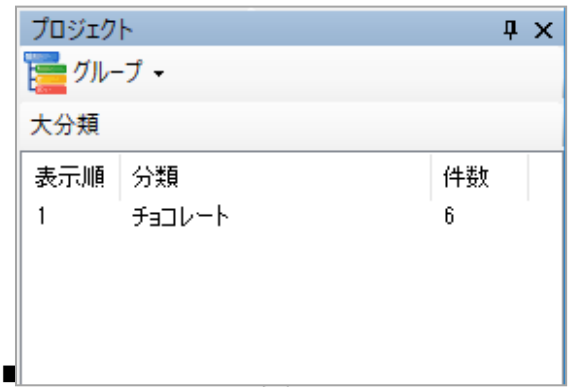
※発行レイアウトのレイアウト設定画面でグループ登録する場合、グループ情報は設定省略可能ですが、グループ情報が不足しているレイアウトは e-Labe Print の「グループ発行」の対象外となります。

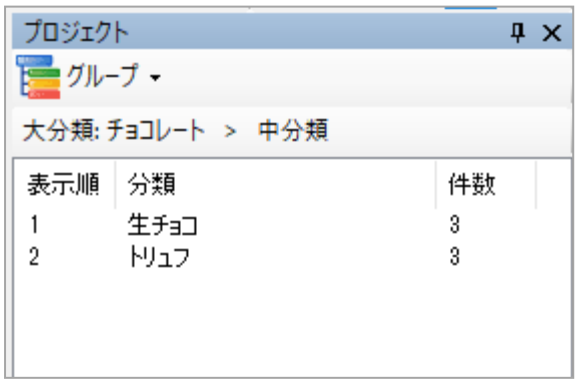
■グループ情報の表示

1. プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。



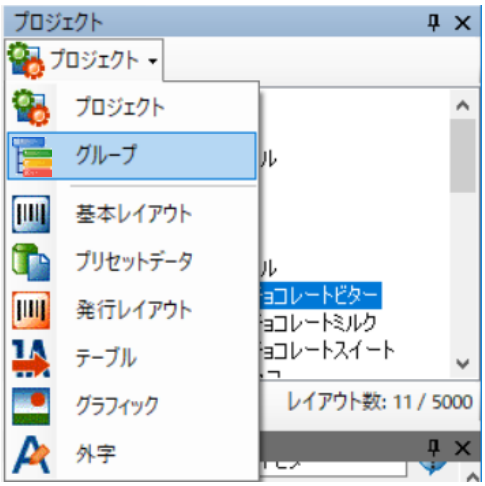
2. 各階層のグループ一覧やそのグループが設定されているレイアウト数を確認できます。



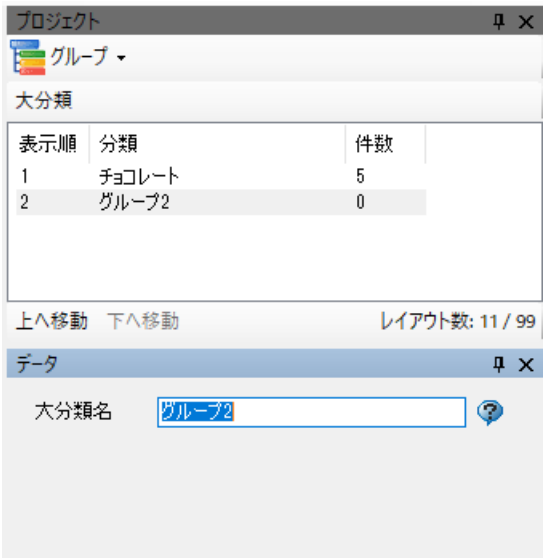


■グループ名の編集

1. プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。

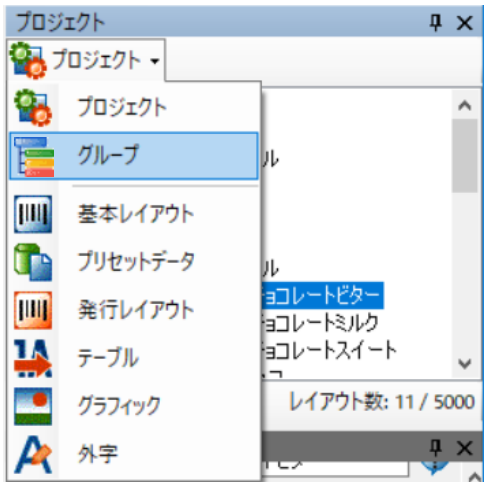


2. 名称を変更したいグループを選択し、データウィンドウで変更します。

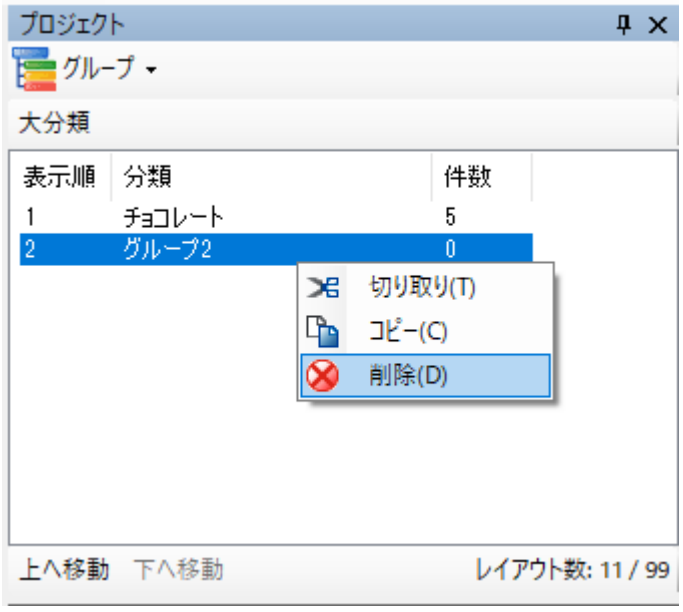


■グループの削除

1. プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。



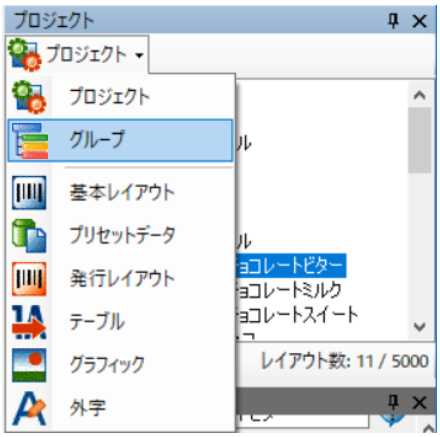
2. 削除したいグループを選択し、右クリック＞削除を選択します。



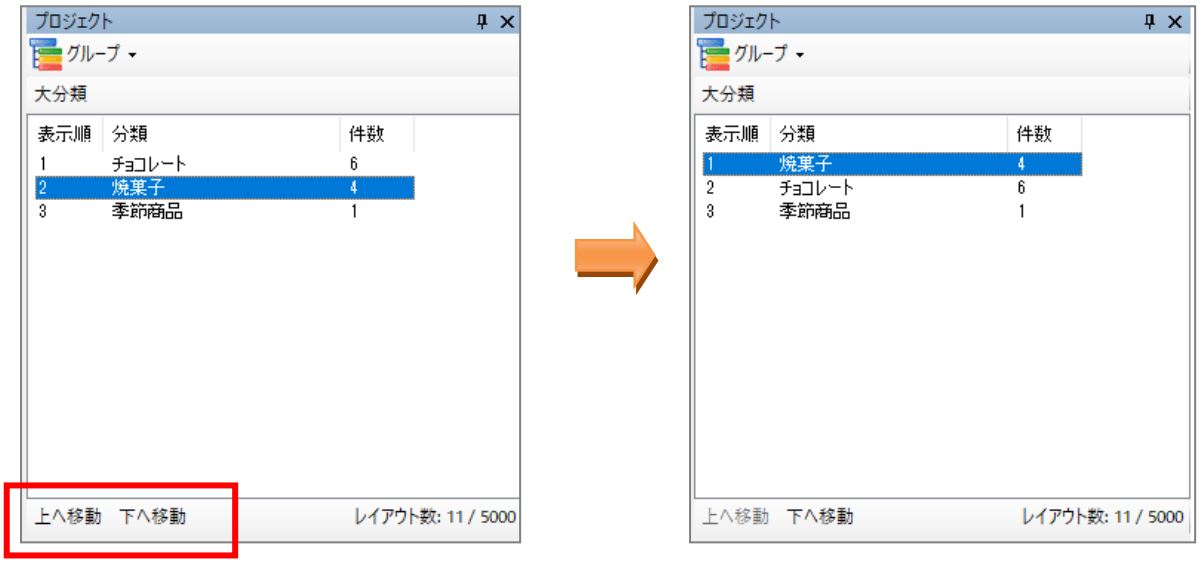
※但し、既に呼出しテーブルで選択されている（件数が 1 件以上の）グループは削除ができません。

■グループの表示順変更

1.　プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。



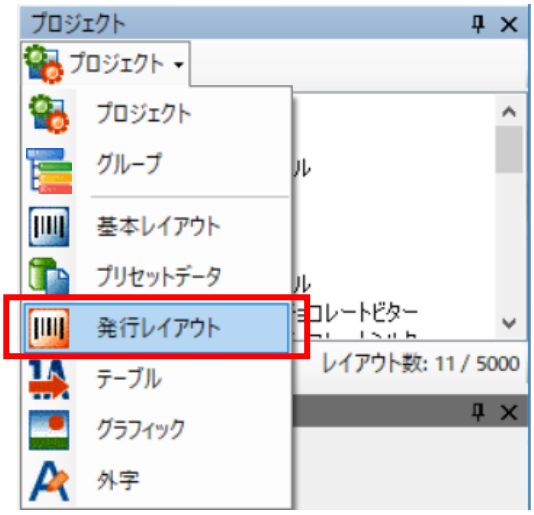
2.　階層ごとに、「上へ移動」「下へ移動」ボタンでグループの表示順を並び替えます。



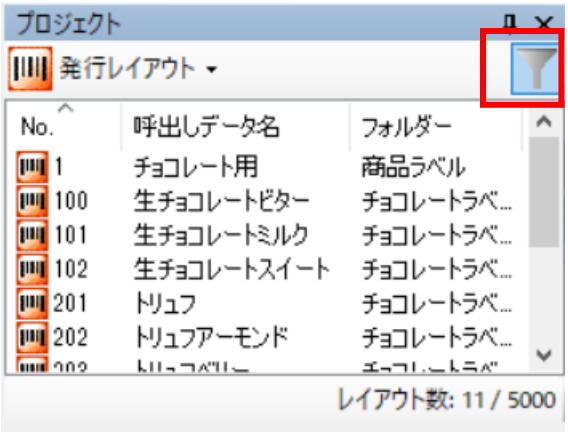
※ここで変更した表示順は e-Labe Print のグループ発行にも反映します

■グループ別発行レイアウトの表示

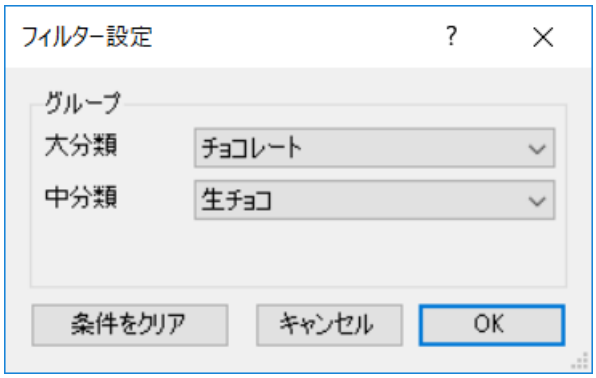
1. プロジェクトウィンドウの表示項目を「発行レイアウト」に切り替えます。



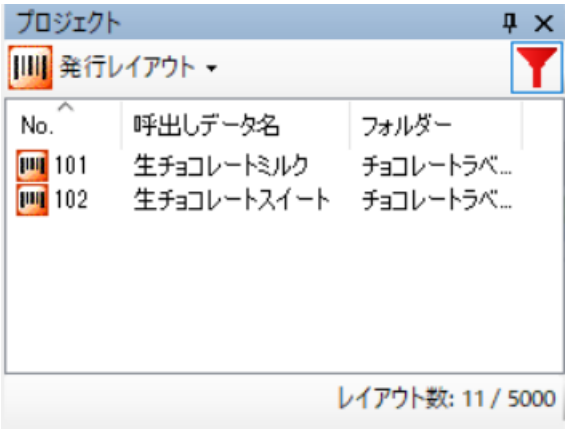
2. 右端のフィルターアイコンをクリックします。



3. フィルター設定画面でフィルターを指定します。



4. フィルターした結果が表示されます。フィルターアイコンが赤い場合は、フィルター設定が有効です。



24.日時加算値の上限／下限チェック機能の設定方法

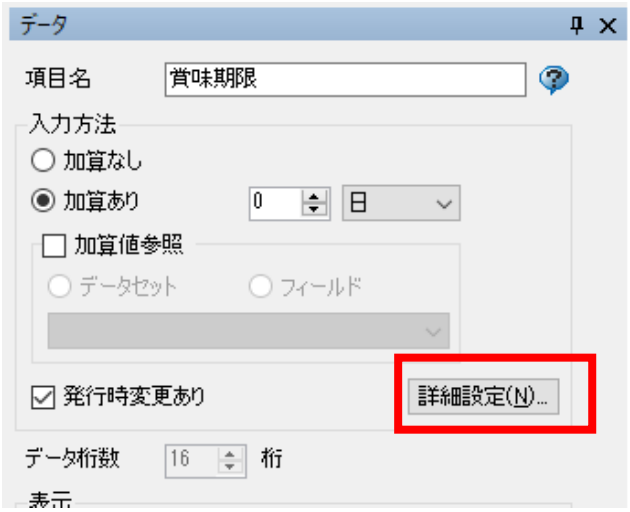
あらかじめ日時オブジェクトに上限値と下限値を設定しておくことで、e-Labe Print で範囲外の加算値を入力時、入力エラーをかけられます。

上限値、下限値は固定の値や、他のオブジェクトの値を参照することが可能です。

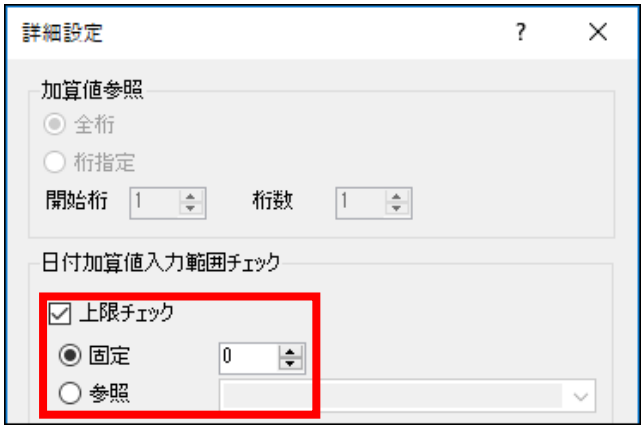
※チェック機能を利用するには、e-Labe Print の設定で「日付加算の上限下限チェック」をオンにする必要があります。

■日時オブジェクトに固定の上限値／下限値を設定する手順

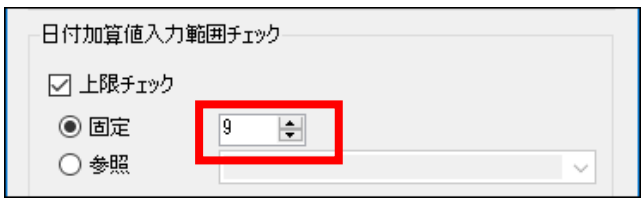
1. チェックをかけたい日時オブジェクトを選択し、入力方法の詳細設定を開きます。



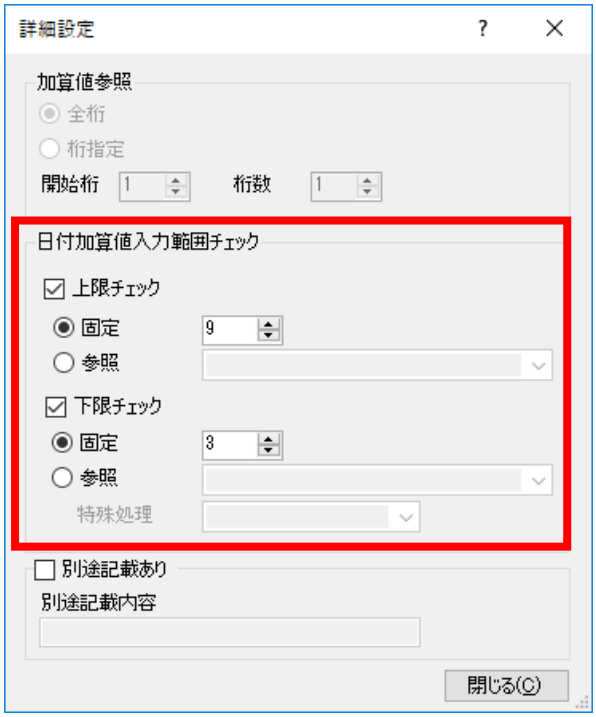
2. 上限チェックのチェックをオンにし、固定を選択します。



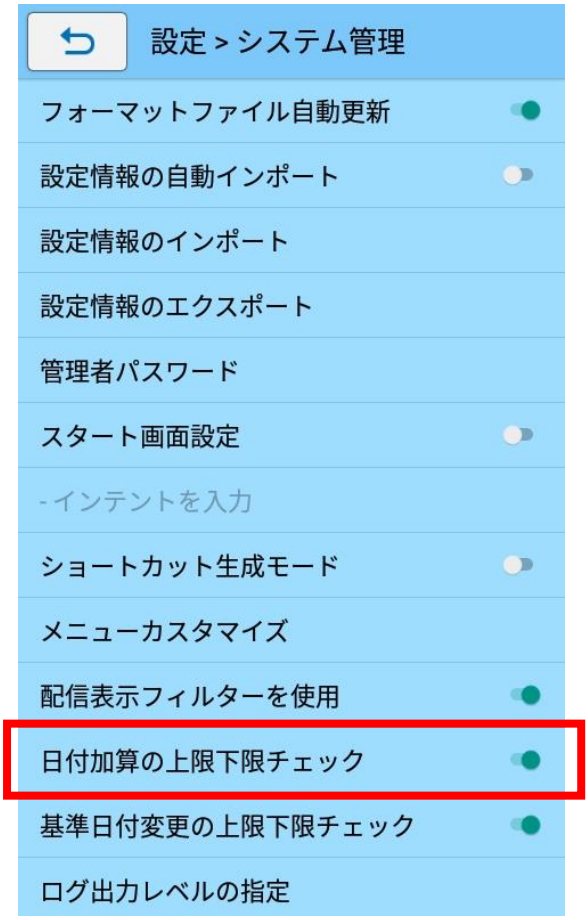
3. 上限値を入力します。



4. 下限チェックも同様にチェックをオンにし、固定を選択、下限値を入力します。



5. e-Labe Print の設定＞システム管理＞「日付加算の上限下限チェック」をオンにします。



25.基準日付の上限／下限チェック機能の設定方法

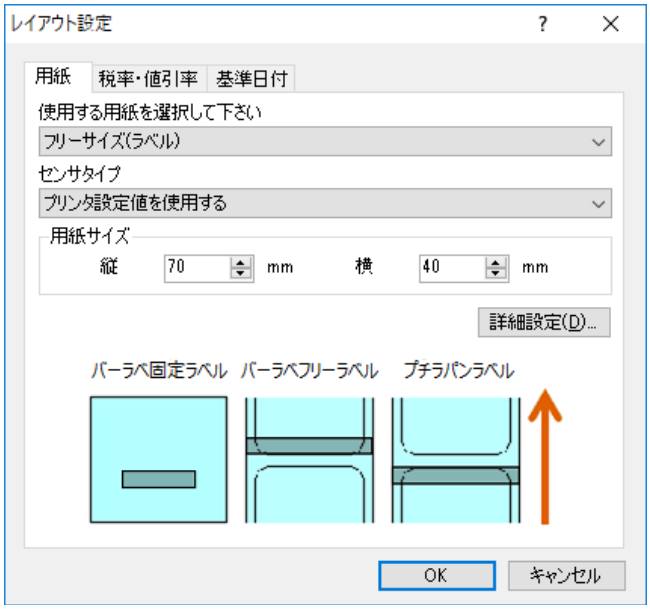
あらかじめ上限値と下限値を設定しておくことで、e-Labe Print で範囲外の基準日付を選択時、設定エラーをかけられます。設定はレイアウト単位で行います。

上限値、下限値は固定の値や、他のオブジェクトの値を参照することが可能です。

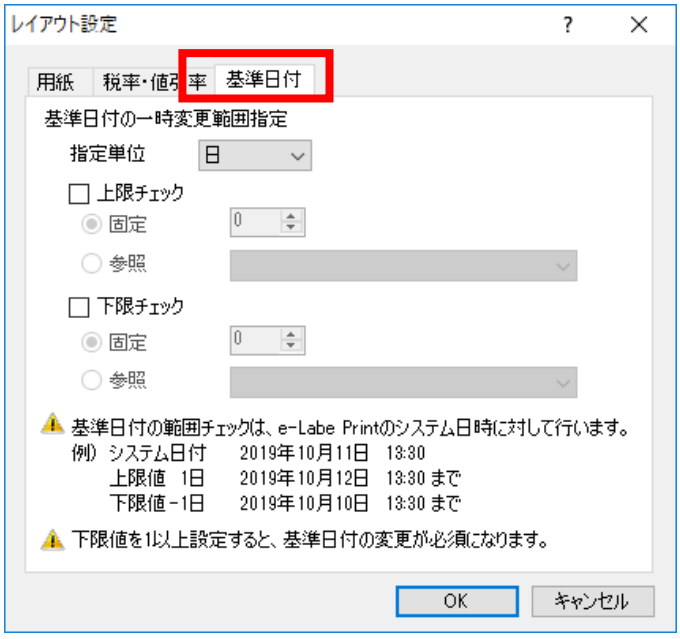
※チェック機能を利用するには、e-Labe Print の設定で「基準日付変更の上限下限チェック」をオンにする必要があります。

■固定の上限値／下限値を設定する手順

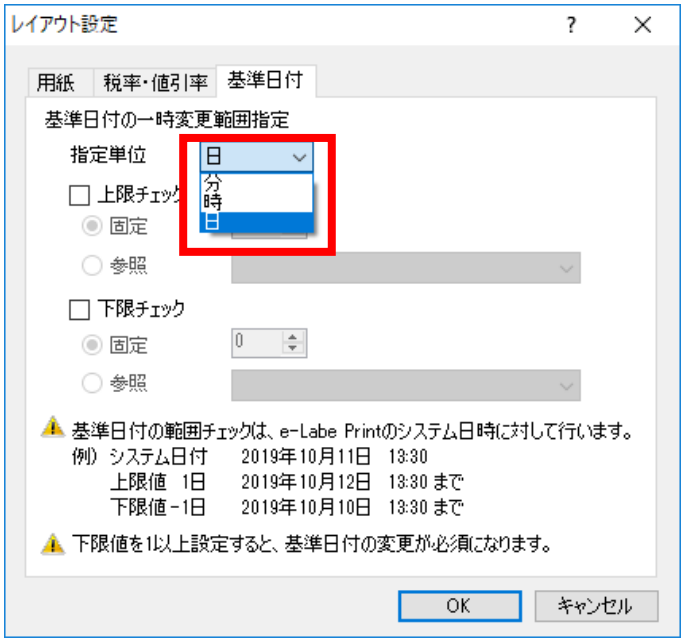
1. チェックをかけたいレイアウトを選択し、「レイアウト設定」を開きます。



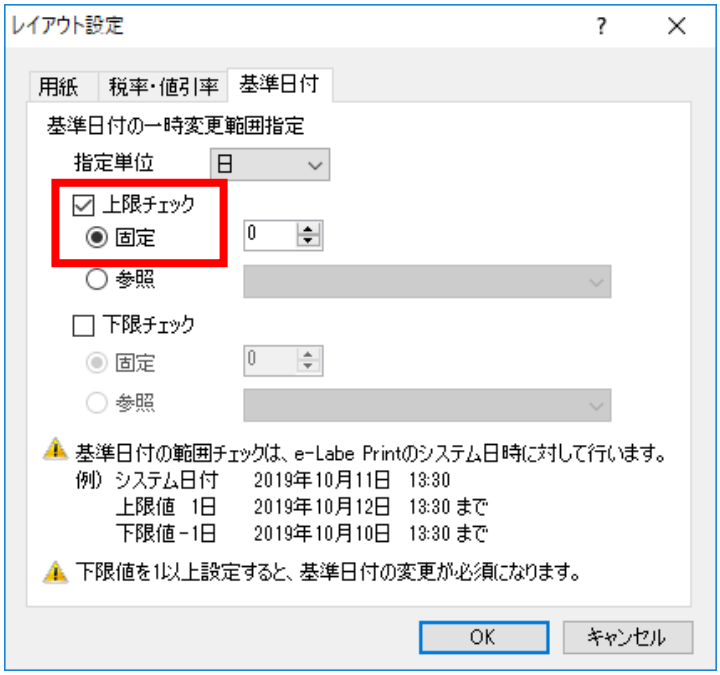
2. 基準日付タブをクリックします。



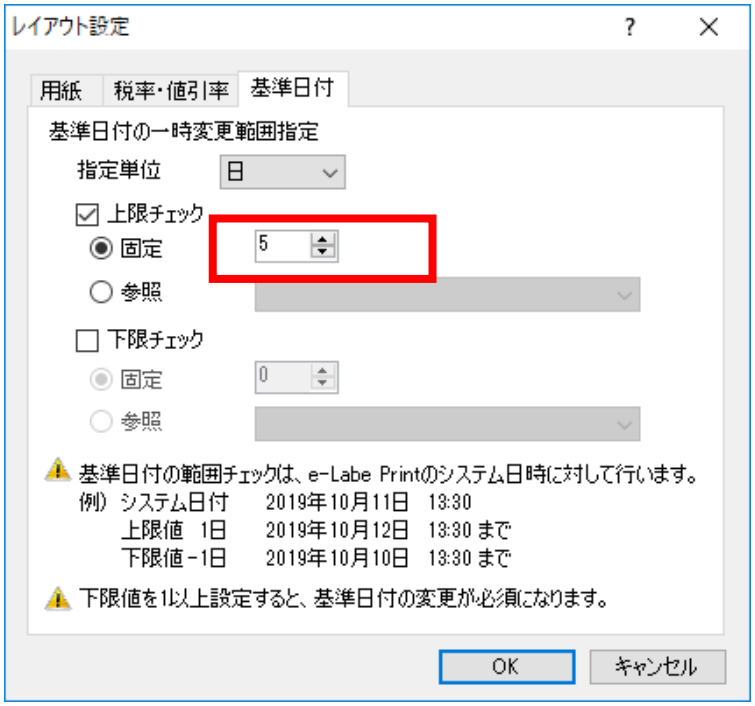
3. 指定単位を選択します。



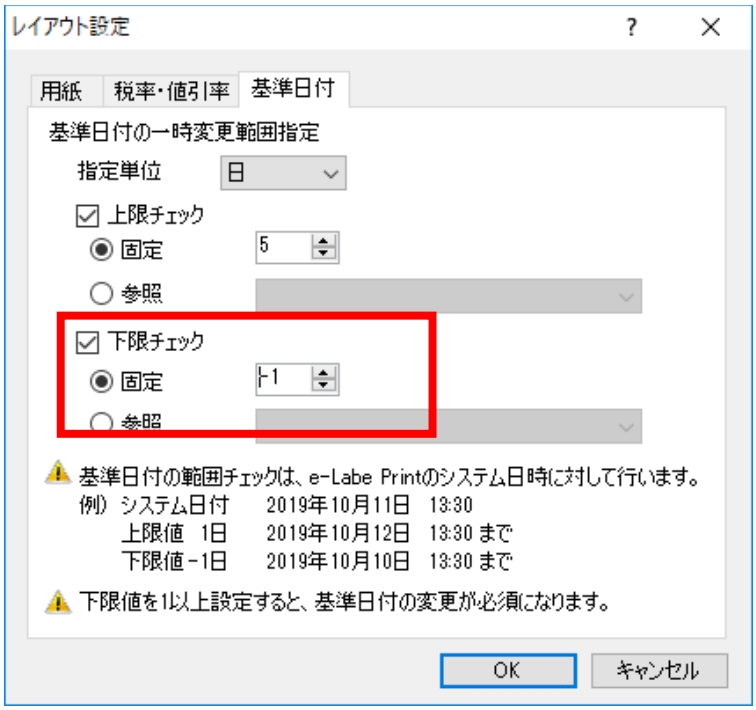
4. 上限チェックのチェックボックスをオンにし、固定を選択します。



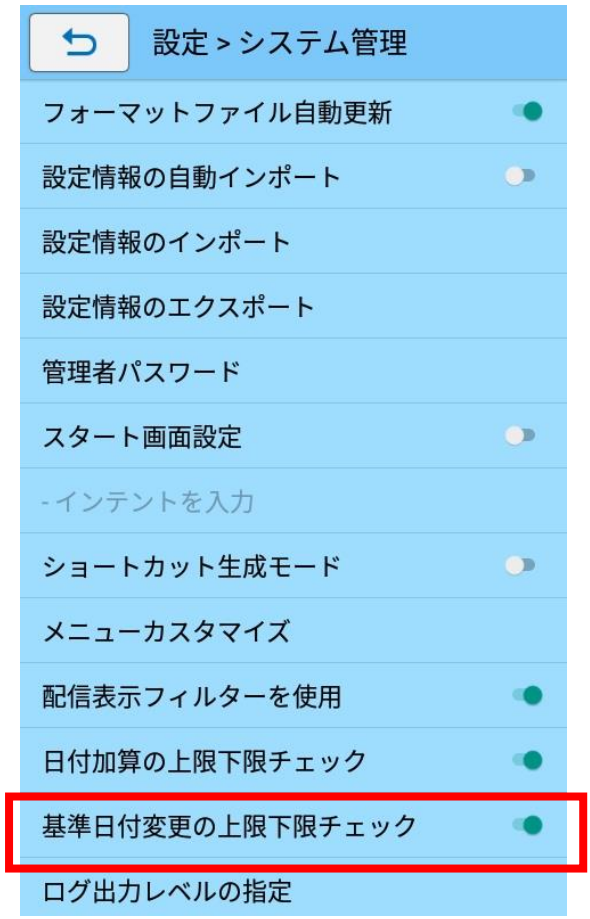
5. 上限値を-999～999 の範囲で指定します（ここでは例として「5」とします）。



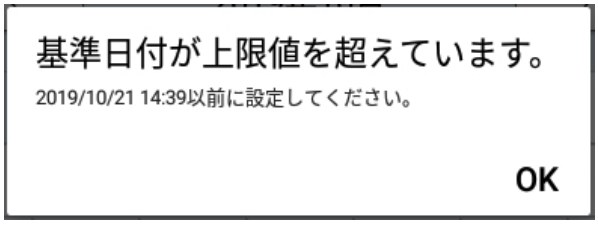
6. 下限チェックも同様にチェックをオンにし、固定を選択、下限値を入力します（ここでは例として「-1」とします）。

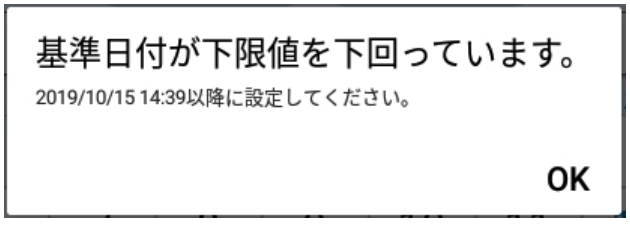


7. e-Labe Print の設定＞システム管理＞「基準日付変更の上限下限チェック」をオンにします



発行画面で範囲外の日時を選択すると、以下のようなエラーが掛かります。





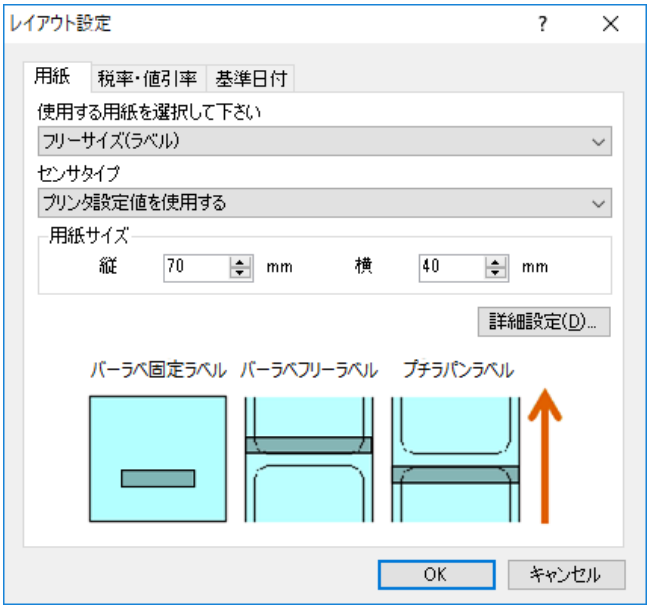
■プリセットデータで上限値／下限値を設定する手順

1. 基本レイアウトで上限値（下限値）を入力するための文字列を作成し、データセットをオンにします。

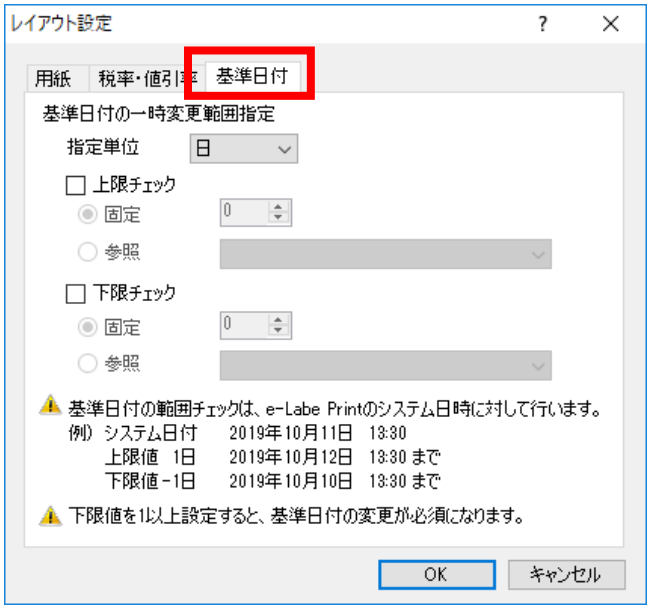




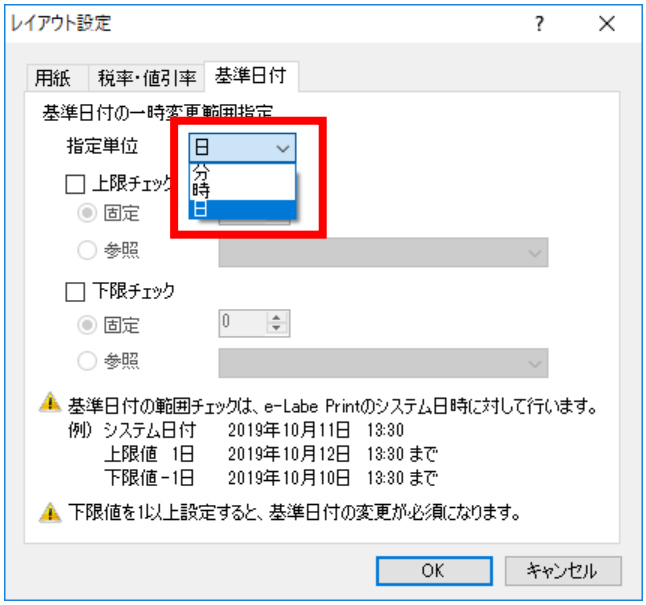
2. レイアウト設定を開きます。



3. 基準日付タブをクリックします。



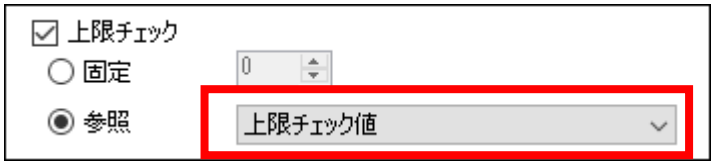
4. 指定単位を選択します。



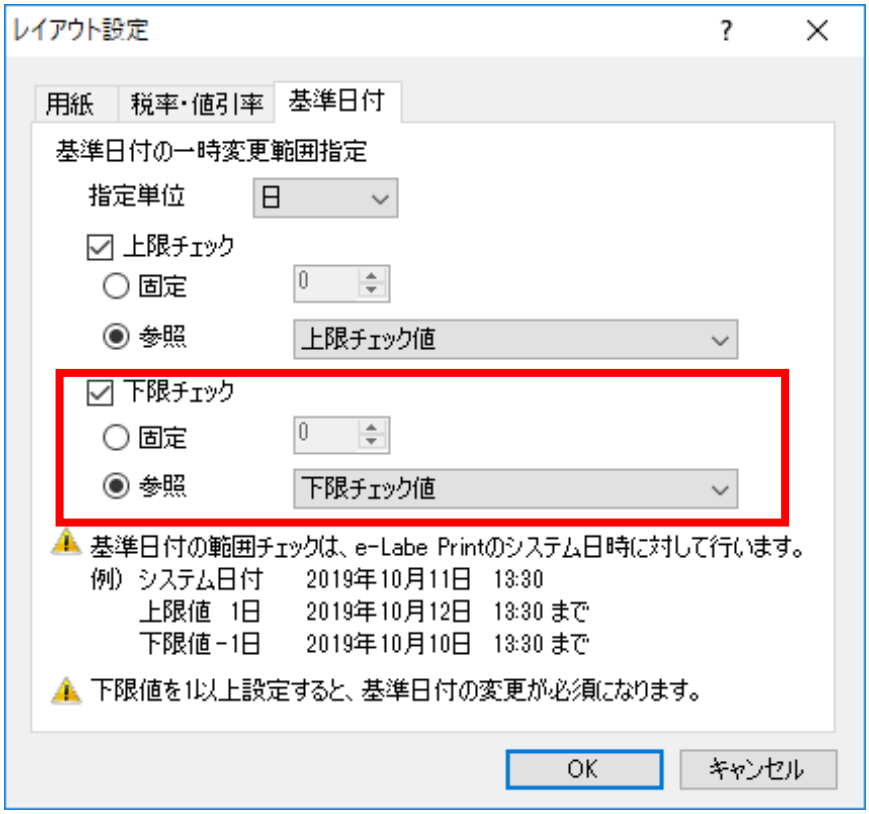
5. 上限チェックのチェックをオンにし、参照を選択します。



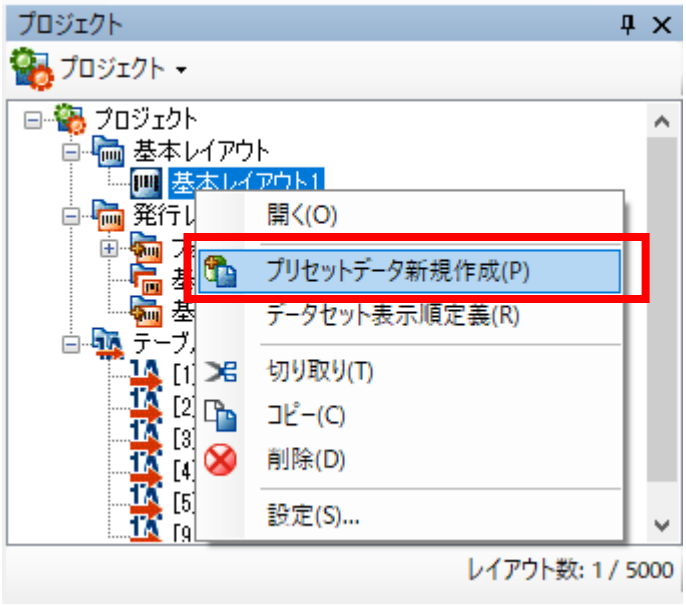
6. 「1」で作成しておいた「上限チェック値」オブジェクトを選択します。



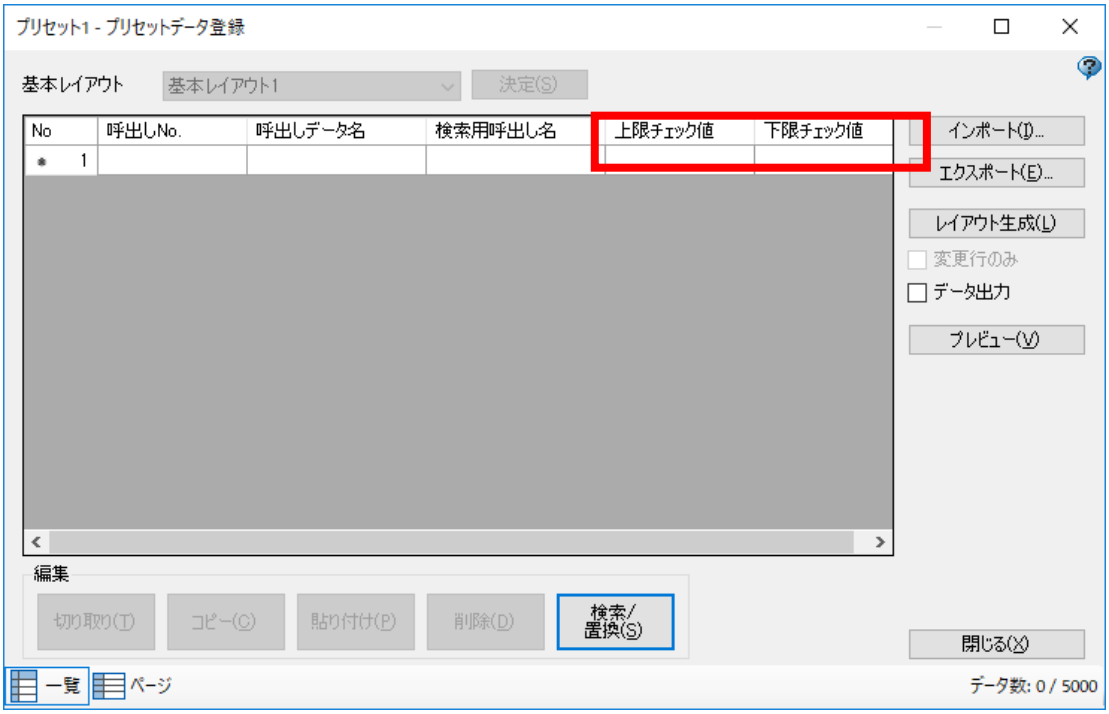
7. 下限チェックも同様にチェックをオンにし、参照を選択、「下限チェック値」を選択します。



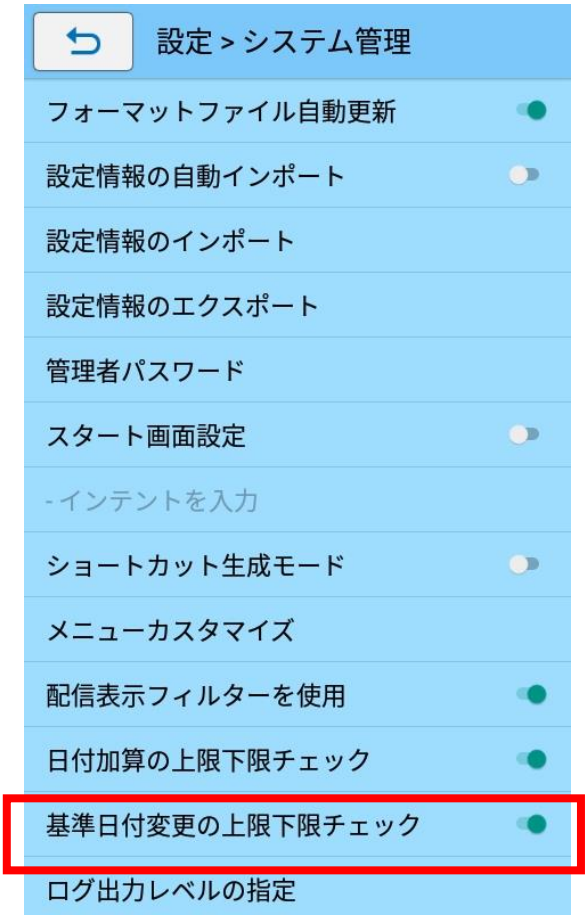
8. プロジェクトウィンドウの基本レイアウトの上で右クリックし、プリセットデータ新規作成をクリックします。

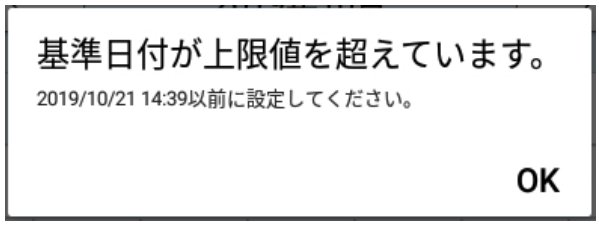


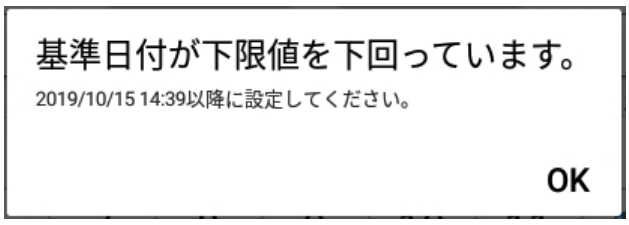
9. プリセット登録画面に「上限チェック値」「下限チェック値」が表示されるので、呼出し No.毎に任意の値をセットします。



10. e-Labe Print> 設定> システム管理> 「基準日付変更の上限下限チェック」をオンにします。
発行画面で範囲外の日時を選択すると、以下のようなエラーが掛かります。







26.条件テーブルを使った条件印字の設定方法

特定のデータ入力時にオブジェクトを印字する・しないを条件テーブルとして設定可能です。レイアウトを増やすことなく異なるパターンの印字が可能です。

条件テーブルはレイアウトごとに設定しますが、設定条件はコピー＆ペーストができるため、他のレイアウトの条件テーブルに内容をコピーして使用することも可能です。

■条件テーブル　画面項目説明

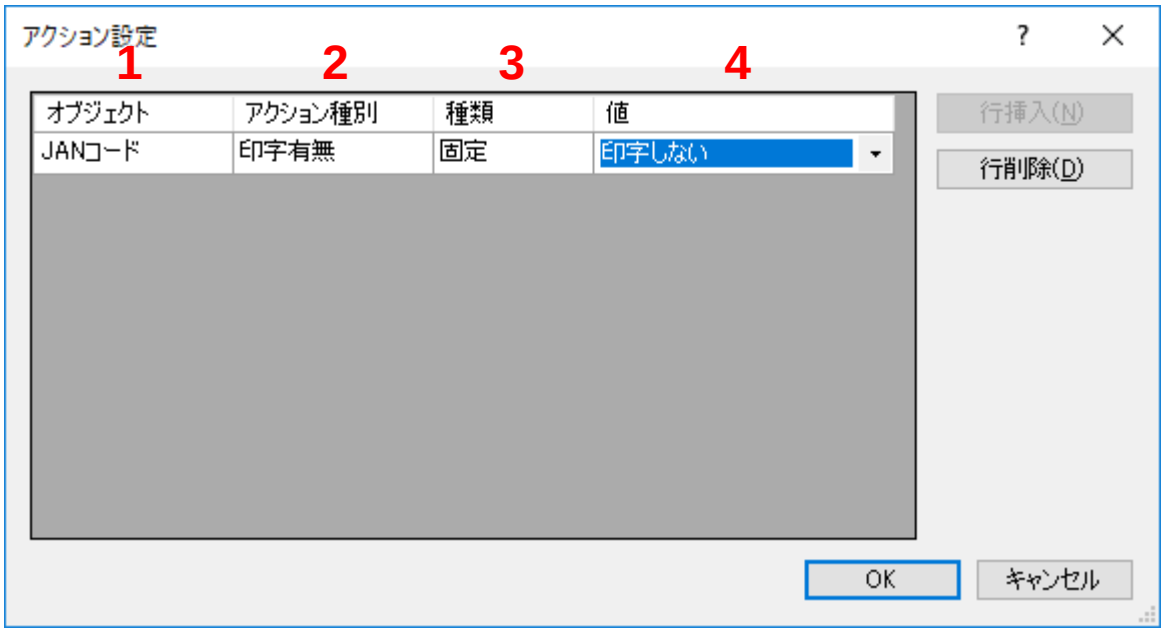
<条件テーブルメイン>



No.	項目	内容
1	判定オブジェクト	条件の判断対象とするオブジェクトを選択します。 **<判定対象に指定不可能なオブジェクト>** **・連番** **・リアルタイム発行 ON の日時** **・上記 2 つを参照するオブジェクト**
2	判定形式	データの値の種類を [文字列]／[値]から選択します。
3	条件	データの比較条件を選択します。「判定形式」で選択した形式により、選択可能な条件が異なります。 文字列：次の値に等しい 次の値に等しくない 次の値を含む 次の値を含まない 次の値で始まる

		次の値で終わる 数値： 次の値の間 次の値の間以外 次の値に等しい 次の値に等しくない 次の値より大きい 次の値より小さい 次の値以上 次の値以下
4	判定値種別	[固定]のみ選択可能
5	判定値 1	条件を満たす判定値を入力します。 [文字列]は最大 100 桁まで入力可能です。 [値]は最大 15 桁の数字が入力可能です。 **＜[文字列]入力時の留意点＞** **データは自動的にダブルクォーテーション(“)でくくられます（手動でくくった場合を除く）。判定値はダブルクォーテーションを取り除いた値を使用します。** **例）判定値「”e-Labe”」 ⇒ 「e-Labe」として判定** **判定値「””e-Labe””」 ⇒ 「”e-Labe”」として判定** **判定値「””e-Labe”」 ⇒ 「”e-Labe」として判定**
6	判定値 2	「条件」が[次の値の間]と[次の値の間以外]を選択時のみ入力可能です。判定値 1 と設定方法は同じです。
7	アクション	条件を満たしたときの動作を設定します。

<アクション設定>



No.	項目	内容
1	オブジェクト	アクション対象のオブジェクトを選択します。 グループ名（グループ化した複数のオブジェクト）も選択可能です。
2	アクション種別	[印字有無]のみ選択可能
3	種類	[固定]のみ選択可能
4	値	[印字有無]の動作を選択します。 [印字する]：オブジェクトを印字します [印字しない]：オブジェクトを印字しません [(レイアウトの設定に従う)]： データウィンドウ「印字しない」の設定に従います

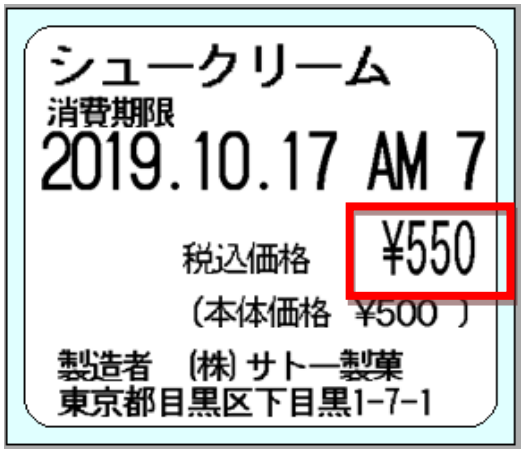
■条件テーブルを設定する手順

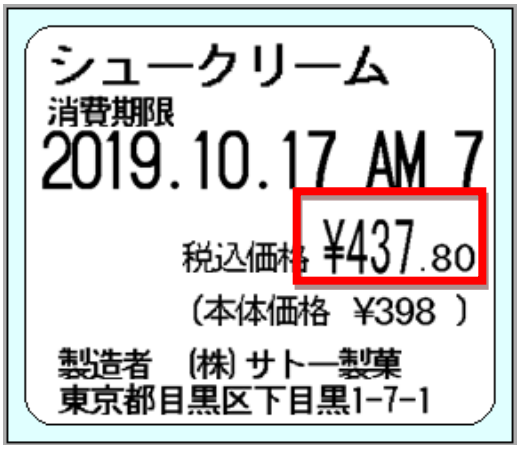
本マニュアルでは以下の条件を例に条件テーブルを設定する手順を説明します。

[やりたいこと]

税込価格を印字する際、小数点以下２桁まで印字する。

但し、計算した結果、小数点以下が「00」の場合は、整数部分のみを右に寄せて印字する。





[条件設定に必要なオブジェクト]

条件判断	**① 本体価格**	¥398 ①
パターン１	**② 税込価格（整数）** **③ 税込価格（小数）** **④ 小数点**	② ④ ¥437.80 ③
パターン２	**⑤ 税込価格（整数）右寄せ**	¥550 ⑤

※レイアウト上は、パターン１とパターン２を重ねて配置します

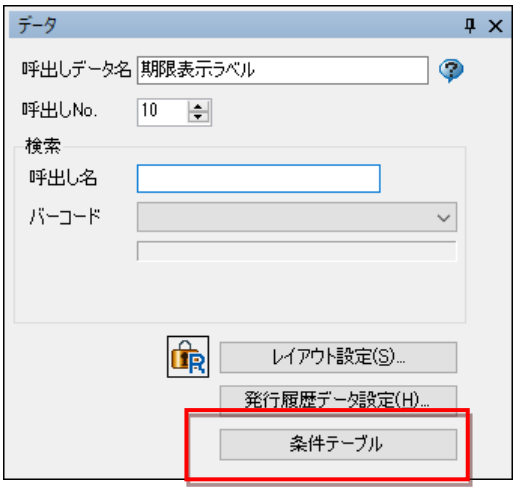
[条件設定内容]

「税込価格（小数）」が”00”に等しい　　⇒パターン１を印字しない

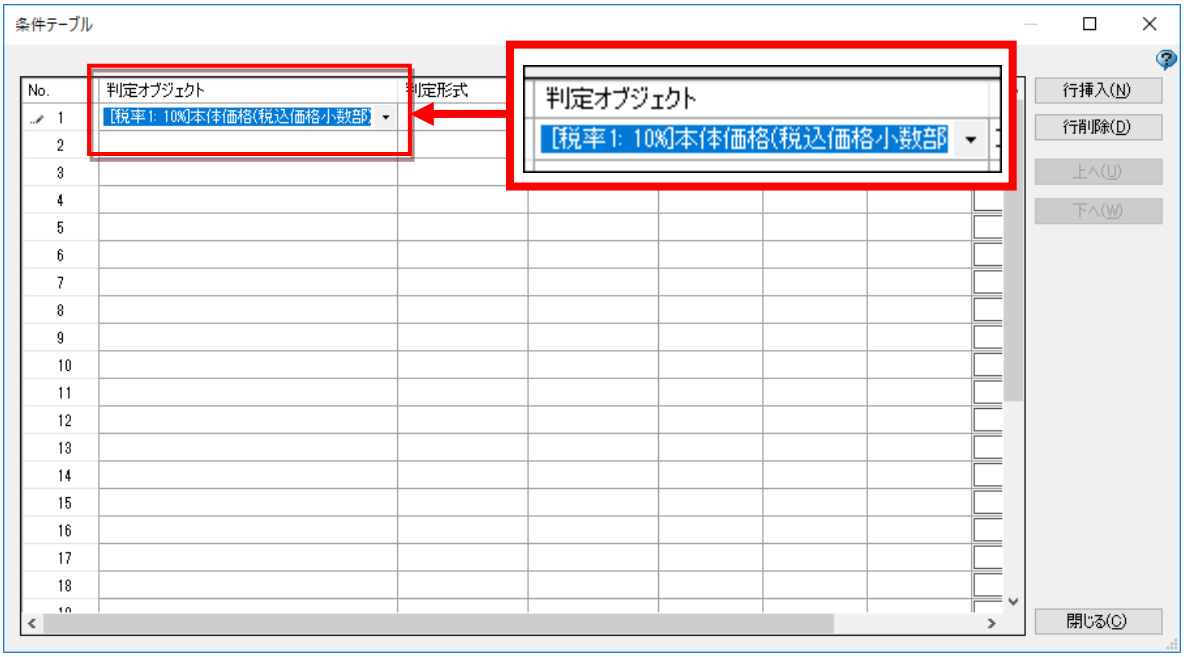
「税込価格（小数）」が”00”に等しくない　⇒パターン２を印字しない

[条件テーブルの設定]

1. レイアウトのデータウィンドウにある「条件テーブル」を開きます。



2. 「判定オブジェクト」に「[税率１： XX%]本体価格（税込価格小数部）」を選択します。
※上記の「条件設定内容」に記載されている「税込価格（小数）」の値は、元となる「本体価格」の税込計算結果として「本体価格（税込価格小数部）」というオブジェクトとして参照可能です

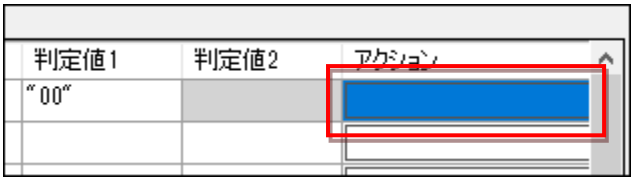


3. 判定形式以下を次のように設定します。

・判定形式：文字列
・条件：次の値に等しい
・判定値種別：固定
・判定値１：”00”

判定オブジェクト	判定形式	条件	判定値種別	判定値1	判定値2
[税率1: 10%]本体価格(税込価格小数部)	文字列	次の値に等しい	固定	"00"	

4. アクションボタンをクリックし、アクション設定画面を表示します。

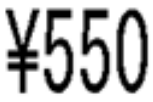


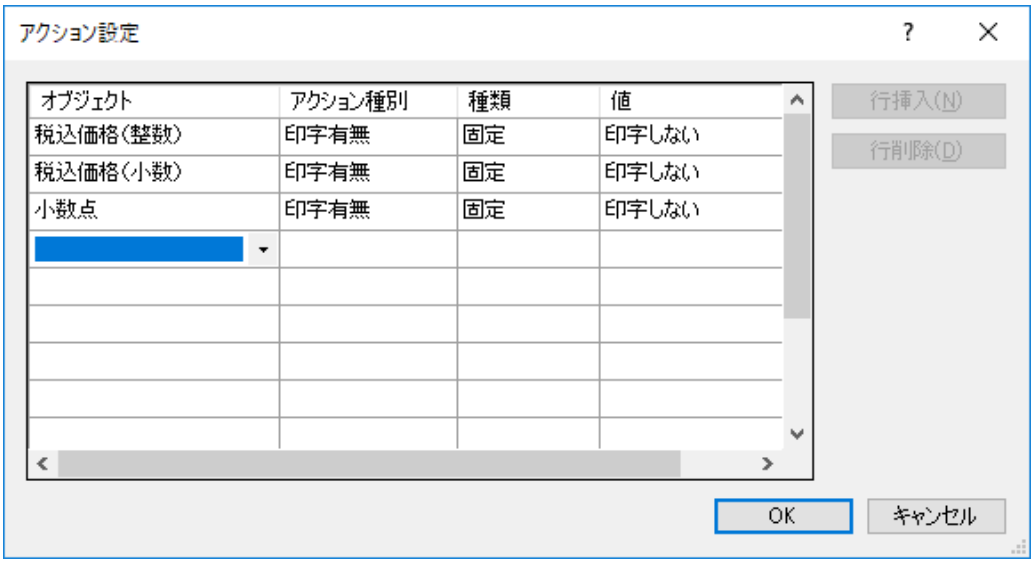
5. 「アクション設定」には、『設定した条件を満たした場合のアクション』を設定します。
今回は『「税込価格（小数）」が'00'に等しい場合のアクション』を設定します。

＜アクション＞
- ・オブジェクト：税込価格（整数）
- ・アクション種別：印字有無
- ・種類：固定
- ・値：印字しない

- ・オブジェクト：税込価格（小数）
- ・アクション種別：印字有無
- ・種類：固定
- ・値：印字しない

- ・オブジェクト：小数点
- ・アクション種別：印字有無
- ・種類：固定
- ・値：印字しない

パターン１	**税込価格（整数）※印字しない** **税込価格（小数）※印字しない** **小数点　※印字しない**	
パターン２	**税込価格（整数）右寄せ**	

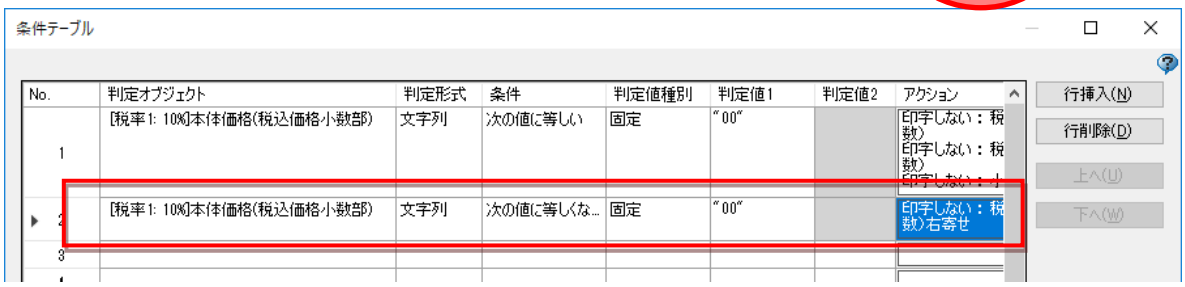


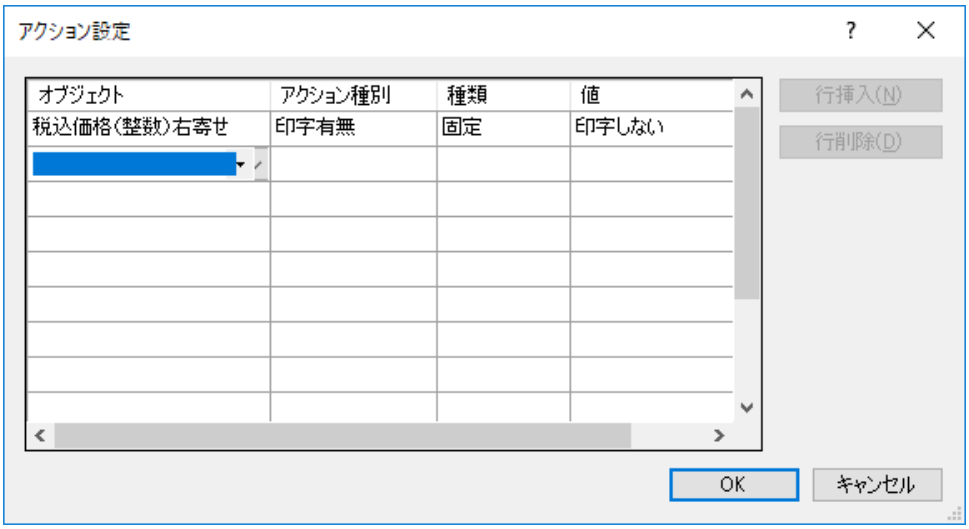
6. 条件テーブル登録画面に戻り「「税込価格（小数）」が”00”に等しくない場合、パターン２を印字しない」という条件を登録します。

・判定オブジェクト：[税率１： XX%]本体価格（税込価格小数部）
・判定形式：文字列
・条件：次の値に等しくない
・判定値種別：固定
・判定値１：”00”

＜アクション＞
・オブジェクト：税込価格（整数）右寄せ
・アクション種別：印字有無
・種類：固定
・値：印字しない

パターン１	**税込価格（整数）** **税込価格（小数）** **小数点**	¥437.80
パターン２	**税込価格（整数）右寄せ** **※印字しない**	¥550





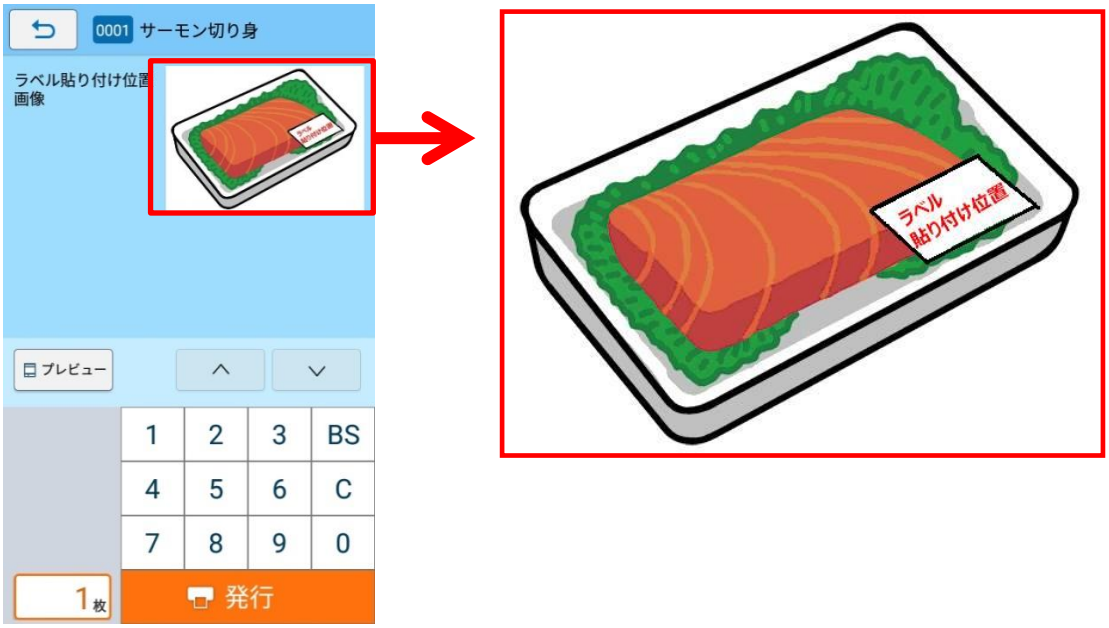
7. 条件テーブルを閉じます。

27.発行画面にメディア（画像、動画など）を表示する設定方法

メディアファイルや URL のパス情報を文字列にセットし、メディアの種類を表示オプションで指定することで、e-Labe Print の発行画面に商品の画像や Web サイトを表示したり、動画を再生したりすることが可能です。

メディアファイルは、プロジェクト内に登録するか FX3 のストレージ内の所定フォルダに置いて利用します。

ディア表示機能を利用する場合は、ツール設定で「メディア表示機能を使用」を ON にしてください。



■表示可能なメディア種類

メディア種類	表示方法
画像	PNG や JPEG 等の画像ファイルを、内部フォルダまたは FX3 ストレージ内に配置して表示
動画	MP4 等の動画ファイルを、内部フォルダまたは FX3 ストレージ内に配置して表示
Web	HTML ファイルを内部フォルダまたは FX3 ストレージ内に配置、または Web サイトの URL をパス情報にセットして表示

【メディアファイルについての注意】

FX3 の画面解像度は 800×480 なので、高画素数の画像を表示することはお勧めできません。また、ファイルサイズが大きなメディアファイルは、ストレージの容量圧迫や表示速度に影響を与える可能性があります。e-Labe Print で動作を確認しながら調整をお願いします。

また、動画ファイルに関しては、動画再生がスムーズでない場合、ビットレートを落としてください。総ビットレートは 1000Kbps 未満を推奨します。

■プロジェクトに登録したメディアファイル（画像）を発行画面に表示する手順

[手順の流れ]　※印字するラベルデザイン等は作成してあることを前提として説明します

●内部フォルダにメディアファイル（画像）を追加する

●基本レイアウトにメディアファイルのパス情報をセットする文字列オブジェクトを追加する

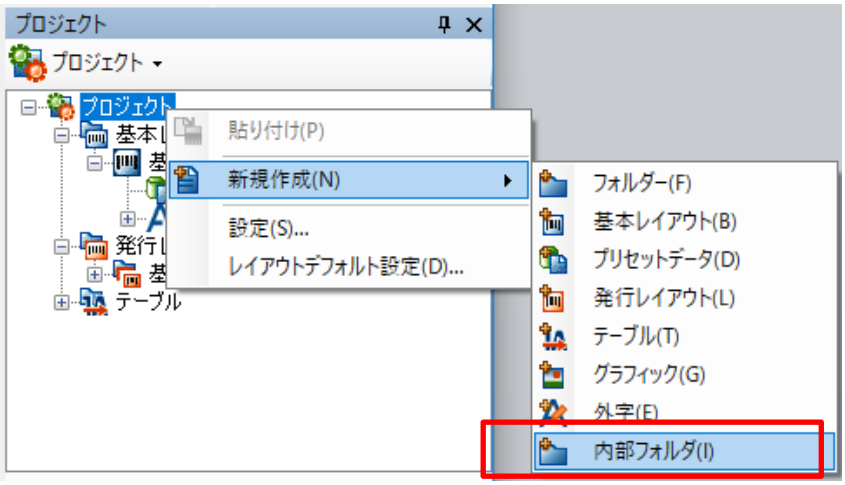
●入力画面設定で文字列の表示形式を指定する

●プリセットデータにパス情報をセットし、レイアウト生成する

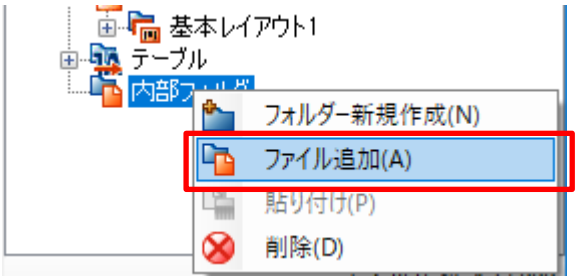
●データ出力し、フォーマットファイルを生成する

●e-Labe Print でアイテムを呼出し、画像が表示されることを確認する

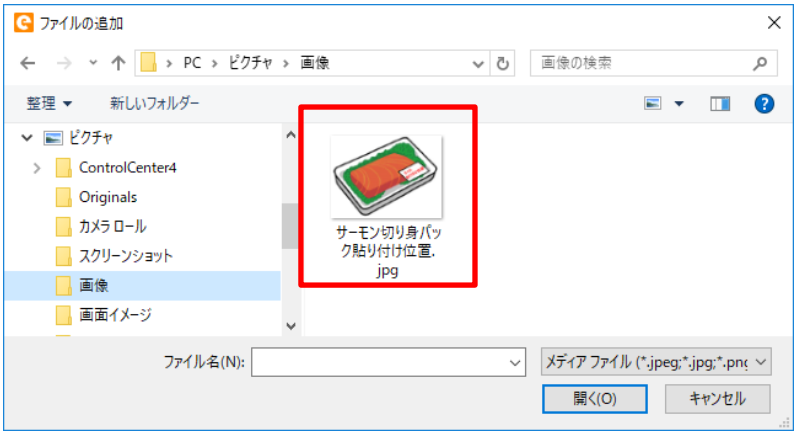
3. プロジェクトツリー画面のプロジェクトの上で右クリック＞新規作成＞内部フォルダを選択します。
※新規作成メニューに内部フォルダが出てこない場合、ツール設定の「メディア表示機能を使用する」が OFF になっている可能性があります。

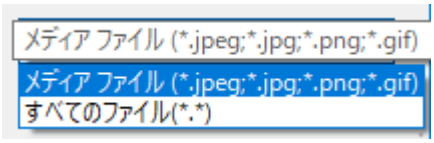


4. プロジェクトツリーに追加された内部フォルダの上で右クリック＞ファイル追加を選択します。



5. 追加する画像を選択し、「開く」をクリックします。
※デフォルトのファイル種類は「jpeg」「jpg」「png」「gif」です。動画や HTML ファイルを選択する場合は、拡張子を「すべてのファイル」に切り替えてください。

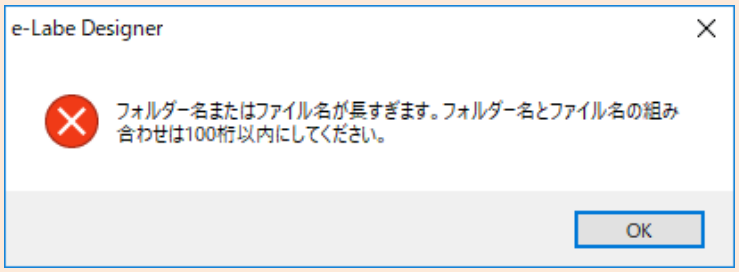




6. 内部フォルダに画像ファイルが登録されます。



【最大桁数】内部フォルダに追加できるファイルはフォルダー構成のパス情報を含め１００桁以内です。内部フォルダに登録できず以下のエラーが出た場合はファイル名またはフォルダーを含めたファイルパス情報が１００桁を超えていますので、名称を変更するなどしてください。

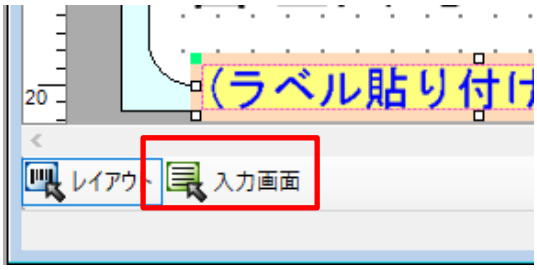


7. メディア表示するレイアウトに文字列オブジェクトを追加します。（名称は適宜変更してください）

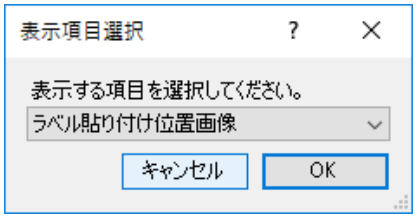


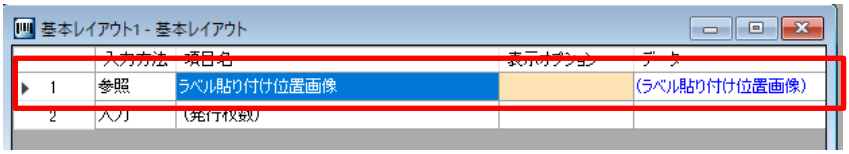
8. 「入力方法：固定」「データセット：ON」「印字しない：ON」に設定します。

9. デザインウィンドウ下の「入力画面」タブをクリックします。

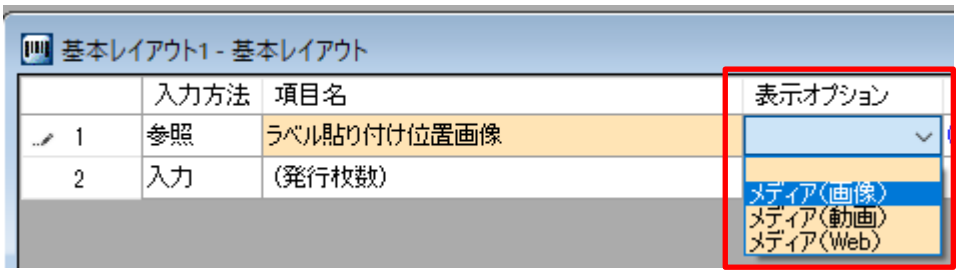


10.「表示追加」ボタンをクリックし「５」の文字列を表示項目に追加します。

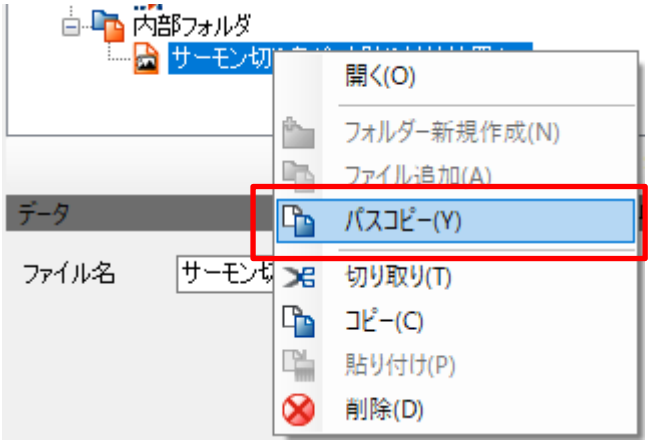




11.表示オプションで「メディア（画像）」を選択します。
※画像以外に、動画、Web の表示形式があります。指定するメディアファイルと、本設定の表示形式が合わないと、e-Labe Print で正しく表示されません。



12.「４」で追加した画像の上で右クリック＞パスコピーを選択します。
※パスコピー：登録したメディアファイルのフォルダ階層を含んだパス情報を取得できます。
内部データに登録したメディアを使用する場合、パスコピーで取得したパス情報を値としてセットします。



13.基本レイアウトのプリセット画面を開きます。
基本レイアウトの保存を促すダイアログが表示されるので、「OK」をクリックします。

14.プリセットの「５」の文字列項目に「10」でパスコピーしたパス情報を貼り付けます。



15.レイアウト生成で発行レイアウトを生成し、プリセット画面を保存して閉じます。

16.データ出力ボタンでフォーマットを出力し、FX3 の SATO/FormatFiles にフォーマットをセットします。

17.e-Labe Print で該当の呼出し No.を呼出します。内部データに取り込んだ画像が表示されます。



■FX3 の所定フォルダにメディアファイル（画像）をセットし発行画面に表示する手順

[手順の流れ]　※印字するラベルデザイン等は作成してあることを前提として説明します

●メディアファイル（画像）を FX3 にセットする

●基本レイアウトにメディアファイルのパス情報をセットする文字列オブジェクトを追加する

●入力画面設定で文字列の表示形式を指定する

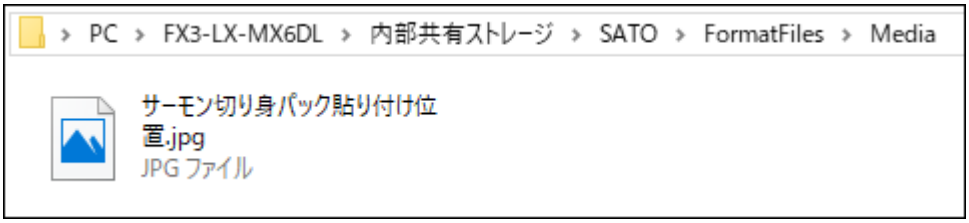
●プリセットデータにパス情報をセットし、レイアウト生成する

●データ出力し、フォーマットファイルを生成する

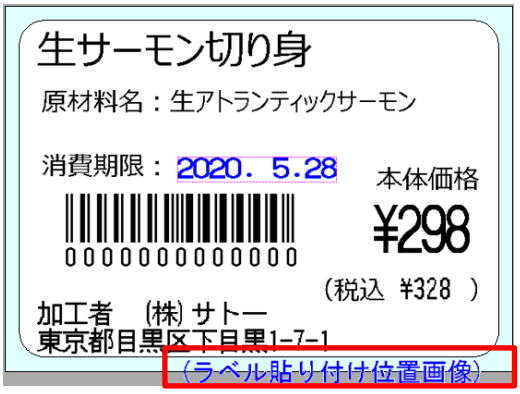
●e-Labe Print でアイテムを呼出し、画像が表示されることを確認する

【メディアファイルの配置場所、パスについて】
FX3 のストレージ内のメディアファイルを発行画面に表示する場合、以下のパスの配下に配置する必要があります。
<配置先>FX3 内部ストレージ/SATO/FormatFiles 配下
パスは上記 FormatFiles を起点とした相対パスを指定します。
例）
<配置先>FX3 内部ストレージ/SATO/FormatFiles/Media/FX3.png
<指定するパス>Media/FX3.png

1. 表示するメディアファイル（画像）を FX３の SATO/FormatFIles 内の任意のフォルダにコピーします。本資料では、FormatFiles に Media フォルダを作成し、メディアファイルをコピーします。

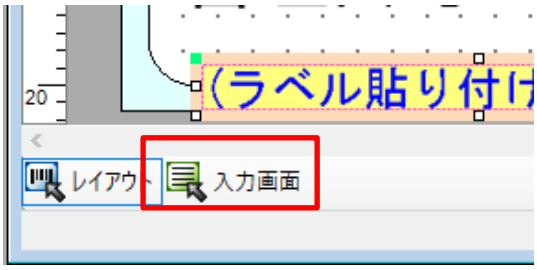


2. メディア表示するレイアウトに文字列オブジェクトを追加します。（名称は適宜変更してください）

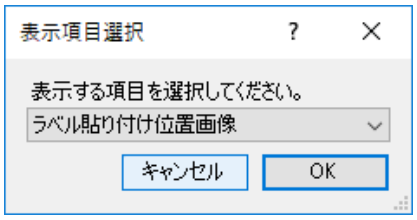


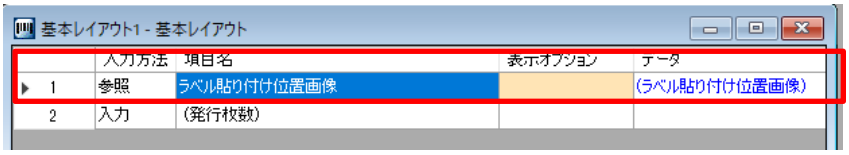
3. 「入力方法：固定」「データセット：ON」「印字しない：ON」に設定します。

4. デザインウィンドウ下の「入力画面」タブをクリックします。



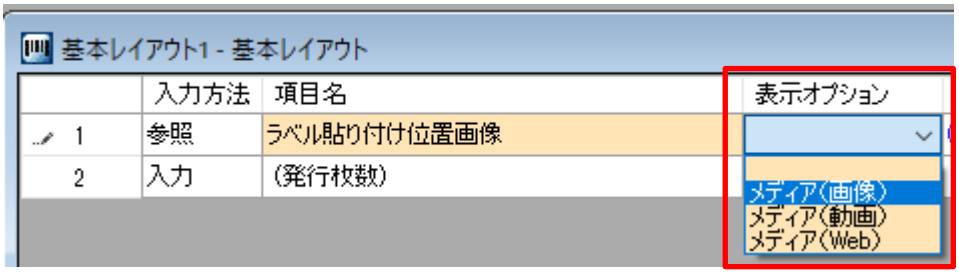
5. 「表示追加」ボタンをクリックし「1」の文字列を表示項目に追加します。





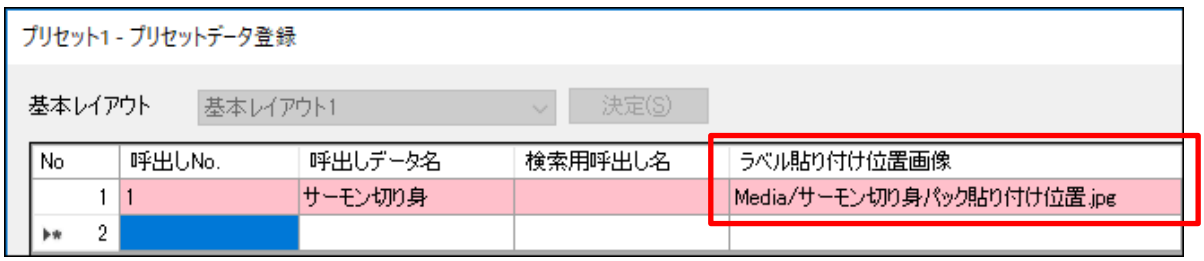
表示オプションで「メディア（画像）」を選択します。

※1 表示オプションにメディア表示のリストが出てこない場合、ツール設定の「メディア表示機能を使用する」が OFF になっている可能性があります。
※2 画像以外に、動画、Web の表示形式があります。指定するメディアファイルと、本設定の表示形式が合わないと、e-Labe Print で正しく表示されません。



6. 基本レイアウトのプリセット画面を開きます。
※ 基本レイアウトの保存を促すダイアログが表示されるので、「OK」をクリックします。

7. プリセットの「2」の文字列項目に「1」で配置したメディアファイルのパス情報を入力します。
パス：Media/サーモン切り身パック貼り付け位置.jpg



8. レイアウト生成で発行レイアウトを生成し、プリセット画面を保存して閉じます。

9. データ出力ボタンでフォーマットを出力し、FX3 の SATO/FormatFiles にフォーマットをセットします。

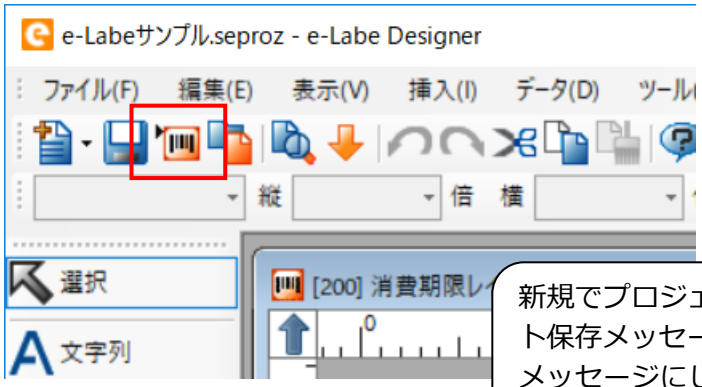
10. e-Labe Print で該当の呼出し No.を呼出します。内部データに取り込んだ画像が表示されます。



28.サンプルデータ取込

e-Labe Designer には、いくつかの印字サンプルが登録されています。
これらを利用することで、レイアウト作成の時間を短縮することができます。

1.ツールバーの「サンプル取込」ボタンをクリックします。

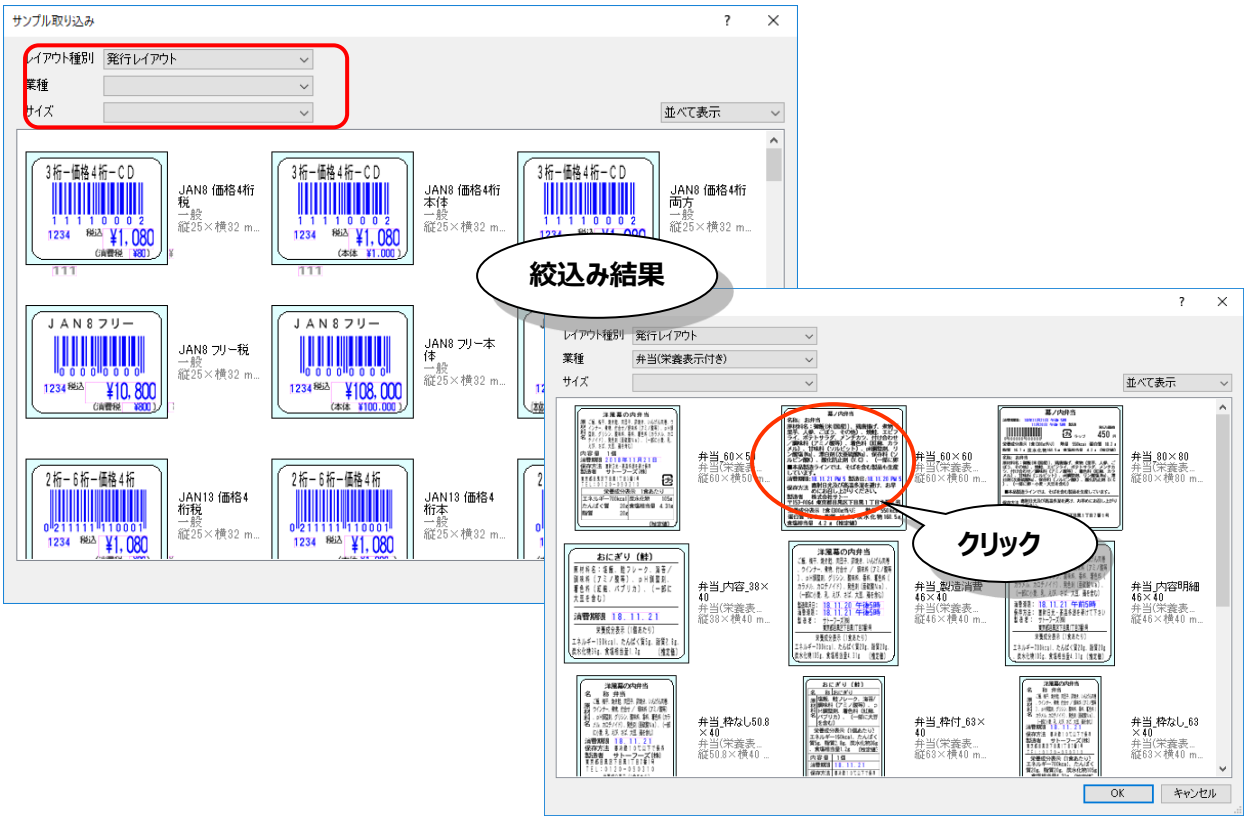


新規でプロジェクトを作成した場合、プロジェクト保存メッセージが表示されます。
メッセージにしたがって、プロジェクトを保存してください。

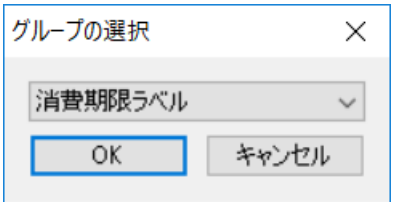
2.サンプル選択画面が開きます。

3.表示された一覧から直接選択するか、「レイアウト種」、「業種」、「サイズ」でレイアウトの絞込みを行います。

4.作成したいレイアウトのイメージに近いレイアウトを選択し、クリックします。

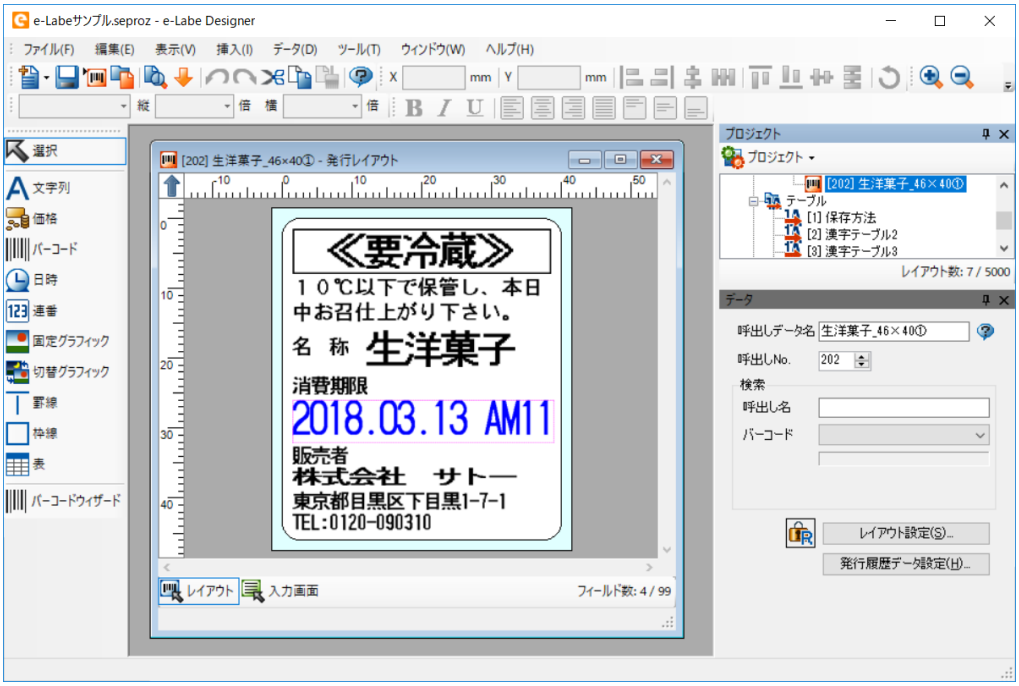


5.編集中のプロジェクトに複数のグループがある場合、格納するグループを選択してください。



登録後もプロジェクトウィンドウ内での切り取り、貼り付け動作で、グループの変更が可能です。

6.取り込んだファイルが画面に表示されます。

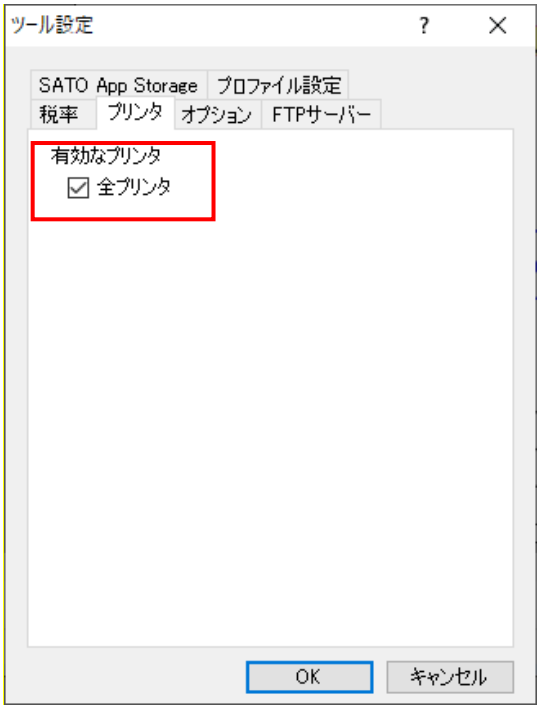


7.貼り付けられた項目の設定を、デザインウィンドウやデータウィンドウで変更します。

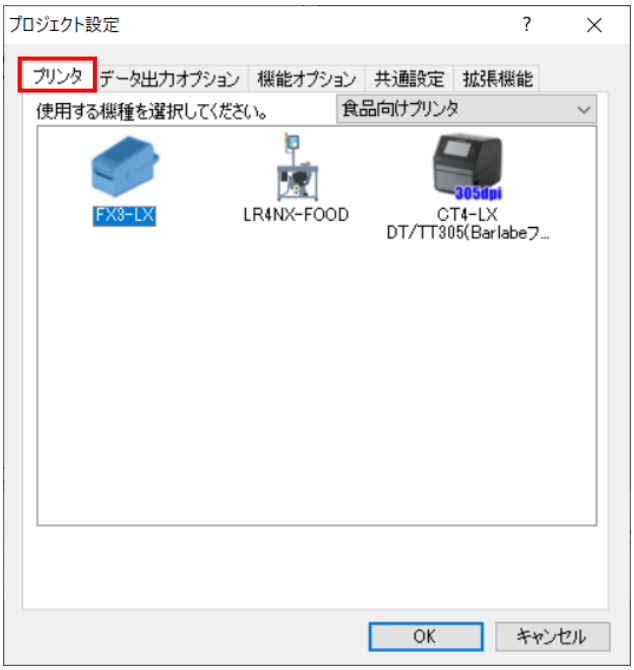
29.プリンタ機種を変更する

Ver.1.12.0.0 から複数のプリンタ機種のレイアウト作成が可能となっています。作成したレイアウトのプリンタ機種を変更することも可能です。

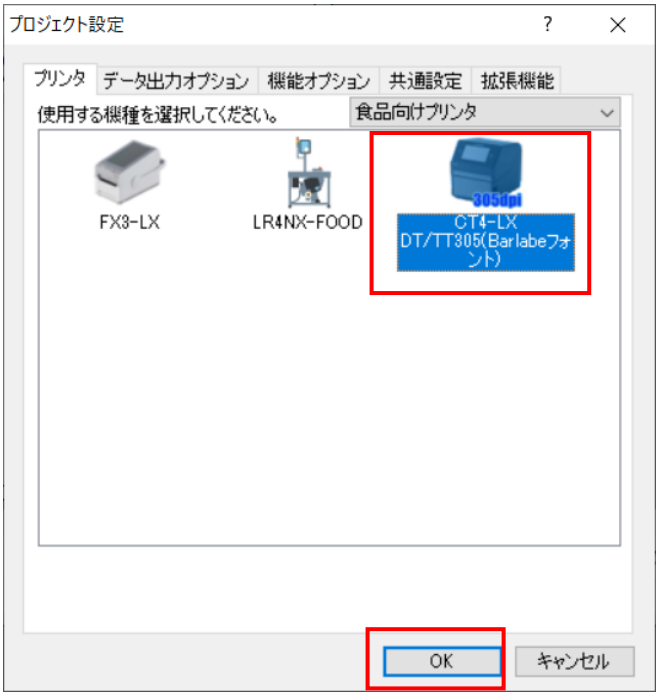
1. **メニューバーのツール> 設定>プリンタタブを開き「全プリンタ」にチェックを入れて[OK]をクリックします。**



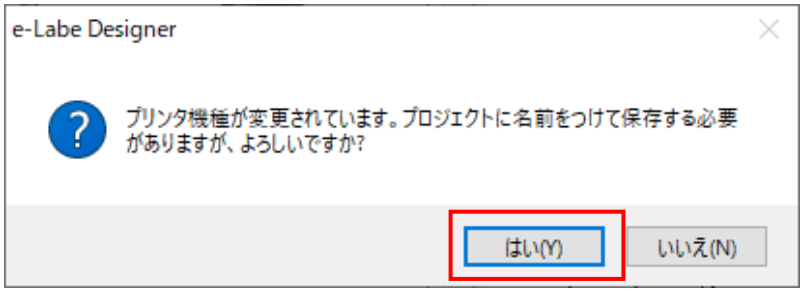
2. **メニューバーの「ファイル」>「プロジェクト設定」を開き「プリンタ」タブをクリックします。**
現在選択されているプリンタ機種が選択された状態で表示されます。



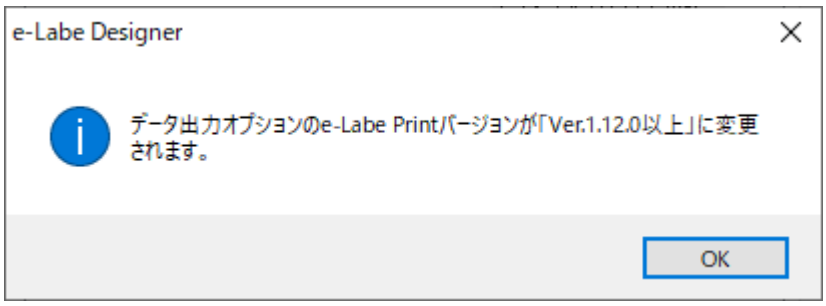
3. 変更したいプリンタ機種を選択し、 [OK]をクリックします。



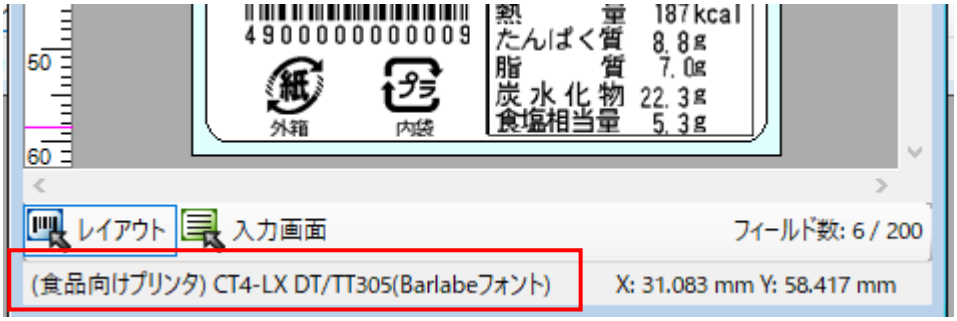
4. 保存ダイアログが表示されますので、[はい]を選択し、プロジェクトを別名で保存します。



注意
以前の e-Labe Print バージョンを指定していて変更先のプリンタ機種に未対応の場合、以下のダイアログが表示されバージョンが変更されます。



5. レイアウトの左下の機種名が変更した機種になっていることを確認します。



注意

変更先の機種に搭載していないフォントは別の搭載されているフォントに置き換わります。

変換後はレイアウトの確認をお願いします。

30.最大値／最小値を参照する方法

参照・結合の「参照（ユーザ定義）」機能を利用することで、オブジェクトの値を比較し最も大きい値または小さい値（日時は最も新しい日時または古い日時）を参照することが可能です。

●「参照（ユーザ定義）」の編集タイプで「最大値を参照」、「最小値を参照」を利用可能なオブジェクトは以下のオブジェクトです。

[文字列]、[バーコード]、[連番]、[切替グラフィック]





●選択したオブジェクト同士の値を比較します。

比較データは「数値」または「日時」のどちらかを選択可能です。

[数値]



数値として大小比較をします。
使用例）重量、長さ、温度などの値の比較
設定手順はこちらを参照ください。

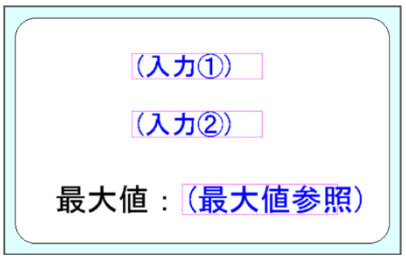
[日時]



指定した「日時書式」に基づき日時として大小比較をします。
例）詰め合わせ商品の賞味期限比較、異なる期限（賞味期限と開封期限など）の比較
設定手順はこちらを参照ください。

■数値を比較し最大値／最小値を参照する手順

例として、以下のような 2 つの文字列に入力した値のうち、大きい方の値を参照する手順を説明します。

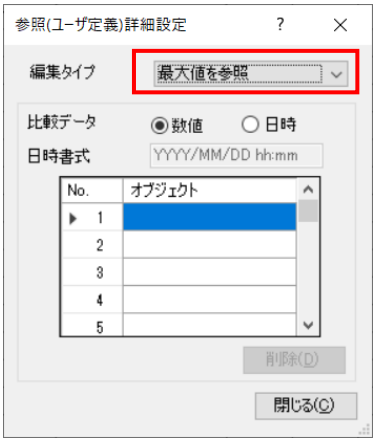


[数値]で比較する場合について

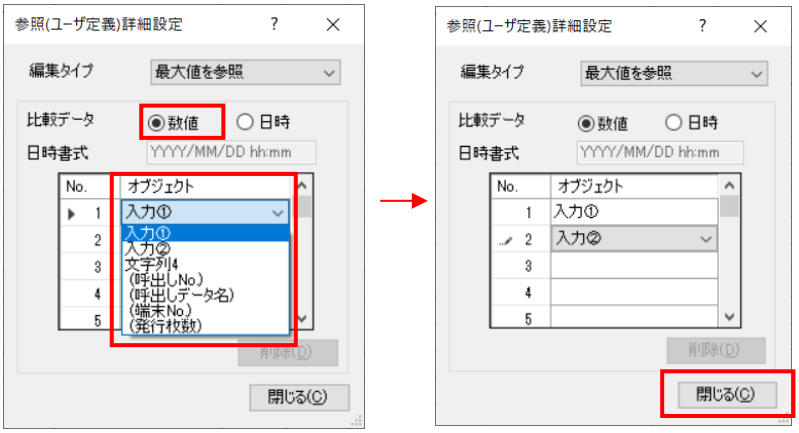
・比較可能なオブジェクト種は以下のとおりです。
　文字列
　バーコード
　価格
　日時
　システム項目（呼出し No.／呼出しデータ名／端末 No.／発行枚数）
・比較可能な最大桁数は 16 桁です。比較対象のオブジェクトの桁数を 16 桁以下にしてください。
・データには正の整数または小数を入力してください（1234、123.45、など）。
　カンマやマイナス記号など半角数字と小数点以外の記号が含まれていると、数値とはみなされずエラーになりますのでご注意ください（1,000、-100、など）。
・前ゼロや、数値の前または後ろに半角スペースが付いている場合は、e-Labe 側で取り除いてから数値比較を行います。
・値が未入力の場合や半角スペースのみセットされている項目は無視されます。

1. 最大値を参照したいオブジェクトの参照・結合詳細設定を開き、「参照（ユーザ定義）詳細設定」画面を開きます。

2. 編集タイプで「最大値を参照」を選択します。

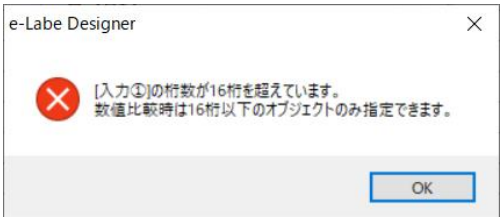


3. 比較データは「数値」とし、比較対象とするオブジェクトをリストから選択し、「閉じる」をクリックします。

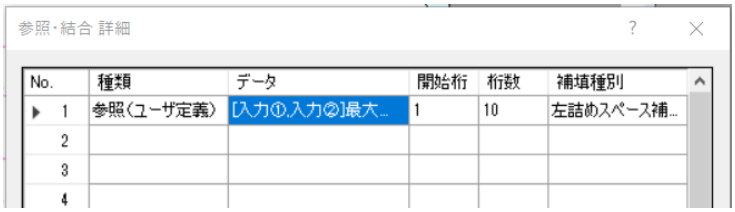


注意

桁数設定が 17 桁以上のオブジェクトが選択されている場合、画面を閉じる際にエラーとなります。



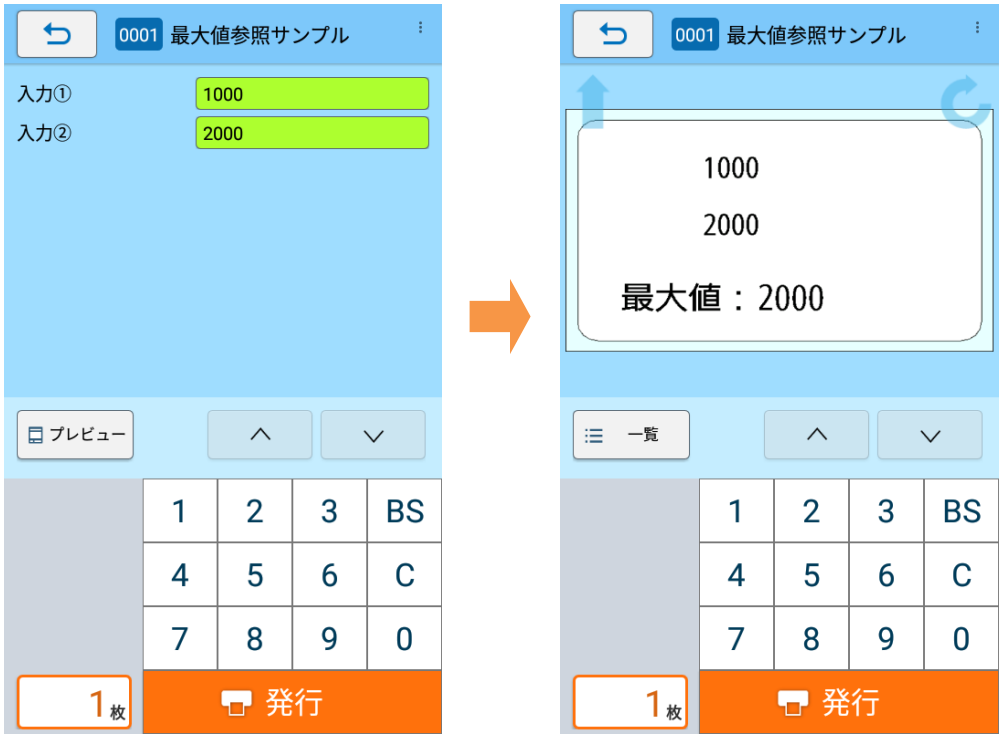
4. 参照・結合詳細画面で必要に応じて参照開始桁、桁数、補填種別を変更します。



5. プレビュー・テスト発行画面で最大値が参照されることを確認します。

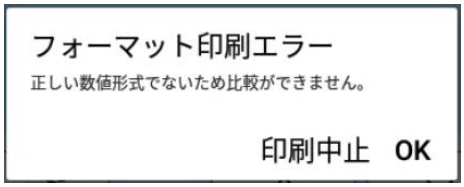


6. e-Labe Print で発行確認をおこないます。



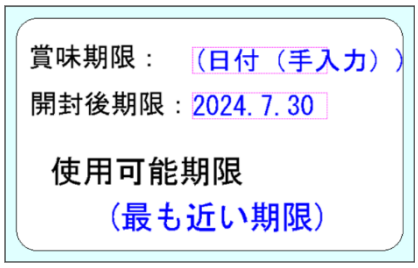
注意

入力値が数値以外の場合、発行時やプレビュー時に以下のようなエラーが表示されます。



■日時を比較し最大値／最小値を参照する手順

例として、以下のような日時オブジェクトと手入力用の文字列の日付のうち、より期限が近い（古い）方の値を参照する手順を説明します。



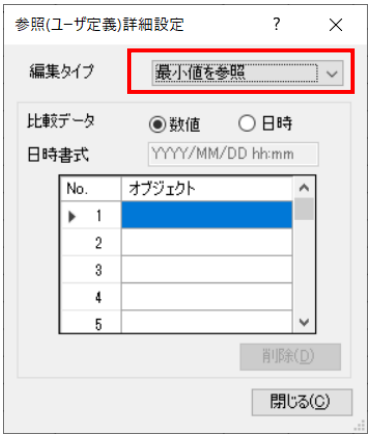
日時の場合の最大値、最小値は以下となります。
・最大値→最も新しい日付
・最小値→最も古い日付

[日時]で比較する場合について

・比較可能なオブジェクト種は以下のとおりです。
　文字列
　バーコード
　価格
　日時
　システム項目（呼出し No.／呼出しデータ名／端末 No.／発行枚数）
・比較可能な最大桁数は 32 桁です。比較対象のオブジェクトの桁数を 32 桁以下にしてください。
・日時書式に基づいた値を入力してください。
・値が未入力の場合や半角スペースのみセットされている項目は無視されます。

1. 最小値を参照したいオブジェクトの参照・結合詳細設定を開き、「参照（ユーザ定義）詳細設定」画面を開きます。

2. 編集タイプで「最小値を参照」を選択します。

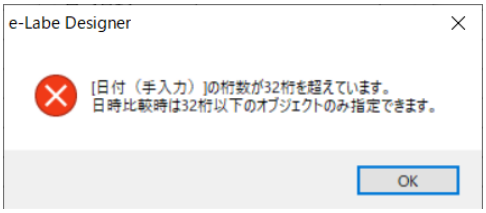


3. 比較データは「日時」とし、比較する日時書式を入力します。対象とするオブジェクトをリストから選択し、「閉じる」をクリックします。
　日時書式に指定可能な書式は「■日時比較で指定可能な日時書式」を参照してください。



注意

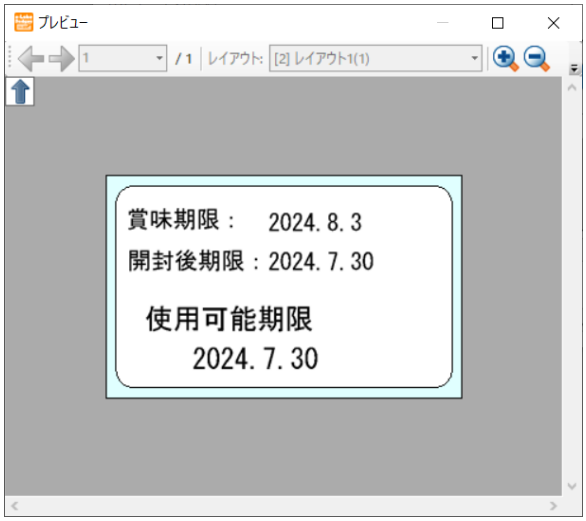
桁数設定が 33 桁以上のオブジェクトが選択されている場合、画面を閉じる際にエラーとなります。



4. 参照・結合詳細画面で必要に応じて参照開始桁、桁数、補填種別を変更します。

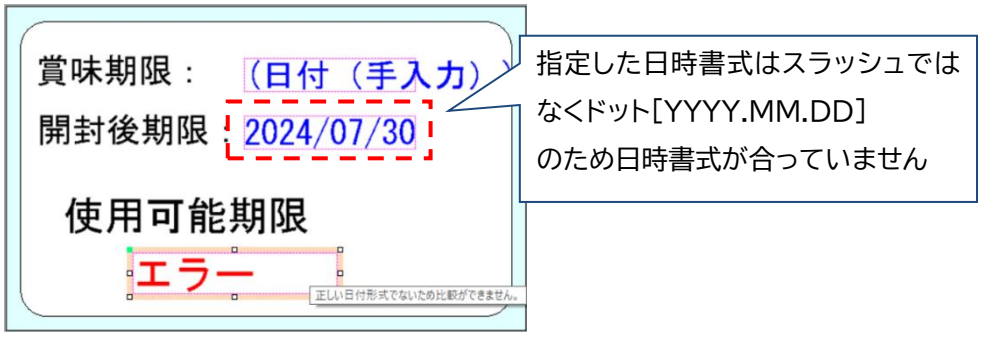


5. プレビュー・テスト発行画面で最小値（最も古い日付）が参照されることを確認します。



注意

・参照（ユーザ定義）詳細設定画面で指定した日時書式と異なる書式の日時が比較対象に選択されている場合、参照オブジェクトがエラーで表示されます。

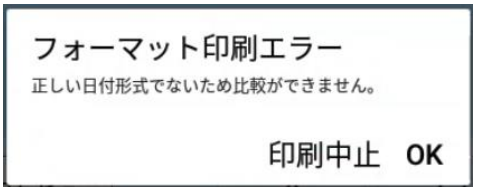


6. e-Labe Print で発行確認をおこないます。



注意

入力値が指定した日時書式と異なる場合や全角数字、全角スペースが入力されている場合、以下のようなエラーが表示されます。



■日時比較で指定可能な日時書式

設定可能な日時書式のパターンは以下の一覧のとおりです。

●日時書式パターン

種類	パターン	書式
日付のみ	「年(2 桁)」のみ	YY
	「年(4 桁)」のみ	YYYY
	「年(2 桁)」+「月」	YYMM
	「年(4 桁)」+「月」	YYYYMM
	「年(2 桁)」+「月」+「日」	YYMMDD
	「年(4 桁)」+「月」+「日」	YYYYMMDD

種類	パターン	書式	パターン	書式
日付＋時刻	「年(2 桁)」+「月」+「日」	YYMMDD	「時(24)」+「分」	hhmm
	「年(4 桁)」+「月」+「日」	YYYYMMDD	「AM/PM 時(12)」+「分」	TTHHmm
	「月」+「日」	MMDD	「am/pm 時(12)」+「分」	ttHHmm
			「午前/午後時(12)」+「分」	TTTTHHmm
			「時(24)」	hh
			「AM/PM 時(12)」	TTHH
			「am/pm 時(12)」	ttHH
			「午前/午後時(12)」	TTTTHH

種類	パターン	書式
時刻のみ	「時(24)」+「分」	hhmm
	「AM/PM 時(12)」+「分」	TTHHmm
	「am/pm 時(12)」+「分」	ttHHmm
	「午前/午後時(12)」+「分」	TTTTHHmm
	「時(24)」	hh
	「AM/PM 時(12)」	TTHH
	「am/pm 時(12)」	ttHH
	「午前/午後時(12)」	TTTTHH

桁数が足りない場合は前ゼロまたは半角スペースを付加してください。
（例：20240101、2024 1 1、am07、AM 7）
書式には任意の区切り文字(スラッシュ(/)、ドット(.)、ハイフン(-)、コロン(:)など)も使用できます。
（例：YYYY/MM/DD、YYYY.MM.DD、YYYY-MM-DD、YYYY/MM/DD hh:mm、TTHH:mm）
区切り文字を使用時は、桁数が足りない場合の前ゼロまたは半角スペースを省略できます。

（参考）日時書式

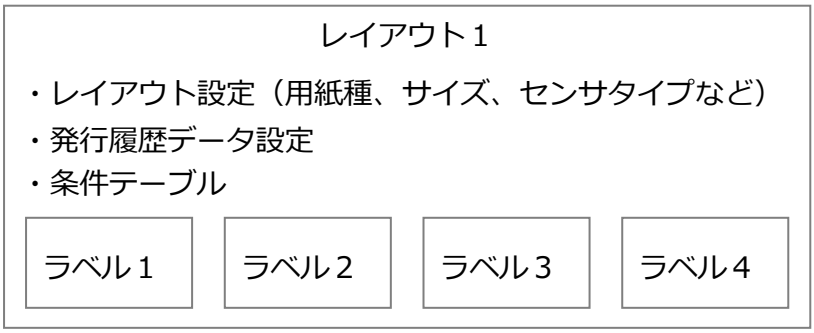
日付書式		時間書式	
YY	年(2 桁)	hh	時(24 時間制)
YYYY	年(4 桁)	HH	時(12 時間制)
MM	月	mm	分
DD	日	TT	AM/PM
		tt	am/pm
		TTTT	午前/午後

31.複数枚貼りレイアウトを作成する方法

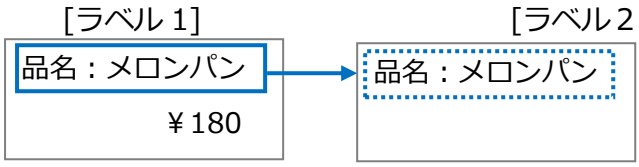
複数枚貼り設定を有効にすることで、1 レイアウト内に異なるデザインのラベルを最大 4 パターンまで作成できます。お弁当の表面、裏面に貼るラベルを一度に発行したい場合などにご利用いただけます。

■複数枚貼りレイアウトについて

・ラベルサイズやセンサタイプなど、レイアウト単位で持つ設定情報は共通です。ラベルサイズや用紙の回転など共通の設定を変更すると、ラベル 1 ～ 4 すべてに反映されます。



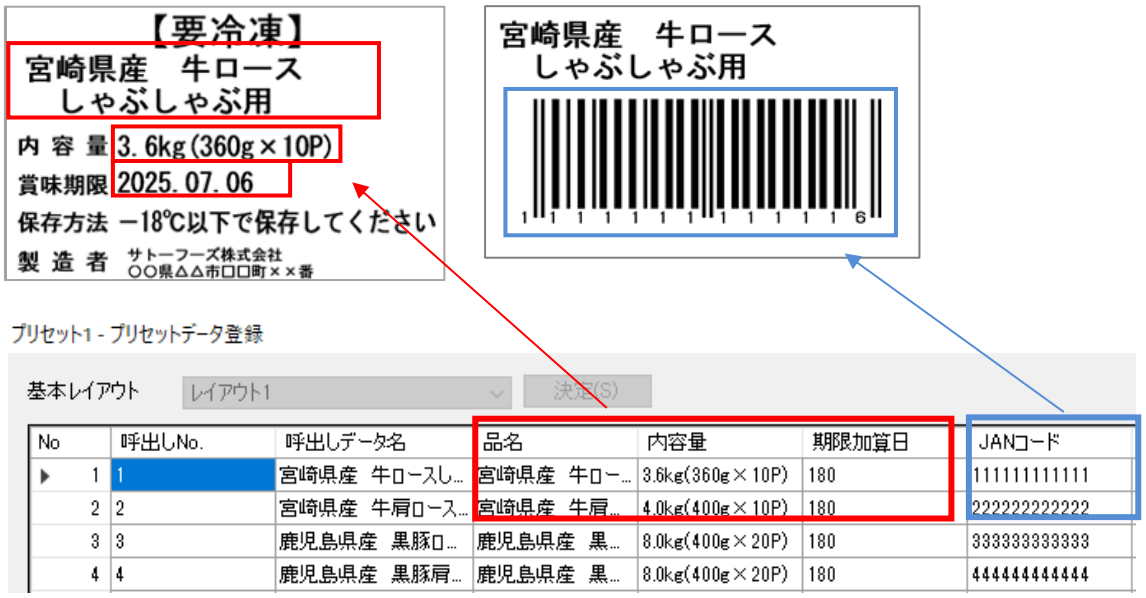
・ラベル 1 ～ 4 に配置したオブジェクトの値は互いに参照することが可能です。



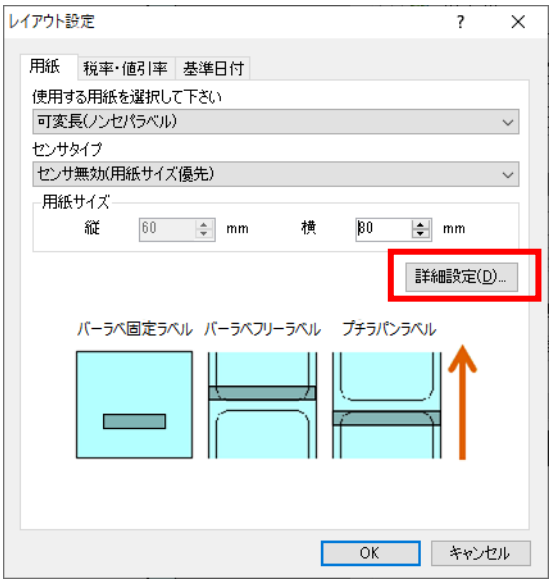
■複数枚貼りレイアウトの作成手順

例として、2 種類のラベルを一度に印字する基本レイアウトの作成手順を説明します。

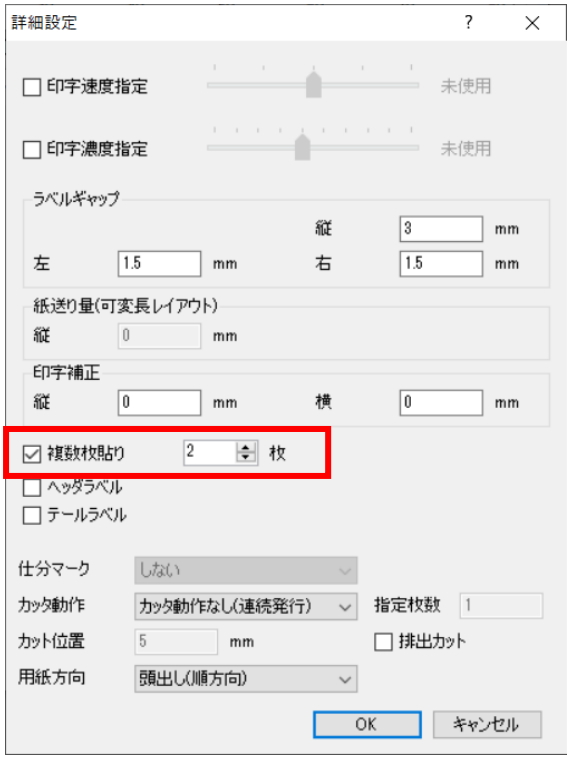
印字長に応じて任意の長さでカットできる可変長ラベルを使用します。



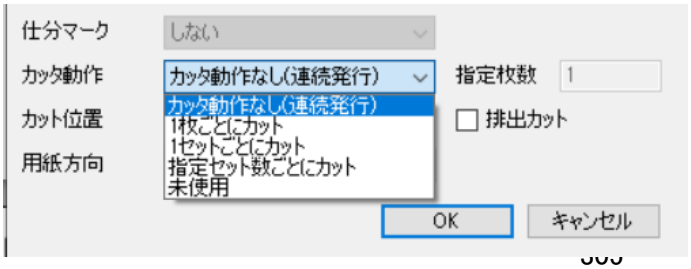
1. 用紙種やサイズを設定し、「詳細設定」画面を開きます。



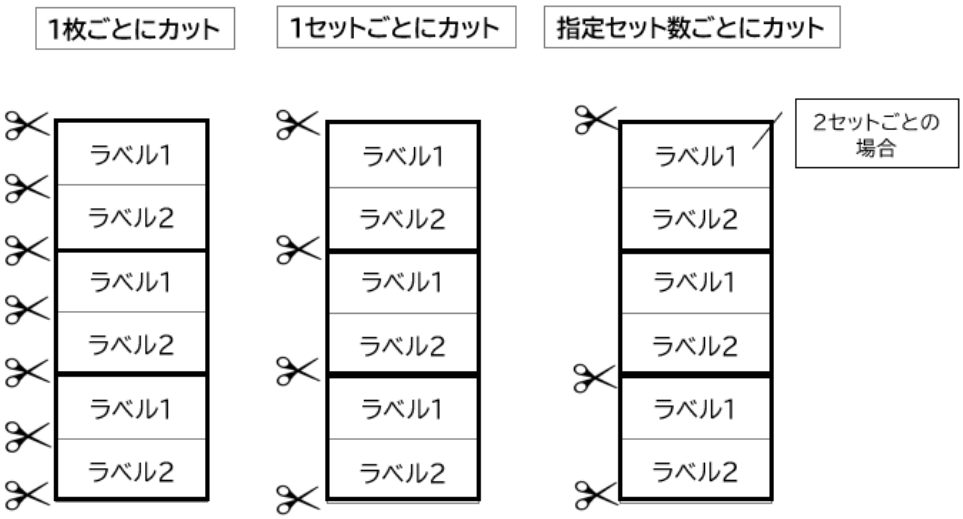
2. 「複数枚貼り」を ON にし、枚数を「２」枚とセットします。



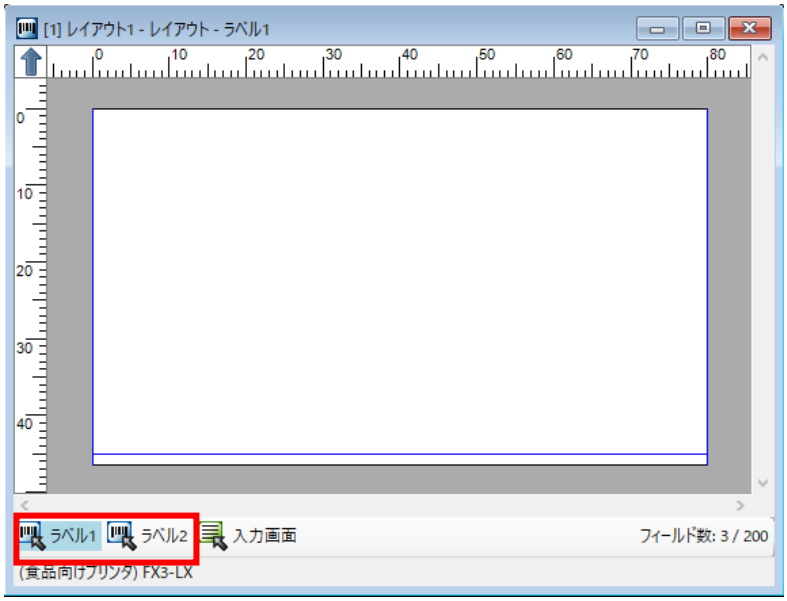
3. 「カッタ動作」で「1 枚ごとにカット」を選択し、「OK」をクリックします。「１枚ごとにカット」では、ラベルが切りかわるタイミングで必ずカットします。また、１セットごとにカットしたり、指定したセット数ごとにカットすることも可能です。（ラベル１とラベル２は１セットとして扱われます。）



【参考情報】カッタ動作



4. デザイン画面の下部に「ラベル１」「ラベル２」とシートが表示されます。
このシートを切り替えてデザインを作成します。

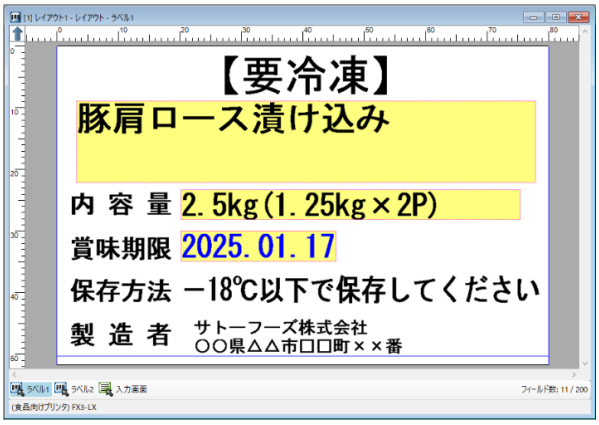


注意

・ラベル１～４の名称は固定です。

・ラベル１～４の順番を入れ替えることはできません。
印字するラベルの順序を考えてデザインしてください。

5. ラベル 1、ラベル２のデザインを作成します。

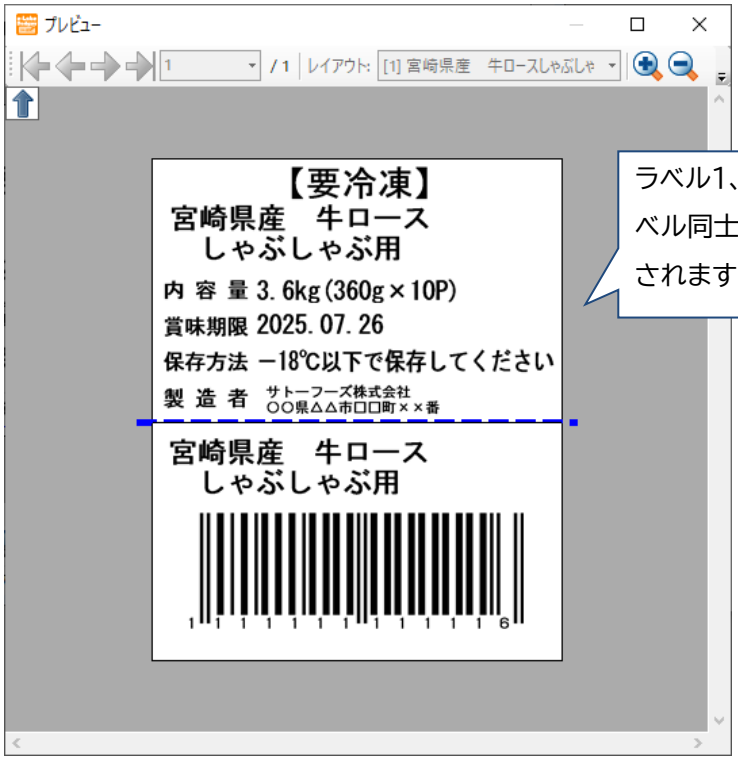




6. プリセット画面を開き、マスタを登録の上レイアウト生成を実行します。



7. 生成された発行レイアウトのプレビュー・テスト発行画面を確認します。



ラベル1、2は 1 画面に表示され、ラベル同士の区切りは青い点線で表示されます。

7. e-Labe Print でプレビュー表示、発行確認をおこないます。



注意

・発行時は発行指示 1 枚につきラベル 1 、 2 を 1 セットとして発行します。2 枚発行指示した場合、1 セット目（ラベル 1 ， 2 ）、2 セット目（ラベル 1 ， 2 ）と発行します。

■ラベルの数を減らした場合のラベル削除について

複数枚貼りのラベル数を減らした場合、ラベル番号が大きいものから削除されます。

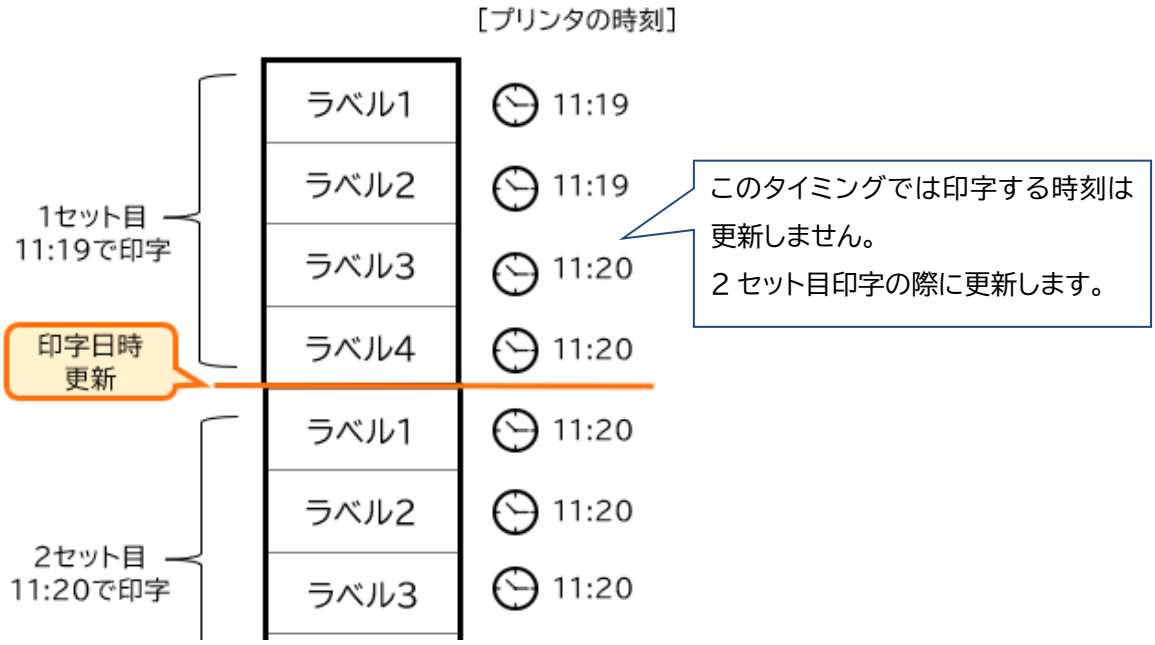
例）4 枚→3 枚にした場合　ラベル 4 が削除されます。

同様に、複数枚貼りの設定を OFF にした場合、ラベル 2 ～ 4 は削除されます。

削除したラベルに配置されていたオブジェクトも併せて削除され、復旧はできません。

■リアルタイム印字 ON の日時について

複数枚貼りレイアウトでリアルタイム印字 ON の日時を発行時、1 セット目を発行中に時刻が更新されても途中で時刻は更新されません。2 セット目発行時に更新されます。



■発行履歴について

複数枚貼りレイアウトの発行履歴は通常のレイアウトと異なり、e-Labe Print で「枚数カウント表示」設定を ON にしている場合も、発行指示した時点での発行履歴のみ取得可能です。（枚数カウント表示 OFF の時と同じ履歴となります。）

■連番の保存値について

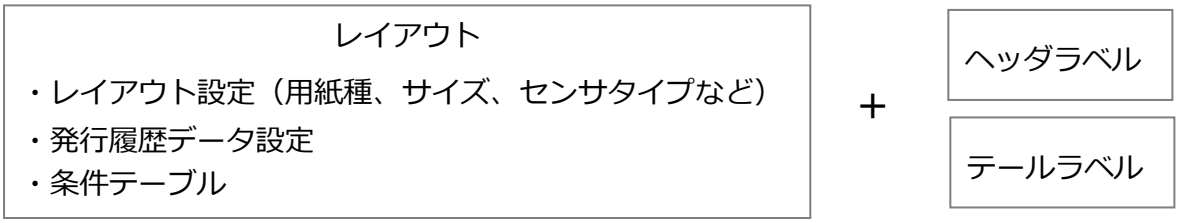
複数枚貼りレイアウトの発行を途中キャンセルした場合、e-Labe Print で「枚数カウント表示」設定を ON にしている場合も、連番は発行指示枚数分カウントしたものとみなして連番値を保存します。

32.ヘッダラベル、テールラベルを印字する方法

主となるラベルに付随して印字前、または印字後にラベルを印字することが可能です。今から印字するラベルのタイトル、発行指示枚数を印字したり、印字の末尾が分かるよう目印を印字したい場合に使用します。

■ヘッダラベル、テールラベルについて

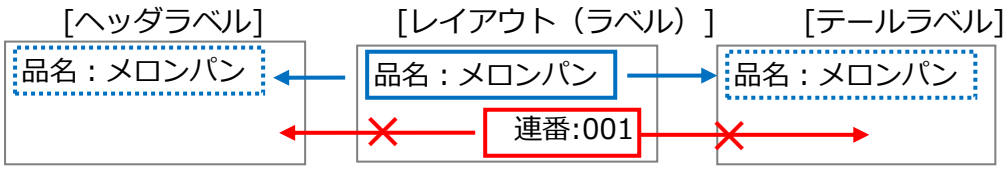
・レイアウトに付随するラベルのため、ラベルサイズやセンサタイプなど、レイアウト単位で持つ設定情報は共通です。ラベルサイズや用紙の回転など共通の設定を変更するとヘッダラベル、テールラベルにも反映されます。複数枚貼り機能と併用することが可能です。



・ラベルとヘッダラベル、テールラベルに配置したオブジェクトの値は互いに参照することが可能です。ただし、以下のオブジェクトは各々のラベル内でのみ参照可能です。

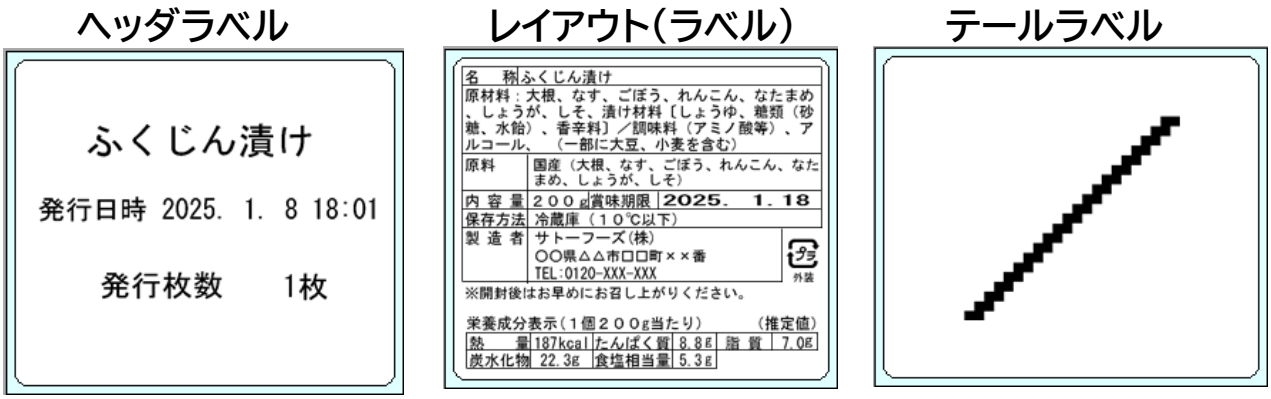
✓リアルタイム ON の日時オブジェクト

✓連番

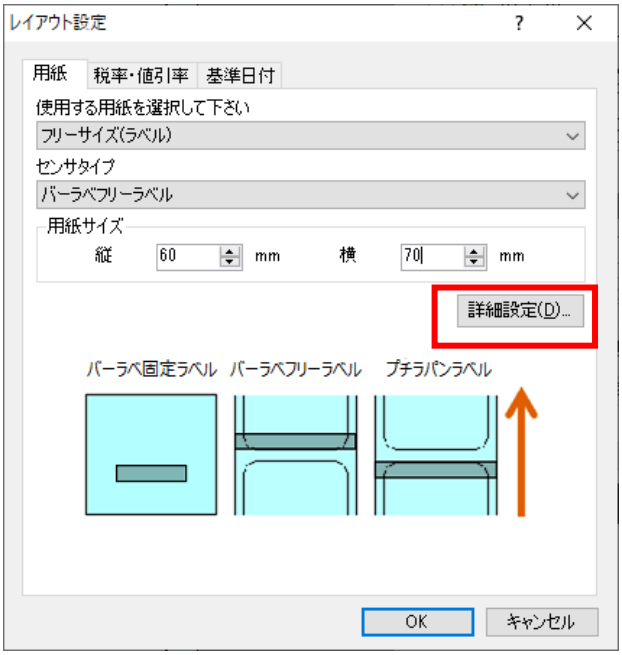


■ヘッダ／テールラベルの設定手順

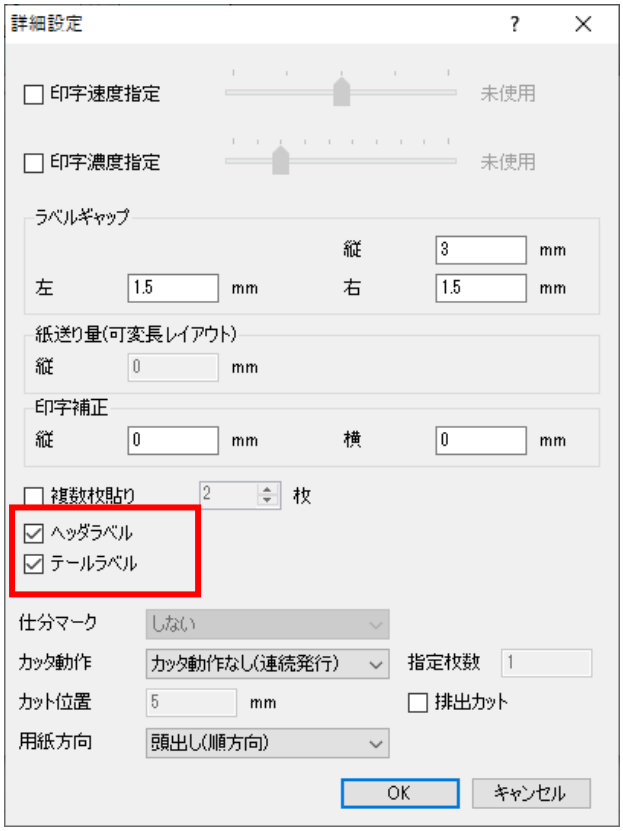
例として、ヘッダ・テールラベル両方を印字するレイアウトの作成手順を説明します。



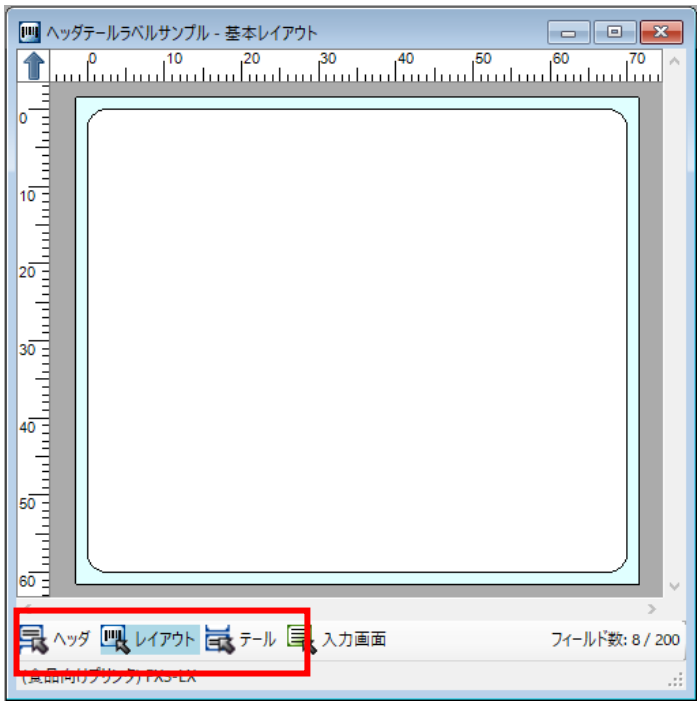
1. 用紙種やサイズを設定し、「詳細設定」画面を開きます。



2. 「ヘッダラベル」「テールラベル」を ON にし、「OK」をクリックします。



3. デザイン画面の下部に「ヘッダ」「レイアウト」「テール」シートが表示されます。
このシートを切り替えてデザインを作成します。

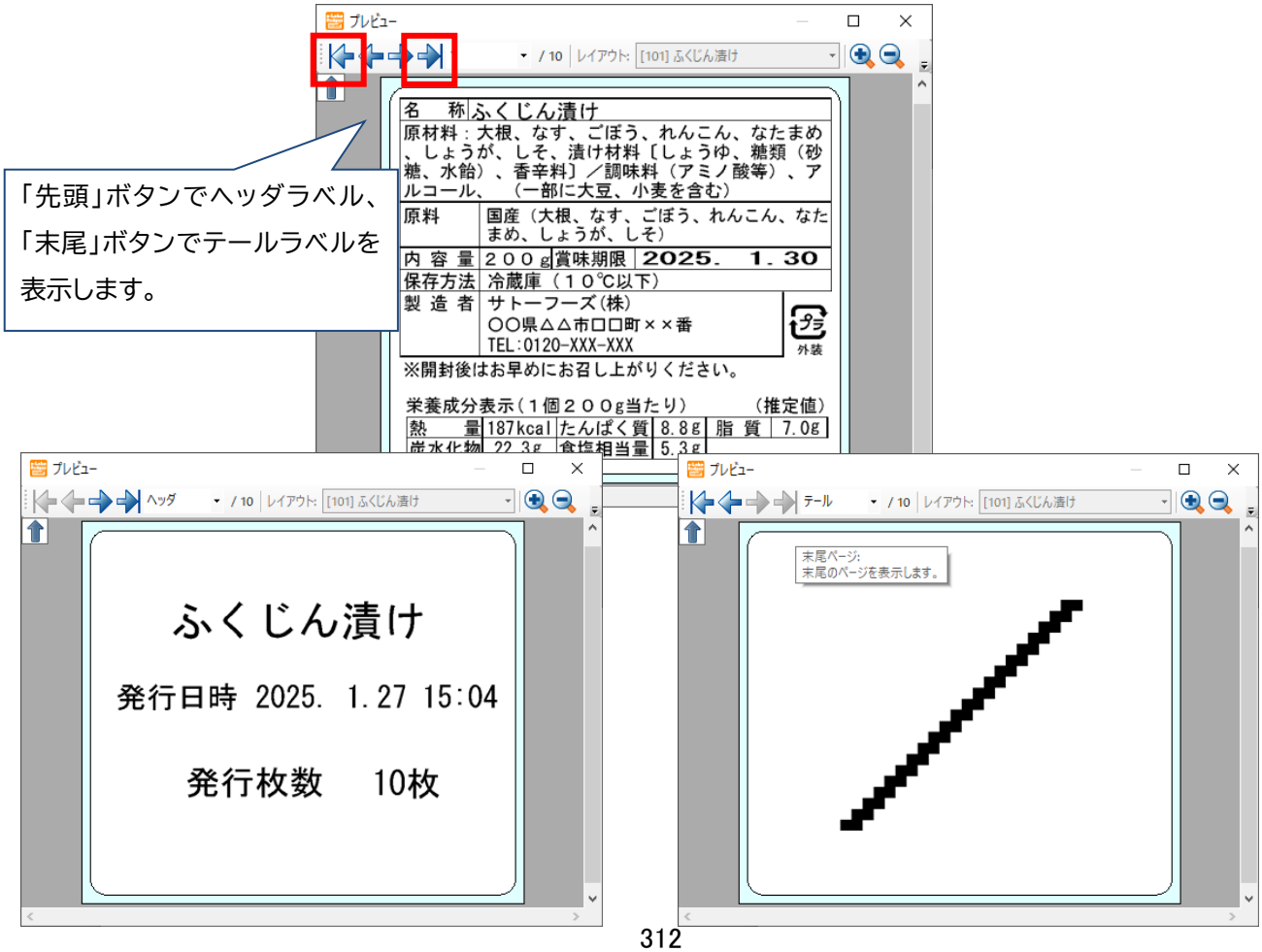


注意

・ヘッダ、テールのシート名称は固定です。

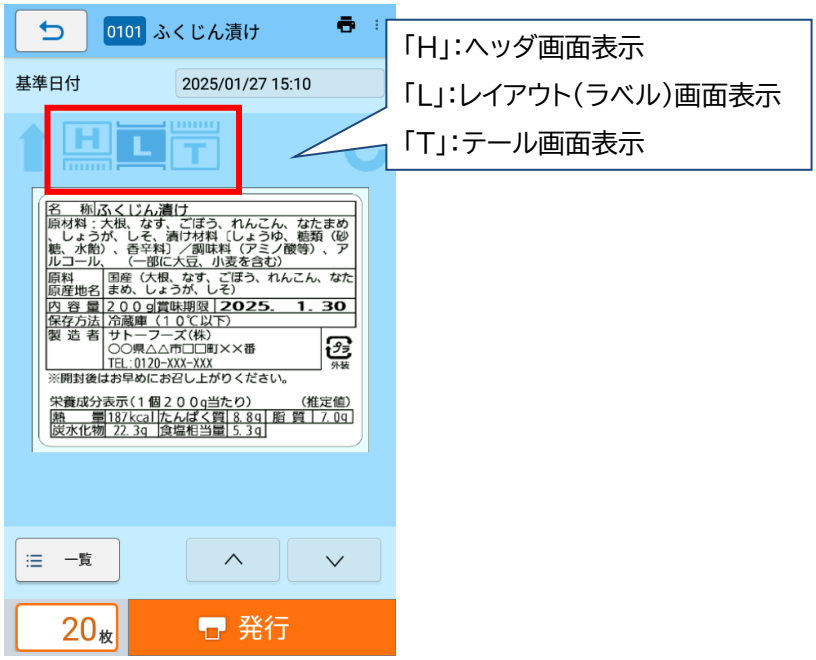
・ヘッダ、レイアウト、テールシートの順番を入れ替えることはできません。

4. ヘッダ、レイアウト、テールそれぞれのデザインを作成しプリセット画面でマスタを登録の上、レイアウト生成を実行します。生成した発行レイアウトのプレビュー・テスト発行画面を確認します。

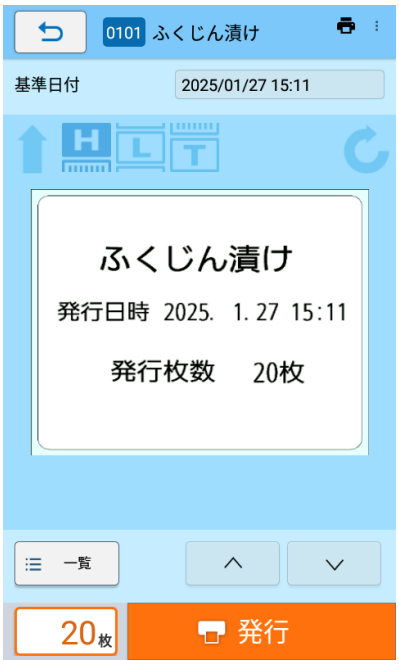


5. e-Labe Print でプレビュー表示、発行確認をおこないます。ヘッダラベル、テールラベルがある場合はプレビュー画面左上に、画面切り替えボタンが表示されます。「H」ボタンや「T」ボタンを押してヘッダラベル、テールラベルのプレビューを確認します。

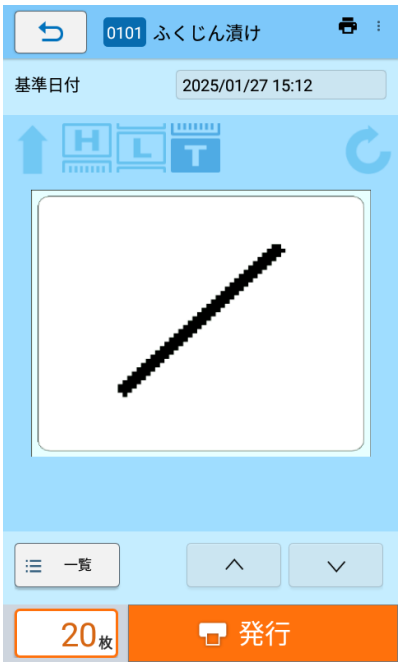
[レイアウト（ラベル）]



[ヘッダラベル]

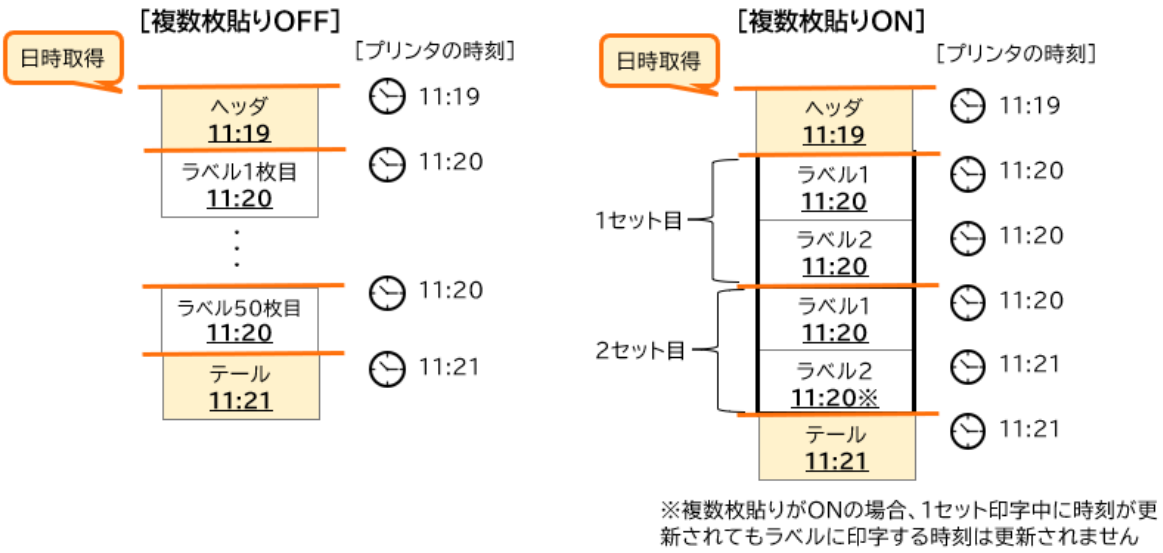


[テールラベル]



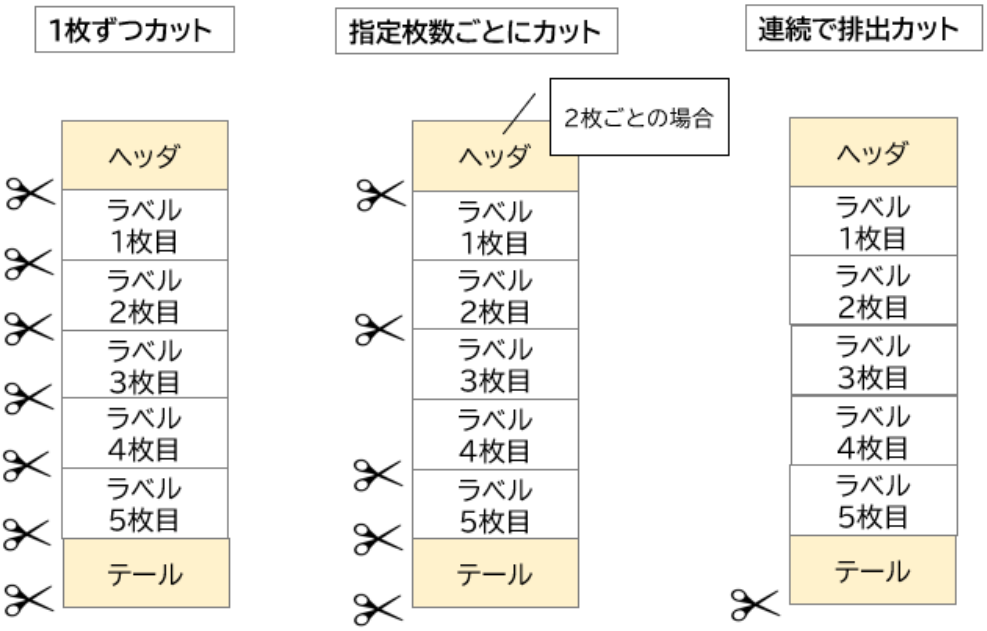
■リアルタイム印字 ON の日時について

リアルタイム印字 ON の日時を発行した場合、各ラベル種（ヘッダ、ラベル、テール）の発行タイミングで日時情報を更新して発行します。



■カッタ動作について

レイアウト設定でカッタ動作ありとした場合、ヘッダラベル印字後、テールラベル印字前は必ずカットします。連続発行で排出カットのみの場合はヘッダやテールはカットしません。



■発行履歴について

ヘッダラベル・テールラベルを使用しているレイアウトは、e-Labe Print で「枚数カウント表示」設定を ON にしている場合も、発行指示した時点での発行履歴のみ取得可能です。(枚数カウント表示 OFF の時と同じ履歴となります。)

■連番の保存値について

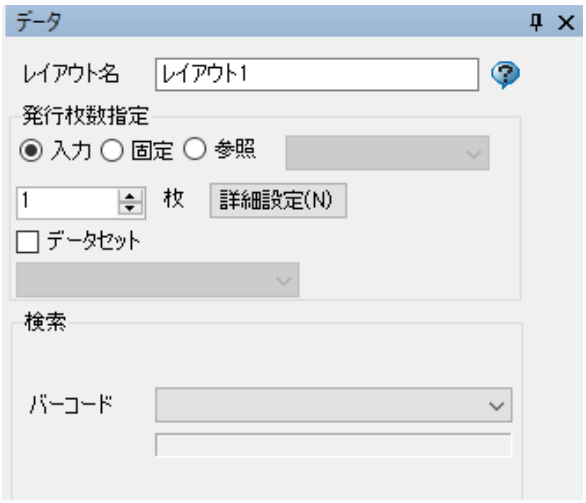
ヘッダラベル・テールラベルを使用しているレイアウトの発行を途中キャンセルした場合、e-Labe Print で「枚数カウント表示」設定を ON にしている場合も、連番は発行指示枚数分カウントしたものとみなして連番値を保存します。

33.発行枚数をプリセットする方法

発行枚数を事前にセット可能です。発行枚数の入力方法を指定することで、発行時に発行枚数の変更を許可するかどうかを指定できます。

■発行枚数のセットについて

・レイアウトのデータウィンドウで発行枚数に関する設定が可能です。



・「入力」「固定」「参照」を選択し、発行枚数をセットします。

● 【入力】

登録した値を初期値として発行画面に表示します。発行枚数の変更が可能です。
発行枚数入力欄は未セットまたは 0～9999 をセット可能です。
データセット機能を有効にした場合、プリセット画面でアイテム毎に発行枚数を登録可能です。
[補足]未セットまたは 0 枚を初期値に指定すると、発行画面で発行枚数がエラーになります。
必ず発行枚数を入力してから発行したいケースに活用できます。

● 【固定】

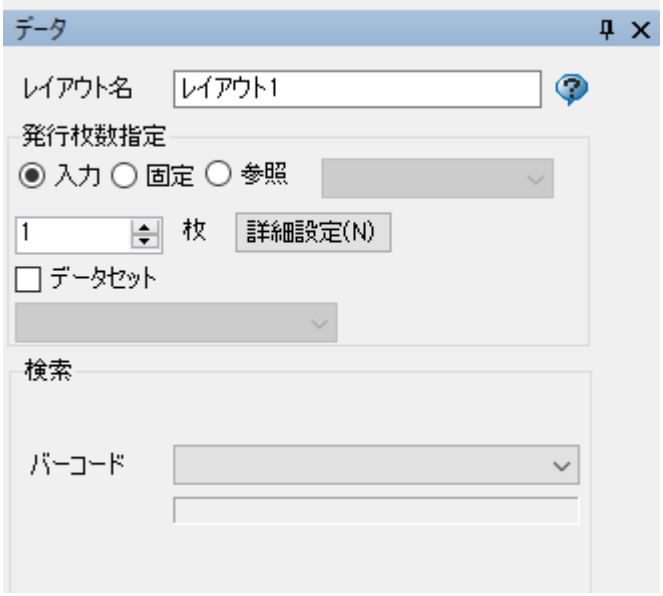
登録した値で発行します。発行時に枚数の変更はできません。
発行枚数入力欄は 1～9999 をセット可能です。
データセット機能を有効にした場合、プリセット画面でアイテム毎に発行枚数を登録可能です。

● 【参照】

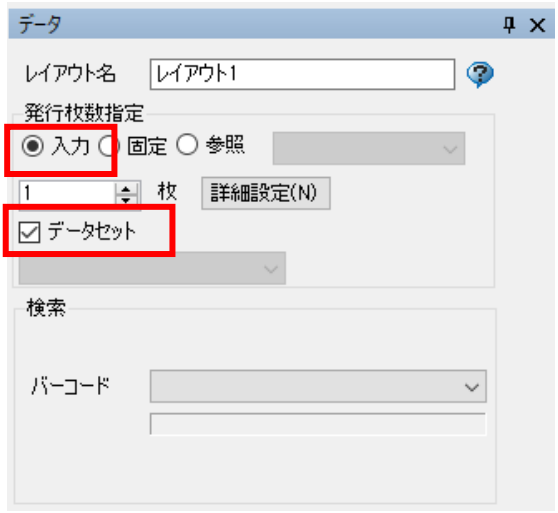
文字列オブジェクトの値を発行枚数として参照します。
参照先の文字列の入力方法が「発行時（データ）」の場合、入力チェックの文字種を「数字のみ」にしてください。

■プリセット登録画面で商品ごとに発行枚数をセットする手順

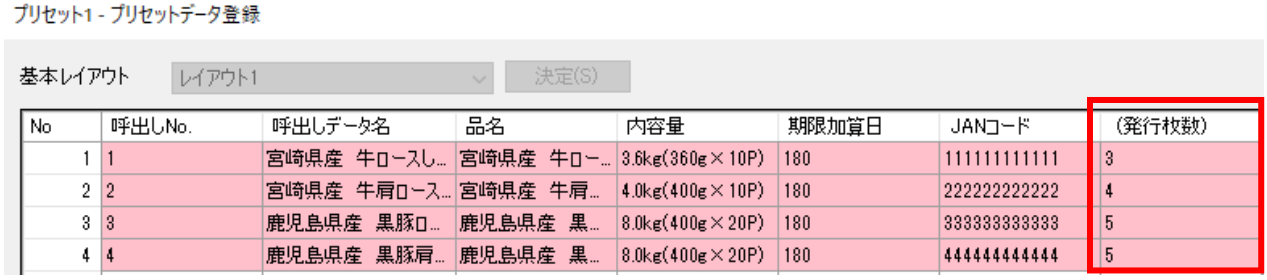
1. レイアウトのデータウィンドウを表示します。



2. 発行枚数指定で「入力」または「固定」を選択し「データセット」を有効にします。

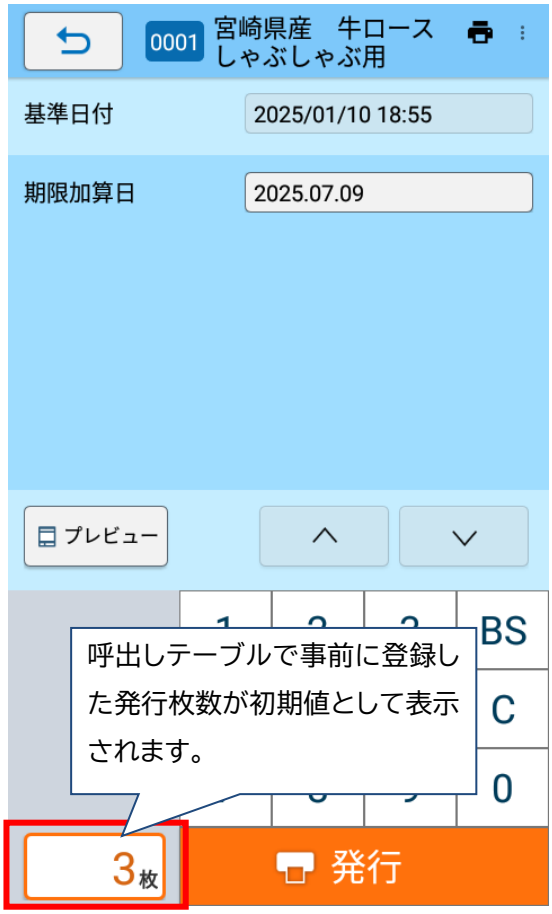


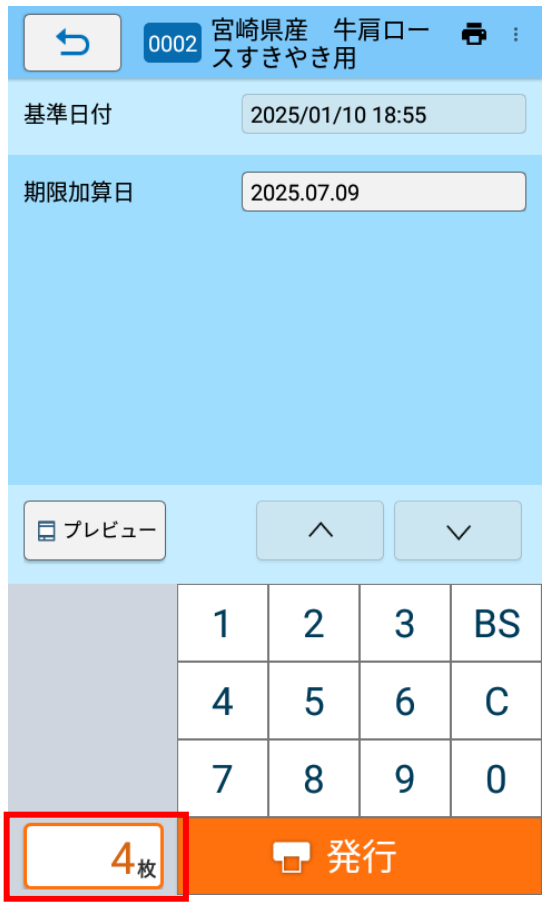
3. 「データセット」を有効にすると「(発行枚数)」という項目が自動で生成されますので、商品ごとに発行枚数を登録し、レイアウト生成を実行します。



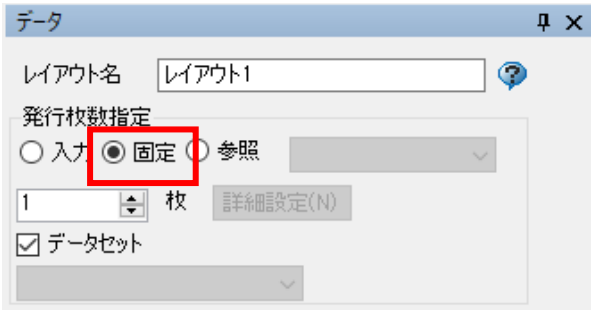
No	呼出しNo.	呼出しデータ名	品名	内容量	期限加算日	JANコード	(発行枚数)
1	1	宮崎県産 牛ロースし…	宮崎県産 牛ロー…	3.6kg(360g×10P)	180	111111111111	3
2	2	宮崎県産 牛肩ロース…	宮崎県産 牛肩…	4.0kg(400g×10P)	180	222222222222	4
3	3	鹿児島県産 黒豚ロ…	鹿児島県産 黒…	8.0kg(400g×20P)	180	333333333333	5
4	4	鹿児島県産 黒豚肩…	鹿児島県産 黒…	8.0kg(400g×20P)	180	444444444444	5

4. e-Labe Print で商品を呼出し、それぞれの発行枚数がセットされていることを確認します。





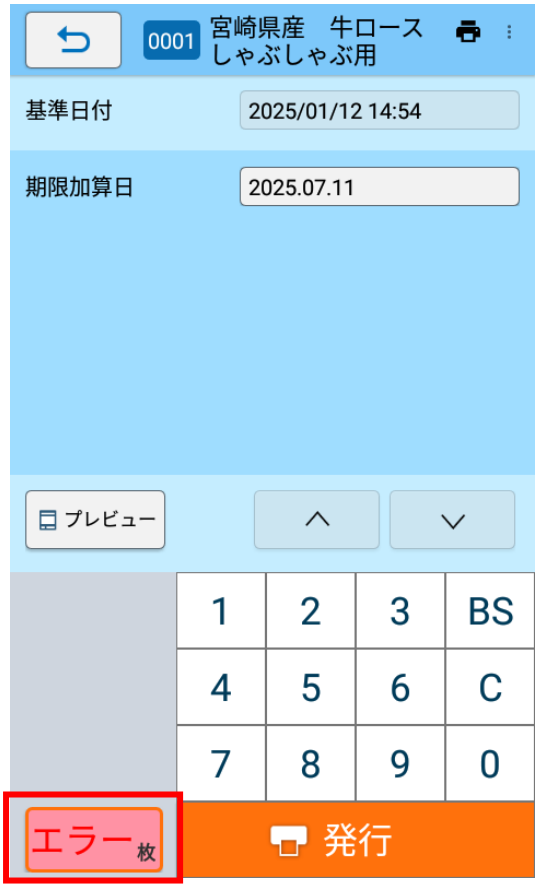
手順「2」で「固定」を選択した場合は、以下のように発行枚数項目は表示のみ（変更不可）となります。

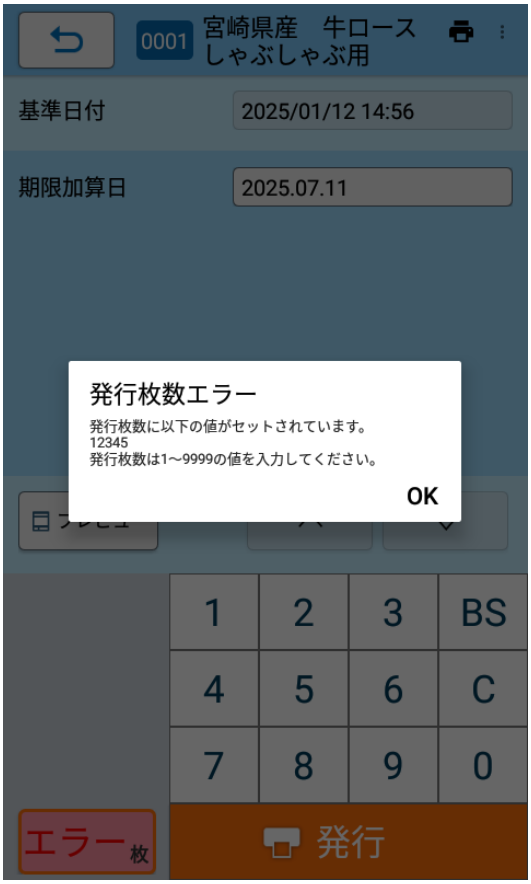




注意

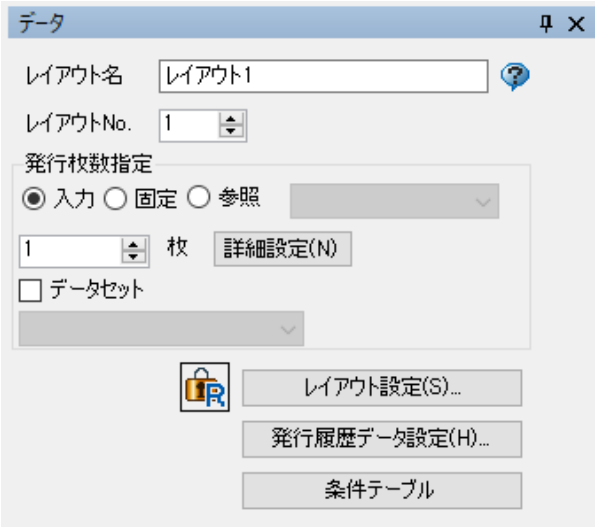
・プリセットされた発行枚数が 1～4 桁の数値以外だった場合、発行枚数項目が「エラー」表示となります。「エラー」表示部をタップすると、エラー詳細が表示されます。



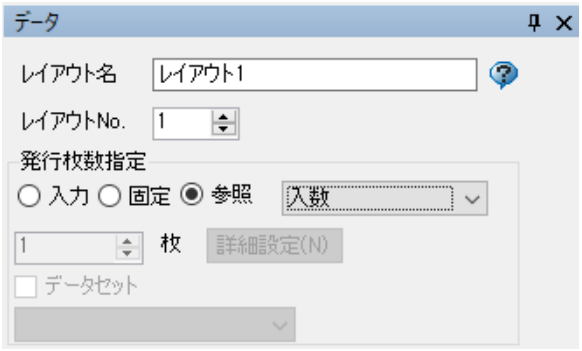


■文字列の値を参照し、発行枚数にセットする手順

1. レイアウトのデータウィンドウを表示します。



2. 発行枚数指定で「参照」を選択し、リストから参照する文字列を選択します。



注意

・参照先の文字列が発行枚数の値として不正な場合、レイアウトエラー（デザイン画面が赤線で囲われる）となります。レイアウト上にカーソルを置くとエラーの詳細が表示されます。

【エラーとなる例】

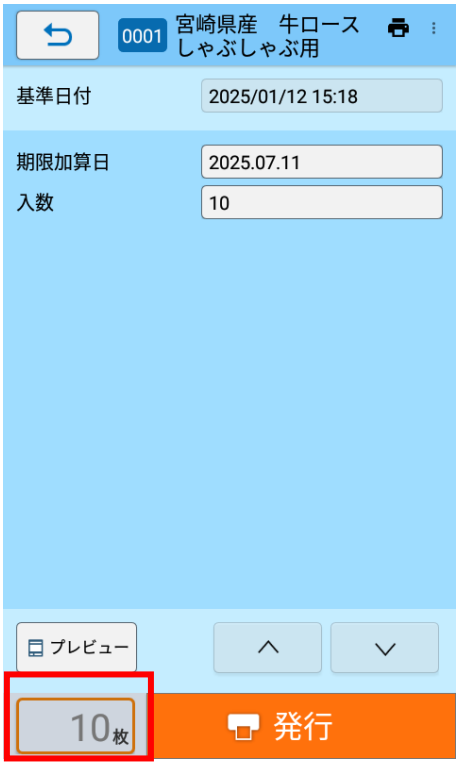
・全角文字がセットされている

・発行時（データ）の文字列の文字種設定が「数字のみ」になっていない



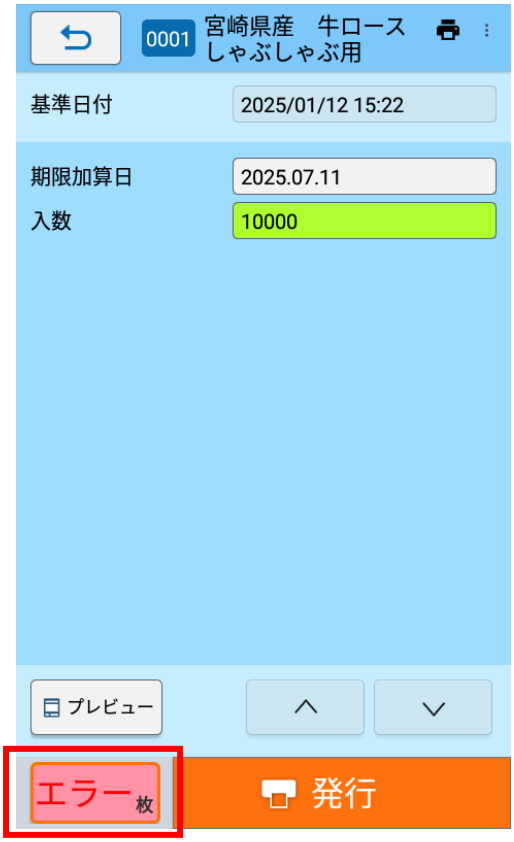
3. 参照先の文字列に発行枚数の値をセットし、e-Labe Print で発行枚数が文字列の値になっていることを確認します。

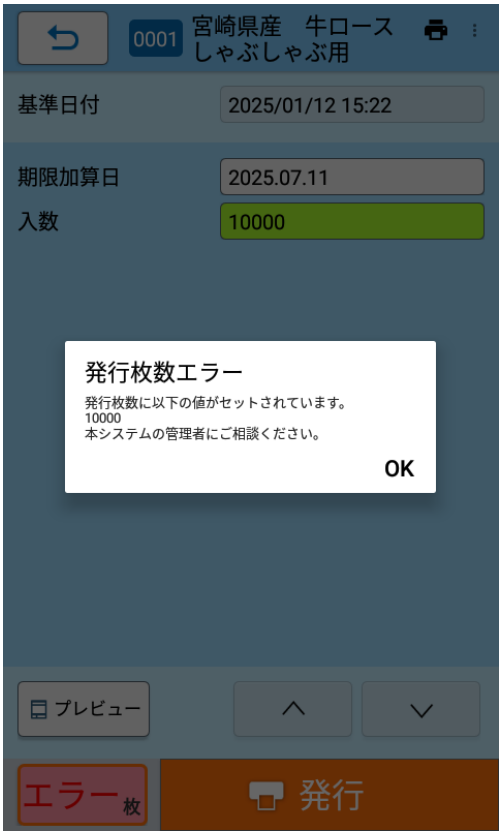




注意

・参照先の文字列の値が 1～4 桁の数値以外だった場合、発行枚数項目が「エラー」表示となります。「エラー」表示部をタップすると、エラー詳細が表示されます。



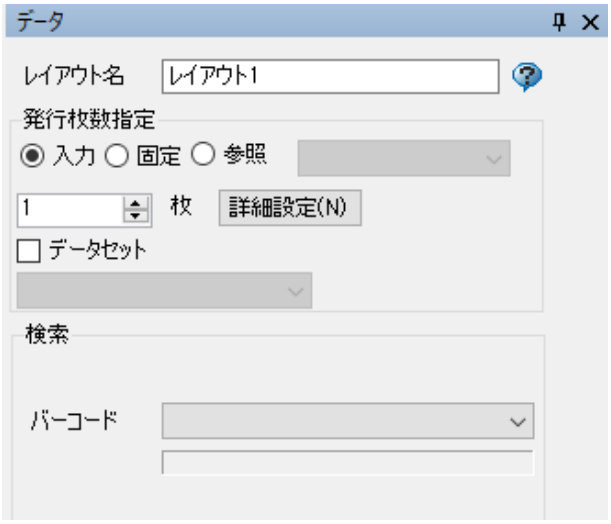


34.発行枚数の上限／下限チェック機能の設定方法

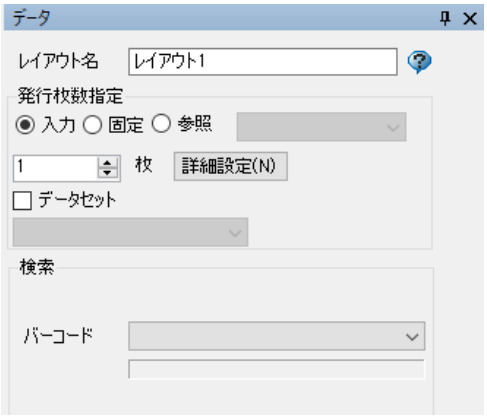
上限値／下限値をセットすることで発行枚数入力時に入力チェックをおこない、発行枚数の入力ミスを防止します。

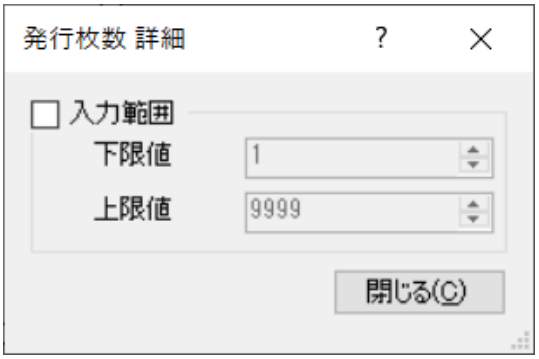
■上限値／下限値を設定する手順

1. レイアウトのデータウィンドウを表示します。

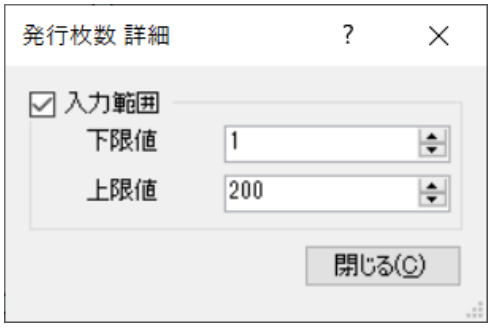


2. 「詳細設定」ボタンをクリックし「発行枚数詳細」画面を表示します。

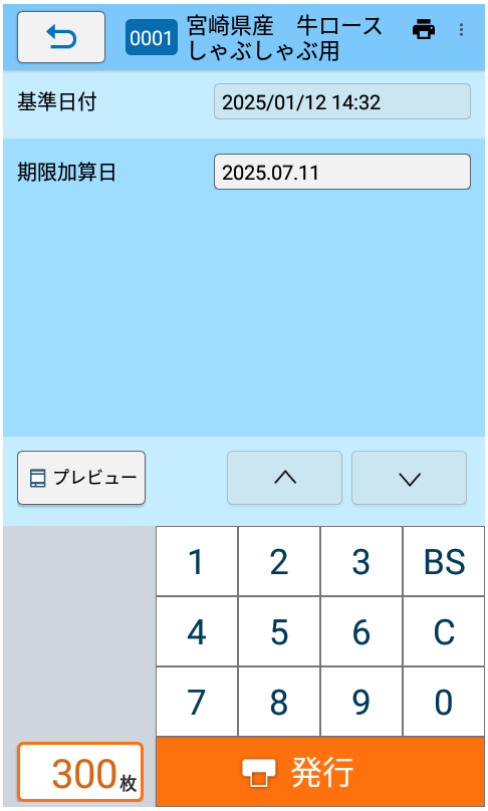


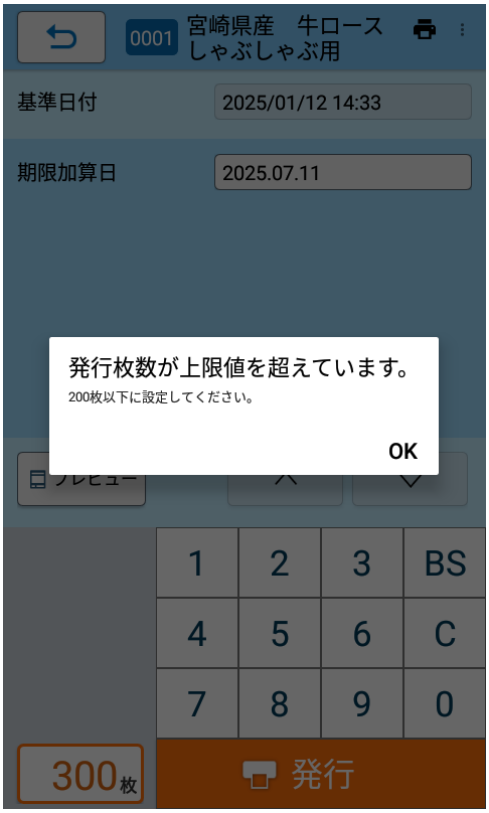


3. 「入力範囲」を ON にし、「下限値」「上限値」に値を入力し「閉じる」をクリックします。



4. e-Labe Print で設定した範囲外の発行枚数を入力し、入力チェックが掛かることを確認します。


0001
宮崎県産　牛ロース
しゃぶしゃぶ用
基準日付
2025/01/12 14:32
期限加算日
2025.07.11
プレビュー
1
2
3
BS
4
5
6
C
7
8
9
0
300枚
発行


0001
宮崎県産　牛ロース
しゃぶしゃぶ用
基準日付
2025/01/12 14:33
期限加算日
2025.07.11
発行枚数が上限値を超えています。
200枚以下に設定してください。
OK
1
2
3
BS
4
5
6
C
7
8
9
0
300枚
発行

7.付録

1.練習マニュアル

1.基本的なレイアウトの作成

e-Labe Designer の一般的な機能を利用して、下図の様なレイアウトを作成する手順を説明します。



レイアウトは、下記の項目で構成されています。

印字内容

No.	データ	入力方法	備考
①	商品名	e-Labe Print で入力	
②	バーコード	e-Labe Print で入力	JAN13 チェックデジット自動付加
③	保存方法	テーブル	
④	価格	e-Labe Print で入力	価格編集
⑤	税込価格	固定データ	

用紙情報

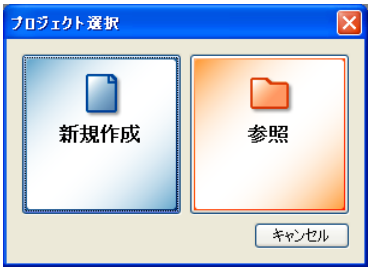
縦 50mm×横 50mm、バーラベフリーラベル

1. e-Labe Designer を起動します。

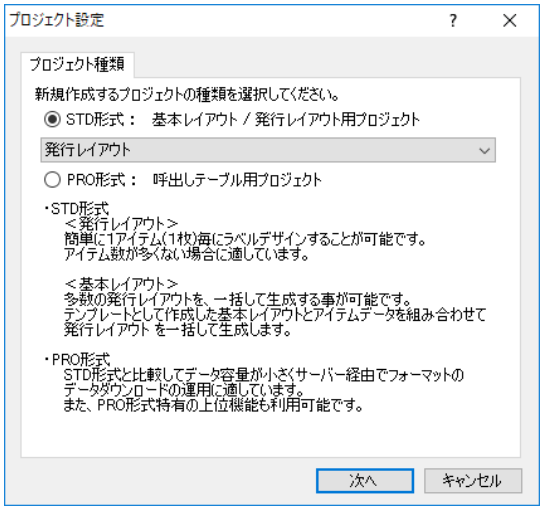
デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします。



2. プロジェクト選択画面で新規作成を選択します。



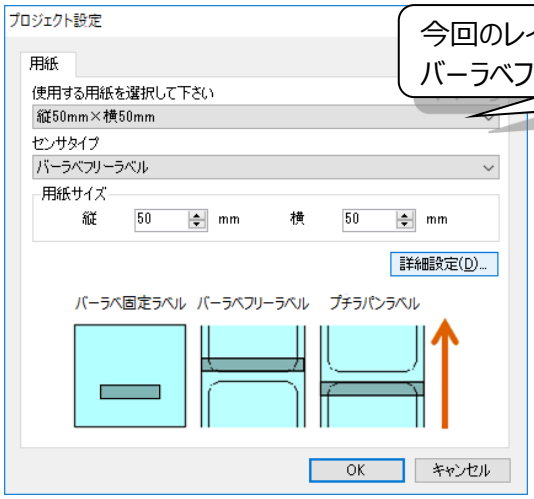
3. 作成するプロジェクトの種類、レイアウト種を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



今回は以下を指定

・プロジェクト種：STD 形式
・レイアウト種：発行レイアウト

4. 用紙設定（用紙定義、センサタイプ、サイズ）を行い、「次へ」ボタンをクリックします。

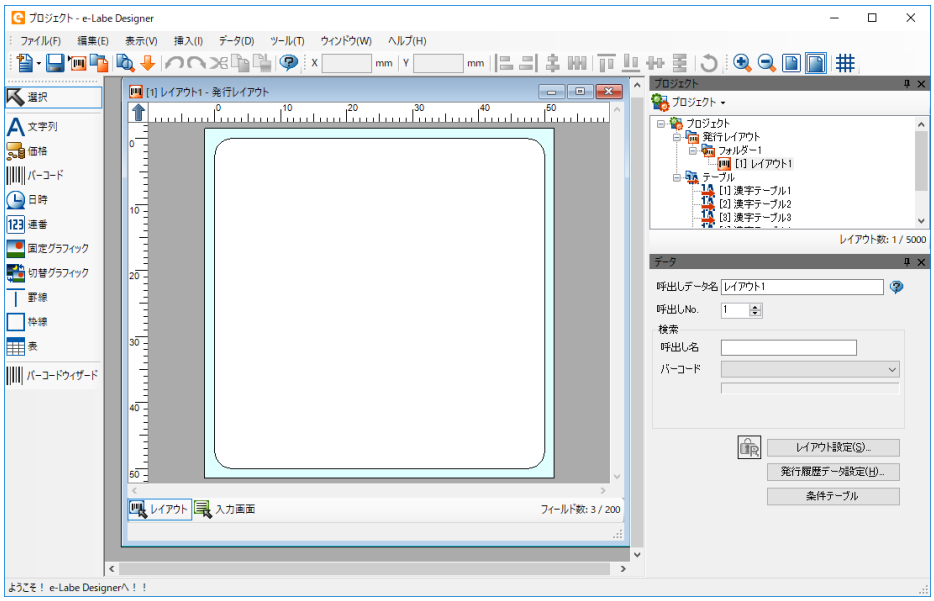


今回のレイアウト作成は
バーラベフリーラベル（縦 50mm×横 50mm）を使用します。

用紙サイズは、1mm 単位での指定が可能です。

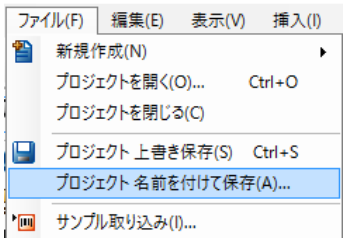
用紙やプリンタの動作に関して、より詳細な設定を行う場合は、「詳細設定」ボタンを押し、詳細設定画面で設定を行います。

5.　3～4 で設定した情報が反映された、用紙のレイアウトデザイン画面が開きます。



6.　新規作成した情報を保存します。

メニューバーの「ファイル」＞「プロジェクト　名前を付けて保存」でファイルを保存します。



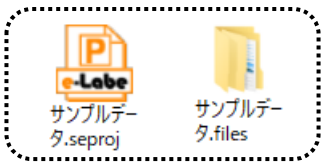
作成したプロジェクトは、.seproz の拡張子で保存されます。



注意：

ツール設定のオプションで「プロジェクトをアーカイブせずに保存を許可する」オプションを選択時に、ファイルの種類　プロジェクトファイル（*.seproj）を選択すると、保存したプロジェクトは seproj ファイルと、.files フォルダで構成されます。

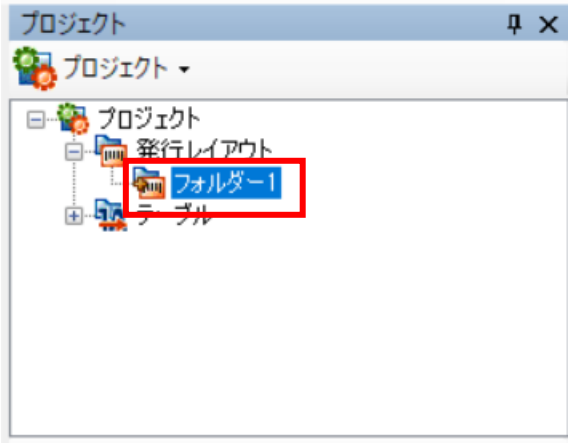
ファイルを移動したり、バックアップとしてコピーしたりする場合は、必ずセットで操作してください。



また、プロジェクトをアーカイブせずに保存した場合は、プロジェクトファイル及び、フォルダの名称は変更しないでください。作成したデータが参照できなくなります。

7.　フォルダーの名称を付けます。

① プロジェクトウィンドウのフォルダーを選択します。
新規作成時は初期名称“フォルダー1”等が設定されています。

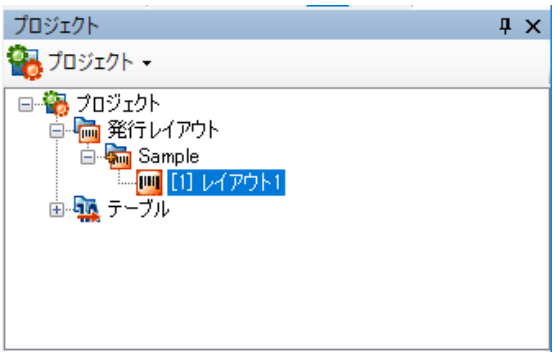


② データウィンドウの情報がフォルダー情報に変更されますので、フォルダー名称を入力します。

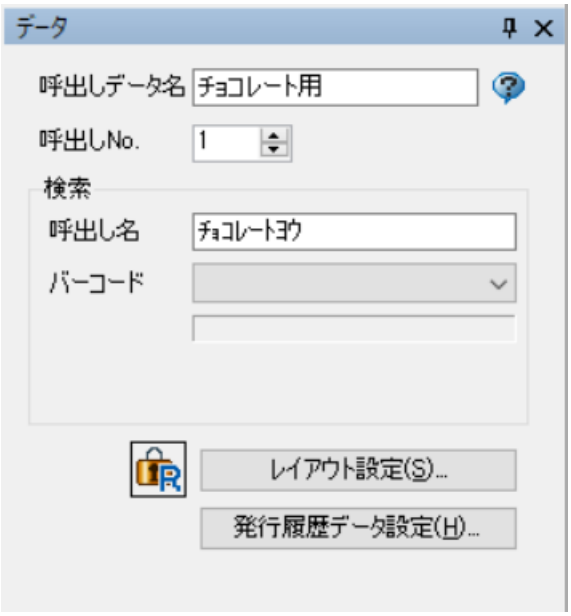


8. 呼出しデータ（レイアウト）の名称を付けます。

① プロジェクトウィンドウのレイアウトを選択します。
新規作成時は初期名称“レイアウト 1”等が設定されています。

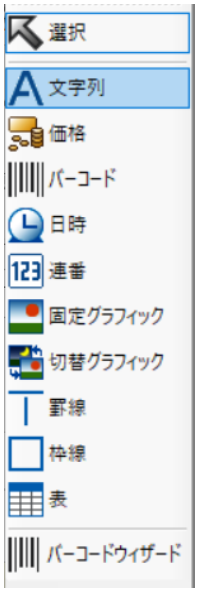


② データウィンドウの情報がレイアウト情報に変更されますので、呼出しデータ名（レイアウト名）と呼出し No.（レイアウト No.）を入力します。
呼び出し No.は、e-Labe Print の「ナンバー発行画面」で入力する番号になります。
読み取り専用ボタン  を ON にすると、呼出しデータの上書きが禁止されます。

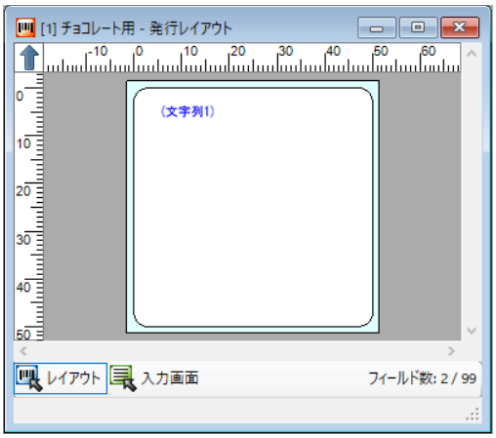


9. 文字を貼り付けます。

① オブジェクトバーの「文字列」をクリックして、「文字列」を選択状態にします。



② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



文字オブジェクトは、ドラッグで位置の移動が可能です

③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。

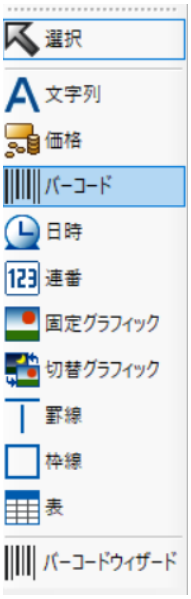


項目名：商品名
入力方法：発行時（データ）
データ桁数：20 桁
データ：
フォント名：プリンタ_漢字（32x32）”8pt 相当”
縦サイズ：2 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0.5pt

※それぞれの項目の設定内容はボタンをクリックして、ヘルプをご覧ください。

10. バーコードを貼り付けます。

① オブジェクトバーの「バーコード」をクリックして、「バーコード」を選択状態にします。

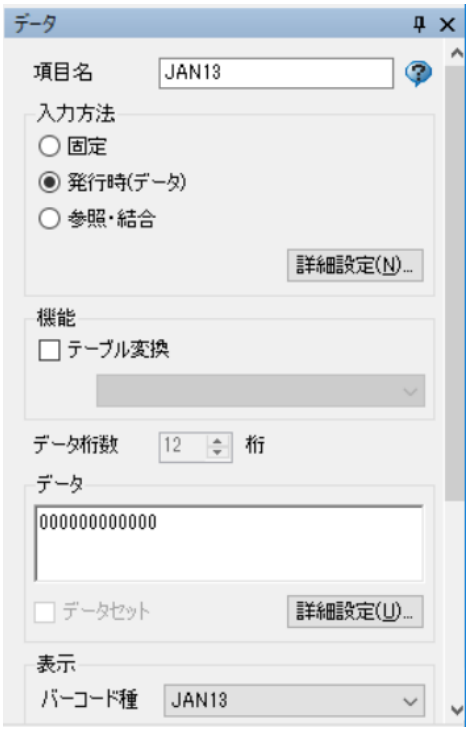


② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



バーコードオブジェクトは、マウスドラッグで位置の移動、サイズ（倍率）変更が可能です。

③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



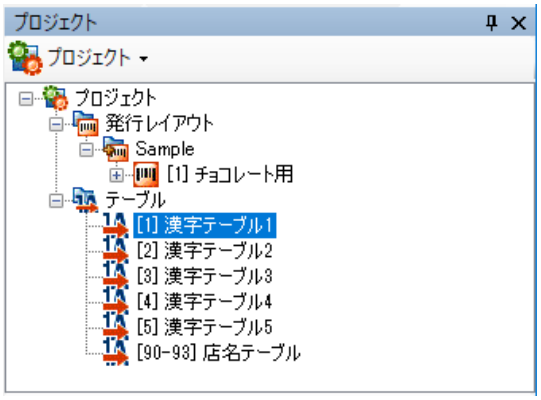
項目名：JAN13
入力方法：発行時（データ）
データ：0000000000000
バーコード種：JAN13
高さ：10mm
細バー幅：4 倍
解説文字付加：✓
C/D 自動付加：✓

※「C/D 自動付加」にチェックを入れることにより、e-Labe Print でデータ入力時、最終桁にチェックデジットが自動的に計算されて付加されます。

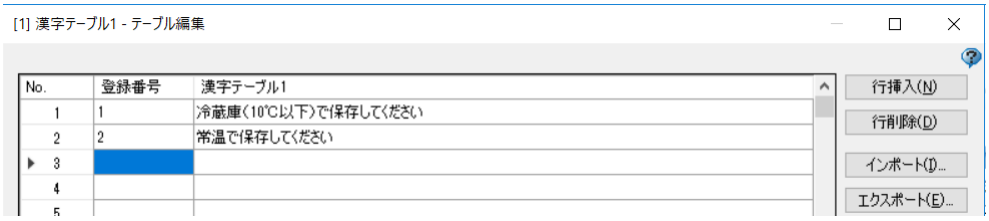
11.　保存方法用のテーブルを作成します。

保存方法メッセージ項目は、テーブル機能を使用しています。まずは、参照するためのテーブルを作成します。

①　「プロジェクトウィンドウ」＞「漢字テーブル」の順で、テーブル登録画面を開きます。

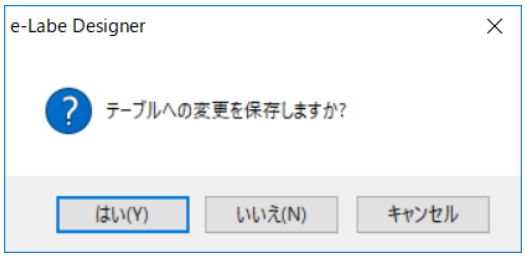


②　テーブルデータを登録します。

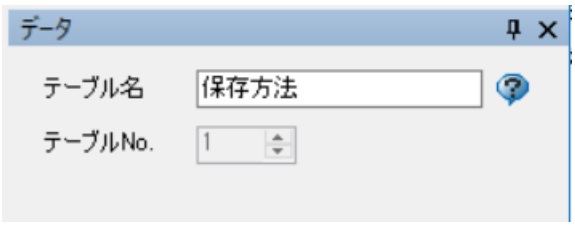


登録番号は e-Labe Print で入力する番号、値はその番号に対して変換され印字されるデータです。
例）e-Labe Print で“2”と入力　→“常温で保存”と印字

③　登録が完了したら画面右下の「閉じる」ボタンをクリックし、テーブルを保存して画面を閉じます。

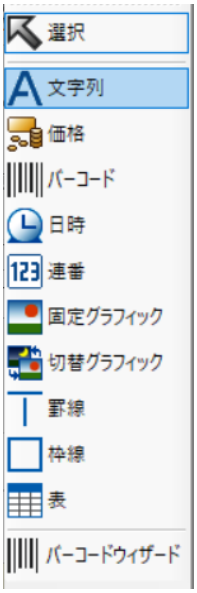


④　データウィンドウでテーブル名を設定します。テーブル No.は変更できません。

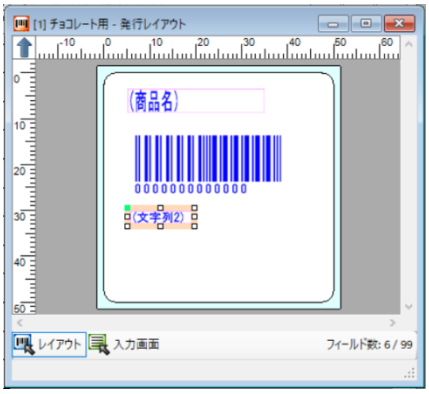


12.　保存方法項目を貼り付けます。

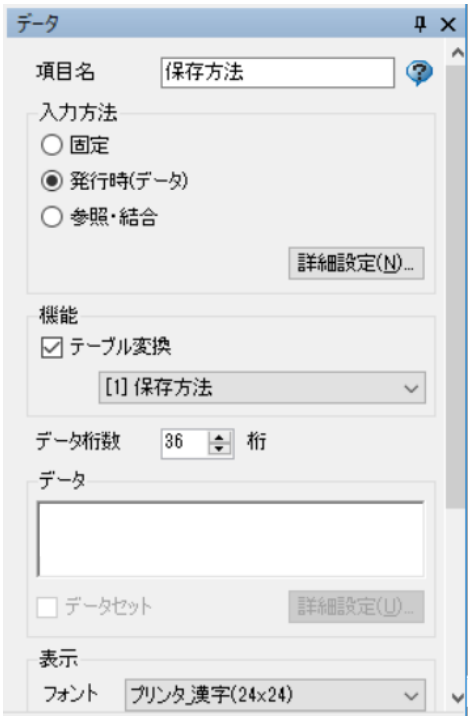
① オブジェクトバーの「文字列」をクリックして、「文字列」を選択状態にします。



② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。

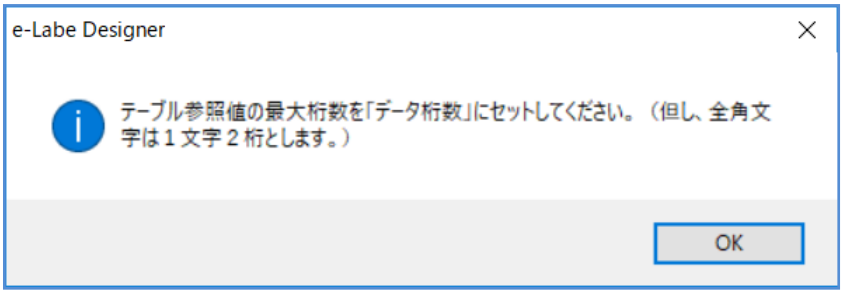


③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



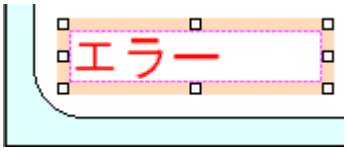
項目名：保存方法
入力方法：発行時（データ）
機能：テーブル変換 ✓
テーブル：「1」保存方法
データ桁数：36 桁
データ：
フォント名：プリンタ_漢字（24×24）
縦サイズ：2 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0.0pt

「テーブル変換」選択時に、以下のメッセージが表示されます。



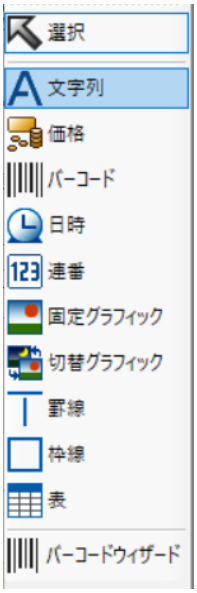
「テーブル参照値の最大桁数を「データ桁数」にセットしてください。（ただし、全角文字は１文字２桁とします。）」

データ桁数にセットする値は、参照中のテーブルの“値”の最大桁数をセットする必要があります。
テーブルの登録を更新した際などに、セットした最大桁数を超えてしまうと、
右図の様に“エラー”として表示されます。
エラーになった場合は、テーブルの“値”の最大桁数にデータ桁数を変更してください。

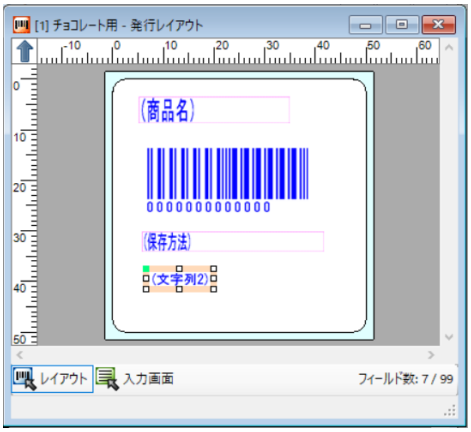


13. “税込価格”文字を貼り付けます。

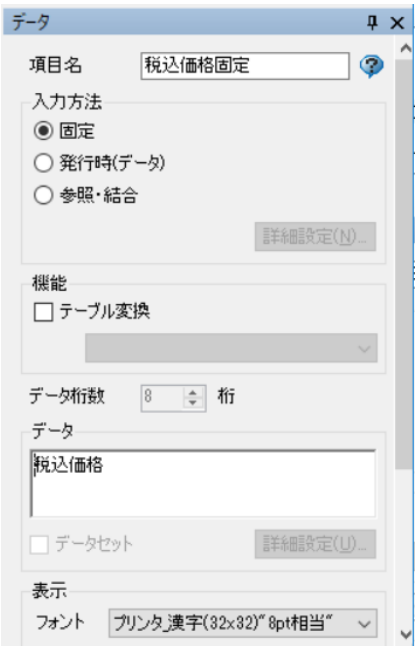
① オブジェクトバーの「文字列」をクリックして、「文字列」を選択状態にします。



② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



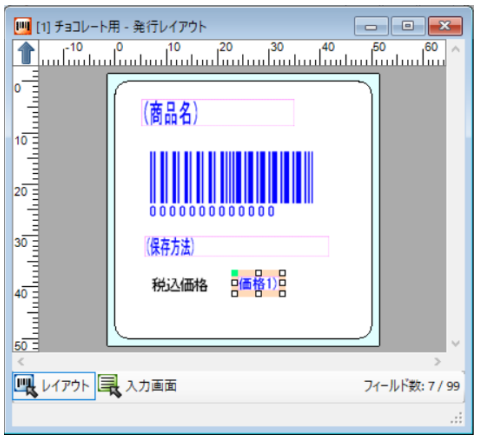
項目名：税込価格固定
入力方法：固定
データ：税込価格
フォント名：プリンタ_漢字（32x32）”8pt 相当”
縦サイズ：1 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0pt

14.　税込価格を貼り付けます。

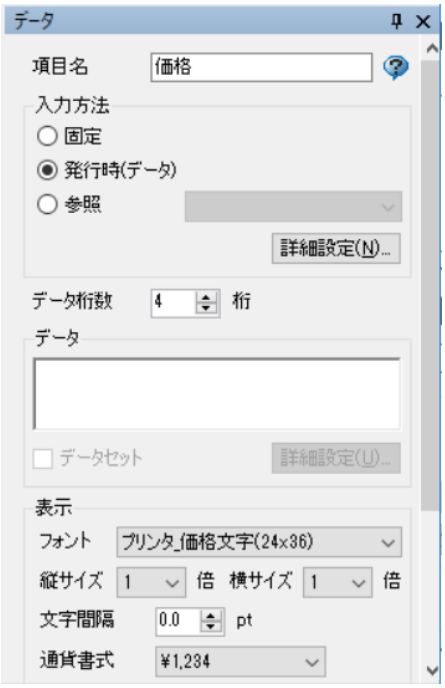
① オブジェクトバーの「価格」をクリックして、「価格」を選択状態にします。



② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



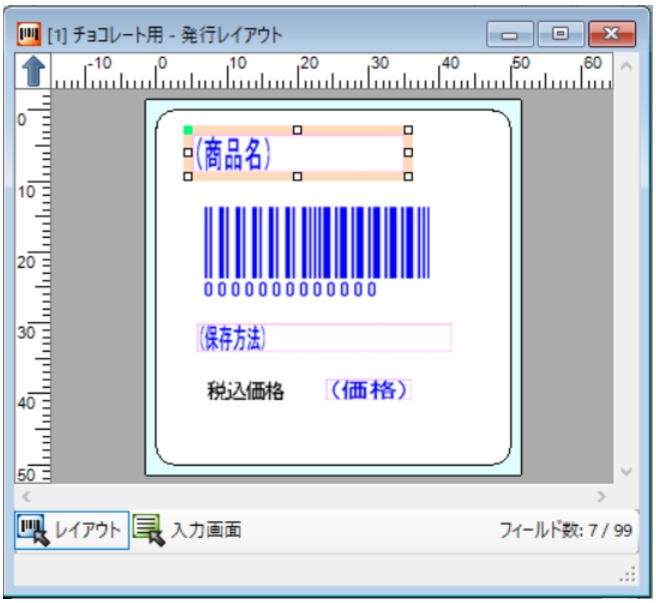
③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



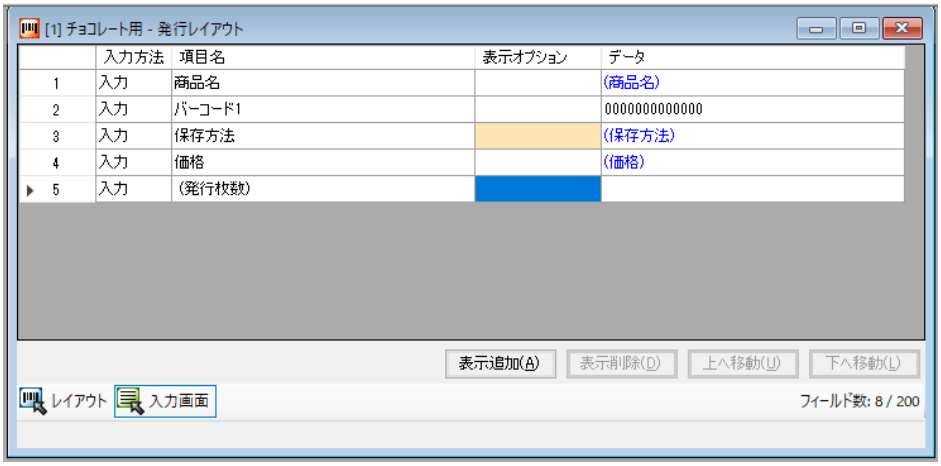
項目名：価格
入力方法：発行時（データ）
データ桁数：4 桁
データ：
フォント名：プリンタ_価格文字 24×36
縦サイズ：1 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0pt
通貨書式：¥1,234

15.　e-Labe Print の入力画面を設計します。

①　「入力画面」タブをクリックして、e-Labe Print の入力画面設定を開きます。

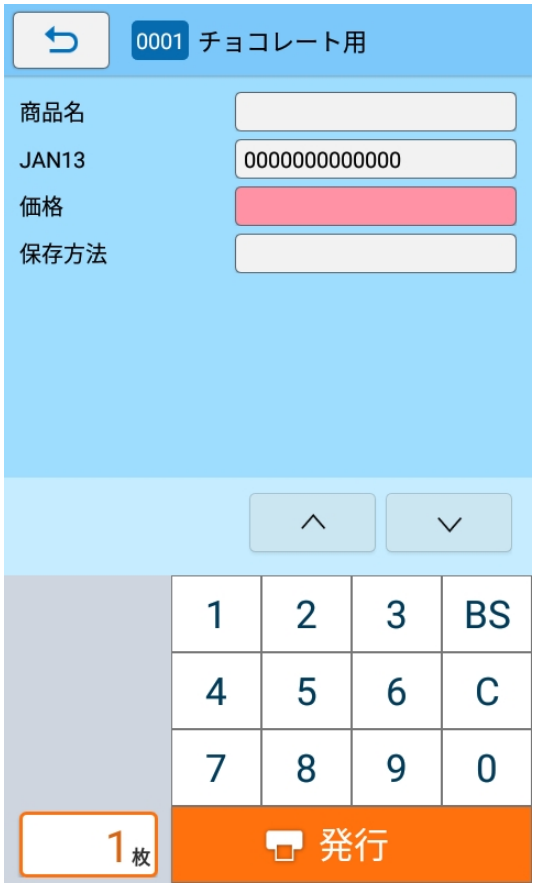


②　クリックで「保存方法」行を選択し、「下へ移動」ボタンで「価格」との入力順番を入れ替えます。



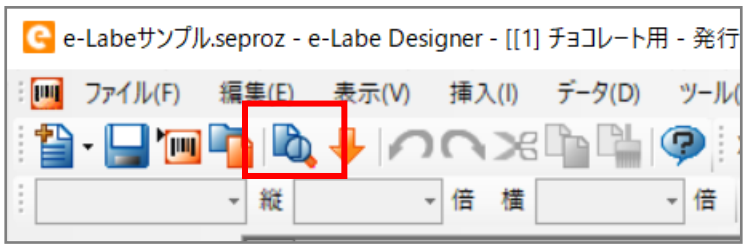
	入力方法	項目名	表示オプション	データ
1	入力	商品名		(商品名)
2	入力	バーコード1		0000000000000
3	入力	価格		(価格)
4	入力	保存方法		(保存方法)
5	入力	(発行枚数)		

e-Labe Print 画面



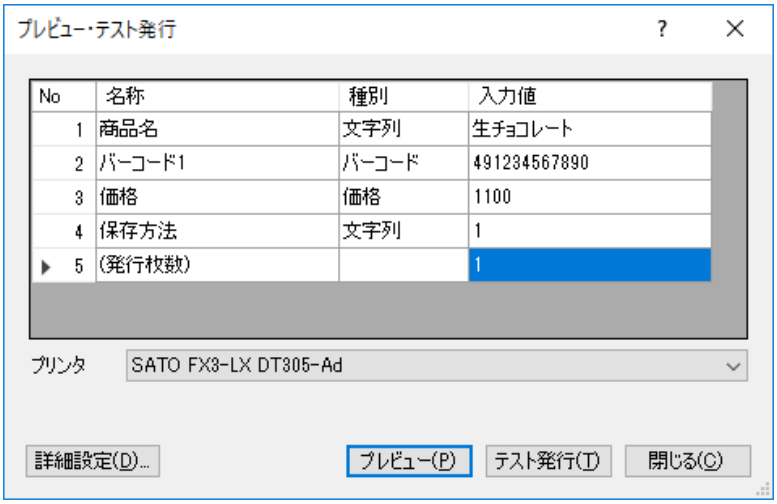
16. プレビューでレイアウトを確認します。

① ツールバーの「プレビュー・テスト発行」ボタンをクリックし、プレビュー・テスト発行画面を表示します。



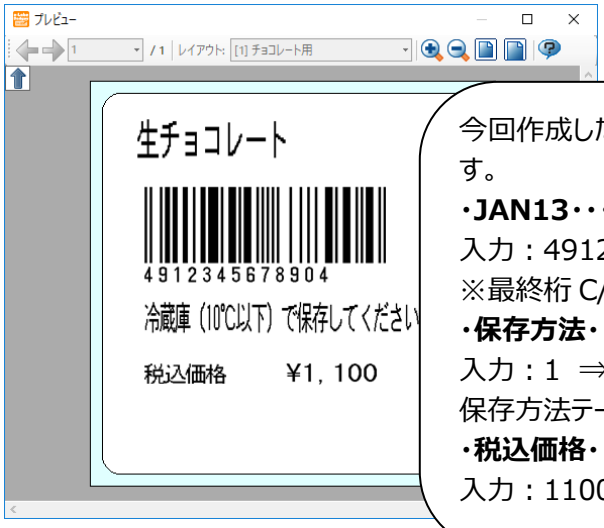
メニューバーの「ファイル」＞「プレビュー・テスト発行」からでも同様の画面が開けます。

② 各項目の入力値に印字データを入力します。



商品名：生チョコレート
JAN13：491234567890
価格：1100
保存方法：1
発行枚数：1

③ 「プレビュー」ボタンを押して、印字プレビューを表示します。



今回作成したレイアウトのプレビュー結果には、以下の内容が反映されています。

・JAN13・・・CD 計算
入力：491234567890 ⇒ プレビュー：4912345678904
※最終桁 C/D（チェックデジット）付加

・保存方法・・・テーブル
入力：1 ⇒ 冷蔵庫（10℃以下）で保存してください
保存方法テーブル（漢字テーブル）の登録番号“1”の“変換値”をセット

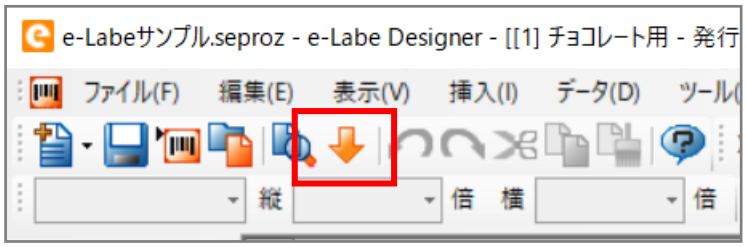
・税込価格・・・¥，補填
入力：1100 ⇒ 印字：¥1,100

プリンタがオンラインで接続されている環境であれば、「プリンタ」で設定したプリンタドライバを経由してプリンタからラベルを発行することが可能です。
プリンタドライバは株式会社サトーのホームページ（http://www.sato.co.jp）からダウンロードできます。

17. データを出力します。

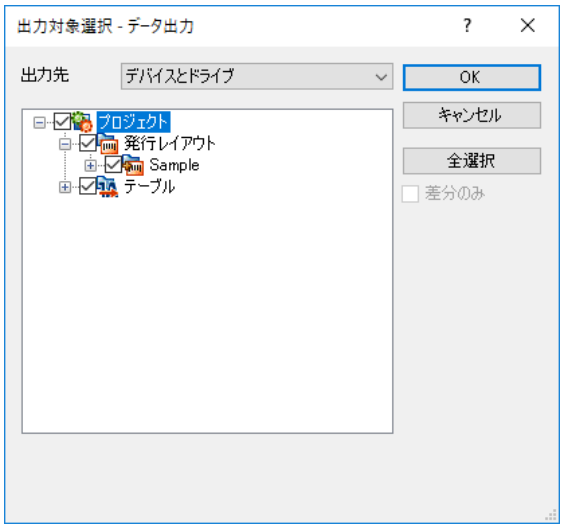
e-Labe Desingerで作成したデータをe-Labe Printで呼出すためには､データ出力をする必要があります。この作業で、Designerで作成したレイアウト、テーブル、その他の情報をPrintで呼出せるフォーマット形式（*.sefmtzファイル）に変換します。

① ツールバーの「データ出力」ボタンをクリックし、データ出力画面を表示します。



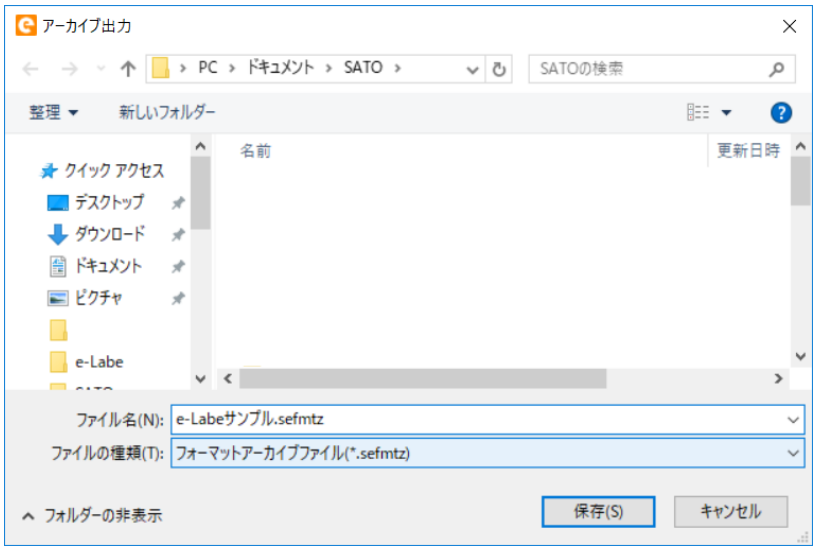
メニューバーの「ファイル」＞「データ出力」からでも同様の画面が開けます。

② 出力先「デバイスとドライブ」を選択し、データ出力内容を確認し、OKボタンをクリックします。
初期状態では、全てのファイルが出力対象となります。

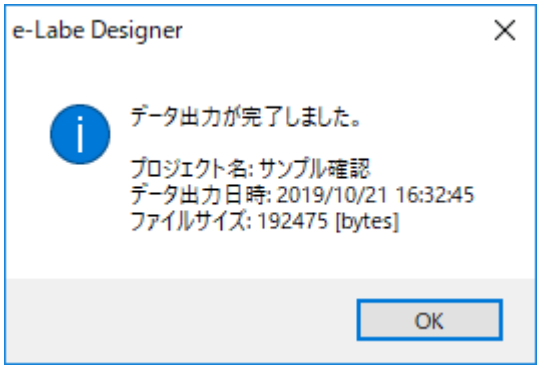


差分のみにチェックを入れた状態でOKボタンを押すと、
前回の出力から変更があったデータのみを出力します。
データが大量にある場合に、出力時間の短縮が図れます。

③ アーカイブ出力画面で、保存先、ファイル名を指定して「保存」ボタンをクリックします。



④　出力が完了すると、データ出力完了のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックして、作業を終了します。

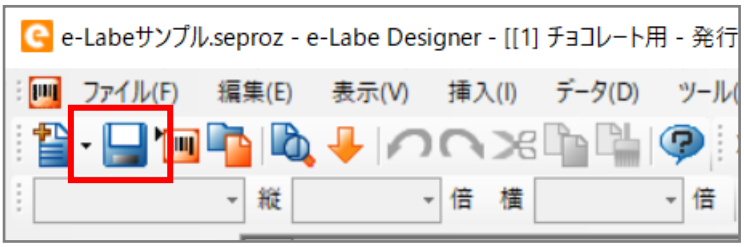


[出力したフォーマットファイル]



18.　プロジェクトを上書き保存します。

ツールバーの「プロジェクト上書き保存」ボタンをクリックし、プロジェクトを保存します。



メニューバーの「ファイル」＞「プロジェクト上書き保存」でも同様の操作が行えます。

19.　e-Labe Designer を終了します。

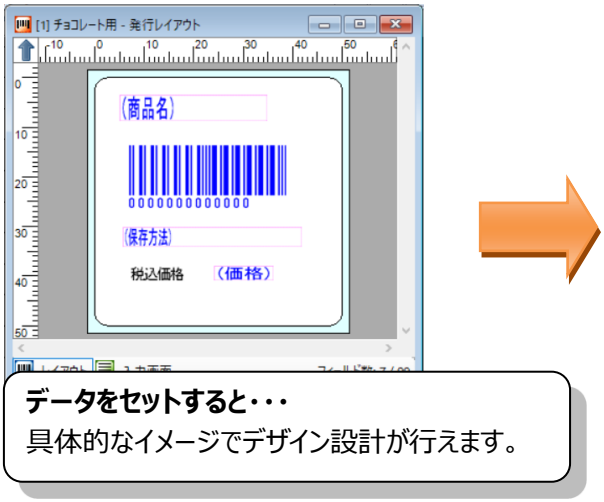
画面右上の「×」ボタンをクリックし、e-Labe Designer を終了します。



メニューバーの「ファイル」＞「終了」でも同様の操作が行えます。

より分かりやすいイメージでデザインするには？

印刷する値をレイアウト上でセットすることで、実際の印字に近いイメージでのデザインが可能です。
入力が発行時（データ）の項目については、データ部分に値を入力するとそのまま画面に反映されます。



データをセットすると・・・
具体的なイメージでデザイン設計が行えます。



また、データにセットされた値は、e-Labe Print で入力画面での初期値として表示することが可能です。
よく入力するデータを予めセットしておけば、e-Labe Print での入力操作を省くことができます。

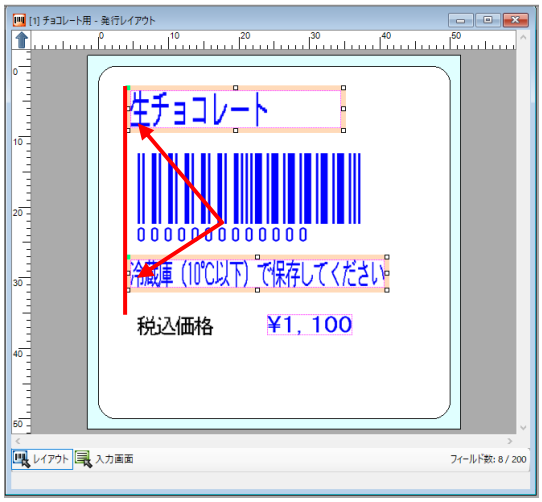
印字位置を揃えるには？

複数のオブジェクトの位置を揃えたり、等間隔に配置したりすることが可能です。
複数のオブジェクトを選択し、ツールバーの位置合わせボタンをクリックすると、簡単に位置合わせが行えます。

キーボードの Shift（シフト）キーを押しながら、オブジェクトをクリックすると、複数のオブジェクト選択が可能です。





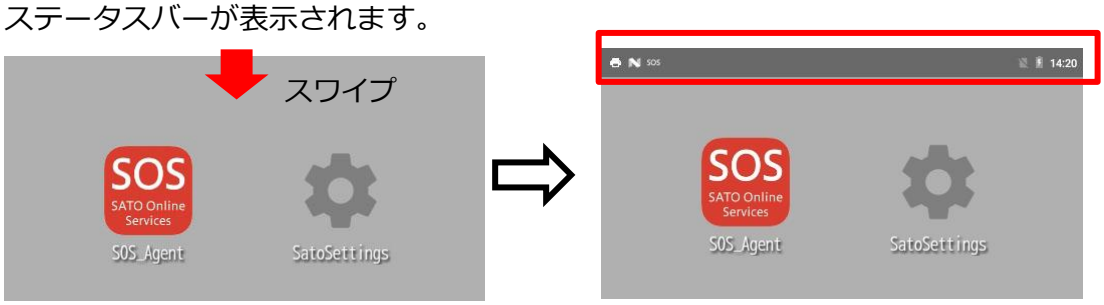


2.フォーマットファイルを USB ケーブル経由で FX3-LX にコピー

先に作成してデータ出力したフォーマットファイルを、USB ケーブル経由で FX3-LX にコピーする手順を説明します。

1. コンピュータと FX3-LX を USB インタフェースで接続します。
2. FX3-LX のホーム画面上部を下にスワイプします。

   ステータスバーが表示されます。



3. ホーム画面上部をもう一度下にスワイプします。

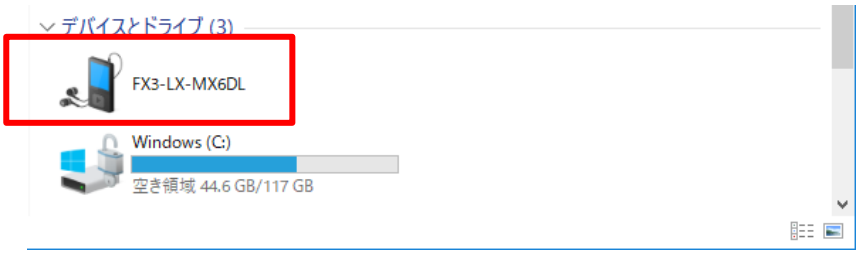
   クイック設定パネルが表示されます。



4. 「USB をファイル転送に使用」が表示されていることを確認します。

5. コンピュータのエクスプローラから「PC」を開き、「デバイスとドライブ」>「FX3-LX-MX6DL」をダブルクリックします。

   Windows 10 を例にしています。OS によってはメニュー名が異なる場合があります。



注意

- 初めて FX3-LX をコンピュータと接続すると、自動的にドライバのインストールがおこなわれます。このため、アイコンが表示されるまで時間がかかる場合があります。

・ 「FX3-LX-MX6DL」をダブルクリックしても中身が表示されない場合は、手順 2 からやり直してください。

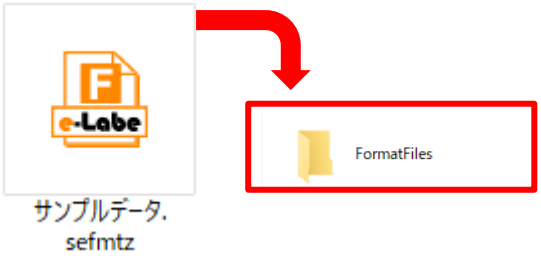
6. 「内部共有ストレージ」＞「SATO」＞「FormatFiles」フォルダを選びます。



注意

「SATO」＞「FormatFiles」フォルダがない場合は、手動で作成してください。

7. フォーマットファイルを「FormatFiles」フォルダにコピーします。



以上で、FX3-LX への登録（プリセット）は完了です。

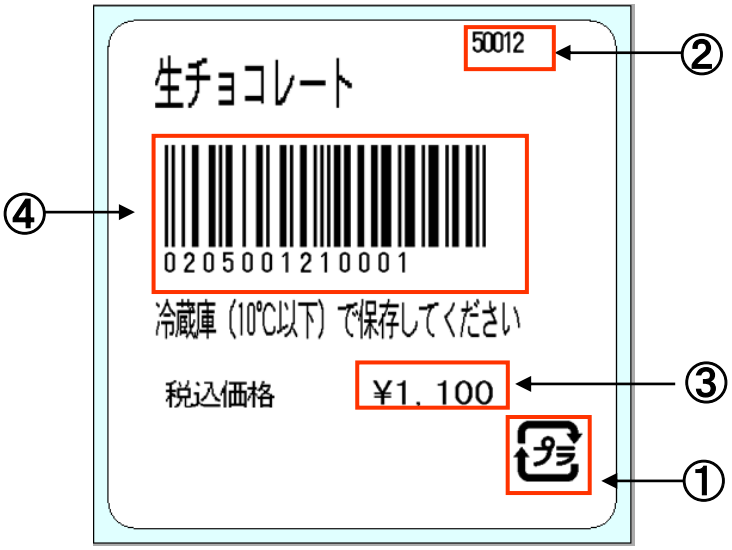
注意

必ずフォーマットファイルをコピーしてください。プロジェクトファイルは e-Labe Print で読み込むことができません。

フォーマットファイルは「F」マークのアイコンで拡張子「.sefmtz」のファイルです。

3.複雑なレイアウトの作成

先に作成したレイアウトを利用して、下図の項目を追加・変更する手順を説明します。



印字内容

No.	データ	入力方法	備考
①	固定グラフィック	グラフィック	
②	商品コード	e-Labe Print で入力	
③	価格（税込価格）	本体価格からの自動計算	未印字で本体価格項目作成
④	バーコード	固定＋参照	JAN13、チェックデジット自動付加、複数項目結合
バーコード構成　“02”（固定）＋商品コード 6 桁（入力）＋価格 4 桁 C/D			

1.　前回作成したファイルを開きます。

e-Labe Designer のファイルは、ファイルのダブルクリックで開くことができます。
作成されたファイルの拡張子は、seproz※になります。
エクスプローラ用のアイコンは、右になります。

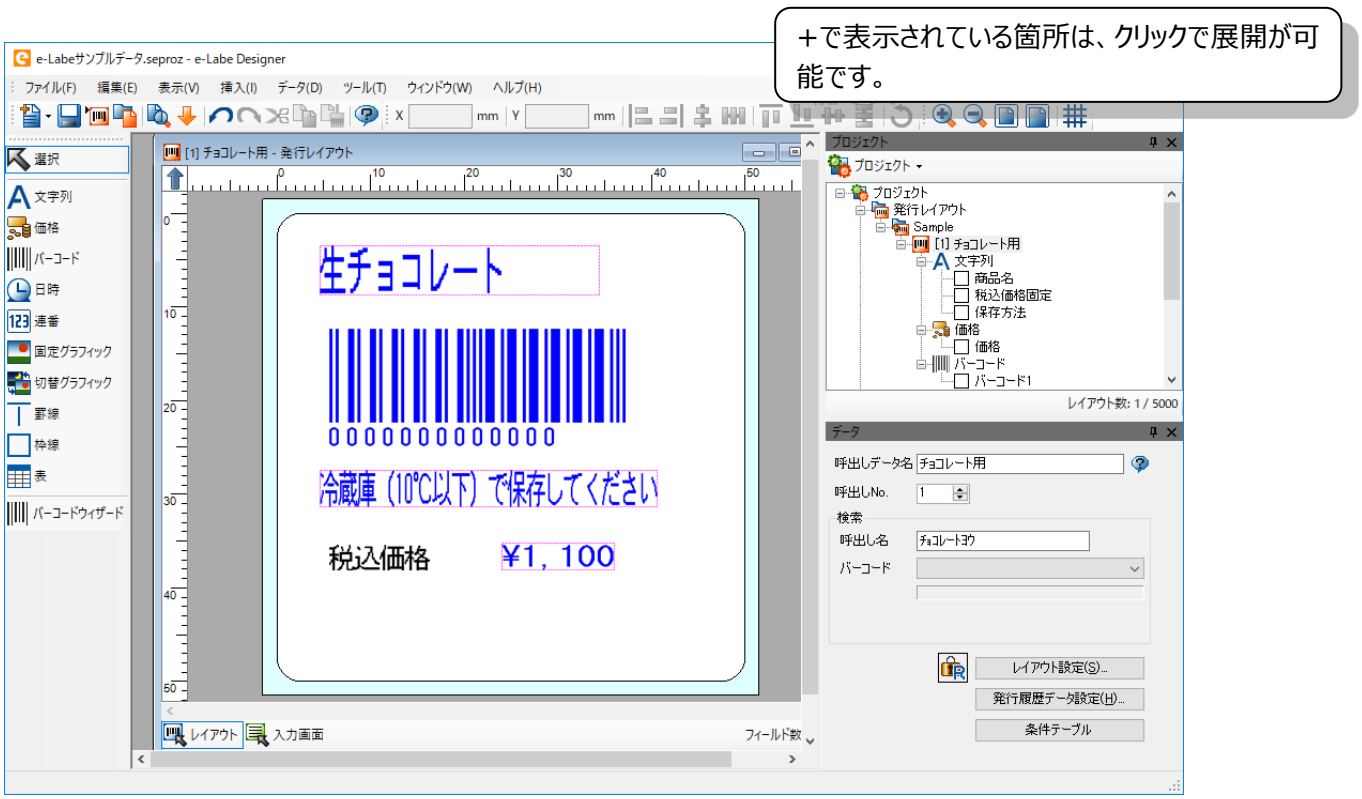


※プロジェクトをアーカイブせずに保存した場合の拡張子は、
seproj になります。

e-Labe Designer 起動>「参照」>ファイル選択でも同様の操作が行えます。

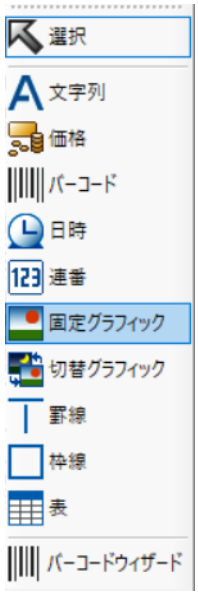
2.　前回作成した呼出しデータ（レイアウトファイル）を指定します。

プロジェクトウィンドウで、変更する呼出しデータ（レイアウトファイル）を指定します。



3. グラフィックデータを貼り付けます。

① オブジェクトバーの「固定グラフィック」をクリックして「固定グラフィック」を選択状態にします。

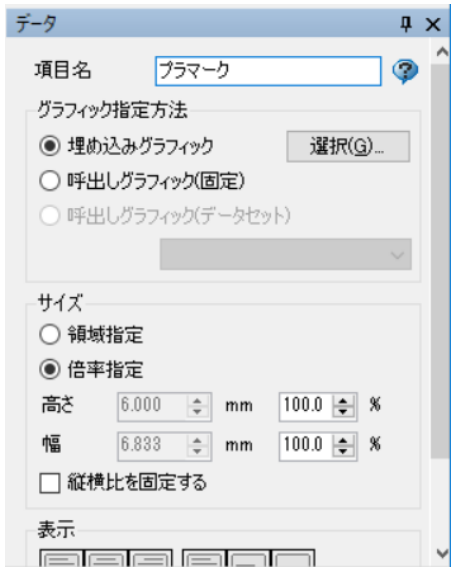


② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



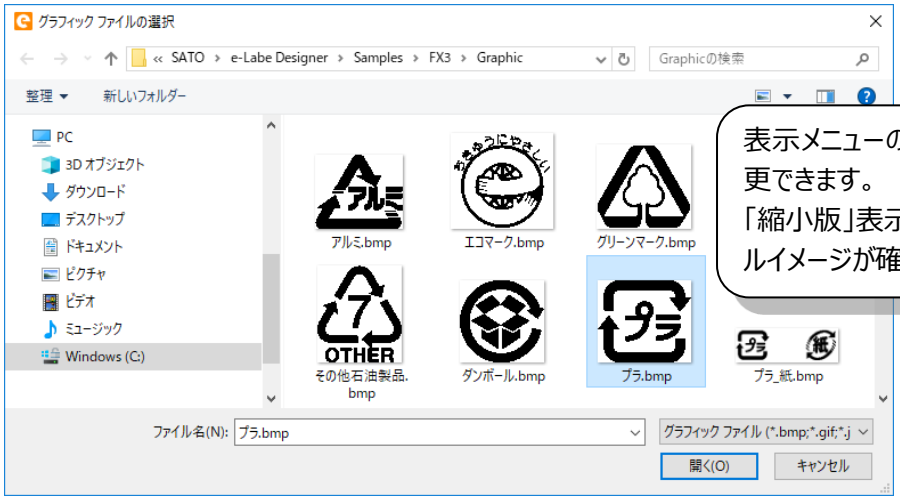
固定グラフィックオブジェクトは、マウスドラッグで位置の移動、サイズ（倍率）変更が可能です。
初期画像で 10mm×10mm の SATO マークが貼りつきます。

③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



項目名：プラマーク
入力方法：埋め込みグラフィック
サイズ：倍率指定　100%×100%

④　「選択」ボタンを押して埋め込みグラフィックを取込みます。



表示メニューの操作で、画面の表示方法が変更できます。
「縮小版」表示に切り替えることで、BMP ファイルイメージが確認できます。

初期状態で参照されるフォルダは、e-Labe Designer インストールパスの、各プリンタのサンプルグラフィックフォルダになります。

グラフィックデータを貼り付ける際の注意点・・・

グラフィックデータを 100%以外のサイズに設定すると、粗くなったり、つぶれたりしてしまうことがあります。

グラフィックをよりよい状態で印字するためには、実際の印字サイズ（mm）×プリンタのヘッド密度のピクセルデータを用意する必要があります。

4. JAN13 の構成を変更します。

まず、バーコードを構成する項目を新規に作成します。

1)本体価格項目の作成

① オブジェクトバーの「価格」をクリックして、「価格」を選択状態にします。



② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



今回は、印字位置情報等は影響しません。

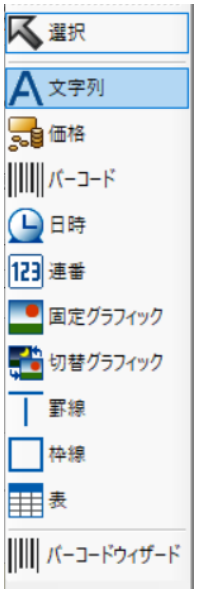
③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



項目名：本体価格
入力方法：発行時（データ）
データ桁数：4 桁
データ：
フォント情報は設定する必要ありません
印字しない：✓

2)商品コード項目の作成

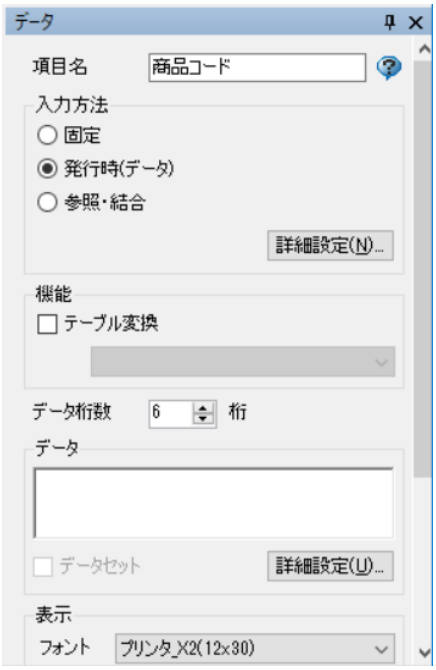
① オブジェクトバーの「文字列」をクリックして、「文字列」を選択状態にします。



② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



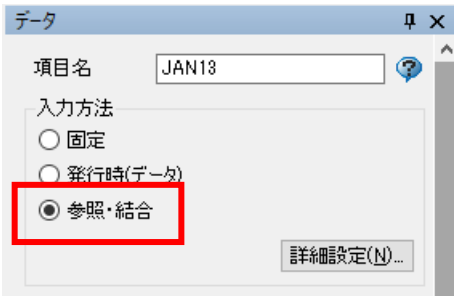
項目名：商品コード
入力方法：発行時（データ）
データ桁数：6 桁
データ：
フォント名：プリンタ_X2（12X30）
縦サイズ：1 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0pt

3）JAN13 の構成を変更します。

① デザイン画面上の JAN13 をクリックします。



② 入力方法を「参照・結合」に変更し、「詳細設定」ボタンをクリックします。



③ バーコードの構成を設定し、「OK」ボタンで画面を閉じます。

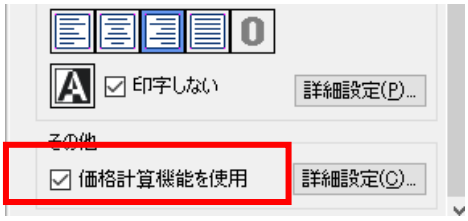


1.種類：固定
　データ：02
2.種類：参照
　データ：商品コード（リストから選択）
　開始桁：1、桁数：6
　右詰 0 補填
3.種類：参照
　データ：本体価格（リストから選択）
　開始桁：1、桁数：4
　右詰 0 補填

5.本体価格から税込み価格を計算させるように変更します。

① 4)-①で作成した本体価格項目の 「価格計算機能を使用」にチェックを入れます。





③ 「詳細設定」ボタンをクリックし、価格計算設定画面を開いて以下を設定します。



計算処理：税込み
端数処理：四捨五入
端数処理桁数：小数点以下 1 桁
税率：10%

※税率の変更は、レイアウト設定から行ってください

6.　税込み価格を本体価格から参照させるように変更します。

①　レイアウト上の「価格」項目をクリックして、「価格」を選択状態にします。

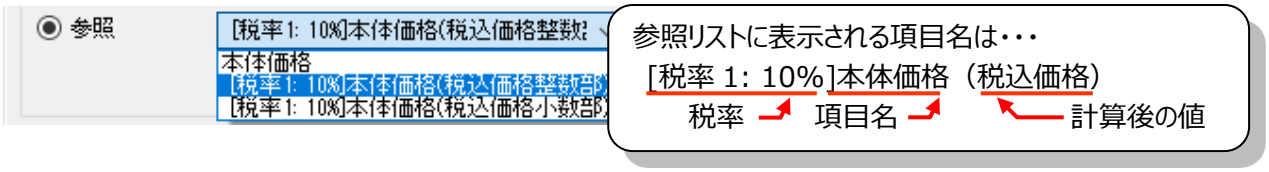


②　データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。

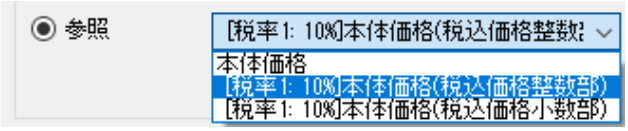


項目名：価格
入力方法：参照
　　本体価格（税込価格）
フォント名：プリンタ_価格文字（24×36）
縦サイズ：1 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0pt

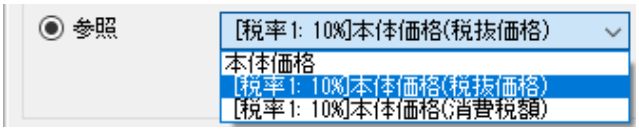
価格計算機能 ON 時の参照では、計算後の値が参照できます。
「税込み」を選択した場合は、「税込価格」、「消費税額」が選択できるようになります。



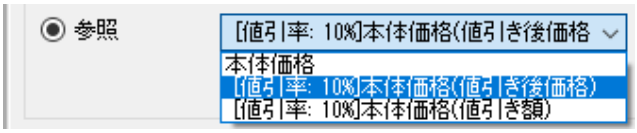
5－②で「税込み（小数）」を選択した場合は「税込価格整数部」、「税込価格小数部」が選択できるようになります。



「税抜き」を選択した場合は、「税抜価格」、「消費税額」が選択できるようになります。



また、レイアウト設定画面で「値引率」を選択した場合は、5－②で「パーセント引き」を選択でき、参照できる値は「値引き後価格」、「値引き額」になります。

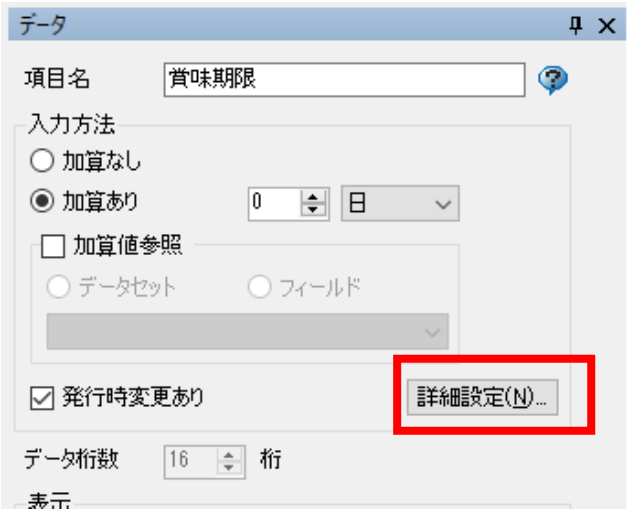


■プリセットデータで上限値／下限値を設定する手順

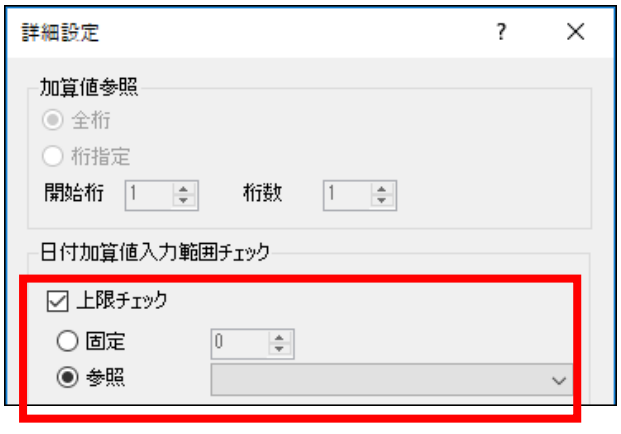
1. 基本レイアウトで上限値（下限値）を入力するための文字列を作成し、データセットをオンにします。



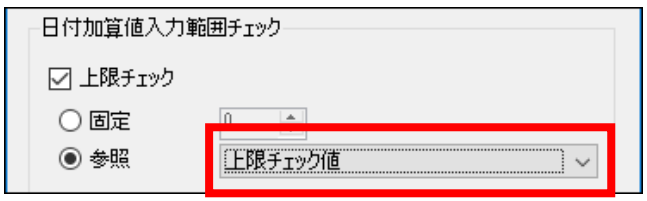
2. チェックをかけたい日時オブジェクトを選択し、入力方法の詳細設定を開きます。



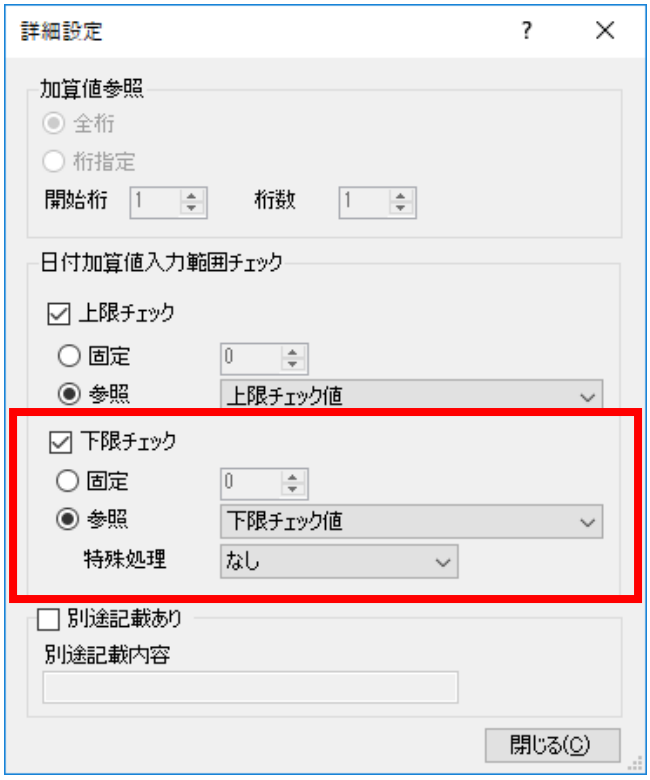
3. 上限チェックのチェックをオンにし、参照を選択します。



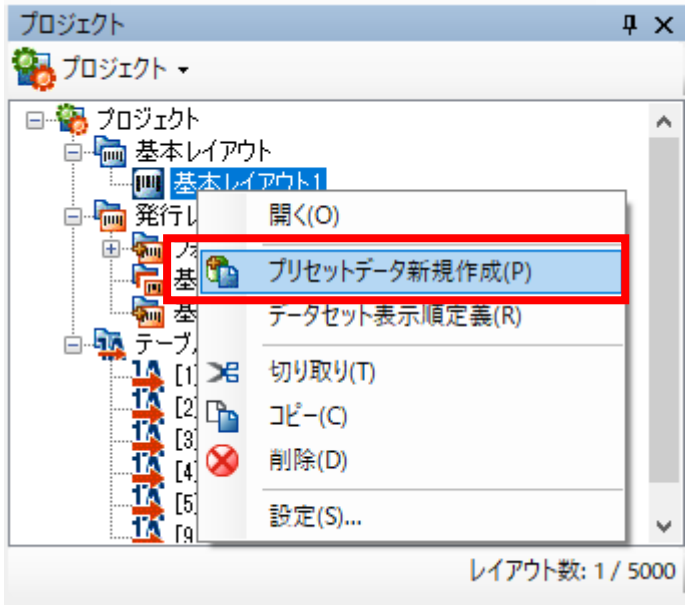
4. 「1」で作成しておいた「上限チェック値」オブジェクトを選択します。



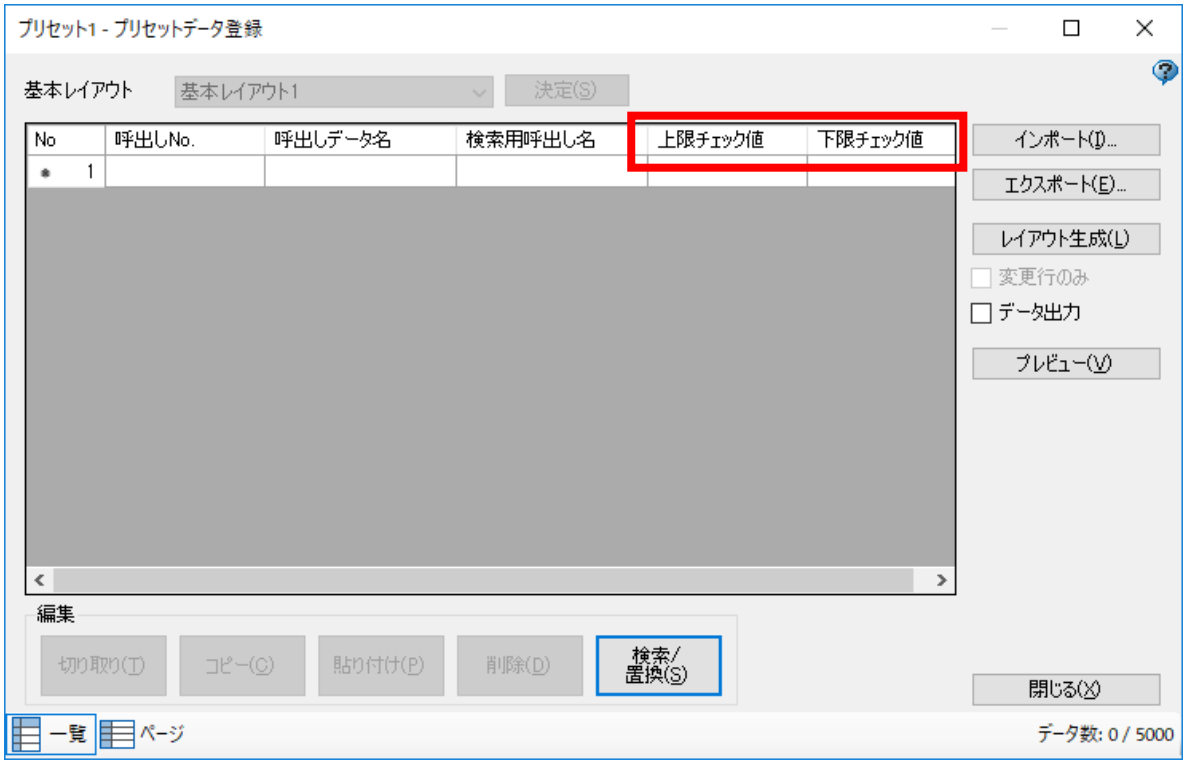
5. 下限チェックも同様にチェックをオンにし、参照を選択、「下限チェック値」を選択します。



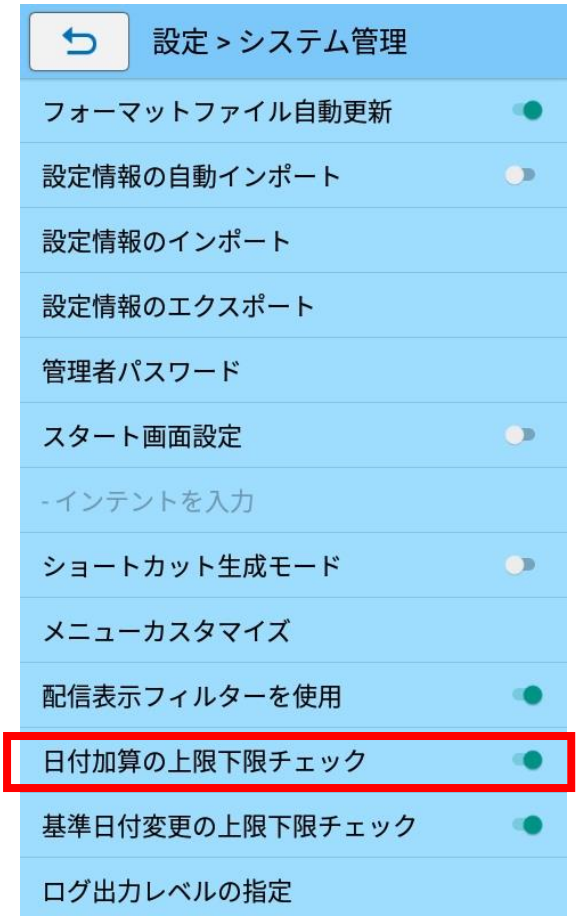
6. プロジェクトウィンドウの基本レイアウトの上で右クリックし、プリセットデータ新規作成をクリックします。



7. プリセット登録画面に「上限チェック値」「下限チェック値」が表示されるので、呼出し No.毎に任意の値をセットします。



8. e-Labe Print> 設定> システム管理> 「日付加算の上限下限チェック」をオンにします。



4.基本レイアウトとプリセットデータ

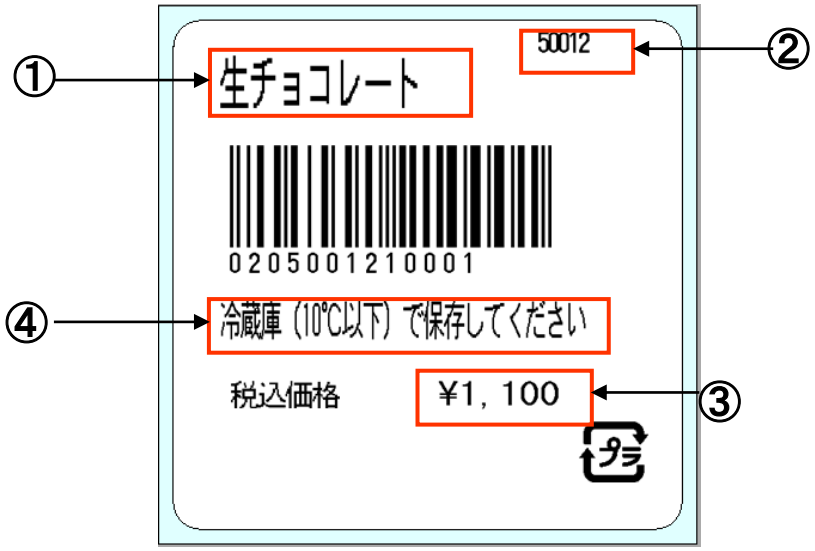
基本レイアウトはプリセットデータと組み合わせて発行レイアウト（呼出しデータ）を作成するための基となるレイアウトです。
この機能を利用すると、固定情報、印字位置、文字情報が同じ発行レイアウト（呼出しデータ）を簡単に複製することができます。
基本レイアウトを直接呼出しデータとして使用することはできません。

基本レイアウトは以下の 5 つの方法で作成できます。

1.新規プロジェクト作成時に、レイアウトの種類で基本レイアウトを選択する。
2.メニューバーの「ファイル」＞「新規作成」で基本レイアウトを選択する。
3.ツールバーの「新規作成」で基本レイアウトを選択する。
4.プロジェクトウィンドウのプロジェクト右クリックメニューの「新規作成」で基本レイアウトを作成する。
5.選択した発行レイアウトを、メニューバーの「ファイル」から「基本レイアウトに変換」で基本レイアウトに変換する。

基本的なレイアウト作成方法は、発行レイアウトと同じです。
基本レイアウト独自の機能として、参照以外の入力項目の「データセット」チェック、「呼出しグラフィックのデータセット」の指定が可能です。
データセットにチェックされたオブジェクトは、プリセットデータ登録が可能な項目になります。

先に作成した発行レイアウトを基本レイアウトに変換し、四つの項目をデータセット項目に変更します。



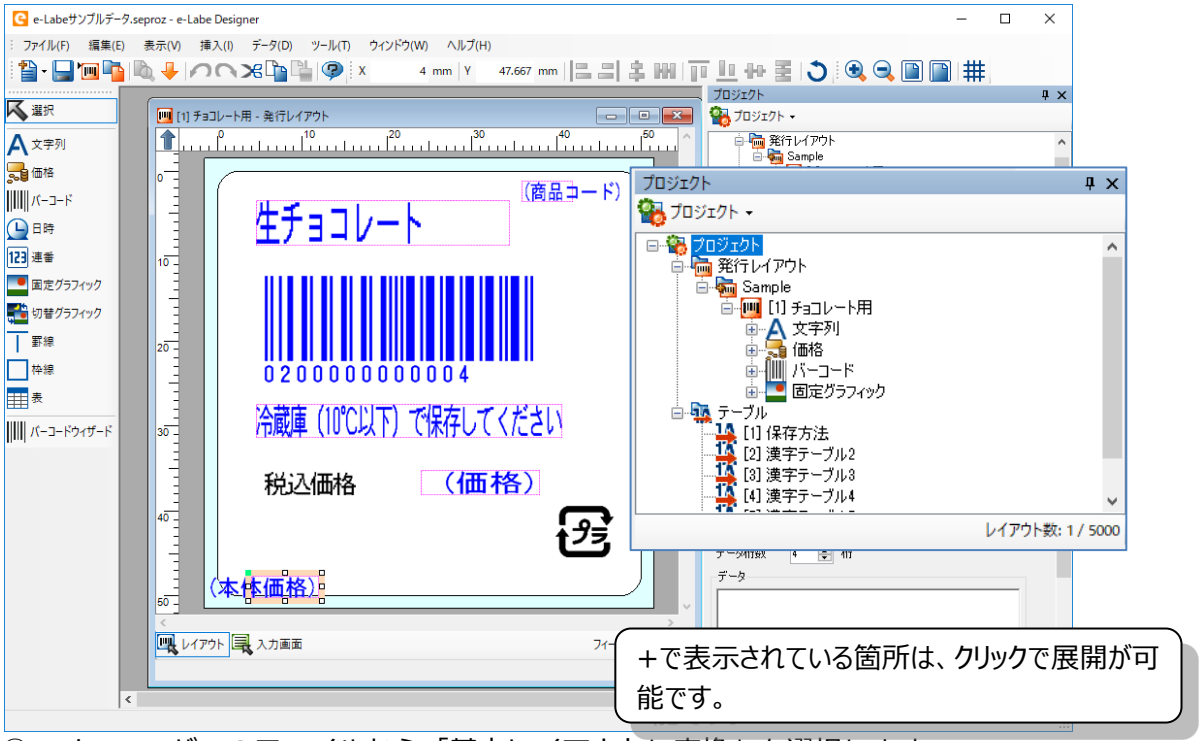
印字内容

No.	データ	入力方法	備考
①	商品名	データセット	
②	商品コード	データセット	
③	価格	データセット（本体価格から参照）	
④	保存方法	テーブル	

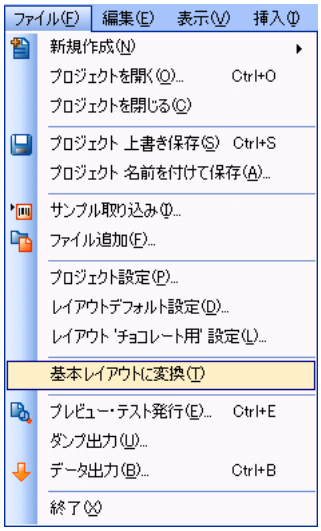
1.　発行レイアウトを基本レイアウトに変換し、基本レイアウトを作成します。

①　前回作成した呼出しデータ（レイアウトファイル）を指定します。

プロジェクトウィンドウで、変更する呼出しデータ（レイアウトファイル）を指定します。



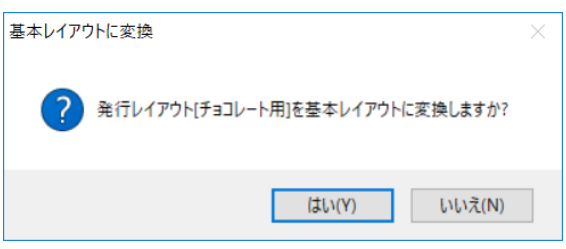
②　メニューバーのファイルから「基本レイアウトに変換」を選択します。

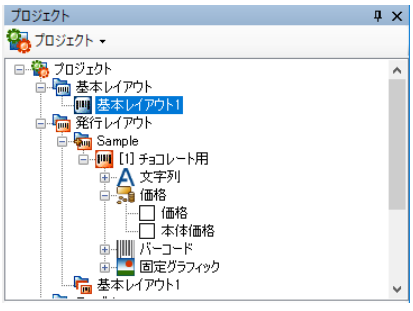


③　確認メッセージが表示されますので、「はい」ボタンをクリックして、変換を実行します。

変換した発行レイアウトは、コピーされて基本レイアウトに変換されますのでそのまま残ります。

変換が完了すると、プロジェクトウィンドウの基本レイアウトフォルダーに、基本レイアウトが作成されます。

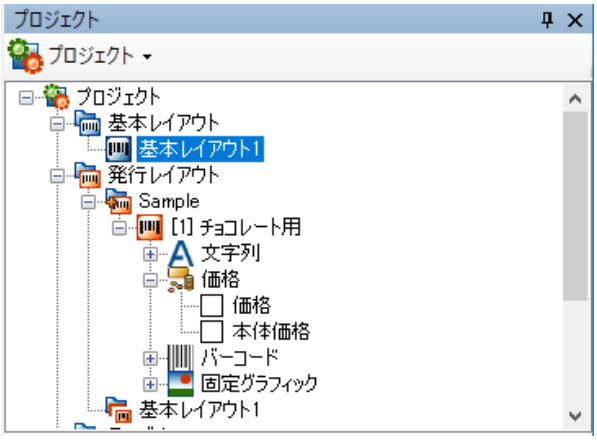




2.　基本レイアウトの名称を付けます。

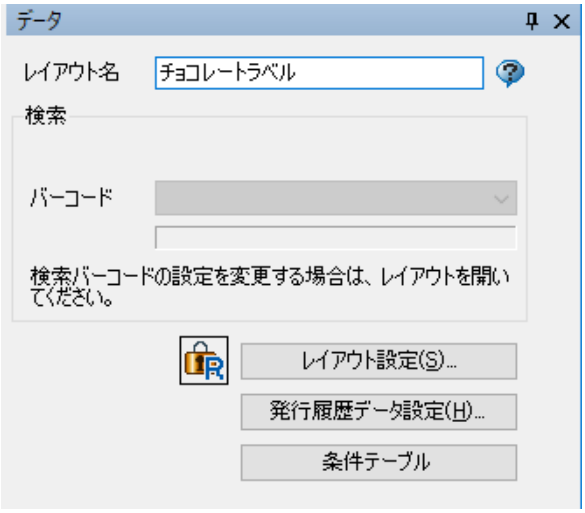
①　プロジェクトウィンドウの基本レイアウトを選択します。

新規作成時は初期名称“基本レイアウト 1”等が設定されています。



②　データウィンドウの情報がレイアウト情報に変更されますので、基本レイアウト名を入力します。

読み取り専用ボタン  を ON にすると、基本レイアウトの上書きが禁止されます。
レイアウト設定ボタンをクリックすると、レイアウトの詳細設定画面が表示されます。



3.　項目をデータセット項目に変更します。

① 品名項目を選択します。



② データウィンドウで「データセット」項目に✓をいれます。



追加設定
データセット：✓



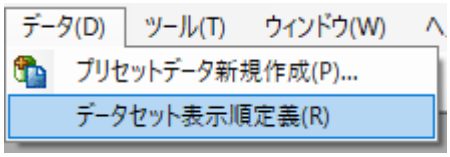
データセットに設定した項目の背景は、黄色になります。

③ “本体価格”、“商品コード”、“グラフィック”、“保存方法”の項目も同様の操作を行います。
“価格”項目は、“本体価格”を参照しているため、参照元である“本体価格”項目にチェックする必要があります。
“固定グラフィック”項目をデータセット項目に設定する場合は、あらかじめメニューバーの「ファイル」＞「新規作成」＞「グラフィック」で呼出しグラフィックをプロジェクトに登録した上で「呼出しグラフィック（データセット）」を選択し、グラフィックを選択してください。

4.　プリセットデータの登録順番を変更します。

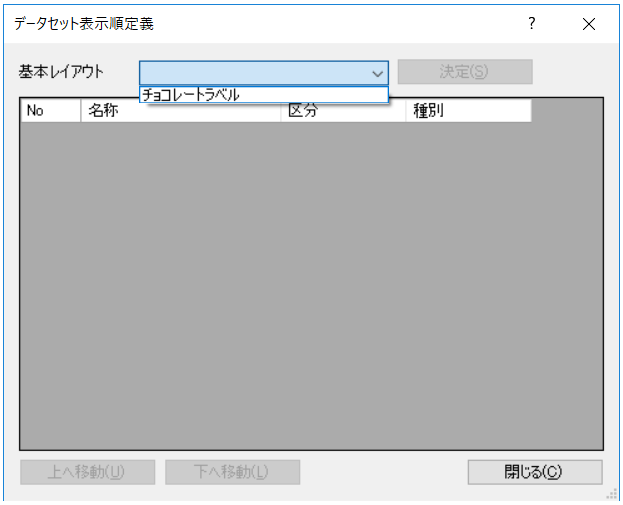
プリセットデータ登録画面の項目は、項目の貼り付け順に表示されます。
この機能を利用するとプリセット登録画面の登録順が任意に変更できます。

① メニューバーの「データ」＞「データ表示順定義」から順番の変更画面を開きます。



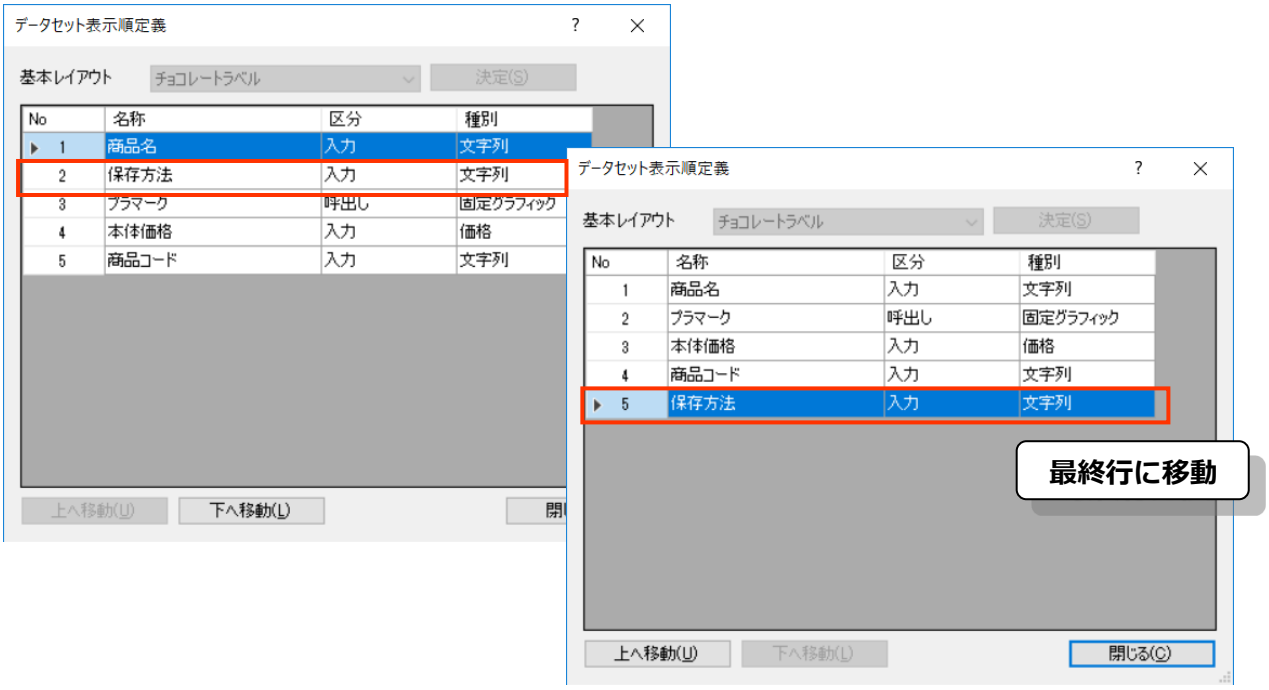
プロジェクトウィンドウで「基本レイアウト名」を右クリック「データセット表示順定義」からでも操作が可能です。

② 対象となる基本レイアウトを選択し、決定ボタンをクリックします。

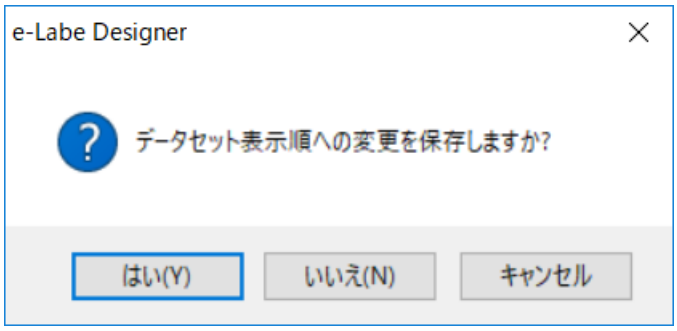


プロジェクトウィンドウから操作した場合は、この操作はありません。

③ “保存方法”項目を最終行に移動します。
“保存方法”項目を選択し、「下へ移動」のボタンをクリックし、表示順番を変更します。

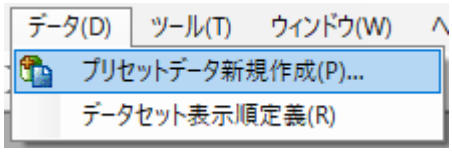


④　「閉じる」ボタンをクリックして変更を保存して画面を閉じます。



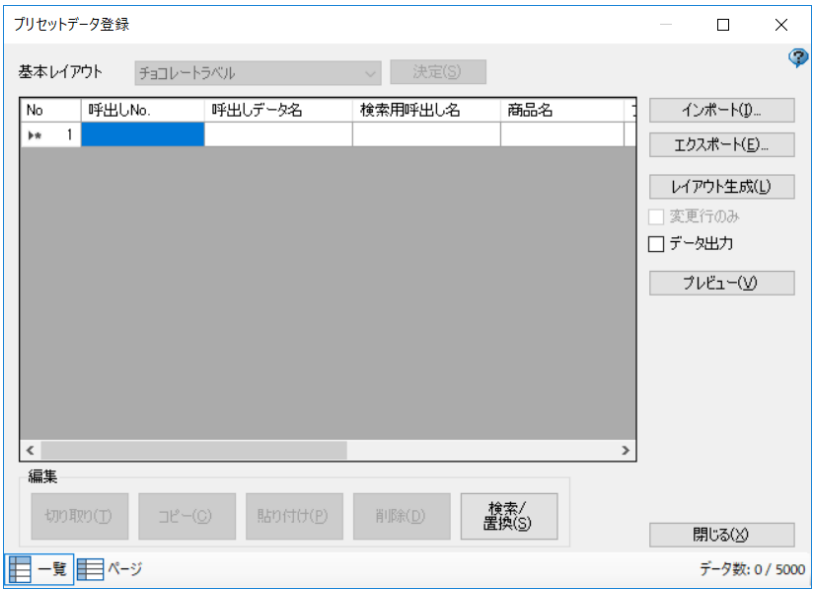
5.　プリセットデータを新規に登録します。

① メニューバーの「データ」>「プリセットデータ新規作成」からプリセットデータ登録画面を開きます。



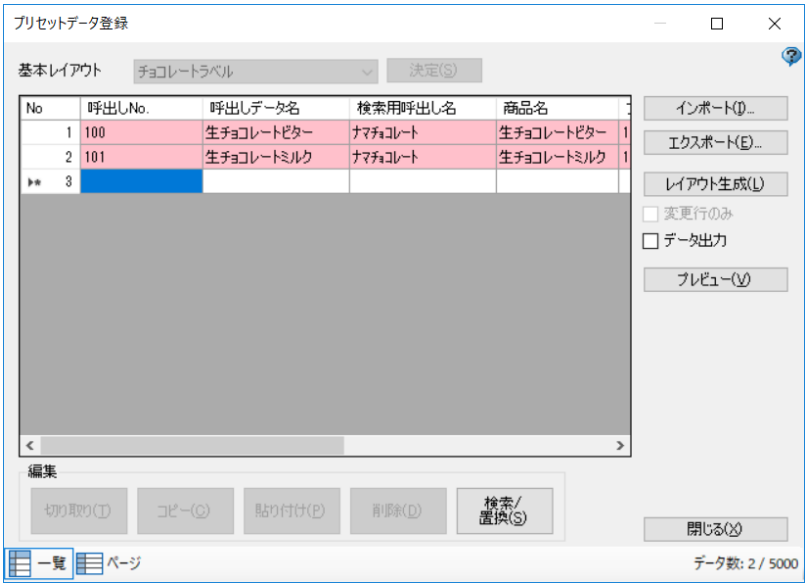
プロジェクトウィンドウで「基本レイアウト名」を右クリック「プリセットデータ新規作成」からでも操作が可能です。

② 対象となる基本レイアウトを選択し、決定ボタンをクリックします。

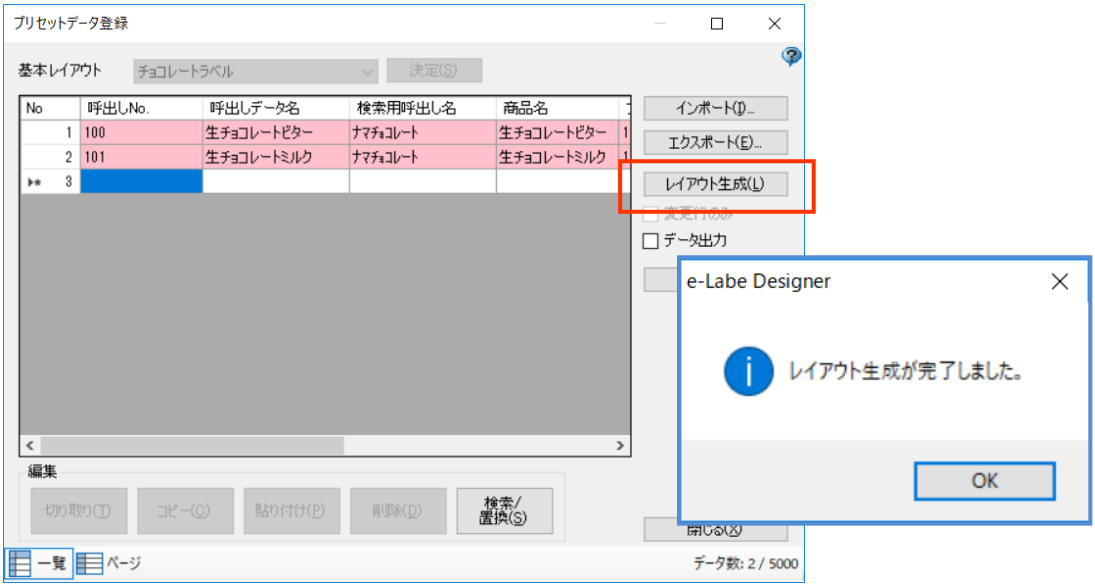


プロジェクトウィンドウから操作した場合は、この操作はありません。

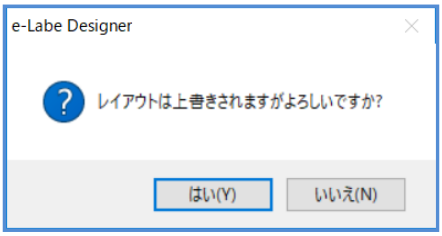
③ 各項目にプリセットデータを登録します。



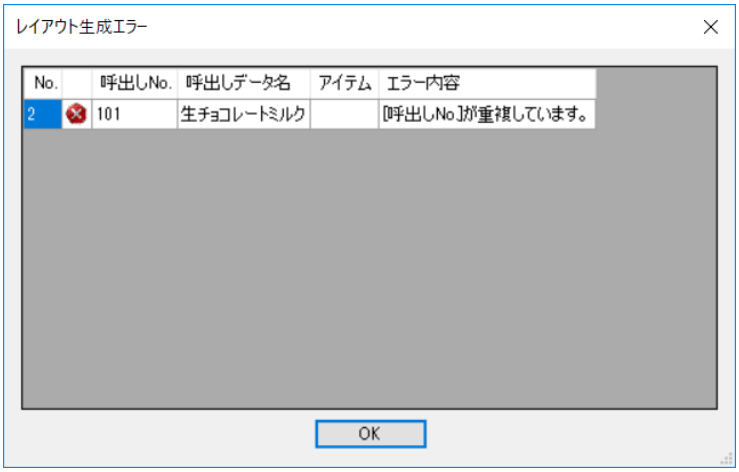
④ 「レイアウト生成」ボタンをクリックし、登録したプリセットで、発行レイアウト（呼出しデータ）を生成します。
レイアウト生成が完了したら、メッセージを確認し、OK ボタンを押してください。



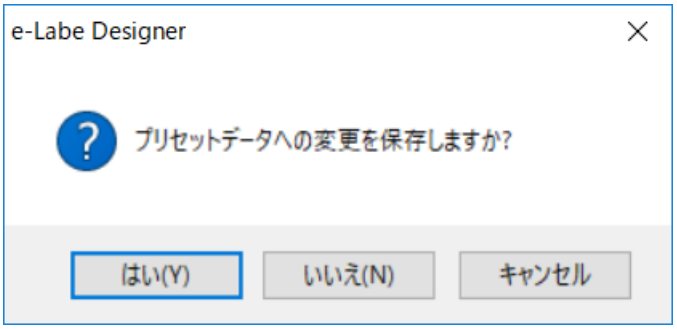
注意：同一の基本レイアウトから生成された発行レイアウトに同じ呼出し No.が存在する場合には、上書き確認のメッセージが表示されます。上書きしても問題ない場合は、「はい」をクリックしてください。



また、別の基本レイアウトから生成された発行レイアウト、もしくは新規に作成された発行レイアウトに同じ呼出し No.が存在する場合には、レイアウト生成エラーが表示となり、該当する呼出し No.の発行レイアウトは生成されません。
プリセットデータの呼出し No.を変更するか、既存の発行レイアウトの呼出し No.を変更してください。

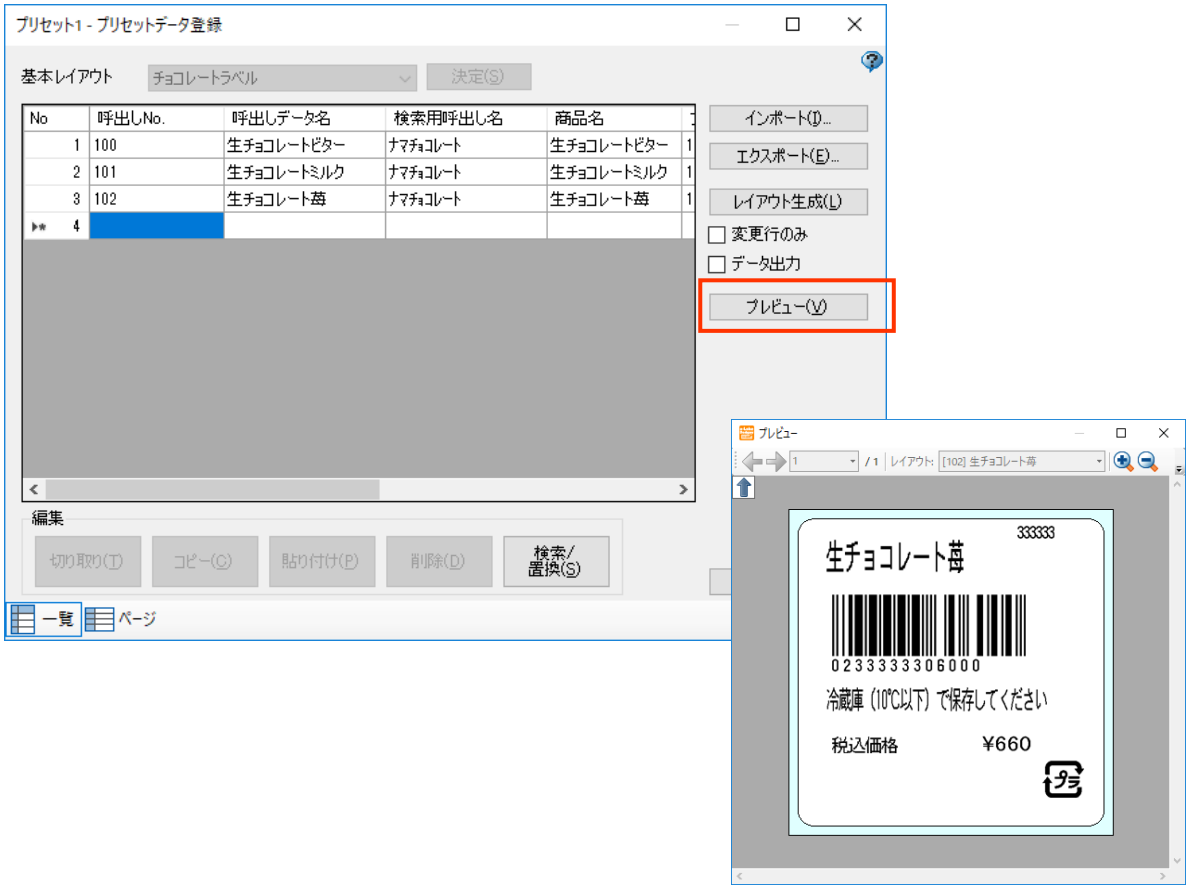


⑤ 画面右下の「閉じる」ボタンをクリックして画面を閉じます。
変更されたデータを登録する場合は、「はい」をクリックしてください。



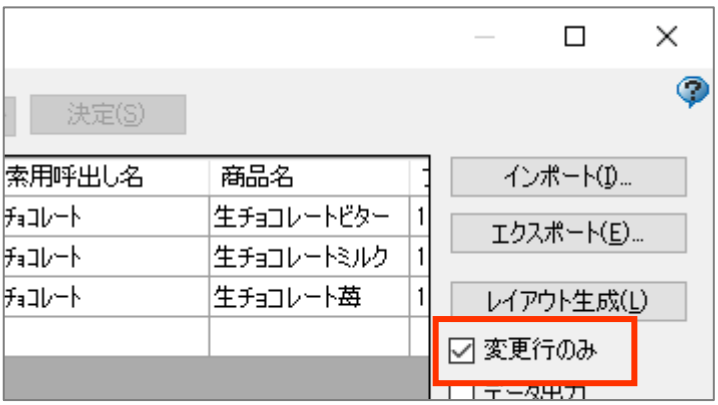
登録したプリセットデータは、プロジェクトウィンドウからダブルクリックで開くことができます。

プレビューボタンを押すと、選択行のデータセット状態のプレビューを確認できます。



データ出力チェックを入れるとレイアウト生成時に、データ出力も同時に行えます。

また、一度保存して閉じたプロジェクトファイルのプリセットデータを編集し、「レイアウト生成」や「データ出力」を行う場合、「変更行のみ」にチェックをすることで、変更行のみをレイアウト生成、データ出力の対象とし、処理時間を短縮することができます。
ただし、基本レイアウトを変更した場合や、プロジェクトを別名で保存しなおした場合には、「変更行のみ」のチェックは行えません。



5.日付入りのレイアウト作成手順

賞味期限などの日付入りのレイアウトを作成する手順を説明します。



レイアウトは、下記の項目で構成されています。

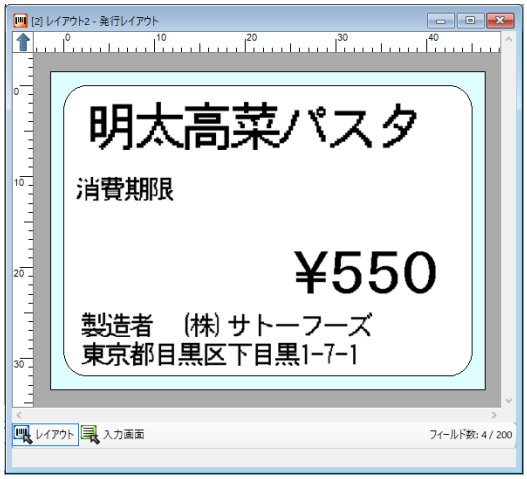
印字内容

No.	データ	入力方法	備考
①	消費期限	e-Labe Print で入力	現在の日付+1 日

用紙情報

縦 32mm×横 45mm、バーラベフリーラベル

1. 消費期限以外の項目を貼り付けます。

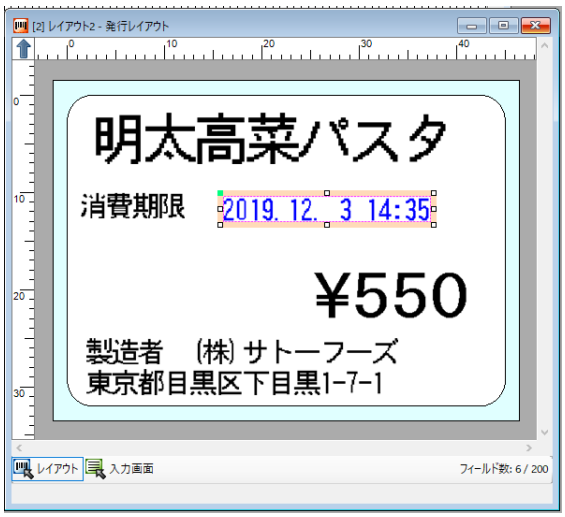


2. 消費期限項目を貼り付けます。

① オブジェクトバーの「日時」をクリックして、「日時」を選択状態にします。



② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。
日時オブジェクトは、ドラッグで位置の移動が可能です。



③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。

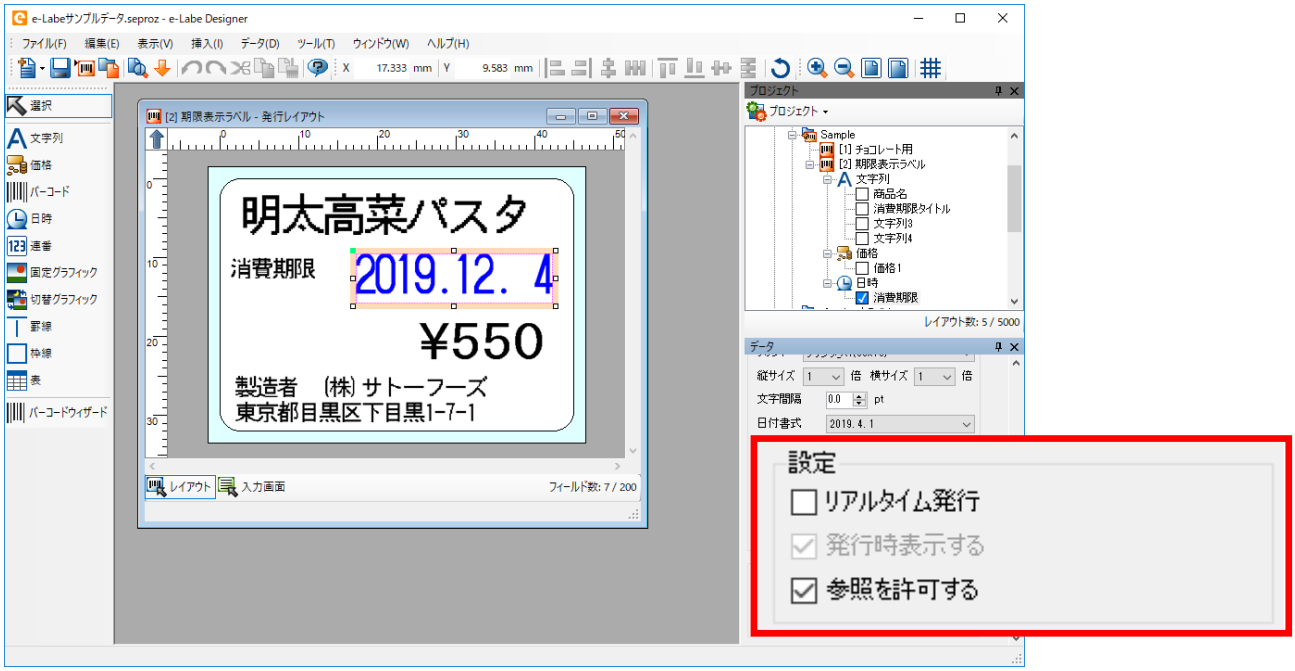


項目名：消費期限
入力方法：加算あり
加算：　1　日
フォント名：プリンタ_X1（30x75）
縦サイズ：1 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0.0pt
日付書式：2019. 4. 1
時間書式：（なし）

「加算あり」を設定した日時オブジェクトは、現在の日時に、加算した日付、時間を反映した値でデザイン画面に表示されます。

別のオブジェクトで日時の値を参照する方法について

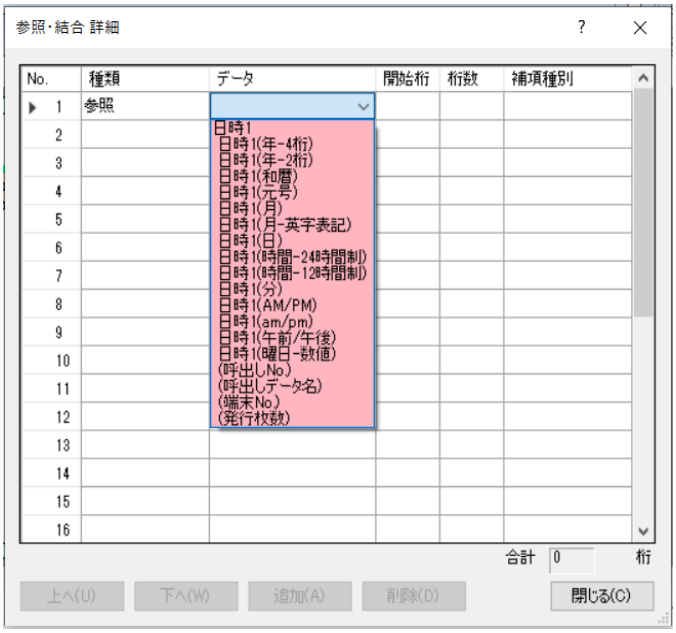
バーコードや文字列などに、数字のみで構成された日時を表示する場合は、「設定」の「参照を許可する」にチェックを入れます。



文字列やバーコードオブジェクトの「参照・結合」の中の“参照”で、作成した日時オブジェクトの値の書式を指定しながら参照することができます。

参照された値は右詰 0 補填されます。

また、「加算あり」に指定した日時オブジェクトを参照した場合、加算後の日時が表示されます。



例えば、賞味期限項目の値を西暦 2 桁+月+日+時間（24 時間表記）でバーコードに反映させる場合、以下の様な設定で表示が可能です。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	参照	消費期限(年-2桁)	1	2	右詰め0補填
2	参照	消費期限(月)	1	2	右詰め0補填
3	参照	消費期限(日)	1	2	右詰め0補填
4	参照	消費期限(時間-24時...	1	2	右詰め0補填

6.バーコード検索機能の設定手順

接続されたスキャナを使用し、予め発行されたバーコードを読込み、レイアウトを検索できるバーコード発行機能のレイアウト作成手順を説明します。



レイアウトは、下記の項目で構成されています。

印字内容

No.	データ	入力方法	備考
①	検索バーコード	データセット	印刷しない設定

用紙情報

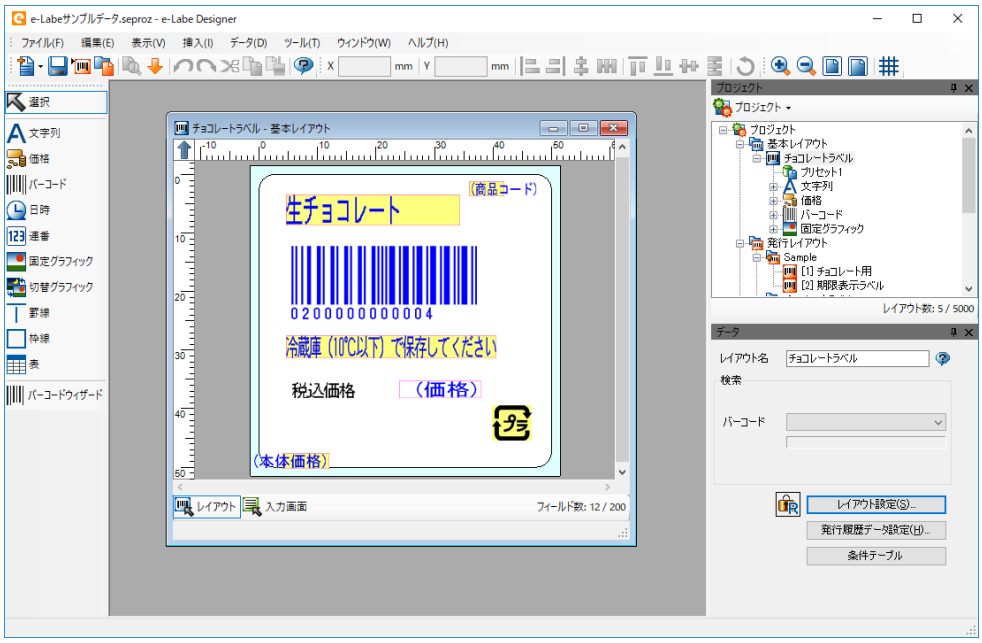
縦 50mm×横 50mm、バーラベフリーラベル

検索用バーコードに指定できるバーコードオブジェクトの条件

- ◆ 入力方法：固定または参照・結合（ただし、参照先のオブジェクトの入力方法が固定であること）
- ◆ セットする値が、発行レイアウトごとにユニーク　※ユニークでないと検索時抽出が出来ないため

1. 「4.基本レイアウトとプリセットデータ」で作成した基本レイアウトを指定します。

プロジェクトウィンドウで、変更する基本レイアウトを指定します。



2.バーコードを貼り付け、詳細設定をします。

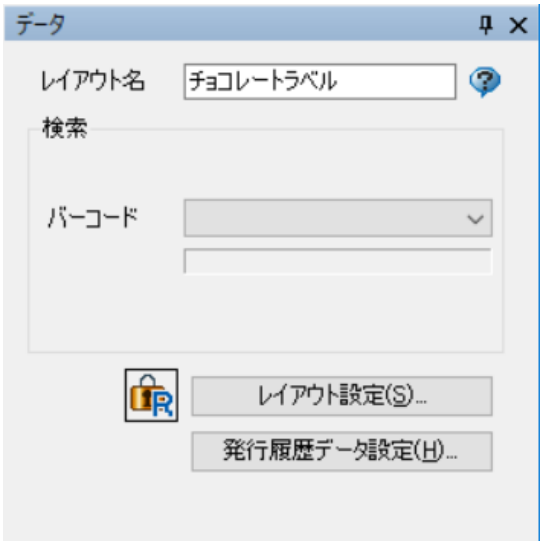


項目名：検索バーコード
入力方法：固定
データ：00000
データセット：✓
バーコード種：CODE128(A コード)
高さ：5.00mm
細バー幅：2 倍
C/D 自動付加：✓
印字しない：✓

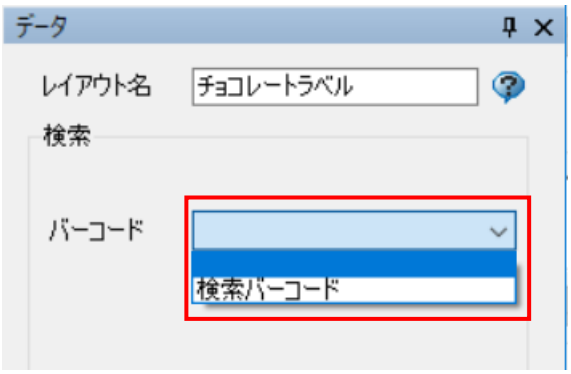
※このマニュアルでは、検索にのみ使用するバーコードを使って説明しているため、印字しない設定をしますが、レイアウト上に印字するバーコードを検索用バーコードに指定することも可能です。
（ただし、入力方法：固定で、バーコードにセットされている値が発行レイアウトごとにユニークになっていることが条件）

3.バーコードを「検索バーコード」として指定します。

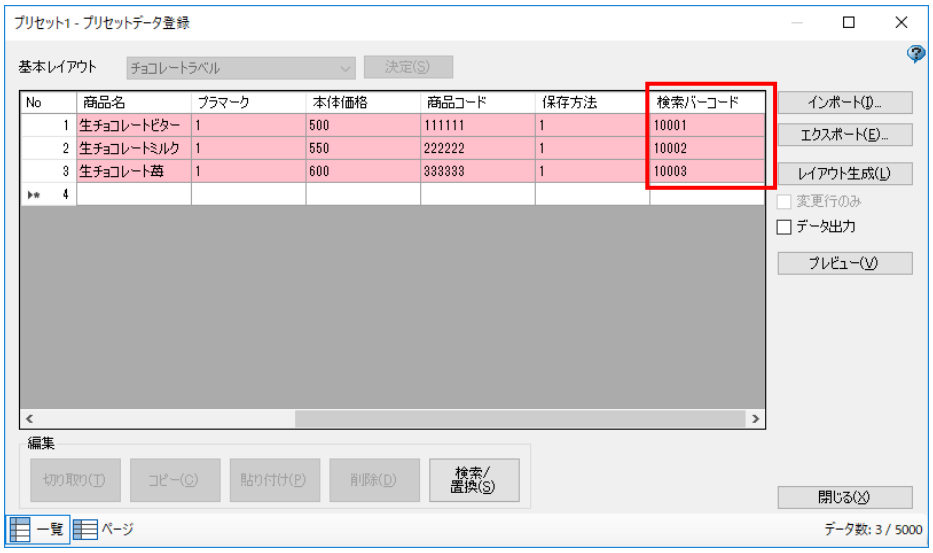
① レイアウトのオブジェクトが何も配置されていない箇所をクリックし、レイアウトプロパティ画面を表示します。

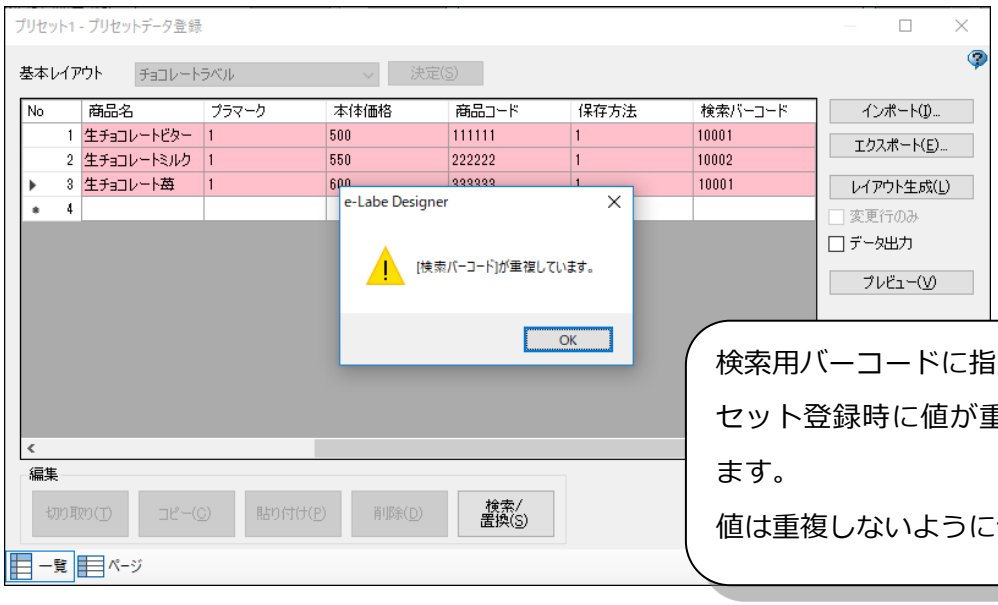


② 検索－バーコードのリストボックスから検索バーコードを指定します。



4.この基本レイアウトのプリセットデータ登録画面を開き、検索バーコードの項目に、値をセットします。





検索用バーコードに指定したバーコードは、プリセット登録時に値が重なるとチェックがかかります。
値は重複しないようにセットしてください。

5.レイアウト生成を行い、発行レイアウトを生成します。



各発行レイアウトに、検索バーコードが違う値でセットされます。この値で検索を行います。

2.エラーメッセージ

エラーメッセージ	対応方法
このプリンタフォントでは印字できない文字が含まれています。	フォント種を変更してください。 フォントの種類によって印字できる文字が異なります。 X1、2、3 フォントは半角英数カナ、POP フォント、価格フォント、X80～88、マークダウンフォントは半角数字¥,（カンマ）、漢字フォントは全半角の英数かなが印字可能です。
指定されたデータがテーブルに登録されていません。	参照されているテーブルに、入力された登録番号が登録されていません。
テーブルの最大桁数より小さい桁数が指定されています。	テーブルを参照している項目に設定された桁数が、対象のテーブルの”値”の桁数よりも小さく設定されています。テーブルの”値”を桁の範囲の文字数に変更するか、桁数を変更してください。
プリンタコマンド生成時にエラーが発生しました。	データ出力時にエラーが発生しました。 発行レイアウト内に、赤色（エラー）で表示されたオブジェクトが無いかを確認してください。 赤色で表示されたオブジェクトにカーソルを持っていくと、エラー内容が確認できます。
レイアウトアイテムのコマンド生成時にエラーが発生しました。	
拡張コマンド生成時にエラーが発生しました。	
このファイルは新しいバージョンで作成されたものです。変更を保存すると、新しい機能に関する設定が失われます。	開こうとしている e-Labe Designer のバージョンが、プロジェクトを作成した際のバージョンより古い場合に表示されます。新しいバージョンのみで有効な機能の設定が失われる可能性があるため、作成時のバージョンと同じまたはそれ以上のバージョンに入れ替えて使用してください。
【データ出力：ＳＡＳ】 リモートサーバーに接続できません。	ネットワークの接続状況を確認してください。
【データ出力：ＳＡＳ】 SAS アップロードに失敗しました。 原因：Forbidden(403) 詳細：error:The account doesn’t exit.	サーバーのアドレスや、ログイン情報に誤りが無いか確認してください。